総合検査案内

2026–2027



SRL Advanced Lab. FMA

エスアールエル 個人情報保護方針

株式会社エスアールエル（以下、「当社」といいます。）は、健康で豊かな社会づくりに貢献するという経営理念のもと、臨床検査事業を柱とした様々な医療関連サービスを提供しております。

近年、患者様尊重の視点に立った質の高い医療の提供が求められるとともに、医療にまつわる情報開示やIT化に伴う特定個人情報を含めた個人情報（以下、「個人情報」と記す）保護の重要性について、社会の関心がますます高まる中、ステークホルダーの皆様からお預かりした個人情報の保護は当社の社会的責務であり、また事業活動の基本と考えております。

当社では、個人情報保護に関する方針を以下のとおり定め、個人情報保護マネジメントシステムを確立し、全従業者に個人情報保護の重要性を認識させるとともに、個人情報の安全管理措置を周知徹底することをもって、個人情報の漏えい、滅失またはき損等、事故の発生を防止し、個人情報の保護に邁進することを宣言いたします。

「個人情報の保護に関する法律」に基づく公表事項
https://www.srl-group.co.jp/privacy/

■ 当社が取扱う個人情報の利用目的、共同利用者、第三者提供、開示等の請求に関する事項、安全管理措置に関する事項、苦情及び相談の申出先、認定個人情報保護団体の名称及び苦情の申出先につきましては、当社ホームページの上記「公表事項」をご覧ください。

1. 法令の遵守について

当社は個人情報保護に関する法令、国が定める指針その他の規範を遵守します。

2. 個人情報の適切な取扱いについて

当社は、事業活動において必要な範囲内で個人情報の利用目的を明確に定め、適切に個人情報の取得、利用、提供を行います。取得した個人情報は利用目的の範囲内に限定して利用し、目的外での利用を行わないための措置を講じます。

3. 個人情報の安全管理について

当社は、個人情報の取扱う担当者について必要最小限の者に特定し、個人情報の安全管理について必要かつ適切な監督を行います。個人情報の漏えい、滅失およびき損等に対し合理的な安全対策および是正措置を講じます。

4. 個人情報の取扱いに関する開示等の請求、苦情及び相談について

当社は、保有個人データについて、ご本人様から個人データの開示、訂正、削除、利用停止等の請求および苦情等に対して、法令に従い誠実かつ迅速に対応いたします。

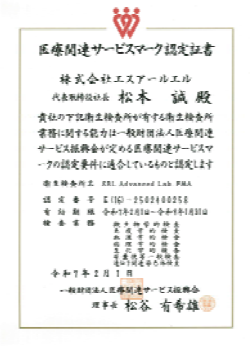
5. 継続改善について

当社は、個人情報保護マネジメントシステムの構築において、管理責任者を定め、関連法令指針を遵守するとともに、個人情報の適切な取扱いのための内部管理体制を定め、維持および継続的な改善・向上に努めます。

2004年09月18日　制定
2023年06月20日　改定
株式会社エスアールエル
東京都港区赤坂1-8-1
代表取締役社長　松本　誠

■ 個人情報保護方針に関する問い合わせ窓口
個人情報問い合わせ窓口（E-mail）：huhd.privacy@hugp.com

＜取得認定類＞



医療関連サービスマーク





プライバシーマーク

2026～2027総合検査案内(SRL Advanced Lab. FMA版)

目　次

索引
緊急報告検査値範囲
ご利用の手引き
緊急報告検査値範囲 …… 1
ご利用の手引き …… 2～17

生化学的検査
蛋白・膠質反応 …… 1
酵素および関連物質 …… 1
低分子窒素化合物 …… 6
糖質および関連物質 …… 8
有機酸 …… 9
脂質および関連物質 …… 10
ビタミンおよび関連物質 …… 15
電解質・血液ガス …… 17
生体微量金属 …… 18
生体色素関連物質 …… 18
毒物・産業医学的代謝物質 …… 19
生化学(その他) …… 20

薬物検査
抗菌薬 …… 22
抗てんかん薬 …… 23
免疫抑制薬 …… 25
循環器用薬 …… 25
精神神経用薬 …… 27
薬物(その他) …… 28

血液学的検査
血液一般・形態検査 …… 30
凝固・線溶関連検査 …… 32

内分泌学的検査
腫瘍関連検査
視床下部・下垂体ホルモン …… 36
甲状腺ホルモンおよび結合蛋白 …… 38
副甲状腺ホルモン …… 38
副腎皮質ホルモンおよび結合蛋白 …… 39
副腎髄質ホルモン …… 40
性腺・胎盤ホルモンおよび結合蛋白 …… 42
膵・消化管ホルモン …… 43
内分泌学的(その他) …… 44
腫瘍関連抗原 …… 47

ウイルス感染症検査
ウイルス感染症検査 …… 52

免疫血清学的検査
感染症(非ウイルス)関連検査 …… 74
自己免疫関連検査 …… 80
免疫血液学的検査 …… 88
免疫グロブリン …… 89
補体および関連物質 …… 90
血漿蛋白 …… 90
免疫血清学(その他) …… 95
サイトカイン …… 96

アレルギー検査
アレルギー検査 …… 97

細胞性免疫検査
細胞性免疫検査 …… 104
細胞表面マーカー …… 108
DLST薬剤リスト …… 110

染色体検査
先天異常の染色体検査 …… 121
白血病や悪性リンパ腫の染色体検査 …… 123

遺伝子関連検査
造血器腫瘍遺伝子検査 …… 127
免疫関連遺伝子再構成検査 …… 136
悪性腫瘍(固形腫瘍)遺伝子検査 …… 137
遺伝学的検査 …… 140
薬剤応答遺伝子検査 …… 141
移植関連遺伝子検査 …… 142

一般検査
尿一般検査 …… 143
糞便検査 …… 144
一般検査(その他) …… 145

微生物学的検査
一般細菌 …… 146
一般細菌特殊検査 …… 152
スクリーニング検査 …… 153
便検診 …… 153
環境検査 …… 153
抗酸菌 …… 154
核酸増幅同定検査 …… 160
培養同定検査 …… 163

病理学的検査
細胞診検査 …… 164
病理組織検査 …… 168

その他検査
リスク検査 …… 173
健診・検診検査 …… 173

研究検査
免疫関連検査 …… 176
自己免疫機能検査 …… 176
その他特殊検査 …… 177
その他 …… 177

検査方法の概略
参考文献一覧
検査方法の概略 …… ア～ウ
参考文献一覧 …… エ～ツ

容器の取り扱い方法
容器の取り扱い方法 …… ①～㊺

五十音

ア	ページ	診療報酬区分	実施料
亜鉛→Zn(亜鉛)	18	D007 36	132
亜鉛トランスポーター 8(ZnT8)抗体	84		
(抗)アクアポリン4抗体	87	D014 46	1000
悪性リンパ腫解析検査 7AAD解析	105	D005 15	1882
悪性リンパ腫解析検査(MLA)CD45ゲーティング	105	D005 15	1882
(α1)アシドグリコプロテイン	90		
アスコルビン酸(ビタミンC)	16	D007 59	296
アスピリン→サリチル酸	28	B001 02	特
アスペノン→アプリンジン	25	B001 02	特
アスペルギルス抗原	78	D012 32	157
アスペルギルス抗体IgG	78	D012 62	390
アセタゾラミド	24	B001 02	特
(抗)アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)	85	D014 44	752
アセトアミノフェン	28	D007 46	180
アセトン定量	9		
アディポネクチン〔LA〕	46		
アデノウイルス〔CF〕〔NT〕	56	D012 11 イ	79
アデノウイルスDNA 定性	56		
アデノウイルスDNA 定量	56		
アデノシンデアミナーゼ(ADA)	2	D007 11	32
アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン)	97	D015 20	194
アフィニトール→エベロリムス	25	B001 02	特
アプリンジン	25	B001 02	特
アポリポ蛋白A-Ⅰ、A-Ⅱ、B、C-Ⅱ、C-Ⅲ、E	14	D007 10 イ	31
アポリポ蛋白A2アイソフォーム→APOA2アイソフォーム	48	D009 35·B001 03 ロ	335·腫2
アミオダロン	25	B001 02	特
アミカシン	22	B001 02	特
アミカマイシン→アミカシン	22	B001 02	特
アミサリン→プロカインアミド	26	B001 02	特
アミノ酸分析(39種類、9種類)〔LC/MS〕	7	D010 04 ロ	1074
アミノ酸分析(41種類)	7	D010 04 ロ	1074
アミノ酸分析2種類(チロシン・フェニルアラニン)〔LC/MS〕	7	D010 04 イ	279+279
アミラーゼ(AMY)	3	D007 01	11
アミラーゼアイソザイム	3	D007 14	48
(P型)アミラーゼ定量	3	D007 14	48
(β-)アミロイド1-42/1-40比	95	D004 15	1282
(血清)アミロイドA蛋白(SAA)	91	D015 06	47
アルカリフォスファターゼ(ALP)IFCC	2	D007 01	11
(好中球)アルカリフォスファターゼ(AL-P染色スコアー)	31	D005 06 注	52
(骨型)アルカリフォスファターゼ(BAP)	2	D008 27	157
アルカリフォスファターゼアイソザイム→ALPアイソザイム(IFCC)	2	D007 14	48
アルドステロン〔CLEIA〕	44	D008 15	122
アルドステロン〔CLEIA〕/レニン活性比	44	D008 15+D008 08	122+100
アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比	44	D008 15+D008 09	122+102
アルドラーゼ	2	D007 01	11
アルファフェトプロテイン定量	47	D009 02·B001 03 ロ	98·腫2
(尿中)アルブミン	1	D001 10	99
アルブミン(Alb)	1	D007 01	11
(尿中)アルブミン(クレアチニン換算値)	1	D001 10	99
アルブミン・グロブリン比(A/G比)	1		
アルベカシン	22	B001 02	特
アルミニウム(Al)	19	D007 29	109
アレビアチン→フェニトイン	23	B001 02	特
アンカロン→アミオダロン	25	B001 02	特
アンギオテンシンⅠ転換酵素(ACE)	4	D007 38	136
アンジェルマン症候群→15染色体(アンジェルマン症候群)(先天異常)	121	D006-5 01	2477
(α1)アンチトリプシン	90	D006 10	80
アンチトロンビン(AT)	32	D006 09	70
アンチプラスミン(α2プラスミンインヒビター)	32	D006 17	128
アンドロゲンレセプター遺伝子CAG反復配列解析(球脊髄性筋萎縮症)	140	D006-4 01 イ	3880
アンモニア	6	D007 16	50

イ	ページ	診療報酬区分	実施料
イーケプラ→レベチラセタム	24	B001 02	特
胃がんリスク層別化検査(ABC分類)〔LA〕	5		
異性間BMT(骨髄移植)(X,Y染色体)	126	D006-5 01	2477
(尿)一般検査	143	D000	★
一般細菌検査	146		
一般細胞診	164	N004 02	190
遺伝子型タイピング→HLA-A(遺伝子型タイピング)	142		
遺伝子型タイピング→HLA-B(遺伝子型タイピング)	142		
遺伝子型タイピング→HLA-C(遺伝子型タイピング)	142		
遺伝子型タイピング→HLA-DRB1(遺伝子型タイピング)	142		
イヌリン定量	20	D007 32	120
イノベロン→ルフィナミド	24	B001 02	特
(抗)胃壁細胞抗体	82		
イマチニブ	28	B001 02	特
(ニューモシスチス・)イロベチイ(P.jirovecii)DNA定性	160		
インスリン	43	D008 08	100
インスリン抗体	84	D014 06	107
インスリン様成長因子→IGF-1(ソマトメジンC)SDスコア	36	D008 42	212
(ヒト)インターフェロンγ〔EIA〕	96		
インターロイキン	96		
インターロイキン-6(IL-6)	96	D015 16	170
インタクトPTH→副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	38	D008 29	161
インデラル→プロプラノロール	26		
院内環境(ふきとり法)	153		
インフルエンザウイルスA型〔CF〕〔HI〕	67	D012 11 ト	79
インフルエンザウイルスB型〔CF〕〔HI〕	67	D012 11 チ	79
インプロメン→ブロムペリドール	27	B001 02	特

ウ	ページ	診療報酬区分	実施料
ウイリアムス症候群→7染色体(ウイリアムス症候群)(先天異常)	121	D006-5 01	2477
ウイルス同定	163		
ウイルス分離	163		
ウロビリノーゲン(尿)	143	D000	★
ウロポルフィリン	18		

エ	ページ	診療報酬区分	実施料
エクセグラン→ゾニサミド	24	B001 02	特
エコーウイルス	65	D012 11 ホ	79
エステル型コレステロール(Echo)	10		
エストラジオール(E2)	42	D008 33	167
エストロゲンレセプター(IHC)	170	N002 01	720
エストロゲンレセプター/プロゲステロンレセプター(IHC)	170	N002 01+N002 02 注1	720+180
エタノール	20	D007 26	105
エチルベンゼン→尿中マンデル酸エチルベンゼン	19		
エトスクシミド	23	B001 02	特
エピレオプチマル→エトスクシミド	23	B001 02	特
エベロリムス	25	B001 02	特
(子宮頸管粘液中顆粒球)エラスターゼ	3	D004 08	113
エラスターゼ1	3	D009 08·B001 03 ロ	120·腫2
エリスロポエチン	45	D008 41	209
エルタシン→ゲンタマイシン	22	B001 02	特
塩基性フェトプロテイン(BFP)	47	D009 17·B001 03 ロ	150·腫2
塩酸バンコマイシン→バンコマイシン	22	B001 02	特
エンテロウイルス	63		
エンテロトキシン型別	152		

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

	ページ	診療報酬区分	実施料
(透析液中)エンドトキシン A液、B液、RO水、調整液、その他	75		
エンドトキシン定量	75	D012 55	229
オ			
黄体形成ホルモン(LH)	37	D008 12	105
黄体ホルモン→プロゲステロン	42	D008 23	139
オートタキシン	93	D007 49	194
オーム病クラミドフィラ(クラミジア シッタシ)	74	D012 11 ネ	79
オステオカルシン	45	D008 25	153
オリゴクローナルバンド	89	D004 11	507
カ			
ガストリン	43	D008 51	380
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	50	D009 24·B001 03 ロ	175·腫2
活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)	32	D006 07	29
カテコールアミン3分画	40	D008 29	161
カテコールアミン総	40	D008 37	184
カドミウム	20		
ガバペン錠→ガバペンチン	24	B001 02	特
ガバペンチン	24	B001 02	特
カフィール→ジソピラミド	26	B001 02	特
可溶性IL-2レセプター(sIL-2R)	96	D009 36·B001 03 ロ	438·腫2
可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)	32	D006 11	93
可溶性メソテリン関連ペプチド	50	D009 30·B001 03 ロ	220·腫2
(抗)ガラクトース欠損IgG抗体	82	D014 08	111
カリウム→K(カリウム)	17	D007 01	11
(子宮頸管粘液中)顆粒球エラスターゼ	3	D004 08	113
カルシウム→Ca(カルシウム)	17	D007 01	11
(抗)カルジオリピンIgG抗体	86	D014 29	226
(抗)カルジオリピンIgM抗体	86	D014 29	226
(抗)カルジオリピンβ2グリコプロテインⅠ複合体抗体(抗CL·β2GPⅠ抗体)	86	D014 28	223
カルシトニン	38	D008 16	127
カルニチン分画	15	D007 23+D007 23	95+95
カルバマゼピン	23	B001 02	特
(便中)カルプロテクチン	83	D003 09	268
簡易培養(尿定量培養)	146	D018 06	60
肝細胞増殖因子(HGF)	46	D007 53	227
カンジダマンナン抗原	78	D012 23	134
感受性検査(一般細菌)	146	D019 01/D019 02/D019 03	185/240/310
(抗)肝腎マイクロゾーム1抗体→抗LKM-1抗体	87	D014 27	215
間接クームス試験	88	D011 02 ロ	47
間接ビリルビン	18		
癌胎児性抗原(CEA)	47	D009 03·B001 03 ロ	99·腫2
(ヒト)癌胎児性フィブロネクチン	92	D015 22	204
寒冷凝集反応	76	D014 01	11
キ			
キシロカイン→リドカイン	26	B001 02	特
凝固因子活性検査(第Ⅱ、Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、XIII因子)	33	D006 32	223
凝固抑制因子検査(第Ⅷ、Ⅸ因子)	33	D006 20	144
胸水検査	145		
ク			
グアナーゼ	2	D007 12	35
(間接)クームス試験	88	D011 02 ロ	47
(直接)クームス試験	88	D011 02 イ	34
グラセプター→タクロリムス	25	B001 02	特
クラミジアトラコマティス	74	D012 45	200
クラミジアトラコマティスDNA	161	D023 01	188
クラミドフィラ(クラミジア) シッタシ(オーム病クラミドフィラ)	74	D012 11 ネ	79
クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ	74		
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgA	74	D012 10	75
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgG	74	D012 09	70
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgM	74	D012 30	152
クリオグロブリン定性	89	D015 05	42
グリコアルブミン	8	D007 17	55
クリプトコックス·ネオフォルマンス抗原	78	D012 36	164
グリベック→イマチニブ	28	B001 02	特
(HCV群別)グルーピング	53	D013 11	215
グルカゴン→膵グルカゴン	43	D008 24	150
グルコース	8	D007 01	11
クレアチニン	6	D007 01	11
クレアチン	6	D007 01	11
クレアチンフォスフォキナーゼ→CK(CPK)	1	D007 01	11
クレアチンフォスフォキナーゼ-MB→CK-MB(CPK-MB)〔CLIA〕	1	D007 22	90
クレアチンフォスフォキナーゼ-MB→CK-MB(CPK-MB)〔免疫阻止-UV法〕	1		
クロール→Cl(クロール)	17	D007 01	11
クロストリジオイデス・ディフィシル	152	D018 02+D018 注1	200+137
クロストリジオイデス・ディフィシル トキシン(GDH)→CDトキシン(GDH)	152	D012 15	95
クロストリジオイデス・ディフィシル トキシンB遺伝子 定性→CDトキシンB遺伝子 定性	152	D023-2 05	450
クロナゼパム	23	B001 02	特
クロバザム	23	B001 02	特
クロム	20		
クンケル反応(ZTT)	1		
ケ			
(末梢)血液一般検査	30	D005 05	21
血液型→ABO式血液型	88	D011 01	39
血液型→Rh(D因子)式血液型	88	D011 01	39
血液型→Rh-Hr式血液型	88	D011 03	163
血液像→末梢血液像	30	D005 03	15
結核菌感受性(MIC)	154	D022	415
結核菌群核酸同定〔TRC〕	156	D023 14	410
結核菌群抗原	154	D012 59	291
結核菌特異的IFN-γ	79	D015 29	593
血小板関連IgG(PAIgG)	87	D011 06	190
(抗)血小板抗体	87	D011 08	261
血小板第4因子(PF-4)	34	D006 27	173
血清HER2タンパク	50	B001 03 ロ	腫2
血清亜鉛→Zn(亜鉛)	18	D007 36	132
血清アミロイドA蛋白(SAA)	91	D015 06	47
血清抗p53抗体	50	D009 22·B001 03 ロ	163·腫2
血清鉄→鉄(Fe)	18	D007 01	11
血清銅→Cu(銅)	18	D007 05	23
血清補体価	90	D015 04	38
結石分析(成分比率)	20	D010 02	117
血中11-OHCS	39	D008 02	60
血中ケトン体分画	9	D007 19	59
血中総ホモシステイン	8	D010 04 イ	279
血糖→グルコース	8	D007 01	11
ケトン体(尿)	143	D000	★
嫌気性培養(一般細菌)	146	D018 注1	137
ゲンタシン→ゲンタマイシン	22	B001 02	特
ゲンタマイシン	22	B001 02	特
コ			
コアグラーゼ型別	152		
(HCV抗原)コア蛋白質	54	D013 05	102
抗AChR抗体(抗アセチルコリンレセプター抗体)	85	D014 44	752
抗ARS抗体	82	D014 23	190

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

索　引（五十音）

抗BP180抗体(血清中抗BP180NC16a抗体)	85	D014 34	270
抗CL・β_2GPⅠ抗体(抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体)	86	D014 28	223
抗DNA抗体〔RIA〕	80	D014 17	159
抗ds-DNA IgG抗体	80	D014 17	159
抗ds-DNA IgM抗体	80		
抗GAD抗体	84	D008 20	134
抗GAD抗体〔ELISA〕同時依頼用	84	D008 20	134
抗GBM抗体→抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	85	D014 32	257
抗HLA抗体(スクリーニング検査)	142	D014 47	1000
抗IA-2抗体	84	D008 43	213
抗IA-2抗体〔ELISA〕同時依頼用	84	D008 43	213
抗Jo-1抗体〔CLEIA〕	82	D014 12	140
抗LKM-1抗体	87	D014 27	215
抗MDA5抗体	82	D014 36	275
抗Mi-2抗体	82	D014 35	270
抗P/Q型 電位依存性 カルシウムチャネル抗体(抗P/Q型VGCC抗体)	85	D014 46	1000
抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	80	D014 19	166
抗RNP抗体〔CLEIA〕	80	D014 13	144
抗Scl-70抗体〔CLEIA〕	80	D014 16	157
抗Sm抗体〔CLEIA〕	80	D014 14	147
抗SS-A/Ro抗体〔CLEIA〕	80	D014 18	161
抗SS-B/La抗体〔CLEIA〕	80	D014 15	153
抗ss-DNA IgG抗体	80	D014 17	159
抗ss-DNA IgM抗体	80		
抗TIF1-γ抗体	82	D014 35	270
抗TPO抗体→抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)	84	D014 11	138
抗β_2グリコプロテインⅠ IgG抗体	86	D014 29	226
抗β_2グリコプロテインⅠ IgM抗体	86	D014 29	226
抗アクアポリン4抗体	87	D014 46	1000
抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)	85	D014 44	752
抗胃壁細胞抗体	82		
抗核抗体(ANA)	80	D014 05	99
抗ガラクトース欠損IgG抗体	82	D014 08	111
抗カルジオリピンIgG抗体	86	D014 29	226
抗カルジオリピンIgM抗体	86	D014 29	226
抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体(抗CL・β_2GPⅠ抗体)	86	D014 28	223
睾丸決定遺伝子*SRY*(Y染色体)	122	D006-5 01	2477
抗肝腎マイクロゾーム1抗体→抗LKM-1抗体	87	D014 27	215
高感度PNH型血球検査	104		
高感度TNF-α→TNF-α(高感度)	176		
抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体(抗MuSK抗体)	85	D014 46	1000
抗血小板抗体	87	D011 08	261
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)	84	D014 11	138
抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)	87	D014 31	250
抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)	87	D014 31	250
抗サイログロブリン抗体	84	D014 10	136
好酸球数	30	D005 04	17
抗酸菌 塗抹〔集菌蛍光法〕	154	D017 01+D017 01 注	65+35
抗酸菌 分離培養〔液体法〕	154	D020 01	315
抗酸菌 分離培養〔小川法〕	154	D020 02	224
抗酸菌 薬剤感受性	154	D022	415
抗酸菌感受性(MIC)RGM	154	D022	415
抗酸菌感受性(MIC)SGM	154	D022	415
抗酸菌抗体定性→MAC抗体(抗酸菌抗体定性)	79	D012 29	151
抗酸菌同定〔質量分析〕	154	D021	376
抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	85	D014 32	257
抗シトルリン化ペプチド(CCP)抗体	82	D014 24	193
甲状腺刺激抗体(TSAb)	84	D014 39	330
甲状腺刺激ホルモン(TSH)〔CLEIA〕IFCC	37	D008 06	98
(抗)甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)	84	D014 11	138
抗ストレプトリジン-O抗体(ASO)	75	D012 01	15
抗精子抗体(不動化法)→精子不動化抗体	86		
抗精子抗体→精子不動化抗体(SI50)	86		
抗セントロメア抗体	80	D014 20	173
酵素抗体染色	168	N002 09	400
(末梢血)好中球*BCR::ABL1* t(9;22)転座	124	D006-5 01	2477
好中球アルカリフォスファターゼ(AL-P染色スコアー)	31	D005 06 注	52
(抗)好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)	87	D014 31	250
(抗)好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)	87	D014 31	250
抗デスモグレイン1抗体	85	D014 38	300
抗デスモグレイン3抗体	85	D014 34	270
抗トポイソメラーゼⅠ抗体→抗Scl-70抗体〔CLEIA〕	80	D014 16	157
抗内因子抗体	82		
高分子量アディポネクチン〔CLEIA〕	177		
抗平滑筋抗体	82		
抗ヘリコバクターピロリ抗体〔LA〕	75	D012 12	80
抗ミトコンドリアM2抗体	82	D014 22	189
抗ミトコンドリア抗体	82	D014 21	181
抗ミュラー管ホルモン(AMH)〔CLEIA〕	43	D008 53	597
抗利尿ホルモン(AVP)	37	D008 47	224
(抗リン脂質抗体)→抗カルジオリピンIgG抗体	86	D014 29	226
(抗リン脂質抗体)→抗カルジオリピンIgM抗体	86	D014 29	226
(抗リン脂質抗体)→抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体	86	D014 28	223
コクサッキーウイルス〔CF〕〔NT〕	63、64	D012 11 ロ	79
極長鎖脂肪酸	12	D010 08 ロ	1141
コクリン-トモプロテイン(CTP)	95	D007 63	460
骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)	2	D008 27	157
骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ(TRACP-5b)	3	D008 26・B001 03 ロ	156・腫2
コプロポルフィリン(血中)	18	D007 51	210
コプロポルフィリン(尿中)	18	D001 15	131
コプロポルフィリン定性	18		
コリンエステラーゼ(ChE)	2	D007 01	11
コルチゾール	39	D008 14	121
(尿中)コルチゾール	39	D008 14	121
(遊離)コレステロール(F-Cho)	10	D007 01	11
(総)コレステロール(T-Cho)	10	D007 03	17
コレステロールエステル比	10		
コレステロール分画	13	D007 18	57

サ		ページ	診療報酬区分	実施料
サーティカン→エベロリムス		25	B001 02	㊟
(肺)サーファクタントプロテインA(SP-A)		14	D007 34	130
(肺)サーファクタントプロテインD(SP-D)		14	D007 38	136
サイクリックAMP		45	D008 29	161
サイトケラチン18フラグメント(CK-18F)		93	D007 49	194
サイトケラチン19フラグメント(シフラ)(CYFRA)		49	D009 19・B001 03 ロ	154・腫2
サイトメガロウイルス		59	D012 11 ハ	79
サイトメガロウイルス(IgM)(IgG)		59	D012 46 ハ	200
サイトメガロウイルスDNA 定性		60		
サイトメガロウイルスpp65抗原(C7-HRP)		59	D012 60	356
サイトメガロウイルス核酸検出(新生児尿)		60	D023 21	777
サイトメガロウイルス核酸定量		60	D023 17	450
細胞種類(髄液、胸水、腹水)		145		
細胞診〔婦人科ベセスダシステム〕(ThinPrep)、(婦人科ThinPrep)		164	N004 01+N004 01 注1	150+45
細胞診〔婦人科ベセスダシステム〕、(婦人科)		164	N004 01	150
(一般)細胞診検査		164	N004 02	190
細胞数(髄液、胸水、腹水)		145		
(遊離)サイロキシン(Free T_4)〔CLEIA〕		38	D008 14	121
サイロキシン(T_4)〔CLEIA〕		38	D008 11	105
サイロキシン結合グロブリン(TBG)		38	D008 19	130

㊟：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

	ページ	診療報酬区分	実施料
サイログロブリン	38	D008 17	128
(抗)サイログロブリン抗体	84	D014 10	136
サリチル酸	28	B001 02	特
ザロンチン→エトスクシミド	23	B001 02	特
酸化LDL(MDA-LDL)	12	D007 49	194
サンディミュン→シクロスポリン	25	B001 02	特
サンリズム→ピルシカイニド	26	B001 02	特
シ			
ジアゼパム	23	B001 02	特
ジアパックス→ジアゼパム	23	B001 02	特
シアリルLe^x-i抗原 (SLX)	48	D009 13·B001 03 ⓓ	140·腫2
シアリルLe^{x}抗原 (CSLEX)	48	D009 18·B001 03 ⓓ	152·腫2
シアル化糖鎖抗原KL-6→KL-6	94	D007 28	108
シアル酸	8		
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	3	D004 08	113
(抗)糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	85	D014 32	257
シクロスポリン	25	B001 02	特
ジゴキシン	25	B001 02	特
ジゴシン→ジゴキシン	25	B001 02	特
シスタチン C	6	D007 29	109
ジストロフィン遺伝子解析(デュシェンヌ型筋ジストロフィー ベッカー型筋ジストロフィー)	140	D006-4 01 ｱ	3880
ジソピラミド	26	B001 02	特
ジフェニルヒダントイン→フェニトイン	23	B001 02	特
ジフテリア抗体	177		
シフラ(CYFRA)(サイトケラチン19フラグメント)	49	D009 19·B001 03 ⓓ	154·腫2
シベノール→シベンゾリン	26	B001 02	特
シベンゾリン	26	B001 02	特
脂肪酸分画(4成分)	12	D010 07	389
脂肪酸分画(24成分)	12	D010 07	389
(尿中)シュウ酸	9	D001 19	200
集団検診	153		
絨毛性ゴナドトロピン(βHCG)	43	D008 19	130
絨毛性ゴナドトロピンβサブユニット(HCG-β)	43	D008 18	129
消化状態	144	D003 02	20
女性 AIRS・AICS	173		
心筋トロポニンT	91	D007 29	109
(特異的IgE)シングルアレルゲン	97	D015 13	各110
神経特異エノラーゼ(NSE)	50	D009 14·B001 03 ⓓ	142·腫2
心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	91	D007 47	184
(ヒト)心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	91	D007 35	131
身長関連遺伝子*SHOX*(X,Y染色体)	122	D006-5 01	2477
浸透圧(血清)	17	D005 03	15
浸透圧(部分尿)	17	D001 03	16
(ヒト)心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	45	D008 46	221
ス			
膵PLA$_2$→膵ホスホリパーゼA$_2$(膵PLA$_2$)	3	D007 50	204
膵アミラーゼ→P型アミラーゼ定量	3	D007 14	48
髄液検査	145	D004 06	77
膵グルカゴン	43	D008 24	150
水痘・帯状疱疹ウイルス	58	D012 11 ﾅ	79
水痘・帯状疱疹ウイルス(IgM)(IgG)	58	D012 46 ﾁ	200
水痘・帯状疱疹ウイルスDNA 定性	58		
水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定量	58	D023 17	450
水痘・帯状疱疹ウイルス抗原	58	D012 54	227
膵ホスホリパーゼA$_2$(膵PLA$_2$)	3	D007 50	204
スチリペントール	24	B001 02	特
(尿中)スチレン代謝物	19		
(抗)ストレプトリジン-O抗体(ASO)	75	D012 01	15
ストロムマイシン1→MMP-3(マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	4	D014 09	116
セ			
精子不動化抗体	86		
精子不動化抗体(SI50)	86		
脆弱X染色体(脆弱X症候群)	121	D006-5 03+D006-5 注1	2444+386
成長ホルモン(GH)	36	D008 10	104
赤痢アメーバDNA 定性	160		
赤痢アメーバ抗体定性	79	D012 52	223
赤血球表面マーカー検査CD55、CD59	104		
セルシン→ジアゼパム	23	B001 02	特
セルセプト→ミコフェノール酸	25	B001 02	特
セルロプラスミン	90	D015 09	90
セレニカR→バルプロ酸	24	B001 02	特
セレネース→ハロペリドール	27	B001 02	特
セロトニン	41		
潜血(尿)	143	D000	★
染色体 G-Banding(血液疾患)	123	D006-5 03+D006-5 注1	2444+386
染色標本作製	168		
(抗)セントロメア抗体	80	D014 20	173
前立腺特異抗原(PSA)	49	D009 09·B001 03 ⓓ	121·腫2
前立腺特異抗原(PSA)F/T比	49	D009 17·B001 03 ⓓ	150·腫2
ソ			
総IgE→IgE(非特異的IgE)	97	D015 11	100
総コレステロール(T-Cho)	10	D007 03	17
(尿中)総三塩化物	19		
総タウ蛋白(AD)	177		
総胆汁酸	13	D007 13	47
総蛋白(TP)(血清)	1	D007 01	11
総鉄結合能(TIBC)	18	D007 01	11
総ビリルビン(T-Bil)	18	D007 01	11
総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比(BTR)	7	D010 05	283
(血中)総ホモシステイン	8	D010 04 ｲ	279
組織因子経路インヒビター 2(TFPI2)	47	D009 28·B001 03 ⓓ	190·腫2
組織適合抗原→HLA	142		
ゾニサミド	24	B001 02	特
ソマトメジンC→IGF-1(ソマトメジンC)SDスコア	36	D008 42	212
タ			
第Ⅱ、Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、ⅩⅢ因子(凝固因子活性検査)	33	D006 32	223
第Ⅷ、Ⅸ因子(凝固抑制因子検査)	33	D006 20	144
ダイアモックス→アセタゾラミド	24	B001 02	特
大腸菌ベロトキシン	152	D023-2 03	184
胎盤型アルカリフォスファターゼ(PLAP)	2		
(総)タウ蛋白(AD)	177		
タクロリムス	25	B001 02	特
タゴシッド→テイコプラニン	22	B001 02	特
多発性骨髄腫解析検査 CD38マルチ解析	105	D005 15	1882
(総)胆汁酸	13	D007 13	47
単純ヘルペスウイルス	57	D012 11 ﾍ	79
単純ヘルペスウイルス 1型・2型-IgG	57	D012 46 ｲ	200
単純ヘルペスウイルス(1型)(2型)	57	D012 11 ﾍ	79
単純ヘルペスウイルス(IgM)(IgG)	57	D012 46 ｲ	200
単純ヘルペスウイルスDNA 定性	57		
単純ヘルペスウイルス特異抗原	57	D012 42	180
男性 AIRS・AICS	173		
(総)蛋白(TP)(血清)	1	D007 01	11
蛋白定性(尿)	143	D000	★
蛋白定量(髄液、胸水、腹水)	145	D007 01	11

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

索　引（五十音）

	ページ	診療報酬区分	実施料
蛋白定量(尿)	143	D001 01	7
蛋白分画	1	D007 04	18
タンボコール→フレカイニド	27	B001 02	特
チ			
膣トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出	162	D023 12	350
中性脂肪(TG)	10	D007 01	11
虫卵〔集卵〕	144	D003 01	15
虫卵〔塗抹〕	144	D003 02	20
直接クームス試験	88	D011 02 ｲ	34
直接ビリルビン	18	D007 01	11
ツ			
ツツガムシカーブ、カトー、ギリアム(IgG)(IgM)	77	D012 47	203
テ			
ディアコミット→スチリペントール	24	B001 02	特
低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	45	D008 24	150
テイコプラニン	22	B001 02	特
デオキシピリジノリン	94	D008 39·B001 03 ﾛ	191·腫2
デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)	94	D008 39	191
テオドール→テオフィリン	28	B001 02	特
テオフィリン	28	B001 02	特
テオロング→テオフィリン	28	B001 02	特
テグレトール→カルバマゼピン	23	B001 02	特
テストステロン	42	D008 13	119
(抗)デスモグレイン1抗体	85	D014 38	300
(抗)デスモグレイン3抗体	85	D014 34	270
鉄(Fe)	18	D007 01	11
(総)鉄結合能(TIBC)	18	D007 01	11
(不飽和)鉄結合能(UIBC)	18	D007 01	11
デパケン→バルプロ酸	24	B001 02	特
デヒドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)	39	D008 31	164
テレスミン→カルバマゼピン	23	B001 02	特
デングウイルスNS1抗原	71	D012 56	233
ト			
銅→Cu(銅)	18	D007 05	23
透析液中エンドトキシンA液、B液、RO水、調整液、その他	75		
糖定性(尿)	143	D000	★
糖定量(尿)	143	D001 01	7
トータルPAI-1(tPA･PAI-1複合体)	32	D006 34	240
ドーパミン総	40		
トキソプラズマIgG抗体	79	D012 14	93
トキソプラズマIgM抗体	79	D012 15	95
特異的IgE(12種吸入性アレルゲン)→アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン)	97	D015 20	194
特異的IgE(Ara h 2)(ピーナッツ由来)	97	D015 13	110
特異的IgE(C-PAC5アレルゲン)	97	D015 13	550
特異的IgE(C-PAC16アレルゲン)	97	D015 13	1430
特異的IgE(MAST36アレルゲン)	103	D015 13	1430
特異的IgE(MAST48mix)	103	D015 13	1430
特異的IgE(View アレルギー 39)	97	D015 13	1430
特異的IgE(シングルアレルゲン)	97	D015 13	各110
特異的IgE(マルチアレルゲン)	97	D015 13	各110
トピナ→トピラマート	24	B001 02	特
トピラマート	24	B001 02	特
トブラシン→トブラマイシン	22	B001 02	特
トブラマイシン	22	B001 02	特
(抗)トポイソメラーゼⅠ抗体→抗Scl-70抗体〔CLEIA〕	80	D014 16	157
塗抹鏡検(一般細菌)	146	D017 03	67
トランスサイレチン→プレアルブミン	90	D015 12	101
トランスフェリン	91	D015 07	60
(尿中)トランスフェリン	91	D001 09	98
(尿中)トランスフェリン(クレアチニン換算値)	91	D001 09	98
トリグリセライド→中性脂肪(TG)	10	D007 01	11
(尿中)トリクロル酢酸	19		
トリコスポロン・アサヒ抗体	79	D012 68	798
鳥特異的IgG抗体	79	D012 69	873
トリプシン	3	D007 48	189
トリメタジオン	24	B001 02	特
(遊離)トリヨードサイロニン(Free T_3)〔CLEIA〕	38	D008 14	121
トリヨードサイロニン(T_3)〔CLEIA〕	38	D008 07	99
(心筋)トロポニンT	91	D007 29	109
トロンビン･アンチトロンビン複合体(TAT)	32	D006 25	166
トロンボモジュリン	35	D006 29	204
ナ			
ナイアシン→ニコチン酸(ナイアシン)	16		
ナチュラルキラー細胞活性→NK細胞活性	107		
ナトリウム→Na(ナトリウム)	17	D007 01	11
ナパ→アセトアミノフェン	28	D007 46	180
鉛(Pb)	20		
ニ			
ニコチン酸(ナイアシン)	16		
ニトラゼパム	23	B001 02	特
日本脳炎ウイルス	66	D012 11 ヲ	79
乳癌*HER2*遺伝子(FISH)	170	N005 01	2700
乳癌HER2タンパク(IHC)4B5	170	N002 03	690
乳酸	9	D007 13	47
乳酸脱水素酵素→LD(LDH)IFCC	2	D007 01	11
乳酸脱水素酵素アイソザイム→LD(LDH)アイソザイム	2	D007 14	48
ニューモシスチス・イロベチイ(P.jirovecii)DNA定性	160		
尿一般検査	143	D000	★
尿酸(UA)	6	D007 01	11
尿素窒素(UN)	6	D007 01	11
尿蛋白定量	143	D001 01	7
尿中2,5-ヘキサンジオン	19		
尿中Ⅳ型コラーゲン	93	D001 16	179
尿中NGAL	92	D001 20	210
尿中N-メチルホルムアミド	19		
尿中アセトン定量	9		
尿中アルブミン	1	D001 10	99
尿中アルブミン(クレアチニン換算値)	1	D001 10	99
尿中コルチゾール	39	D008 14	121
尿中シュウ酸	9	D001 19	200
尿中スチレン代謝物	19		
尿中総三塩化物	19		
尿中トランスフェリン	91	D001 09	98
尿中トランスフェリン(クレアチニン換算値)	91	D001 09	98
尿中トリクロル酢酸	19		
尿中馬尿酸	19		
尿中マンデル酸エチルベンゼン	19		
尿中ミオグロビン〔CLEIA〕	91	D007 35	131
尿中メチル馬尿酸	19		
尿中免疫電気泳動〔尿中ベンスジョーンス蛋白の同定〕	89	D015 21	201
尿沈渣	143	D002-2又はD002	★
尿定量培養(簡易培養)	146	D018 06	60
尿糖定量	143	D001 02	9

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

ネ	ページ	診療報酬区分	実施料
ネオプテリン	20		
ネオペリドール→ハロペリドール	27	B001 02	特
ネオラール→シクロスポリン	25	B001 02	特
ネルボン→ニトラゼパム	23	B001 02	特

ノ	ページ	診療報酬区分	実施料
(ヒト)脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)	45	D008 19	130
ノルペース→ジソピラミド	26	B001 02	特
ノロウイルスRNA定性	71		
ノロウイルス抗原	71		

ハ	ページ	診療報酬区分	実施料
肺サーファクタントプロテインA(SP-A)	14	D007 34	130
肺サーファクタントプロテインD(SP-D)	14	D007 38	136
ハイセレニン→バルプロ酸	24	B001 02	特
梅毒定性RPR〔LA〕	76	D012 01	15
梅毒定性TP抗体〔LA〕	76	D012 04	32
梅毒定量RPR〔LA〕	76	D012 05	34
梅毒定量TP抗体〔LA〕	76	D012 06	53
ハイドロキシプロリン-総	8	D010 04 イ	279
培養同定(血液、穿刺液)	146	D018 03	240
培養同定(口腔、気道、呼吸器)	146	D018 01	180
培養同定(消化管)	146	D018 02	200
培養同定(その他)	146	D018 05	180
培養同定(泌尿器、生殖器)	146	D018 04	190
白血病･リンパ腫解析検査(LLA)CD45ゲーティング	105	D005 15	1882
白血病キメラスクリーニング(定量)	127	D006-2	2100
(尿中)馬尿酸	19		
バニリルマンデル酸→VMA	41	D008 04	90
バファリン→サリチル酸	28	B001 02	特
ハプトグロビン(型判別)	90	D015 14	129
ハベカシン→アルベカシン	22	B001 02	特
パラインフルエンザウイルス 1型	67	D012 11 ヌ	79
パラインフルエンザウイルス 2型	67	D012 11 ル	79
パラインフルエンザウイルス 3型	67	D012 11 ヲ	79
パラサイロイドホルモン→PTH	38	D008 29	161
バルプロ酸	24	B001 02	特
(ヒト)パルボウイルスB19 IgG	54		
(ヒト)パルボウイルスB19 IgM	54	D012 46 ト	200
(ヒト)パルボウイルスB19DNA 定性	54		
バレリン→バルプロ酸	24	B001 02	特
ハロステン→ハロペリドール	27	B001 02	特
ハロペリドール	27	B001 02	特
ハロマンス→ハロペリドール	27	B001 02	特
バンコマイシン	22	B001 02	特

ヒ	ページ	診療報酬区分	実施料
ヒアルロン酸(胸水)	8		
ヒアルロン酸(血清)	8	D007 45	179
ビクリン→アミカシン	22	B001 02	特
比重(胸水、腹水)	145		
比重(尿)	143	D000	★
鼻汁中好酸球	31	D005 03	15
ビタミンA	15		
ビタミンB_1	15	D007 55	239
ビタミンB_2	15	D007 54	231
ビタミンB_6	15		
ビタミンB_{12}	15	D007 38	136
ビタミンC(アスコルビン酸)	16	D007 59	296
ビタミンE	16		
ビタミンK分画	16		
ヒダントール→フェニトイン	23	B001 02	特
ヒトインターフェロンγ〔EIA〕	96		
ヒト癌胎児性フィブロネクチン	92	D015 22	204
非特異的IgE→IgE	97	D015 11	100
ヒト絨毛性ゴナドトロピン→絨毛性ゴナドトロピン(βHCG)	43	D008 19	130
ヒト絨毛性ゴナドトロピンβサブユニット(HCG-β)	43	D008 18	129
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	91	D007 35	131
ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	45	D008 46	221
ヒト精巣上体タンパク4(HE4)	47	D009 29･B001 03 ロ	200･腫2
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)	45	D008 19	130
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント→NT-proBNP	45	D008 21	136
ヒトパピローマウイルス(HPV)ジェノタイプ判定	55	D023 27	2000
ヒトパピローマウイルスDNA(16型､18型､その他ハイリスクグループ)	55	D023 11	347
ヒトパルボウイルスB19 IgG	54		
ヒトパルボウイルスB19 IgM	54	D012 46 ト	200
ヒトパルボウイルスB19DNA 定性	54		
ヒトヘルペスウイルス6型DNA 定性	62		
ヒトヘルペスウイルス6型DNA定量	62		
ヒトヘルペスウイルス7型DNA 定性	62		
ビムパット→ラコサミド	24	B001 02	特
ピメノール→ピルメノール	27	B001 02	特
百日咳菌DNA	160	D023 13	360
百日咳抗体 IgA	75	D012 12	80
百日咳抗体 IgM	75	D012 12	80
百日咳抗体〔EIA〕	75	D012 57	250
標本解析	168		
病理組織検査(一般病理)	168	N000	860
ピリナジン→アセトアミノフェン	28	D007 46	180
(総)ビリルビン(T-Bil)	18	D007 01	11
ビリルビン(間接)	18		
ビリルビン(直接)	18	D007 01	11
ビリルビン(尿)	143	D000	★
ピルシカイニド	26	B001 02	特
ピルビン酸	9	D007 13	47
ピルメノール	27	B001 02	特

フ	ページ	診療報酬区分	実施料
フィコンパ→ペランパネル	24	B001 02	特
ブイフェンド→ボリコナゾール	22	B001 02	特
フィブリノゲン(FIB)	32	D006 04	23
(可溶性)フィブリンモノマー複合体(SFMC)	32	D006 11	93
フィブリンモノマー複合体定量	32	D006 30	215
フィラデルフィア染色体→*BCR::ABL1* t(9;22)転座	124	D006-5 01	2477
フィラデルフィア染色体→末梢血好中球*BCR::ABL1* t(9;22)転座	124	D006-5 01	2477
風疹ウイルス	66	D012 11 レ	79
風疹ウイルス(IgM)(IgG)	66	D012 46 ロ	200
フェニトイン	23	B001 02	特
フェノバール→フェノバルビタール	23	B001 02	特
フェノバルビタール	23	B001 02	特
フェリチン	92	D007 25	102
フォン･ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター)	33	D006 15	126
フォン・ウィルブランド因子抗原定量	33	D006 21	147
不規則性抗体	88	D011 04	174
副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	38	D008 29	161
副甲状腺ホルモン(Whole PTH)	38	D008 29	161
副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	38	D008 38	185
副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	37	D008 37	184

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

索　引（五十音）

腹水検査	145		
不飽和鉄結合能(UIBC)	18	D007 01	11
プラスミノゲン	32	D006 13	100
プラダーウイリ症候群→15染色体(プラダーウイリ症候群)(先天異常)	121	D006-5 01	2477
フリーT3→遊離トリヨードサイロニン(Free T3)〔CLEIA〕	38	D008 14	121
フリー T4→遊離サイロキシン(Free T4)〔CLEIA〕	38	D008 14	121
フリーテストステロン〔RIA〕	42	D008 26	156
ブリーバラセタム	24	B001 02	特
ブリィビアクト→ブリーバラセタム	24	B001 02	特
フリーライトチェーン→免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン)	89	D015 28	388
プリミドン	24	B001 02	特
プリムロン→プリミドン	24	B001 02	特
プレアルブミン	90	D015 12	101
フレカイニド	27	B001 02	特
プレグナンジオール	42	D008 43	213
プレグナントリオール	42	D008 48	232
プレセプシン	94	D007 60	301
プロGRP→ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	50	D009 24・B001 03 ロ	175・腫2
プロウイルス→HTLV-Ⅰ(ATLV)DNA(クロナリティ)	70		
プロカインアミド	26	B001 02	特
プロカルシトニン	94	D007 58	276
プログラフ→タクロリムス	25	B001 02	特
プロゲステロン	42	D008 23	139
プロゲステロンレセプター(IHC)	170	N002 02	690
プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P)〔CLIA〕	93	D007 38	136
プロスタグランジンE主要代謝物(PGE-MUM)	83	D001 18	187
ブロック作製	168		
プロテインC(抗原量)	35	D006 31	220
プロテインC活性	35	D006 33	227
プロテインS(抗原量)	35	D006 23	152
プロテインS(遊離型抗原量)	35	D006 23	152
プロテインS活性	35	D006 24	163
プロトポルフィリン	18	D007 57	272
プロトロンビン時間(PT)	32	D006 02	18
プロトロンビンフラグメントF1+2	32	D006 28	192
プロノン→プロパフェノン	26	B001 02	特
プロパフェノン	26	B001 02	特
プロプラノロール	26		
ブロムペリドール	27	B001 02	特
プロラクチン	36	D008 06	98

へ		ページ	診療報酬区分	実施料
(抗)平滑筋抗体		82		
(尿中2,5)ヘキサンジオン		19		
ペプシノゲン		4		
ペプリコール→ペプリジル		25	B001 02	特
ペプリジル		25	B001 02	特
ヘモグロビンA1c(HbA1c)(NGSP)		8	D005 09	49
ペランパネル		24	B001 02	特
ペリオスチン		176		
ヘリコバクター感受性検査		152	D019 01	185
ヘリコバクター培養同定		152	D018 02	200
(便中)ヘリコバクターピロリ抗原		75	D012 24	138
便中ヘリコバクターピロリ抗原		75	D012 24	138
(抗)ヘリコバクターピロリ抗体〔LA〕		75	D012 12	80
(単純)ヘルペスウイルス		57	D012 11 ヘ	79
(単純)ヘルペスウイルス 1型・2型-IgG		57	D012 46 イ	200
(単純)ヘルペスウイルス(1型)(2型)		57	D012 11 ヘ	79
(単純)ヘルペスウイルス(IgM)(IgG)		57	D012 46 イ	200
(ヒト)ヘルペスウイルス6型DNA 定性		62		
(ヒト)ヘルペスウイルス7型DNA 定性		62		
(単純)ヘルペスウイルスDNA 定性		57		
(単純)ヘルペスウイルス特異抗原		57	D012 42	180
便検診→集団検診		153		
ベンザリン→ニトラゼパム		23	B001 02	特
ベンスジョーンス蛋白の同定(尿中免疫電気泳動)		89	D015 21	201
便中カルプロテクチン		83	D003 09	268
便中ヘモグロビン及びトランスフェリン		144	D003 08	56
便中ヘモグロビン定性		144	D003 05	37
便中ヘモグロビン定量		144	D003 07	41
扁平上皮癌関連抗原→SCC		48	D009 04・B001 03 ロ	101・腫2

ホ		ページ	診療報酬区分	実施料
ホールPTH→副甲状腺ホルモン(Whole PTH)		38	D008 29	161
(膵)ホスホリパーゼA2(膵PLA2)		3	D007 50	204
補体因子(C3)		90	D015 08	70
補体因子(C4)		90	D015 08	70
(血清)補体価		90	D015 04	38
(血中)(総)ホモシステイン		8	D010 04 イ	279
ホモバニリン酸→HVA		41	D008 03	69
ポリコナゾール		22	B001 02	特
ホリゾン→ジアゼパム		23	B001 02	特

マ		ページ	診療報酬区分	実施料
マイクロサテライト不安定性(MSI)検査		139	D004-2 01 イ-1	2500
マイコプラズマジェニタリウム核酸およびマクロライド耐性変異同時検出		162	D023 12	350
マイコプラズマニューモニエ		76	D012 04	32
マイコプラズマニューモニエDNA		160	D023 06	291
マイスタン→クロバザム		23	B001 02	特
マグネシウム→Mg(マグネシウム)		17	D007 01	11
(α2)マクログロブリン		90	D006 18	138
麻疹ウイルス		68	D012 11 ソ	79
麻疹ウイルス(IgM)(IgG)		68	D012 46 ぉ	200
末梢血好中球*BCR::ABL1* t(9;22)転座		124	D006-5 01	2477
末梢血液一般検査		30	D005 05	21
末梢血液像		30	D005 03	15
(特異的IgE)マルチアレルゲン		97	D015 13	110
マンガン		20	D007 08	27
(尿中)マンデル酸エチルベンゼン		19		

ミ		ページ	診療報酬区分	実施料
ミエリン塩基性蛋白(MBP)		176	D004 12	570
ミオグロビン		91	D007 35	131
(尿中)ミオグロビン〔CLEIA〕		91	D007 35	131
(心室筋)ミオシン軽鎖Ⅰ		91	D007 47	184
ミコフェノール酸		25	B001 02	特
未染色標本作製		168		
(抗)ミトコンドリアM2抗体		82	D014 22	189
(抗)ミトコンドリア抗体		82	D014 21	181
ミノアレ→トリメタジオン		24	B001 02	特
(抗)ミュラー管ホルモン(AMH)〔CLEIA〕		43	D008 53	597

ム		ページ	診療報酬区分	実施料
無機リン→P(無機リン)		17	D007 03	17
ムンプスウイルス		69	D012 11 リ	79
ムンプスウイルス(IgM)(IgG)		69	D012 46 ヘ	200

メ		ページ	診療報酬区分	実施料
メキシチール→メキシレチン		26	B001 02	特
メキシレチン		26	B001 02	特

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

メソトレキセート→メトトレキサート	28	B001 02	特
メトトレキサート	28	B001 02	特
メタネフリン・ノルメタネフリン分画	40	D008 45	220
メタネフリン・ノルメタネフリン分画(クレアチニン換算値)	40	D008 45	220
(尿中)メチル馬尿酸	19		
免疫グロブリンH鎖C_μ再構成	136	D006-6	2362
免疫グロブリンH鎖J_H再構成	136	D006-6	2362
免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン)	89	D015 28	388
免疫電気泳動〔特異抗血清による同定〕	89	D015 23	218
免疫電気泳動〔尿中ベンスジョーンス蛋白の同定〕	89	D015 21	201
免疫電気泳動〔免疫固定法〕(ADIRA)ダラツムマブ用	89	D015 30	776

モ	ページ	診療報酬区分	実施料
網状赤血球数(RET)	30	D005 02	12
モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	107		

ヤ	ページ	診療報酬区分	実施料
薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)	106		

ユ	ページ	診療報酬区分	実施料
遊離HCG-β(HCG-βサブユニット)	43	D008 18	129
遊離コレステロール(F-Cho)	10	D007 01	11
遊離サイロキシン (Free T_4)〔CLEIA〕	38	D008 14	121
遊離脂肪酸(NEFA)	10	D007 19	59
遊離トリヨードサイロニン(Free T_3)〔CLEIA〕	38	D008 14	121
ユニフィル→テオフィリン	28	B001 02	特

ヨ	ページ	診療報酬区分	実施料
葉酸	16	D007 40	146
(Con-Aによるリンパ球)幼若化検査	106	D016 07	345
(PHAによるリンパ球)幼若化検査	106	D016 07	345

ラ	ページ	診療報酬区分	実施料
ラコサミド	24	B001 02	特
ラミクタール→ラモトリギン	24	B001 02	特
ラモトリギン	24	B001 02	特
ランドセン→クロナゼパム	23	B001 02	特
卵胞刺激ホルモン(FSH)	37	D008 12	105

リ	ページ	診療報酬区分	実施料
リーマス→リチウム	27	B001 02	特
リチオマール→リチウム	27	B001 02	特
(IgG型)リウマチ因子	82	D014 25	198
リウマチ因子(RF)定量	82	D014 02	30
リストセチンコファクター→フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター)	33	D006 15	126
リスモダン→ジソピラミド	26	B001 02	特
リスラミドR→ジソピラミド	26	B001 02	特
リゾチーム	4		
リチウム	27	B001 02	特
リドカイン	26	B001 02	特
リパーゼ	3	D007 06	24
リポ蛋白分画〔アガロースゲル電気泳動法〕	13	D007 15	49
リポ蛋白リパーゼ(LPL)	14	D007 52	219
リボトリール→クロナゼパム	23	B001 02	特
リポプロテイン(a)	14	D007 27	107
(無機)リン(P)	17	D007 03	17
淋菌DNA	161	D023 02	198
淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時同定	161	D023 05	262
リン酸化タウ	95	D004 14	641
リン脂質	10	D007 02	15
(リン脂質抗体)→抗カルジオリピンIgG抗体	86	D014 29	226
(リン脂質抗体)→抗カルジオリピンIgM抗体	86	D014 29	226
(リン脂質抗体)→抗カルジオリピンβ2グリコプロテインⅠ複合体抗体	86	D014 28	223
リントン→ハロペリドール	27	B001 02	特
リンパ球混合培養(MLC)	106		
(薬剤による)リンパ球刺激試験(DLST)	106		
(Two-color解析による)リンパ球表面マーカー検査	107		
(モノクローナル抗体による)リンパ球表面マーカーの自動解析	107		
(Con-Aによる)リンパ球幼若化検査	106	D016 07	345
(PHAによる)リンパ球幼若化検査	106	D016 07	345

ル	ページ	診療報酬区分	実施料
ルイネシン→ゲンタマイシン	22	B001 02	特
ループスアンチコアグラント〔APTT凝固時間法〕	86		
ループスアンチコアグラント〔希釈ラッセル蛇毒時間法〕	86	D014 33	265
ループスアンチコアグラント〔リン脂質中和法〕	86	D014 33	265
ルナプロン→ブロムペリドール	27	B001 02	特
ルフィナミド	24	B001 02	特
ルミナール→フェノバルビタール	23	B001 02	特

レ	ページ	診療報酬区分	実施料
レキシン→カルバマゼピン	23	B001 02	特
レジオネラ	152	D018 01	180
レジオネラDNA 定性	160	D023 07	296
レチノール結合蛋白(RBP)	90	D015 14	129
レニン活性(PRA)〔EIA〕	44	D008 08	100
レニン濃度(ARC)〔CLEIA〕	44	D008 09	102
レプチン〔ELISA〕	46	D008 54	1000
レベチラセタム	24	B001 02	特
レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)	10	D007 43	174

ロ	ページ	診療報酬区分	実施料
ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)	2	D007 01	11
ロイシンリッチα2グリコプロテイン(LRG)	83	D007 56	268

ワ	ページ	診療報酬区分	実施料
ワコビタール→フェノバルビタール	23	B001 02	特

特：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

アルファベット

A		ページ	診療報酬区分	実施料
A/G比		1		
ABC分類〔LA〕		5		
ABO式血液型		88	D011 01	39
ACA→抗セントロメア抗体		80	D014 20	173
ACE→アンギオテンシンⅠ転換酵素(ACE)		4	D007 38	136
AChR→抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)		85	D014 44	752
ACTH→副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)		37	D008 37	184
ADA→アデノシンデアミナーゼ(ADA)		2	D007 11	32
ADAMTS13 インヒビター		33	D006 37	1000
ADAMTS13-活性		33	D006 35	400
ADIRA→免疫電気泳動〔免疫固定法〕(ADIRA)ダラツムマブ用		89	D015 30	776
AFP→α-フェトプロテイン定量		47	D009 02·B001 03 ◻	98·腫2
AICS		173		
AIRS		173		
Al→アルミニウム(Al)		19	D007 29	109
Alb→アルブミン(Alb)		1	D007 01	11
ALD→アルドラーゼ		2	D007 01	11
ALK 2p23転座		123	D006-5 01	2477
ALP→アルカリフォスファターゼ(ALP)IFCC		2	D007 01	11
ALPアイソザイム(IFCC)		2	D007 14	48
AL-P染色スコアー（好中球アルカリフォスファターゼ）		31	D005 06 注	52
ALT(GPT)		2	D007 03	17
AMA→抗ミトコンドリア抗体		82	D014 21	181
AMH→抗ミュラー管ホルモン(AMH)〔CLEIA〕		43	D008 53	597
AMY(アミラーゼ)		3	D007 01	11
AMYアイソザイム→アミラーゼアイソザイム		3	D007 14	48
ANA→抗核抗体(ANA)		80	D014 05	99
ANP→ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)		45	D008 46	221
APOA2アイソフォーム		48	D009 35·B001 03 ◻	335·腫2
APTT→活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)		32	D006 07	29
(特異的IgE)Ara h 2(ピーナッツ由来)		97	D015 13	110
ARC→レニン濃度(ARC)〔CLEIA〕		44	D008 09	102
(抗)ARS抗体		82	D014 23	190
ASMA→抗平滑筋抗体		82		
ASO→抗ストレプトリジン-O抗体(ASO)		75	D012 01	15
AST(GOT)		2	D007 03	17
AT→アンチトロンビン(AT)		32	D006 09	70
ATLV抗体→HTLV-Ⅰ(ATLV)抗体(一次検査)		70	D012 33	159
ATLV(HTLV-Ⅰ)プロウイルスDNA(クロナリティ)		70		
AVP→抗利尿ホルモン(AVP)		37	D008 47	224
AZF欠失→Y染色体微小欠失（AZF欠失）		140	D006-28	3770

B		ページ	診療報酬区分	実施料
BAP→骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)		2	D008 27	157
BCA225		47	D009 20·B001 03 ◻	158·腫2
BCR::*ABL1* t(9;22)転座		124	D006-5 01	2477
(末梢血好中球)*BCR*::*ABL1* t(9;22)転座		124	D006-5 01	2477
BFP→塩基性フェトプロテイン(BFP)		47	D009 17·B001 03 ◻	150·腫2
BGP→オステオカルシン		45	D008 25	153
BIRC3::*MALT1* t(11;18)転座		125	D006-5 01	2477
B-J蛋白→尿中免疫電気泳動〔尿中ベンスジョーンス蛋白の同定〕		89	D015 21	201
BMG→β_2-マイクログロブリン		91	D015 10	98
BNP→ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)		45	D008 19	130
BS→グルコース		8	D007 01	11
BTR→総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比(BTR)		7	D010 05	283
BUN→尿素窒素(UN)		6	D007 01	11
B型肝炎ウイルスコア関連抗原(HBcrAg)		53	D013 12	246
B細胞百分率 T細胞百分率→T細胞百分率 B細胞百分率		107	D016 03	193
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgG、IgA、IgM、IgD、K、L		107	D016 01	155

C		ページ	診療報酬区分	実施料
C1q		90		
C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビター活性)		90	D015 24	253
C1エステラーゼインヒビター活性(C1インアクチベーター活性)		90	D015 24	253
C3(補体因子)		90	D015 08	70
C4(補体因子)		90	D015 08	70
Ca(カルシウム)		17	D007 01	11
CA→カテコールアミン総		40	D008 37	184
CA→寒冷凝集反応		76	D014 01	11
(CA·RF)→抗ガラクトース欠損IgG抗体		82	D014 08	111
CA15-3		47	D009 06·B001 03 ◻	112·腫2
CA19-9		47	D009 09·B001 03 ◻	121·腫2
CA-3F→カテコールアミン3分画		40	D008 29	161
CA54/61		48	D009 25·B001 03 ◻	184·腫2
CA72-4		47	D009 16·B001 03 ◻	146·腫2
CA125		47	D009 11·B001 03 ◻	136·腫2
cAMP→サイクリックAMP		45	D008 29	161
C-ANCA→抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)		87	D014 31	250
C-band→染色体 C-Banding		121	D006-5 03+D006-5 注1	2444+386
CBFB inv(16)逆位、t(16;16)転座		125	D006-5 01	2477
CBFB::*MYH11* mRNA定量		130	D006-2	2100
(抗)CCP抗体→抗シトルリン化ペプチド(CCP)抗体		82	D014 24	193
CCR4タンパク〔FCM〕		50	D006-10	10000
Cd→カドミウム		20		
CD1a、CD2(リンパ球表面マーカー検査)		108		
CD3、CD4、CD8(リンパ球表面マーカー検査)		108	D016 02	185
CD4/CD8(Two-color)		109	D016 02	185
CD4/CD25(Two-color)		109	D016 02	185
CD4/CD29(Two-color)		109	D016 02	185
CD4/CD45RA(Two-color)		109	D016 02	185
CD5、CD7、CD10(リンパ球表面マーカー検査)		108		
CD11b(リンパ球表面マーカー検査)		108		
CD11b/CD8(Two-color)		109	D016 02	185
CD13、CD14(リンパ球表面マーカー検査)		108		
CD16、CD19、CD20(リンパ球表面マーカー検査)		108		
CD16/CD56(Two-color)		109		
CD20/CD5(Two-color)		109		
CD21、CD22(リンパ球表面マーカー検査)		108		
CD25、CD30、CD33(リンパ球表面マーカー検査)		108		
CD34、CD38、CD56(リンパ球表面マーカー検査)		108		
CD34定量		104		
CD38マルチ解析(多発性骨髄腫解析検査)		105	D005 15	1882
CD45RO/CD4(Two-color)		109	D016 02	185
CD45ゲーティング(悪性リンパ腫解析検査)(MLA)		105	D005 15	1882
CD45ゲーティング(白血病·リンパ腫解析検査)(LLA)		105	D005 15	1882
CD55(赤血球表面マーカー検査)		104		
CD57(リンパ球表面マーカー検査)		108		
CD57/CD16(Two-color)		109		
CD59(赤血球表面マーカー検査)		104		
CDトキシン(GDH)→クロストリジオイデス·ディフィシル トキシン(GDH)		152	D012 15	95
CDトキシンB遺伝子 定性→クロストリジオイデス·ディフィシル トキシンB遺伝子 定性		152	D023-2 05	450
CEA→癌胎児性抗原(CEA)		47	D009 03·B001 03 ◻	99·腫2
CH50→血清補体価		90	D015 04	38
ChE→コリンエステラーゼ(ChE)		2	D007 01	11
CK(CPK)		1	D007 01	11
CK-18F→サイトケラチン18フラグメント(CK-18F)		93	D007 49	194
*c-kit*遺伝子変異解析(GIST)		138	D004-2 01 1-2	2100
CK-MB(CPK-MB)〔CLIA〕		1	D007 22	90

㊟：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

CK-MB(CPK-MB)〔免疫阻止-UV法〕	1		
Cl(クロール)	17	D007 01	11
CL→抗カルジオリピンIgG抗体	86	D014 29	226
CL→抗カルジオリピンIgM抗体	86	D014 29	226
(抗)CL・β_2GP Ⅰ抗体→抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体	86	D014 28	223
CMV DNA→サイトメガロウイルスDNA 定性	60		
CMV pp65抗原(C7-HRP)→サイトメガロウイルス pp65抗原(C7-HRP)	59	D012 60	356
CMV→サイトメガロウイルス	59	D012 11 ハ	79
CMV→サイトメガロウイルス(IgM)(IgG)	59	D012 46 ハ	200
CMV→サイトメガロウイルス核酸検出(新生児尿)	60	D023 21	777
CMV→サイトメガロウイルス核酸定量	60	D023 17	450
Con-Aによるリンパ球幼若化検査	106	D016 07	345
Cp→セルロプラスミン	90	D015 09	90
C-PAC16アレルゲン(特異的IgE)	97	D015 13	1430
C-PAC5アレルゲン(特異的IgE)	97	D015 13	550
CPK(CK)	1	D007 01	11
CPK-MB(CK-MB)〔CLIA〕	1	D007 22	90
CPK-MB(CK-MB)〔免疫阻止-UV法〕	1		
CPR→C-ペプチド(CPR)	43	D008 12	105
Cr→クレアチニン	6	D007 01	11
Cr→クロム	20		
CRP→C反応性蛋白(CRP)定量	91	D015 01	16
CSF1R del(5)長腕欠失	123	D006-5 01	2477
CSLEX→シアリルLe^{x}抗原(CSLEX)	48	D009 18・B001 03 0	152・腫2
CT→カルシトニン	38	D008 16	127
CTP→コクリン-トモプロテイン(CTP)	95	D007 63	460
Cu(銅)	18	D007 05	23
CYFRA→シフラ(CYFRA)(サイトケラチン19フラグメント)	49	D009 19・B001 03 0	154・腫2
(HB)c抗体(IgG)	53	D013 06	130
C反応性蛋白(CRP)定量	91	D015 01	16
C-ペプチド(CPR)	43	D008 12	105

D		ページ	診療報酬区分	実施料
D7S486 del(7)長腕欠失/7染色体(7モノソミー)		124	D006-5 01	2477
DA→ドーパミン総		40		
del(20)長腕欠失		126	D006-5 01	2477
DHEA-S→デヒドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)		39	D008 31	164
DLST→薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)		106		
(抗)DNA抗体〔RIA〕		80	D014 17	159
DPD→デオキシピリジノリン		94	D008 39・B001 03 0	191・腫2
DPD→デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)		94	D008 39	191
(抗)ds-DNA IgG抗体		80	D014 17	159
(抗)ds-DNA IgM抗体		80		
DUPAN-2		48	D009 07・B001 03 0	115・腫2
Dダイマー		32	D006 16	127

E		ページ	診療報酬区分	実施料
E_2→エストラジオール(E_2)		42	D008 33	167
EBウイルスDNA 定量		61	D023 08	310
EBウイルス抗EA IgG〔EIA〕		61	D012 46 ニ	200
EBウイルス抗EA-DR IgA〔FA〕		61	D012 11 ニ	79
EBウイルス抗EA-DR IgG〔FA〕		61	D012 46 ニ	200
EBウイルス抗EBNA IgG〔EIA〕		61	D012 46 ニ	200
EBウイルス抗EBNA〔FA〕		61	D012 11 ニ	79
EBウイルス抗VCA IgA〔FA〕		61	D012 11 ニ	79
EBウイルス抗VCA IgG〔EIA〕		61	D012 46 ニ	200
EBウイルス抗VCA IgG〔FA〕		61	D012 46 ニ	200
EBウイルス抗VCA IgM〔EIA〕		61	D012 46 ニ	200
EBウイルス抗VCA IgM〔FA〕		61	D012 46 ニ	200
Echo→エステル型コレステロール(Echo)		10		
*EGFR*変異解析 v2.0		137	D004-2 01 イ-1	2500
*EGFR*変異解析v2.0(血漿)		137	D006-12	2100
EL-1→エラスターゼ1		3	D009 08・B001 03 0	120・腫2
EPO→エリスロポエチン		45	D008 41	209
ER/PgR→エストロゲンレセプター/プロゲステロンレセプター(IHC)		170	N002 01+N002 02 注1	720+180
ER→エストロゲンレセプター(IHC)		170	N002 01	720
(HB)e抗原		53	D013 04	98
(HB)e抗体		53	D013 04	98

F		ページ	診療報酬区分	実施料
F1＋2→プロトロンビン フラグメントF1＋2		32	D006 28	192
Fbg→フィブリノゲン(FIB)		32	D006 04	23
F-Cho→遊離コレステロール(F-Cho)		10	D007 01	11
FDP定量(血漿)		32	D006 12	95
FDP定量(部分尿)		32	D001 08	77
Fe(鉄)		18	D007 01	11
FGF23〔CLEIA〕		46	D007 64	788
FIB→フィブリノゲン(FIB)		32	D006 04	23
FIP1L1::*PDGFRA* del(4)長腕欠失(4q12欠失)		123	D006-5 01	2477
FLT3/ITD 変異解析		127	D006-2	2100
*FLT3*変異解析ITD/TKD		127	D006-14	4200
Free T_3→遊離トリヨードサイロニン(Free T_3)〔CLEIA〕		38	D008 14	121
Free T_4→遊離サイロキシン(Free T_4)〔CLEIA〕		38	D008 14	121
FSH→卵胞刺激ホルモン(FSH)		37	D008 12	105
FT_3→遊離トリヨードサイロニン(Free T_3)〔CLEIA〕		38	D008 14	121
FT_4→遊離サイロキシン(Free T_4)〔CLEIA〕		38	D008 14	121

G		ページ	診療報酬区分	実施料
GA→グリコアルブミン		8	D007 17	55
(抗)GAD抗体		84	D008 20	134
抗GAD抗体〔ELISA〕同時依頼用		84	D008 20	134
G-band→脆弱X染色体(脆弱X症候群)		121	D006-5 03+D006-5 注1	2444+386
G-band→染色体 G-Banding(血液疾患)		123	D006-5 03+D006-5 注1	2444+386
G-band→染色体 G-Banding(先天異常)		121	D006-5 03+D006-5 注1	2444+386
GBM抗体→抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)		85	D014 32	257
GH→成長ホルモン(GH)		36	D008 10	104
GLU→グルコース		8	D007 01	11
GOT→AST(GOT)		2	D007 03	17
GPT→ALT(GPT)		2	D007 03	17
GST→ガストリン		43	D008 51	380
GU→グアナーゼ		2	D007 12	35

H		ページ	診療報酬区分	実施料
HA→ヒアルロン酸(胸水)		8		
HA→ヒアルロン酸(血清)		8	D007 45	179
HANP→ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)		45	D008 46	221
HA抗体		53	D013 08	146
HA抗体-IgM		53	D013 08	146
HbA1c→ヘモグロビンA1c(HbA1c)(NGSP)		8	D005 09	49
HBc抗体(IgG)		53	D013 06	130
HBc抗体-IgM		53	D013 08	146
HBe抗原		53	D013 04	98
HBe抗体		53	D013 04	98
HBs抗原(HQ)		52	D013 03	88
HBs抗体〔CLEIA〕		52	D013 03	88
HBV DNA定量(IU)		52	D023 04	256
HBVゲノタイプ		52	D013 14	340
HBコア関連抗原→HBcrAg		53	D013 12	246
HCG→絨毛性ゴナドトロピン(βHCG)		43	D008 19	130
HCG-βサブユニット→遊離HCG-β(HCG-βサブユニット)		43	D008 18	129

㊟：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

索　引（アルファベット）

HCV RNAコアジェノタイプ	53		
HCV RNA定量	54	D023 15	412
HCV群別(グルーピング)	53	D013 11	215
HCV抗原(コア蛋白質)	54	D013 05	102
HCV抗体(第3世代)	53	D013 05	102
HDL$_{2,3}$コレステロール	10		
HDL-コレステロール	10	D007 03	17
HE4→ヒト精巣上体タンパク4	47	D009 29・B001 03 0	200・腫2
HEV抗体-IgA(定性)	54	D013 10	210
H-FABP→ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	91	D007 35	131
HGF→肝細胞増殖因子(HGF)	46	D007 53	227
HHV-6 DNA→ヒトヘルペスウイルス6型DNA 定性	62		
HHV-6 DNA→ヒトヘルペスウイルス6型DNA定量	62		
HHV-7 DNA→ヒトヘルペスウイルス7型DNA 定性	62		
HIAA→5-HIAA(5-ハイドロキシインドール酢酸)	41	D008 05	95
HIT抗体(血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	87	D011 10	390
HIV-1/2特異抗体	71	D012 67	660
HIV-1RNA 定量	71	D023 18	520
HIV抗原・抗体	71	D012 16	109
HLA-A(遺伝子型タイピング)	142		
HLA-B(遺伝子型タイピング)	142		
HLA-C(遺伝子型タイピング)	142		
HLA-DR(リンパ球表面マーカー検査)	108		
HLA-DR/CD3(Two-color)	109	D016 02	185
HLA-DR/CD4(Two-color)	109	D016 02	185
HLA-DR/CD8(Two-color)	109	D016 02	185
HLA-DRB1(遺伝子型タイピング)	142		
(抗)HLA抗体(スクリーニング検査)	142	D014 47	1000
Hp→ハプトグロビン(型判別)	90	D015 14	129
HPV DNA→ヒトパピローマウイルスDNA(16型、18型、その他ハイリスクグループ)	55	D023 11	347
HPVジェノタイプ→ヒトパピローマウイルス ジェノタイプ判定	55	D023 27	2000
HSV DNA→単純ヘルペスウイルスDNA 定性	57		
HSV→単純ヘルペスウイルス	57	D012 11 ヘ	79
HSV→単純ヘルペスウイルス 1型・2型-IgG	57	D012 46 イ	200
HSV→単純ヘルペスウイルス(1型)(2型)	57	D012 11 ヘ	79
HSV→単純ヘルペスウイルス(IgM)(IgG)	57	D012 46 イ	200
HSV特異抗原→単純ヘルペスウイルス特異抗原	57	D012 42	180
HTLV-Ⅰ(ATLV)抗体(一次検査)	70	D012 33	159
HTLV-Ⅰ(ATLV)プロウイルスDNA(クロナリティ)	70		
HTLV-1核酸検出 定性	70	D023 17	450
HTLV-1抗体(確認検査)	70	D012 64	425
HTLV-1プロウイルスDNA 定性	70		
HVA	41	D008 03	69

Ⅰ	ページ	診療報酬区分	実施料
(抗)IA-2抗体	84	D008 43	213
(抗)IA-2抗体〔ELISA〕同時依頼用	84	D008 43	213
IFNγ→ヒトインターフェロンγ〔EIA〕	96		
IgA	89	D015 04	38
IgA→B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgA	107	D016 01	155
IgA-HEV抗体(定性)	54	D013 10	210
IgD→B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgD	107	D016 01	155
IgE(C-PAC)→特異的IgE(C-PAC5アレルゲン)	97	D015 13	550
IgE(C-PAC)→特異的IgE(C-PAC16アレルゲン)	97	D015 13	1430
IgE(アトピー鑑別試験)→アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン)	97	D015 20	194
IgE→非特異的IgE	97	D015 11	100
IGF-1(ソマトメジンC)SDスコア	36	D008 42	212
IgG	89	D015 04	38
IgG→B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgG	107	D016 01	155
IgG2	89	D014 30	239
IgG4	89	D014 40	373
IgG型リウマチ因子	82	D014 25	198
IgGサブクラス分画(TIA)	89		
IGH::BCL2 t(14;18)転座	125	D006-5 01	2477
IGH::CCND1 t(11;14)転座	125	D006-5 01	2477
IGH::FGFR3 t(4;14)転座	123	D006-5 01	2477
IGH::MAF t(14;16)転座	125	D006-5 01	2477
IGH::MYC t(8;14)転座	124	D006-5 01	2477
IgM	89	D015 04	38
IgM→B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgM	107	D016 01	155
IgM-HA抗体	53	D013 08	146
IgM-HBc抗体	53	D013 08	146
IL-10(インターロイキン-10)	96		
IL-1β(インターロイキン-1β)	96		
IL-4(インターロイキン-4)(高感度)	96		
IL-6(インターロイキン-6)	96		
IL-6(インターロイキン-6)	96	D015 16	170
IL-8(インターロイキン-8)	96		
Intact-PTH→副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	38	D008 29	161
IRI→インスリン	43	D008 08	100
IRT→トリプシン	3	D007 48	189

J	ページ	診療報酬区分	実施料
*JAK2*V617F遺伝子変異解析	127	D006-16	2504
(抗)Jo-1抗体〔CLEIA〕	82	D014 12	140

K	ページ	診療報酬区分	実施料
K(カリウム)	17	D007 01	11
KL-6	94	D007 28	108
K鎖→B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)K	107	D016 01	155

L	ページ	診療報酬区分	実施料
LAC→ループスアンチコアグラント〔APTT凝固時間法〕	86		
LAC→ループスアンチコアグラント〔希釈ラッセル蛇毒時間法〕	86	D014 33	265
LAC→ループスアンチコアグラント〔リン脂質中和法〕	86	D014 33	265
LAP→ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)	2	D007 01	11
LD(LDH)IFCC	2	D007 01	11
LD(LDH)アイソザイム	2	D007 14	48
LDH→LD(LDH)IFCC	2	D007 01	11
LDH→LD(LDH)アイソザイム	2	D007 14	48
LDL-コレステロール	10	D007 04	18
LH→黄体形成ホルモン(LH)	37	D008 12	105
(抗)LKM-1抗体	87	D014 27	215
LLA(白血病・リンパ腫解析検査)CD45ゲーティング	105	D005 15	1882
LP(a)→リポプロテイン(a)	14	D007 27	107
LPL→リポ蛋白リパーゼ	14	D007 52	219
LRG→ロイシンリッチα2グリコプロテイン(LRG)	83	D007 56	268
LST→薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)	106		
L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)〔CLEIA〕	92	D001 20	210
L鎖→B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)L	107	D016 01	155
L-ドーパ	40		

M	ページ	診療報酬区分	実施料
(抗ミトコンドリア)M2抗体	82	D014 22	189
Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体(M2BPGi) 定量	93	D007 49	194
MAC核酸同定〔TRC〕	156	D023 16	421
MAC抗体(抗酸菌抗体定性)	79	D012 29	151
Major *BCR::ABL1* ABL1変異解析	128		
Major *BCR::ABL1* mRNA(IS)	128	D006-3 01 イ	2520
Major *BCR::ABL1* mRNA定性	128	D006-2	2100

㊟：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

Major *BCR*::*ABL1* mRNA定量	128	D006-2	2100
MAST36アレルゲン(特異的IgE)	103	D015 13	1430
MAST48mix(特異的IgE)	103	D015 13	1430
Mb→ミオグロビン	91	D007 35	131
MBP→ミエリン塩基性蛋白(MBP)	176	D004 12	570
(抗)MDA5抗体	82	D014 36	275
MDA-LDL→酸化LDL(MDA-LDL)	12	D007 49	194
Mg(マグネシウム)	17	D007 01	11
MHA→尿中メチル馬尿酸	19		
(抗)Mi-2抗体	82	D014 35	270
minor *BCR*::*ABL1* ABL1変異解析	129		
minor *BCR*::*ABL1* mRNA定性	129	D006-2	2100
minor *BCR*::*ABL1* mRNA定量	129	D006-2	2100
MLA(悪性リンパ腫解析検査)CD45ゲーティング	105	D005 15	1882
MLC(リンパ球混合培養)	106		
MLC Ⅰ→心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	91	D007 47	184
MMP-3(マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	4	D014 09	116
MMRV IgG〔FIA〕検診	175		
Mn→マンガン	20	D007 08	27
MPO-ANCA→抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)	87	D014 31	250
MRSAスクリーニング	153		
MSI検査→マイクロサテライト不安定性検査	139	D004-2 01 イ-1	2500
(抗)MuSK抗体→抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体(抗MuSK抗体)	85	D014 46	1000
MYC 8q24転座	124	D006-5 01	2477

N		ページ	診療報酬区分	実施料
Na(ナトリウム)	17	D007 01	11
NAG→N-アセチルグルコサミニダーゼ(NAG)	4	D001 05	41
NCC-ST-439	48	D009 06・B001 03 0	112・腫2
NEFA→遊離脂肪酸(NEFA)	10	D007 19	59
(尿中)NGAL	92	D001 20	210
NH3→アンモニア	6	D007 16	50
NK細胞活性	107		
NSE(神経特異エノラーゼ)	50	D009 14・B001 03 0	142・腫2
NT-proBNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)	45	D008 21	136
NTx→Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)	92	D008 25・B001 03 0	153・腫2
NTx→Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症)	92	D008 25	153
*NUDT15*遺伝子codon139多型解析	141	D006-17	2274
N-アセチルグルコサミニダーゼ(NAG)	4	D001 05	41
(尿中)N-メチルホルムアミド	19		

P		ページ	診療報酬区分	実施料
P(無機リン)	17	D007 03	17
(抗)P/Q型 電位依存性 カルシウムチャネル抗体(抗P/Q型VGCC抗体)	85	D014 46	1000
P2→プレグナンジオール	42	D008 43	213
P3→プレグナントリオール	42	D008 48	232
P-Ⅲ-P→プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P)〔CLIA〕	93	D007 38	136
PA→前立腺特異抗原(PSA)	49	D009 09・B001 03 0	121・腫2
PAIgG(血小板関連IgG)	87	D011 06	190
P-ANCA→抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)	87	D014 31	250
Pb(鉛)	20		
PCA→抗胃壁細胞抗体	82		
PDGFRB 5q32転座	124	D006-5 01	2477
PF-4→血小板第4因子(PF-4)	34	D006 27	173
PG→ペプシノゲン	4		
PGE-MUM→プロスタグランジンE主要代謝物(PGE-MUM)	83	D001 18	187
PgR→プロゲステロンレセプター (IHC)	170	N002 02	690
pH(尿)	143	D000	★
PHAによるリンパ球幼若化検査	106	D016 07	345
PICテスト→α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PICテスト)	32	D006 22	150
PIVKA-Ⅱ	50	D009 10・B001 03 0	131・腫2
PL→抗リン脂質抗体→抗β_2グリコプロテインⅠIgG抗体	86	D014 29	226
PL→抗リン脂質抗体→抗β_2グリコプロテインⅠIgM抗体	86	D014 29	226
PL→抗リン脂質抗体→抗カルジオリピン・β_2グリコプロテインⅠ複合体抗体	86	D014 28	223
PL→抗リン脂質抗体→抗カルジオリピンIgG抗体	86	D014 29	226
PL→抗リン脂質抗体→抗カルジオリピンIgM抗体	86	D014 29	226
PL→抗リン脂質抗体→ループスアンチコアグラント〔APTT凝固時間法〕	86		
PL→抗リン脂質抗体→ループスアンチコアグラント〔希釈ラッセル蛇毒時間法〕	86	D014 33	265
PL→抗リン脂質抗体→ループスアンチコアグラント〔リン脂質中和法〕	86	D014 33	265
PLA_2→膵ホスホリパーゼA_2(膵PLA_2)	3	D007 50	204
PLAP→胎盤型アルカリフォスファターゼ	2		
Plg→プラスミノゲン	32	D006 13	100
PML::*RARA* mRNA定性	130	D006-2	2100
PML::*RARA* mRNA定量	130	D006-2	2100
PML::*RARA* t(15;17)転座	125	D006-5 01	2477
(高感度)PNH型血球検査	104		
POT法(黄色ブドウ球菌)	152		
PR3-ANCA→抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)	87	D014 31	250
PRA→レニン活性(PRA)〔EIA〕	44	D008 08	100
PR-F→蛋白分画	1	D007 04	18
PRL→プロラクチン	36	D008 06	98
ProGRP→ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	50	D009 24・B001 03 0	175・腫2
PSA F/T比	49	D009 17・B001 03 0	150・腫2
PT→プロトロンビン時間(PT)	32	D006 02	18
PTH→副甲状腺ホルモン(Whole PTH)	38	D008 29	161
PTH→副甲状腺ホルモン-インタクト	38	D008 29	161
PTHrP→副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	38	D008 38	185
PTフラグメントF1+2→プロトロンビンフラグメントF1+2	32	D006 28	192
P型アミラーゼ定量	3	D007 14	48

Q		ページ	診療報酬区分	実施料
Q-band→染色体 Q-Banding	121	D006-5 03+D006-5 注1	2444+386

R		ページ	診療報酬区分	実施料
RAS・*BRAF*遺伝子変異解析	139	D004-2 01 注1	4000
RBP→レチノール結合蛋白(RBP)	90	D015 14	129
RF→リウマチ因子(RF)定量	82	D014 02	30
Rh(D因子)式血液型	88	D011 01	39
Rh-Hr式血液型	88	D011 03	163
RLP-C→レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)	10	D007 43	174
(抗)RNP抗体〔CLEIA〕	80	D014 13	144
RSウイルス〔CF〕〔NT〕	67	D012 11 タ	79
RUNX1::*RUNX1T1* mRNA定性	130	D006-2	2100
RUNX1::*RUNX1T1* mRNA定量	130	D006-2	2100
RUNX1::*RUNX1T1* t(8;21)転座	124	D006-5 01	2477

S		ページ	診療報酬区分	実施料
S2,3PSA%	49	D009 31・B001 03 0	248・腫2
SAA→血清アミロイドA蛋白(SAA)	91	D015 06	47
SCC	48	D009 04・B001 03 0	101・腫2
SCCA2	98	D015 25	300
(抗)Scl-70抗体〔CLEIA〕	80	D014 16	157
sd LDL-C(健診)	175		
sd LDL-コレステロール	10		
sFlt-1/PlGF比	46	D015 27	340
SFMC→可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)	32	D006 11	93
SHOX→X,Y染色体(身長関連遺伝子*SHOX*)	122	D006-5 01	2477
SLX→シアリルLe^x-i抗原(SLX)	48	D009 13・B001 03 0	140・腫2
SM-C→IGF-1(ソマトメジンC)SDスコア	36	D008 42	212
Sm-Ig(B細胞表面免疫グロブリン)	107	D016 01	155

㊟：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

索　引（アルファベット）

	ページ	診療報酬区分	実施料
(抗)Sm抗体〔CLEIA〕	80	D014 14	147
SP-A→肺サーファクタントプロテインA(SP-A)	14	D007 34	130
SPan-1	48	D009 15・B001 03 ㉘	144・腫2
SP-D→肺サーファクタントプロテインD(SP-D)	14	D007 38	136
SRY→Y染色体(睾丸決定遺伝子*SRY*)	122	D006-5 01	2477
(抗)SS-A/Ro抗体〔CLEIA〕	80	D014 18	161
(抗)SS-B/La抗体〔CLEIA〕	80	D014 15	153
(抗)ss-DNA IgG抗体	80	D014 17	159
(抗)ss-DNA IgM抗体	80		
SSEA-1抗原→シアリルLe^{x}-i抗原(SLX)	48	D009 13・B001 03 ㉘	140・腫2
(HB)s抗原(HQ)	52	D013 03	88
(HB)s抗体〔CLEIA〕	52	D013 03	88

T

	ページ	診療報酬区分	実施料
T_3→トリヨードサイロニン(T_3)〔CLEIA〕	38	D008 07	99
T_4→サイロキシン(T_4)〔CLEIA〕	38	D008 11	105
TARC(Th2ケモカイン)	96	D015 17	179
TARC(薬剤性過敏症症候群)	96	D015 17	179
TAT→トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)	32	D006 25	166
TB→総ビリルビン(T-Bil)	18	D007 01	11
TBA→総胆汁酸	13	D007 13	47
TBG→サイロキシン結合グロブリン(TBG)	38	D008 19	130
TCA→尿中トリクロル酢酸	19		
T-Cho→総コレステロール(T-Cho)	10	D007 03	17
Tf→トランスフェリン	91	D015 07	60
Tf→尿中トランスフェリン	91	D001 09	98
Tf→尿中トランスフェリン(クレアチニン換算値)	91	D001 09	98
TFPI2→組織因子経路インヒビター2(TFPI2)	47	D009 28・B001 03 ㉘	190・腫2
Tg→サイログロブリン	38	D008 17	128
TG→中性脂肪(TG)	10	D007 01	11
TgAb→抗サイログロブリン抗体	84	D014 10	136
Th2ケモカイン→TARC(Th2ケモカイン)	96	D015 17	179
TIBC→総鉄結合能(TIBC)	18	D007 01	11
(抗)TIF1-γ抗体	82	D014 35	270
TM→トロンボモジュリン	35	D006 29	204
TNF-α(高感度)	176		
TnT→心筋トロポニンT	91	D007 29	109
total P1NP→Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total P1NP)	92	D008 28	160
TP→総蛋白(TP)(血清)	1	D007 01	11
TP53 del(17)短腕欠失	125	D006-5 01	2477
tPA・PAI-1複合体→トータルPAI-1(tPA・PAI-1複合体)	32	D006 34	240
TP-F→蛋白分画	1	D007 04	18
(抗)TPO-Ab→抗TPO抗体(抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体)	84	D014 11	138
TRAb→TSHレセプター抗体〔CLEIA〕	84	D014 26	208
TSHレセプター抗体〔CLEIA〕	84	D014 26	208
TRACP5b→骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ(TRACP-5b)	3	D008 26・B001 03 ㉘	156・腫2
TSAb→甲状腺刺激抗体(TSAb)	84	D014 39	330
TSBAb(TSHレセプター抗体[阻害型])〔Bioassay〕	176		
TSH→甲状腺刺激ホルモン(TSH)〔CLEIA〕IFCC	37	D008 06	98
T-SPOT→結核菌特異的IFN-γ	79	D015 29	593
TSST-1産生	152		
TTC→尿中総三塩化物	19		
Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	107		
T細胞百分率 B細胞百分率	107	D016 03	193
T細胞レセプターβ鎖Cβ1再構成	136	D006-6	2362

U

	ページ	診療報酬区分	実施料
UA→尿酸(UA)	6	D007 01	11
ucOC→低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	45	D008 24	150
*UGT1A1*遺伝子多型	141	D006-7	2004
UIBC→不飽和鉄結合能(UIBC)	18	D007 01	11
UN→尿素窒素(UN)	6	D007 01	11

V

	ページ	診療報酬区分	実施料
v WF→フォン・ウィルブランド因子抗原定量	33	D006 21	147
View アレルギー39(特異的IgE)	97	D015 13	1430
VMA→(バニリルマンデル酸)	41	D008 04	90
VZV DNA→水痘・帯状疱疹ウイルスDNA 定性	58		
VZV DNA→水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定量	58	D023 17	450
VZV→水痘・帯状疱疹ウイルス	58	D012 11 ｲ	79
VZV→水痘・帯状疱疹ウイルス(IgM)(IgG)	58	D012 46 ｦ	200
VZV抗原→水痘・帯状疱疹ウイルス抗原	58	D012 54	227

W

	ページ	診療報酬区分	実施料
Whole PTH→副甲状腺ホルモン(Whole PTH)	38	D008 29	161
WT1 mRNA定量	127	D006-9	2520

X

	ページ	診療報酬区分	実施料
X, Y染色体(身長関連遺伝子*SHOX*)	122	D006-5 01	2477
X染色体(血液疾患)	126	D006-5 01	2477
X染色体(先天異常)	126	D006-5 01	2477

Y

	ページ	診療報酬区分	実施料
Y染色体(血液疾患)	126	D006-5 01	2477
Y染色体(睾丸決定遺伝子*SRY*)	122	D006-5 01	2477
Y染色体(先天異常)	126	D006-5 01	2477
Y染色体微小欠失 (AZF欠失)	140	D006-28	3770

Z

	ページ	診療報酬区分	実施料
Zn(亜鉛)	18	D007 36	132
ZnT8抗体→亜鉛トランスポーター8(ZnT8)抗体	84		
ZTT→クンケル反応(ZTT)	1		

㊟：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

ギリシャ文字

α		ページ	診療報酬区分	実施料
α1AG→α1アシドグリコプロテイン		90		
α1アシドグリコプロテイン		90		
α1AT→α1アンチトリプシン		90	D006 10	80
α1アンチトリプシン		90	D006 10	80
α1-M→α1-マイクログロブリン		90	D015 14	129
α1-マイクログロブリン		90	D015 14	129
α2プラスミンインヒビター→アンチプラスミン(α2プラスミンインヒビター)		32	D006 17	128
α2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PICテスト)		32	D006 22	150
α2-マクログロブリン		90	D006 18	138
α-hANP→ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)		45	D008 46	221
α-フェトプロテイン定量		47	D009 02・B001 03 ▯	98・腫2

β		ページ	診療報酬区分	実施料
β2GPⅠ抗体→抗カルジオリピンβ2グリコプロテインⅠ複合体抗体		86	D014 28	223
(抗)β2グリコプロテインⅠ IgG抗体		86	D014 29	226
(抗)β2グリコプロテインⅠ IgM抗体		86	D014 29	226
β2-マイクログロブリン		91	D015 10	98
β-D-グルカン		78	D012 44	190
βHCG→絨毛性ゴナドトロピン(βHCG)		43	D008 19	130
β-アミロイド1-42/1-40比		95	D004 15	1282
β-カロチン		15		
β-トロンボグロブリン(β-TG)		34	D006 26	171

γ		ページ	診療報酬区分	実施料
γ-GT(γ-GTP)		2	D007 01	11
γ-セミノプロテイン(γ-Sm)		49	D009 27・B001 03 ▯	187・腫2

δ		ページ	診療報酬区分	実施料
δ-アミノレブリン酸(δALA)		18	D001 12	106

㊟：特定薬剤治療管理料
腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料
★：保険医療機関内で実施した場合のみ算定できます。

数字

		ページ	診療報酬区分	実施料
1，25-(OH)$_2$ビタミンD		16	D007 62	388
1,5AG(1,5-アンヒドロ-D-グルシトール)		8	D007 21	80
Ⅰ型コラーゲンC末端テロペプチド(ⅠCTP)		92	B001 03 ▯	腫2
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)		92	D008 25·B001 03 ▯	153·腫2
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症)		92	D008 25	153
Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total P1NP)		92	D008 28	160
(尿中)2,5-ヘキサンジオン		19		
Ⅱ因子(凝固因子活性検査)		33	D006 32	223
Ⅳ型コラーゲン		93	D007 35	131
(尿中)Ⅳ型コラーゲン		93	D001 16	179
Ⅳ型コラーゲン·7S〔CLEIA〕		93	D007 41	148
5-HIAA		41	D008 05	95
5-HT→セロトニン		41		
5-S-システイニルドーパ(5-S-CD)		49		
Ⅴ因子(凝固因子活性検査)		33	D006 32	223
7AAD解析　悪性リンパ腫解析検査		105	D005 15	1882
Ⅶ因子(凝固因子活性検査)		33	D006 32	223
7染色体(ウイリアムス症候群)(先天異常)		121	D006-5 01	2477
Ⅷ因子(凝固因子活性検査)		33	D006 32	223
Ⅷ因子(凝固抑制因子検査)		33	D006 20	144
8染色体(血液疾患)		124	D006-5 01	2477
Ⅸ因子(凝固因子活性検査)		33	D006 32	223
Ⅸ因子(凝固抑制因子検査)		33	D006 20	144
Ⅹ因子(凝固因子活性検査)		33	D006 32	223
(血中)11-OHCS		39	D008 02	60
11-ヒドロキシコルチコステロイド→血中11-OHCS		39	D008 02	60
Ⅺ因子(凝固因子活性検査)		33	D006 32	223
Ⅻ因子(凝固因子活性検査)		33	D006 32	223
12種吸入性アレルゲン(アトピー鑑別試験)		97	D015 20	194
12染色体(血液疾患)		125	D006-5 01	2477
ⅩⅢ因子(凝固因子活性検査)		33	D006 32	223
13染色体(先天異常)		121	D006-5 01	2477
15染色体(アンジェルマン症候群)(先天異常)		121	D006-5 01	2477
15染色体(プラダーウイリ症候群)(先天異常)		121	D006-5 01	2477
18染色体(先天異常)		122	D006-5 01	2477
21染色体(先天異常)		122	D006-5 01	2477
22染色体(22q11.2欠失症候群)〔FISH〕		122	D006-5 01	2477
25OHビタミンD(骨粗鬆症)		16	D007 30	117
25ヒドロキシビタミンD(くる病・骨軟化症)		16	D007 30	117

緊急報告検査値範囲

検査項目	基準値(単位)	緊急報告検査値範囲	
生化学的検査			
☆AST(GOT)	10～40（U/L）	500以上	
☆ALT(GPT)	5～40（U/L）	500以上	
☆LD(LDH)IFCC	124～222（U/L）	1000以上	※1
☆アミラーゼ(AMY)(血清)	44～132（U/L）	1000以上	
☆尿素窒素(UN)(血清)	8.0～22.0（mg/dL）	80以上	※2
☆グルコース(血漿)	70～109（mg/dL）	(空腹時)50以下、500以上	
☆グルコース(血清)	70～109（mg/dL）	(空腹時)500以上	
☆Na(ナトリウム)(血清)	136～147（mEq/L）	110以下、170以上	※3
☆Cl(クロール)	98～109（mEq/L）	80以下、120以上	※3
☆K(カリウム)(血清)	3.6～5.0（mEq/L）	2.5以下、6.5以上	※1,3
☆Ca(カルシウム)(血清)	8.5～10.2（mg/dL）	6.0以下、14.0以上	※2
☆総ビリルビン(T-Bil)	0.3～1.2（mg/dL）	12.0以上	
アンモニア	30～80（μg/dL）	500以上	※4
薬物検査			
バンコマイシン	Trough 10～15（μg/mL）	60以上	
テイコプラニン	Trough 15～30（μg/mL）	(Trough)60以上	
カルバマゼピン	4.0～12.0（μg/mL）	12.1以上	
エトスクシミド	40.0～100.0（μg/mL）	120以上	
フェノバルビタール	10～40（μg/mL）	60以上	
フェニトイン	10.0～20.0（μg/mL）	30以上	
プリミドン	5.0～12.0（μg/mL）	15以上	
バルプロ酸	50.0～100.0（μg/mL）	150以上	
ジゴキシン	消失相濃度 0.8～2.0（ng/mL）	2.5以上	
リドカイン	1.2～5.0（μg/mL）	6.0以上	
プロカインアミド	4.0～10.0（μg/mL）	12以上	
リチウム	治療濃度範囲 0.3～1.2（mEq/L）	2.0以上	
テオフィリン	10.0～20.0（μg/mL）	25以上	
サリチル酸	抗炎症作用として 100～250（μg/mL）	300以上	
メトトレキサート	危険限界濃度： 24時間値 10以上 48時間値 1以上 72時間値 0.1以上 （μmol/L）	48時間後　1.0以上	※5
血液学的検査			
☆白血球数(WBC)	M 3900～9800 F 3500～9100 （/μL）	1000以下、25000以上	
☆血色素量(Hb)	M 13.5～17.6 F 11.3～15.2 （g/dL）	5.0以下	
☆血小板数(PLT)	M 13.1～36.2 F 13.0～36.9 （×10^4 /μL）	3.0以下、100.0以上	※6
☆プロトロンビン時間(PT)		INR　4.0以上	
免疫血清学的検査			
直接クームス試験	(－)	(＋)(Baby)	※7
一般検査			
☆尿糖(定性)	(－)	4＋以上	※8
☆尿ケトン体(定性)	(－)	2＋以上	※8
微生物学的検査			
一般細菌(培養同定)		・感染症法における3類感染症該当菌が検出された場合 ・食中毒を疑う菌種が検出された場合 ・血液、髄液から菌が検出された場合	
抗酸菌塗抹		抗酸菌が認められた場合	
結核菌群核酸同定		陽性の場合	
MAC核酸同定		陽性の場合	

※1　溶血検体は除外いたします。
※2　透析患者検体は除外いたします。
※3　血清で提出された検体のみといたします。
※4　除蛋白不良が考えられる場合はコメントにて連絡いたします。
※5　必ず採血時期を明記してください。採血時期の記載がない場合は緊急報告できない場合があります。
※6　血小板凝集が認められる場合は除外いたします。
※7　新生児のみでのTEL報告となります。患者名にBaby等の記載がない場合は緊急報告できない場合があります。
※8　6歳以下のみでの報告となります。生年月日、年齢の記載がない場合は緊急報告できない場合があります。
☆印の項目につきましては、同時に依頼された関連項目も報告いたします。

ご利用の手引き

取り引きのお申し込み

全国のお客様より検査受託できる体制が整っております。最寄りの営業所・営業拠点までご連絡ください。
営業員がお伺いし、説明・ご相談させていただきます。
ご連絡の際は裏表紙の営業所・営業拠点一覧をご参照ください。

検査のご依頼方法

依頼書

それぞれの依頼項目に適合した依頼書をご使用ください。
複写の一部をお客様控えとし、併せて「受領書」とさせていただきますのでご了承ください。
検体ラベルに患者名・年齢・性別・材料をご記入のうえ、容器にお貼りください。
Web、データ伝送によるご依頼については別途ご相談ください。

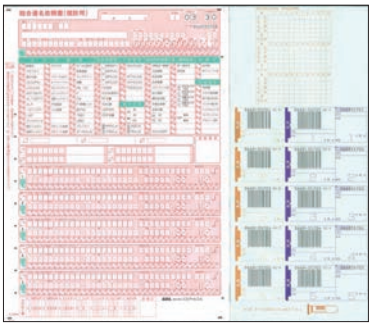
総合検査依頼書Ⅰ(51)



総合検査依頼書Ⅱ(52)



総合連名依頼書(健診用)(30)



アレルギー検査依頼書(36)



負荷検査依頼書(24)



細菌検査依頼書(07)



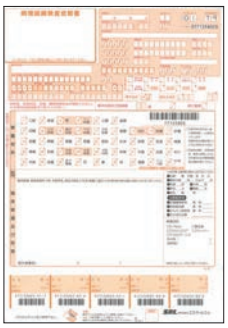
細胞診検査依頼書(03)



婦人科細胞診検査依頼書(04)



病理組織検査依頼書(79)



特殊検査依頼書／報告書

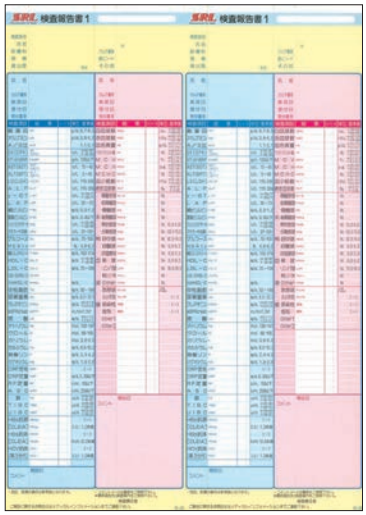


報告

検査結果は所定の様式にてお届けいたします。
Web、データ伝送による報告については別途ご相談ください。

至急報告をご希望されるときは、ご提出される依頼書へご記入ください。
検査結果が判明次第、FAX等でご連絡させていただきます。
緊急報告検査値範囲が設定してある項目については、特にご指示がない場合でもFAX等にてご連絡させていただきます。

検査報告書1



検査報告書2



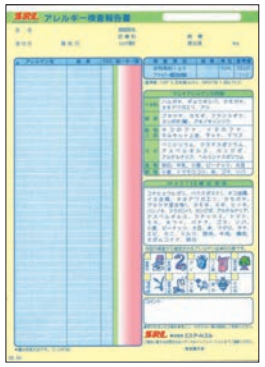
一般細菌検査報告書



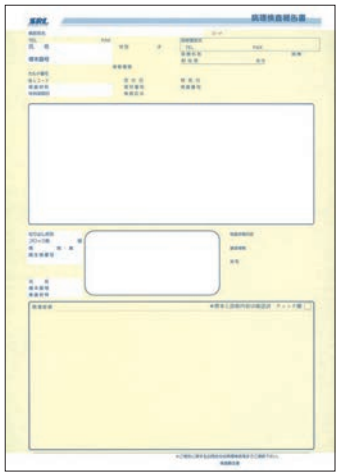
抗酸菌検査報告書



アレルギー検査報告書



病理検査報告書



細胞診報告書



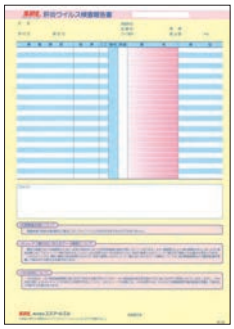
妊婦検査報告書



血液型報告書



肝炎ウイルス検査報告書



甲状腺機能検査報告書



検査結果のお問い合わせ

検査内容等のお問い合わせ、ご意見、ご指摘等につきましては、最寄りの営業所・営業拠点またはメディカルインフォメーションへお問い合わせください。

メディカルインフォメーション　TEL.050(2000)4870

お問い合わせ対応時間：平日・土曜[9：00 ～ 17：30](日曜、祝日を除く)

ご利用の手引き

検体のご提出と搬送方法

検体は原則として、院内検査室でまとめて集荷担当者へご提出ください。なお、検体の集配につきましては、一部の地域を除き、株式会社メディスケットへ委託しております。当社は、当該委託先との契約等において、機密保持、個人情報の漏えい防止や適正な取り扱いに必要な事項を取り決めるとともに、適切な管理を実施します。また当該委託先では、お預かりした検体の搬送精度向上のために、断熱材入りの専用検体搬送ボックスに専用の蓄冷剤と蓄温剤を用いて搬送しております。

お預かりした検体はSRL Advanced Lab. FMAへ搬送いたします。

貴院への集配は 指定日時： 指定場所： へお伺いいたします。	お預かりしました検体のSRL Advanced Lab. FMAへの平均検体搬送時間は[　　]時間となっております。

・一部の検査はセントラルラボラトリーを経由して下記検査会社へ測定委託しております。
・セントラルラボラトリーから測定委託先への平均搬送時間は下記の通りです。
・SRL Advanced Lab. FMAから検体が搬出されセントラルラボラトリーに届くまでの搬送時間は平均10時間です。但し、検体がSRL Advanced Lab. FMAに到着したタイミングにより翌日以降の搬送とさせていただく場合がございます。
・SRL Advanced Lab. FMAから測定委託先までの平均搬送時間は10時間に下記搬送時間を足した時間となります。但し、セントラルラボラトリーに到着してから測定委託先へ搬送するまでの搬送準備には土日祝日等の影響、Quest Diagnostics Incorporated(QD)社のように曜日指定の搬送がある場合の影響等により、数日のお時間をいただく場合がございます。
・検査報告書には項目ごとに当社検査ラボラトリーおよび測定委託先を※印で表示いたします。
・当社検査ラボラトリーは裏表紙内側、測定委託先は下表の通りです。
・SRL Advanced Lab. FMA実施項目につきましては、検査実施施設記号は設けておりません。(空欄のままです)

記号	エスアールエル / グループ会社測定実施場所	検体搬送時間
	SRL Advanced Lab. FMA	
※#	エスアールエル福岡画像解析センター	1時間以内*
※1	エスアールエル セントラルラボラトリー	10時間以内
※ヨ	エスアールエル MUQSラボラトリー	1時間以内
※ロ	日本医学臨床検査研究所	16時間以内
※%	日本医学臨床検査研究所 前橋ラボラトリー	3時間以内

＊ SRL Advanced Lab. FMAからの搬送時間です。

記号	測定委託先	検体搬送時間
※E	株式会社北里大塚バイオメディカルアッセイ研究所	3時間以内
※K	Quest Diagnostics Incorporated(QD)	2～3日以内
※M	株式会社LSIメディエンス	6時間以内
※N	株式会社ビー・エム・エル	6時間以内
※ツ	ミルスインターナショナル有限会社	17時間以内
※ハ	株式会社シノテスト サイエンス・ラボ	18時間以内
※ミ	株式会社江東微生物研究所	6時間以内

ご依頼の取消について

ご依頼いただきました検査につきまして、検査開始後には原則、お客様からの取消しご依頼を承ることができません。

RIA測定項目のご依頼について

シンチグラフィー等で*in vivo*に投与したアイソトープが残存するとRIAでの異常値発生の原因となることがありますので、あらかじめご了承ください。

特定感染症患者の検体受託について

当社の受託体制および感染症法(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律)等により、下記に該当する感染症の患者、疑似症患者、無症状病原体保有者の検体については、受託することができません。あらかじめご了承ください。
【特定感染症】
・１類感染症
　エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱

放射性物質が含まれる検体について

放射性医薬品等が投与された患者様の検体をご提出される場合には、あらかじめ放射線が検出されないことを法令に定められた手順に従ってご確認のうえ、ご依頼いただきますようお願いいたします。

遺伝子治療・遺伝子組換え医薬品に関連する検体のご提出について

遺伝子治療用製品、遺伝子組換え医薬品、遺伝子改変細胞療法製品等(以下、「対象製品」)の投与を受けた患者様の検体につきましては、検査ご依頼前に事前確認[*1]が必要になります。つきましては、該当患者様の検体をご提出いただく際は、あらかじめ当社担当営業員までご相談いただきますようお願いいたします。
【検査依頼前のご連絡事項】
検査ご依頼前に、第一種使用規程の承認[*1]を受け投与された患者様由来の検体である旨をご連絡ください。併せて、以下の情報をお知らせください。
・投与日または投与予定日
・投与製品名
・検体種別
・ご依頼予定検査項目
・ご施設名称
・ご担当者氏名およびご連絡先
ご依頼施設におかれましては、確認事項について、あらかじめ充分ご確認くださいますようお願いいたします。
【集荷時のお願い】
検体ご提出の際には、承認済第一種使用規程に従い[*2]、安全な輸送および取扱いのため、二重梱包を実施し、内容物が判別できるよう明示をお願いいたします。また、外装容器または依頼書等には、事前相談済検体である旨、検体種別、ご施設名等の記載をお願いいたします。
【備考】
検査のご依頼にあたり、必要な情報が正確に提供されない場合、梱包不備がある場合、または安全管理上必要な確認が完了しない場合には、検査をお受けできない可能性があります。また、必要に応じ、再検査、保存期間、返却等の取扱いが通常検体と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

＊1 遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律に基づく承認の申請等の事務手続き等に関する質疑応答集(Q&A)
　厚生労働省 医薬・生活衛生局医薬品審査管理課
　　医薬・生活衛生局医療機器審査管理課
＊2「カルタヘナ法第一種使用規程対応マニュアル 第2版」
　一般社団法人 日本小児神経学会

免責について

ご依頼いただきました検査は当社検査実施基準に基づき行われますが、お預かりした検体の状態、または検査方法の技術的限界等により検査結果を臨床診断に資することが困難な場合があります。この場合当社はその検査結果に対し免責とさせていただきます。

再検査について

当社再検基準に基づき再検査をいたします。
検査必要量に満たない検体量でのご依頼の時には、再検査ができない場合があります。

保管期間を経過した検査済み検体の精度管理目的等への利用について

保管期間を経過した検査済検体は個人情報が特定されない状態に検体情報を加工した後、精度管理の目的等に使用することがあります。 次世代シークエンサーでの測定を含む検査においては、得られた塩基配列情報が個人識別符号となる場合があります。個人識別符号と紐づいた状態で保管されている検査済検体、およびその塩基配列情報そのものは、精度管理の目的等で使用する場合に、個人識別符号と検査済検体を復元不可能な状態に切り離したり、塩基配列データの個人識別性を不可逆的に取り除いたりすることができません。そこで、このような場合に限り、塩基配列による個人識別性を除かないまま精度管理に利用します。ただし、塩基配列情報と検査済検体の取り扱いを、個人情報保護教育プログラムを修了した検査員に限ることで、個人情報の保護に努めます。

統計情報について

検査のご依頼にあたり、以下の点をご了承ください。

・当社は、お客様より受託した検体検査の情報をもとに、統計情報を作成することがあります。統計情報は、複数の方に関する情報から共通要素に係る項目を抽出して同じ分類ごとに集約して得られる情報であって、被検者やお客様を特定することはできません。例えば、各検査項目における一定の地域・期間ごと、年齢・性別など被検者の属性ごとの、検査受託件数や陽性率がこれに含まれます。

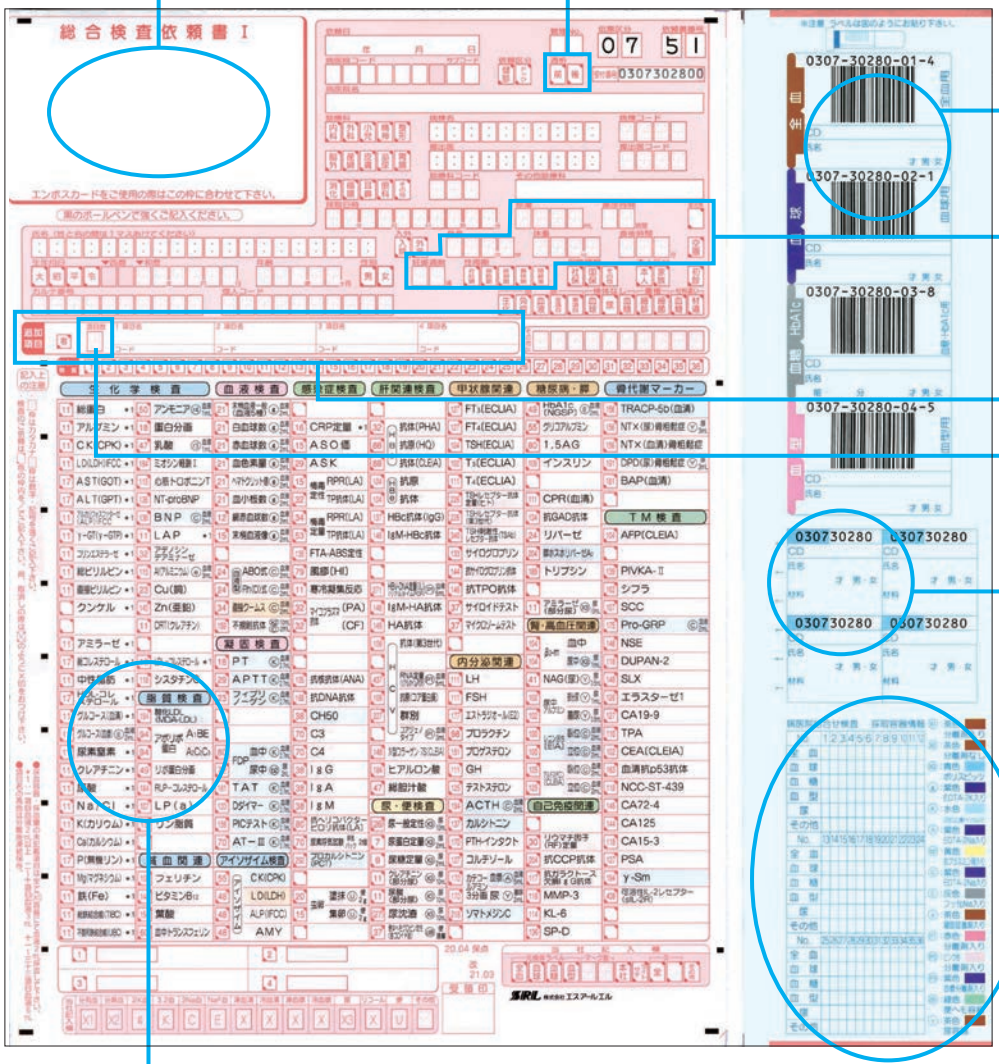
・作成された統計情報は、当社において検査精度の検証に用いること、公衆衛生疫学等の分野において参照されること、当社のホームページ等でご報告することがあるほか、当社または第三者の製品・サービスの開発・提供等のために利活用されることがあります。

料金請求とお支払い方法

継続してお取り引きいただくお客様は、1ヵ月分をまとめてご請求申し上げます。お支払い方法は、ご契約に従ってお願いいたします。その他の場合は、原則としてご依頼時にお支払いください。なお、領収書につきましては、お振込みの際の振込金受領書をもちまして領収書に代えさせていただきます。領収書のご要望がございましたら、営業員にお申し付けください。

依頼書の記入要領

黒ボールペンで強くご記入ください。
依頼日・採取日・採取時刻・緊急連絡先・検査材料をご記入ください。
患者名・提出医名は、カタカナでご記入ください。
性別・生年月日（年齢）・カルテ番号・診療科名・入院・外来・病棟欄もご記入ください。
依頼書に記載されていない検査項目は、追加項目欄に項目名および検査方法をご記入ください。
受付処理をコンピュータで行いますので、折れ曲がったり、汚したり、破れたりしないようお願いいたします。
各依頼書に固有の受付番号がつけられていますので、検体ラベルを他の依頼書でご使用にならないでください。



連絡事項がございましたらこの欄をご使用ください。

透析検体の場合、前・後いずれかに／でご記入ください。

患者名、年齢、性別をご記入のうえ、容器にお貼りください。

項目によっては尿量・身長・体重等の情報が検査に必要です。対象の項目をご依頼の場合には必ずご記入ください。

依頼書に掲載されていない検査項目をご依頼される場合、項目名および検査方法をご記入ください。

追加項目欄でご依頼の場合、ご依頼項目数をご記入ください。

患者名、年齢、性別、材料をご記入のうえ、容器にお貼りください。

組み合わせ検査に必要な材料・本数が印字されています。組み合わせ検査をご依頼の場合は容器および本数をご確認のうえ、検体をご提出ください。

検査のご依頼は□の枠内を☑でご記入ください。尚、取消しの際は☒のように×印をおつけください。
☑の様にはみ出すと間違って上下の項目が依頼される事があります。
☑の様に枠内に正しくご記入ください。

ご利用の手引き

採取容器／提出容器

・採取容器／提出容器については、「容器の取り扱い方法（①～㊺ページ）」をご参照ください。
・採取容器／提出容器には、患者名、性別、および年齢を記入したラベルを貼り付けてください。
　尚、同一患者で複数の材料にてご依頼の場合は材料名も記入してください。
・採取容器とラベル貼付について
　　ラベルは栓より0.5 ～ 1cm位下に縦にしわにならない様に貼り付けてください。（写真参照）
　　また依頼書添付のバーコードラベルは指定容器とあわせてご使用ください。

ラベルの貼り方



≪ラベル貼付時のご注意≫

（1）依頼書の依頼No.とラベルの依頼No.を照合してください。
（2）依頼書の氏名とラベルの氏名を照合してください。
（3）検体の材料種別とラベルの材料表示名を照合してください。

検体の採取・取り扱い方法

真空採血では容器規定採血量より少ない場合、容器内部が陰圧状態となり溶血の原因となりますので、必ず容器規定量を採取してください。
・真空採血用ホルダーをご使用にならないシリンジでの採血時は注射針をはずして、栓を開けた容器の壁にそって必要量を注入してください。（栓に針を刺して血液を注入すると溶血しやすくなります）
・抗凝固剤入りの採取容器に採血された場合（または血液を注入して栓をした後）は、5回位転倒混和（アワをたてないように）したうえご提出ください。
・培養をともなう検査の検体採取は無菌的に行い、所定の滅菌容器にてご提出ください。

ご依頼検体の保管期間

お預かりした検体は、依頼日より3週間保管し、再検査や追加検査のご要望にお応えしております。ただし、末梢血液検査など一部の検査につきましては1週間保管とさせていただきます。なお、保管期間を過ぎた検体につきましては、当社で処分させていただきます。また、当社から測定委託する項目につきましては、測定委託先の基準に基づいて保管させていただきます。取り扱いの定まっていない新種の感染症の検体については、保管せずに廃棄処分する場合があります。

総合検査案内掲載内容

1.検 体 量：検体量は再検査分を考慮して設定しております。
血清または血漿の場合、必要量の約3倍量を目安に血液を採血してください。(検体採血方法は①ページをご参照ください)

2.保　　存：指定の保存方法にてご提出ください。
凍結　必ず凍結(-10℃以下)保存してご提出ください。
冷蔵　冷蔵(2℃～ 15℃)で保存してご提出ください。
室温　必ず室温(16℃～ 30℃)で保存してご提出ください。

3.基 準 値：「正常参考値および判定基準」は当社では「基準値」で表示しております。
「基準値」には基準範囲、臨床判断値等を含みます。

4.所要日数：原則的には検体をお預かりした翌日を起算日とし、結果をお客様のお手元へお届けするまでの日数(通常の土曜・日曜日を含みます)です。
なお、次の場合は表示日数よりご報告が遅れることがありますので、あらかじめご了承ください。
・再検査の場合や祝日の前後の場合
・記載されている材料以外でのご依頼の場合
・凍結マーク項目と同時のご依頼の場合
・やむを得ず、重複不可マーク項目と同時のご依頼があった場合
・気象状況や交通事情により検体のラボラトリーおよび測定委託先への到着が遅れた場合
・税関その他の管轄当局の作為または不作為によりラボラトリーおよび測定委託先への到着が遅れた場合
・受託件数が集中して大幅に増加した場合

5.実施料・判断料：検体検査料は検体検査実施料と、検体検査判断料に区分されています。

検 体 検 査 判 断 料

	判断料	判断料区分			判断料	判断料区分
1. 尿･糞便等検査判断料	34点	……	※1	5. 生化学的検査(Ⅱ)判断料	144点	…… ※5
2. 遺伝子関連･染色体検査判断料	100点	……	※2	6. 免疫学的検査判断料	144点	…… ※6
3. 血液学的検査判断料	125点	……	※3	7. 微生物学的検査判断料	150点	…… ※7
4. 生化学的検査(Ⅰ)判断料	144点	……	※4			

病 理 判 断 料

	判断料	判断料区分	
病理判断料	130点	……	※8

6.採取条件：検体を適正に採取するために、検体採取時に留意していただきたい事項です。(備考または容器の取り扱い方法をご参照ください。)

7.提出条件：血清分離の要否など、適正な検査・測定を行うために必要な事項です。(備考または容器の取り扱い方法をご参照ください。)
速やかに遠心　採血後、長時間の室温放置は避け、速やかに遠心分離してください。遠心分離までに時間指定のある項目や、前処理、遠心分離前に冷却を必要とする項目等もありますので、備考欄または容器の取り扱い方法も併せてご参照ください。
冷却遠心　低温(4℃)にて遠心分離してください。

8.緊急報告検査値範囲 緊急：緊急報告検査値範囲(1ページ参照)が設定されておりますので、範囲を超えた場合には、当社より緊急連絡させていただきます。

9.予約検査 予約検査：予約検査となりますので、検体採取前に必ず最寄りの営業所・営業拠点へご連絡ください。

10.曜日指定 曜日指定：指定曜日のみ(休日除く)受託可能となりますので、ご注意ください。受託可能日につきましては、本文の備考欄をご参照ください。

11.参考文献：検査方法についての基本的な参考文献です。(エ～ツ ページ参照)

ご利用の手引き

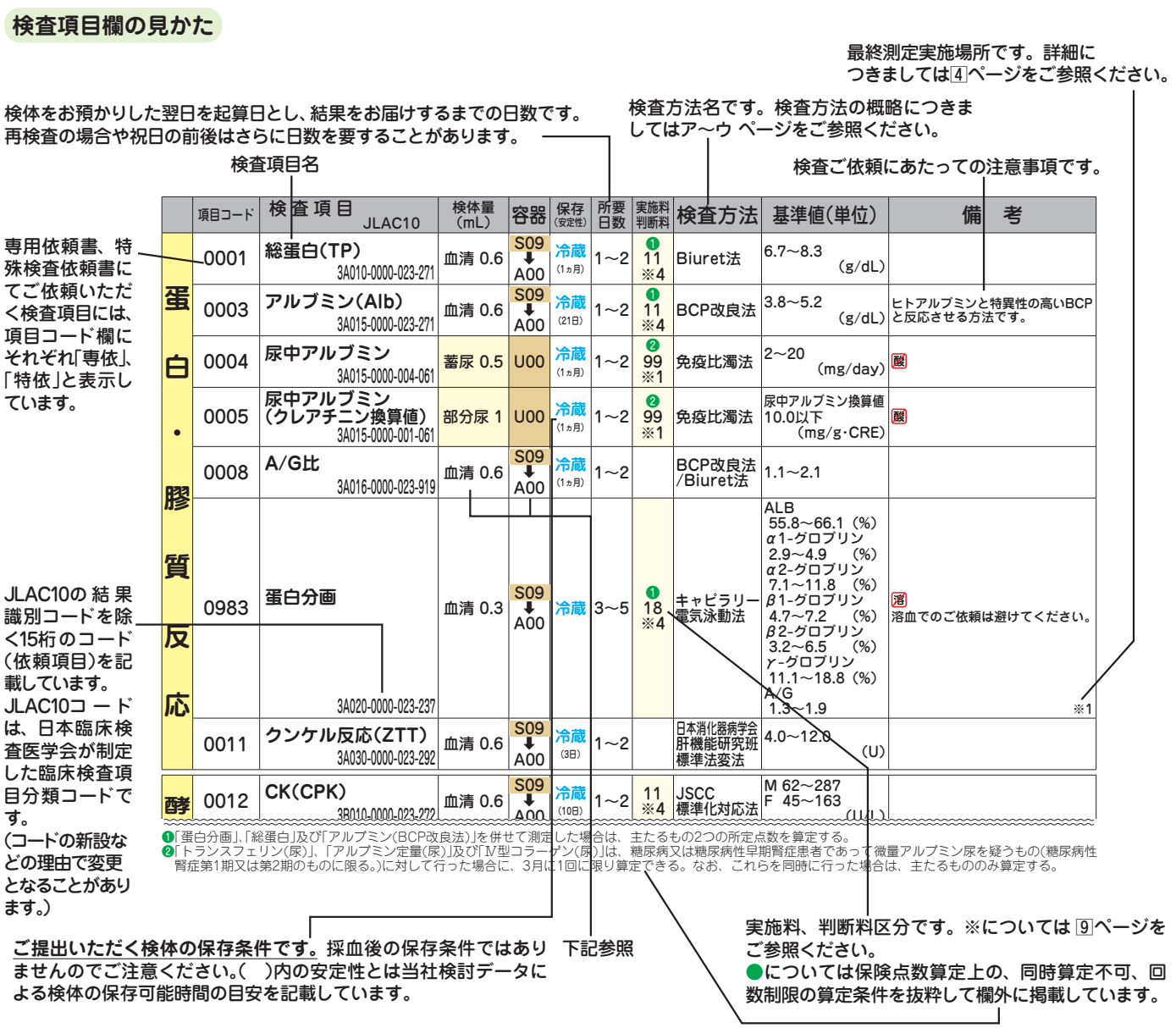
マーク一覧

受付・報告関連	予約検査	予約検査	予約検査となりますので、検体採取前に必ず最寄りの営業所・営業拠点へご連絡ください。
	曜日指定	曜日指定	指定曜日のみ(休日除く)受託可能となりますので、ご注意ください。受託可能日につきましては、本文の備考欄をご参照ください。
	緊　急	緊急	緊急報告検査値範囲(1ページ参照)が設定されておりますので、範囲を超えた場合には、当社より緊急連絡させていただきます。
	ヒト倫理	倫理指針対象	ヒト遺伝子倫理指針対象項目となりますので、ご依頼につきましては、12ページをご参照ください。
	PGx	PGx対象	ファーマコゲノミクス(PGx)対象項目となりますので、ご依頼につきましては、13ページをご参照ください。
	海　外	海外委託	最終委託先が米国のため海外搬送となります。検体の返却等はできませんので、あらかじめご了承ください。
	重複不可	重	他項目との重複依頼は避けてください。やむをえず他項目と重複依頼された場合は、所要日数が変動する場合がございますので、予めご了承ください。
検体取り扱い	速やかに遠心	速やかに遠心	採血(採尿)後、長時間の室温放置は避け、速やかに遠心分離してください。遠心分離までに時間指定のある項目や、前処理、遠心分離前に冷却を必要とする項目等もありますので、備考欄または容器の取り扱い方法も併せてご参照ください。
	冷却遠心	冷却遠心	低温(4℃)にて遠心分離してください。
	凍　結	凍結	必ず凍結(-10℃以下)保存してご提出ください。
	冷　蔵	冷蔵	冷蔵(2℃～15℃)で保存してご提出ください。 なお、長期間にわたって保存される場合は、凍結してくださるようお願いいたします。ただし凍マークのついている項目は、長期間であっても凍結しないでください。
	室　温	室温	必ず室温(16℃～30℃)で保存してご提出ください。
	遮　光	遮光	直射日光または蛍光灯等を避け、遮光した容器にてご提出ください。
検査値への影響	溶血不可	溶	溶血検体は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	不活化不可	不	不活化(非働化)検体は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	酸性蓄尿不可	酸	酸性蓄尿は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	凍結不可	凍	凍結(-10℃以下)保存は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。

主な単位記号

L	liter	M	mol/L
dL	deciliter(=0.1L)	mmol	millimole(=0.001mol)
mL	milliliter(=0.001L)	μmol	micromole(=10^{-6}mol)
μL	microliter(=10^{-6}L)	nmol	nanomole(=10^{-9}mol)
fL	femtoliter(=10^{-15}L)	pmol	picomole(=10^{-12}mol)
kg	kirogram	fmol	femtomole(=10^{-15}mol)
g	gram	mm	millimeter
mg	milligram(=0.001g)	mm^2	squaremillimeter(平方ミリメーター)
μg	microgram(=10^{-6}g)	mm^3	cubicmillimeter(立方ミリメーター)
ng	nanogram(=10^{-9}g)	μ^3	cubicmicron(立方マイクロ)
pg	picogram(=10^{-12}g)	Meq	megaequivalents
U	unit	mEq	milliequivalent
mU	milliunit(0.001U)	mOsm	milliosmole
μU	microunit(10^{-6}U)	%	percent
IU	international unit	‰	permill
mIU	milliinternational unit(=0.001 IU)	cpm	counts per minutes
AU	arbitrary unit	U_A	unit allergen

検査項目欄の見かた



	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
蛋白・膠質反応	0001	総蛋白(TP) 3A010-0000-023-271	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❶ 11 ※4	Biuret法	6.7～8.3 (g/dL)	
	0003	アルブミン(Alb) 3A015-0000-023-271	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵(21日)	1～2	❶ 11 ※4	BCP改良法	3.8～5.2 (g/dL)	ヒトアルブミンと特異性の高いBCPと反応させる方法です。
	0004	尿中アルブミン 3A015-0000-004-061	蓄尿 0.5	U00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❷ 99 ※1	免疫比濁法	2～20 (mg/day)	酸
	0005	尿中アルブミン(クレアチニン換算値) 3A015-0000-001-061	部分尿 1	U00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❷ 99 ※1	免疫比濁法	尿中アルブミン換算値 10.0以下 (mg/g·CRE)	酸
	0008	A/G比 3A016-0000-023-919	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2		BCP改良法/Biuret法	1.1～2.1	
	0983	蛋白分画 3A020-0000-023-237	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	3～5	❶ 18 ※4	キャピラリー電気泳動法	ALB 55.8～66.1 (%) α1-グロブリン 2.9～4.9 (%) α2-グロブリン 7.1～11.8 (%) β1-グロブリン 4.7～7.2 (%) β2-グロブリン 3.2～6.5 (%) γ-グロブリン 11.1～18.8 (%) A/G 1.3～1.9	溶 溶血でのご依頼は避けてください。 ※1
	0011	クンケル反応(ZTT) 3A030-0000-023-292	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵(3日)	1～2		日消化器病学会肝機能研究班標準法変法	4.0～12.0 (U)	
酵素	0012	CK(CPK) 3B010-0000-023-272	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵(10日)	1～2	11 ※4	JSCC標準化対応法	M 62～287 F 45～163 (U/L)	

❶「蛋白分画」、「総蛋白」及び「アルブミン(BCP改良法)」を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。
❷「トランスフェリン(尿)」、「アルブミン定量(尿)」及び「Ⅳ型コラーゲン(尿)」は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。

容器の取り扱いについては下記の例をご参照ください。また、取り扱い方法に条件がある項目もありますので、備考欄または容器の取り扱い方法もご参照ください。

(例1)検体が血清の場合

検体量(mL)	容器
血清 0.5	S09 ↓ A00

汎用容器(S09)に血液を採取し、遠心分離後、血清0.5mLを別容器(A00)に移し替えてご提出ください。
血清または血漿の場合、必要量の約3倍量を目安に血液を採取してください。

(例2)添加剤入り容器に採取し、遠心分離後、上清をご提出いただく場合

検体量(mL)	容器
血漿 0.5	PN2、PN5 ↓ A00

当社専用容器(PN2、PN5)に血液を採取し、遠心分離後、血漿0.5mLを別容器(A00)に移し替えてご提出ください。
血清または血漿の場合、必要量の約3倍量を目安に血液を採取してください。

(例3)検体が添加剤入りの血液の場合

検体量(mL)	容器
血液 5.0 (EDTA-2Na加)	PN7

当社専用容器(PN7)に血液5.0mLを採取し、よく混和させ、そのままご提出ください。
採取および提出とも同一容器(PN7)で、別容器への移し替えは不要です。

倫理指針対象項目のご依頼にあたり

当社では「遺伝学的検査受託に関する倫理指針」(一般社団法人日本衛生検査所協会)等に基づき、被験者やその家族および血縁者の人権が保障され、社会の理解の下、適正に遺伝学的検査を実施することを目的に「SRL遺伝子倫理ガイドライン」を策定しております。
遺伝学的検査の受託に際しては、「SRL遺伝子倫理ガイドライン」、日本衛生検査所協会・関連学会等の指針に準拠した受託を行っております。

SRL遺伝子倫理ガイドラインについては、当社ホームページをご参照ください。 ➡
https://www.srl-group.co.jp/assets/pdf/company/activities/stance/srl_rinri_guideline_20260206.pdf

【準拠指針等】

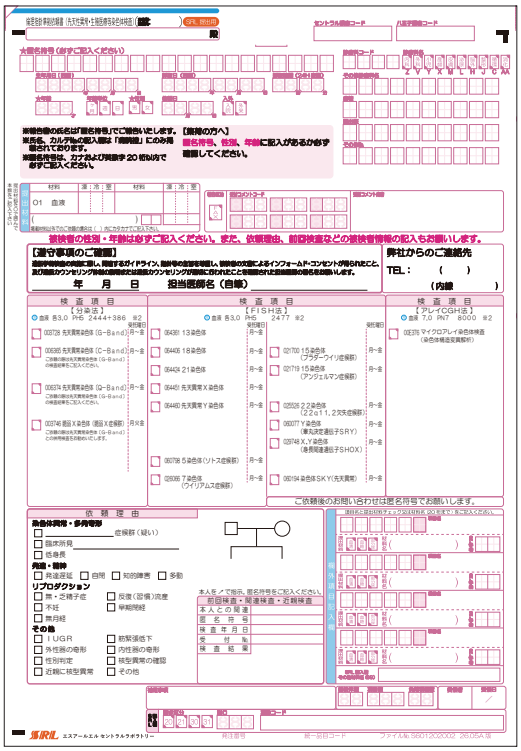
① 「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」(2022年3月改定)日本医学会
② 「遺伝学的検査受託に関する倫理指針」(令和4年9月1日改定)日本衛生検査所協会,遺伝子関連検査受託倫理審査委員会
③ 「遺伝学的検査の実施に関する指針」(平成28年4月1日)日本小児科学会,日本神経学会,日本人類遺伝学会,日本衛生検査所協会
④ 「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」(令和7年6月最終改正)個人情報保護委員会,厚生労働省

診断目的で検査をご依頼の場合

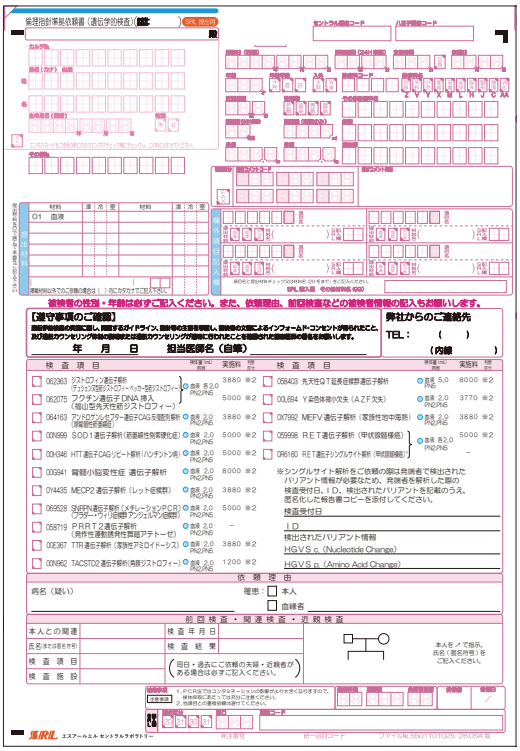
・検査実施にあたりましては、「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」(日本医学会)等のガイドラインを遵守くださいますようお願いいたします。
・対象の項目をご依頼いただく際は、遺伝学的検査受託専用の「倫理指針準拠依頼書」をご利用くださいますようお願いいたします。
・「倫理指針準拠依頼書」は「匿名化用依頼書」と「実名用依頼書」を用意しております。個人情報の保護と医療安全の確保(匿名化符号を患者名に戻す際の変換ミス等のリスクへの対応)の両面から検討し、選択してください。
・「匿名化用依頼書」では、被検者氏名の代わりに匿名化符号をご記入いただきますと、当社では匿名化符号をもちまして検査を実施いたします。(氏名およびカルテNo.欄はお客様控えの伝票のみに設けております。)

【倫理指針準拠依頼書】

※匿名化用依頼書の例



※実名用依頼書の例



遺伝学的検査をご依頼の際には、日本医学会の「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」(2022年3月改定)を参照いただき、医療機関において各種安全管理措置(組織的、人的、物理的、技術的安全管理措置)が講じられ、個人情報の保護を適切に行うようお願いいたします。
「倫理指針準拠依頼書」では、検査の目的や限界などが説明され、被検者の自由意思による同意(インフォームド・コンセント)を得ること、および、関連するガイドラインに従い検査前に遺伝カウンセリングが受けられる体制の説明または遺伝カウンセリングを行うようお願いいたします。

ファーマコゲノミクス(PGx)検査項目をご依頼の場合

当社では、薬物の効果や副作用の予測補助として臨床の現場で行われる遺伝学的検査につきましては、これを「ファーマコゲノミクス検査(PGx)」として、単一遺伝子疾患等の診断に利用される遺伝学的検査とは区別した受託を行っております。関連ガイドラインから抜粋致しました下記の留意点をご一読いただき、検査実施にあたりましては、ガイドラインの原本をご参照くださいますようお願いいたします。

「診療における薬理遺伝学検査の運用に関する提言」日本臨床薬理学会(2026年4月5日改定)

※(表1)「医療を必要とする遺伝性疾患の確定診断や発症リスク予測に関連しない項目の薬理遺伝学検査」を含む原本をご参照ください。

●個人情報の保護

医療を必要とする遺伝性疾患の確定診断や発症リスク予測に関連するしないに関わらず、薬理遺伝学検査のオーダー(院内オーダリングシステムを含む)および結果は診療情報であり、他の診療情報と同様に、医療者間で共有して診療に使用できるように診療録(カルテ)に記載し、要配慮個人情報として適切に管理する。

HLA DNAタイピング・キメリズム解析をご依頼の場合

1. 移植におけるHLA DNAタイピング・キメリズム解析について

移植における組織適合性検査である、HLA DNAタイピング、キメリズム解析は、遺伝学的検査(生殖細胞系列遺伝子検査)にあたりますが、疾患の診断を目的としないので、遺伝学的検査受託に関する倫理指針(日本衛生検査所協会)の適用外になります。

2.移植以外の目的に用いるHLA DNAタイピングについて

①薬理遺伝学的検査に該当するHLA DNAタイピングを実施する場合には、ファーマコゲノミクスに関する指針・ガイドラインおよび上記「ファーマコゲノミクス(PGx)検査項目をご依頼の場合」を参照くださいますようお願いいたします。

②生活習慣病等の疾患感受性(易罹患性)診断にHLA DNAタイピングを用いる場合には、医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン(日本医学会)を参照くださいますようお願いいたします。

ヒトゲノム・遺伝子解析の研究としてご依頼の場合

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和5年3月27日一部改正 文部科学省・厚生労働省・経済産業省)に則った研究につきましては、別途契約締結のうえ検査をご依頼くださいますようお願いいたします。ご契約につきましては、最寄りの営業所・営業拠点にお問い合わせください。

遺伝学的検査受託における約款

株式会社エスアールエル(以下「当社」という)は、下記の条項により、遺伝学的検査を実施します。

第１条(指針の遵守)

1　当社は、一般社団法人日本衛生検査所協会により策定された「遺伝学的検査受託に関する倫理指針」(平成13年4月10日策定/令和4年9月1日改定)を遵守します。

2　委託者は、厚生労働省により策定された「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」(個人情報保護委員会厚生労働省 平成29年4月14日/令和7年6月最終改正)および日本医学会による「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」(2011年2月/2022年3月改定)を遵守するものとします。

第２条(定義)

本検査における遺伝学的検査は、前条の「遺伝学的検査受託に関する倫理指針」で定義される検査(以下「本検査」という)を指します。

第３条(本検査の委託者)

当社は、本検査の有する倫理的・法的・社会的特性に鑑み、第1条に定める指針を尊重する医療機関より本検査を受託します。

第４条(本検査の実施)

本検査は、当社で定める検査実施基準に基づき行い、その結果は所定の様式により報告します。

第５条(依頼の要領)

1　委託者は、検査の依頼項目、検査材料、採取方法、数量等必要事項を、別に定める依頼様式またはそれに相当する様式に明記し、これを検体に添付して当社に提出するものとします。依頼時の氏名の匿名化については、個人情報保護と医療安全の確保の両面から、委託者が決定するものとします。

2　委託者は、検体を指定の保存方法で保存し、良好な状態で所定の検体容器を用いて当社へ提出するものとします。

第６条(受託者の義務)

当社は、本検査の医療に対する重要性を認識し、その精度の向上に努め、前記検査実施基準に従い誠実に検査を行い、委託者に対し速やかに結果を報告します。

第７条(指針の尊重)

委託者は、関連学会で示されたガイドラインに従い、遺伝カウンセリングが受けられる体制の説明または遺伝カウンセリングを実施するものとします。加えて、検査の目的、方法、精度、限界、結果の開示方法等について充分に説明がなされ、被検者の自由意思による同意(インフォームド・コンセント)を得るものとします。
また委託者は第1条に定める指針を尊重するものとします。

第８条(再検査)

検査結果に疑義があるときは、当社は委託者の指示に従い直ちに調査を行い、検体の保管期間内であるときは、必要に応じて再検査を実施します。

第９条(受託した検査の再委託)

当社は、本検査の一部を他の検査機関に再委託できるものとします。再委託する依頼項目および検査機関は、当社所定の検査案内(総合検査案内等)に明示します。

第10条(検査の取消)

ご依頼いただきました検査につきまして、検査開始後には原則、委託者からの取消しご依頼を承ることができません。

第11条(免責事項)

前記検査実施基準に基づく本検査の実施において、検体の状態、または検査の技術的限界、その他当社の責に帰すべからざる事由により検査結果に過誤が生じたときは、当社は免責されるものとします。但し、技術上可能な場合には、当社は再検査を行います。

第12条(検体の保管・処分)
当社は、委託者から受けた検体を、本約款に定める検査の目的にのみ使用します。
当社は、委託者から提出された検体にて本検査を終えた後、別に定める期間、検体を保管します。
当社は、前項の保管期間を経過した検体を、慎重かつ適正に処分します。
但し、保管期間を経過した検体の一部は、個人情報が特定されない状態にした後、検査精度の維持及び向上などの目的で精度管理試料として用いることがあります。
次世代シークエンサーで測定する検査項目の場合は、塩基配列による個人識別符号が含まれたまま、精度管理試料として使用することがあります。

第13条(秘密保持)
当社は、被検者の個人情報の保護に遺憾のないように配慮するものとし、業務上知り得た内容に関して一切の守秘義務を負うものとします。

第14条(協議)
本約款の運用に疑義が生じたとき、およびこの約款に定めのない事項については、委託者と当社は誠実に協議して解決するものとします。

2026年6月
株式会社エスアールエル

包括項目

■悪性腫瘍組織検査　処理が容易なもの(◎)

肺癌におけるEGFR遺伝子検査	固形癌におけるマイクロサテライト不安定性検査	消化管間葉系腫瘍におけるc-kit遺伝子検査
肺癌におけるROS1融合遺伝子検査	濾胞性リンパ腫におけるEZH2遺伝子検査	悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節生検に係る遺伝子検査
肺癌におけるALK融合遺伝子検査	尿路上皮癌におけるFGFR3遺伝子検査	大腸癌におけるEGFR遺伝子検査
肺癌におけるBRAF遺伝子検査(次世代シーケンシングを除く。)	固形癌(肺癌を除く。)におけるALK融合遺伝子検査	大腸癌におけるKRAS遺伝子検査
肺癌におけるMETex14遺伝子検査(次世代シーケンシングを除く。)	肺癌におけるKRAS遺伝子検査	リンチ症候群におけるマイクロサテライト不安定性検査
肺癌におけるKRAS遺伝子変異(G12C)検査	膵癌におけるKRAS遺伝子検査	(使用目的又は効果として、医薬品の適応を判定するための補助等に用いるものとして薬事承認又は認証を得ている体外診断用医薬品を使用した場合を除く。)
大腸癌におけるRAS遺伝子検査	悪性骨軟部組織腫瘍におけるEWS-Fli1遺伝子検査	
大腸癌におけるBRAF遺伝子検査	悪性骨軟部組織腫瘍におけるTLS-CHOP遺伝子検査	
乳癌におけるHER2遺伝子検査	悪性骨軟部組織腫瘍におけるSYT-SSX遺伝子検査	

◎2項目　4000点　　3項目　6000点　　4項目以上　8000点

個別の遺伝子検査ごとではなく、臨床的な位置づけや検査技術に応じて類型化した評価体系となっています。
同一がん種に対して同時に複数の遺伝子検査を実施する場合には、検査の項目数に応じた評価となります。
患者から1回に採取した組織等を用いて同一がん種に対して、処理が容易なものと処理が複雑なものを実施した場合は、それぞれの検査の項目数に応じた点数を合算した点数により算定できます。

■悪性腫瘍組織検査　処理が複雑なもの(●)

肺癌におけるBRAF遺伝子検査(次世代シーケンシング)	固形癌におけるRET融合遺伝子検査	悪性リンパ腫におけるBRAF遺伝子検査(PCR-rSSO法)
肺癌におけるMETex14遺伝子検査(次世代シーケンシング)	胆道癌におけるFGFR2融合遺伝子検査	乳癌におけるAKT1遺伝子変異検査
肺癌におけるRET融合遺伝子検査	胆道癌におけるIDH1融合遺伝子検査	乳癌におけるPIK3CA遺伝子変異検査
肺癌におけるHER2遺伝子検査(次世代シーケンシング)	甲状腺癌におけるRET融合遺伝子検査	乳癌におけるPTEN遺伝子変異検査
悪性黒色腫におけるBRAF遺伝子検査(リアルタイムPCR法、PCR-rSSO法)	甲状腺癌におけるBRAF遺伝子検査	卵巣明細胞癌におけるPIK3CA遺伝子検査(リアルタイムPCR法)
固形癌におけるNTRK融合遺伝子検査	甲状腺髄様癌におけるRET遺伝子変異検査	
固形癌における腫瘍遺伝子変異量検査	固形腫瘍(肺癌及び大腸癌を除く。)におけるBRAF遺伝子検査(PCR-rSSO法)	

●2項目　8000点　　3項目以上　12000点

個別の遺伝子検査ごとではなく、臨床的な位置づけや検査技術に応じて類型化した評価体系となっています。
同一がん種に対して同時に複数の遺伝子検査を実施する場合には、検査の項目数に応じた評価となります。
患者から1回に採取した組織等を用いて同一がん種に対して、処理が容易なものと処理が複雑なものを実施した場合は、それぞれの検査の項目数に応じた点数を合算した点数により算定できます。

■出血・凝固検査(□)

Dダイマー定性	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体(PIC)	プロテインC抗原
von Willebrand因子(VWF)活性	プロテインS抗原	凝固因子(第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第XIII因子)
Dダイマー	プロテインS活性	プロテインC活性
プラスミンインヒビター(アンチプラスミン)	トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)	tPA・PAI-1複合体
Dダイマー半定量	β-トロンボグロブリン(β-TG)	
α_2-マクログロブリン	血小板第4因子(PF_4)	
PIVKA-Ⅱ	プロトロンビンフラグメントF1+2	
凝固因子インヒビター	トロンボモジュリン	
von Willebrand因子(VWF)抗原	フィブリンモノマー複合体	

□3項目又は4項目　530点　　5項目以上　722点

■血液化学検査(☆)

総ビリルビン	マグネシウム	リン脂質
直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン	クレアチン	HDL-コレステロール
総蛋白	グルコース	無機リン及びリン酸
アルブミン(BCP改良法)	乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)	総コレステロール
尿素窒素	アミラーゼ	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)
クレアチニン	ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)	アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)
尿酸	クレアチンキナーゼ(CK)	LDL-コレステロール
アルカリホスファターゼ(ALP)	アルドラーゼ	蛋白分画
コリンエステラーゼ(ChE)	遊離コレステロール	銅(Cu)
γ-グルタミルトランスフェラーゼ(γ-GT)	鉄(Fe)	リパーゼ
中性脂肪	血中ケトン体・糖・クロール検査(試験紙法・アンプル法・固定化酵素電極によるもの)	イオン化カルシウム
ナトリウム及びクロール	不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)	マンガン(Mn)
カリウム	総鉄結合能(TIBC)(比色法)	
カルシウム		

☆5項目以上7項目以下　93点　　8項目又は9項目　99点　　10項目以上　103点

■内分泌学的検査(△)

卵胞刺激ホルモン(FSH)
C-ペプチド(CPR)
黄体形成ホルモン(LH)
テストステロン
遊離サイロキシン(FT_4)
遊離トリヨードサイロニン(FT_3)
コルチゾール
アルドステロン
カルシトニン
サイログロブリン
ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)
サイロキシン結合グロブリン(TBG)
脳性Na利尿ペプチド(BNP)
ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量
ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量
抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)
脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)
サイロキシン結合能(TBC)
プロゲステロン
グルカゴン
低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)
オステオカルシン(OC)
酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)
遊離テストステロン
骨型アルカリホスファターゼ(BAP)
Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(ＰＩNP)
副甲状腺ホルモン(PTH)
カテコールアミン分画
サイクリックAMP(cAMP)
インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact ＰINP)
デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体(DHEA-S)
低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量
エストラジオール(E_2)
Ⅰ型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX)(尿)
Ⅰ型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX)
エストリオール(E_3)
エストロゲン半定量
エストロゲン定量
副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント(C-PTHrP)
副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)
カテコールアミン
副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)
デオキシピリジノリン(DPD)(尿)
17-ケトジェニックステロイド(17-KGS)
エリスロポエチン
ソマトメジンC
17-ケトステロイド分画(17-KS分画)
17α-ヒドロキシプロゲステロン(17α-OHP)
抗IA-2抗体
プレグナンジオール
メタネフリン
17-ケトジェニックステロイド分画(17-KGS分画)
メタネフリン・ノルメタネフリン分画
心房性Na利尿ペプチド(ANP)
抗利尿ホルモン(ADH)
プレグナントリオール
ノルメタネフリン
インスリン様成長因子結合蛋白3型(IGFBP-3)
ガストリン

△3項目以上5項目以下　410点　　6項目又は7項目　623点　　8項目以上　900点

■腫瘍マーカー (○)

α-フェトプロテイン(AFP)
癌胎児性抗原(CEA)
扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)
組織ポリペプタイド抗原(TPA)
NCC-ST-439
CA15-3
DUPAN-2
エラスターゼ 1
前立腺特異抗原(PSA)
CA19-9
PIVKA-Ⅱ半定量
PIVKA-Ⅱ定量
CA125
核マトリックスプロテイン 22(NMP22)定量(尿)
核マトリックスプロテイン 22(NMP22)定性(尿)
シアリルLe^x-i抗原(SLX)
神経特異エノラーゼ(NSE)
SPan-1
CA72-4
シアリルTn抗原(STN)
塩基性フェトプロテイン(BFP)
遊離型PSA比(PSA F/T比)
シアリルLe^{x}抗原(CSLEX)
サイトケラチン19フラグメント(シフラ)
BCA225
サイトケラチン 8･18(尿)
抗p53抗体
Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド(ＩCTP)
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)
CA54/61
α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)
γ-セミノプロテイン(γ-Sm)
CA602
組織因子経路インヒビター 2(TFPI2)
ヒト精巣上体蛋白 4(HE4)
可溶性メソテリン関連ペプチド
S2,3PSA%
プロステートヘルスインデックス(phi)
癌胎児性抗原(CEA)定性(乳頭分泌液)
癌胎児性抗原(CEA)半定量(乳頭分泌液)
HER2蛋白
アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム
可溶性インターロイキン-2レセプター (sIL-2R)

○2項目　230点　　3項目　290点　　4項目以上　385点

■肝炎ウイルス関連検査(◇)

HBs抗原
HBs抗体
HBe抗原
HBe抗体
HCV抗体定性･定量
HCVコア蛋白
HCV抗体･HCVコア蛋白同時検出定性
HBc抗体半定量･定量
HCVコア抗体
HA-IgM抗体
HA抗体
HBc-IgM抗体
HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性
HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量
HE-IgA抗体定性
HCV血清群別判定
HBVコア関連抗原(HBcrAg)
デルタ肝炎ウイルス抗体
HCV特異抗体価
HBVジェノタイプ判定

◇3項目　290点　　4項目　360点　　5項目以上　425点

■自己抗体検査(★)

抗サイログロブリン抗体
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体
抗Jo-1抗体定性
抗Jo-1抗体半定量
抗Jo-1抗体定量
抗RNP抗体定性
抗RNP抗体半定量
抗RNP抗体定量
抗Sm抗体定性
抗Sm抗体半定量
抗Sm抗体定量
C_1q結合免疫複合体
抗SS-B/La抗体定性
抗SS-B/La抗体半定量
抗SS-B/La抗体定量
抗Scl-70抗体定性
抗Scl-70抗体半定量
抗Scl-70抗体定量
抗SS-A/Ro抗体定性
抗SS-A/Ro抗体半定量
抗SS-A/Ro抗体定量
抗RNAポリメラーゼⅢ抗体
抗ARS抗体
抗TIF1-γ抗体
抗Mi-2抗体
抗MDA5抗体

★2項目　320点　　3項目以上　490点

包括項目は2026年6月時点の情報です。

生化学的検査

蛋白・膠質反応／酵素および関連物質

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
蛋白・膠質反応	0001	総蛋白（TP） 3A010-0000-023-271	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵 （1ヵ月）	1～2	❶ 11 ※4	Biuret法	6.7～8.3 （g/dL）	
	0003	アルブミン（Alb） 3A015-0000-023-271	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵 （21日）	1～2	❶ 11 ※4	BCP改良法	3.8～5.2 （g/dL）	ヒトアルブミンと特異性の高いBCPと反応させる方法です。
	0004	尿中アルブミン 3A015-0000-004-061	蓄尿 0.5	U00	冷蔵 （1ヵ月）	1～2	❷ 99 ※1	免疫比濁法	2～20 （mg/day）	酸
	0005	尿中アルブミン（クレアチニン換算値） 3A015-0000-001-061	部分尿 1	U00	冷蔵 （1ヵ月）	1～2	❷ 99 ※1	免疫比濁法	尿中アルブミン換算値 10.0以下 （mg/g･CRE）	酸
	0008	A/G比 3A016-0000-023-919	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵 （1ヵ月）	1～2		BCP改良法 /Biuret法	1.1～2.1	
	0983	蛋白分画 3A020-0000-023-237	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	3～5	❶ 18 ※4	キャピラリー電気泳動法	ALB 55.8～66.1（%） α1-グロブリン 2.9～4.9　（%） α2-グロブリン 7.1～11.8　（%） β1-グロブリン 4.7～7.2　（%） β2-グロブリン 3.2～6.5　（%） γ-グロブリン 11.1～18.8（%） A/G 1.3～1.9	溶 溶血でのご依頼は避けてください。 ※1
	0011	クンケル反応（ZTT） 3A030-0000-023-292	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵 （3日）	1～2		日本消化器病学会肝機能研究班標準法変法	4.0～12.0 （U）	
酵素および関連物質	0012	CK（CPK） 3B010-0000-023-272	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵 （10日）	1～2	11 ※4	JSCC標準化対応法	M 62～287 F 45～163 （U/L）	
	0014	CK-MB（CPK-MB） 3B015-0000-023-272 3B015-0000-023-052	血清 各 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 （6日）	3～5		免疫阻止-UV法	MB 25以下 TOTAL M 62～287 F 45～163 （U/L）	本項目は、TOTALのCK（CPK）の測定結果も併せてご報告いたします。 ※1
	0C47				冷蔵 （14日）		90 ※4	CLEIA	男性 5.7以下 女性 3.1以下 （ng/mL）	※1

❶「蛋白分画」、「総蛋白」及び「アルブミン（BCP改良法）」を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。
❷「トランスフェリン（尿）」、「アルブミン定量（尿）」及び「Ⅳ型コラーゲン（尿）」は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの（糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。）に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
酵素および関連物質	0018	緊急 AST(GOT) 3B035-0000-023-272	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(14日)	1～2	17 ※4	JSCC標準化対応法	10～40 (U/L)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。
	0020	緊急 ALT(GPT) 3B045-0000-023-272	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(14日)	1～2	17 ※4	JSCC標準化対応法	5～40 (U/L)	
	1271	緊急 LD(LDH)IFCC 3B050-0000-023-279	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(3日)	1～2	11 ※4	IFCC標準化対応法	124～222 (U/L)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。
	0022	LD(LDH)アイソザイム 3B055-0000-023-233	血清 0.5	S09⬇A00	室温	3～5	48 ※4	アガロースゲル電気泳動法	LDH1 21～31 LDH2 28～35 LDH3 21～26 LDH4 7～14 LDH5 5～13 (%)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。(溶血の場合LDH1、2、3の上昇が考えられます。) LDH5が多く含まれる検体では、IFCC法に基づく分画値と乖離する場合があります。 ※1
	1270	アルカリフォスファターゼ(ALP)IFCC 3B070-0000-023-275	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	11 ※4	IFCC標準化対応法	38～113 (U/L)	
	0474	骨型アルカリフォスファターゼ(BAP) 3B072-0000-023-052	血清 0.8	S09⬇A00	冷蔵	3～5	❶ 157 ※5	CLEIA	男性 3.7～20.9 閉経前女性 2.9～14.5 閉経後女性 3.8～22.6 (μg/L)	※1
	0982	胎盤型アルカリフォスファターゼ(PLAP) 3B076-0000-041-052	髄液 0.5	A00	冷蔵(28日)	3～9		CLEIA	(pg/mL)	※1
	0027	ALPアイソザイム(IFCC) 3B080-0000-023-238	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵(21日)	3～5	48 ※4	アガロースゲル電気泳動法	ALP1 0.0～5.3 ALP2 36.6～69.2 ALP3 25.2～54.2 ALP5 0.0～18.1 (%)	血液型BまたはO型でLewis分泌型の人では、ALP総活性値およびALP5の出現率が高くなることがあります。 ※1
	0029	γ-GT(γ-GTP) 3B090-0000-023-271	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	11 ※4	JSCC標準化対応法	M 70 以下 F 30 以下 (U/L)	基準値には飲酒群が含まれております。
	0031	アルドラーゼ 3B100-0000-023-272	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	3～5	11 ※4	UV-酵素法	2.1～6.1 (U/L)	溶 ※1
	0034	コリンエステラーゼ(ChE) 3B110-0000-023-272	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	11 ※4	JSCC標準化対応法	M 242～495 F 200～459 (U/L)	
	0036	グアナーゼ 3B125-0000-023-271	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	3～5	35 ※4	酵素法	1.0以下 (U/L)	※1
	0037	アデノシンデアミナーゼ(ADA) 3B130-0000-023-272	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵	3～5	32 ※4	酵素法	5.0～20.0 (U/L)	※1
	0038	ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP) 3B135-0000-023-271	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	11 ※4	L-ロイシル-p-ニトロアニリド基質法	35～73 (U/L)	

❶「骨型アルカリホスファターゼ(BAP)」、「Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(PⅠNP)」、「インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact PⅠNP)」及び「ALPアイソザイム(PAG電気泳動法)」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

生化学的検査

酵素および関連物質

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
酵素および関連物質	0040	緊急 アミラーゼ(AMY) 3B160-0000-023-271 3B160-0000-001-271	血清 0.6	S09→A00	冷蔵(28日)	1～2	❶11 ※4	JSCC標準化対応法	44～132 (U/L)	
			部分尿 10	A00	冷蔵(28日)		❶11 ※4		65～700 (U/L)	
	0041	アミラーゼアイソザイム 3B165-0000-023-233 3B165-0000-001-233	血清 0.5	S09→A00	冷蔵	3～5	❶48 ※4	アガロースゲル電気泳動法	TOTAL-S 36.0～84.3 TOTAL-P 15.7～64.0 (%)	
			部分尿 0.5	U00	冷蔵		❶48 ※4		TOTAL-S 17.7～61.3 TOTAL-P 38.7～82.3 (%)	※1
	7264	P型アミラーゼ定量 3B175-0000-023-271	血清 0.5	S09→A00	冷蔵(14日)	3～5	❶48 ※4	JSCC標準化対応法	16～52 (U/L)	※1
	0043	リパーゼ 3B180-0000-023-271	血清 0.5	S09→A00	冷蔵(21日)	1～2	❶24 ※4	合成基質比色法	13～55 (U/L)	
	5832	トリプシン 3B185-0000-023-062	血清 0.5	S09→A00	冷蔵	3～5	❶189 ※4	ラテックス凝集比濁法	210～570 (ng/mL)	※1
	0046	膵ホスホリパーゼA_2(膵PLA_2) 3B192-0000-023-005 3B192-0000-022-005	冷却遠心 血清 0.3	S09→A00	凍結(21日)	3～6	204 ※4	RIA固相法	130～400 (ng/dL)	
			冷却遠心 血漿 0.3	PN2,PN5→A00	凍結		204 ※4			※1
	0047	エラスターゼ1 3B195-0000-023-062	血清 0.5	S09→A00	凍結	3～5	❶120 ※5 腫2	ラテックス免疫比濁法	300以下 (ng/dL)	※1
	0049	子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ 3B200-0000-058-062	分泌物	VP6	凍結(1ヵ月)	3～5	❷113 ※1	ラテックス凝集免疫法	1.60以下 (μg/mL)	検体採取方法は㊶ページをご参照ください。 ※1
	0909	骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ(TRACP-5b) 3B222-0000-023-023	血清 0.5	S09→A00	凍結	3～5	❸156 ※5 腫2	EIA	男性: 170～590 女性: 閉経前120～420 閉経後250～770 (mU/dL)	※1

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料(51ページ参照)

❶「トリプシノーゲン2(尿)」と、「アミラーゼ」、「リパーゼ」、「アミラーゼアイソザイム」、「トリプシン」又は「エラスターゼ1」を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。

❷「顆粒球エラスターゼ(子宮頸管粘液)」は、絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合に算定する。

❸「酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)」は、代謝性骨疾患及び骨転移(代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る)の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できる。また治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。

本検査と「Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)」、「オステオカルシン(OC)」又は「デオキシピリジノリン(DPD)(尿)」を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。

なお、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合は、特定疾患治療管理料の「悪性腫瘍特異物質治療管理料」の「ロ」を算定する。

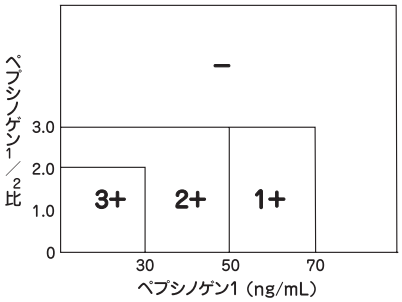
	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
酵素および関連物質	0058	リゾチーム 3B255-0000-023-292 3B255-0000-001-292	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	3〜5		比濁法	5.0〜10.2 (μg/mL)	※1
			部分尿 0.4	U00	冷蔵				0.1未満 (μg/mL)	
	0070	アンギオテンシンⅠ転換酵素(ACE) 3B325-0000-023-271	血清 0.7	S09 ⬇ A00	冷蔵	3〜5	136 ※4	笠原法	8.3〜21.4 (U/L)	EDTA血漿は測定不能となります。 ※1
	0071	N-アセチルグルコサミニダーゼ(NAG) 3B330-0000-001-272	部分尿 0.5	U00	冷蔵	3〜5	41 ※1	比色法	0.7〜11.2 (IU/L)	※1
	4106	ペプシノゲン 3B339-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3〜5		CLEIA	下記参照	※1
	0502	MMP-3(マトリックスメタロプロテイナーゼ-3) 3B503-0000-023-062	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	3〜5	❶❷ 116 ※6	LTIA	M 36.9〜121 F 17.3〜59.7 (ng/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ※1

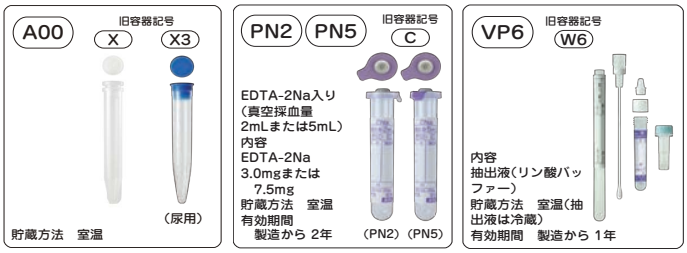
❶「リウマトイド因子(RF)定量」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定性」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定量」、「マトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)」、「C_1q結合免疫複合体」、「モノクローナルRF結合免疫複合体」及び「IgG型リウマトイド因子」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定する。

❷「抗シトルリン化ペプチド抗体定性」、「抗シトルリン化ペプチド抗体定量」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定性」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定量」、「マトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)」、「C_1q結合免疫複合体」、「モノクローナルRF結合免疫複合体」及び「IgG型リウマトイド因子」のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの1つに限り算定する。

[4106]ペプシノゲン(判定基準)

		ペプシノゲン1		ペプシノゲン1/2比
強陽性	3+	30 ng/mL以下	かつ	2.0以下
中程度陽性	2+	50 ng/mL以下	かつ	3.0以下
陽性	1+	70 ng/mL以下	かつ	3.0以下
陰性	−	上記条件以外		





生化学的検査

酵素および関連物質

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備　考
酵素および関連物質	4A15	胃がんリスク層別化検査(ABC分類)〔LA〕 3B347-0000-023-920	血清 各1.0	S09 ↓ A00	冷蔵（21日）	3～5		ラテックス凝集比濁法 CLEIA	下記参照	＜ピロリ菌の除菌治療前＞ ペプシノゲンとヘリコバクターピロリ抗体を実施し、それぞれの検査結果とABC分類をご報告いたします。 ※1
	4A18	胃がんリスク層別化検査(ABC分類)除菌あり〔LA〕 3B347-0000-023-920								＜ピロリ菌の除菌治療後＞ ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、ABC分類の判定対象にはなりません。除菌判定結果に関わらず、E群(除菌群)としてご報告いたします。 ※1

[4A15、4A18]胃がんリスク層別化検査(ABC分類)〔LA〕報告書見本

SRL Communication for Health

胃がんリスク層別化検査報告書

最終報告
0806－0902 ｻｰﾋﾞｽｺｰﾄﾞ 9995 01 999001453

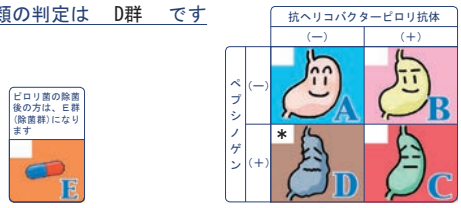
1/1

エスアールエル病院1 殿 医師名 先生
科名 病棟

受　付No. 590522263
ｴｽｱｰﾙｴﾙ 0043 殿 男性 30 歳 その他No. OR627
カルテNo.
採取日 材料02 血清

受付日 2025年 8月 6日
報告日 2025年 8月28日

ＡＢＣ分類の判定は　D群　です



検査項目	結果	単位	コメント	判定基準
ペプシノゲン 1（PG1）	70.0	ng/mL		3＋：PG1 30ng/mL以下 かつ 1/2比2.0以下 2＋：PG1 50ng/mL以下 かつ 1/2比3.0以下 1＋：PG1 70ng/mL以下 かつ 1/2比3.0以下 －：上記以外
ペプシノゲン 2（PG2）	30.0	ng/mL		
ペプシノゲン 1/2 比	2.3			
ペプシノゲン判定	(1+)			

・検査方法：CLEIA

検査項目	結果	単位	コメント	判定基準
抗ヘリコバクターピロリ抗体	5	U/mL		10未満（－）

・検査方法：ラテックス凝集比濁法（H. ピロリーラテックス「生研」）

ＡＢＣ分類に適さない方
胃の病気の治療中の方、胃切除後の方、胃酸を抑える薬を服用中の方、腎不全の方、ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、医療機関にご確認・ご相談ください。

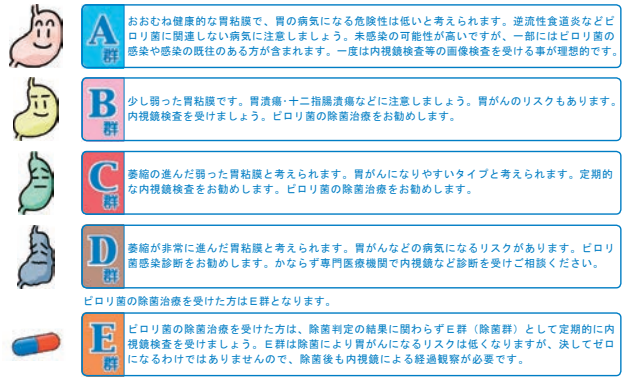
コメント

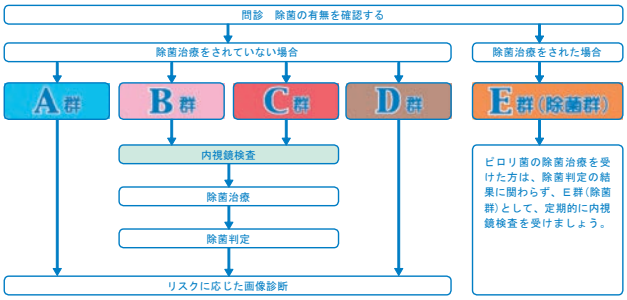
最終ページです

検査責任者　鈴木　純

SRL 株式会社 エスアールエル
ｴｽｱｰﾙｴﾙｾﾝﾄﾗﾙﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ
東京都あきる野市測上50

胃がんリスク層別化検査は、「ヘリコバクターピロリ菌感染の有無を調べる検査」と「胃粘膜萎縮（老化）の有無を調べる検査」を組み合わせて、胃の健康度を分類するものです。
「がんを見つける検査」ではありません。





ペプシノゲン法（検査項目名称：ペプシノゲン）
「ペプシノゲン」という物質の血中濃度を測定することで、胃粘膜の萎縮（老化）を客観的に調べる検査です。

ヘリコバクターピロリ抗体（検査項目名称：抗ヘリコバクターピロリ抗体）
胃がヘリコバクターピロリ菌に感染していないかを調べる検査です。

監修　一般財団法人淳風会　淳風会健康管理センター　井上和彦

[4A15]胃がんリスク層別化検査(ABC分類)〔LA〕の注意事項

以下の場合には、正しい結果が得られない可能性があります。
1. 明らかな上部消化器症状のある方
2. 上部消化管疾患治療中の方
3. プロトンポンプ阻害剤服用中の方
4. 胃切除をされた方
5. 腎不全の方
6. ピロリ菌の除菌治療を受けた方

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
低分子窒素化合物	0082	クレアチン 3C010-0000-023-271 3C010-0000-004-271	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵(28日)	3～5	11 ※4	酵素法	0.17～1.00 (mg/dL)	※1
			蓄尿 5	A00	冷蔵		11 ※4		M 0.20以下 F 0.43以下 (g/day)	
	0083	クレアチニン 3C015-0000-023-271 3C015-0000-004-271	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❶11 ※4	酵素法	M 0.61～1.04 F 0.47～0.79 (mg/dL)	「0933：推算GFRcreat」を同時に依頼いただきますと推算GFRcreat値をご報告いたします。(下記参照)
			蓄尿 10	A00	冷蔵		❶11 ※4		M 0.70～2.20 F 0.40～1.50 (g/day)	
	0795	シスタチン C 3C016-0000-023-064	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	3～5	❷109 ※4	金コロイド凝集法	M 0.63～0.95 F 0.56～0.87 (mg/L)	「0970：推算GFRcys」を同時に依頼いただきますと推算GFRcys値をご報告いたします。(下記参照) ※1
	0084	尿酸(UA) 3C020-0000-023-271 3C020-0000-004-271	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(28日)	1～2	11 ※4	酵素法(ウリカーゼPOD法)	M 3.7～7.0 F 2.5～7.0 (mg/dL)	蓄 蓄尿：凍結保存は避けてください。高尿酸血症：7.0 mg/dL超〔高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン 第3版 2022年追補版(日本痛風・尿酸核酸学会)〕 蓄尿は依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。
			蓄尿 5	A00	冷蔵		11 ※4		0.4～1.2 (g/day)	
	0085	緊急 尿素窒素(UN) 3C025-0000-023-272 3C025-0000-004-272	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(21日)	1～2	11 ※4	ウレアーゼ・LED・UV法(回避)	8.0～22.0 (mg/dL)	
			蓄尿 5	A00	冷蔵		11 ※4		6.5～13.0 (g/day)	
	0088	緊急 アンモニア 3C040-0000-031-271	速やかに遠心 除蛋白上清 3	M40⬇A00	凍結	1～2	50 ※4	藤井・奥田法変法	30～80 (μg/dL)	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器(M40)に加え、充分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液を必ず凍結してご提出ください。

❶「イヌリン」は、「尿素窒素」又は「クレアチニン」により腎機能低下が疑われた場合に、6月に1回に限り算定できる。ただし、「クレアチニン(腎クリアランス測定の目的で行い、血清及び尿を同時に測定する場合に限る。)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷シスタチンC
ア「シスタチンC」は、EIA法、ラテックス凝集比濁法、金コロイド凝集法又はネフェロメトリー法により実施した場合に限り算定できる。
イ「シスタチンC」は、「尿素窒素」又は「クレアチニン」により腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる。ただし、「ペントシジン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

推算GFRcreatについて

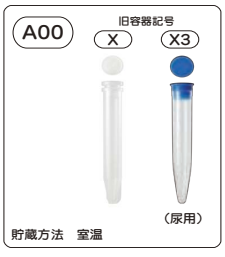
日本人のGFRcreat推算式
男性：推算GFRcreat値(mL/min/1.73m^2)＝194×Cr$^{-1.094}$×Age$^{-0.287}$
女性：推算GFRcreat値(mL/min/1.73m^2)＝194×Cr$^{-1.094}$×Age$^{-0.287}$×0.739

報告条件
①「0083：クレアチニン」と同時依頼された場合のみ、ご報告いたします。
②下記に該当する場合は、ご報告できません。
・「クレアチニン」あるいは「推算GFRcreat」のいずれか1項目のみご依頼された場合。
・年齢及び性別が依頼書に記載されていない場合。
・年齢が18歳未満の場合。
③正式な単位は、「mL/min/1.73m^2」ですが、報告単位は「mL/min」と略して報告させていただきます。

推算GFRcysについて

日本人のGFRcys推算式
男性：推算GFRcys値(mL/min/1.73m^2)＝(104×Cys－C$^{-1.019}$×0.996^{Age})－8
女性：推算GFRcys値(mL/min/1.73m^2)＝(104×Cys－C$^{-1.019}$×0.996^{Age}×0.929)－8
血清シスタチン Cは国際的な標準物質に基づく測定結果を用いて推算します。
18歳以上に適用されます。(18歳未満には適用しません。)

報告条件
①「0795：シスタチン C」と同時に依頼された場合のみ、ご報告いたします。
②下記に該当する場合は、ご報告できません。
・「シスタチン C」あるいは「推算GFRcys」のいずれか1項目のみご依頼された場合。
・年齢及び性別が依頼書に記載されていない場合。
・年齢が18歳未満の場合。
③正式な単位は、「mL/min/1.73m^2」ですが、報告単位は「mL/min」と略して報告させていただきます。





生化学的検査

低分子窒素化合物

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
低分子窒素化合物	0951	アミノ酸分析(39種類)〔LC/MS〕 3C045-0000-022-205	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	PN2,PN5 ⇩ A00	凍結(21日)	5～7	1074 ※5	LC/MS	下記参照	採血後、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。 ※1
	0089	アミノ酸分析(41種類) 3C045-0000-004-204	酸性蓄尿 2	U00	凍結(21日)	8～11	1074 ※5	HPLC	下記参照	6N塩酸約20mLを入れた蓄尿瓶へ24時間蓄尿し、よく混和後必要量を必ず凍結保存しご提出ください。尿量が少ない場合には尿100mLに対して6N塩酸1mLの割合で入れてください。必ず酸性蓄尿に(pH1.0～3.0)してください。 ※1
	0954	アミノ酸分析(9種類)〔LC/MS〕 3C046-0000-022-205	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	PN2,PN5 ⇩ A00	凍結(21日)	5～7	1074 ※5	LC/MS	下記参照	採血後、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。 ※1
	0955	アミノ酸分析2種類(チロシン・フェニルアラニン)〔LC/MS〕 3C046-0000-022-205	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	PN2,PN5 ⇩ A00	凍結(21日)	5～7	279 + 279 ※5	LC/MS	チロシン 40.4～90.3 (nmol/mL) フェニルアラニン 42.6～75.7 (nmol/mL) フィッシャー比 2.43～4.40	採血後、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。 ※1
	0383	総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比(BTR) 3C047-0000-023-271	血清 0.5	S09 ⇩ A00	凍結	3～5	283 ※5	酵素法	BCAA/TYR RATIO(BTR) 4.41～10.05 BCAA 344～713 (μmol/L) TYR 51～98 (μmol/L)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。 ※1

[0951、0089、0954]アミノ酸分析(39種類(血漿)、41種類(尿)、9種類(血漿))基準値

アミノ酸名	略号	基準値 血漿	基準値 尿
Taurine	Tau	39.5～93.2	322.2～5214.5
Phosphoethanolamine★	PEA		31.0～110.0
Urea ★	Urea		◎130.3～493.2
Aspartic acid	Asp	2.4以下	12.7以下
Hydroxyproline	Hypro	21.6以下	ND
Threonine	Thr	66.5～188.9	79.9～528.3
Serine	Ser	72.4～164.5	208.8～1020.0
Asparagine	Asn	44.7～96.8	60.7～372.3
Glutamic acid	Glu	12.6～62.5	11.3～42.7
Glutamine	Gln	422.1～703.8	207.0～1357.3
Sarcosine	Sarco	TR	99.0以下
α-Aminoadipic acid	α-AAA	ND	16.7～118.6
Proline	Pro	77.8～272.7	ND
Glycine	Gly	151.0～351.0	652.1～3670.6
Alanine	Ala	208.7～522.7	141.2～833.9
Citrulline	Cit	17.1～42.6	13.5～55.6
α-Aminobutyric acid	α-ABA	7.9～26.6	27.1以下
※Valine	Val	147.8～307.0	24.8～82.2
Cystine	Cys	13.7～28.3	23.7～170.9
Cystathionine	Cysthio	TR	TR～44.7
※Methionine	Met	18.9～40.5	TR～20.2
※Isoleucine	Ileu	43.0～112.8	7.5～23.5
※Leucine	Leu	76.6～171.3	24.6～89.3
※Tyrosine	Tyr	40.4～90.3	50.6～308.4
※Phenylalanine	Phe	42.6～75.7	27.2～110.2

※印はアミノ酸分析(9種類)の実施アミノ酸名
ND:測定感度以下　TR:痕跡
★印は「アミノ酸」ではありませんが、本項目に含めて測定いたします。

単位　血漿:nmol/mL、尿:μmol/day(ただし◎印(Urea)はmmol/day)

アミノ酸名	略号	基準値 血漿	基準値 尿
γ-Amino β-hydroxy butyric acid	γ-A β-HBA	ND	ND
β-Alanine	β-Ala	TR	TR～153.0
β-Amino-iso-butyric acid	β-AIBA	TR	TR～1623.9
γ-Aminobutyric acid	γ-ABA	ND	ND
Monoethanolamine ★	MEA	10.4以下	195.3～606.2
Homocystine	Homocys	ND	ND
※Histidine	His	59.0～92.0	436.4～2786.5
3-Methylhistidine	3-Me His	5.0以下	113.4～480.9
1-Methylhistidine	1-Me His	18.5以下	59.3～2816.2
Carnosine ★	Carno	ND	87.6以下
Anserine ★	Ans	ND	231.4以下
Tryptophan	Trp	37.0～74.9	20.7～150.7
Hydroxylysine	Hylys	ND	22.9以下
Ornithine	Orni	31.3～104.7	6.9～43.9
※Lysine	Lys	108.7～242.2	51.6～1639.6
※Arginine	Arg	53.6～133.6	11.6～54.8
Total AA(総アミノ酸：非必須アミノ酸の和＋必須アミノ酸の和)		2068.2～3510.3	
NEAA(非必須アミノ酸の和)		1381.6～2379.4	
EAA(必須アミノ酸の和)		660.0～1222.3	
BCAA(分岐鎖アミノ酸の和)		265.8～579.1	
EAA/NEAA(必須アミノ酸の和/非必須アミノ酸の和)		0.40～0.63	
BCAA/Total AA(分岐鎖アミノ酸の和／総アミノ酸)		0.11～0.18	
フィッシャー比		2.43～4.40	

EAA/NEAA、BCAA/Total AA、フィッシャー比においては単位なし

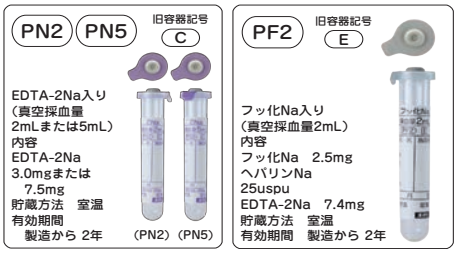
	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
低分子窒素化合物	0094	ハイドロキシプロリン-総 3C055-0000-004-204	蓄尿 1	U00	冷蔵（28日）	5～18	279 ※5	HPLC	83～330 （μmol/day）	※1
	1272	血中総ホモシステイン 3C070-0000-022-205	速やかに遠心 血漿 0.3	PN2,PN5 ⬇ A00	冷蔵（21日）	5～7	279 ※5	LC/MS/MS	M 7.0～17.8 F 5.3～15.2 （nmol/mL）	採血後、速やかに血漿分離してください。 ※1
糖質および関連物質	0104	緊急 グルコース 3D010-0000-022-272	血漿 0.6	PF2 ⬇ A00	冷蔵（21日）	1～2	11 ※4	ヘキソキナーゼUV法	70～109 （mg/dL）	下記参照
	0966	ヘモグロビンA1c（HbA1c）（NGSP） 3D046-0000-019-271	血液 2.0（フッ化Na加）	PF2	冷蔵（5日）	1～2	❶ 49 ※3	酵素法	4.6～6.2 （%）	凍 凍結保存は避けてください。データに影響を及ぼす場合がありますので、必ず専用容器（PF2）に採血しご提出ください。
	0112	グリコアルブミン 3D055-0000-023-271 3D055-0000-022-271	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵（28日）	1～2	❶ 55 ※4	酵素法	12.4～16.3 （%）	溶
			血漿 0.5	PF2 ⬇ A00			❶ 55 ※4			
	0376	ヒアルロン酸 3D080-0000-023-062 3D080-0000-042-062	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❷ 179 ※4	ラテックス凝集免疫比濁法	50以下 （ng/mL）	※1
	0115		胸水 0.4	A00					（ng/mL）	
	0116	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール（1,5AG） 3D085-0000-023-271	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵（1ヵ月）	3～5	❶ 80 ※4	酵素法	M 14.9～44.7 F 12.4～28.8 （μg/mL）	溶 ※1
	0118	シアル酸 3D105-0000-023-272	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵（1ヵ月）	3～6		酵素法	44～71 （mg/dL）	※1

❶「ヘモグロビンA1c(HbA1c)」、「グリコアルブミン」又は「1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5AG)」のうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できる。また、クロザピンを投与中の患者については、「ヘモグロビンA1c(HbA1c)」を月1回に限り別に算定できる。

❷「サイトケラチン18フラグメント(CK-18F)」と「プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)」、「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」、「ヒアルロン酸」、「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」又は「オートタキシン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

グルコース ヘモグロビンA1c(HbA1c)(NGSP)のご依頼について

グルコース、ヘモグロビンA1c(HbA1c)(NGSP)を同時にご依頼される場合は、専用容器(PF2)1本でご依頼可能です。遠心分離せず冷蔵保存にてご提出ください。



有機酸

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
有機酸	0119	乳酸 3E010-0000-031-271	速やかに遠心 除蛋白上清 0.4	M30 ↓ A00	冷蔵	3～5	47 ※4	乳酸オキシダーゼによる酵素法	3.0～17.0 (全血中) (mg/dL)	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器(M30)に加え、充分撹拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液をご提出ください。※1
	0120	ピルビン酸 3E015-0000-031-271	速やかに遠心 除蛋白上清 0.4	M30 ↓ A00	冷蔵	3～5	47 ※4	ピルビン酸オキシダーゼによる酵素法	0.30～0.94 (全血中) (mg/dL)	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器(M30)に加え、充分撹拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液をご提出ください。※1
	0475	尿中シュウ酸 3E025-0000-004-237	酸性蓄尿 3	U00	冷蔵 (21日)	4～10	200 ※1	キャピラリー電気泳動法	M 10.3～41.5 F 9.0～37.7 (mg/day)	凍 6N塩酸10mLを入れた蓄尿ビンへ24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。 なお、尿量があらかじめ少ないと予想される場合には、尿200mLに対して6N塩酸1mLの割合で添加してください。酸性蓄尿されていない場合は、シュウ酸カルシウムが析出する可能性がありますので、必ず酸性蓄尿(pH1.0～2.0)してください。 凍結保存は避けてください。 ※1
	0124	血中ケトン体分画 3E045-0000-023-271 3E045-0000-020-271	速やかに 冷却遠心 血清 0.5 (静脈血)	S09 ↓ A00	凍結 (7日)	3～5	❶ 59 ※4	酵素法	アセト酢酸 55以下 3-ヒドロキシ酪酸 85以下 総ケトン体 130以下 (μmol/L)	早朝空腹時採血(静脈)してください。採血後は速やかに冷却遠心にて分離し、凍結保存してください。 ※1
	0123		速やかに 冷却遠心 血清 0.5 (動脈血)				❶ 59 ※4		ケトン体比 アセト酢酸/3-ヒドロキシ酪酸比 0.7以上	ブドウ糖投与下または食後(血糖120mg/dL以上)に動脈採血してください。 採血後は速やかに冷却遠心にて分離し、凍結保存してください。※1
	0125	アセトン定量 3E060-0000-023-202	血清 0.7	S7P ↓ A00	凍結 (15日)	8～11		Gas-Chromatograph法	5 未満 (μg/mL)	分離剤入り容器は使用しないでください。 ※M
		尿中アセトン定量 3E060-0000-001-202	部分尿 1.2	U00	凍結				5 未満 (μg/mL)	※M

❶「ケトン体」及び「ケトン体分画」の検査を併せて実施した場合は、ケトン体分画の所定点数のみ算定する。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
脂質および関連物質	0130	中性脂肪(TG) 3F015-0000-023-271	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	11 ※4	酵素法 (GK-GPO・遊離グリセロール消去)	50～149 (mg/dL)	
	0133	リン脂質 3F025-0000-023-271	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(21日)	1～2	15 ※4	酵素法	160～260 (mg/dL)	
	0239	遊離脂肪酸(NEFA) 3F035-0000-023-271	血清 0.3	S09⬇A00	凍結(28日)	3～5	59 ※4	酵素法	140～850 (μEq/L)	※1
	0138	総コレステロール(T-Cho) 3F050-0000-023-271	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❶ 17 ※4	コレステロール酸化酵素(COD-POD)法	150～219 (mg/dL)	
	0140	エステル型コレステロール(Echo) 3F055-0000-023-271	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵(28日)	3～5		コレステロール酸化酵素(COD-POD)法、酵素法	90～200 (mg/dL)	※1
	0142	遊離コレステロール(F-Cho) 3F065-0000-023-271	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵(28日)	3～5	11 ※4	酵素法	30～60 (mg/dL)	※1
	0206	コレステロールエステル比 3F055-0000-023-919	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵(28日)	3～5		コレステロール酸化酵素(COD-POD)法、酵素法	73～77 (%)	※1
	0143	HDL-コレステロール 3F070-0000-023-271	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❶ 17 ※4	直接法	M 40～86 F 40～96 (mg/dL)	
	0144	$HDL_{2,3}$コレステロール 3F075-0000-023-221	血清 1.0	S09⬇A00	冷蔵(20日)	3～7		超遠心法	HDL2 コレステロール M 16.0～61.0 F 23.0～73.0 HDL3 コレステロール M 13.0～25.0 F 13.0～24.0 (mg/dL)	凍 凍結保存は避けてください。 ※1
	0377	LDL-コレステロール 3F077-0000-023-271	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❶ 18 ※4	直接法	70～139 (mg/dL)	LDL-コレステロール(Friedewaldの式) 項目コード：0374 総コレステロールとHDL-コレステロール、中性脂肪も同時にご依頼ください。
	0145	レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C) 3F078-0000-023-271	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	3～5	❷ 174 ※4	酵素法	7.5 以下 (mg/dL)	凍 凍結保存は避けてください。糖尿病、冠動脈疾患などの既往歴のある場合は、5.2mg/dL以上がハイリスク域といわれています。 ※1
	0A15	sd LDL-コレステロール 3F088-0000-023-271	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵(5日)	3～5		直接法	35.0未満 (mg/dL)	※1

❶「HDL-コレステロール」、「総コレステロール」及び「LDL-コレステロール」を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。
❷「レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)」は免疫吸着法-酵素法又は酵素法により実施し、3月に1回を限度として算定できる。

[0929]LDL-C/HDL-C比

・LDL-コレステロールとHDL-コレステロールと本項目の3項目を同時にご依頼いただいた場合、LDL-コレステロールとHDL-コレステロールの測定結果とともにLDL-C/HDL-C比を算出し、ご報告いたします。
・LDL-C/HDL-C比のみのご依頼はできません。



生化学的検査

脂質および関連物質

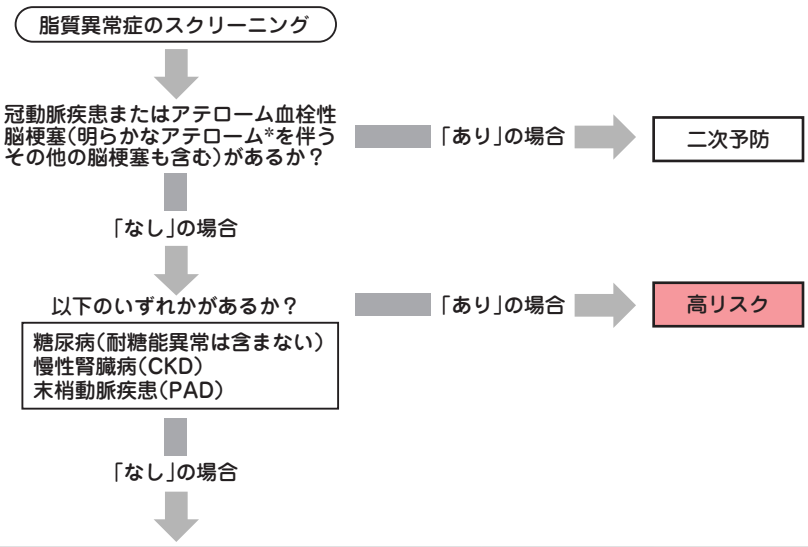
動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年版抜粋

脂質異常症診断基準

LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症
	120～139mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症**
HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症
トリグリセライド	150mg/dL以上(空腹時採血*)	高トリグリセライド血症
	175mg/dL以上(随時採血*)	
Non-HDLコレステロール	170mg/dL以上	高non-HDLコレステロール血症
	150～169mg/dL	境界域高non-HDLコレステロール血症**

* 基本的に10時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。空腹時であることが確認できない場合を「随時」とする。
** スクリーニングで境界域高LDL-C血症、境界域高non-HDL-C血症を示した場合は、高リスク病態がないか検討し、治療の必要性を考慮する。
・LDL-CはFriedewald式(TC－HDL-C－TG/5)で計算する （ただし空腹時採血の場合のみ)。または直接法で求める。
・TGが400mg/dL以上や随時採血の場合はnon-HDL-C(＝TC－HDL-C)かLDL-C直接法を使用する。ただしスクリーニングでnon-HDL-Cを用いる時は、高TG血症を伴わない場合はLDL-Cとの差が+30mg/dLより小さくなる可能性を念頭においてリスクを評価する。
・TGの基準値は空腹時採血と随時採血により異なる。
・HDL-Cは単独では薬物介入の対象とはならない。

動脈硬化症疾患予防から見た脂質管理目標値設定のためのフローチャート



久山町研究によるスコア				予測される10年間の動脈硬化性疾患発症リスク	分類
40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳		
0～12	0～7	0～1	—	2%未満	低リスク
13以上	8～18	2～12	0～7	2～10%未満	中リスク
—	19以上	13以上	8以上	10%以上	高リスク

久山町研究のスコア(図3-2)に基づいて計算する。
*頭蓋内外動脈に50%以上の狭窄、または弓部大動脈粥腫(最大肥厚4mm以上)
注：家族性高コレステロール血症および家族性Ⅲ型高脂血症と診断された場合はこのチャートは用いずに第4章「家族性高コレステロール血症」、第5章「原発性脂質異常症」の章をそれぞれ参照すること。

リスク区分別脂質管理目標値

治療方針の原則	管理区分	脂質管理目標値(mg/dL)			
		LDL-C	Non-HDL-C	TG	HDL-C
一次予防 まず生活習慣の改善を行った後薬物療法の適用を考慮する	低リスク	<160	<190	<150 (空腹時)*** <175 (随時)	≧40
	中リスク	<140	<170		
	高リスク	<120 <100*	<150 <130*		
二次予防 生活習慣の是正とともに薬物治療を考慮する	冠動脈疾患またはアテローム血栓性脳梗塞(明らかなアテローム****を伴うその他の脳梗塞を含む)の既往	<100 <70**	<130 <100**		

・* 糖尿病において、PAD、細小血管症(網膜症、腎症、神経障害)合併時、または喫煙ありの場合に考慮する。(第3章5.2参照)
・**「急性冠症候群」、「家族性高コレステロール血症」、「糖尿病」、「冠動脈疾患とアテローム血栓性脳梗塞(明らかなアテロームを伴うその他の脳梗塞を含む)」の4病態のいずれかを合併する場合に考慮する。
・一次予防における管理目標達成の手段は非薬物療法が基本であるが、いずれの管理区分においてもLDL-Cが180mg/dL以上の場合は薬物治療を考慮する。家族性高コレステロール血症の可能性も念頭に置いておく。(第4章参照)
・まずLDL-Cの管理目標値を達成し、次にnon-HDL-Cの達成を目指す。LDL-Cの管理目標を達成してもnon-HDL-Cが高い場合は高TG血症を伴うことが多く、その管理が重要となる。低HDL-Cについては基本的には生活習慣の改善で対処すべきである。
・これらの値はあくまでも到達努力目標であり、一次予防(低・中リスク)においてはLDL-C低下率20～30%も目標値としてなり得る。
・*** 10時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。それ以外の条件を「随時」とする。
・****頭蓋内外動脈の50%以上の狭窄、または弓部大動脈粥腫(最大肥厚4mm以上)
・高齢者については第7章を参照。

出典 日本動脈硬化学会(編)：動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年版. 日本動脈硬化学会, 2022（改変）

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
脂質および関連物質	0924	酸化LDL(MDA-LDL) 3F087-0000-023-023	血清 0.3	S09 ⬇ A00	凍結(21日)	4~15	❶194 ※4	ELISA	男性 45才未満：46~82 45才以上：61~105 女性 55才未満：46~82 55才以上：61~105 (U/L)	採血後、冷蔵保存にて6時間以内に血清分離し、速やかに凍結保存してください。 ※1
	特依	脂肪酸分画(24成分) 3F095-0000-022-202 3F095-0000-023-202	血漿 0.5	PH5 ⬇ A00	冷蔵(45日)	12~16	389 ※5	Gas-Chromatograph法	下記参照	※1
			血清 0.5	S09 ⬇ A00			389 ※5			
	1904	脂肪酸分画(4成分) 3F095-0000-022-202 3F095-0000-023-202	血漿 0.5	PH5 ⬇ A00	冷蔵(45日)	5~7	389 ※5	Gas-Chromatograph法	ジホモ-γ-リノレン酸 22.6 ~ 72.5 アラキドン酸 135.7 ~ 335.3 エイコサペンタエン酸 10.2 ~ 142.3 ドコサヘキサエン酸 54.8 ~ 240.3 (μg/mL) EPA/AA比 0.05 ~ 0.61 DHA/AA比 0.27 ~ 1.07 (EPA + DHA)/AA比 0.32 ~ 1.66	・DHLA(ジホモ-γ-リノレン酸) ・AA(アラキドン酸) ・EPA(エイコサペンタエン酸) ・DHA(ドコサヘキサエン酸) ※1
			血清 0.5	S09 ⬇ A00			389 ※5			
	0151	極長鎖脂肪酸 3F096-0000-022-203	血漿 2.0	PH5 ⬇ A00	凍結(1ヵ月)	7~20	1141 ※5	Gas-Chromatograph法(GC-MS)	C24:0 / C22:0 0.628~0.977 C25:0 / C22:0 0.012~0.023 C26:0 / C22:0 0.003~0.006	※1

❶「マロンジアルデヒド修飾LDL(MDA-LDL)」は、冠動脈疾患既往歴のある糖尿病患者で、冠動脈疾患発症に関する予後予測の補助の目的で測定する場合に3月に1回に限り算定できる。ただし、糖尿病患者の経皮的冠動脈形成術治療時に、治療後の再狭窄に関する予後予測の目的で測定する場合、上記と別に術前1回に限り算定できる。

脂肪酸分画(24成分)基準値

No	脂肪酸名	略号(炭素数)	基準値 μg/mL	基準値 重量%
1	ラウリン酸	C12:0	10.2以下	0.31以下
2	ミリスチン酸	C14:0	10.8~61.1	0.36~1.43
3	ミリストレイン酸	C14:1ω5	3.2以下	0.09以下
4	パルミチン酸	C16:0	495.1~918.3	19.18~23.84
5	パルミトレイン酸	C16:1ω7	23.8~117.3	0.87~3.18
6	ステアリン酸	C18:0	167.6~312.7	6.13~8.49
7	オレイン酸	C18:1ω9	433.9~910.1	16.19~23.66
8	リノール酸	C18:2ω6	708.1~1286.0	23.24~36.89
9	γ-リノレン酸	C18:3ω6	2.5~25.6	0.09~0.72
10	リノレン酸	C18:3ω3	11.5~45.8	0.40~1.30
11	アラキジン酸	C20:0	6.9~14.4	0.24~0.46
12	エイコセン酸	C20:1ω9	2.6~9.5	0.09~0.30
13	エイコサジエン酸	C20:2ω6	4.3~9.3	0.15~0.26
14	5-8-11エイコサトリエン酸	C20:3ω9	6.0以下	0.17以下
15	ジホモ-γ-リノレン酸	C20:3ω6	22.6~72.5	0.79~2.05
16	アラキドン酸	C20:4ω6	135.7~335.3	4.21~9.30
17	エイコサペンタエン酸	C20:5ω3	10.2~142.3	0.36~3.99
18	ベヘニン酸	C22:0	14.6~30.3	0.43~0.91
19	エルシン酸	C22:1ω9	1.4以下	0.04以下
20	ドコサテトラエン酸	C22:4ω6	2.9~10.4	0.10~0.30
21	ドコサペンタエン酸	C22:5ω3	9.5~31.8	0.34~0.89
22	リグノセリン酸	C24:0	15.5~31.2	0.49~0.90
23	ドコサヘキサエン酸	C22:6ω3	54.8~240.3	1.88~6.86
24	ネルボン酸	C24:1ω9	27.1~53.0	0.78~1.64
	T/T比(C20:3ω9/C20:4ω6)		0.02以下	
	EPA/AA比(C20:5ω3/C20:4ω6)		0.05~0.61	
	DHA/AA比(C22:6ω3/C20:4ω6)		0.27~1.07	
	(EPA+DHA)/AA比		0.32~1.66	
	ω3/ω6比		0.09~0.36	



生化学的検査

脂質および関連物質

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
脂質および関連物質	0154	総胆汁酸 3F110-0000-023-271	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❶ 47 ※4	酵素法	10.0以下 （μmol/L）	※1
	0163	リポ蛋白分画 3F135-0000-023-233	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 （7日）	3～5	49 ※4	アガロースゲル電気泳動法	α M 26.9～50.5 F 32.6～52.5 PREβ M 7.9～23.8 F 6.6～20.8 β M 35.3～55.5 F 33.6～52.0 （%）	凍 凍結保存は避けてください。 ※1
	0166	コレステロール分画 3F150-0000-023-233	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 （7日）	3～7	57 ※4	アガロースゲル電気泳動法	HDLコレステロール 23～48 LDLコレステロール 47～69 VLDLコレステロール 2～15 （%）	凍 凍結保存は避けてください。 ※1

❶肝胆道疾患の診断の目的で尿中硫酸抱合型胆汁酸測定を酵素法により実施した場合は、「コレステロール分画」に準じて算定する。ただし、「胆汁酸」を同時に測定した場合には、いずれか一方の所定点数のみを算定する。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
脂質および関連物質	0174	リポプロテイン(a) 3F156-0000-023-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (1ヵ月)	3～5	❶ 107 ※4	LA(ラテックス凝集比濁法)	40以下(参考値) (mg/dL)	※1
	0175	リポ蛋白リパーゼ(LPL) 3F160-0000-022-023	速やかに 冷却遠心 血漿 0.3	PH5 ↓ A00	凍結 (1ヵ月)	3～9	219 ※4	ELISA	164～284 (ng/mL)	早朝空腹時にヘパリンを体重1kgあたり30単位静注し15分後に指定の容器(PH5)に採取し、4℃で遠心分離後、上清の血漿を凍結保存にてご提出ください。EDTA血漿は避けてください。 基準値につきましては上記採取条件に基づき設定しております。※1
	0179	アポリポ蛋白 A-Ⅰ 3F180-0000-023-061	血清 各0.3	S09 ↓ A00	冷蔵 (1ヵ月)	3～5	❷ 各31 ※4 3項目以上測定した場合 94 ※4	免疫比濁法	M 119～155 F 126～165 (mg/dL)	凍 アポリポ蛋白Bの単独依頼またはアポリポ蛋白Bと重複依頼する場合は、凍結保存を避けてください。 〔セットコード：9307 A-Ⅰ、B、E〕 〔セットコード：9308 A-Ⅱ、C-Ⅱ、C-Ⅲ〕 ※1
	0180	A-Ⅱ 3F185-0000-023-061							M 25.9～35.7 F 24.6～33.3 (mg/dL)	
	0181	B 3F190-0000-023-061							M 73～109 F 66～101 (mg/dL)	
	0182	C-Ⅱ 3F195-0000-023-061							M 1.8～4.6 F 1.5～3.8 (mg/dL)	
	0183	C-Ⅲ 3F200-0000-023-061							M 5.8～10.0 F 5.4～9.0 (mg/dL)	
	0184	E 3F205-0000-023-061							M 2.7～4.3 F 2.8～4.6 (mg/dL)	
	0497	肺サーファクタントプロテインA(SP-A) 3F250-0000-023-052	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	3～5	❸ 130 ※4	CLEIA	43.8未満 (ng/mL)	※1
	0C46	肺サーファクタントプロテインD(SP-D) 3F253-0000-023-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	3～5	❸ 136 ※4	ラテックス免疫凝集法	110未満 (ng/mL)	※1

❶「リポ蛋白(a)」は、3月に1回を限度として算定できる。
❷「アポリポ蛋白」は、AⅠ、AⅡ、B、CⅡ、CⅢ及びEのうち、測定した項目数に応じて、所定点数を算定する。
❸「KL-6」、「肺サーファクタント蛋白-A(SP-A)」及び「肺サーファクタント蛋白-D(SP-D)」のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
KL-6は、EIA法、ECLIA法又はラテックス凝集比濁法により、肺サーファクタント蛋白-A(SP-A)はEIA法により、肺サーファクタント蛋白-D(SP-D)は、EIA法又はラテックス免疫比濁法による。



ビタミンおよび関連物質

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
ビタミンおよび関連物質	0195	β-カロチン 3G011-0000-023-204	血清 0.6	S09 ⬇ ASS	凍結（1カ月） 遮光	6～12		HPLC	M 6.6～47.6 F 20.4～105.2 （μg/dL）	遮光してください。 ※1
	0196	ビタミンA 3G015-0000-023-204	血清 0.4	S09 ⬇ ASS	冷蔵 遮光	5～7		HPLC	97～316 （IU/dL）	遮光してください。 ※1
	0198	ビタミンB_1 3G025-0000-019-205	血液 0.5（EDTA-2Na加）	PNS	凍結（6カ月） 遮光	4～6	239 ※4	LC/MS/MS	24～66 （ng/mL）	遮光容器に採血し、よく混和させ、凍結してご提出ください。 ※1
	0494	ビタミンB_2 3G030-0000-019-204	血液 0.5（EDTA-2Na加）	PNS	凍結（1カ月） 遮光	4～6	231 ※4	HPLC	66.1～111.4 （ng/mL）	遮光容器に採血し、よく混和させ、凍結してご提出ください。 ※1
	0201	ビタミンB_6 3G036-0000-023-204	血清 0.5	S09 ⬇ ASS	冷蔵 遮光	4～6		HPLC	ピリドキサミン M 0.6以下 F 0.6以下 ピリドキサール M 6.0～40.0 F 4.0～19.0 ピリドキシン M 3.0以下 F 3.0以下 （ng/mL）	遮光してください。 ※1
	0722	ビタミンB_{12} 3G040-0000-023-052	血清 0.6	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	136 ※4	CLEIA	180～914 （pg/mL）	血清材料以外でのご依頼は避けてください。（特に、EDTA血漿はデータ上昇傾向がみられます。） ※1
	0205	カルニチン分画 3G055-0000-023-271	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❶ 95+95 ※4	酵素サイクリング法	総カルニチン 45～91 遊離カルニチン 36～74 アシルカルニチン 6～23 （μmol/L）	※1

❶総カルニチン及び遊離カルニチン
ア「総カルニチン」及び「遊離カルニチン」は、関係学会の定める診療に関する指針を遵守し、酵素サイクリング法により測定した場合に算定する。
イ 本検査を先天性代謝異常症の診断補助又は経過観察のために実施する場合は、月に1回を限度として算定する。
ウ 静脈栄養管理若しくは経腸栄養管理を長期に受けている筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症若しくは小児の患者、人工乳若しくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者、バルプロ酸ナトリウム製剤投与中の患者、Fanconi症候群の患者又は慢性維持透析の患者におけるカルニチン欠乏症の診断補助若しくは経過観察のために、本検査を実施する場合は、6月に1回を限度として算定する。
エ 同一検体について、本検査と「先天性代謝異常症検査」を併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ビタミンおよび関連物質	0208	ビタミンC(アスコルビン酸) 3G060-0000-031-204	(血清中) 除蛋白上清 0.5	M50 ↓ ASS	凍結(7日) 遮光	4～6	296 ※4	HPLC	5.5～16.8(血清中) (μg/mL)	正確に血清0.5mLを専用容器(M50)に加え、混和後遠心分離し、その上清を遮光ポリスピッツ(ASS)にてご提出ください。 ※1
	1975	25OHビタミンD(骨粗鬆症) 3G065-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵(21日)	3～5	❶ 117 ※4	CLEIA	ビタミンD欠乏 20.0未満 ビタミンD不足 20.0 ～ 29.9 (ng/mL)	※1
	1965	25ヒドロキシビタミンD(くる病・骨軟化症) 3G065-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵(21日)	3～5	❷ 117 ※4	CLEIA	ビタミンD欠乏 20以下 (ng/mL)	※1
	0210	1,25-$(OH)_2$ビタミンD 3G070-0000-023-001	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵	4～8	❸ 388 ※4	RIA2抗体法	成人 20.0～60.0 小児 20.0～70.0 (pg/mL)	※1
	0213	ビタミンE 3G080-0000-023-282	血清 0.5	S09 ↓ ASS	凍結 遮光	8～14		蛍光法	0.75～1.41 (mg/dL)	遮光してください。 ※M
	0215	ビタミンK分画 3G090-0000-022-204	速やかに遠心 血漿 2.0	PC5 ↓ ASS	凍結(17日) 遮光	4～10		HPLC	ビタミン K1 0.15～1.25 ビタミン K2(MK-4) 0.10以下 (ng/mL)	採血後、速やかに血漿分離してください。血漿は必ず遮光ポリスピッツ(ASS)で凍結してご提出ください。 ※1
	0723	葉酸 3G105-0000-023-052	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵	3～5	146 ※4	CLEIA	4.0以上 (ng/mL)	溶 溶血および血清材料以外でのご依頼は避けてください。(溶血の場合、赤血球中葉酸の影響で高値となります。特に、EDTA血漿はデータ上昇傾向がみられます。) ※1
	0217	ニコチン酸(ナイアシン) 3G110-0000-019-905	血液 1.5 (ヘパリン加)	PH5	冷蔵	8～14		Bioassay	4.7～7.9 (μg/mL)	※1

❶「25-ヒドロキシビタミンD」は、原発性骨粗鬆症の患者に対して、ECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定した場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。
❷「25-ヒドロキシビタミンD」は、ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中にECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定した場合は、診断時においては1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できる。
❸「1,25-ジヒドロキシビタミンD_3」は、ラジオレセプターアッセイ法、RIA法又はELISA法により、慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症Ⅰ型若しくは低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時又はそれらの疾患に対する活性型ビタミンD_3剤による治療中に測定した場合に限り算定できる。ただし、活性型ビタミンD_3剤による治療開始後1月以内においては2回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定する。



生化学的検査

電解質・血液ガス

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
電解質・血液ガス	0219	緊急 Na(ナトリウム) 3H010-0000-023-261 3H010-0000-004-261	速やかに遠心 血清 0.6	S09→A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❶11 ※4	イオン選択電極法	136～147 (mEq/L)	採血後は、血液凝固を確認後、速やかに血清分離してください。血液のまま放置、冷却保存はナトリウムが低値を示しますので避けてください。
			蓄尿 10	A00	冷蔵		❶11 ※4		1.6～5.8 (g/day)	
	0221	緊急 Cl(クロール) 3H020-0000-023-261 3H020-0000-004-261	血清 0.6	S09→A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❶11 ※4	イオン選択電極法	98～109 (mEq/L)	[セットコード：9000 Na、Cl(血清)] [セットコード：9001 Na、Cl(蓄尿)]
			蓄尿 10	A00	冷蔵		❶11 ※4		2.5～8.9 (g/day)	
	0220	緊急 K(カリウム) 3H015-0000-023-261 3H015-0000-004-261	速やかに遠心 血清 0.6	S09→A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	11 ※4	イオン選択電極法	3.6～5.0 (mEq/L)	溶 採血後は、血液凝固を確認後、速やかに血清分離してください。血液のまま放置、冷却保存又は溶血は、カリウムが高値を示しますので避けてください。
			蓄尿 10	A00	冷蔵		11 ※4		1.0～3.9 (g/day)	
	0222	Mg(マグネシウム) 3H025-0000-023-271 3H025-0000-004-271	血清 0.6	S09→A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	11 ※4	キシリジルブルー法	1.8 ～2.6 (mg/dL)	重 (蓄尿)依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。蓄尿は凍結保存を避けてください。
			蓄尿 10	A00	冷蔵				0.02～0.13 (g/day)	
	0223	緊急 Ca(カルシウム) 3H030-0000-023-271 3H030-0000-004-271	血清 0.6	S09→A00	冷蔵(28日)	1～2	❷11 ※4	アルセナゾⅢ法	8.5～10.2 (mg/dL)	重 (蓄尿)依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。蓄尿は凍結保存を避けてください。
			蓄尿 10	A00	冷蔵		❷11 ※4		0.1～ 0.3 (g/day)	
	0225	P(無機リン) 3H040-0000-023-272 3H040-0000-004-272	血清 0.6	S09→A00	冷蔵(1ヵ月)	1～2	❸17 ※4	モリブデン酸直接法	2.4～4.3 (mg/dL)	
			蓄尿 10	A00	冷蔵		❸17 ※4		0.5～1.0 (g/day)	
	0226	浸透圧 3H045-0000-023-902 3H045-0000-001-902	血清 0.7	S09→A00	冷蔵	3～5	15 ※3	氷点降下法	276～292 (mOsm/Kg·H_2O)	凍 凍結保存は避けてください。 ※1
			部分尿 1	U00			16 ※1		濃縮時 850以上 希釈時 40～85 (Fishberg試験時) (mOsm/Kg·H_2O)	

❶「ナトリウム及びクロール」については、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定する。
❷「カルシウム」及び「イオン化カルシウム」を同時に測定した場合には、いずれか一方についてのみ所定点数を算定する。
❸「無機リン及びリン酸」については、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定する。



	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
生体微量金属	0228	鉄(Fe) 3I010-0000-023-271 3I010-0000-004-274	血清 0.6	S09 ⬇ A00	冷蔵 (21日)	1～2	11 ※4	ニトロソーPSAP法	M 54～200 F 48～154 (μg/dL)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。
			蓄尿 10	AZZ	冷蔵	7～12	11 ※4	原子吸光法	0.10～0.20 (mg/day)	※ミ
	0230	総鉄結合能(TIBC) 3I015-0000-023-271	血清 0.6	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	1～2	11 ※4	ニトロソーPSAP法(計算法)	M 253～365 F 246～410 (μg/dL)	
	0232	不飽和鉄結合能(UIBC) 3I020-0000-023-271	血清 0.6	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	1～2	11 ※4	ニトロソーPSAP法	M 104～259 F 108～325 (μg/dL)	
	0233	Cu(銅) 3I025-0000-023-271 3I025-0000-004-274	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	3～5	23 ※4	比色法	68～128 (μg/dL)	※1
	0382		蓄尿 5	AZZ	冷蔵	3～7	23 ※4	原子吸光分析法	M 4.2～33.0 F 2.5～20.0 (μg/day)	※1
	0235	Zn(亜鉛) 3I030-0000-023-271 3I030-0000-004-274	速やかに遠心 血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (1ヵ月)	3～5	132 ※4	比色法	80～130 (μg/dL)	溶 採血後は速やかに血清分離をしてください。 ※1
			蓄尿 5	AZZ	冷蔵	3～9	132 ※4	原子吸光分析法	M 260～1000 F 160～ 620 (μg/day)	※1
生体色素関連物質	0238	緊急 総ビリルビン(T-Bil) 3J010-0000-023-271	血清 0.6	S09 ⬇ A00	冷蔵 (1ヵ月)	1～2	11 ※4	化学酸化法	0.3～1.2 (mg/dL)	
	0240	直接ビリルビン 3J015-0000-023-271	血清 0.6	S09 ⬇ A00	冷蔵	1～2	11 ※4	化学酸化法	0.4以下 (mg/dL)	
	0241	間接ビリルビン 3J020-0000-023-271	血清 0.6	S09 ⬇ A00	冷蔵	1～2		化学酸化法(計算法)	0.8以下 (mg/dL)	
	0626	コプロポルフィリン定性 3J040-1352-001-204 3J040-1351-004-204	部分尿 2 蓄尿 2	U00	冷蔵 遮光	5～11		HPLC	(－)	遮光してください。 ※1
	0243	コプロポルフィリン 3J040-0000-001-204 3J040-1352-004-204 3J040-0000-019-204	部分尿 2	U00	冷蔵 遮光	5～11	131 ※1	HPLC	170以下 (μg/g･CRE)	遮光してください。 ※1
			蓄尿 2				131 ※1			
			血液 1.5 (ヘパリン加)	PHS	冷蔵 遮光	8～12	210 ※4	HPLC	1 以下 (μg/dL RBC)	凍 凍結保存は避けてください。遮光してください。 ※N
	0245	ウロポルフィリン 3J050-0000-019-204	血液 1.5 (ヘパリン加)	PHS	冷蔵 遮光	8～12		HPLC	1 以下 (μg/dL RBC)	凍 凍結保存は避けてください。遮光してください。 ※N
	0246	プロトポルフィリン 3J055-0000-019-204	血液 1.5 (ヘパリン加)	PHS	冷蔵 遮光	8～12	272 ※4	HPLC	30～86 (μg/dL RBC)	凍 凍結保存は避けてください。遮光してください。 ※N
	0250	δ-アミノレブリン酸(δALA) 3J075-0000-001-204 3J075-0000-004-204	部分尿 0.7	U00	冷蔵 遮光	4～6	106 ※1	HPLC	(mg/L)	遮光してください。 21ページをご参照ください。 ※1
			蓄尿 0.7				106 ※1			

毒物・産業医学的代謝物質

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
毒物・産業医学的代謝物質	0251	尿中総三塩化物 トリクロルエチレン 3K011-0000-001-202	部分尿 各0.8	U00	冷蔵	5~11		Gas-Chromatograph法	(mg/L)	連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。 21ページをご参照ください。 セットコード：9320 総三塩化物S 下記2項目のセット ・尿中総三塩化物：0253（テトラクロルエチレン） ・尿中トリクロル酢酸：0256（テトラクロルエチレン） ※1
	0252	1,1,1-トリクロルエタン 3K012-0000-001-202								
	0253	テトラクロルエチレン 3K013-0000-001-202								
	0254	尿中トリクロル酢酸 トリクロルエチレン 3K016-0000-001-202	部分尿 各0.8	U00	冷蔵	5~11		Gas-Chromatograph法	(mg/L)	
	0255	1,1,1-トリクロルエタン 3K017-0000-001-202								
	0256	テトラクロルエチレン 3K018-0000-001-202								
	0258	尿中馬尿酸 3K025-0000-001-204	部分尿 1.3	U00	冷蔵	5~11		HPLC	(g/L)	連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。 21ページをご参照ください。 ※1
	0259	尿中メチル馬尿酸 3K030-0000-001-204	部分尿 1.3	U00	冷蔵	5~11		HPLC	(g/L)	
	1277	尿中スチレン代謝物 3K042-0000-001-204	部分尿 1.8	U00	冷蔵(14日)	5~15		HPLC	(g/L)	連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。 測定値は、マンデル酸(MA)、フェニルグリオキシル酸(PGA)および合算値(MA+PGA)です。生物学的許容値：0.43(g/L)以下です。(生物学的許容値とは、ほとんどすべての労働者に健康上の悪い影響がみられないと判断される濃度です。)依頼件数によって、所要日数が変動いたします。21ページをご参照ください。 ※1
	0976	尿中マンデル酸 エチルベンゼン 3K041-0000-001-204	部分尿 1.8	U00	冷蔵(28日)	5~15		HPLC	(g/L)	連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。 依頼件数によって、所要日数が変動いたします。 ※1
	0261	尿中N-メチルホルムアミド 3K045-0000-001-203	部分尿 1.7	U00	冷蔵	5~11		Gas-Chromatograph法(GC-MSD)	(mg/L)	連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。 21ページをご参照ください。 ※1
	0262	尿中2,5-ヘキサンジオン 3K050-0000-001-203	部分尿 1.7	U00	冷蔵	5~11		Gas-Chromatograph法(GC-MSD)	(mg/L)	
	0265	アルミニウム(Al) 3K105-0000-023-274	血清 0.6	SZZ	冷蔵	4~6	109 ※4	原子吸光分析法	10以下 (μg/L)	凍 凍 SZZ容器は凍結保存を避けてください。 ※1

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
毒物・産業医学的代謝物質	0266	鉛（Pb） 3K110-0000-019-274	血液 3.0（ヘパリン加）	PH5	冷蔵	4～6		原子吸光分析法	（μg/dL）	21ページをご参照ください。 ※1
	0267	クロム 3K115-0000-019-274 3K115-0000-001-274	血液 0.7（ヘパリン加）	PH5	冷蔵	7～20		原子吸光分光光度法	1.0以下（μg/dL）	血液：凍結保存は避けてください。 ※N
			部分尿 1	AZZ					2以下（μg/L）	
	0268	カドミウム 3K120-0000-019-299 3K120-0000-001-299	血液 0.5（ヘパリン加）	PH5	冷蔵	8～12		ICP-MS	0.5以下（μg/dL）	血液：凍結保存は避けてください。 ※M
			部分尿 1	AZZ		8～14			3.8以下（μg/L）	
	0269	マンガン 3K125-0000-019-274	血液 0.7（ヘパリン加）	PH5	冷蔵	8～21	❶ 27 ※4	原子吸光分光光度法	0.8～2.5（μg/dL）	凍 凍結保存は避けてください。 ※N
生化学（その他）	0366	ネオプテリン 3Z024-0000-023-204	血清 0.3	S09 ⬇ ASS	冷蔵 遮光	7～13		HPLC	2～8（pmol/mL）	遮光してください。 ※1
	0367	エタノール 3Z040-0000-019-202	血液 1.0（ヘパリン加）	PH5 ⬇ A00	凍結	4～7	105 ※4	Gas-Chromatograph法	0.1未満（mg/mL）	血液はポリスピッツに移し替え、必ず凍結保存にてご提出ください。 ※1
	0800	イヌリン定量 3Z050-0000-023-271 3Z050-0000-001-271	血清 0.7	S09 ⬇ A00	冷蔵（21日）	3～9	❷ 120 ※4	酵素法	（mg/dL）	凍 凍結保存は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。依頼書に臨床診断名をご記入ください。 ※1
			部分尿 1	U00			❷ 120 ※4			
	0371	結石分析（成分比率） 3Z065-0000-081-273	結石 10mg	XC0	室温	7～8	117 ※5	赤外線吸収スペクトロフォトメトリー	（%）	サンプルは乾燥させ結石専用容器にてご提出ください。血液などの付いたサンプルは蒸留水で洗浄後、乾燥させてご提出ください。 ※%

❶「マンガン（Mn）」は、1月以上（胆汁排泄能の低下している患者については2週間以上）高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定することができる。
❷「イヌリン」は、「尿素窒素」又は「クレアチニン」により腎機能低下が疑われた場合に、6月に1回に限り算定できる。ただし、「クレアチニン（腎クリアランス測定の目的で行い、血清及び尿を同時に測定する場合に限る。）」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。



生化学的検査

産業医学(有機溶剤、鉛)関連検査参考資料

産業医学(有機溶剤、鉛)関連検査

産業医学関連検査は、有機溶剤作業者、鉛作業者を対象として、体内に有機溶剤や鉛がどの程度取り込まれているかを定期的にチェックすることを主な目的としているため、結果の評価については、正常・異常の鑑別を目的としたものではなく、作業環境を含めた総合的な判断が必要とされています。

また、労働安全衛生法に基づく各中毒予防規則では、各健康診断結果報告書を、所轄の労働基準監督署長に提出することが定められています。

有機溶剤関連検査結果分布表

有機溶剤等健康診断結果報告書(有機溶剤中毒予防規則、様式第3号の2)より

対象物質	測定項目	単位	分布			
			1	2		3
トルエン	尿中馬尿酸	g/L	1以下	1超	2.5以下	2.5超
キシレン	尿中メチル馬尿酸	g/L	0.5以下	0.5超	1.5以下	1.5超
1,1,1-トリクロルエタン	尿中総三塩化物	mg/L	10以下	10超	40以下	40超
	尿中トリクロル酢酸	mg/L	3以下	3超	10以下	10超
N,N-ジメチルホルムアミド	尿中N-メチルホルムアミド	mg/L	10以下	10超	40以下	40超
ノルマルヘキサン	尿中2,5-ヘキサンジオン	mg/L	2以下	2超	5以下	5超
スチレン※1	尿中スチレン代謝物※2	g/L	分布報告はいたしません。			
トリクロルエチレン※1	尿中総三塩化物	mg/L	100以下	100超	300以下	300超
	尿中トリクロル酢酸	mg/L	30以下	30超	100以下	100超
テトラクロルエチレン※1	尿中総三塩化物	mg/L	3以下	3超	10以下	10超
	尿中トリクロル酢酸	mg/L	3以下	3超	10以下	10超

※1　2014年11月より、スチレン、トリクロルエチレン、テトラクロルエチレンは、有機溶剤中毒予防規則から特定化学物質障害予防規則の対象に位置づけられました。
特定化学物質健康診断においては、労働基準監督署への分布区分報告は不要となっておりますが、検査結果の経過を見る上での指標として記載いたします。
※2　測定値はマンデル酸とフェニルグリオキシル酸の合算値です。

検体取り扱い方法

連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿してください。

鉛関連検査結果分布表

鉛健康診断結果報告書(鉛中毒予防規則、様式第3号)より

対象物質	測定項目	単位	分布			
			1	2		3
鉛	血中鉛	μg/dL	20以下	20超	40以下	40超
	尿中δ-アミノレブリン酸*	mg/L	5以下	5超	10以下	10超

検体取り扱い方法

＊遮光保存してください。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）（治療濃度範囲）	採血時刻	備　考（製品名、薬剤名等）
抗菌薬	0358	アミカシン 3M601-0000-023-062	血清 0.4	S7P ⬇ A00	凍結	3～5	❶特	KIMS	Peak 50～60 Trough 4未満 （μg/mL）	点滴開始1時間後（30分で投与した場合、終了30分後）（Peak濃度） 投与前30分以内（Trough濃度）	アルベカシンとの交差反応があるのでご注意ください。 アミカマイシン、ビクリン ※1
	0359	トブラマイシン 3M602-0000-023-024	血清 0.4	S7P ⬇ A00	凍結	3～5	❶特	EIA	Peak 15～20 Trough 1未満 （μg/mL）	点滴開始1時間後（30分で投与した場合、終了30分後）（Peak濃度） 投与前30分以内（Trough濃度）	トブラシン ※1
	0360	ゲンタマイシン 3M606-0000-023-024	血清 0.4	S7P ⬇ A00	凍結	3～5	❶特	EIA	Peak 15～20 Trough 1未満 （μg/mL）	点滴開始1時間後（30分で投与した場合、終了30分後）（Peak濃度） 投与前30分以内（Trough濃度）	ゲンタシン、エルタシン、ルイネシン ※1
	0297	アルベカシン 3M613-0000-023-062	血清 0.3	S7P ⬇ A00	凍結（21日）	3～5	❶特	ラテックス凝集比濁法	Peak 15～20 Trough 1 ～ 2未満 （μg/mL）	点滴開始1時間後（30分で投与した場合、終了30分後）（Peak濃度） 投与前30分以内（Trough濃度）	ハベカシン ※1
	0357	緊急 バンコマイシン 3M530-0000-023-062	血清 0.4	S7P ⬇ A00	冷蔵	3～5	❶特	ラテックス凝集比濁法	Trough 10 ～ 15 （μg/mL）	投与前30分以内（Trough濃度）	塩酸バンコマイシン ※1
	0379	緊急 テイコプラニン 3M532-0000-023-062	血清 0.3	S7P ⬇ A00	冷蔵	3～5	❶特	ラテックス凝集比濁法	Trough 15～30 （μg/mL）	投与前30分以内（Trough濃度）	タゴシッド ※1
	0915	ボリコナゾール 3M698-0000-022-205	血漿 0.3	PH5 ⬇ A00	冷蔵	4～6	❶特	LC/MS/MS	（μg/mL）		ブイフェンド ※1

特：特定薬剤治療管理料（29ページ参照）

❶「特定薬剤治療管理料1」は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1.TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2.連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3.中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4.標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

[0379]テイコプラニン検査について

医薬品添付文書には、「テイコプラニンのトラフレベルの血中濃度は、敗血症などの重症感染症においては確実な臨床効果を得るために10μg/mL以上を保つこと。ただし、トラフレベルの血中濃度が60μg/mL以上になった場合には腎障害、聴覚障害等の副作用の発現に注意すること。また、トラフレベルの血中濃度が20μg/mL以上で一過性に肝機能検査値が軽度上昇したとの報告がある。（医薬品添付文書・2003年1月改訂第8版より）」の内容が記載されております。

グラム陰性菌感染症に対する標準治療における目標値

（単位：μg/mL）

最小発育阻止濃度（MIC）	8μg/mL（重症）		≦4μg/mL（軽・中等症）	
アミカシン	Peak 50～60	Trough 4未満	Peak 41～49	Trough 4未満

最小発育阻止濃度（MIC）	2μg/mL（重症）		≦1μg/mL（軽・中等症）	
ゲンタマイシン トブラマイシン	Peak 15～20	Trough 1未満	Peak 8～10	Trough 1未満

抗菌薬TDMガイドライン2022より改変

※基準値は重症における目標値を基準値（治療濃度範囲）として設定いたしました。



抗てんかん薬

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）（治療濃度範囲）	採血時刻	備考（製品名、薬剤名等）
抗てんかん薬	0483	緊急 カルバマゼピン 3L115-0000-023-024 3L115-0000-022-024	血清 0.5	S7P ⬇ A00	冷蔵	1～2	❶ ㊟	EIA	4.0～12.0 （μg/mL）	次回投与直前（Trough濃度）	テグレトール、テレスミン、レキシン
			血漿 0.5	PH5 ⬇ A00			❶ ㊟				
	0306	クロナゼパム 3L125-0000-023-205	血清 0.3	S7P ⬇ A00	冷蔵	4～6	❶ ㊟	LC/MS/MS	20～70 （ng/mL）	次回投与直前（Trough濃度）	リボトリール、ランドセン ※1
	0307	ジアゼパム 3L130-0000-023-204	血清 0.5	S7P ⬇ A00	冷蔵	4～7	❶ ㊟	HPLC	ジアゼパム 600～1000 （ng/mL）	次回投与直前（Trough濃度）ただし、抗てんかん剤として用いる場合	N-デスメチルジアゼパムも同時報告いたします。セルシン、ホリゾン、ジアパックス ※1
	0308	緊急 エトスクシミド 3L135-0000-023-024 3L135-0000-022-024	血清 0.5	S7P ⬇ A00	冷蔵	3～5	❶ ㊟	EIA	40.0～100.0 （μg/mL）	次回投与直前（Trough濃度）	ザロンチン、エピレオプチマル ※1
			血漿 0.5	PH5 ⬇ A00			❶ ㊟				
	0498	クロバザム 3L145-0000-023-205	血清 0.3	S7P ⬇ A00	冷蔵	4～6	❶ ㊟	LC/MS/MS	（ng/mL）		デスメチルクロバザムも同時報告いたします。マイスタン ※1
	0312	ニトラゼパム 3L165-0000-023-205	血清 0.3	S7P ⬇ A00	冷蔵	4～6	❶ ㊟	LC/MS/MS	20～200 （ng/mL）	次回投与直前（Trough濃度）ただし、抗てんかん剤として用いる場合	ベンザリン、ネルボン ※1
	0481	緊急 フェノバルビタール 3L175-0000-023-024 3L175-0000-022-024	血清 0.5	S7P ⬇ A00	冷蔵	1～2	❶ ㊟	EIA	10～40 （μg/mL）	次回投与直前（Trough濃度）	フェノバール、ワコビタール、ルミナール
			血漿 0.5	PH5 ⬇ A00			❶ ㊟				
	0482	緊急 フェニトイン 3L185-0000-023-024 3L185-0000-022-024	血清 0.5	S7P ⬇ A00	冷蔵	1～2	❶ ㊟	EIA	10.0～20.0 （μg/mL）	経口：次回投与直前（Trough濃度）静注：投与後2～4時間	アレビアチン、ヒダントール、ジフェニルヒダントイン
			血漿 0.5	PH5 ⬇ A00			❶ ㊟				

㊟：特定薬剤治療管理料（29ページ参照）

❶「特定薬剤治療管理料1」は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1.TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2.連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3.中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4.標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)(治療濃度範囲)	採血時刻	備考(製品名、薬剤名等)
抗てんかん薬	0316	緊急 プリミドン 3L190-0000-023-024 3L190-0000-022-024	血清 0.3 / 血漿 0.3	S7P / PH5 ⬇ A00	冷蔵	3~5	❶特 / ❶特	EIA	5.0~12.0 (μg/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	プリミドン、プリムロン ※1
	0484	緊急 バルプロ酸 3L195-0000-023-024 3L195-0000-022-024	血清 0.5 / 血漿 0.5	S7P / PH5 ⬇ A00	冷蔵	1~2	❶特 / ❶特	EIA	50.0~100.0 (μg/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	デパケン、セレニカR、バレリン、ハイセレニン
	0319	トリメタジオン 3L205-0000-023-205	血清 0.5	S7P ⬇ A00	凍結(12日)	8~14	❶特	LC-MS/MS	300~500 (μg/mL)		ミノアレ(活性代謝物であるジメタジオンを測定) ※M
	1909	ゾニサミド 3L210-0000-023-062	血清 0.5	S7P ⬇ A00	冷蔵	3~5	❶特	ラテックス凝集法	10~30 (μg/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	エクセグラン ※1
	0798	ガバペンチン 3L215-0000-022-205	血漿 0.3	PH5 ⬇ A00	冷蔵	4~6	❶特	LC/MS/MS	(μg/mL)		ガバペン錠 ※1
	0936	ラモトリギン 3L220-0000-022-205	血漿 0.3	PH5 ⬇ A00	冷蔵	4~6	❶特	LC/MS/MS	2.5~15 (μg/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	ラミクタール ※1
	0973	トピラマート 3L225-0000-022-205	血漿 0.3	PH5 ⬇ A00	冷蔵(21日)	4~6	❶特	LC/MS/MS	5~20 (μg/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	トピナ ※1
	0972	レベチラセタム 3L230-0000-022-205	血漿 0.3	PH5 ⬇ A00	冷蔵(21日)	4~6	❶特	LC/MS/MS	12~46 (μg/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	イーケプラ ※1
	7241	ブリーバラセタム 3L253-0000-022-205	速やかに遠心 血漿 0.3	PH5 ⬇ A00	冷蔵(28日)	4~6	❶特	LC/MS/MS	(μg/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	採血後、3時間以内に血漿分離してください。3時間以上の場合、低値となる可能性があります。プリィピアクト ※1
	1987	スチリペントール 3L235-0000-022-205	血漿 0.3	PH5 ⬇ A00	冷蔵(28日)	6~12	❶特	LC/MS/MS	(μg/mL)		ディアコミット ※1
	1988	ルフィナミド 3L240-0000-022-205	血漿 0.3	PN2, PN5 ⬇ A00	冷蔵(28日)	4~10	❶特	LC/MS/MS	(μg/mL)		イノベロン ※1
	1902	ペランパネル 3L245-0000-022-205	血漿 0.3	PH5 ⬇ A00	冷蔵(28日)	4~6	❶特	LC/MS/MS	(ng/mL)		フィコンパ ※1
	1891	ラコサミド 3L248-0000-022-205	血漿 0.3	PH5 ⬇ A00	冷蔵(28日)	4~6	❶特	LC/MS/MS	(μg/mL)	次回投与直前(Trough濃度)	ビムパット ※1
	0303	アセタゾラミド 3L950-0000-023-204	血清 0.3	S7P ⬇ A00	冷蔵	4~10	❶特	HPLC	(μg/mL)		ダイアモックス ※1

特：特定薬剤治療管理料(29ページ参照)

❶「特定薬剤治療管理料1」は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

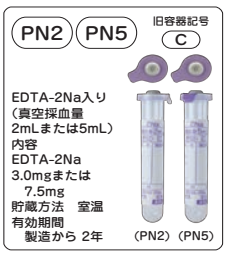
採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1.TDM(血中薬物濃度モニター)における採血時間です。
2.連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3.中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4.標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。





免疫抑制薬／循環器用薬

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）（治療濃度範囲）	採血時刻	備考（製品名、薬剤名等）
免疫抑制薬	7266	シクロスポリン 3M805-0000-019-052	血液 0.7 (EDTA-2K加)	PKF	凍結 (14日)	3～5	❶特	CLEIA	（ng/mL）	次回投与直前 (Trough濃度)	重 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。 ネオラール、サンディミュン ※1
	7267	タクロリムス 3M810-0000-019-052	血液 0.7 (EDTA-2K加)	PKF	凍結 (21日)	3～5	❶特	CLEIA	（ng/mL）	次回投与直前 (Trough濃度)	重 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。 プログラフ、グラセプター ※1
	1881	エベロリムス 3M815-0000-019-053	血液 1.0 (EDTA-2K加)	PKF	凍結	3～5	❶特	ECLIA	免疫抑制剤としてシクロスポリンと併用した場合 Trough濃度 3.0～8 抗悪性腫瘍剤として使用した場合 Trough濃度 5～15 （ng/mL）	次回投与直前 (Trough濃度)	重 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。 サーティカン、アフィニトール ※1
	0981	ミコフェノール酸 3M816-0000-022-024	血漿 0.5	PN2, PN5 ⬇ A00	冷蔵 (7日)	3～6	❶特	EIA	（μg/mL）		セルセプト ※1
循環器用薬	0485	緊急 ジゴキシン 3L765-0000-023-024	血清 0.5	S7P ⬇ A00	冷蔵	1～2	❶特	EIA	0.8～2.0 （ng/mL）	投与後6時間～次回投与直前 (消失相)	ジゴシン、ジゴキシン
	0495	アミオダロン 3L800-0000-022-205	血漿 0.3	PH5 ⬇ A00	冷蔵	4～6	❶特	LC/MS/MS	（ng/mL）	次回投与直前 (Trough濃度)	アミオダロン 有効血中濃度: 500～1000ng/mL (200mg/日投与、定常状態、トラフ値) Desethylamiodarone /Amiodarone＝0.8 (定常状態)。 アンカロン ※1
	0969	ベプリジル 3L802-0000-022-205	血漿 0.3	PH5 ⬇ A00	冷蔵 (21日)	4～6	❶特	LC/MS/MS	250～800 （ng/mL）		ベプリコール ※1
	0334	アプリンジン 3L855-0000-023-205 3L855-0000-022-205	血清 0.3	S7P ⬇ A00	冷蔵	4～6	❶特	LC/MS/MS	0.25～1.25 （μg/mL）	経口: 次回投与直前 (Trough濃度) 投与後 2～4時間 (Peak濃度) 静注: 次回投与直前 (Trough濃度)	アスペノン ※1
			血漿 0.3	PH5 ⬇ A00			❶特				

㊟：特定薬剤治療管理料（29ページ参照）

❶「特定薬剤治療管理料1」は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1.TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2.連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3.中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4.標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）（治療濃度範囲）	採血時刻	備考（製品名、薬剤名等）
循環器用薬	0335	ジソピラミド 3L865-0000-023-024 3L865-0000-022-024	血清 0.3 血漿 0.3	S7P ⬇ A00 PH5 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❶特 ❶特	EIA	2.0～5.0（μg/mL）	次回投与直前（Trough濃度）	ノルペース、リスモダン、カフィール、リスラミドR ※1
	0337	緊急 リドカイン 3L875-0000-023-024	血清 0.3	S7P ⬇ A00	冷蔵	3～5	❶特	EIA	1.2～5.0（μg/mL）	静注：投与後2時間 点滴静注：6～12時間	キシロカイン ※1
	0338	メキシレチン 3L880-0000-023-205	血清 0.3	S7P ⬇ A00	冷蔵	4～6	❶特	LC/MS/MS	0.5～2.0（μg/mL）	経口：次回投与直前（Trough濃度） 静注：随時	メキシチール ※1
	0340	緊急 プロカインアミド 3L890-0000-023-024 3L890-0000-022-024	血清 0.4 血漿 0.4	S7P ⬇ A00 PH5 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❶特 ❶特	EIA	4.0～10.0（μg/mL）	次回投与直前（Trough濃度）	アミサリン ※1
	0341	プロプラノロール 3L895-0000-023-204 3L895-0000-022-204	血清 0.3 血漿 0.3	S7P ⬇ A00 PH5 ⬇ A00	冷蔵	事前にご確認ください		HPLC	50～100（ng/mL）	次回投与直前（Trough濃度）	インデラル ※1
	0342	ピルシカイニド 3L896-0000-023-205 3L896-0000-022-205	血清 0.3 血漿 0.3	S7P ⬇ A00 PH5 ⬇ A00	冷蔵	4～6	❶特 ❶特	LC/MS/MS	0.2～0.9（μg/mL）	次回投与直前（Trough濃度）	サンリズム ※1
	0282	プロパフェノン 3L897-0000-023-205	血清 0.3	S7P ⬇ A00	冷蔵	4～6	❶特	LC/MS/MS	（ng/mL）		プロノン ※1
	0343	シベンゾリン 3L898-0000-023-205 3L898-0000-022-205	血清 0.3 血漿 0.3	S7P ⬇ A00 PH5 ⬇ A00	冷蔵	4～6	❶特 ❶特	LC/MS/MS	Trough濃度 70～250（ng/mL）	朝投与直前（Trough濃度）	シベノール ※1

❶：特定薬剤治療管理料（29ページ参照）

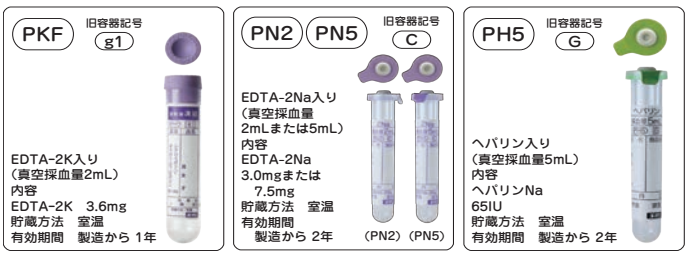
❶「特定薬剤治療管理料1」は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1.TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2.連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3.中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4.標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。



薬物検査

循環器用薬／精神神経用薬

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）（治療濃度範囲）	採血時刻	備考（製品名、薬剤名等）
循環器用薬	0496	ピルメノール 3L899-0000-022-204	血漿 1.3	PH5 ⬇ A00	冷蔵	4～10	❶ ㊖	HPLC	400.0以上 (ng/mL)	随時	ピメノール ※1
循環器用薬	0345	フレカイニド 3L905-0000-023-205 3L905-0000-022-205	血清 0.3	S7P ⬇ A00	冷蔵	4～6	❶ ㊖	LC/MS/MS	200～1000 (ng/mL)	次回投与直前（Trough濃度）	タンボコール ※1
循環器用薬	0345	フレカイニド 3L905-0000-023-205 3L905-0000-022-205	血漿 0.3	PH5 ⬇ A00	冷蔵	4～6	❶ ㊖	LC/MS/MS	200～1000 (ng/mL)	次回投与直前（Trough濃度）	タンボコール ※1
精神神経用薬	0321	ハロペリドール 3L300-0000-023-064	血清 0.5	S7P ⬇ A00	冷蔵	3～5	❶ ㊖	金コロイド凝集法	3～17 (ng/mL)	随時（ただし、採血時刻を一定とする）	ハロペリドール・ブロムペリドールは、ほぼ同等の交差反応を示すため、双方を併用されている患者検体の測定値は、各々の正確な血中濃度値とは合致しませんので、ご注意ください。セレネース、ハロマンス、リントン、ネオペリドール、ハロステン ※1
精神神経用薬	0322	ブロムペリドール 3L302-0000-023-064	血清 0.5	S7P ⬇ A00	冷蔵	3～5	❶ ㊖	金コロイド凝集法	至適血中濃度 15以下 (ng/mL)	随時（ただし、採血時刻を一定とする）	ハロペリドール・ブロムペリドールは、ほぼ同等の交差反応を示すため、双方を併用されている患者検体の測定値は、各々の正確な血中濃度値とは合致しませんので、ご注意ください。インプロメン、ルナプロン ※1
精神神経用薬	0323	緊急 リチウム 3L320-0000-023-271	血清 0.5	S7P ⬇ A00	冷蔵	3～5	❶ ㊖	比色法	治療濃度範囲 0.3 ～ 1.2 (mEq/L)	最終投与後12時間または早朝投与前（Trough濃度）	リーマス、リチオマール ※1

㊖：特定薬剤治療管理料（29ページ参照）

❶「特定薬剤治療管理料1」は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

採血時刻についての注意事項

1.TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2.連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3.中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4.標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）（治療濃度範囲）	採血時刻	備考（製品名、薬剤名等）
薬物（その他）	0300	アセトアミノフェン 3L005-0000-023-024	血清 0.4	S7P ↓ A00	冷蔵	3～9	❶ 180 ※4	EIA	中毒域 200.1以上（4時間） 100.1以上（8時間） 50.1以上（12時間） （μg/mL）		アセトアミノフェン、 ピリナジン、 ナパ ※1
	0486	緊急 テオフィリン 3M070-0000-023-024 3M070-0000-022-024	血清 0.5 血漿 0.5	S7P ↓ A00 PH5 ↓ A00	冷蔵	1～2	❷特 ❷特	EIA	10.0～20.0 （μg/mL）	☆下記参照	テオドール、 テオロング、 ユニフィル
	0354	緊急 サリチル酸 3M205-0000-023-271	血清 0.4	S7P ↓ A00	冷蔵	3～5	❷特	酵素法	抗炎症作用として 100～250 （μg/mL）	次回投与直前 （Trough濃度）	アスピリン、 バファリン ※1
	0A14	緊急 メトトレキサート 3M725-0000-023-052 3M725-0000-022-052	血清 0.7 血漿 0.7	S7P ↓ A00 PH5 ↓ A00	冷蔵 （35日）	3～5	❷特 ❷特	CLEIA	危険限界濃度： 24時間値 10以上 48時間値 1以上 72時間値 0.1以上 （μmol/L）	メトトレキサート・ ロイコボリン 救護療法時 24、48、72時間	メソトレキセート ※1
	0971	イマチニブ 3M750-0000-022-205	血漿 0.3	PN2、PN5 ↓ A00	冷蔵 （21日）	4～17	❷特	LC/MS/MS	（ng/mL）	服用後24時間 ±2時間後 （Trough濃度）	グリベック ※1

㊖：特定薬剤治療管理料（29ページ参照）

❶「アセトアミノフェン」は、同一の患者につき1月以内に2回以上行った場合は、第1回目の測定を行ったときに1回に限り算定する。
❷「特定薬剤治療管理料1」は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

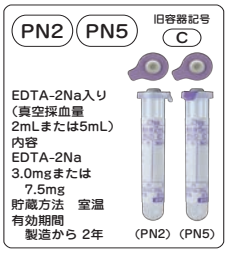
採血時刻についての注意事項

1.TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2.連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3.中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4.標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

☆経口・静注

経口：徐放性製剤では投与後4時間、裸錠では投与後2時間（Peak濃度）、次回投与直前（Trough濃度）
静注：負荷投与後30分、点滴開始後4～6時間、および12～18時間





特定薬剤治療管理料1

特定薬剤治療管理料1は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。

当社で取り扱っていない検査項目も掲載しております。

薬剤名	検査項目	特定薬剤治療管理料（同一患者月1回）		加算点（初回月）	備考
		1～3ヵ月	4ヵ月以降		
ジギタリス製剤 （心疾患）	ジゴキシン	470点	235点	280点	
抗てんかん剤 （てんかん）	フェノバルビタール、プリミドン、フェニトイン、カルバマゼピン、バルプロ酸ナトリウム、エトスクシミド、トリメタジオン、クロナゼパム、ニトラゼパム、ゾニサミド、ガバペンチン、クロバザム、レベチラセタム、ラモトリギン、トピラマート、スチリペントール、ルフィナミド、ペランパネル、ラコサミド、ジアゼパム、アセタゾラミド、ブリーバラセタム	470点	470点	280点	※1、2
免疫抑制剤 （臓器移植後）	シクロスポリン、タクロリムス水和物、エベロリムス、ミコフェノール酸モフェチル	470点	470点	2740点 （臓器移植を行った日の属する月を含め3月に限り加算）	※3、4
テオフィリン製剤 （気管支喘息、喘息性（様）気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫又は未熟児無呼吸発作）	テオフィリン	470点	235点	280点	
不整脈用剤 （不整脈）	プロカインアミド、N-アセチルプロカインアミド、ジソピラミド、キニジン、アプリンジン、リドカイン、ピルジカイニド塩酸塩、プロパフェノン、メキシレチン、フレカイニド、シベンゾリンコハク酸塩、ピルメノール、アミオダロン、ソタロール塩酸塩、ベプリジル塩酸塩	470点	235点	280点	
ハロペリドール製剤 ブロムペリドール製剤 （統合失調症）	ハロペリドール、ブロムペリドール	470点	235点	280点	
リチウム製剤 （躁うつ病）	リチウム	470点	235点	280点	
バルプロ酸ナトリウム又はカルバマゼピン （躁うつ病又は躁病）	バルプロ酸ナトリウム、カルバマゼピン	470点	470点	280点	
シクロスポリン（免疫抑制剤） （ベーチェット病（活動性・難治性眼症状を有するもの）、その他の非感染性ぶどう膜炎（既存治療で効果不十分で、視力低下のおそれのある活動性の中間部又は後部の非感染性ぶどう膜炎に限る。）、再生不良性貧血、赤芽球癆、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎（既存治療で十分な効果が得られない患者に限る。）、ネフローゼ症候群、川崎病の急性期）	シクロスポリン	470点	470点	280点	
タクロリムス水和物（免疫抑制剤） （全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎、潰瘍性大腸炎又は間質性肺炎（多発性筋炎又は皮膚筋炎に合併するものに限る。））	タクロリムス水和物	470点	470点	280点	
サリチル酸系製剤 （若年性関節リウマチ、リウマチ熱、慢性関節リウマチ）	サリチル酸	470点	235点	280点	
メトトレキサート （悪性腫瘍）	メトトレキサート	470点	235点	280点	
エベロリムス （結節性硬化症）	エベロリムス	470点	235点	280点	
アミノ配糖体抗生物質 ［入院中］	ゲンタマイシン、トブラマイシン、アミカシン、アルベカシン	470点	235点	280点	
グリコペプチド系抗生物質 ［入院中］	バンコマイシン、テイコプラニン	470点	235点	280点 （バンコマイシン除く）	※5
トリアゾール系抗真菌剤 ［入院中］	ボリコナゾール	470点	235点	280点	
トリアゾール系抗真菌剤 （重症又は難治性真菌感染症又は造血幹細胞移植（造血幹細胞移植の患者にあっては、深在性真菌症の予防を目的とするものに限る。））	ボリコナゾール	470点	235点	280点	
イマチニブ	イマチニブ	470点	235点	280点	
シロリムス製剤 （リンパ脈管筋腫症、難治性脈管腫瘍、難治性脈管奇形）	シロリムス	470点	235点	280点	
スニチニブ（抗悪性腫瘍剤） （腎細胞癌）	スニチニブ	470点	235点	280点	
バルプロ酸ナトリウム （片頭痛）	バルプロ酸ナトリウム	470点	235点	280点	
治療抵抗性統合失調症治療薬 （統合失調症）	クロザピン	470点	235点	280点	
ブスルファン	ブスルファン	470点	235点	280点	

※1：ジギタリス製剤の急速飽和を行った場合又はてんかん重積状態の患者に対して、抗てんかん剤の注射等を行った場合は、所定点数にかかわらず、１回に限り740点を算定する。
※2：てんかんの患者であって、2種類以上の抗てんかん剤を投与されているものについて、同一暦月に血中の複数の抗てんかん剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、当該管理を行った月において、2回に限り所定点数を算定できる。
※3：ミコフェノール酸モフェチルを投与している臓器移植後の患者であって、2種類以上の免疫抑制剤を投与されているものについて、医師が必要と認め、同一暦月に血中の複数の免疫抑制剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、6月に1回に限り250点を所定点数に加算する。
※4：エベロリムスを投与している臓器移植後の患者であって、2種類以上の免疫抑制剤を投与されているものについて、医師が必要と認め、同一暦月に血中の複数の免疫抑制剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、エベロリムスの初回投与を行った日の属する月を含め3月に限り月1回、4月目以降は4月に1回に限り250点を所定点数に加算する。
※5：入院中の患者であって、バンコマイシンを数日間以上投与しているものに対して、バンコマイシンの安定した血中至適濃度を得るため血中のバンコマイシンの濃度を複数回測定し、その測定結果に基づき、投与量を精密に管理した場合は、1回に限り、530点を所定点数に加算する。
※特定薬剤治療管理料２（サリドマイド製剤及びその誘導体）は省略しております。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血液一般・形態検査	1001	緊急 白血球数(WBC) 2A010-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2	❶ 21 ※3	自動化法	M 3900～9800 F 3500～9100 (/μL)	凍 溶 溶血・凝固・凍結検体は避けてください。 採血後直ちに4～5回軽く転倒混和して冷蔵保存してください。 (注)採血直後、直ちに転倒混和してください。転倒混和が不充分であったり、転倒混和するまで時間を要すると血液の部分凝固や目視では確認できないレベルの血液凝固が生じるため、検査結果に影響を及ぼします。 セットコード：9009 末梢血液一般 WBC、RBC、Hb、Ht、PLT
	1002	赤血球数(RBC) 2A020-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2			M 427～570 F 376～500 (×10⁴/μL)	
	1003	緊急 血色素量(Hb) 2A030-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2			M 13.5～17.6 F 11.3～15.2 (g/dL)	
	1004	ヘマトクリット値(Ht) 2A040-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2			M 39.8～51.8 F 33.4～44.9 (%)	
	1005	緊急 血小板数(PLT) 2A050-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2			M 13.1～36.2 F 13.0～36.9 (×10⁴/μL)	
	1006	平均赤血球容積(MCV) 2A060-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2			M 82.7～101.6 F 79.0～100.0 (fL)	
	1007	平均赤血球血色素量(MCH) 2A070-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2			M 28.0～34.6 F 26.3～34.3 (pg)	
	1008	平均赤血球血色素濃度(MCHC) 2A080-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2			M 31.6～36.6 F 30.7～36.6 (%)	
	1011	好酸球数 2A090-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2	❷ 17 ※3	自動化法	70～440 (/μL)	
	1012	網状赤血球数(RET) 2A110-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2	12 ※3	自動化法	M 2～27 F 2～26 (‰)	
	1013	末梢血液像 2A160-0000-019-309	血液 2.0 (EDTA-2K加)	PK2	冷蔵	1～2	❷ 15 ※3	自動化法	*桿状核球(Stab)：0.0～6.0 *分葉核球(Seg)：32.0～73.0 好中球(Neut)：41.2～75.4 好酸球(Eosino)：0.7～8.9 好塩基球(Baso)：0.2～1.8 単球(Mono)：4.6～11.8 リンパ球(Lym)：16.5～47.8 (%)	凍 溶 溶血・凝固・凍結検体は避けてください。 採血後直ちに4～5回軽く転倒混和して冷蔵保存してください。 (注1)採血直後、直ちに転倒混和してください。転倒混和が不充分であったり、転倒混和するまで時間を要すると血液の部分凝固や目視では確認できないレベルの血液凝固が生じるため、検査結果に影響を及ぼします。 (注2)幼若細胞または明らかな左方移動が認められた場合には＊桿状核球(Stab)及び＊分葉核球(Seg)をご報告します。

❶「末梢血液一般検査」は、赤血球数、白血球数、血色素測定(Hb)、ヘマトクリット値(Ht)、血小板数の全部又は一部を行った場合に算定する。
❷同一検体について、「好酸球数」及び「末梢血液像(自動機械法)」又は「末梢血液像(鏡検法)」を行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。



血液学的検査

血液一般・形態検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
血液一般・形態検査	1016	好中球アルカリフォスファターゼ（AL-P染色スコアー） 2A180-0000-034-612	血液塗抹標本3枚	Z10	室温	2〜3	52（加算）	朝長法	rate：70以上（%） score：200〜320	塗抹標本作製後、直ちに冷風乾燥。30分以内に−3〜−5°Cの固定液〔ホルマリン原液10mL＋純メタノール90mL＋1%酢酸1mL〕（pH4.8）で5秒間固定、流水で15〜30秒水洗、冷風乾燥してご提出ください。
	1020	鼻汁中好酸球 2A300-0000-063-604	鼻汁塗抹標本1枚	Z10	室温	1〜2	15 ※3	鏡検法	（−）	

[1016]好中球アルカリフォスファターゼ（AL-P染色スコアー）について

標本は新鮮血で作製し、抗凝固剤は使用しないでください。
固定液は『毒物及び劇物取締法』の管理対象に該当しますので、お客様でのご準備をお願い致します。
材料骨髄での検査は実施しておりません。
同時に複数検体をご依頼いただく場合は、所要日数が変動する場合かございます。あらかじめご了承ください。

Z10　旧容器記号 t



[オブジェクトケース]
プレパラート
（スライドグラス）
貯蔵方法　室温

PC2　旧容器記号 K



3.2%クエン酸
ナトリウム入り
（真空採血量1.8mL）
内容
3.2%クエン酸Na
0.2mL
貯蔵方法　室温
有効期間　製造から 1年
（25本入りプラスティック
ケース開封後1ヵ月）



3.2%クエン酸
ナトリウム入り
（真空採血量2.7mL）
内容
3.2%クエン酸Na
0.3mL
貯蔵方法　室温
有効期間　製造から 1年

U90　旧容器記号 b2

抗プラスミン剤入り
内容
アプロチニン
　精製ゼラチン
　デヒドロ酢酸
　ナトリウム
貯蔵方法　室温
有効期間
　製造から 2年
（アルミ包装
開封後1週間）



	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
凝固・線溶関連検査	8105	活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT) 2B020-0000-022-311	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2→A00	凍結	1～2	29 ※3	凝固時間測定法	24.3～36.0 (秒)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。
	1207	緊急 プロトロンビン時間(PT) 2B030-0000-022-311	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2→A00	凍結	1～2	18 ※3	凝固時間測定法	秒 10.5～13.5 (秒) % 70～130 (%) 比 0.85～1.15	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 抗凝固療法の治療管理指標である国際標準化比(INR)もご報告いたします。
	1030	フィブリノゲン(FIB) 2B100-0000-022-311	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2→A00	凍結	1～2	23 ※3	凝固時間測定法	150～400 (mg/dL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。
	1281	可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC) 2B110-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.4	PC2→A00	凍結(21日)	3～5	93 ※3	LPIA	7未満 (－) (μg/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1
	1118	フィブリンモノマー複合体定量 2B110-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2→A00	凍結(21日)	3～5	❶ 215 ※3	ラテックス免疫比濁法	6.1以下 (μg/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1
	1032	FDP定量 2B120-0000-022-062 2B120-0000-001-062	速やかに遠心 血漿 0.3	PC2→A00	凍結(21日)	1～2	95 ※3	ラテックス免疫比濁法	5未満 (μg/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。
	1180		部分尿(遠心後上清) 0.5	U90→A00		3～7	77 ※1	LPIA	100以下 (ng/mL)	新鮮尿2.0mLを専用容器(U90)に注入し、よく混和後、3000rpm 5～10分間遠心分離してください。 遠心後の上清0.5mLを提出容器(A00)に分注し、提出ください。
	1035	Dダイマー 2B140-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2→A00	凍結(21日)	1～2	127 ※3	ラテックス免疫比濁法	1.0未満 (μg/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。
	1185	プロトロンビンフラグメントF1+2 2B170-0000-022-023	速やかに遠心 血漿 0.3	PC2→A00	凍結(21日)	3～6	❶ 192 ※3	ELISA	69～229 (pmol/L)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1
	1042	アンチトロンビン(AT) 2B200-0000-022-315	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2→A00	凍結(1ヵ月)	3～5	70 ※3	発色性合成基質法	79～121 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1
	1024	トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT) 2B210-0000-022-052	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2→A00	凍結(21日)	3～5	❶ 166 ※3	CLEIA	3.0以下 (ng/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1
	1045	プラスミノゲン 2B260-0000-022-315	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2→A00	凍結	3～5	100 ※3	発色性合成基質法	75～125 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1
	1046	アンチプラスミン(α2プラスミンインヒビター) 2B270-0000-022-315	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2→A00	凍結(1ヵ月)	3～5	128 ※3	発色性合成基質法	85～115 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1
	1047	α2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PICテスト) 2B280-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.2	PC2→A00	凍結(21日)	3～5	150 ※3	LPIA	0.8以下 (μg/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1
	1094	トータルPAI-1(tPA・PAI-1複合体) 2B310-0000-022-062	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	PC2→A00	凍結(21日)	3～5	240 ※3	LPIA	50以下 (ng/mL)	採血後、速やかに低温(4℃)で血漿分離してください。室温遠心や専用容器(PC5)での採血はデータが高値となるため避けてください。 速やかに分離できない場合は、氷水中に保存し、1時間以内に血漿分離してください。 測定対象はトータルPAI-1(tPA・PAI-1複合体および活性型、潜在型PAI-1)です。 ※1

❶「トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)」、「プロトロンビンフラグメントF1+2」及び「フィブリンモノマー複合体」のうちいずれか複数を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

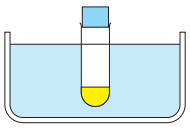
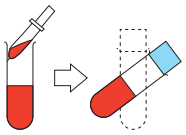
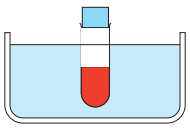
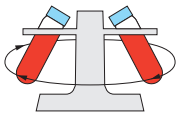
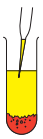
凝固・線溶関連検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
凝固・線溶関連検査	1A00	第Ⅷ因子(F8)〔合成基質法〕 2B390-0000-022-315	速やかに遠心 血漿 各 0.3	PC2 ↓ A00	凍結(7日)	3～7	223 ※3	合成基質法	60～140 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。
	1268	第Ⅸ因子(F9)〔合成基質法〕 2B400-0000-022-315			凍結(28日)		223 ※3			
	1053	凝固因子活性検査 第Ⅱ因子(F2) 2B350-0000-022-311	速やかに遠心 血漿 各 0.4		凍結(21日)	3～5	223 ※3	凝固時間法	75～135 (%)	
	1054	第Ⅴ因子(F5) 2B370-0000-022-311					223 ※3		70～135 (%)	
	1055	第Ⅶ因子(F7) 2B380-0000-022-311					223 ※3		75～140 (%)	
	1056	第Ⅷ因子(F8) 2B390-0000-022-311					223 ※3		60～150 (%)	
	1057	第Ⅸ因子(F9) 2B400-0000-022-311					223 ※3		70～130 (%)	
	1058	第Ⅹ因子(F10) 2B410-0000-022-311					223 ※3			
	1059	第Ⅺ因子(F11) 2B420-0000-022-311					223 ※3		75～145 (%)	
	1060	第Ⅻ因子(F12) 2B430-0000-022-311					223 ※3		50～150 (%)	
	1061	第XIII因子(F13) 2B440-0000-022-315					223 ※3	合成基質法	70～140 (%)	※1
	0C49	フォン・ウィルブランド因子抗原定量 2B450-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.2	PC2 ↓ A00	凍結(21日)	3～5	147 ※3	ラテックス免疫比濁法	非O型：66～176 O型：42～141 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1
	1063	因子凝固検抑査制 第Ⅷ(8)因子 2B460-0000-022-311	速やかに遠心 血漿 各 1.0	PC5 ↓ A00	凍結	3～5	144 ※3	ベセスダ法	検出せず (ベセスダU/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1
	1064	第Ⅸ(9)因子 2B470-0000-022-311			凍結(21日)		144 ※3			
	0C34	フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター) 2B480-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2 ↓ A00	凍結(21日)	3～5	126 ※3	ラテックス免疫比濁法	非O型：61～240 O型：48～202 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1
	1963	ADAMTS13-活性 2B495-0000-022-023	速やかに遠心 血漿 0.3	PC2 ↓ A00	凍結(28日)	3～6	❶ 400 ※3	ELISA	0.10以上 (IU/mL) 10以上 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)の判定基準：0.10未満(IU/mL)、10未満(%) 参考基準範囲：0.78～1.57 IU/mL ※1
	1964	ADAMTS13インヒビター 2B496-0000-022-023	速やかに遠心 血漿 0.6				❷ 1000 ※3		0.5未満 (BU/mL) (－)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 後天性血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)の判定基準：0.5以上(BU/mL) (＋) ※1

❶ADAMTS13活性
ア「ADAMTS13活性」は、他に原因を認めない血小板減少を示す患者に対して、血栓性血小板減少性紫斑病の診断補助を目的として測定した場合又はその再発を疑い測定した場合に算定できる。
イ 血栓性血小板減少性紫斑病と診断された患者又はその再発が認められた患者に対して、診断した日又は再発を確認した日から起算して1月以内の場合には、1週間に1回に限り別に算定できる。なお、血栓性血小板減少性紫斑病と診断した日付又はその再発を確認した日を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
ウ 血栓性血小板減少性紫斑病に対し、血漿交換療法、免疫抑制療法及びカプラシズマブ製剤による治療を行った際に治療の継続の要否を判定することを目的として測定を行った場合、30日間を超えた場合でも、1週間に1回に限り別に算定できる。なお、その医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

❷ADAMTS13インヒビター
ア「ADAMTS13インヒビター」は、ADAMTS13活性の著減を示す患者に対して、血栓性血小板減少性紫斑病の診断補助を目的として測定した場合又はその再発を疑い測定した場合に算定できる。
イ 後天性血栓性血小板減少性紫斑病と診断された患者又はその再発が認められた患者に対して、診断した日又は再発を確認した日から起算して1月以内の場合には、1週間に1回に限り別に算定できる。なお、後天性血栓性血小板減少性紫斑病と診断した日付又はその再発を確認した日を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
凝固・線溶関連検査	1071	β-トロンボグロブリン（β-TG） 2B600-0000-022-023	速やかに 冷却遠心 乏血小板血漿 0.3	PBT ⇩ A00	凍結（1ヵ月）	3～10	171 ※3	EIA	50以下 （ng/mL）	検体採取方法は下記をご参照ください。 ※1
	1072	血小板第4因子（PF-4） 2B620-0000-022-023	速やかに 冷却遠心 乏血小板血漿 0.3	PBT ⇩ A00	凍結（1ヵ月）	3～10	173 ※3	EIA	20以下 （ng/mL）	検体採取方法は下記をご参照ください。 ※1

容器形態	検査項目	保存	採取方法		注意事項
PBT 旧容器記号 Q  （真空採血禁止） 抗血小板剤入り 内容 テオフィリン アデノシン ジピリダモール クエン酸ナトリウム クエン酸 貯蔵方法 遮光・冷蔵 有効期間 製造から 1年	β-トロンボグロブリン（β-TG）	凍結		あらかじめ専用容器（PBT）を冷却しておいてください。	砕氷水の水面より専用容器中の液面が下になるようにしてください。角氷は使用しないでください。
				できるだけ20ゲージ（19～21ゲージでも可）の針を用いたプラスティック注射器で血液3.0mLを採取してください。（採血にあたって、専用容器（PBT）を使用しての直接採血は絶対にしないでください。）	真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないでください。また、駆血帯も使用しないでください。10mL以上の採血は避け、出来るだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取してください。
				針を取って静かに専用容器（PBT）のフタを開け、血液2.7mLを静かに移し、ゆっくり2～3回転倒混和してください。	指定の専用容器以外は使用しないでください。 専用容器は振とうさせないでください。
				専用容器を速やかに砕氷と水の入ったラックに入れてください。	砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにしてください。
			以上の操作を2分以内に行ってください。		
	血小板第4因子（PF-4）			砕氷水に15～30分間放置後、採取血液を2,000Gで30分間、2～4℃で遠心分離してください。（右表は2,000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。） ＊遠心機回転数の計算式 $G=1.118\times10^{-5}\times r\times n^2$ r：遠心機のローター半径（cm） n：1分間あたりの回転数（rpm）	1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。 換算表 半径（cm） 回転数（rpm） 半径（cm） 回転数（rpm） 10 4200 22 2800 12 3800 24 2700 14 3500 26 2600 16 3300 28 2500 18 3100 30 2400 20 3000
				上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで1項目につき0.3mL検体容器へ採取してください。 血餅に近い部分からの採取は絶対に避けてください。 （血漿の全量採取は避けてください。） 検体は必ず凍結保存してください。 （1ヵ月安定）	



凝固・線溶関連検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
凝固・線溶関連検査	1073	プロテインC（抗原量） 2B700-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.3	PC2 ↓ A00	凍結	3～5	220 ※3	LPIA	70～150 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1
	1074	プロテインC活性 2B700-0000-022-311	速やかに遠心 血漿 0.4	PC2 ↓ A00	凍結	3～5	227 ※3	凝固時間法	64～146 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1
	1075	プロテインS（抗原量） 2B710-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.2	PC2 ↓ A00	凍結 （21日）	3～5	152 ※3	ラテックス凝集反応	M 73～137 F 59～143 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 測定対象はトータル（遊離型および複合体型）です。 ※1
	1077	プロテインS活性 2B710-0000-022-311	速やかに遠心 血漿 0.4	PC2 ↓ A00	凍結	3～5	163 ※3	凝固時間法	M 67～164 F 56～126 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1
	1076	プロテインS（遊離型抗原量） 2B711-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.2	PC2 ↓ A00	凍結 （21日）	3～5	152 ※3	ラテックス凝集反応	M 50～131 F 49～133 (%)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1
	5765	トロンボモジュリン 2B730-0000-023-052 2B730-0000-022-052	血清 0.4	S09 ↓ A00	凍結 （21日）	3～5	204 ※3	CLEIA	12.1～24.9 (U/mL)	※1
			速やかに遠心 血漿 0.4	PC2 ↓ A00			204 ※3		8.7～22.7 (U/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1



	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
視床下部・下垂体ホルモン	2001	成長ホルモン（GH） 4A010-0000-023-053	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	104 ※5	ECLIA	M 2.47以下 F 0.13～9.88 （ng/mL）	※1
	7915	IGF-1（ソマトメジンC）SDスコア 4A015-0000-023-053	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵（7日）	3～5	❶ 212 ※5	ECLIA	下記参照 （ng/mL） -2SD ～ +2SD （SD）	年齢および性別を明記してください。 ※1
	2212	プロラクチン 4A020-0000-023-053	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	1～2	98 ※5	ECLIA	男性 4.29～13.69 閉経前女性 4.91～29.32 閉経後女性 3.12～15.39 （ng/mL）	

❶「インスリン様成長因子結合蛋白3型(IGFBP-3)」を「ソマトメジンC」と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

[7915]IGF-1(ソマトメジンC)SDスコアの報告内容について

SDスコアはSDスコア(+)もしくは(-)のいずれかにご報告いたします。報告に該当しない場合、「******」となります。

[7915]IGF-1(ソマトメジンC)SDスコア 年齢別・性別における基準値

（単位：ng/mL）

年齢(歳)	男性	女性	年齢(歳)	男性	女性	年齢(歳)	男性	女性
0	11 ～ 149	15 ～ 154	27	116 ～ 322	141 ～ 328	54	84 ～ 239	76 ～ 211
1	14 ～ 148	23 ～ 186	28	114 ～ 315	137 ～ 320	55	84 ～ 238	75 ～ 210
2	18 ～ 154	32 ～ 213	29	111 ～ 309	133 ～ 312	56	83 ～ 237	74 ～ 208
3	24 ～ 164	40 ～ 227	30	109 ～ 303	129 ～ 304	57	82 ～ 236	73 ～ 207
4	32 ～ 176	48 ～ 238	31	107 ～ 297	126 ～ 297	58	81 ～ 235	72 ～ 205
5	44 ～ 193	56 ～ 252	32	105 ～ 292	122 ～ 290	59	80 ～ 233	71 ～ 203
6	55 ～ 215	69 ～ 287	33	103 ～ 287	119 ～ 283	60	79 ～ 232	70 ～ 201
7	63 ～ 247	89 ～ 357	34	102 ～ 283	115 ～ 277	61	77 ～ 230	69 ～ 198
8	72 ～ 292	111 ～ 438	35	100 ～ 279	112 ～ 271	62	76 ～ 228	68 ～ 196
9	84 ～ 350	133 ～ 517	36	99 ～ 275	109 ～ 265	63	75 ～ 226	66 ～ 194
10	99 ～ 423	155 ～ 588	37	97 ～ 272	106 ～ 260	64	73 ～ 224	65 ～ 191
11	113 ～ 499	175 ～ 638	38	96 ～ 269	103 ～ 254	65	72 ～ 221	64 ～ 188
12	125 ～ 557	188 ～ 654	39	95 ～ 266	100 ～ 250	66	70 ～ 219	62 ～ 186
13	133 ～ 579	193 ～ 643	40	94 ～ 263	98 ～ 245	67	68 ～ 216	61 ～ 183
14	138 ～ 570	193 ～ 625	41	94 ～ 261	95 ～ 240	68	66 ～ 213	60 ～ 180
15	141 ～ 552	192 ～ 614	42	93 ～ 259	93 ～ 236	69	65 ～ 209	59 ～ 177
16	142 ～ 543	192 ～ 611	43	92 ～ 257	90 ～ 233	70	63 ～ 206	57 ～ 175
17	142 ～ 540	191 ～ 599	44	92 ～ 255	88 ～ 229	71	61 ～ 202	56 ～ 172
18	142 ～ 526	188 ～ 574	45	91 ～ 253	87 ～ 226	72	58 ～ 198	55 ～ 170
19	143 ～ 501	182 ～ 539	46	90 ～ 250	85 ～ 224	73	56 ～ 194	54 ～ 167
20	142 ～ 470	175 ～ 499	47	90 ～ 250	83 ～ 221	74	54 ～ 190	53 ～ 165
21	139 ～ 436	168 ～ 459	48	89 ～ 248	82 ～ 219	75	52 ～ 185	52 ～ 163
22	135 ～ 405	161 ～ 425	49	88 ～ 246	81 ～ 218	76	50 ～ 181	50 ～ 160
23	131 ～ 379	155 ～ 397	50	87 ～ 245	80 ～ 216	77	48 ～ 177	49 ～ 158
24	128 ～ 356	151 ～ 375	51	87 ～ 243	79 ～ 215	78	45 ～ 172	48 ～ 155
25	125 ～ 337	147 ～ 358	52	86 ～ 242	78 ～ 213	79	43 ～ 167	44 ～ 152
26	119 ～ 329	146 ～ 336	53	85 ～ 240	77 ～ 212	80以上	41 ～ 163	43 ～ 149

視床下部・下垂体ホルモン

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
視床下部・下垂体ホルモン	2007	副腎皮質刺激ホルモン(ACTH) 4A025-0000-022-053	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	PN2,PN5 ↓ A00	凍結(21日)	3～5	184 ※5	ECLIA	午前7時～10時 7.2～63.3 (pg/mL)	溶 ACTHはEDTA濃度増加により測定値が低下するため、容器の指定容量を採取してください。採血後、速やかに血漿分離してください。 ※1
	2213	黄体形成ホルモン(LH) 4A030-0000-023-053	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	105 ※5	ECLIA	下記参照	性別を明記してください。
	2214	卵胞刺激ホルモン(FSH) 4A035-0000-023-053	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	105 ※5	ECLIA	下記参照	性別を明記してください。
	5193	甲状腺刺激ホルモン(TSH)〔CLEIA〕IFCC 4A056-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵(21日)	1～2	98 ※5	CLEIA	0.61～4.23 (μIU/mL)	
	2401	抗利尿ホルモン(AVP) 4A070-0000-022-001	速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	PN7 ↓ A00	凍結	6～8	224 ※5	RIA2抗体法	水制限 4.0以下 自由飲水 2.8以下 (pg/mL)	溶 採血後、速やかに血漿分離してください。 溶血でのご依頼は避けてください。 ※1

[2213]黄体形成ホルモン(LH)基準値

(単位：mIU/mL)

女性	卵胞期前半 卵胞期後半	1.4～15
	排卵期	8～100
	黄体期	0.5～15
	閉経後	11～50
男性		2.2～8.4

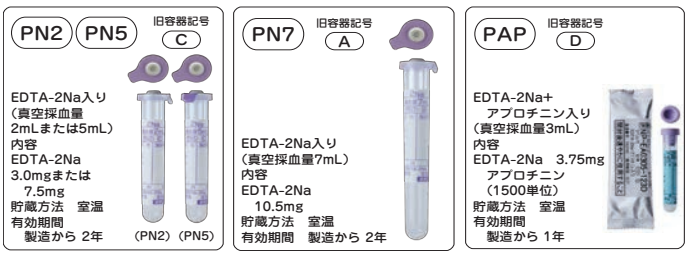
[2214]卵胞刺激ホルモン(FSH)基準値

(単位：mIU/mL)

女性	卵胞期前半 卵胞期後半	3～10
	排卵期	5～24
	黄体期	1.3～6.2
	閉経後	26～120
男性		1.8～12

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
甲状腺ホルモンおよび結合蛋白	5167	トリヨードサイロニン(T_3)〔CLEIA〕 4B010-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵(21日)	3～5	99 ※5	CLEIA	0.62～1.16 (ng/mL)	※1
	5168	遊離トリヨードサイロニン(Free T_3)〔CLEIA〕 4B015-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵(21日)	1～2	121 ※5	CLEIA	2.52～4.06 (pg/mL)	
	5169	サイロキシン(T_4)〔CLEIA〕 4B030-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵(21日)	3～5	105 ※5	CLEIA	4.53～8.38 (μg/dL)	※1
	5171	遊離サイロキシン(Free T_4)〔CLEIA〕 4B035-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵(21日)	1～2	121 ※5	CLEIA	0.75～1.45 (ng/dL)	
	2026	サイログロブリン 4B040-0000-023-053	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	1～2	128 ※5	ECLIA	33.7以下 (ng/mL)	
	2450	サイロキシン結合グロブリン(TBG) 4B045-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	130 ※5	CLEIA	14～31 (μg/mL)	※1
副甲状腺ホルモン	2031	副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト 4C025-0000-023-053 4C025-0000-022-053	冷却遠心 血清 0.5 冷却遠心 血漿 0.5	S09 ⬇ A00 PN2,PN5 ⬇ A00	冷蔵(21日) 冷蔵	1～2	161 ※5	ECLIA	10～65 (pg/mL)	不
	4053	副甲状腺ホルモン(Whole PTH) 4C026-0000-022-052	血漿 0.5	PN2,PN5 ⬇ A00	冷蔵(14日)	3～5	161 ※5	CLEIA	8.3～38.7 (pg/mL)	※1
	2032	副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP) 4C030-0000-022-006	冷却遠心 血漿 0.5	PAP ⬇ A00	凍結(7日)	6～8	❶ 185 ※5	RIA固相法(IRMA)	1.1以下 (pmol/L)	不 ※1
	2034	カルシトニン 4C035-0000-023-053	速やかに遠心 血清 0.5	S09 ⬇ A00	凍結	3～5	127 ※5	ECLIA	M 9.52以下 F 6.40以下 (pg/mL)	速やかに血清分離後、凍結保存してください。 ※1

❶「副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント(C-PTHrP)」又は「副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)」は、高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合に限り算定する。



副腎皮質ホルモンおよび結合蛋白

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
副腎皮質ホルモンおよび結合蛋白	2040	血中11-OHCS 4D035-0000-023-282	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～9	60 ※5	蛍光法（De Moor変法）	午前10時採血 7.0～23.0（μg/dL）	※1
	2041	コルチゾール 4D040-0000-022-053 4D040-0000-023-053	血漿 0.5	PN2, PN5 ⬇ A00	凍結（21日）	1～2	121 ※5	ECLIA	午前6時～10時 7.07～19.6（μg/dL）	
			血清 0.5	S09 ⬇ A00	凍結		121 ※5			
	7960	尿中コルチゾール 4D045-0000-004-051	蓄尿 5	A00	冷蔵（21日）	3～7	121 ※5	CLIA	4.3～176（μg/day）	酸 非抱合型コルチゾールの測定となります。 ※1
	2049	デヒドロエピアンドロステロンサルフェート（DHEA-S） 4D090-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	164 ※5	CLEIA	下記参照	性別、年齢を明記してください。 ※1

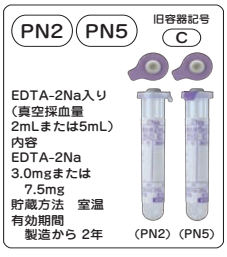
[2049]デヒドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)基準値

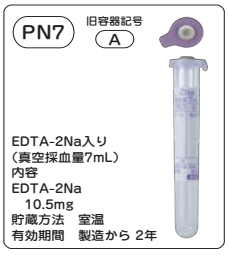
（単位：μg/dL）

年齢(歳)	男　性	女　性
18～20	24～537	51～321
21～30	85～690	18～391
31～40	106～464	23～266
41～50	70～495	19～231
51～60	38～313	8～188
61～70	24～244	12～133
71～	5～253	7～177

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
副腎髄質ホルモン	2055	カテコールアミン総 4E010-0000-004-204	酸性蓄尿 2	U00	冷蔵（28日）	5～7	184 ※5	HPLC	52.0～195.3（μg/day）	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響が見られますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 ※1
	2056	カテコールアミン3分画 A:アドレナリン NA:ノルアドレナリン DA:ドーパミン 4E016-0000-022-204 4E016-0000-041-204 4E016-0000-004-204	速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	PN7 ⇩ A00	凍結（1ヵ月）	5～7	161 ※5	HPLC	アドレナリン 100以下 ノルアドレナリン 100～450 ドーパミン 20以下（pg/mL）	※1
			髄液 1.5	A00	凍結		161 ※5		（pg/mL）	
			酸性蓄尿 2	U00	冷蔵（28日）		161 ※5		アドレナリン 3.4～26.9 ノルアドレナリン 48.6～168.4 ドーパミン 365.0～961.5（μg/day）	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響が見られますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 ※1
	2432	メタネフリン・ノルメタネフリン分画（クレアチニン換算値） 4E040-0000-001-205	部分尿 2.0	U00	冷蔵	5～7	❶ 220 ※5	LC/MS/MS	メタネフリン クレアチニン換算値 0.04 ～ 0.22 ノルメタネフリン クレアチニン換算値 M 0.09 ～ 0.32 F 0.13 ～ 0.41（μg/mg･CRE）	メタネフリン・ノルメタネフリン分画をクレアチニン換算する項目コードです。本検査をご依頼の際には、必ず「0503：クレアチニン(換算用)」もあわせてご依頼ください。褐色細胞腫・パラガングリオーマのスクリーニングにおける本検査のカットオフは「正常上限の3倍以上の増加」とすることが「褐色細胞腫・パラガングリオーマ診療ガイドライン2025」で推奨されています。本検査における「基準値」の範囲とカットオフが異なる点にご注意ください。 ※1
	2430	メタネフリン・ノルメタネフリン分画 4E040-0000-004-205	酸性蓄尿 2	U00	冷蔵（28日）	5～7	❶ 220 ※5	LC/MS/MS	メタネフリン 0.04～0.19 ノルメタネフリン 0.09～0.33（mg/day）	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響が見られますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。メタネフリン総(mg/day)も報告いたします。 ※1
	2062	L-ドーパ 4E045-0000-022-204	速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	PN7 ⇩ A00	凍結	6～19		HPLC	1.2～2.2（ng/mL）	※1
	2063	ドーパミン総 4E050-0000-022-204 4E050-0000-041-204	速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	PN7 ⇩ A00	凍結	6～19		HPLC	1.8～7.7（ng/mL）	※1
			髄液 1.5	A00					（ng/mL）	

❶「メタネフリン」、「メタネフリン・ノルメタネフリン分画」、「ノルメタネフリン」又は「遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画」のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。





副腎髄質ホルモン

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
副腎髄質ホルモン	2064	HVA 4E055-0000-022-204 4E055-0000-041-204 4E055-0000-004-204	血漿 1.5	PN7 ⬇ A00	冷蔵(21日)	5～7	69 ※5	HPLC	4.4～15.1 (ng/mL)	※1
			髄液 1.5	A00			69 ※5		(ng/mL)	
			酸性蓄尿 1.5	U00	冷蔵(28日)		69 ※5		2.1～6.3 (mg/day)	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響が見られますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 ※1
	2065	VMA 4E060-0000-022-204 4E060-0000-004-204	血漿 1.5	PN7 ⬇ A00	冷蔵(21日)	5～7	90 ※5	HPLC	3.3～8.6 (ng/mL)	※1
			酸性蓄尿 1.5	U00	冷蔵(28日)		90 ※5		1.5～4.3 (mg/day)	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響が見られますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 ※1
	2067	セロトニン 4E065-0000-019-204 4E065-0000-022-204	血液 1.0 (EDTA-2Na加)	PN2,PN5 ⬇ A00	凍結	4～17		HPLC	57～230 (ng/mL)	(検体のご提出について)血液はポリスピッツに移し替え必ず凍結保存にてご提出ください。 ※1
			速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	PN7 ⬇ A00					P(血漿) 0.04～0.35 PRP(多血小板血漿) 0.17～0.62 (μg/mL)	P:低温(4℃)で1500rpm 10分間血漿分離 PRP:低温(4℃)で900rpm 20分間血漿分離 ※1
	2068	5-HIAA 4E070-0000-022-204 4E070-0000-041-204 4E070-0000-004-204	血漿 1.5	PN7 ⬇ A00	冷蔵(25日)	5～7	95 ※5	HPLC	1.8～6.1 (ng/mL)	※1
			髄液 1.5	A00			95 ※5		(ng/mL)	
			酸性蓄尿 0.5	U00	冷蔵(28日)		95 ※5		1.0～6.0 (mg/day)	所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響が見られますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。 ※1

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
性腺・胎盤ホルモンおよび結合蛋白	2307	エストラジオール(E_2) 4F025-0000-023-053	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	1～2	❶167 ※5	ECLIA	下記参照	性別を明記してください。また妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。
	2308	プロゲステロン 4F045-0000-023-053	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	1～2	139 ※5	ECLIA	下記参照	性別を明記してください。また妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。
	2085	プレグナンジオール 4F055-0000-004-203	蓄尿 12	U20	冷蔵(28日)	6～8	213 ※5	Gas Chromatography-Mass Spectrometry (GC/MS)法 (酵素水解法)	下記参照	性別を明記してください。 ※1
	2086	プレグナントリオール 4F060-0000-004-203	蓄尿 12	U20	冷蔵(28日)	6～8	232 ※5	Gas Chromatography-Mass Spectrometry (GC/MS)法 (酵素水解法)	下記参照	性別を明記してください。 ※1
	2309	テストステロン 4F065-0000-023-053	血清 0.4	S09⬇A00	冷蔵	3～5	119 ※5	ECLIA	M 1.31～8.71 F 0.11～0.47 (ng/mL)	性別を明記してください。 ※1
	2407	フリーテストステロン〔RIA〕 4F070-0000-023-005	血清 0.3	S09⬇A00	凍結	3～7	156 ※5	RIA固相法	下記参照	午前中に採血してください。性別、年齢を明記してください。 ※1

❶「エストロゲン半定量」又は「エストロゲン定量」については、「エストリオール(E_3)」又は「エストラジオール(E_2)」と同時に実施した場合は算定できない。

[2307]エストラジオール(E_2)基準値

(単位：pg/mL)

非妊婦	女性	卵胞期	28.8～196.8
		排卵期	36.4～525.9
		黄体期	44.1～491.9
		閉経後	47.0以下
	男性		14.6～48.8
妊婦		妊娠初期	208.5～4289
		妊娠中期	2808～28700
		妊娠後期	9875～31800

[2308]プロゲステロン基準値

(単位：ng/mL)

非妊婦	女性	卵胞期	0.28以下
		排卵期	5.69以下
		黄体期	2.05～24.2
		閉経後	0.33以下
	男性		0.22以下
妊婦		妊娠初期(4～13週)	13.0～51.8
		妊娠中期(14～27週)	24.3～82.0
		妊娠後期(28～38週)	63.5～174

[2085]プレグナンジオール基準値

(単位：mg/day)

非妊婦	卵胞期	0.28 ～ 1.42
	黄体期	0.79 ～ 6.83
男性		0.16 ～ 0.79
妊婦	前期	1.29 ～ 6.08
	中期	3.05 ～ 24.22
	後期	9.10 ～ 60.51

[2086]プレグナントリオール基準値

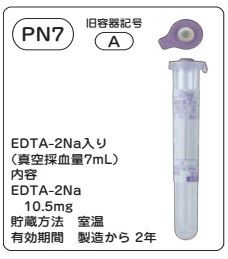
(単位：mg/day)

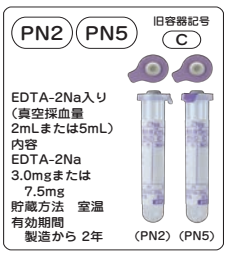
女性	卵胞期	0.13 ～ 1.30
	分泌期	0.13 ～ 1.90
	閉経後	0.02 ～ 0.83
男性		0.13 ～ 1.60

[2407]フリーテストステロン〔RIA〕年齢別・性別における基準値(メーカー参考値)

(単位：pg/mL)

年齢	男性	女性
20～29	7.6～23.8	0.4～2.3
30～39	6.5～17.7	0.6～2.5
40～49	4.7～21.6	0.3～1.8
50～59	4.6～19.6	0.8～1.7
60～69	5.3～11.5	
70以上	4.6～16.9	







内分泌学的検査

性腺・胎盤ホルモンおよび結合蛋白／膵・消化管ホルモン

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
性腺・胎盤ホルモンおよび結合蛋白	0C85	絨毛性ゴナドトロピン(βHCG) 4F080-0000-023-052	血清 0.5	S09→A00	冷蔵(21日)	3～5	①130 ※5	CLEIA	4.0以下 (mIU/mL)	トータルのHCGを測定しています。抗体はHCG-βを認識しています。絨毛性疾患の診断、予後管理に有用です。絨毛性疾患取り扱い規約 第3版 2011年(日本産科婦人科学会 / 日本病理学会)における推奨方法です。 ※1
	0A98	遊離HCG-β(HCG-βサブユニット) 4F090-0000-023-051	血清 0.5	S09→A00	冷蔵(21日)	3～5	①② 129 ※5	CLIA	1.00未満 (ng/mL)	※1
	2452	抗ミュラー管ホルモン(AMH)〔CLEIA〕 4F100-0000-023-052	血清 0.5	S09→A00	冷蔵(21日)	3～5	③597 ※5	CLEIA	下記参照	※1
膵・消化管ホルモン	2223	インスリン 4G010-0000-023-052	血清 0.5	S09→A00	冷蔵	1～2	100 ※5	CLEIA	負荷前 1.84～12.2 (μIU/mL)	溶
	2100	C-ペプチド(CPR) 4G020-0000-023-052 4G020-0000-004-052	血清 0.4	S09→A00	冷蔵	1～2	④105 ※5	CLEIA	負荷前 0.61～2.09 (ng/mL)	
			蓄尿 1	U00	凍結(20日)		④105 ※5		29.2～167 (μg/day)	重 酸 蓄尿は冷蔵保管しながら行うかあらかじめ専用保存剤を蓄尿容器に一袋全量(10g/袋 最終濃度約0.5%)を入れて蓄尿を行ってください。他項目との重複依頼は避けてください。
	0C86	膵グルカゴン 4G030-0000-022-023	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	PAP→A00	凍結(28日)	6～12	150 ※5	ELISA	空腹時 8.8～45.2 (pg/mL)	重 溶 指定の容器(PAP)に採血し、よく混和させ、1時間以内に低温(4℃)で血漿分離し、ただちに凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。溶血でのご依頼は避けてください。 ※1
	7959	ガストリン 4G040-0000-023-002	血清 0.5	S09→A00	凍結(21日)	3～9	380 ※5	RIA PEG法	11.9 ～ 46.9 (pmol/L)	安静、空腹時(10時間以上空ける)に採血してください。血清分離後、速やかに凍結保存してください。 ※1

①「ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)」、「ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定性」、「ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量」又は「ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量」を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
②「ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)」は、HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合に限り算定できる。
③「抗ミュラー管ホルモン(AMH)」は、不妊症の患者に対して、卵巣の機能の評価及び治療方針の決定を目的として、血清又は血漿を検体としてEIA法、CLEIA法、ECLIA法又はCLIA法により測定した場合に、6月に1回に限り算定できる。また、多嚢胞性卵巣症候群が疑われる患者であって、超音波検査では診断が困難な患者に対して、多嚢胞性卵巣症候群の診断の補助を目的として、上記の方法により測定した場合に、診断時に1回に限り算定できる。
④「C-ペプチド(CPR)」を同時に血液及び尿の両方の検体について測定した場合は、血液の場合の所定点数のみを算定する。

[2452]抗ミュラー管ホルモン(AMH)〔CLEIA〕について

基準値

(単位：ng/mL)

女性	22 ～ 25歳	0.28 ～ 8.01
	26 ～ 30歳	0.29 ～ 12.2
	31 ～ 35歳	0.07 ～ 10.0
	36 ～ 40歳	9.23以下
	41 ～ 45歳	4.48以下

多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)カットオフ値

(単位：ng/mL)

女性	20 ～ 29歳	4.40
	30 ～ 39歳	3.10

※「多嚢胞性卵巣症候群に関する全国症例調査の結果と本邦における新しい診断基準(2024)」によるカットオフ値です。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
内分泌学的(その他)	2433	アルドステロン〔CLEIA〕 4D115-0000-022-052 4D115-0000-023-052 4D115-0000-004-052	血漿 0.5	PN2,PN5 ⬇ A00	凍結(21日)	3～5	122 ※5	CLEIA	4.0～82.1 (pg/mL)	下記参照*1 ※1
			血清 0.5	S09 ⬇ A00			122 ※5			※1
	2434		蓄尿 1.5	A00		6～8	122 ※5		1.0～19.3 (μg/day)	蓄尿剤として塩酸およびC-ペプチド安定化剤を使用しないでください。 ※1
	2435	レニン濃度(ARC)〔CLEIA〕 4Z020-0000-022-052 4Z020-0000-023-052	血漿 0.5	PN2,PN5 ⬇ A00	凍結(21日)	3～5	❶102 ※5	CLEIA	2.21～39.5 (pg/mL)	下記参照*2 ※1
			血清 0.5	S09 ⬇ A00			❶102 ※5			
	2436	レニン活性(PRA)〔EIA〕 4Z010-0000-022-021	冷却遠心 血漿 0.7	PN2,PN5 ⬇ A00	凍結(14日)	4～6	❶100 ※5	EIA	臥位 0.2～2.3 座位 0.2～3.9 立位 0.2～4.1 (ng/mL/hr)	下記参照*3 ※1
	7928	アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比 4D122-0000-022-919 4D122-0000-023-919	血漿 1.0	PN2,PN5 ⬇ A00	凍結(21日)	3～5	122 + 102 ※5	CLEIA	下記参照	基準値は、日本内分泌学会の「原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」によるカットオフ値です。 下記参照*1、2 ※1
			血清 1.0	S09 ⬇ A00			122 + 102 ※5			
	7929	アルドステロン〔CLEIA〕/レニン活性比 4D120-0000-022-919	冷却遠心 血漿 1.2	PN2,PN5 ⬇ A00	凍結(14日)	4～6	122 + 100 ※5	アルドステロン：CLEIA レニン活性：EIA	下記参照	基準値は、日本内分泌学会の「原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」によるカットオフ値です。 下記参照*1、3 ※1

❶「レニン活性」と「レニン定量」を併せて行った場合は、一方の所定点数のみ算定する。

＊1：「2433：アルドステロン〔CLEIA〕」、「7928：アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比」、「7929：アルドステロン〔CLEIA〕/レニン活性比」は同時依頼はできません。
＊2：「2435：レニン濃度(ARC)〔CLEIA〕」、「7928：アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比」は同時依頼はできません。
＊3：「2436：レニン活性(PRA)〔EIA〕」、「7929：アルドステロン〔CLEIA〕/レニン活性比」は同時依頼はできません。

[2433]アルドステロン〔CLEIA〕 [2435]レニン濃度(ARC)〔CLEIA〕 の留意事項

・採血時間は午前が推奨されています。
・採血は座位で15分間安静後をお勧めいたします。
・冷蔵保存した場合、レニン濃度の上昇が認められます。

[7928]アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比 [7929]アルドステロン〔CLEIA〕/レニン活性比 の留意事項

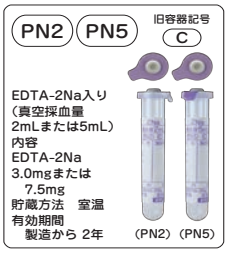
・採血条件は早朝空腹時の安静臥位後が望ましいが、スクリーニングでは随時座位で行って良い、とされています。
・冷蔵保存した場合、レニン濃度の上昇が認められます。

[7928]アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比 [7929]アルドステロン〔CLEIA〕/レニン活性比 基準値

アルドステロン〔CLEIA〕	(pg/mL)	4.0 ～ 82.1
レニン濃度(ARC)〔CLEIA〕	(pg/mL)	2.21 ～ 39.5
レニン活性(PRA)〔EIA〕	(ng/mL/hr)	臥位 0.2 ～ 2.3 座位 0.2 ～ 3.9 立位 0.2 ～ 4.1
アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比		20未満
アルドステロン〔CLEIA〕/レニン活性比		100未満

※陽性判定は、濃度比≧40または活性比≧200かつ血漿アルドステロン濃度≧60 pg/mLです。
ただし、「ARR境界域」の濃度比20 ～ 40未満または活性比100 ～ 200未満かつ血漿アルドステロン濃度≧60 pg/mLの場合には、暫定的に陽性とされます。
※暫定的に陽性の場合、患者ニーズと臨床所見、特に低カリウム血症や副腎腫瘍の有無、年齢などを考慮して、機能確認検査実施の要否を個別に検討する、とされています。





内分泌学的検査

内分泌学的(その他)

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
内分泌学的(その他)	2123	サイクリックAMP 4Z255-0000-022-004 4Z255-0000-004-004	冷却遠心 血漿 0.3	PN2,PN5 ↓ A00	凍結(1ヵ月)	事前にご確認ください	161 ※5	RIA DCC法	11～21 (pmol/mL)	(蓄尿)トルエン1～2mLを入れて冷暗所にて24時間蓄尿し、よく混和し必要量をご提出ください。 ※1
			蓄尿 1	U00	凍結		161 ※5		1.8～6.3 (μmol/day)	
	2130	ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP) 4Z270-0000-022-052	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	PAP ↓ A00	凍結(21日)	3～5	①② 221 ※5	CLEIA	43.0以下 (pg/mL)	溶 ※1
	2311	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP) 4Z271-0000-022-052	速やかに遠心 血漿 0.6	PN2,PN5 ↓ A00	凍結	1～2	①② ③ 130 ※5	CLEIA	18.4以下 (pg/mL)	溶 採血後、冷蔵保存にて6時間以内に血漿分離し、速やかに凍結保存してください。
	0C56	NT-proBNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント) 4Z272-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵(21日)	1～2	①② ④ 136 ※5	CLEIA	125未満 (pg/mL)	心不全の可能性があるカットオフ値は125pg/mLです。
	2132	エリスロポエチン 4Z275-0000-023-052	血清 0.8	S09 ↓ A00	冷蔵(28日)	3～5	⑤ 209 ※5	CLEIA	4.2～23.7 (mIU/mL)	※1
	2406	オステオカルシン 4Z280-0000-023-053	血清 0.3	S09 ↓ A00	凍結	3～5	⑥⑦ 153 ※5	ECLIA	閉経前女性 7.8～30.8 閉経後女性 14.2～54.8 男性 8.4～33.1 (ng/mL)	溶 ※1
	2348	低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC) 4Z282-0000-023-052	血清 0.6	S09 ↓ A00	凍結(21日)	3～5	⑧ 150 ※5	CLEIA	4.50未満 (ng/mL)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。 ※1

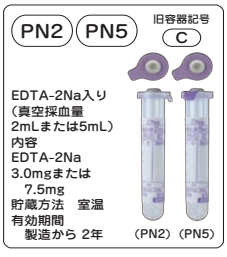
①「脳性Na利尿ペプチド(BNP)」、「脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)」及び「心房性Na利尿ペプチド(ANP)」のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
②「脳性Na利尿ペプチド(BNP)」、「脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)」及び「心房性Na利尿ペプチド(ANP)」のうち2項目以上を実施した場合は、各々の検査の実施日を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
③「脳性Na利尿ペプチド(BNP)」は、心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定する。
④「脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)」は、心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定する。
⑤「エリスロポエチン」は、以下のいずれかの目的で行った場合に算定する。
ア 赤血球増加症の鑑別診断
イ 重度の慢性腎不全患者又はエリスロポエチン、ダルベポエチン、エポエチンベータペゴル若しくはHIF-PH阻害薬投与前の透析患者における腎性貧血の診断
ウ 骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定
⑥「オステオカルシン(OC)」は、続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定及び原発性又は続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術後の治療効果判定に際して実施した場合に限り算定できる。
⑦「酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)」と「Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)」、「オステオカルシン(OC)」又は「デオキシピリジノリン(DPD)(尿)」を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。
⑧「低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)」は、骨粗鬆症におけるビタミンK_2剤の治療選択目的で行った場合又は治療経過観察を行った場合に算定できる。ただし、治療開始前においては1回、その後は6月以内に1回に限り算定できる。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
内分泌学的(その他)	2137	肝細胞増殖因子(HGF) 4Z315-0000-023-023	血清 0.3	S09⬇A00	凍結(1ヵ月)	3～9	❶227 ※4	ELISA	0.39以下 (ng/mL)	※1
	1842	FGF23〔CLEIA〕 4Z323-0000-023-052	血清 0.4	S09⬇A00	凍結(21日)	5～11	❷788 ※4	CLEIA	19.9～52.9 (pg/mL)	トロンビン入り採血管は測定値に影響を与える恐れがあるため使用を避けてください。 FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症のカットオフ値は30pg/mL以上です。 ※1
	2365	アディポネクチン〔LA〕 4Z401-0000-023-062	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	3～5		ラテックス免疫比濁法	4.0以上 (μg/mL)	※1
	7914	レプチン〔ELISA〕 4Z400-0000-023-023	速やかに遠心 血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵(7日)	事前にご確認ください	❸1000 ※6	ELISA	M 0.6～8.9 F 1.9～26.6 (ng/mL)	採血後、速やかに血清分離してください。 全身性脂肪萎縮症におけるカットオフ値は男性0.6ng/mL未満、女性1.9ng/mL未満です。 ※1
	5198	sFlt-1/PIGF比 4Z335-0000-023-053	血清 0.7	S09⬇A00	冷蔵(7日)	3～7	❹340 ※5	ECLIA	38.0以下	※1

❶「肝細胞増殖因子(HGF)」はELISA法により、肝炎にて劇症化が疑われる場合又は劇症肝炎の経過観察に用いた場合に限り算定する。
❷「FGF23」は、CLEIA法により、FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症の診断時又は治療効果判定時に測定した場合に限り算定できる。ただし、診断時においては1回を限度とし、その後は腫瘍性骨軟化症の場合には腫瘍摘出後に1回、薬剤性の場合には被疑薬中止後に1回を限度として算定する。
❸レプチン
ア「レプチン」は、脂肪萎縮、食欲亢進、インスリン抵抗性、糖尿病及び脂質異常症のいずれも有する患者に対して、全身性脂肪萎縮症の診断の補助を目的として、ELISA法により測定した場合に、患者1人につき1回に限り算定する。
イ 本検査の実施に当たっては、関連学会が定める指針を遵守し、脂肪萎縮の発症時期及び全身性脂肪萎縮症を疑う医学的な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
❹sFlt-1/PIGF比
ア「sFlt-1/PIGF比」は、血清を検体とし、ECLIA法により可溶性fms様チロシンキナーゼ1(sFlt-1)及び胎盤増殖因子(PlGF)を測定し、sFlt-1/PIGF比を算出した場合に算定する。
イ 本検査は、妊娠18週から36週未満の妊娠高血圧腎症が疑われる妊婦であって、以下のリスク因子のうちいずれか１つを有するものに対して実施した場合に、原則として一連の妊娠につき1回に限り算定できる。なお、リスク因子を2つ以上有する場合は、原則として当該点数は算定できない。
(イ)収縮期血圧が130mmHg以上又は拡張期血圧80mmHg以上
(ロ)蛋白尿
(ハ)妊娠高血圧腎症を疑う臨床症状又は検査所見
(ニ)子宮内胎児発育遅延
(ホ)子宮内胎児発育遅延を疑う検査所見
ウ 本検査を算定する場合は、イのリスク因子のいずれに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。また、イの(ハ)又は(ホ)に該当する場合は、その医学的根拠を併せて記載すること。なお、医学的な必要性から、リスク因子を2つ以上有する妊婦において算定する場合、又は一連の妊娠につき2回以上算定する場合は、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

[5198]sFlt-1/PIGF比 妊娠高血圧腎症(PE)発症予測のカットオフ値(試薬添付文書より)

●sFlt-1/PIGF比≦38:1週間以内のPEの非発症予測
●sFlt-1/PIGF比＞38:4週間以内のPEの発症予測





腫瘍関連検査

腫瘍関連抗原

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
腫瘍関連抗原	4289	癌胎児性抗原（CEA） 5D010-0000-023-052	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	❶ 99 ※5 腫2	CLEIA	5.0以下 （ng/mL）	
	4288	α-フェトプロテイン定量 5D015-0000-023-052	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	98 ※5 腫2	CLEIA	10.0以下 （ng/mL）	
	3020	塩基性フェトプロテイン（BFP） 5D025-0000-023-023	速やかに遠心 血清 0.3	S7P ↓ A00	冷蔵	3～9	150 ※5 腫2	EIA	75未満 （ng/mL）	溶 採血後、2時間以内に血清分離してください。 溶血でのご依頼は避けてください。※1
	1771	ヒト精巣上体タンパク4（HE4） 5D110-0000-023-051	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵（21日）	3～5	200 ※5 腫2	CLIA	閉経前女性 70.0以下 閉経後女性 140以下 （pmol/L）	性別、性周期をご記入ください。 ※1
	3023	CA125 5D100-0000-023-052	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	❷ 136 ※5 腫2	CLEIA	35.0以下 （U/mL）	
	7279	組織因子経路インヒビター 2（TFPI2） 5D115-0000-023-052	速やかに遠心 血清 0.3	S09 ↓ A00	凍結（21日）	3～9	❸ 190 ※5 腫2	CLEIA	191未満 （pg/mL）	採血後、2時間以内に血清分離してください。 凝固促進剤を含まない採血管は使用しないでください。凝固反応が充分でない場合、高値を示すことがあります。 卵巣明細胞癌の判別カットオフ値は270pg/mL未満です。 妊婦では高値となるため、妊婦検体の測定には適しません。 ※1
	3026	CA15-3 5D120-0000-023-052	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	❹ 112 ※5 腫2	CLEIA	25.0以下 （U/mL）	
	3028	BCA225 5D125-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	3～5	158 ※5 腫2	CLEIA	160未満 （U/mL）	※1
	3674	CA19-9 5D130-0000-023-052	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	1～2	121 ※5 腫2	CLEIA	37.0以下 （U/mL）	
	4026	CA72-4 5D150-0000-023-053	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	3～5	146 ※5 腫2	ECLIA	10.0以下 （U/mL）	※1

腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料（51ページ参照）

❶「アポリポ蛋白A2（APOA2）アイソフォーム」と、「癌胎児性抗原（CEA）」、「DUPAN-2」又は「SPan-1」を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。
❷「CA125」及び「CA602」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❸「組織因子経路インヒビター 2（TFPI2）」は、EIA法により測定した場合に算定できる。
❹「シアリルLe^{a}抗原（CSLEX）」と「CA15-3」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
腫瘍関連抗原	3033	CA54/61 5D155-0000-023-023	血清 0.5	S09→A00	冷蔵	5～18	184 ※5 腫2	ELISA	12以下 (U/mL)	※1
	3036	DUPAN-2 5D170-0000-023-023	血清 0.4	S09→A00	冷蔵	3～5	❶ 115 ※5 腫2	EIA	150以下 (U/mL)	※1
	C976	APOA2 アイソフォーム 3F186-0000-022-023 3F186-0000-023-023	血漿 0.3	PN2、PN5→A00	冷蔵	6～8	❶❷❸ 335 ※5 腫2	ELISA	APOA2-i Index 59.5以上 (μg/mL)	※1
			血清 0.3	S09→A00						
	3037	シアリルLe^x-i抗原(SLX) 5D175-0000-023-006	血清 0.2	S09→A00	冷蔵	3～5	140 ※5 腫2	RIA固相法(IRMA)	38以下 (U/mL)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。 ※1
	3027	シアリルLe^{x}抗原(CSLEX) 5D177-0000-023-023	血清 0.4	S09→A00	冷蔵	3～9	❹ 152 ※5 腫2	EIA	8.0未満 (U/mL)	※1
	3038	NCC-ST-439 5D200-0000-023-023	血清 0.5	S09→A00	冷蔵	3～5	112 ※5 腫2	EIA	女性 49歳以下 7.0未満 50歳以上 4.5未満 男性 4.5未満 (U/mL)	※1
	3039	SPan-1 5D220-0000-023-006	血清 0.2	S09→A00	冷蔵	3～5	❶ 144 ※5 腫2	RIA固相法(IRMA)	30以下 (U/mL)	※1
	3040	SCC 5D300-0000-023-052	血清 0.5	S09→A00	冷蔵	3～5	101 ※5 腫2	CLEIA	2.5以下 (ng/mL)	唾液・フケ・皮膚(表皮)・毛髪・爪などの混入により高値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いには充分にご注意ください。 ※1

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料(51ページ参照)

❶「アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム」と、「癌胎児性抗原(CEA)」、「DUPAN-2」又は「SPan-1」を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。

❷「アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム」は、以下の(イ)から(ハ)までのいずれかに該当する患者に対して、膵癌の診断の補助を目的として、血液を検体としてELISA法により測定した場合に、膵癌の診断の確定までの間に原則として1回を限度として算定できる。本検査を実施するに当たっては、関連学会が定める指針を遵守するとともに、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

(イ) 関連学会が定める指針に基づき膵癌の高度リスクに該当する患者。ただし、本検査を実施する患者が3月以内にCA19-9検査を行われており、CA19-9の値が37.0U/mL以上である場合には、本検査は算定できない。

(ロ) 関連学会が定める指針に基づき膵癌の中等度リスクに該当する患者であって、癌胎児性抗原(CEA)検査の結果が陰性であり、CA19-9値が37.0U/mL以上かつ100U/mL以下の患者。

(ハ) 関連学会が定める指針に基づき膵癌のリスク因子が3項目以上該当する患者であって、癌胎児性抗原(CEA)及びCA19-9検査の結果が陰性である患者。

❸「アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム」を❷の(イ)に対して実施する場合はCA19-9の測定年月日及び測定結果を、❷の(ロ)及び(ハ)に対して実施する場合は癌胎児性抗原(CEA)及びCA19-9の測定年月日並びに測定結果を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

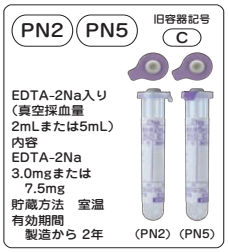
❹シアリルLe^{x}抗原(CSLEX)

ア「シアリルLe^{x}抗原(CSLEX)」は、診療及び他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定する。

イ「シアリルLe^{x}抗原(CSLEX)」と「CA15-3」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

[C976] APOA2アイソフォームの結果形式について

APOA2-ATが3.25未満、APOA2-TQが5.75未満のいずれか、もしくは両方を満たす場合、APOA2-i Indexは0.0となります。



腫瘍関連検査

腫瘍関連抗原

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
腫瘍関連抗原	3043	前立腺特異抗原（PSA） 5D305-0000-023-052	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	1～2	❶❷ 121 ※5 腫2	CLEIA	4.00以下 （ng/mL）	
	5962	PSA F/T比 5D308-0000-023-052	血清 0.8	S09 ⬇ A00	凍結（21日）	3～5	❷❸ 150 ※5 腫2	CLEIA	25（PSA4.00～10.0ng/mLにおけるカットオフ値）（%）	本項目は、PSAとフリーPSAの測定結果も併せてご報告いたします。（基準値について）25%はPSA4.00～10.0ng/mLにおける前立腺癌と非癌（前立腺肥大症等）との判別に用いるカットオフ値です。（低値ほど前立腺癌の確率が高くなります）。※1
	0A97	S2,3PSA% 5D304-0000-023-024	速やかに遠心 血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵（7日）	3～7	❷ 248 ※5 腫2	LBA（LBA-EATA）	38.0未満（カットオフ値）（%）	基準値は、PSA4.00～10.0ng/mLにおける前立腺癌と前立腺肥大症等との判別に用いるカットオフ値です。採血後、速やかに血清分離してください。※1
	3044	γ-セミノプロテイン（γ-Sm） 5D310-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	凍結（21日）	3～5	187 ※5 腫2	CLEIA	4.0以下 （ng/mL）	（基準値について）4.0 ng/mLは良性疾患との鑑別値です。※1
	3046	シフラ（CYFRA）（サイトケラチン19フラグメント） 5D325-0000-023-052	血清 0.8	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❹ 154 ※5 腫2	CLEIA	3.5以下 （ng/mL）	検体の混和・攪拌により低値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いにはご注意ください。※1
	2061	5-S-システイニルドーパ（5-S-CD） 5D350-0000-023-204	血清 1.0	S09 ⬇ A00	凍結	4～8		HPLC	1.5～8.0 （nmol/L）	※1

腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料（51ページ参照）

❶「前立腺特異抗原（PSA）」は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定する。ただし、前立腺特異抗原（PSA）の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を限度として算定できる。
なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

❷S2,3PSA%
ア「S2,3PSA%」は、前立腺癌であることが強く疑われる者であって、前立腺特異抗原（PSA）の結果が4.0ng/mL以上10.0ng/mL以下である者に対して、LBA法（定量）により、S2,3PSA%を測定した場合に限り算定できる。
イ 本検査は、前立腺癌の診断に当たって実施した場合に、原則として1回を限度として算定する。ただし、前立腺針生検法等により前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を限度として算定できる。
ウ「S2,3PSA%」と、「前立腺特異抗原（PSA）」、「遊離型PSA比（PSA F/T比）」又は「プロステートヘルスインデックス（phi）」を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。
エ 診療報酬明細書の摘要欄に、前立腺特異抗原（PSA）の測定年月日及び測定結果を記載すること。また、本検査を2回以上算定する場合は、本検査の2回以上の実施が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

❸「遊離型PSA比（PSA F/T比）」は、診療及び他の検査（前立腺特異抗原（PSA）等）の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。

❹「サイトケラチン19 フラグメント（シフラ）」は、悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」を算定できる。

[0A97]S2,3PSA%に関する留意事項

・前立腺特異抗原（PSA）4.0～10.0ng/mLの方が本検査の対象となります。
・上記に当てはまらない場合や検診・健診目的では使用できません。
・採血後、速やかに血清分離してください。

●計算式

$$S2,3PSA\% = \frac{S2,3PSA}{S2,6PSA + S2,3PSA} \times 100$$

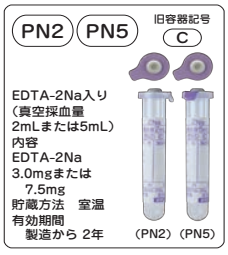
	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
腫瘍関連抗原	3050	NSE（神経特異エノラーゼ） 5D410-0000-023-053	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❶ 142 ※5 腫2	ECLIA	16.3以下 （ng/mL）	溶 採血後、1時間以内に血清分離し冷蔵保存してください。溶血でのご依頼は避けてください。（溶血の場合、赤血球からNSEが逸脱して高値となります。） ※1
	1070	PIVKA-Ⅱ 5D520-0000-023-052 5D520-0000-022-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	131 ※5 腫2	CLEIA	40未満 （mAU/mL）	※1
			血漿 0.5	PN2, PN5 ⬇ A00			131 ※5 腫2			
	2138	ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP） 5D550-0000-022-052	血漿 0.4	PN2, PN5 ⬇ A00	凍結	3～5	❶ 175 ※5 腫2	CLEIA	81未満 （pg/mL）	※1
	7372	血清抗p53抗体 5D560-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❷ 163 ※5 腫2	CLEIA	1.30以下 （U/mL）	※1
	0807	血清 HER2タンパク 5D590-0000-023-051	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	腫2	CLIA	15.2以下 （ng/mL）	※1
	7470	可溶性メソテリン関連ペプチド 5D600-0000-023-052	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵（28日）	5～11	❸ 220 ※5 腫2	CLEIA	1.5未満 （nmol/L）	※1
	特依	曜日指定 CCR4タンパク〔FCM〕 5D596-0000-019-662	血液 5.0（ヘパリン加）	PH5	室温	4～6	❹ 10000 ※3	フローサイトメトリー	（－）	重 受託可能日は月～金曜日です。「ポテリジオ®（一般名:モガムリズマブ）」を投薬された検体で検査を実施した際には、正しい結果が得られないことがありますので、ご注意ください。本検査結果は、臨床症状や他の検査結果などを考慮して総合的に判断してください。 ※1

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料（51ページ参照）

❶「ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)」を「神経特異エノラーゼ(NSE)」と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
❷「抗p53抗体」は、食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月1回に限り算定できる。
❸可溶性メソテリン関連ペプチド
ア「可溶性メソテリン関連ペプチド」は、悪性中皮腫の診断の補助又は悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して治療効果の判定若しくは経過観察を目的として実施した場合に算定する。
イ 本検査を悪性中皮腫の診断の補助を目的として実施する場合は、以下のいずれかに該当する患者に対して使用した場合に限り算定する。この場合、本検査が必要である理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
（イ）石綿曝露歴があり、胸水、腹水等の貯留が認められる患者
（ロ）体腔液細胞診で悪性中皮腫が疑われる患者
（ハ）画像診断で胸膜腫瘍、腹膜腫瘍等の漿膜腫瘍が認められる患者
ウ 本検査を悪性中皮腫の治療効果の判定又は経過観察を目的として実施する場合は、悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して、本検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」の「ロ」を算定する。
❹「CCR4タンパク(フローサイトメトリー法)」及び「CCR4タンパク」を同一の目的で行った場合には、原則としていずれか一方のみを算定する。ただし、医学的な必要性がある場合には、併せて実施した場合であっても、いずれの点数も算定できる。なお、この場合においては、診療報酬明細書の摘要欄にその理由及び医学的な必要性を記載すること。

CCR4タンパク〔FCM〕の注意事項

モガムリズマブ（遺伝子組換え）の適応を判定するための補助に用います。ATL（Adult T-cell leukemia-lymphoma、成人T細胞白血病リンパ腫）の診断や治療効果の確認を目的とした使用については有効性が確認されていないので、そのような目的で使用しないでください。（試薬添付文書より）



腫瘍関連検査

腫瘍関連検査

腫瘍マーカー

腫瘍マーカーは、悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に、悪性腫瘍の診断の確定又は転帰の決定までの間に1回を限度として算定する。
悪性腫瘍の診断が確定し、計画的な治療管理を開始した場合、当該治療管理中に行った腫瘍マーカーの検査の費用は特定疾患治療管理料の「悪性腫瘍特異物質治療管理料」に含まれ、腫瘍マーカーは、原則として、特定疾患治療管理料の「悪性腫瘍特異物質治療管理料」と同一月に併せて算定できない。
ただし、悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、特定疾患治療管理料の「悪性腫瘍特異物質治療管理料」とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。
ア)急性及び慢性膵炎の診断及び経過観察のために「エラスターゼ1」を行った場合
イ)肝硬変、HBs抗原陽性の慢性肝炎又はHCV抗体陽性の慢性肝炎の患者について、「α-フェトプロテイン(AFP)」、「PIVKA-Ⅱ半定量」又は「PIVKA-Ⅱ定量」を行った場合(月1回に限る。)
ウ)子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的として「CA125」又は「CA602」を行った場合(診断又は治療前及び治療後の各1回に限る。)
エ)家族性大腸腺腫症の患者に対して「癌胎児性抗原(CEA)」を行った場合

悪性腫瘍特異物質治療管理料

当社で取り扱っていない検査項目も掲載しております。

測定方法	検査項目	悪性腫瘍特異物質治療管理料(同一患者月1回)	加算点(初回月)
1.測定方法が一般的なもの[(腫1)で表示]	尿中BTA	220点	
2.測定方法が精密なもの[(腫2)で表示]	α-フェトプロテイン(AFP) 癌胎児性抗原(CEA) 扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原) 組織ポリペプタイド抗原(TPA) NCC-ST-439 CA15-3 DUPAN-2 エラスターゼ1 前立腺特異抗原(PSA) CA19-9 PIVKA-Ⅱ半定量 PIVKA-Ⅱ定量 CA125 シアリルLe^{x}-i抗原(SLX) 神経特異エノラーゼ(NSE) SPan-1 CA72-4 シアリルTn抗原(STN) 塩基性フェトプロテイン(BFP) 遊離型PSA比(PSA F/T比) シアリルLe^{x}抗原(CSLEX) サイトケラチン19フラグメント(シフラ) BCA225 抗p53抗体 Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド(ⅠCTP) ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP) CA54/61 α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%) γ-セミノプロテイン(γ-Sm) CA602 組織因子経路インヒビター2(TFPI2) ヒト精巣上体蛋白4(HE4) 可溶性メソテリン関連ペプチド S2,3PSA% プロステートヘルスインデックス(phi) 癌胎児性抗原(CEA)定性(乳頭分泌液) 癌胎児性抗原(CEA)半定量(乳頭分泌液) HER2蛋白 アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム 可溶性インターロイキン-2レセプター(sIL-2R) Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX) 酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b) デオキシピリジノリン(DPD)(尿)	1項目 360点 2項目以上 400点	150点

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	7469	HBVゲノタイプ 5F015-1405-023-023	血清 0.6	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❶ 340 ※6	EIA		HBs抗原量の少ない検体は、判定保留となる場合があります。 ※1
	1362	HBV DNA定量(IU) 5F015-1441-023-862	血清 1.8	S5F	冷蔵 (28日)	4～6	❷❸ 256 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	検出せず (LogIU/mL)	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
	6048	HBs抗原(HQ) 5F016-1410-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (21日)	1～2	❹ 88 ※6	CLEIA	0.005未満 (IU/mL)	不 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
	3857	HBs抗体〔CLEIA〕 5F016-1430-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	1～2	❹ 88 ※6	CLEIA	10.0未満 (mIU/mL)	不 (基準値について)B型肝炎ウイルス感染防御の最小HBs抗体価である10.0 mIU/mLを基準に設定しています。

❶「HBVジェノタイプ判定」は、B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。
❷「HBV核酸定量」は、分岐DNAプローブ法、TMA法又はPCR法による。また、B型肝炎ウイルス既感染者であって、免疫抑制剤の投与や化学療法を行っている悪性リンパ腫等の患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、「HBV核酸定量」を行った場合は、当該治療中及び治療終了後1年以内に限り、月1回を限度として算定できる。
❸「HBVコア関連抗原(HBcrAg)」と「HBV核酸定量」を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❹免疫抑制剤の投与や化学療法を行う患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、当該治療開始前に「HBs抗原」、「HBs抗体」及び「HBc抗体半定量・定量」を同時に測定した場合は、患者1人につきそれぞれ1回に限り算定できる。

[6048]HBs抗原(HQ)について

【HBV感染の診断】
B型肝炎ウイルス(HBV)感染の診断は、他の免疫測定法などと同じく、本製品による陽性または陰性の検査結果のみにより行わず、HBc抗体測定、HBV-DNA定量検査など、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的に判断してください。特に下記の場合は使用方法にご留意ください。

1.健康診断時のスクリーニング検査
できるだけ検出感度の高いEIA法/化学発光法などを用いた検出試薬を使用し、イムノクロマト法や凝集法で検出感度の低い検出試薬の使用にあたっては、充分にご留意ください。

2.緊急検査
緊急対応として実施される迅速・簡便な検出試薬において陰性と判定された場合でも、必要に応じてさらに検出感度の高い検出試薬で再検査をすることをお奨めします。

3.B型肝炎と診断された患者の経過観察検査
EIA法/化学発光法、凝集法、イムノクロマト法などいずれの方法を用いた検出試薬でも使用できますが、陰性化した場合はより検出感度の高い方法で確認することをお奨めします。

(注)HBV感染直後はウイルス量が極めて少なく、どのような高感度の検出試薬を用いてもウイルスを確認できません。この時期は「ウインドウ(空白)期間」と呼ばれており、ウインドウ時に採取された血液では、HBs抗原は必ず検出されるとは限りません。



ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	0A35	B型肝炎ウイルスコア関連抗原(HBcrAg) 5F020-1410-023-052	血清 0.5	S09→A00	冷蔵	3〜6	❶246 ※6	CLEIA	2.1未満 (LogU/mL)	※1
	5958	HBc抗体(IgG) 5F018-1430-023-052	血清 0.3	S09→A00	冷蔵	1〜2	❷❸130 ※6	CLEIA	C.O.I. 1.0未満	不
	4365	IgM-HBc抗体 5F018-1432-023-051	血清 0.5	S09→A00	冷蔵	3〜5	❸146 ※6	CLIA	S/CO 1.00未満	不 ※1
	4363	HBe抗原 5F019-1410-023-052	血清 0.5	S09→A00	冷蔵	3〜5	98 ※6	CLEIA	C.O.I. 1.0未満	不 ※1
	4364	HBe抗体 5F019-1430-023-052	血清 0.7	S09→A00	冷蔵	3〜5	98 ※6	CLEIA	INHIBITION 60未満 (%)	不 ※1
	3809	HA抗体 5F350-1430-023-051	血清 0.4	S09→A00	冷蔵	3〜5	❹146 ※6	CLIA	下記参照	不 IgG型を測定しています。 ※1
	4302	IgM-HA抗体 5F350-1432-023-051	血清 0.4	S09→A00	冷蔵	3〜5	❹146 ※6	CLIA	下記参照	※1
	3675	HCV抗体(第3世代) 5F360-1518-023-052	血清 0.5	S09→A00	冷蔵	1〜2	102 ※6	CLEIA	C.O.I. 1.0未満	不 不活化(非働化)検体は偽陽性を呈する場合がありますので避けてください。
	3300	HCV群別(グルーピング) 5F360-1406-023-052	血清 0.5	S09→A00	冷蔵	3〜5	❺215 ※6	CLEIA	(グループ)	不 不活化(非働化)検体は、判定に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ※1
	4683	HCV RNA コアジェノタイプ 5F360-1405-023-867	血清 0.5	S3F S5F	冷蔵 (14日)	6〜8		RT-PCR	検出せず	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1

❶「HBVコア関連抗原(HBcrAg)」は、HBV感染の診断の補助及び治療効果の判定の目的で、血清又は血漿中のHBVコア関連抗原(HBcrAg)を測定した場合に1月に1回に限り算定する。なお、HBV核酸定量を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❷免疫抑制剤の投与や化学療法を行う患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、当該治療開始前に「HBs抗原」、「HBs抗体」及び「HBc抗体半定量・定量」を同時に測定した場合は、患者1人につきそれぞれ1回に限り算定できる。
❸「HBc抗体半定量・定量」と「HBc-IgM抗体」を同時に測定した場合は、一方の所定点数を算定する。
❹「HA抗体」と「HA-IgM抗体」を同時に測定した場合は、一方の所定点数のみを算定する。
❺「HCV血清群別判定」は、EIA法により、C型肝炎の診断が確定した患者に対して、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。

[3809、4302]肝炎ウイルス項目の判定基準

検査項目		陰性	保留	陽性
HA抗体〔CLIA〕	S/CO	1.00未満		1.00以上
IgM-HA抗体〔CLIA〕	S/CO	0.80未満	0.80 ～ 1.20	1.21以上

[3675]HCV抗体(第3世代)について

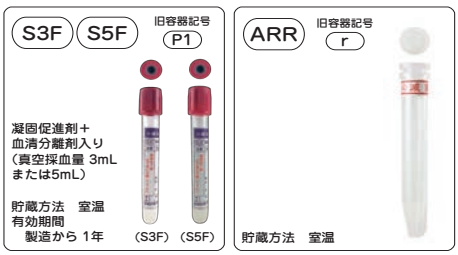
本検査に用いている試薬の添付文書には重要な基本的注意点として、「C型肝炎ウイルス(HCV)感染の診断は、本製品による検査結果のみで行わず、HCV-RNA測定等、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的に判断すること。」が記載されております。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
ウイルス感染症検査	7370	HCV RNA定量 5F360-1453-023-875	血清 1.8	S5F	冷蔵（28日）	4～6	❶412 ※7	RT-PCR（リアルタイムPCR）	検出せず（Log IU/mL）	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。※1
	3888	HCV抗原（コア蛋白質） 5F360-1500-023-051	血清 0.8	S09⬇A00	冷蔵	3～5	102 ※6	CLIA	3.0未満（定量下限値）（fmol/L）	※1
	7095	IgA-HEV抗体（定性） 5F370-1433-023-023	血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵	3～6	210 ※6	EIA	（－）	※1
	3378	ヒトパルボウイルスB19IgG 5F011-1431-023-023	血清各 0.2	S09⬇A00	冷蔵	3～5		EIA	0.80未満（－） 判定基準:下記参照	固相法 ※1
	3379	ヒトパルボウイルスB19IgM 5F011-1432-023-023					❷200 ※6			捕捉法 ※1
	3156	ヒトパルボウイルスB19DNA 定性 5F011-1440-023-851	血清 0.7	S09⬇ARR	凍結（3ヵ月）	4～6		PCR	（－）	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。※1

❶HCV核酸定量
ア「HCV核酸定量」は、分岐DNAプローブ法、PCR法又はTMA法と核酸ハイブリダイゼーション法を組み合わせた方法により、急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。
イ 治療経過の観察の場合において、「HCV核酸検出」及び「HCV核酸定量」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷グロブリンクラス別ウイルス抗体価（73ページ）を参照ください。

[3378、3379]ヒトパルボウイルスB19（判定基準）

判　定	抗体指数
－	0.80未満
±	0.80～0.99
＋	1.00以上



ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
ウイルス感染症検査	6023	ヒトパピローマウイルスDNA（16型、18型、その他ハイリスクグループ） 5F101-1405-076-862	子宮頸部 3.0	V41	室温	3～5	❶ 347 ※7	PCR（リアルタイムPCR）	HPV16型　（－） HPV18型　（－） その他ハイリスクグループ　（－）	測定対象は16型、18型、その他ハイリスクグループ（31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型および66型）です。「その他のハイリスクグループ」については、型別の判定ではありません。検体に血液が混入していると、データに影響を及ぼす場合がありますのでご注意ください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
	7265	ヒトパピローマウイルス（HPV）ジェノタイプ判定 5F101-1405-076-898	子宮頸部	V41	室温（28日）	5～7	❷ 2000 ※7	PCR-rSSO法	検出せず	重 検出可能な型は16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型です。 本検査はあらかじめ組織診断によりCIN1またはCIN2と診断された患者から採取された検体を専用容器V41でご提出ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 他項目との重複依頼は避けてください。 ※1

❶HPV核酸検出、HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
ア「HPV核酸検出」及び「HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）」は、予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上ASC-US（意義不明異型扁平上皮）と判定された患者又は過去に子宮頸部円錐切除若しくはレーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定できる。なお、過去に子宮頸部円錐切除又はレーザー照射治療を行った患者以外の患者については、細胞診と同時に実施した場合は算定できない。
イ「HPV核酸検出」と「HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）」を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

❷HPVジェノタイプ判定
ア「HPVジェノタイプ判定」は、あらかじめ行われた組織診断の結果、CIN1又はCIN2と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的として、ハイリスク型HPVのそれぞれの有無を確認した場合に算定する。
イ「HPVジェノタイプ判定」は、「HPV核酸検出」及び「HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）」の施設基準を届け出ている保険医療機関のみ算定できる。
ウ 当該検査を算定するに当たっては、あらかじめ行われた組織診断の実施日及び組織診断の結果、CIN1又はCIN2のいずれに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
エ 同一の患者について、「HPVジェノタイプ判定」を2回目以降行う場合は、当該検査の前回実施日を上記に併せて記載する。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
ウイルス感染症検査	1285	アデノウイルス 5F150-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	7～8	❶ 79 ※6	CF（補体結合反応）	4未満 （倍）	下記参照（*CF） ※E
	3178	アデノウイルスDNA定性 5F150-1440-001-862 5F150-1440-066-862 5F150-1440-015-862	部分尿 0.7	ARR	凍結（28日）	3～9		PCR（リアルタイムPCR）	検出せず	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			結膜ぬぐい液		凍結					
			糞便 500mg	F00						
	0C44	アデノウイルスDNA定量 5F150-1441-001-862 5F150-1441-022-862 5F150-1441-019-862	部分尿 0.7	ARR	凍結（28日）	3～9		PCR（リアルタイムPCR）	検出せず （コピー/mL）	重 血液：凍結保存は避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			血漿 0.7	PN5 ⬇ ARR						
			血液 2.0（EDTA-2Na加）	PN5	冷蔵（28日）					
	3179	アデノウイルス 1型 5F151-1430-023-151	血清 各 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	8～21	❶ 79 ※6	NT（中和反応）	4未満 （倍）	下記参照（*NT） ※1
	3180	2型 5F152-1430-023-151								
	3181	3型 5F153-1430-023-151								
	3182	4型 5F154-1430-023-151								
	3183	5型 5F155-1430-023-151								
	3184	6型 5F156-1430-023-151								
	3185	7型 5F157-1430-023-151								
	3188	11型 5F161-1430-023-151								
	3189	19型 5F169-1430-023-151								
	4285	21型 5F171-1430-023-151								
	3190	37型 5F177-1430-023-151								

❶ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（73ページ）を参照ください。

*CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

*NT（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）



ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	3192	単純ヘルペスウイルス特異抗原 5F190-1420-094-161	塗抹標本2枚	V30	凍結	3～5	❶180 ※6	FA	単純ヘルペスウイルス1型抗原(FA)(－) 単純ヘルペスウイルス2型抗原(FA)(－)	塗抹標本の採取方法は㊲ページをご参照ください。 ※1
	1286	単純ヘルペスウイルス 5F190-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵	7～8	❷79 ※6	CF(補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(*CF) ※E
	3198	単純ヘルペスウイルスIgG 5F190-1431-023-023 5F190-1431-041-023	血清 0.2	S09⬇A00	冷蔵	3～5	❸200 ※6	EIA	2.0未満(－) 判定基準:下記参照	固相法 同時期の髄液と血清の双方を同時測定することにより、髄液中の局所産生抗体の証明が可能です。 ※1
			髄液 0.4	A00			❸200 ※6		0.20未満(－) 判定基準:下記参照	
	3202	単純ヘルペスウイルスIgM 5F190-1432-023-023	血清 0.2	S09⬇A00	冷蔵	3～5	❸200 ※6	EIA	0.80未満(－) 判定基準:下記参照	下記参照(*捕捉法) ※1
	3196	単純ヘルペスウイルスDNA 定性 5F190-1440-019-851 5F190-1440-041-851 5F190-1440-064-851 5F190-1440-070-851	血液 2.0(EDTA-2Na加)	PN5	冷蔵(10日)	4～6		PCR	(－)	重 血液:凍結保存は避けてください。 患部ぬぐい液：患部をぬぐった滅菌綿棒を1mLのPBSまたは生理食塩水が入った滅菌ポリスピッツ(ARR)に入れ、そのまま凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			髄液 0.7	ARR	凍結(3ヵ月)					
			患部ぬぐい液							
			組織 50mg							
	3197	単純ヘルペスウイルス1型 5F191-1430-023-151	血清 各 0.2	S09⬇A00	冷蔵	7～20	❷79 ※6	NT(中和反応)	4未満 (倍)	下記参照(*NT) 1型、2型間には抗原交差性があります。 ※1
	3205	単純ヘルペスウイルス2型 5F192-1430-023-151								
	4A27	単純ヘルペスウイルス1型・2型-IgG 5F195-1431-023-662	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(15日)	3～5	❸200 ※6	FIA	0.9未満 (AI) 判定基準：下記参照	※1

❶「単純ヘルペスウイルス抗原定性」は、ヘルペスウイルスの型別確認を行った場合に算定できる。
❷ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(73ページ)を参照ください。
❸グロブリンクラス別ウイルス抗体価(73ページ)を参照ください。

*CF(補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）
*捕捉法：髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 0.80未満 (－)
*NT(中和反応)：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）

[3202、3198]単純ヘルペスウイルスの判定基準

判定	IgM(抗体指数)	IgG(EIA価)	
		血清	髄液
－	0.80未満	2.0未満	0.20未満
±	0.80～1.20	2.0～3.9	0.20～0.39
＋	1.21以上	4.0以上	0.40以上

[4A27]単純ヘルペスウイルス 1型・2型-IgGの判定基準

判定	HSV-1型(抗体価※)	HSV-2型(抗体価※)
陰性(－)	0.9未満：陰性(－)	0.9未満：陰性(－)
判定保留(±)	0.9未満：陰性(－)	0.9～1.0：判定保留(±)
	0.9～1.0：判定保留(±)	0.9未満：陰性(－)
		0.9～1.0：判定保留(±)
陽性(＋)	0.9未満：陰性(－)	1.1以上：陽性(＋)
	0.9～1.0：判定保留(±)	
	1.1以上：陽性(＋)	0.9未満：陰性(－)
		0.9～1.0：判定保留(±)
		1.1以上：陽性(＋)

※メーカー設定した抗体価。単位はAI(Antibody Index)

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	3206	水痘・帯状疱疹ウイルス抗原 5F193-1410-094-161	塗抹標本2枚	V30	凍結	3～5	227 ※6	FA	(－)	塗抹標本の採取方法は㊲ページをご参照ください。 ※1
	1287	水痘・帯状疱疹ウイルス 5F193-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	7～8	❶ 79 ※6	CF (補体結合反応)	4未満 (倍)	下記参照(*CF) ※E
	3209	水痘・帯状疱疹ウイルス IgG 5F193-1431-023-023	血清 各 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❷ 200 ※6	EIA	2.0未満 (－) 判定基準:下記参照	下記参照(*固相法) ※1
	3211	水痘・帯状疱疹ウイルス IgM 5F193-1432-023-023					❷ 200 ※6		0.80未満 (－) 判定基準:下記参照	下記参照(*捕捉法) ※1
	3213	水痘・帯状疱疹ウイルスDNA 定性 5F193-1440-064-851 5F193-1440-019-851 5F193-1440-041-851	患部ぬぐい液	ARR	凍結 (3ヵ月)	4～6		PCR	(－)	重 血液:凍結保存は避けてください。 患部ぬぐい液：患部をぬぐった滅菌綿棒を1mLのPBSまたは生理食塩水が入った滅菌ポリスピッツ(ARR)に入れ、そのまま凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN5	冷蔵 (10日)					
			髄液 0.7	ARR	凍結 (3ヵ月)					
	3821	水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定量 5F193-1441-019-862 5F193-1441-041-862	血液 5.0 (EDTA-2Na加)	PN7	冷蔵	3～5	❸ 450 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	2.0×10¹未満 (コピー/10⁶cells)	重 血液：凍結保存は避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			髄液 0.7	ARR	凍結 (1ヵ月)		❸ 450 ※7		1.0×10²未満 (コピー/mL)	

❶ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(73ページ)を参照ください。
❷グロブリンクラス別ウイルス抗体価(73ページ)を参照ください。
❸「単純疱疹ウイルス・水痘帯状疱疹ウイルス核酸定量」は、免疫不全状態であって、単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症が強く疑われる患者を対象としてリアルタイムPCR法により測定した場合に、一連として1回のみ算定できる。

*固相法：髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　0.20未満 (－)

*捕捉法：髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　0.80未満 (－)

*CF(補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍 (髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

[3209、3211]水痘・帯状疱疹ウイルスの判定基準

判　定	IgG(EIA価)	IgM(抗体指数)
－	2.0未満	0.80未満
±	2.0～3.9	0.80～1.20
＋	4.0以上	1.21以上



ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
ウイルス感染症検査	特依	曜日指定 サイトメガロウイルスpp65抗原（C7-HRP） 5F194-1422-019-174	血液 3.0 （EDTA-2Na加）	PN5	室温	3～5	❶356 ※6	直接酵素抗体法	（－）	受託可能日は月～金曜日です。 血液は採血後、速やかにご提出ください。採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。 ※1
	1293	サイトメガロウイルス 5F194-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	7～8	❷❸79 ※6	CF （補体結合反応）	4未満　（倍）	下記参照（*CF） ※E
	7247	サイトメガロウイルスIgG 5F194-1431-023-051	血清 各 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵	3～5	❸❹200 ※6	CLIA	6.0未満（－） （AU/mL）	下記参照 （判定基準は、案内書欄外に記載） ※1
	7246	サイトメガロウイルスIgM 5F194-1432-023-051					❸❹200 ※6		0.85未満（－） （Index）	

❶「サイトメガロウイルスpp65抗原定性」は免疫染色法により、臓器移植後若しくは造血幹細胞移植後の患者又はHIV感染者又は高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合に限り算定できる。ただし、高度細胞性免疫不全の患者については、当該検査が必要であった理由について、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
❷ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（73ページ）を参照ください。
❸先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、「サイトメガロウイルス核酸検出」と「ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）」又は「グロブリンクラス別ウイルス抗体価」におけるサイトメガロウイルスを対象とした検査を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
❹グロブリンクラス別ウイルス抗体価（73ページ）を参照ください。

*CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

[7247、7246]サイトメガロウイルスの判定基準

判定	IgG（AU/mL）	IgM（Index）
（－）	6.0未満	0.85未満
判定保留		0.85～1.00未満※2
（＋）	6.0以上※1	1.00以上

※1：6.0～15.0AU/mLの結果値の際には、適切な期間（例:2週間）内に再採取し再検査をお勧めします。
※2：判定保留の際には、適切な期間（例:2週間）内に再採取し再検査をお勧めします。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	6399	サイトメガロウイルス核酸検出(新生児尿) 5F194-1440-001-890	部分尿 0.2	ARR	凍結(42日)	4～6	❶❷777 ※7	等温核酸増幅法	(－)	重 生後3週間以内に採取された新生児尿をご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーション(便を含む)の影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
	3221	サイトメガロウイルスDNA 定性 5F194-1440-019-851 5F194-1440-041-851 5F194-1440-064-851 5F194-1440-001-851 5F194-1440-070-851	血液 2.0(EDTA-2Na加)	PN5	冷蔵(10日)	4～6		PCR	(－)	重 血液:凍結保存は避けてください。 患部ぬぐい液：患部をぬぐった滅菌綿棒を1mLのPBSまたは生理食塩水が入った滅菌ポリスピッツ(ARR)に入れ、そのまま凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			髄液 0.7 患部ぬぐい液 部分尿 0.7 組織 50mg	ARR	凍結(3ヵ月)					
	4A50	サイトメガロウイルス核酸定量 5F194-1441-022-862	血漿 1.8	PSF	冷蔵(28日)	3～5	❸450 ※7	PCR(リアルタイムPCR)	検出せず (IU/mL)	重 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1

❶先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、「サイトメガロウイルス核酸検出」と「ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)」又は「グロブリンクラス別ウイルス抗体価」におけるサイトメガロウイルスを対象とした検査を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
❷「サイトメガロウイルス核酸検出」は、先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、尿を検体として等温核酸増幅法により測定した場合に、1回に限り算定できる。
❸「サイトメガロウイルス核酸定量」は、以下のいずれかに該当する場合であって、血液を検体としてリアルタイムPCR法によりサイトメガロウイルスDNAを測定した場合に算定する。
ア 臓器移植後若しくは造血幹細胞移植後の患者、HIV感染者又は高度細胞性免疫不全の患者に対して、サイトメガロウイルス感染症の診断又は治療効果判定を目的として行った場合。ただし、高度細胞性免疫不全の患者については、本検査が必要であった理由について、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
イ 症候性先天性サイトメガロウイルス感染症患者に対して、治療効果判定を目的として行った場合。



ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	4A53	EBウイルスDNA定量 5F201-1441-019-862 5F201-1441-022-862	血液 2.0 (EDTA-2Na加) 血漿 2.0	PN5 PN5 ⇩ ARR	冷蔵 (28日)	3～5	❶ 310 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	検出せず (Log IU/mL)	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
	3728	EBウイルス 抗VCA IgG 5F202-1431-023-023	血清 各 0.2	S09 ⇩ A00	冷蔵	3～5	❷ 200 ※6	EIA	0.5未満 (－) 判定基準:下記参照	※1
	3223	抗VCA IgG 5F202-1431-023-162					❷ 200 ※6	FA (蛍光抗体法)	10未満 (倍)	出発希釈 10倍 ※1
	3729	抗VCA IgM 5F202-1432-023-023					❷ 200 ※6	EIA	0.5未満 (－) 判定基準:下記参照	※1
	3224	抗VCA IgM 5F202-1432-023-162					❷ 200 ※6	FA (蛍光抗体法)	10未満 (倍)	出発希釈 10倍 ※1
	3225	抗VCA IgA 5F202-1433-023-162					❸ 79 ※6	FA (蛍光抗体法)	10未満 (倍)	出発希釈 10倍 ※1
	3731	抗EA IgG 5F203-1431-023-023					❷ 200 ※6	EIA	0.5未満 (－) 判定基準:下記参照	※1
	3226	抗EA-DR IgG 5F203-1431-023-162					❷ 200 ※6	FA (蛍光抗体法)	10未満 (倍)	出発希釈 10倍 ※1
	3229	抗EA-DR IgA 5F203-1433-023-162					❸ 79 ※6	FA (蛍光抗体法)	10未満 (倍)	出発希釈 10倍 ※1
	3230	抗EBNA 5F204-1430-023-162					❸ 79 ※6	FA (蛍光抗体法)	10未満 (倍)	出発希釈 10倍 ※1
	3730	抗EBNA IgG 5F204-1431-023-023					❷ 200 ※6	EIA	0.5未満 (－) 判定基準:下記参照	※1

❶「EBウイルス核酸定量」は、以下のいずれかに該当する患者に対して、リアルタイムPCR法により実施した場合に算定する。
ア 臓器移植後の患者については、移植後3月以内の場合は1週に1回、移植後1年以内の場合は1月に1回に限り算定する。ただし、移植後1年以内にEBウイルス核酸定量の測定を行い、核酸量の高値が認められた患者については、移植後1年以上経過した場合も、3月に1回に限り算定できる。
イ 造血幹細胞移植後の患者であって、HLA型不一致の移植が行われた患者又は移植に伴い抗胸腺細胞グロブリンが投与された患者については、移植後3月以内の場合は1週に1回、移植後1年以内の場合は1月に1回に限り算定する。
ウ 臓器移植後の急性拒絶反応又は造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病に対して抗胸腺細胞グロブリンが投与された患者については、抗胸腺細胞グロブリンの投与開始日から起算して2月以内の場合は1週に1回、6月以内の場合は1月に1回に限り算定する。
エ 移植後リンパ増殖性疾患を疑う患者に対して、当該疾患の診断の補助又は診断された後の経過観察を目的として実施する場合に算定する。ただし、経過観察を目的とする場合は、当該疾患と診断された日から起算して1月以内の場合は1週に1回、6月以内の場合は1月に1回に限り算定する。
オ 悪性リンパ腫又は白血病の患者に対して、EBウイルス陽性の確認又は確認された後の経過観察を目的として実施する場合に算定する。ただし、経過観察を目的とする場合は、悪性リンパ腫又は白血病と診断された日から1年以内に限り、1月に1回に限り算定する。
カ 再生不良性貧血の患者であって、抗胸腺細胞グロブリンが投与された患者については、抗胸腺細胞グロブリンの投与開始日から起算して2月以内の場合は1週に1回、6月以内の場合は1月に1回に限り算定する。
キ 慢性活動性EBウイルス感染症を疑う患者に対して、当該疾患の診断の補助又は診断された後の経過観察を目的に実施された場合は、1月に1回に限り算定する。
ク 上咽頭癌を疑う患者に対して、当該疾患の診断の補助又は診断された後の治療効果判定を目的として実施した場合に、それぞれ1回に限り算定できる。ただし、「ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)」又は「グロブリンクラス別ウイルス抗体価」におけるEBウイルスを対象とした検査を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。

❷グロブリンクラス別ウイルス抗体価(73ページ)を参照ください。
❸ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(73ページ)を参照ください。

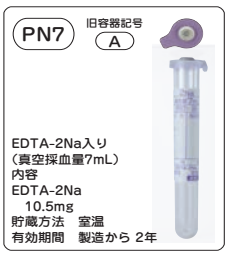
[3728]EBウイルス 抗VCA IgG
[3729]EBウイルス 抗VCA IgM
[3731]EBウイルス 抗EA IgG
[3730]EBウイルス 抗EBNA IgG
の判定基準

判定	抗体指数
－	0.5未満
±	0.5～0.9
＋	1.0以上

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
ウイルス感染症検査	3233	ヒトヘルペスウイルス6型DNA定性 5F210-1440-019-851 5F210-1440-023-851 5F210-1440-041-851 5F210-1440-085-851 5F210-1440-070-851	血液 2.0（EDTA-2Na加）	PN5	冷蔵（10日）	4～10		PCR	（－）	重 血液:凍結保存は避けてください。 患部ぬぐい液：患部をぬぐった滅菌綿棒を1mLのPBSまたは生理食塩水が入った滅菌ポリスピッツ(ARR)に入れ、そのまま凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			血清 0.7	S09 ⇩ ARR	凍結（3ヵ月）					
			髄液 0.7	ARR						
			患部ぬぐい液							
			組織 50mg							
	3823	ヒトヘルペスウイルス 6型DNA定量 5F210-1441-019-862	血液 5.0（EDTA-2Na加）	PN7	冷蔵	3～5		PCR（リアルタイムPCR）	2.0×10[1]未満（コピー /10[6]cells）	凍 重 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。　※1
	3234	ヒトヘルペスウイルス7型DNA定性 5F211-1440-019-851 5F211-1440-023-851 5F211-1440-041-851 5F211-1440-085-851 5F211-1440-070-851	血液 2.0（EDTA-2Na加）	PN5	冷蔵（10日）	4～10		PCR	（－）	重 血液:凍結保存は避けてください。 患部ぬぐい液：患部をぬぐった滅菌綿棒を1mLのPBSまたは生理食塩水が入った滅菌ポリスピッツ(ARR)に入れ、そのまま凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			血清 0.7	S09 ⇩ ARR	凍結（3ヵ月）					
			髄液 0.7	ARR						
			患部ぬぐい液							
			組織 50mg							







ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目 JLAC10		検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
ウイルス感染症検査	3242	エンテロウイルス	70型 5F270-1430-023-151	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	7～20		NT（中和反応）	4未満 （倍）	下記参照（*NT） ※1
	3243		71型 5F271-1430-023-151								
	3244	コクサッキーウイルス	A群2型 5F282-1430-023-151	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	8～21	❶79 ※6	NT（中和反応）	4未満 （倍）	下記参照（*NT） ※1
	3245		A群3型 5F283-1430-023-151					❶79 ※6			
	3247		A群4型 5F284-1430-023-151					❶79 ※6			
	3248		A群5型 5F285-1430-023-151					❶79 ※6			
	3249		A群6型 5F286-1430-023-151					❶79 ※6			
	3251		A群7型 5F287-1430-023-151					❶79 ※6			
	3253		A群9型 5F289-1430-023-151					❶79 ※6			
	1289		A群9型 5F289-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			7～8	❶79 ※6	CF（補体結合反応）		下記参照（*CF） ※E
	3254		A群10型 5F290-1430-023-151	血清 各 0.2			8～21	❶79 ※6	NT（中和反応）		下記参照（*NT） ※1
	3255		A群16型 5F296-1430-023-151					❶79 ※6			

❶ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（73ページ）を参照ください。

*CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL（冷蔵） 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）

*NT（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL（冷蔵） 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）

	項目コード	検査項目 JLAC10		検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
ウイルス感染症検査	3257	コクサッキーウイルス	B群1型 5F301-1430-023-151	血清 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	8～21	❶ 79 ※6	NT（中和反応）	4未満 （倍）	下記参照（*NT） ※1
	1290		B群1型 5F301-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			7～8	❶ 79 ※6	CF（補体結合反応）		下記参照（*CF） ※E
	3259		B群2型 5F302-1430-023-151	血清 0.2			8～21	❶ 79 ※6	NT（中和反応）		下記参照（*NT） ※1
	1296		B群2型 5F302-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			7～8	❶ 79 ※6	CF（補体結合反応）		下記参照（*CF） ※E
	3261		B群3型 5F303-1430-023-151	血清 0.2			8～21	❶ 79 ※6	NT（中和反応）		下記参照（*NT） ※1
	1291		B群3型 5F303-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			7～8	❶ 79 ※6	CF（補体結合反応）		下記参照（*CF） ※E
	3263		B群4型 5F304-1430-023-151	血清 0.2			8～21	❶ 79 ※6	NT（中和反応）		下記参照（*NT） ※1
	1297		B群4型 5F304-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			7～8	❶ 79 ※6	CF（補体結合反応）		下記参照（*CF） ※E
	3265		B群5型 5F305-1430-023-151	血清 0.2			8～21	❶ 79 ※6	NT（中和反応）		下記参照（*NT） ※1
	1298		B群5型 5F305-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			7～8	❶ 79 ※6	CF（補体結合反応）		下記参照（*CF） ※E
	3267		B群6型 5F306-1430-023-151	血清 0.2			8～21	❶ 79 ※6	NT（中和反応）		下記参照（*NT） ※1
	1299		B群6型 5F306-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			7～8	❶ 79 ※6	CF（補体結合反応）		下記参照（*CF） ※E

❶ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（73ページ）を参照ください。

*CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

*NT（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
ウイルス感染症検査	3268	エコーウイルス 1型 5F311-1430-023-151	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	8～19	❶ 79 ※6	NT（中和反応）	4未満 （倍）	下記参照（*NT）
	3271	エコーウイルス 3型 5F313-1430-023-151				8～19	❶ 79 ※6			
	3273	エコーウイルス 4型 5F314-1430-023-151				8～19	❶ 79 ※6			
	3274	エコーウイルス 5型 5F315-1430-023-151				8～21	❶ 79 ※6			
	3276	エコーウイルス 6型 5F316-1430-023-151				8～19	❶ 79 ※6			
	3279	エコーウイルス 7型 5F317-1430-023-151				8～19	❶ 79 ※6			
	3281	エコーウイルス 9型 5F319-1430-023-151				8～19	❶ 79 ※6			
	3284	エコーウイルス 11型 5F321-1430-023-151				8～21	❶ 79 ※6			
	3286	エコーウイルス 12型 5F322-1430-023-151				8～21	❶ 79 ※6			
	3287	エコーウイルス 13型 5F323-1430-023-151				8～19	❶ 79 ※6			
	3288	エコーウイルス 14型 5F324-1430-023-151				8～21	❶ 79 ※6			
	3289	エコーウイルス 16型 5F326-1430-023-151				6～19	❶ 79 ※6			
	3290	エコーウイルス 17型 5F327-1430-023-151				8～19	❶ 79 ※6			
	3291	エコーウイルス 18型 5F328-1430-023-151				6～19	❶ 79 ※6			
	3292	エコーウイルス 19型 5F329-1430-023-151				8～21	❶ 79 ※6			
	3293	エコーウイルス 21型 5F331-1430-023-151				8～21	❶ 79 ※6			
	3294	エコーウイルス（パレコウイルス1型） 22型 5F332-1430-023-151	血清 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	8～21	❶ 79 ※6			
	3295	エコーウイルス 24型 5F334-1430-023-151	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵	8～21	❶ 79 ※6			
	3296	エコーウイルス 25型 5F335-1430-023-151				8～19	❶ 79 ※6			
	3297	エコーウイルス 30型 5F340-1430-023-151				8～19	❶ 79 ※6			※1

❶ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（73ページ）を参照ください。

*NT（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL（冷蔵）基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
ウイルス感染症検査	3318	日本脳炎ウイルス（JaGAr株） 5F385-1430-023-111	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	5～8	❶ 79 ※6	HI （赤血球凝集抑制反応）	ジャガー　10未満 ジャガー 2ME　10未満 （倍）	下記参照（*HI） ※1
	1288	日本脳炎ウイルス 5F385-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	7～8	❶ 79 ※6	CF （補体結合反応）	4未満 （倍）	下記参照（*CF） ※E
	3321	風疹ウイルス 5F395-1430-023-111	血清 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	4～6	❶ 79 ※6	HI （赤血球凝集抑制反応）	8未満 （倍）	下記参照（*HI） ※1
	3323	風疹ウイルス IgG 5F395-1431-023-023	血清 各 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❷ 200 ※6	EIA	2.0未満（－） 判定基準:下記参照	下記参照（*固相法） ※1
	3325	風疹ウイルス IgM 5F395-1432-023-023					❷ 200 ※6	EIA	0.80未満（－） 判定基準:下記参照	下記参照（*捕捉法） ※1

❶ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（73ページ）を参照ください。
❷グロブリンクラス別ウイルス抗体価（73ページ）を参照ください。

*固相法：髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　0.20未満（－）

*捕捉法：髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　0.80未満（－）

*CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

*HI（赤血球凝集抑制反応）：
・日本脳炎ウイルス（JaGAr株）：出発希釈　10倍（髄液の測定も可能です　検体量　1.0mL（冷蔵）　基準値　10倍未満　出発希釈　10倍）
・風疹ウイルス：出発希釈　8倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

[3323、3325]風疹ウイルスの判定基準

判　定	IgG（EIA価）	IgM（抗体指数）
－	2.0未満	0.80未満
±	2.0～3.9	0.80～1.20
＋	4.0以上	1.21以上

ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
ウイルス感染症検査	3329	インフルエンザウイルス A型（H1N1）（H3N2） 5F400-1430-023-111	血清 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	4～6	❶❷ 79 ※6	HI（赤血球凝集抑制反応）	A型（H1N1） 10未満 A型（H3N2） 10未満 （倍）	検査結果はWHO方式の血清希釈倍数で表示しています。 下記参照（*HI） ※1
	1282	A型 5F400-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			7～8	❶❷ 79 ※6	CF（補体結合反応）	4未満 （倍）	下記参照（*CF） ※E
	3331	B型 5F410-1430-023-111	血清 0.2			4～6	❶❷ 79 ※6	HI（赤血球凝集抑制反応）	B-1 10未満 B-2 10未満 （倍）	検査結果はWHO方式の血清希釈倍数で表示しています。 下記参照（*HI） ※1
	1283	B型 5F410-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3			7～8	❶❷ 79 ※6	CF（補体結合反応）	4未満 （倍）	下記参照（*CF） ※E
	3333	パラインフルエンザウイルス 1型 5F421-1430-023-111	血清 各 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	4～6	❷ 79 ※6	HI（赤血球凝集抑制反応）	10未満 （倍）	検査結果はWHO方式の血清希釈倍数で表示しています。 下記参照（*HI） ※1
	3334	パラインフルエンザウイルス 2型 5F422-1430-023-111					❷ 79 ※6			
	3335	パラインフルエンザウイルス 3型 5F423-1430-023-111					❷ 79 ※6			
	1292	RSウイルス 5F430-1430-023-141	速やかに遠心 血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	7～8	❷ 79 ※6	CF（補体結合反応）	4未満 （倍）	下記参照（*CF） ※E
	3339	5F430-1430-023-151	血清 0.2			8～19	❷ 79 ※6	NT（中和反応）		下記参照（*NT） ※1

❶「インフルエンザウイルス抗原定性」と「インフルエンザウイルスA型」若しくは「インフルエンザウイルスB型」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（73ページ）を参照ください。

*CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

*NT（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

*HI（赤血球凝集抑制反応）：出発希釈　10倍（髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL（冷蔵）　基準値　10倍未満　出発希釈　10倍）

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
ウイルス感染症検査	3342	麻疹ウイルス 5F431-1430-023-151	血清 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	8～12	❶ 79 ※6	NT（中和反応）	4未満 （倍）	下記参照（*NT） ※1
	3343	麻疹ウイルス IgG 5F431-1431-023-023	血清 各 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❷ 200 ※6	EIA	2.0未満（－） 判定基準:下記参照	下記参照（*固相法） ※1
	3345	麻疹ウイルス IgM 5F431-1432-023-023					❷ 200 ※6		0.80未満（－） 判定基準:下記参照	下記参照（*捕捉法） ※1

❶ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（73ページ）を参照ください。
❷グロブリンクラス別ウイルス抗体価（73ページ）を参照ください。

*固相法：髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　0.20未満（－）
*捕捉法：髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　0.80未満（－）
*NT（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

［3343、3345］麻疹ウイルスの判定基準

判　定	IgG（EIA価）	IgM（抗体指数）
－	2.0未満	0.80未満
±	2.0 ～ 3.9	0.80 ～ 1.20
＋	4.0以上	1.21以上

［3345］麻疹ウイルスIgMの結果における注意事項

伝染性紅斑（パルボウイルスB19感染）、デング熱、突発性発疹（HHV6感染）などでも麻疹ウイルスIgMが陽性となる症例があることが報告されています。診断においては臨床症状および他の検査法を加味し、総合的に判断してください。

ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備　考
ウイルス感染症検査	3349	ムンプスウイルス 5F432-1430-023-151 5F432-1430-023-141	血清 0.2	S09 ⇩ A00	冷蔵	8～21	❶ 79 ※6	NT（中和反応）	4未満 （倍）	下記参照（*NT） ※1
	1284		速やかに遠心 血清 0.3			7～8	❶ 79 ※6	CF（補体結合反応）		下記参照（*CF） ※E
	3350	ムンプスウイルス IgG 5F432-1431-023-023	血清 各 0.2	S09 ⇩ A00	冷蔵	3～5	❷ 200 ※6	EIA	2.0未満（－） 判定基準:下記参照	下記参照（*固相法） ※1
	3352	ムンプスウイルス IgM 5F432-1432-023-023					❷ 200 ※6		0.80未満（－） 判定基準:下記参照	下記参照（*捕捉法） ※1

❶ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（73ページ）を参照ください。
❷グロブリンクラス別ウイルス抗体価（73ページ）を参照ください。

*固相法：髄液は測定可能ですが、参考値となります。 検体量 0.4mL（冷蔵）
*捕捉法：髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL（冷蔵） 基準値 0.80未満（－）
*CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL（冷蔵） 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）
*NT（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL（冷蔵） 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）

[3350、3352]ムンプスウイルスの判定基準

判　定	IgG（EIA価）	IgM（抗体指数）
－	2.0未満	0.80未満
±	2.0 ～ 3.9	0.80 ～ 1.20
＋	4.0以上	1.21以上

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
ウイルス感染症検査	1777	HTLV-Ⅰ(ATLV)抗体(一次検査) 5F450-1430-023-052	血清 0.5	S09 ⇩ A00	冷蔵(21日)	1～2	159 ※6	CLEIA	(－)	検査結果が「陽性」であった場合、ラインブロット法による確認検査をお勧めいたします。測定対象は、抗HTLV-Ⅰ抗体および抗HTLV-Ⅱ抗体です。型別の報告ではありません。
	6416	HTLV-1抗体(確認検査) 5F460-1430-023-833	血清 0.2	S09 ⇩ A00	冷蔵(28日)	4～7	❶425 ※6	ラインブロット法(LIA法)	(－) 判定基準:下記参照	一次検査で陽性が確認された症例について、確認検査としてご依頼ください。 SRLで実施している一次検査は「1777：HTLV-Ⅰ(ATLV)抗体(一次検査)」です。 測定対象は、抗HTLV-1抗体および抗HTLV-2抗体です。 ※1
	5977	HTLV-1核酸検出定性 5F454-1440-019-862	血液 7.0(EDTA-2Na加)	PN7	冷蔵(14日)	11～17	❷450 ※7	PCR(リアルタイムPCR)	(－) (プロウイルスを認めませんでした)	重 凍 血液：凍結保存は避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。 化学療法などにより細胞数が減少している場合は、必要量のDNAが抽出できない場合もあります。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。※1
	5978	HTLV-1プロウイルスDNA定性 5F454-1440-019-862 5F454-1440-070-862	血液 7.0(EDTA-2Na加)	PN7	冷蔵(14日)					
			組織 50mg	ARR	凍結					
	3363	HTLV-Ⅰ(ATLV)プロウイルスDNA(クロナリティ) 5F455-1440-019-831 5F455-1440-070-831	血液 7.0(EDTA-2Na加)	PN7	冷蔵(10日)	18～24		サザンブロットハイブリダイゼーション		血液：凍結保存は避けてください。化学療法などにより細胞数が減少している場合は、必要量のDNAが抽出できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。 ホルマリンなどにより固定した組織は、高分子DNAが得られないため、サザンブロットハイブリダイゼーションによる解析は不可能です。※1
			組織 250mg	ARR	凍結(1ヵ月)					

❶「HTLV-Ⅰ抗体(ウエスタンブロット法及びラインブロット法)」は、「HTLV-Ⅰ抗体定性」、「HTLV-Ⅰ抗体半定量」又は「HTLV-Ⅰ抗体」によって陽性が確認された症例について、確定診断を目的としてウエスタンブロット法又はラインブロット法により行った場合に算定する。

❷「HTLV-1核酸検出」は、「HTLV-Ⅰ抗体(ウエスタンブロット法及びラインブロット法)」によって判定保留となった妊婦、移植者(生体部分肺移植、生体部分肝移植、生体腎移植又は生体部分小腸移植の場合に限る。)又は臓器等提供者(生体部分肺移植、生体部分肝移植、生体腎移植又は生体部分小腸移植の場合に限る。)を対象として測定した場合にのみ算定する。本検査を実施した場合は、HTLV-Ⅰ抗体(ウエスタンブロット法及びラインブロット法)の判定保留を確認した年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

[6416]HTLV-1抗体(確認検査)(判定基準)

ラインが認められない		(－)
ラインが1本認められる(≧±)	gag p19かgag p24かenv gp46のいずれかが認められる	
	env gp21が認められる	保留
ラインが2本認められる(≧±)	env gp21が認められない	
	env gp21が認められる	(＋)
ラインが3本以上認められる(≧±)		

[3363]HTLV-Ⅰ(ATLV)プロウイルスDNA(クロナリティ)について

同時に複数検体をご依頼いただく場合は、所要日数が変動する場合がございます。あらかじめご了承ください。



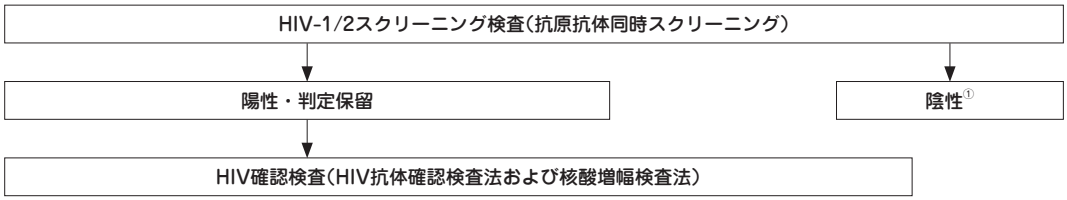
ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備　考
ウイルス感染症検査	0A24	HIV-1RNA 定量 5F500-1453-022-875	血漿 1.8	PSF	冷蔵(28日)	4～6	❶520 ※7	RT-PCR(リアルタイムPCR)	検出せず(コピー /mL)	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
	0A78	HIV-1/2 特異抗体 5F560-1430-023-190	血清 0.5	S09↓A00	冷蔵(7日)	4～6	❷660 ※6	イムノクロマト法	HIV陰性	重 他項目との重複依頼は避けてください。 確認検査(イムノクロマト法)をご依頼の際には、改めて採血しご提出ください。 ※1
	2764	HIV抗原・抗体 5F560-1550-023-052	血清 0.6	S09↓A00	冷蔵	1～2	109 ※6	CLEIA	(－)	重 不 他項目との重複依頼は避けてください。 不活化(非働化)した検体は、判定に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	7309	ノロウイルス抗原 5F630-1410-015-023	糞便 0.5g	F00	凍結	3～9		ELISA	(－)	依頼件数によって、所要日数が変動いたします。 ※1
	1802	ノロウイルスRNA定性 5F630-1450-015-875	糞便 0.5g	F00	凍結(7日)	3～9		RT-PCR(リアルタイムPCR)	検出せず	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 依頼件数によって、所要日数が変動いたします。 ※1
	6053	デングウイルスNS1抗原 5F390-1410-023-023	血清 0.2	S09↓A00	凍結	3～9	233 ※6	ELISA	(－)	依頼件数によって、所要日数が変動いたします。 ※1

❶HIV-1核酸定量
ア「HIV-1核酸定量」は、PCR法と核酸ハイブリダイゼーション法を組み合わせた方法又はＴＭＡ法と核酸ハイブリダイゼーション法を組み合わせた方法により、HIV感染者の経過観察に用いた場合又は「HIV-1,2抗体定性」、「HIV-1,2抗体半定量」、「HIV-1,2抗原・抗体同時測定定性」、「HIV-1抗体」、「HIV-1,2抗原・抗体同時測定定量」、又は「HIV-1,2抗体定量」が陽性の場合の確認診断に用いた場合にのみ算定する。
イ「HIV-1核酸定量」と「HIV-1抗体(ウエスタンブロット法)」を併せて実施した場合は、それぞれを算定することができる。
❷「HIV-1特異抗体・HIV-2特異抗体」は、スクリーニング検査としての「HIV-1,2抗体定性」若しくは「HIV-1,2抗体半定量」、「HIV-1,2抗原・抗体同時測定定性」、「HIV-1抗体」、「HIV-1,2抗体定量」又は「HIV-1,2抗原・抗体同時測定定量」によって陽性が確認された症例について、確定診断を目的として、全血、血清又は血漿を検体とし、イムノクロマト法により測定した場合に算定する。なお、本検査を実施した場合、「HIV-1抗体(ウエスタンブロット法)」及び「HIV-2抗体(ウエスタンブロット法)」は、別に算定できない。

HIV検査手順



抗体確認検査法			総合判定 HIV-1核酸増幅検査法	
HIV-1	HIV-2	判定	陽性あるいは検出感度未満	検出せず
陽性	陽性②	HIV-1,2感染	HIV-1およびHIV-2重複感染	HIV-1(治療中)③・HIV-2感染
	判定保留	HIV-1感染	HIV-1感染	HIV-1感染(治療中)③
	陰性	HIV-1感染	HIV-1感染	HIV-1感染(治療中)③
判定保留	陽性②	HIV-2感染	急性HIVおよびHIV-2重複感染	HIV-2感染
	判定保留	HIV-1,2判定保留	急性HIV-1感染	HIV-1,2判定保留(2週間後再検査)
	陰性	HIV-1判定保留	急性HIV-1感染	HIV-1判定保留(2週間後再検査)
陰性	陽性②	HIV-2感染	急性HIVおよびHIV-2重複感染	HIV-2感染
	判定保留	HIV-2判定保留	急性HIV-1感染	HIV-2判定保留(2週間後再検査)
	陰性	HIV陰性	急性HIV-1感染	HIV非感染④

①感染リスクがない場合は非感染と判定されますが、感染リスクがある場合または不明の場合は数週間後に再度スクリーニング検査を実施してください。
②HIV-2核酸増幅検査法は保険収載されていないため、専門機関に相談してください。
③HIV-1治療中または低ウイルス量感染が考えられます。
④感染リスクがある場合または不明の場合は、数週間後に再検査を実施してください。

容器は70ページをご参照ください。

ウイルス検査の特徴

検査方法	原理	測定対象	感度	特異度	特徴
補体結合反応(CF)	補体が抗原抗体複合体と結合することと溶血反応を引き起こすことを利用した方法。	抗体	比較的低い	中程度	古典的な手法
赤血球凝集抑制反応(HI)	ウイルスのもつ赤血球凝集能が、ウイルスに対する抗体により抑制されることを利用した方法	抗体	中程度	中～高程度	早期に抗体が上昇し持続
蛍光抗体法(FA)	目的とする抗原に対して、蛍光色素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行い、蛍光顕微鏡下で蛍光強度を測定する方法。	抗原・抗体	中～比較的高い	中～比較的高い	抗体分画が可能
中和反応(NT)	ウイルスがウイルスに対する抗体との反応により感染性が失われる(中和)ことを利用した方法。	中和抗体	中程度以下	極めて高い	機能的抗体評価 ゴールドスタンダード
酵素免疫測定法 (EIA/ELISA)	標識物質に酵素で標識した抗原または抗体を用いて抗原抗体反応を行い、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。	抗原・抗体	比較的高い	比較的高い	汎用性高い 定量・半定量可能
化学発光免疫測定法 (CLIA)	固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、化学発光性物質で標識した抗体を抗原に2次反応させ、化学発光性物質の発光強度を測定する方法。	抗原・抗体	高い	高い	微量検出が可能
化学発光酵素免疫測定法 (CLEIA)	固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、酵素標識した抗体を抗原に2次反応させ、化学発光基質を加えて発光強度を測定する方法。	抗原・抗体	高い～非常に高い	高い～非常に高い	CLIAよりも高感度
イムノクロマト法(IC)	検体中の抗原または抗体と、金コロイド粒子などで標識させた標識抗体または標識抗原が、メンブレンフィルター上を免疫複合体を形成しながら移動し、メンブレンフィルター上にあらかじめ固定化された抗体または抗原で免疫複合体が補足され、呈色し、目視などで結果判定する検出法。	抗原・抗体	比較的低い～中程度	比較的高い	主にスクリーニング用途 迅速・簡便
ラインブロット法	抗原を機械的にメンブレン上に点着し、抗原に対する特異的抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を、2次反応させ、抗体の検出を行う方法。	抗体	比較的高い	非常に高い	確認試験 (confirmatory test)
蛍光免疫測定法(FIA)	固相化した抗原に対して標的物質を反応させた後、蛍光物質で標識した抗体または抗原を2次反応させ、蛍光強度を測定する方法。	抗体	中～高程度	中～高程度	比色法より高感度 定量が可能

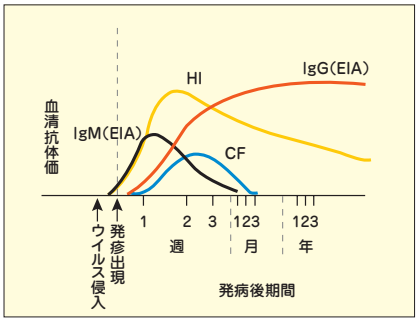
注記：本表の感度・特異度は検査法の一般的特性を示す相対評価であり、特定の検査試薬の性能を示すものではございません。

検出抗体の性質

		性質			
		動態	抗ウイルス抗体活性	補体結合能	胎盤移行性
抗体	IgM	早期に産生されるが短期間で消失	+	+	−
	IgG	IgMに遅れて出現。漸減しながら長期間持続	+	+	+
	IgA	IgMより多少遅れて出現するがIgMより長期間検出可能	+	−	−

抗体価の解釈とペア血清検査の意義

ウイルス血清抗体価に正常値という概念はありません。ウイルス感染後に産生される抗体の検出は、過去にそのウイルスに感染したことを回顧的に示すだけで、現在の状態を必ずしも反映してはいません。
ウイルス抗体は感染の直後に高く、以後下降するパターンを示しますが、単一の血清の抗体価の高低だけで近い過去に感染があったかどうかの判定は出来ない場合が多いといえます。
ウイルス感染後の抗体応答パターン、各検査法の特徴、検査意義を理解し、目的に応じた検査法を選択する必要があります。
急性期(発病後早期)と回復期(発病後14～21日)のペア血清の抗体価が4倍以上上昇した場合有意と判断しそのウイルスの感染を推定します。ただし、治療にγグロブリンを投与した場合の抗体価の上昇は、必ずしも有意とは考えられません。



ウイルス感染症検査

ウイルス感染症検査

目的別検査法選択の目安

検査法の特徴により目的に合った検査の選択が必要です。自然感染では感染初期に応答するIgM抗体の検出やペア血清による抗体上昇をみることが有用です。
また、既往の有無やワクチンの効果判定にはEIAによるIgG抗体の検査が有用です。

	自然感染	既往の有無	ワクチン効果判定
麻疹	NT、EIA(IgM)(IgG)、FIA(IgG)	NT、EIA(IgG)、FIA(IgG)	NT、EIA(IgG)、FIA(IgG)
風疹	HI、EIA(IgM)(IgG)、FIA(IgG)	HI、EIA(IgG)、FIA(IgG)	HI、EIA(IgG)、FIA(IgG)
ムンプス	CF、NT、EIA(IgM)(IgG)、FIA(IgG)	EIA(IgG)、FIA(IgG)	NT、EIA(IgG)、FIA(IgG)
水痘	CF、EIA(IgM)(IgG)、FIA(IgG)	EIA(IgG)、FIA(IgG)	EIA(IgG)、FIA(IgG)
日本脳炎	HI、CF		HI
インフルエンザ	CF、HI		HI

ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)

同一検体についてウイルス抗体価(定性・半定量・定量)の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。
ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)は、治療上必要な場合に行うものとし、次に掲げるものを当該検査の対象とする。

①アデノウイルス　②コクサッキーウイルス　③サイトメガロウイルス　④EBウイルス　⑤エコーウイルス　⑥ヘルペスウイルス
⑦インフルエンザウイルスA型　⑧インフルエンザウイルスB型　⑨ムンプスウイルス　⑩パラインフルエンザウイルスⅠ型
⑪パラインフルエンザウイルスⅡ型　⑫パラインフルエンザウイルスⅢ型　⑬ポリオウイルスⅠ型　⑭ポリオウイルスⅡ型
⑮ポリオウイルスⅢ型　⑯RSウイルス　⑰風疹ウイルス　⑱麻疹ウイルス　⑲日本脳炎ウイルス　⑳オーム病クラミジア
㉑水痘・帯状疱疹ウイルス

ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)に当たって、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

グロブリンクラス別ウイルス抗体価

同一検体についてグロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。
グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、下記の項目のウイルスのIgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。
ただし、⑦のヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出現している15歳以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

①ヘルペスウイルス　②風疹ウイルス　③サイトメガロウイルス　④EBウイルス　⑤麻疹ウイルス　⑥ムンプスウイルス　⑦ヒトパルボウイルスB19
⑧水痘・帯状疱疹ウイルス

同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。
ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症(非ウイルス)関連検査	3065	クラミジアトラコマティス IgA 5E017-0000-023-023	血清 各 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	3〜5	❶ 200 ※6	EIA	0.90未満 (−) 判定基準:下記参照	※1
	3068	クラミジアトラコマティス IgG 5E018-0000-023-023					❶ 200 ※6			
	1294	オーム病クラミドフィラ(クラミジアシッタシ) 5E026-0000-023-141	速やかに遠心 血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	7〜8	❷ 79 ※6	CF	4未満 (倍)	下記参照(*CF) ※E
	3078	クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ IgG 5E027-0000-023-162	血清 各 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	4〜17		FA	10未満 (倍)	下記参照(*FA)
	3079	クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ IgM 5E028-0000-023-162								※1
	6044	クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgG 5E031-0000-023-023	血清 各 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵 (21日)	3〜5	❸❹ 70 ※6	ELISA	30未満 (−) 判定基準:下記参照	
	6045	クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgA 5E032-0000-023-023					❸❹ 75 ※6		8未満 (−) 判定基準:下記参照	
	3064	クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgM 5E033-0000-023-023					❸❹ 152 ※6		0.5未満 (−) 判定基準:下記参照	※1

❶グロブリンクラス別クラミジア・トラコマチス抗体
ア「グロブリンクラス別クラミジア・トラコマチス抗体」は、クラミジア・トラコマチス抗原検出不能又は検体採取の困難な疾患(骨盤内感染症、卵管炎、副睾丸炎、新生児・乳児肺炎等)の診断に際し、IgG抗体価又はIgA抗体価を測定した場合又は新生児・乳幼児肺炎の診断に際し、IgM抗体価を測定した場合に算定する。
イ IgG抗体価、IgA抗体価及びIgM抗体価のうち2項目以上を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❷ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(73ページ)を参照ください。
❸「クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体」を、「クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体」又は「クラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体」と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
❹「肺炎クラミジア核酸検出」と「クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体」、「クラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体」若しくは「クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体」又は「ウイルス・細菌核酸多項目同時検出」を併せて実施した場合は、主たるもののみを算定する。

*CF(補体結合反応):補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈 4倍(髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)
*FA:出発希釈 10倍(髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍)

[3065、3068]クラミジアトラコマティスIgA、IgG(判定基準)

インデックス値	判定
0.90未満	(−)
0.90 〜 1.09	(±)※
1.10以上	(+)

※10日以降に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

[6044]クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgG(判定基準)

EIU値	判定
EIU<30	陰性(−)
30≦EIU≦45	判定保留(±)※
EIU>45	陽性(+)

※28日以降に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

[6045]クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgA(判定基準)

EIU値	判定
EIU<8	陰性(−)
8≦EIU≦12	判定保留(±)※
EIU>12	陽性(+)

※28日以降に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

[3064]クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエIgM(判定基準)

S/CO値	判定
S/CO<0.5	陰性(−)
0.5≦S/CO≦1.1	判定保留(±)※
S/CO>1.1	陽性(+)

※10日以降に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

感染症(非ウイルス)関連検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症(非ウイルス)関連検査	3081	抗ストレプトリジン-O抗体(ASO) 5E035-0000-023-062	血清 0.6	S09 ↓ A00	冷蔵	3~5	15 ※6	ラテックス凝集免疫法	239以下 (IU/mL)	※1
	4204	エンドトキシン定量 5E046-0000-019-297	血液 2.0 (ノボヘパリン加)	PE2	冷蔵	3~5	❶ 229 ※6	比濁時間分析法	1.0以下 (カットオフ値) (pg/mL)	凍 凍結保存は避けてください。 1.0pg/mLは、グラム陰性菌による敗血症診断のカットオフ値です。1.1pg/mL以上は、グラム陰性菌による敗血症の疑いがあります。β-D-グルカン以外との重複依頼は避けてください。本検査においては、血漿中のエンドトキシンを測定いたします。血液2.0mLを専用容器(PE2)にて採血し、よく混和してください。データ影響が認められるため、速やかに冷蔵保存にてご提出ください。※1
	7485	透析液中エンドトキシン A液 5E048-0000-095-271	透析液 各 4.0	PE4	冷蔵	3~5		発色合成基質法	(EU/mL)	専用依頼書、専用容器を使用してください。採取部位(透析液の種類)を必ず明記してください。 電解質、酸、アルカリの反応阻害を防ぐため、A液は40倍希釈、B液は20倍希釈して測定いたします。 ※1
	7486	B液 5E048-0000-095-271								
	7487	RO水 5E048-0000-095-271								
	7488	調整液 5E048-0000-095-271								
	7489	その他 5E048-0000-095-271								
	7495	百日咳抗体〔EIA〕 5E054-0000-023-023	血清 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	3~5	250 ※6	EIA	PT-IgG 10未満 FHA-IgG 10未満 (EU/mL)	※1
	1784	百日咳抗体 IgA 5E101-0000-023-023	血清 各 0.2	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	3~5	80 ※6	ELISA	8.5未満 (−) 判定基準:下記参照	※1
	1785	百日咳抗体 IgM 5E102-0000-023-023					80 ※6			
	4A14	抗ヘリコバクターピロリ抗体〔LA〕 5E064-0000-023-062	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	3~5	80 ※6	ラテックス凝集比濁法	10未満 (U/mL)	※1
	5264	便中ヘリコバクターピロリ抗原 5E068-0000-015-023	糞便 (専用スティック1本)	F20	冷蔵	3~5	138 ※6	EIA	(−)	必ず専用容器で採取してご提出ください。 ※1

❶「プレセプシン定量」と「プロカルシトニン(PCT)定量」、「プロカルシトニン(PCT)半定量」又は「エンドトキシン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

[1784、1785]百日咳抗体 IgA、IgM(判定基準)

NTU値	判定
<8.5	(−)
8.5 ~ 11.5	(±)※
>11.5	(+)

※2 ~ 4週間後に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症(非ウイルス)関連検査	7460	梅毒定性RPR〔LA〕 5E074-1351-023-062	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	1～2	15 ※6	ラテックス比濁法	(－)	溶 乳び検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。また、溶血検体では高値となる場合がありますので避けてください。
	7461	梅毒定量RPR〔LA〕 5E074-1352-023-062	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	1～2	34 ※6	ラテックス比濁法	1.0未満 (R.U.)	溶 乳び検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。また、溶血検体では高値となる場合がありますので避けてください。
	7462	梅毒定性TP抗体〔LA〕 5E075-1351-023-062	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	1～2	32 ※6	ラテックス比濁法	(－)	乳び検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	7463	梅毒定量TP抗体〔LA〕 5E075-1352-023-062	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	1～2	53 ※6	ラテックス比濁法	5未満 (U/mL) 判定基準:下記参照	乳び検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
	3115	寒冷凝集反応 5E105-0000-023-102	速やかに遠心 血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵	4～6	11 ※6	HA	256末満 (倍)	採血後、速やかに血清分離してください。(血清分離までは37℃保存) ※1
	1295	マイコプラズマニューモニエ 5E106-0000-023-141 5E106-0000-023-117	速やかに遠心 血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵	7～8	32 ※6	CF	4末満 (倍)	下記参照(*CF) ※E
	8330		血清 0.2			2～3	32 ※6	PA	40末満 (倍)	下記参照(*PA)

*CF(補体結合反応)：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、
抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈 4倍（髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 1倍未満 出発希釈 1倍）
*PA：出発希釈 40倍（髄液の測定も可能です 検体量 0.4mL(冷蔵) 基準値 設定なし 出発希釈 2倍）

[7463]梅毒定量 TP抗体〔LA〕(判定基準)

U/mL	判定
5 未満	陰性
5 ～ 9	判定保留
10 以上	陽性

梅毒血清反応検査の結果の解釈

STS RPR〔LA〕等	TP抗原 TP抗体〔LA〕等	結果の解釈
(－)	(－)	非梅毒 ごく初期の早期梅毒(まれ)
(＋)	(－)	ごく初期の早期梅毒※ 生物学的偽陽性(BFP)
(＋)	(＋)	活動性梅毒(要治療) 治癒状態の梅毒
(－)	(＋)	治癒状態の梅毒 ごく初期の早期梅毒 TP抗原系の非特異反応による偽陽性(まれ)

※BFPを呈する疾患や最近の感染機会の有無を調査する。
STS抗体価の推移をモニターし、TP抗体の陽性反応を認めた場合、初期の梅毒感染を疑う。
あくまでも臨床診断が優先であり、血清学的検査は補助診断である。

〔梅毒血清反応検査の使用と留意点〕
《STS》
カルジオリピン抗原に対する抗体。梅毒感染初期から陽性化し、治療後は陰性化する場合が多く梅毒症状をよく反映する。
生物学的偽陽性反応(BFP)が多い。
《生物学的偽陽性(BFP)》
STS(RPR)は生物学的偽陽性(BFP)が多く、梅毒感染以外に肝疾患、自己免疫疾患、妊婦などで偽陽性を示す場合がある。
《TP抗体》
トレポネーマ抗原に対する抗体で梅毒感染時に認められる特異的な抗体。
過去に梅毒陽性となった患者血清では、いつまでも抗体価が高値で持続する場合がある。
まれに非特異反応が認められる。



感染症(非ウイルス)関連検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症(非ウイルス)関連検査	3122	ツツガムシカープIgG 5E122-0000-023-162	血清 各 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	4～8	203 ※6	FA	10未満 (倍)	感染の有無はペア血清で判断してください。 ※1
	3123	ツツガムシカープIgM 5E123-0000-023-162					203 ※6			
	3125	ツツガムシカトー IgG 5E125-0000-023-162	血清 各 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	4～8	203 ※6	FA	10未満 (倍)	感染の有無はペア血清で判断してください。 ※1
	3126	ツツガムシカトー IgM 5E126-0000-023-162					203 ※6			
	3128	ツツガムシギリアムIgG 5E128-0000-023-162	血清 各 0.2	S09 ⬇ A00	冷蔵	4～8	203 ※6	FA	10未満 (倍)	感染の有無はペア血清で判断してください。 ※1
	3129	ツツガムシギリアムIgM 5E129-0000-023-162					203 ※6			

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
感染症（非ウイルス）関連検査	3131	クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原 5E140-0000-023-117 5E140-0000-041-117	血清 0.8 髄液 0.8	S09 ⬇ A00 A00	冷蔵	3～5	❶ 164 ※6 ❶ 164 ※6	ラテックス凝集反応	（－）	EDTA（抗凝固剤）は酵素処理に影響を与え、検査不能となる場合がありますので、EDTAの使用は避けてください。 ※1
	3892	カンジダマンナン抗原 5E142-0000-023-023	血清 0.8	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❶❷ 134 ※6	ELISA	0.05未満 （U/mL）	フィブリン除去時に竹串を使用すると、高値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
	0A36	アスペルギルス抗体IgG 5E146-0000-023-023	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵（28日）	3～5	❶❸ 390 ※6	ELISA	5.0未満（－）（AU/mL） 判定基準：下記参照	※1
	3816	アスペルギルス抗原 5E148-0000-023-023	血清 1.0	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❶❹ 157 ※6	ELISA	0.5未満（－）	フィブリン除去時に竹串を使用すると、高値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いに充分ご注意ください。また、ピペラシリン/タゾバクタム合剤の投与で偽陽性となる場合があります。 ※1
	3140	β-D-グルカン 5E151-0000-019-271	血液 2.0（ノボヘパリン加）	PE2	冷蔵	3～5	❶❺ 190 ※6	発色合成基質法	20.0以下（カットオフ値）（pg/mL）	凍 凍結保存は避けてください。（基準値について）20pg/mLは、深在性真菌症のカットオフ値です。エンドトキシン定量以外の項目との重複依頼は避けてください。本検査においては、血漿中の(1→3)-β-D-グルカンを測定いたします。血液2.0mLを専用容器（PE2）にて採血し、よく混和させ、速やかに冷蔵保存にてご提出ください。グルカン製剤（抗悪性腫瘍剤）、セルロース膜で精製した血液製剤などの投与、セルロース膜での透析後の血液などは、データが高値を示す可能性があります。また、多発性骨髄腫・高γ-グロブリン血症では非特異的反応を示す可能性があります。溶血検体では、溶血の度合いにより検査不能となる場合があります。 ※1

❶「(1→3)-β-D-グルカン」を「カンジダ抗原定性」、「カンジダ抗原半定量」、「カンジダ抗原定量」、「アスペルギルス抗原」、「D-アラビニトール」、「クリプトコックス抗原定性」又は「クリプトコックス抗原半定量」、「アスペルギルスIgG抗体（ただし、慢性進行性肺アスペルギルス症と侵襲性肺アスペルギルス症の併存が疑われる患者に対して本検査を実施した場合を除く。）」と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷「カンジダ抗原定性」、「カンジダ抗原半定量」又は「カンジダ抗原定量」は、カンジダ血症又はカンジダ肺炎の診断の目的で行った場合に算定する。
❸「アスペルギルスIgG抗体」は、ELISA法により、慢性進行性肺アスペルギルス症又はアレルギー性気管支肺アスペルギルス症が疑われる患者に対して測定した場合に算定する。なお、本検査は、関連学会の定める指針に従って実施すること。
❹「アスペルギルス抗原」はLA法又はELISA法により、侵襲性肺アスペルギルス症の診断のために実施した場合にのみ算定できる。
❺「(1→3)-β-D-グルカン」は、発色合成基質法、比濁時間分析法又はELISA法により、深在性真菌感染症が疑われる患者に対する治療法の選択又は深在性真菌感染症に対する治療効果の判定に使用した場合に算定する。

[0A36]アスペルギルス抗体IgG（判定基準）

AU/mL	判定
5.0 未満	（－）
5.0 ～ 9.9	判定保留
10 以上	（＋）



免疫血清学的検査

感染症(非ウイルス)関連検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
感染症(非ウイルス)関連検査	7449	トリコスポロン・アサヒ抗体 5E154-0000-023-023	血清 0.3	S09→A00	凍結(28日)	8~15	798 ※6	Antigen-captured ELISA	0.15未満 (CAI) 判定基準:下記参照	※ハ
	7921	鳥特異的IgG抗体 5A110-2331-023-023 5A110-2331-022-023	血清 0.5 血漿 0.5	S09→A00 PN2,PN5→A00	冷蔵(7日)	4~10	❶873 ※6	FEIA	(−) 判定基準:下記参照 (mg_A/L)	※1
	3142	トキソプラズマIgG抗体 5E156-0000-023-023	血清各 0.3	S09→A00	冷蔵	3~5	93 ※6	ELISA	6未満 判定基準:下記参照	※1
	3143	トキソプラズマIgM抗体 5E157-0000-023-023					95 ※6		0.8未満 判定基準:下記参照	IgM抗体は長期間陽性が持続する場合がありますので、下記判定基準をご参照ください。 ※1
	0C88	赤痢アメーバ抗体定性 5E158-0000-023-023	血清 0.3	S09→A00	凍結	3~9	❷223 ※6	ELISA	陰性(-) 判定基準:下記参照	※1
	6020	結核菌特異的IFN-γ 5E301-0000-019-031	血液 5.0(ヘパリン加)	PH5	室温(54時間)	4~6	593 ※6	ELISPOT法	(−)	重 他項目との重複依頼は避けてください。検体は採取後、速やかにご提出ください。 ※1
	5154	MAC抗体(抗酸菌抗体定性) 5E069-0000-023-023	血清 0.5	S09→A00	冷蔵(15日)	5~7	151 ※6	ELISA	(−) 0.7未満 (U/mL)	本検査は定性検査です。抗体濃度を参考値としてご報告いたします。 ※E

❶「鳥特異的IgG抗体」は、診察又は画像診断等により鳥関連過敏性肺炎が強く疑われる患者を対象として、EIA法により測定した場合に算定する。なお、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
❷「赤痢アメーバ抗体定性」は、関連学会の定める適正使用指針に従い、アメーバ性肝膿瘍を疑う場合又は糞便検査が陰性かつアメーバ性大腸炎を疑う場合であって、ELISA法により血清中の赤痢アメーバ抗体を測定した場合に、一連の治療において1回に限り算定する。

[7449]トリコスポロン・アサヒ抗体(判定基準)

CAI(Corrected Absorbance Index)※	判定
0.15未満	陰性
0.15~0.30未満	判定保留
0.30以上	陽性

※CAI(Corrected Absorbance Index):補正吸光度

[7921]鳥特異的IgG抗体の判定基準

両方またはいずれか一方の測定値がカットオフ値(セキセイインコ:8.00mg_A/L、ハト:24.0mg_A/L)以上となった場合を(+)と判定し、両方がカットオフ値未満の場合を(-)と判定いたします。

	セキセイインコIgG	ハトIgG	判定
カットオフ	8.00(mg_A/L)	24.0(mg_A/L)	
結果	(+)	(+)	(+)
	(+)	(-)	
	(-)	(+)	
	(-)	(-)	(-)

[3142]トキソプラズマIgG抗体(判定基準)

IU/mL	判定	解釈
6未満	陰性	トキソプラズマの感染は認められません。
6 ~ 8	判定保留	低濃度の抗体が認められ、トキソプラズマ感染の疑いがあります。
9以上	陽性	トキソプラズマ感染が考えられます。

[3143]トキソプラズマIgM抗体(判定基準)

Cut off index	判定	解釈
0.8未満	陰性	最近のトキソプラズマ感染のないことが考えられます。
0.8 ~ 0.9	判定保留	10~20日後に再検査およびトキソプラズマIgG抗体検査による確認をお勧めします。
1.0以上	陽性	

[0C88]赤痢アメーバ抗体定性(判定基準)

NTU※1(参考値)	判定
8.5未満	陰性(-)
8.5以上 11.5以下	判定保留※2
11.5超	陽性(+)

※1 NTU:NovaTec Unit(判定単位)
※2 2~4週間後に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	3382	抗核抗体(ANA) 5G010-0000-023-162	血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵	3～5	99 ※6	FA	40未満 (倍)	※1
	3385	抗DNA抗体〔RIA〕 5G020-0000-023-002	血清 0.2	S09⬇A00	冷蔵	3～5	159 ※6	RIA硫安塩析法	6.0以下 (IU/mL)	※1
	3387	抗ss-DNA IgG抗体 5G026-0000-023-023	血清各 0.3	S09⬇A00	冷蔵	3～5	159 ※6	ELISA	25以下 (AU/mL)	
	3388	抗ss-DNA IgM抗体 5G028-0000-023-023				3～16			17未満 (U/mL)	※1
	3389	抗ds-DNA IgG抗体 5G036-0000-023-023	血清各 0.3	S09⬇A00	冷蔵	3～5	159 ※6	ELISA	12以下 (IU/mL)	
	3390	抗ds-DNA IgM抗体 5G038-0000-023-023				3～16			6未満 (U/mL)	※1
	6058	抗Sm抗体〔CLEIA〕 5G065-0000-023-052	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	3～5	147 ※6	CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。※1
	6057	抗RNP抗体〔CLEIA〕 5G066-0000-023-052	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	3～5	144 ※6	CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。※1
	6059	抗SS-A/Ro抗体〔CLEIA〕 5G076-0000-023-052	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	3～5	161 ※6	CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。※1
	6060	抗SS-B/La抗体〔CLEIA〕 5G077-0000-023-052	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	3～5	153 ※6	CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。※1
	6061	抗Scl-70抗体〔CLEIA〕 5G085-0000-023-052	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	3～5	157 ※6	CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。※1
	7476	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体 5G087-0000-023-023	血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵	3～5	166 ※6	ELISA	28未満 判定基準:下記参照	※1
	3408	抗セントロメア抗体 5G090-0000-023-052	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	3～5	173 ※6	CLEIA	10.0未満 (U/mL)	※1

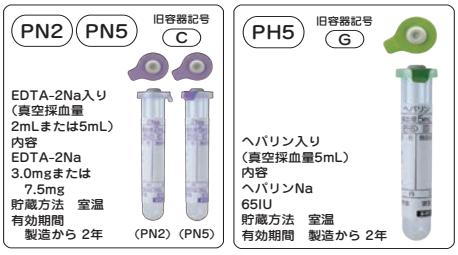
[3382]抗核抗体(ANA)の成人健常者における出現率

抗体価	出現率(%)
40倍未満	67～75
40倍	16～22
80倍	7～13
160倍	1～4
320倍	1

＊当社検討結果(最小・最大値)より

[7476]抗RNAポリメラーゼⅢ抗体(判定基準)

Index	判　定
28未満	陰性(－)
28～50未満	(±)
50以上	陽性(＋)



抗核抗体(ANA)染色型と主な関連検査および疾患

染色型	主な関連検査	主な関連疾患
Homogeneous型 (均質型) Peripheral型[1] (辺縁型)	抗DNA抗体(DNAテスト)[2]	全身性エリテマトーデス
	抗DNA抗体	
	抗ss-DNA IgG抗体	
	抗ss-DNA IgM抗体	
	抗ds-DNA IgG抗体	
	抗ds-DNA IgM抗体	
	抗ヒストン抗体	全身性エリテマトーデス、薬剤性ループス
Speckled型 (斑紋型)	抗RNP抗体	混合性結合組織病、強皮症、全身性エリテマトーデス
	抗Sm抗体	全身性エリテマトーデス
	抗SS-A/Ro抗体	シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス
	抗SS-B/La抗体	シェーグレン症候群
	抗Scl-70抗体[3]	強皮症
	抗RNA ポリメラーゼⅢ抗体	
	抗Mi-2抗体	多発性筋炎・皮膚筋炎
	抗TIF1-γ抗体	
Nucleolar型 (核小体型)	抗U3RNP抗体[2]	強皮症
	抗7-2RNP抗体[2]	
	抗RNA ポリメラーゼⅢ抗体	
	抗PM-Scl抗体[2]	筋炎・強皮症重複症候群
	抗リボゾームP抗体[4]	全身性エリテマトーデス(CNSループス)
Discrete-Speckled型 (セントロメア型)	抗セントロメア抗体	強皮症(CREST症候群)、原発性胆汁性肝硬変
Cytoplasmic型[5] (細胞質型)	抗ミトコンドリア抗体	原発性胆汁性肝硬変
	抗ミトコンドリアM2抗体	
	抗Jo-1抗体	多発性筋炎・皮膚筋炎
	抗MDA5抗体	
	抗SS-A/Ro抗体	シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス
	抗リボゾームP抗体[4]	全身性エリテマトーデス(CNSループス)
	抗平滑筋抗体	自己免疫性肝炎
PCNA型	抗PCNA抗体[2]	全身性エリテマトーデス
PCNA様型	抗Na抗体[2]など	全身性エリテマトーデスなど
核膜型	抗核膜ラミン抗体[2]	原発性胆汁性肝硬変、自己免疫性肝炎など
	抗gp210抗体[2]	
Granular型	抗p80 coilin抗体[2]	原発性胆汁性肝硬変、シェーグレン症候群など
	抗Sp-100抗体[2]	
紡錘体型[5] NuMA-1 NuMA-2	抗NuMA-1抗体[2]	シェーグレン症候群など 全身性エリテマトーデスなど
	抗NuMA-2抗体[2]	
中心体型[5]	抗中心体抗体[2]	レイノー病、強皮症など
ゴルジ体型[5]	抗golgin-97抗体[2]など	シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス、 関節リウマチなど

1)Homogeneous型との鑑別は難しく、多くのPeripheral型陽性血清は希釈していくとHomogeneous型に変化します。
2)未実施項目です。
3)染色型はSpeckled型とHomogeneous型の中間的な染色像であり、またNucleolar型が陽性となることがあります。
4)項目の詳細につきましては営業員へお問い合わせください。
5)対応抗原の局在が核ではないため、狭義の抗核抗体には含まれません。

〔参考文献〕
竹内　健,他:医学検査 51 (9):1256～1264, 2002.
三森　経世:リウマチ 32 (4):366～378, 1992.

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	6062	抗Jo-1抗体〔CLEIA〕 5G120-0000-023-052	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	3～5	❶140 ※6	CLEIA	10.0未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ※1
	6047	抗ARS抗体 5G121-0000-023-023	血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵(28日)	3～5	❶190 ※6	ELISA	25.0未満(－)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ※1
	7919	抗MDA5抗体 5G122-0000-023-023	血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵(28日)	3～5	275 ※6	ELISA	32未満(－)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ※1
	7504	抗Mi-2抗体 5G123-0000-023-023	血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵(28日)	3～5	270 ※6	ELISA	53未満(－)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ※1
	7505	抗TIF1-γ抗体 5G124-0000-023-023	血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵(28日)	3～5	270 ※6	ELISA	32未満(－)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ※1
	3415	リウマチ因子(RF)定量 5G160-0000-023-062	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	1～2	❷30 ※6	ラテックス凝集免疫比濁法	15以下 (IU/mL)	
	3418	IgG型リウマチ因子 5G161-0000-023-023	血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵	3～5	❷❸198 ※6	ELISA	2.00未満	※1
	3798	抗ガラクトース欠損IgG抗体 5G166-0000-023-052	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(21日)	3～5	❷❸❹111 ※6	CLEIA	6.0未満 (AU/mL)	※1
	4496	抗シトルリン化ペプチド(CCP)抗体 5G167-0000-023-052	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	3～5	❸❺193 ※6	CLEIA	4.5未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ※1
	3420	抗ミトコンドリア抗体 5G175-0000-023-162	血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵	3～5	181 ※6	FA	(－)(20未満) (倍)	※1
	6015	抗ミトコンドリアM2抗体 5G176-0000-023-052	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵(28日)	3～5	189 ※6	CLEIA	7.0未満	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ※1
	3422	抗平滑筋抗体 5G180-0000-023-162	血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵	3～5		FA	(－)(40未満) (倍)	※1
	3423	抗胃壁細胞抗体 5G185-0000-023-162	血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵	3～5		FA	(－)(10未満) (倍)	※1
	7467	抗内因子抗体 5G190-0000-023-052	血清 0.8	S09⬇A00	冷蔵	5～11		CLEIA	(－)	ビタミンB_{12}摂取後1週間以内の検体は偽陽性を呈する可能性がありますので、ご依頼は避けてください。 ※1

❶「抗ARS抗体」と「抗Jo-1抗体定性」、「抗Jo-1抗体半定量」又は「抗Jo-1抗体定量」を併せて実施した場合は主たるもののみ算定する。
❷「リウマトイド因子(RF)定量」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定性」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定量」、「マトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)」、「C_1q結合免疫複合体」、「モノクローナルRF結合免疫複合体」及び「IgG型リウマトイド因子」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定する。
❸「抗シトルリン化ペプチド抗体定性」、「抗シトルリン化ペプチド抗体定量」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定性」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定量」、「マトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)」、「C_1q結合免疫複合体」、「モノクローナルRF結合免疫複合体」及び「IgG型リウマトイド因子」のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの1つに限り算定する。
❹「抗ガラクトース欠損IgG抗体定性」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定量」、「リウマトイド因子(RF)定量」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❺「抗シトルリン化ペプチド抗体定性」又は「抗シトルリン化ペプチド抗体定量」は、以下のいずれかの場合に算定できる。
(イ) 関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として1回を限度として算定できる。ただし、当該検査結果が陰性の場合においては、3月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
(ロ) (イ)とは別に、関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者1人につき原則として1回に限り算定する。ただし、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、再度治療薬を選択する必要がある場合においては、6月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、その医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

免疫血清学的検査

自己免疫関連検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備　考
自己免疫関連検査	4A26	プロスタグランジンE主要代謝物(PGE-MUM) 4Z150-0000-001-052	部分尿 2.0	A00	冷蔵(21日)	3～7	❶❷ 187 ※1	CLEIA	濃度(ng/mL) 換算値 30.2以下 (カットオフ値)(μg/gCr)	潰瘍性大腸炎の病態把握の補助における参考カットオフ値は30.2μg/gCr以下です。 ※1
	1786	便中カルプロテクチン 5C235-0000-015-023	糞便	F30	凍結(28日)	4～8	❷❸ 268 ※1	FEIA	50.0以下 潰瘍性大腸炎の内視鏡的非活動状態のカットオフ値300以下 クローン病の内視鏡的非活動状態のカットオフ値80以下 (mg/kg)	重 他項目との重複依頼は避けてください。 ※1
	1790	便中カルプロテクチン 5C235-0000-015-023	糞便 1g	F00	凍結	6～10	❷❸ 268 ※1	ELISA	94.0未満 潰瘍性大腸炎の病態把握のカットオフ値240未満 クローン病の病態把握のカットオフ値80以下 (μg/g)	重 他項目との重複依頼は避けてください。 ※1
	2492	ロイシンリッチα2グリコプロテイン(LRG) 5C245-0000-023-062	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵(28日)	3～5	❷❹ 268 ※4	ラテックス凝集免疫法	16.0未満 (カットオフ値)(μg/mL)	炎症性腸疾患の活動期の判定の補助における参考基準値は16.0μg/mLです。 感染症、リウマチ等の炎症性疾患、一部の悪性腫瘍においてLRG値が上昇することがありますのでご注意ください。 ※1

❶「プロスタグランジンE主要代謝物(尿)」は、潰瘍性大腸炎の患者の病態把握の補助を目的として、尿を検体とし、CLEIA法により測定した場合に、3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

❷潰瘍性大腸炎の病態把握を目的として、「プロスタグランジンE主要代謝物(尿)」、「カルプロテクチン(糞便)」、「ロイシンリッチα_2グリコプロテイン」又は「大腸内視鏡検査」を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

❸カルプロテクチン(糞便)

ア「カルプロテクチン(糞便)」を慢性的な炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病等)の診断補助を目的として測定する場合は、ELISA法、FEIA法、イムノクロマト法、LA法又は金コロイド凝集法により測定した場合に算定できる。ただし、腸管感染症が否定され、下痢、腹痛や体重減少などの症状が3月以上持続する患者であって、肉眼的血便が認められない患者において、慢性的な炎症性腸疾患が疑われる場合の内視鏡前の補助検査として実施すること。また、その要旨を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

イ 本検査を潰瘍性大腸炎又はクローン病の病態把握を目的として測定する場合、潰瘍性大腸炎についてはELISA法、FEIA法、金コロイド凝集法、イムノクロマト法又はLA法により、クローン病についてはELISA法、FEIA法、イムノクロマト法、LA法又は金コロイド凝集法により測定した場合に、それぞれ3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

ウ 慢性的な炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病等)の診断補助又は病態把握を目的として、本検査及び大腸内視鏡検査を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

❹「ロイシンリッチα_2グリコプロテイン」は、潰瘍性大腸炎又はクローン病の病態把握を目的として測定した場合に3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	3432	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体) 5G285-0000-023-053	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	1～2	❶138 ※6	ECLIA	16未満 (IU/mL)	
	3433	抗サイログロブリン抗体 5G290-0000-023-053	血清 0.5	S09⬇A00	冷蔵	1～2	136 ※6	ECLIA	28未満 (IU/mL)	
	0A69	甲状腺刺激抗体(TSAb) 5G300-0000-023-905	血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵(21日)	3～5	❷330 ※6	Bioassay	110未満 (%)	溶 溶血でのご依頼は避けてください。(溶血検体では、測定値が低値となる可能性があります。) ※1
	5192	TSHレセプター抗体〔CLEIA〕 5G310-0000-023-052	血清 0.8	S09⬇A00	冷蔵(21日)	3～5	❷208 ※6	CLEIA	2.0未満 (IU/L)	TSHレセプターのTSH結合部位を認識するM22抗体(抗TSHレセプターモノクローナル抗体(ヒト))を用いた第3世代TRAbです。 ※1
	7277	抗GAD抗体〔ELISA〕同時依頼用 5G340-0000-023-023	血清 0.9	S09⬇A00	冷蔵	3～5	❸134 ※5	ELISA	5.0未満 (U/mL)	「7277：抗GAD抗体〔ELISA〕同時依頼用」と「7278：抗IA-2抗体〔ELISA〕同時依頼用」をあわせてご依頼をおねがいいたします。 2項目あわせて1本(0.9mL)をご提出ください。 抗GAD抗体が陰性の場合は抗IA-2抗体を測定し、抗GAD抗体が陽性の場合は、抗IA-2抗体の測定は取り消しとなります。 抗GAD抗体の結果が陰性の場合、抗IA-2抗体の結果報告まで7～9日です。 ※1
	7278	抗IA-2抗体〔ELISA〕同時依頼用 5G342-0000-023-023			冷蔵(28日)	7～9	❹213 ※5		0.6未満 (U/mL)	
	6063	抗GAD抗体 5G340-0000-023-023	血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵	3～5	❸134 ※5	ELISA	5.0未満 (U/mL)	※1
	6454	抗IA-2抗体 5G342-0000-023-023	血清 0.6	S09⬇A00	冷蔵(28日)	4～7	❹213 ※5	ELISA	0.6未満 (U/mL)	※1
	2389	亜鉛トランスポーター8(ZnT8)抗体 5G343-0000-023-023	血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵(28日)	事前にご確認ください		ELISA	15.0未満 (U/mL)	※1
	7498	インスリン抗体 5G360-0000-023-007	血清 0.3	S09⬇A00	冷蔵	4～8	107 ※6	RIA	0.4未満 (U/mL)	※1

❶「抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体」を、「抗甲状腺マイクロソーム抗体半定量」と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷「抗TSHレセプター抗体(TRAb)」及び「甲状腺刺激抗体(TSAb)」を同時に行った場合は、いずれか一方のみ算定する。
❸「抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)」は、すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できる。
❹「抗IA-2抗体」は、すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、「抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)」の結果、陰性が確認された患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定する。
なお、当該検査を算定するに当たっては、抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)の結果、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。



免疫血清学的検査

自己免疫関連検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
自己免疫関連検査	3445	抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体） 5G385-0000-023-007	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	4～8	❶ 752 ※6	RIA	0.2以下 （nmol/L）	※1
	6041	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体（抗MuSK抗体） 5G386-0000-023-007	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵（21日）	4～10	❷ 1000 ※6	RIA	0.02未満 （nmol/L）	※1
	7948	抗P/Q型 電位依存性カルシウムチャネル抗体（抗P/Q型VGCC抗体） 5G387-0000-023-007	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵（28日）	事前にご確認ください	❸ 1000 ※6	RIA	30.0未満 （pmol/L）	※1
	6035	抗デスモグレイン1抗体 5G396-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❹❺❻ 300 ※6	CLEIA	20.0未満 （U/mL）	不 不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ※1
	6036	抗デスモグレイン3抗体 5G397-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❺❻❼ 270 ※6	CLEIA	20.0未満 （U/mL）	不 不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ※1
	4052	抗BP180抗体（血清中抗BP180NC16a抗体） 5G398-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❽ 270 ※6	CLEIA	9.0未満 （U/mL）	不 不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ※1
	3817	抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体） 5G420-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❾ 257 ※6	CLEIA	3.0未満 （U/mL）	不 不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ※1

❶抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）
ア「抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）」は、重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できる。
イ「抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）」と「抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

❷抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体
ア「抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体」は、RIA法により重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察を目的として測定した場合に算定できる。
イ「抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体」と「抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

❸抗P/Q型電位依存性カルシウムチャネル抗体（抗P/Q型VGCC抗体）
ア「抗P/Q型電位依存性カルシウムチャネル抗体（抗P/Q型VGCC抗体）」は、ランバート・イートン筋無力症候群の診断を目的として、RIA法により測定した場合に算定する。
イ 本検査は、臨床症状によりランバート・イートン筋無力症候群が疑われる患者であって、反復刺激誘発筋電図検査において異常所見を認める患者を対象として実施した場合に限り算定できる。ただし、医学的な必要性から反復刺激誘発筋電図検査において異常所見を認めない患者を対象として実施する場合には、診療報酬明細書の摘要欄にその詳細な理由を記載すること。

❹「抗デスモグレイン1抗体」は、ELISA法又はCLEIA法により、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。

❺落葉状天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、「抗デスモグレイン1抗体」と「抗デスモグレイン3抗体」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

❻尋常性天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、「抗デスモグレイン3抗体」と「抗デスモグレイン1抗体」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

❼「抗デスモグレイン3抗体」は、ELISA法又はCLEIA法により、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省 難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。

❽「抗BP180-NC16a抗体」は、ELISA法又はCLEIA法により、水疱性類天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。

❾「抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）」は、抗糸球体基底膜抗体腎炎及びグッドパスチャー症候群の診断又は治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定する。



	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	3453	精子不動化抗体 5G440-0000-023-186	血清 0.3	S09 ↓ A00	凍結(9ヵ月)	事前にご確認ください		不動化法(Isojima法)	(−) 判定基準:下記参照	溶 溶血・乳び検体などでは、精子を観察できず検査できない場合がありますのでご注意ください。※1
	4203	精子不動化抗体(SI50) 5G440-0000-023-186	血清 0.3	S09 ↓ A00	凍結(9ヵ月)	事前にご確認ください		不動化法(Isojima法)	1.0未満	溶 溶血・乳び検体などでは、精子を観察できず検査できない場合がありますのでご注意ください。※1
	3459	ループスアンチコアグラント 5G500-0000-022-311 5G501-0000-022-311 5G502-0000-022-311	速やかに遠心 血漿 各 1.0		凍結	3〜5		APTT凝固時間法	46.5以下 (秒)	採血後、速やかに室温で1500G以上15分間遠心後、バフィーコートより5mm以上うえから血漿を採取して凍結保存にてご提出ください。 血小板の混入は、測定結果に影響しますのでご注意ください。 ※遠心器回転数の計算式 $G=1.118\times10^{-5}\times r\times n^2$ r:遠心器のローター半径(cm) n:1分間あたりの回転数(rpm) ※1
	2715			PC5 ↓ A00	凍結(21日)	3〜5	❶265 ※6	希釈ラッセル蛇毒時間法	1.2以下	
	6075				凍結	3〜5	❶265 ※6	リン脂質中和法	1.16以下	
	3460	抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体(抗CL・β_2GPⅠ抗体) 5G504-0000-023-023	血清 0.3	S09 ↓ A00	凍結(1ヵ月)	3〜5	❷223 ※6	ELISA	3.5未満 (U/mL)	※1
	7910	抗β_2グリコプロテインⅠIgG抗体 5G515-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵(21日)	3〜5	❷❸❹226 ※6	CLEIA	0.7未満 (U/mL)	※1
	7908	抗β_2グリコプロテインⅠIgM抗体 5G517-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵(21日)	3〜5	❷❸❺226 ※6	CLEIA	17.5以下 (U/mL)	※1
	7911	抗カルジオリピンIgG抗体 5G508-0000-023-023	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵(7日)	3〜5	❷❸226 ※6	ELISA	12.3以下 (U/mL)	※1
	7909	抗カルジオリピンIgM抗体 5G510-0000-023-023	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵(14日)	3〜5	❷❸❻226 ※6	ELISA	20.8以下 (U/mL)	※1

❶「ループスアンチコアグラント定量」及び「ループスアンチコアグラント定性」は、希釈ラッセル蛇毒試験法又はリン脂質中和法により、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限り算定する。
❷「抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体」と「抗カルジオリピンIgG抗体」、「抗カルジオリピンIgM抗体」、「抗β_2グリコプロテインⅠIgG抗体」又は「抗β_2グリコプロテインⅠIgM抗体」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❸「抗カルジオリピンIgG抗体」、「抗カルジオリピンIgM抗体」、「抗β_2グリコプロテインⅠIgG抗体」及び「抗β_2グリコプロテインⅠIgM抗体」を併せて実施した場合は、主たるもの3つに限り算定する。
❹「抗β_2グリコプロテインⅠIgG抗体」は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として、CLEIA法、CLIA法又はFIA法により実施した場合に、一連の治療につき2回に限り算定する。
❺「抗β_2グリコプロテインⅠIgM抗体」は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として、CLEIA法、CLIA法又はFIA法により実施した場合に、一連の治療につき2回に限り算定する。
❻「抗カルジオリピンIgM抗体」は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として、ELISA法、CLIA法又はFIA法により実施した場合に、一連の治療につき2回に限り算定する。

[3453]精子不動化抗体(判定基準)

SIV値	判定
1.40以下	(−)
1.41〜1.99	判定保留
2.00〜20.00	(+)
20.01以上	STRONG POSITIVE

[2715]ループスアンチコアグラント〔希釈ラッセル蛇毒時間法〕(計算式について)

dRVVTはスクリーン比*1とコンファーム比*2の比から求められます。
*1:スクリーン比は患者のdRVVTスクリーン試薬測定結果(秒)と健常者のdRVVTスクリーン試薬の平均凝固時間(秒)の比から求めます。
*2:コンファーム比は患者のdRVVTコンファーム試薬測定結果(秒)とdRVVTコンファーム試薬の健常者の平均凝固時間(秒)の比から求めます。
本項目はdRVVTとあわせて、患者のdRVVTスクリーン試薬測定結果(秒)を中和前、患者のdRVVTコンファーム試薬測定結果を中和後として、それぞれ報告します。

免疫血清学的検査

自己免疫関連検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
自己免疫関連検査	3466	抗血小板抗体 5G520-0000-023-103	血清 0.4	S09 ↓ A00	冷蔵	4～7	261 ※6	MPHA (混合受身凝集法)	(－)	不 採血後室温で静置し完全に血餅凝固後、血清分離してください。(不活性化しないでください。) 年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。 ※1
	特依	曜日指定 PAIgG (血小板関連IgG) 5G525-0000-019-021	血液 7.5 (ACD-A液加)	PAC	冷蔵	3～5	190 ※6	ELISA	46以下 (ng/10^7cells)	凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月～金曜日です。末梢血の血小板が$3\times10^4/\mu L$以下の場合は、専用容器(PAC)2本を使用し必ず10mL以上採血してください。 ※1
	6021	HIT抗体 (血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体) 5G530-0000-022-062	速やかに遠心 血漿 0.5	PC2 ↓ A00	凍結	3～5	390 ※6	ラテックス比濁法	1.0未満 (－) (U/mL)	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 血小板第4因子・ヘパリン複合体に対するHIT抗体(IgG、IgM、IgA)を測定しております。なお、検査結果はグロブリンクラス別での報告ではありません。 ※1
	3471	抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA) 5G551-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	3～5	250 ※6	CLEIA	3.5未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ※1
	3882	抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA) 5G552-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00	冷蔵 (28日)	3～5	250 ※6	CLEIA	3.5未満 (U/mL)	不 不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ※1
	3864	抗LKM-1抗体 5G555-0000-023-023	血清 0.3	S09 ↓ A00	冷蔵	3～9	215 ※6	ELISA	17未満 判定基準:下記参照	※1
	5980	抗アクアポリン4抗体 5G821-0000-023-023	血清 0.4	S09 ↓ A00	凍結 (28日)	3～7	❶ 1000 ※6	ELISA	3.0未満 (－) (U/mL)	※1

❶「抗アクアポリン4抗体」は、ELISA法又はCLEIA法により視神経脊髄炎の診断(治療効果判定を除く。)を目的として測定した場合に算定できる。なお、当該検査の結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、視神経脊髄炎が強く疑われる患者に対して、疾患の診断を行う必要があり、当該検査を再度実施した場合においても算定できる。ただし、この場合、前回の検査実施日及び検査を再度実施する医学的な必要性について診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

[3864]抗LKM-1抗体(判定基準)

Index	判定
17未満	陰性(－)
17～49	判定保留(±)
50以上	陽性(＋)



	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
免疫血液学的検査	3488	ABO式血液型 5H010-0000-019-101	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN2 PN5	冷蔵	1～2	39 ※6	マイクロプレート または試験管法		凍 重 凍結保存は避けてください。 年齢を明記してください。 単独の検体をご提出ください。
	3491	Rh(D因子)式血液型 5H020-0000-019-101	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN2 PN5	冷蔵	1～2	39 ※6	マイクロプレート または試験管法		凍 重 凍結保存は避けてください。 年齢を明記してください。 単独の検体をご提出ください。
	3523	Rh-Hr式血液型 5H025-0000-019-101	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN2 PN5	冷蔵	3～5	163 ※6	カラム凝集法		凍 凍結保存は避けてください。年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。※3
	3496	緊急 直接クームス試験 5H121-0000-019-101	血液 1.0 (EDTA-2Na加)	PN2 PN5	室温	1～2	34 ※6	カラム凝集法	(－)	凍 重 EDTA-2Kも可。 凍結保存は避けてください。 年齢を明記してください。 単独の検体をご提出ください。
	3497	間接クームス試験 5H122-0000-023-101	速やかに遠心 血清 2.0	S9P ⬇ A00	冷蔵	1～2	47 ※6	カラム凝集法	(－)	抗凝固剤を入れずに採血してください。*)血液は採血後、速やかに分離し、血清をご提出ください。 年齢を明記してください。
	3510	不規則性抗体 5H180-0000-098-101	血液 10.0 と 血液 2.0 (EDTA-2Na加)	S9P と (血液) PN2、PN5	冷蔵	1～2	❶ 174 ※6	カラム凝集法 〔クームス法、 酵素法 (フィシン法)〕		凍 重 凍結保存は避けてください。 年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。 依頼項目ごとに単独の検体をご提出ください。 臨床的に意義のある不規則抗体を保有する場合は、抗体名をお知らせください。

❶「不規則抗体」は、輸血歴又は妊娠歴のある患者に対し、胸部手術、心・脈管手術、腹部手術又は子宮全摘術、子宮悪性腫瘍手術、子宮附属器悪性腫瘍手術(両側)、帝王切開術若しくは異所性妊娠手術が行われた場合に、手術の当日に算定する。
また、手術に際して輸血が行われた場合は、本検査又は輸血の「注６」に定める不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。
この場合、診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴がある患者又は妊娠歴がある患者のいずれに該当するかを記載する。

*)検査結果に影響を及ぼすことがありますので検体(血液や血清)は、採血当日中にご提出ください。

[3488]ABO式血液型
[3491]Rh(D因子)式血液型 について

ABO式血液型
生後1歳未満の乳幼児の場合は、抗A、抗B抗体の産生が不充分なため、表試験のみのご報告となります。成長後の再検査をお勧めいたします。

Rh(D因子)式血液型
マイクロプレート法陰性の場合は、D陰性確認試験を試験管法で実施いたします。

[3497]間接クームス試験について

血漿検体では補体の活性化により検出される抗体を見逃す場合がありますので、血清をご提出ください。

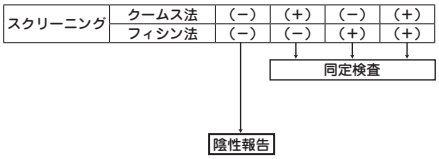
血球を使用する検査の血液検体について

血球を使用する検査におきましては、凝固促進剤、分離剤入り容器の使用の際、偽陽性または異常反応を示す場合がありますので、血液材料は必ず指定容器(EDTA-2Na加)での提出をお願いいたします。

[3523]Rh-Hr式血液型について

同時に複数検体をご依頼いただく場合は、所要日数が変動する場合がございます。あらかじめご了承ください。

[3510]不規則性抗体について



1. 不規則性抗体検査は、カラム凝集法にて、クームス法・酵素法(フィシン法)を実施しております。これらの方法は37℃にて加温するため、低温反応性抗体(冷式抗体および寒冷凝集素)は検出できない場合があります。
2. 不規則性抗体スクリーニング時、自己対照は実施しておりません。

免疫血清学的検査

免疫グロブリン

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
免疫グロブリン	2502	IgG 5A010-0000-023-061	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	1～2	38 ※6	免疫比濁法	870～1700 (mg/dL)	
	2503	IgA 5A015-0000-023-061	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	1～2	38 ※6	免疫比濁法	110～410 (mg/dL)	
	2505	IgM 5A020-0000-023-061	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	1～2	38 ※6	免疫比濁法	M 33～190 F 46～260 (mg/dL)	
	5989	IgGサブクラス分画(TIA) 5A050-0000-023-920	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5		免疫比濁法およびラテックス免疫比濁法	IgG1 351～962 IgG2 239～838 IgG3 8.5～140 IgG4 4.5～117 (mg/dL)	※1
	5991	IgG2 5A056-0000-023-061	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	3～7	239 ※6	免疫比濁法	239～838 (mg/dL)	※1
	1811	IgG4 5A058-0000-023-062	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	3～5	373 ※6	ラテックス免疫比濁法	11～121 (mg/dL)	※1
	1792	免疫電気泳動〔特異抗血清による同定〕 5A136-0000-023-086	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	5～7	❶❷ 218 ※6	免疫固定法		特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので、ご了承ください。年齢、病歴を明記してください。 ※1
	0C18	免疫電気泳動〔免疫固定法〕(ADIRA)ダラツムマブ用 5A136-0000-023-086	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	5～7	❷ 776 ※6	免疫固定法		ダラツムマブを投与されていない患者の検体での治療効果判定検査は、「1792：免疫電気泳動〔特異抗血清による同定〕」をご依頼ください。年齢を明記してください。 ※1
	4A07	免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン) 5A141-0000-023-062	血清 0.8	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	388 ※6	ラテックス比濁法	κ型 3.3～19.4 (mg/L) λ型 5.7～26.3 (mg/L) κ/λ比 0.26～1.65	※1
	1793	尿中免疫電気泳動〔尿中ベンスジョーンス蛋白の同定〕 5A145-0000-001-086	部分尿 0.4	U00	冷蔵	5～7	201 ※6	免疫固定法		特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので、ご了承ください。年齢、病歴を明記してください。使用する抗血清はIgG、IgA、IgM、κ、λの5つになります。 ※1
	1794	オリゴクローナルバンド 5A150-0000-098-236	血清 1.0 と 髄液 1.0	(血清) S09 ⬇ A00 と (髄液) A00	冷蔵	11～15	❸ 507 ※1	等電点電気泳動法	検出せず	重 他項目との重複依頼は避けてください。 ※1
	2772	クリオグロブリン定性 5A160-0000-023-920	血清 1.0	S09 ⬇ A00	冷蔵	5～7	42 ※6	寒冷沈澱法	(－)	採血時より血清分離までの間は37℃の状態で行い、血清分離後は冷蔵保存してください。必ず血清でご依頼ください。 ※1

❶「免疫グロブリンL鎖κ/λ比」と「免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)」又は「免疫電気泳動法(特異抗血清)」を同時に実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)、免疫電気泳動法(特異抗血清)及び免疫固定法(抗悪性腫瘍剤に対する特異的抗体を用いた場合)
ア「免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)」、「免疫電気泳動法(特異抗血清)」及び「免疫固定法(抗悪性腫瘍剤に対する特異的抗体を用いた場合)」については、同一検体につき一回に限り算定する。
イ 同一検体について「免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)」、「免疫電気泳動法(特異抗血清)」又は「免疫固定法(抗悪性腫瘍剤に対する特異的抗体を用いた場合)」のうちいずれかを併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。
ウ「免疫電気泳動法(特異抗血清)」は、免疫固定法により実施した場合にも算定できる。
エ「免疫固定法(抗悪性腫瘍剤に対する特異的抗体を用いた場合)」は、ダラツムマブ由来のIgG-κの影響を回避することができるものとして薬事承認又は認証を得ている体外診断用医薬品を用いて、免疫固定法により、ダラツムマブが投与された患者における多発性骨髄腫又は全身性ALアミロイドーシスの治療効果判定を目的として行った場合に算定する。
❸「IgGインデックス」、「オリゴクローナルバンド」及び「ミエリン塩基性蛋白(MBP)(髄液)」は、多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定する。

[4A07]免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン)検査結果について(試薬メーカー資料より引用)

・本測定結果は、補助診断としてご利用ください。
・診断・治療を決定する場合、また、臨床経過と測定値が一致しない場合は、病歴や他の検査所見も参考にして、総合的判断で行ってください。
・遊離L鎖の増加のため、抗原過剰により、予想外に低い測定値を示すこともあります。
・遊離L鎖の構造変化により、前回測定値と結果が大きく乖離する場合があります。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
補体および関連物質	2960	血清補体価 5B010-0000-023-142	血清 0.5	S09 ⬇ A00	凍結（-20℃以下）（1ヵ月）	3～5	38 ※6	Mayer法 相対比濁法	25.0～48.0 （CH50/mL）	血清分離後、直ちに-20℃以下で保存してください。 ※1
	2963	C3 5B023-0000-023-061	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	70 ※6	免疫比濁法	86～160 （mg/dL）	※1
	2964	C4 5B024-0000-023-061	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	70 ※6	免疫比濁法	17～45 （mg/dL）	※1
	2970	C1q 5B040-0000-023-063	血清 0.4	S09 ⬇ A00	凍結	3～15		ネフェロメトリー	8.8～15.3 （mg/dL）	※1
	2972	C1インアクチベーター活性（C1エステラーゼインヒビター活性） 5B045-0000-022-315	速やかに遠心 血漿 0.2	PC2 ⬇ A00	凍結（16日）	3～5	253 ※6	発色性合成基質法	70～130 （%）	凝固検体取り扱いについては、容器の取り扱い方法②ページをご参照ください。 ※1
血漿蛋白	2977	プレアルブミン 5C010-0000-023-061	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	101 ※6	免疫比濁法	22.0～40.0 （mg/dL）	※1
	2978	α1-マイクログロブリン 5C015-0000-023-062 5C015-0000-001-062	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	129 ※6	ラテックス凝集免疫法	M 12.5～25.5 F 11.0～19.0 （mg/L）	※1
			部分尿 0.5	U00			129 ※6		M 1.0～15.5 F 0.5～9.5 （mg/L）	
	2979	α1アンチトリプシン 5C020-0000-023-063	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	80 ※3	ネフェロメトリー	94～150 （mg/dL）	※1
	2981	α1アシドグリコプロテイン 5C025-0000-023-063	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～6		ネフェロメトリー	M 45～98 F 39～86 （mg/dL）	※1
	2982	レチノール結合蛋白（RBP） 5C030-0000-023-062	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	129 ※6	ラテックス凝集比濁法	M 2.7～6.0 F 1.9～4.6 （mg/dL）	※1
	3451	α2-マクログロブリン 5C035-0000-023-063	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～6	138 ※3	ネフェロメトリー	M 100～200 F 130～250 （mg/dL）	※1
	0C48	ハプトグロビン（型判別） 5C040-0000-023-061	血清 0.6	S09 ⬇ A00	冷蔵（28日）	3～5	129 ※6	TIA	1-1型 83～209 2-1型 66～218 2-2型 25～176 （mg/dL）	※1
	2984	セルロプラスミン 5C045-0000-023-063	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	90 ※6	ネフェロメトリー	21～37 （mg/dL）	※1

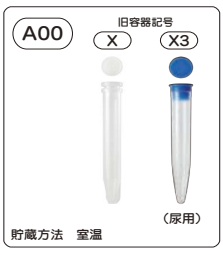


免疫血清学的検査

血漿蛋白

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血漿蛋白	4124	トランスフェリン 5C060-0000-023-061	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	60 ※6	免疫比濁法	M 190～300 F 200～340 (mg/dL)	※1
	2987	尿中トランスフェリン 5C060-0000-004-062	蓄尿 0.5	U00	冷蔵 (1ヵ月)	3～5	❶ 98 ※1	ラテックス凝集比濁法	0.80以下 (mg/day)	酸 凍 凍結保存は避けてください。採尿後、速やかにご提出ください。※1
	2986	尿中トランスフェリン(クレアチニン換算値) 5C060-0000-001-062	部分尿 1	U00	冷蔵 (1ヵ月)	3～5	❶ 98 ※1	ラテックス凝集比濁法	尿中トランスフェリン換算値 1.00以下 (mg/g･CRE)	酸 凍 凍結保存は避けてください。採尿後、速やかにご提出ください。※1
	8214	β_2-マイクログロブリン 5C065-0000-023-062 5C065-0000-004-062 5C065-0000-001-062	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	1～2	98 ※6	ラテックス凝集免疫法	1.0～1.9 (mg/L)	
			蓄尿 1	A00			98 ※6		230以下 (μg/L)	酸 尿はpH5.5～7.5にし、必要量をご提出ください。
			部分尿 1				98 ※6			
	2992	C反応性蛋白(CRP)定量 5C070-0000-023-062	血清 0.6	S09 ⬇ A00	冷蔵	1～2	❷ 16 ※6	ラテックス凝集比濁法	0.14以下 (mg/dL)	
	7969	血清アミロイドA蛋白(SAA) 5C080-0000-023-062	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	3～5	❷ 47 ※6	ラテックス凝集免疫法	3.0以下 (mg/L)	※1
	0C50	ミオグロビン 5C090-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❸ 131 ※4	CLEIA	男性:15.8～105.9 女性:10.5～70.0 (ng/mL)	※1
	7963	尿中ミオグロビン〔CLEIA〕 5C090-0000-001-052	部分尿 6	U50	冷蔵 (22日)	3～5	❸ 131 ※4	CLEIA	2.0未満 (ng/mL)	凍 採尿後、速やかに専用容器に入れ、冷蔵してください。凍結は避けてください。※1
	3673	ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP) 5C091-0000-023-062	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	3～5	❸ 131 ※4	ラテックス凝集法	6.2未満 (ng/mL)	※1
	2995	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ 5C092-0000-023-023	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～7	❹ 184 ※4	EIA	2.5以下 (ng/mL)	※1
	2996	心筋トロポニンT 5C093-0000-023-053	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵 (14日)	3～5	❺ 109 ※4	ECLIA	0.014以下 急性心筋梗塞診断のカットオフ値 0.100 (ng/mL)	※1

❶「トランスフェリン(尿)」、「アルブミン定量(尿)」及び「Ⅳ型コラーゲン(尿)」は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。
❷「血清アミロイドA蛋白(SAA)」を「C反応性蛋白(CRP)定性」又は「C反応性蛋白(CRP)」と併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❸「心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)定性」及び「心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)定量」は、ELISA法、免疫クロマト法、ラテックス免疫比濁法又はラテックス凝集法により、急性心筋梗塞の診断を目的に用いた場合に限り算定する。ただし、「心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)定性」又は「心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)定量」と「ミオグロビン定性」又は「ミオグロビン定量」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❹「心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ」は、同一の患者につき同一日に当該検査を2回以上行った場合は、1回のみ算定する。
❺「心筋トロポニンI」と「心筋トロポニンT(TnT)定性・定量」を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。







	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血漿蛋白	8338	フェリチン 5C095-0000-023-052	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵	1～2	102 ※4	CLEIA	M 39.4～340 F 3.6～114 (ng/mL)	鉄欠乏性貧血および貧血のない鉄欠乏の診断基準は12ng/mL 未満です。 [鉄剤の適正使用による貧血治療指針(日本鉄バイオサイエンス学会)]
	0990	L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)〔CLEIA〕 5C100-0000-001-052	部分尿 2.0	U00	冷蔵 (14日)	3～5	❶❷ 210 ※1	CLEIA	L-FABPクレアチニン換算値 8.4以下 (μg/gCr)	酸 凍 凍結保存は避けてください。酸性蓄尿は検査値に影響を及ぼす場合がありますので、避けてください。室温保存ではデータ影響が認められるため、速やかに冷蔵保存にてご提出ください。 ※1
	1800	尿中NGAL 5C230-0000-001-051	部分尿 2	⬇ U00	冷蔵 (7日)	3～5	❷❸ 210 ※1	CLIA	30.5以下 (ng/mL) クレアチニン換算値 21.7 以下 (μg/gCr)	白血球の混入により高値となる可能性があるため、採尿後、24時間以内にできるだけ速やかに400G以上で5分間以上遠心分離し、上清を提出容器に移しご提出ください。 ※1
	8337	ヒト癌胎児性フィブロネクチン 5C111-0000-067-023	腟分泌物	VP5	凍結 (1ヵ月)	3～5	❹ 204 ※6	ELISA	(一)	検体採取方法は㊵ページをご参照ください。 ※1
	2390	Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total P1NP) 5C120-0000-023-053	血清 0.4	S09 ⬇ A00	冷蔵 (28日)	3～5	❺ 160 ※5	ECLIA	男性(30～83歳) 18.1～74.1 閉経前女性(30～44歳) 16.8～70.1 閉経後女性(45～79歳) 26.4～98.2 (ng/mL)	溶 溶血でのご依頼は避けてください(溶血の場合、データが低値傾向となります)。 ※1
	3001	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx) 5C123-0000-001-052	部分尿 3	U00	冷蔵	3～5	❻❼ 153 ※5 腫2	CLEIA	下記参照	午前中の第二尿をご提出ください。血尿でのご提出は避けてください。 ※1
	3806	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症) 5C123-0000-001-052	部分尿 3	U00	冷蔵	3～5	❻❼ 153 ※5	CLEIA	男　性 13.0～66.2 閉経前女性 9.3～54.3 閉経後女性 14.3～89.0 (参考値) (nmolBCE/mmol･CRE) 判定基準:下記参照	午前中の第二尿をご提出ください。血尿でのご提出は避けてください。 ※1
	3003	Ⅰ型コラーゲンC末端テロペプチド(ICTP) 5C124-0000-023-001	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	腫2	RIA2抗体法	4.5未満 (ng/mL)	※1

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料(51ページ参照)

❶「L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)(尿)」は、原則として3月に1回に限り算定する。ただし、医学的な必要性からそれ以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
❷「L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)(尿)」と「好中球ゼラチナーゼ結合性リポカリン(NGAL)(尿)」を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
❸「好中球ゼラチナーゼ結合性リポカリン(NGAL)(尿)」は、急性腎障害の診断時又はその治療中に、CLIA法により測定した場合に算定できる。ただし、診断時においては1回、その後は急性腎障害に対する一連の治療につき3回を限度として算定する。なお、医学的な必要性からそれ以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
❹「癌胎児性フィブロネクチン定性(頸管腟分泌液)」及び「腟分泌液中インスリン様成長因子結合蛋白1型(IGFBP-1)定性」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❺「骨型アルカリホスファターゼ(BAP)」、「Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(PⅠNP)」、「インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact PⅠNP)」及び「ALPアイソザイム(PAG電気泳動法)」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❻「酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)」と「Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)」、「オステオカルシン(OC)」又は「デオキシピリジノリン(DPD)(尿)」を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。
❼「Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)」及び「デオキシピリジノリン(DPD)(尿)」は、原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。
なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回に限り算定できる。

[3001] Ⅰ型コラーゲン架橋 N-テロペプチド(NTx)基準値、判定基準

(単位：nmolBCE/mmol・CRE)

基準値(参考値)	男性	13.0～66.2
	閉経前女性	9.3～54.3
	閉経後女性	14.3～89.0
判定基準	骨吸収亢進の指標	55以上
	副甲状腺摘出術の適応	200以上
	悪性腫瘍(乳癌、肺癌、前立腺癌)の骨転移の指標	100以上

[3806] Ⅰ型コラーゲン架橋 N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症)の判定基準

検査項目	骨粗鬆症薬剤治療の指標		単位
	骨折リスク　カットオフ値	骨量減少　カットオフ値	
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症)	54.3	35.3	nmolBCE/mmol・CRE

血漿蛋白

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血漿蛋白	1753	Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体(M2BPGi) 定量 5C141-0000-023-052	血清 0.5	S09→A00	冷蔵(14日)	3～5	❶❷❸ 194 ※4	CLEIA	0.84未満 (AU/mL)	※1
	6413	オートタキシン 5C240-0000-023-052	血清 0.5	S09→A00	冷蔵(21日)	3～7	❷❸❹ 194 ※4	CLEIA	判定基準:下記参照 (mg/L)	※1
	6100	プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P)〔CLIA〕 5C130-0000-023-051	血清 0.5	S09→A00	冷蔵	3～5	❷ 136 ※4	CLIA	3.62～9.52 (ng/mL)	溶 カットオフ値(肝に線維化のみられる疾患)6.95ng/mL ※1
	4105	Ⅳ型コラーゲン 5C134-0000-023-062	血清 0.4	S09→A00	冷蔵	3～5	❷❸ 131 ※4	ラテックス凝集比濁法	150以下 (ng/mL)	※1
	0381	尿中Ⅳ型コラーゲン 5C134-0000-001-023	部分尿 5	U70	冷蔵(1ヵ月)	4～10	❺ 179 ※1	EIA	30～39歳 4.0以下 40歳以上 4.9以下 (μg/g･CRE)	重 凍 早朝一番尿をご提出ください。凍結保存および他項目との重複依頼は避けてください。なお、随時尿による参考基準値(健常人)は7.3μg/g･CRE以下と報告されています。 ※1
	4A54	Ⅳ型コラーゲン･7S〔CLEIA〕 5C135-0000-023-052	血清 0.5	S09→A00	冷蔵(23日)	3～5	❷❸ 148 ※4	CLEIA	4.4以下 (ng/mL)	※1
	0C20	サイトケラチン18フラグメント(CK-18F) 5D326-0000-023-023	血清 0.3	S09→A00	冷蔵(5日)	4～10	❷❸❻ 194 ※4	EIA	260未満 (カットオフ値) (U/L)	非アルコール性脂肪肝炎(NASH)の診断補助のためのカットオフ値は260U/Lです。 ※1

❶「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」は、2ステップサンドイッチ法を用いた化学発光酵素免疫測定法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。
❷「サイトケラチン18フラグメント(CK-18F)」と「Ⅳ型コラーゲン」、「プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」、「ヒアルロン酸」、「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」又は「オートタキシン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❸「ELFスコア」と「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」、「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体」、「オートタキシン」又は「サイトケラチン18フラグメント(CK-18F)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❹「オートタキシン」は、サンドイッチ法を用いた蛍光酵素免疫測定法、化学発光酵素免疫測定法又は酵素法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。
❺「トランスフェリン(尿)」、「アルブミン定量(尿)」及び「Ⅳ型コラーゲン(尿)」は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。
❻「サイトケラチン18フラグメント(CK-18F)」は、1ステップサンドイッチ法を用いた酵素免疫測定法により、非アルコール性脂肪肝疾患の患者(疑われる患者を含む。)に対して、非アルコール性脂肪性肝炎の診断補助を目的として、実施した場合に算定する。

[6413]オートタキシンの判定基準(カットオフ値)

(単位:mg/L)

判定	男性	女性
①肝線維化進展例※	0.910	1.27
②肝硬変	1.69	2.12

①より高い検体は、肝線維化進展例と判定します。
②より高い検体は、肝硬変と判定します。
※C型肝炎治療ガイドライン(第8.4版)の「肝線維化F2以上」にあたります。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
血漿蛋白	3010	デオキシピリジノリン 5C146-0000-001-021	部分尿 3	U00	冷蔵	3～5	❶❷ 191 ※5 腫2	EIA	クレアチニン換算値 M 2.1～5.4 F 2.8～7.6 (nmol/mmol･CRE)	午前中の第二尿をご提出ください。 ※1
	3805	デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症) 5C146-0000-001-021	部分尿 3	U00	冷蔵	3～5	❶❷ 191 ※5	EIA	クレアチニン換算値 M 2.1～5.4 F 2.8～7.6 (nmol/mmol･CRE) 判定基準:下記参照	午前中の第二尿をご提出ください。 ※1
	0471	KL-6 5C210-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	3～5	❸ 108 ※4	CLEIA	500未満 (U/mL)	※1
	2366	プロカルシトニン 5C215-0000-023-052	血清 0.4	S09 ⬇ A00	凍結 (28日)	3～5	❹ 276 ※4	CLEIA	0.05以下 (ng/mL)	敗血症(細菌性)鑑別診断のカットオフ値:0.50ng/mL未満 敗血症(細菌性)重症度判定のカットオフ値:2.00ng/mL以上 ※1
	1780	プレセプシン 5C216-0000-023-052 5C216-0000-022-052	速やかに遠心 血清 0.4	S09 ⬇ A00	凍結 (28日)	3～5	❹ 301 ※4	CLEIA	敗血症(細菌性)診断のカットオフ値 500 (pg/mL)	重 採血後は、速やかに血清または血漿分離し凍結保存してください。ボルテックスミキサー等による激しい撹拌、緩やかな長時間撹拌、凍結融解はデータが高値となるため避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。 ※1
			速やかに遠心 血漿 0.4	PH5 ⬇ A00			❹ 301 ※4			

腫2:悪性腫瘍特異物質治療管理料(51ページ参照)

❶「酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)」と「Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)」、「オステオカルシン(OC)」又は「デオキシピリジノリン(DPD)(尿)」を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。
❷「Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)」及び「デオキシピリジノリン(DPD)(尿)」は、原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。
なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回に限り算定できる。
❸「KL-6」、「肺サーファクタント蛋白-A(SP-A)」及び「肺サーファクタント蛋白-D(SP-D)」のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
KL-6は、EIA法、ECLIA法又はラテックス凝集比濁法により、肺サーファクタント蛋白-A(SP-A)はEIA法により、肺サーファクタント蛋白-D(SP-D)は、EIA法又はラテックス免疫比濁法による。
❹「プレセプシン定量」と「プロカルシトニン(PCT)定量」、「プロカルシトニン(PCT)半定量」又は「エンドトキシン」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

[3805]デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)の判定基準

検査項目	骨粗鬆症薬剤治療の指標		単位
	骨折リスク カットオフ値	骨量減少 カットオフ値	
デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)	7.6	5.9	nmol/mmol・CRE





免疫血清学的検査

免疫血清学（その他）

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
免疫血清学（その他）	7905	β-アミロイド1-42/1-40比 5C207-0000-041-052	髄液 2.5	XR5	冷蔵（15日）	3～9	❶❷ 1282 ※1	CLEIA	0.067以上（カットオフ値）	重 溶 本検査は認知症の診断に関連する十分な知識及び経験を有する医師が、検査の原理及び結果の解釈を十分に理解した上で、関連学会等の適正使用指針に従って使用してください。 「7906：リン酸化タウ」および「7907：総タウ蛋白(AD)」以外との重複依頼は避けてください。 髄液採取時、最初の1～2mLは使用しないでください。必ず指定容器(XR5)に所定の量(2.5mL)を直接採取し、ご提出ください。 容器の移し替えや量不足により、データ低下の恐れがあります。血液の混入により検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 検体の取り扱い上、クロイツフェルト・ヤコブ病を疑う患者検体の場合は、ご依頼できません。※1
	7906	リン酸化タウ 5C201-0000-041-052	髄液 2.5	XR5	冷蔵（15日）	3～9	❷❸ 641 ※1	CLEIA	21.5～59.0（pg/mL）	重 溶 本検査は、認知症の診断目的のための検査です。「7905：β-アミロイド1-42/1-40比」および「7907：総タウ蛋白(AD)」以外との重複依頼は避けてください。 髄液採取時、最初の1～2mLは使用しないでください。 必ず指定容器(XR5)に所定の量(2.5mL)を直接採取し、ご提出ください。 容器の移し替えや量不足でのご提出は避けてください。血液の混入により検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 検体の取り扱い上、クロイツフェルト・ヤコブ病を疑う患者検体の場合は、ご依頼できません。※1
	0A16	コクリン-トモプロテイン(CTP) 5C260-0000-091-023	中耳洗浄液 0.3	XR4	冷蔵（28日）	事前にご確認ください	❹ 460 ※1	ELISA	30.0未満（ng/mL）	重 他項目との重複依頼は避けてください。 ※1

❶「アミロイドβ42/40比(髄液)」又は「リン酸化タウ蛋白/アミロイドβ42比(髄液)」は、効能又は効果としてアルツハイマー病による軽度認知障害及び軽度の認知症の進行抑制を有する医薬品に係る厚生労働省の定める最適使用推進ガイドラインに沿って、アルツハイマー病による軽度認知障害又は軽度の認知症が疑われる患者等に対し、効能又は効果としてアルツハイマー病による軽度認知障害及び軽度の認知症の進行抑制を有する医薬品の投与の要否を判断する目的でアミロイドβ病理を示唆する所見を確認するため、CLEIA法により、脳脊髄液中のβ-アミロイド1-42及びβ-アミロイド1-40を同時に測定した場合又はECLIA法により、脳脊髄液中のβ-アミロイド1-42及び181位リン酸化タウ蛋白を同時に測定した場合に患者1人につき1回に限り算定する。ただし、効能又は効果としてアルツハイマー病による軽度認知障害及び軽度の認知症の進行抑制を有する医薬品の投与中止後に初回投与から18か月を超えて再開する場合は、さらに1回に限り算定できる。なお、この場合においては、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

❷「アミロイドβ42/40比(髄液)」は、「リン酸化タウ蛋白(髄液)」と併せて行った場合は主たるもののみ算定する。

❸「リン酸化タウ蛋白(髄液)」は、認知症の診断を目的に、患者1人につき1回に限り算定する。

❹コクリントモプロテイン(CTP)

ア「コクリントモプロテイン(CTP)」は、ELISA法により、外リンパ瘻を疑う患者に対して、診断のために中耳洗浄液中のコクリントモプロテイン(CTP)を測定した場合に算定する。

イ 本検査を実施する場合は関連学会が定める適正使用指針を遵守すること。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
サイトカイン	1810	可溶性IL-2レセプター（sIL-2R） 5J095-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵（21日）	3～5	438 ※5 腫2	CLEIA	157～474（U/mL）	※1
	7422	TARC（Th2ケモカイン） 5J228-0000-023-052	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵（28日）	3～5	❶❷ 179 ※6	CLEIA	6ヵ月以上～12ヵ月未満：1367未満 1歳以上～2歳未満：998未満 2歳以上～16歳未満：743未満 16歳以上：450未満 （pg/mL）	血漿はデータ低下が見られますので避けてください。トロンビン入り採血管は測定値に影響を与える恐れがあるため使用を避けてください。※1
	0C45	TARC（薬剤性過敏症症候群） 5J228-0000-023-052	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵（28日）	3～5	❶ 179 ※6	CLEIA	4000未満（カットオフ値）（pg/mL）	血漿はデータ低下が見られますので避けてください。トロンビン入り採血管は測定値に影響を与える恐れがあるため使用を避けてください。※1
	3616	ヒトインターフェロンγ〔EIA〕 5J050-0000-023-023	血清 0.5	S09 ⬇ A00	凍結（1ヵ月）	事前にご確認ください		EIA	0.1以下（参考値）（IU/mL）	※1
	3620	IL-1β（インターロイキン-1β） 5J062-0000-023-023	血清 0.5	S09 ⬇ A00	凍結（1ヵ月）	事前にご確認ください		ELISA	10以下（参考値）（pg/mL）	※1
	3629	IL-4（インターロイキン-4）（高感度） 5J105-0000-023-052	血清 0.3	S09 ⬇ A00	凍結（1ヵ月）	事前にご確認ください		CLEIA	6.0以下（参考値）（pg/mL）	※1
	0C21	インターロイキン-6(IL-6) 5J130-0000-023-052	速やかに遠心 血清 0.5	S09 ⬇ A00	凍結（21日）	3～5	❸ 170 ※6	CLEIA	5.8以下（pg/mL）	採血後は、速やかに血清分離し凍結保存してください。※1
	3631	IL-6（インターロイキン-6） 5J130-0000-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵（28日）	3～6		CLEIA	4.0以下（pg/mL）	※1
	3632	IL-8（インターロイキン-8） 5J140-0000-097-023 5J140-0000-022-023	培養液 0.5	A00	凍結	事前にご確認ください		ELISA	（pg/mL）	血清検体は高値となります。※1
			血漿 0.5	PN2, PN5 ⬇ A00					2.0以下（参考値）（pg/mL）	
	3633	IL-10（インターロイキン-10） 5J150-0000-023-023	血清 0.5	S09 ⬇ A00	凍結（1ヵ月）	事前にご確認ください		ELISA	5以下（参考値）（pg/mL）	※1

腫2：悪性腫瘍特異物質治療管理料（51ページ参照）

❶「TARC」は、以下のいずれかの場合に算定できる。
ア アトピー性皮膚炎の重症度評価の補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合に、月1回を限度として算定できる。
イ 薬剤性過敏症症候群が疑われる患者に対し、当該疾患の鑑別診断の補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合に、一連の治療につき1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から一連の治療につき2回以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
ウ COVID-19と診断された患者（呼吸不全管理を要する中等症以上の患者を除く。）の重症化リスクの判定補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合は、一連の治療につき1回を限度として算定できる。
❷アトピー性皮膚炎の重症度評価を行うことを目的として「SCCA2」及び「TARC」を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。
❸「インターロイキン-6(IL-6)」は、全身性炎症反応症候群の患者（疑われる患者を含む。）の重症度判定の補助を目的として、血清又は血漿を検体とし、ECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定した場合に、一連の治療につき2回に限り算定する。なお、本検査を実施した年月日を診療報酬明細書に記載すること。また、医学的な必要性から一連の治療につき3回以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

[0C45]TARC（薬剤性過敏症症候群）の留意事項

免疫反応においては、一般的に非特異反応により異常高値となる場合があることが知られていますのでご注意ください。
《薬剤性過敏症症候群（DIHS/DRESS）の診断補助》
以下の患者はTARC値に影響を与える恐れがあるため、正確な診断ができない可能性があります。
- **重症アトピー性皮膚炎患者**
- **皮膚T細胞リンパ腫の患者**
- **移植片対宿主病（GVHD）の疑いがある患者**
- **プレドニン換算で20mg/日以上のステロイドの全身投与を受けている患者**
- **プレドニン換算で20mg/日未満のステロイドの全身投与を5日間以上継続されている患者**

急性期のDIHS/DRESSの診断補助を目的としているため、回復期には使用しないでください。
DIHSの重篤副作用疾患別対応マニュアルに記載の判別基準を参照し、他の関連検査および臨床症状等も含めて総合的に判断してください。



アレルギー検査

アレルギー検査

	項目コード	検査項目 JLAC10		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
アレルギー検査	2510	IgE(非特異的IgE)〔FEIA〕 5A090-0000-023-023		血清 0.3	S09→A00	冷蔵	2～4	100 ※6	FEIA	173以下 (IU/mL)	
		特異的IgE(シングルアレルゲン)		1アレルゲン 血清 0.3	S09→A00	冷蔵	2～4	1アレルゲン 110 ※6	FEIA	クラス 0 0.35未満 (UA/mL)	項目コード、判定基準、アレルゲン一覧表は101、102ページをご参照ください。セントラルラボラトリー(※1)で実施の項目につきましては所要日数が3～5日となります。
	2706	特異的IgE(マルチアレルゲン)	イネ科	血清 各 0.3	S09→A00	冷蔵	2～4	110 ※6	FEIA	クラス 0 0.35未満 (UA/mL)	判定基準、アレルゲン一覧表は99ページをご参照ください。
	2707		雑草					110 ※6			
	2708		食物				3～5	110 ※6			判定基準、アレルゲン一覧表は99ページをご参照ください。 ※1
	2709		穀物					110 ※6			
	2710		動物上皮				2～4	110 ※6			判定基準、アレルゲン一覧表は99ページをご参照ください。
	2711		カビ					110 ※6			
	2493	特異的IgE(View アレルギー39) 5A100-2808-023-023		血清 1.0	S09→A00	冷蔵 (28日)	3～5	1430 ※6	FEIA	クラス 0 0.27未満 (Index)	判定基準、アレルゲン一覧表は99ページをご参照ください。検査結果をクラスとIndex値で表示する半定量検査です。 ※1
	2740	アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン) 5A100-2820-023-023		血清 0.3	S09→A00	冷蔵	3～5	194 ※6	FEIA	(一)	対象アレルゲンは99ページをご参照ください。 ※1
	4442	特異的IgE(C-PAC16アレルゲン)	小児用	血清 各 1.8	S09→A00	冷蔵	3～5	1430 ※6	FEIA	クラス 0 0.35未満 (UA/mL)	判定基準、アレルゲン一覧表は100ページをご参照ください。 ※1
	8386		アトピー性皮膚炎用					1430 ※6			
	4444		鼻炎・喘息用					1430 ※6			
	4445	特異的IgE(C-PAC5アレルゲン)小児除去食用 5A100-2847-023-023		血清 0.6	S09→A00	冷蔵	3～5	550 ※6	FEIA	クラス 0 0.35未満 (UA/mL)	判定基準、アレルゲン一覧表は100ページをご参照ください。 ※1
	6051	特異的IgE(Ara h 2)(ピーナッツ由来) 5A100-2500-023-023		血清 0.3	S09→A00	冷蔵	3～5	110 ※6	FEIA	0.35未満 (一) (UA/mL)	特異的IgEピーナッツの陽性者が対象です。判定基準は100ページをご参照ください。 ※1

アレルギー検査について

受託数の増減により、所要日数が変動する場合がございますのでご了承ください。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
アレルギー検査	7647	SCCA2 5C250-0000-023-023	血清 0.5	S09 ↓ A00	凍結 （30日）	12~24	❶ 300 ※6	ELISA	参考基準範囲 1.6未満 軽症 1.6以上 2.6未満 中等症 2.6以上 6.0未満 重症 6.0以上 （ng/mL）	重 他項目との重複依頼は避けてください。 唾液・フケ・皮膚（表皮）・毛髪・爪などの混入により高値傾向を示す場合がありますので、検体の取り扱いには充分にご注意ください。 ※ハ

❶SCCA2
ア「SCCA2」は、15歳以下の小児におけるアトピー性皮膚炎の重症度評価を行うことを目的として、ELISA法により測定した場合に、月1回を限度として算定する。
イ アトピー性皮膚炎の重症度評価を行うことを目的として「SCCA2」及び「TARC」を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

アレルギー検査

アレルギー検査

特異的IgE(マルチアレルゲン)

項目コード	分　野	混合アレルゲンの内容(個々のアレルゲンのご報告はありません)
2706	イネ科 5A100-2821-023-023	G1:ハルガヤ、G2:ギョウギシバ、G3:カモガヤ、G6:オオアワガエリ、G7:アシ
2707	雑草 5A100-2822-023-023	W1:ブタクサ、W6:ヨモギ、W7:フランスギク、W8:タンポポ(属)、W12:アキノキリンソウ
2708	食物 5A100-2823-023-023	F1:卵白、F2:牛乳、F4:小麦、F13:ピーナッツ、F14:大豆
2709	穀物 5A100-2824-023-023	F4:小麦、F8:トウモロコシ、F9:米、F10:ゴマ、F11:ソバ
2710	動物上皮 5A100-2825-023-023	E1:ネコのフケ、E5:イヌのフケ、E6:モルモット上皮、E87:ラット、E88:マウス
2711	カビ 5A100-2826-023-023	M1:ペニシリウム、M2:クラドスポリウム、M3:アスペルギルス、 M5:カンジダ、M6:アルテルナリア、M8:ヘルミントスポリウム

特異的IgE(マルチアレルゲン)(判定基準)

クラス	特異的IgE抗体価(U_A/mL)	判　定
0	0.35未満	陰性
1	0.35 ～ 0.70未満	陽性
2	0.70 ～ 3.50未満	
3	3.50 ～ 17.5未満	
4	17.5 ～ 50.0未満	
5	50.0 ～ 100未満	
6	100以上	

[2493]特異的IgE(View アレルギー 39)

含まれるアレルゲン
ヤケヒョウヒダニ、ネコ皮屑、イヌ皮屑、卵白*、ミルク*、小麦*、米、ゴマ**、ソバ*、ピーナッツ*、大豆**、カニ*、エビ*、豚肉**、牛肉**、マグロ、サケ**、リンゴ**、サバ**、鶏肉**、キウイ**、バナナ**、オボムコイド*、カモガヤ、オオアワガエリ、ハウスダスト1、ゴキブリ、ガ、ラテックス、アスペルギルス、カンジダ、アルテルナリア、マラセチア(属)、ハンノキ(属)、シラカンバ(属)、スギ、ヒノキ、ブタクサ、ヨモギ

*：食品の表示義務のある「特定原材料」に関するアレルゲン
**：表示を推奨されている「特定原材料に準ずるもの」に関するアレルゲン

特異的IgE(View アレルギー 39)(判定基準)

クラス	Index値	判　定
0	0.27未満	陰性
1	0.27～ 0.50未満	疑陽性
2	0.50～ 1.80未満	陽性
3	1.80～ 7.05未満	
4	7.05～17.35未満	
5	17.35～29.31未満	
6	29.31以上	

[2740]アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン)

混合アレルゲンの内容(個々のアレルゲンのご報告はありません)
ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニ、ネコのフケ、イヌのフケ、ギョウギシバ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、シラカンバ(属)、スギ、カンジダ、アルテルナリア

特異的IgE(C-PAC16アレルゲン、C-PAC5アレルゲン)(抗体保有率順)

項目コード	名　称	含まれるアレルゲン
4442	C-PAC16 小児用 5A100-2844-023-023	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1)、卵白、イヌのフケ、スギ、牛乳、ネコのフケ、 ピーナッツ、小麦、大豆、ゴキブリ、ソバ、イクラ、エビ、イワシ、サケ、鶏肉
8386	C-PAC16 アトピー性 皮膚炎用 5A100-2845-023-023	スギ、ヤケヒョウヒダニ(ダニ1)、マラセチア(属)、カンジダ、ガ、イヌのフケ、 ネコのフケ、ピーナッツ、小麦、カモガヤ、カニ、ソバ、大豆、エビ、サバ、イワシ
4444	C-PAC16 鼻炎・喘息用 5A100-2846-023-023	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1)、スギ、ガ、ネコのフケ、イヌのフケ、ゴキブリ、ヒノキ、 ユスリカ(成虫)、カンジダ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、アスペルギルス、 ハンノキ(属)、アルテルナリア、ハムスター上皮
4445	C-PAC5 小児除去食用 5A100-2847-023-023	卵白、牛乳、ピーナッツ、小麦、ソバ

※お預かりした検体の量が指定の提出量より少ない場合、全アレルゲンの検査が実施できないことがあります。
この場合は、上記の抗体保有率の高いアレルゲンの順から検査を実施させていただきます。

特異的IgE(C-PAC16アレルゲン)
特異的IgE(C-PAC5アレルゲン)小児除去食用（判定基準）

クラス	特異的IgE抗体価(UA/mL)	判　定
0	0.35未満	陰性
1	0.35 ～ 0.70未満	陽性
2	0.70 ～ 3.50未満	
3	3.50 ～ 17.5未満	
4	17.5 ～ 50.0未満	
5	50.0 ～ 100未満	
6	100以上	

[6051]特異的IgE(Ara h 2)(ピーナッツ由来)(判定基準)

判　定	特異的IgE抗体価(UA/mL)
陽性	4.00以上
疑陽性	0.35 ～ 3.99
陰性	0.35未満

シングルアレルゲン〔FEIA〕一覧(CAP)

特異的IgE(シングルアレルゲン)FEIA法

実施料：1アレルゲンにつき110点算定できます。ただし、1回につき1430点を限度とします。判断料区分:※6

項目コード	略語	アレルゲン名	
イネ科植物花粉			
2512	G1	ハルガヤ	*
2513	G2	ギョウギシバ	
2514	G3	カモガヤ	*
2515	G4	ヒロハウシノケグサ	
2516	G5	ホソムギ	
2517	G6	オオアワガエリ	*
2518	G7	アシ	
2519	G8	ナガハグサ	
2520	G9	コヌカグサ(属)	
2521	G10	セイバンモロコシ	
2528	G17	スズメノヒエ(属)	
2526	G15	小麦(花粉)	
2527	G16	オオスズメノテッポウ	
雑草花粉			
2529	W1	ブタクサ	*
2530	W2	ブタクサモドキ	
2531	W3	オオブタクサ	
2533	W5	ニガヨモギ	
2534	W6	ヨモギ	*
2535	W7	フランスギク	
2536	W8	タンポポ(属)	
2537	W9	ヘラオオバコ	
2538	W10	シロザ	
2540	W12	アキノキリンソウ	*
2547	W20	イラクサ(属)	
2545	W18	ヒメスイバ	
2548	W22	カナムグラ	
樹木花粉			
2549	T1	カエデ(属)	
2550	T2	ハンノキ(属)	*
2551	T3	シラカンバ(属)	*
2553	T5	ブナ(属)	
2554	T6	ピャクシン(属)	
2555	T7	コナラ(属)	
2556	T8	ニレ(属)	
2557	T9	オリーブ	
2558	T10	クルミ(属)	
2560	T12	ヤナギ(属)	
2564	T17	スギ	*
2569	T24	ヒノキ	*
2566	T19	アカシア(属)	
2568	T70	クワ(属)	
2563	T16	マツ(属)	
真菌			
2662	M1	ペニシリウム	
2663	M2	クラドスポリウム	
2664	M3	アスペルギルス	*
7286	M218	Asp f 1(アスペルギルス由来)	
2665	M4	ムコール	
2667	M6	アルテルナリア	*
2666	M5	カンジダ	*
2669	M8	ヘルミントスポリウム	
7492	M227	マラセチア(属)	*
2712	M205	トリコフィトン	
動物表皮			
2570	E1	ネコのフケ	*
2572	E3	ウマのフケ	
2573	E4	ウシのフケ	
2574	E5	イヌのフケ	*
2575	E6	モルモット上皮	
2577	E70	ガチョウ羽毛	
2578	E77	セキセイインコのフン	
2579	E78	セキセイインコ羽毛	
2581	E80	ヤギ上皮	
2582	E81	羊上皮	
2583	E82	家兎上皮	
2584	E83	豚上皮	
2585	E84	ハムスター上皮	
2586	E85	ニワトリ羽毛	
2587	E86	アヒル羽毛	
2588	E87	ラット	
2589	E88	マウス	
寄生虫			
2686	P1	回虫	
2688	P4	アニサキス	
昆虫			
2679	I1	ミツバチ	
2680	I3	スズメバチ	
2681	I4	アシナガバチ	
2682	I6	ゴキブリ	*
2684	I7	ユスリカ （成虫）	*
2683	I71	ヤブカ(属)	
2685	I8	ガ	*
ダニ			
2689	D1	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1)	*
2690	D2	コナヒョウヒダニ(ダニ2)	*
2691	D70	アシブトコナダニ	
2692	D71	ササアシニクダニ	
2693	D72	ケナガコナダニ	
室内塵			
2694	H1	ハウスダスト1	*
2695	H2	ハウスダスト2	*
食餌性アレルゲン			
2591	F2	牛乳	*
2590	F1	卵白	*
2592	F3	タラ	
2602	F13	ピーナッツ	*
2607	F20	アーモンド	
7494	F202	カシューナッツ	
6456	F443	Ana o 3(カシューナッツ由来)	
2605	F17	ハシバミ	
2603	F14	大豆	*
6065	F353	Gly m 4(大豆由来)	
2608	F23	カニ	*
2609	F24	エビ	*
2593	F4	小麦	*
7493	F416	ω-5グリアジン	
2594	F5	ライ麦	
2595	F6	大麦	
2596	F7	オート麦	
2597	F8	トウモロコシ	
2601	F12	エンドウ	
2606	F18	ブラジルナッツ	
2598	F9	米	*
2610	F25	トマト	*
2613	F31	ニンジン	
2614	F33	オレンジ	
2618	F40	マグロ	
2611	F26	豚肉	
2615	F35	ジャガイモ	
2616	F36	ココナッツ	
2617	F37	ムラサキイガイ	
2620	F44	イチゴ	
2619	F41	サケ	*
2599	F10	ゴマ	*

特異的IgE(シングルアレルゲン)FEIA法

実施料：1アレルゲンにつき110点算定できます。ただし、1回につき1430点を限度とします。判断料区分:※6

項目コード	略語	アレルゲン名	
2600	F11	ソバ	*
2622	F47	ニンニク	
2623	F48	タマネギ	
2612	F27	牛肉	
2621	F45	ビール酵母	
2624	F49	リンゴ	*
2625	F75	卵黄	*
2626	F76	α-ラクトアルブミン	
2627	F77	β-ラクトグロブリン	
2628	F78	カゼイン	
2630	F80	ロブスター	
2631	F81	チーズ	
2632	F83	鶏肉	
2633	F84	キウイ	*
2634	F85	セロリ	
2635	F86	パセリ	
2636	F87	メロン	*
2637	F88	羊肉	
2638	F89	マスタード	
2604	F15	インゲン	
2658	F51	タケノコ	
2657	F54	サツマイモ	
2656	F55	キビ	
2654	F56	アワ	

項目コード	略語	アレルゲン名	
2652	F58	イカ	
2653	F59	タコ	
2649	F50	サバ	*
2650	F60	アジ	
2651	F61	イワシ	*
2629	F79	グルテン	*
2642	F82	モールドチーズ	
2639	F90	麦芽	
2640	F91	マンゴ	
2641	F92	バナナ	*
2644	F93	カカオ	
2645	F94	洋ナシ	
2646	F95	モモ	
2647	F96	アボカド	
4401	F97	ヤマイモ	
2648	F209	グレープフルーツ	
2659	F214	ホウレンソウ	
2660	F225	カボチャ	
2717	F233	オボムコイド	*
4402	F256	クルミ	
6455	F441	Jug r 1（クルミ由来）	
4403	F329	スイカ	
2661	F254	カレイ	
4158	F349	イクラ	*

項目コード	略語	アレルゲン名	
4159	F350	タラコ	
4160	F338	ホタテ	
4161	F207	アサリ	
4162	F290	カキ(貝)	
職業性アレルゲン			
2698	K72	オオバコ種子	
2699	K75	イソシアネート　TDI	
2700	K76	イソシアネート　MDI	
2701	K77	イソシアネート　HDI	
2703	K79	無水フタル酸	
4284	K80	ホルマリン	
2704	K82	ラテックス	*
6066	K220	Hev b 6.02(ラテックス由来)	
その他			
2705	C73	ヒトインシュリン	
2643	C74	ゼラチン	
3807	M80	黄色ブドウ球菌エンテロトキシンA	*
3808	M81	黄色ブドウ球菌エンテロトキシンB	
2696	O1	綿	

アレルゲンは一時的に入手不可能なものがありますので、あらかじめご了承ください。
測定場所：SRL Advanced Lab.FMA(＊印)、他はセントラルラボラトリー

特異的IgE(シングルアレルゲン)FEIA法(判定基準)

クラス	特異的IgE抗体価(UA/mL)	判　定
0	0.35未満	陰性
1	0.35 ～ 0.70未満	陽性
2	0.70 ～ 3.50未満	
3	3.50 ～ 17.5未満	
4	17.5 ～ 50.0未満	
5	50.0 ～ 100未満	
6	100以上	

アレルギー検査

アレルギー検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
アレルギー検査	6468	特異的IgE（MAST36アレルゲン） 5A100-2807-023-052	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵	4～6	1430 ※6	CLEIA	MASTクラス 0 1.39以下 （LC）	判定基準、アレルゲン一覧表は下記をご参照ください。 ※1
	6434	特異的IgE（MAST48mix） 5A100-2809-023-052	血清 0.6	S09 ⬇ A00	冷蔵（18日）	5～7	1430 ※6	CLEIA	MASTクラス 0 1.39以下 （LC）	判定基準、アレルゲン一覧表は下記をご参照ください。 ※0

アレルギー検査について

受託数の増減により、所要日数が変動する場合がございますのでご了承ください。

[6434]特異的IgE（MAST48mix）、[6468]特異的IgE（MAST36アレルゲン）

分類	構成アレルゲン	MAST48mix 項目	MAST48mix 対象	MAST36アレルゲン 項目	MAST36アレルゲン 対象
食物アレルゲン	ミルク*	ミルク	●	ミルク	●
	小麦*	小麦	●	小麦	●
	卵白*	卵白	●	卵白	●
	オボムコイド*	オボムコイド	●	オボムコイド	●
	ゴマ**	ゴマ	●	ゴマ	●
	ソバ*	ソバ	●	ソバ	●
	大豆**	大豆	●	大豆	●
	米	米	●	米	●
	ピーナッツ*	ピーナッツ	●	ピーナッツ	●
	サバ**	サバ	●	—	
	マグロ	マグロ	●	マグロ	●
	サケ**	サケ	●	サケ	●
	エビ*	エビ	●	エビ	●
	カニ*	カニ	●	カニ	●
	豚肉**	豚肉	●	豚肉	●
	牛肉**	牛肉	●	牛肉	●
	鶏肉**	鶏肉	●	鶏肉	●
	トマト	トマト	●	トマト	●
	モモ**	モモ	●	モモ	●
	キウイ**	キウイ	●	キウイ	●
	バナナ**	バナナ	●	バナナ	●
	ヘーゼルナッツ	木の実ミックス	●	—	
	アーモンド**			—	
	クルミ*			—	

分類	構成アレルゲン	MAST48mix 項目	MAST48mix 対象	MAST36アレルゲン 項目	MAST36アレルゲン 対象
花粉アレルゲン	スギ	スギ	●	スギ	●
	ヒノキ	ヒノキ	●	ヒノキ	●
	ハンノキ	ハンノキ	●	ハンノキ	●
	シラカンバ	シラカンバ	●	シラカンバ	●
	ヨモギ	ヨモギ	●	ヨモギ	●
	オオアワガエリ	イネ科ミックス	●	オオアワガエリ	●
	カモガヤ			カモガヤ	●
	ナガハグサ			—	
	ハルガヤ			—	
	ギョウギシバ			—	
	ブタクサ	ブタクサミックス	●	ブタクサ混合物1	●
	オオブタクサ				
	ブタクサモドキ			—	
その他アレルゲン	ハウスダスト1	ハウスダスト1	●	ハウスダスト1	●
	アスペルギルス	アスペルギルス	●	アスペルギルス	●
	カンジダ	カンジダ	●	カンジダ	●
	ラテックス	ラテックス	●	ラテックス	●
	コナヒョウヒダニ	ダニミックス	●	コナヒョウヒダニ	●
	ヤケヒョウヒダニ			—	
	イヌ皮屑	イヌ・ネコ皮屑ミックス	●	イヌ皮屑	●
	ネコ皮屑			ネコ皮屑	●
	アルテルナリア	カビミックス	●	アルテルナリア	●
	ペニシリウム			—	
	クラドスポリウム			—	

*：食品の表示義務のある「特定原材料」に関するアレルゲン
**：表示を推奨されている「特定原材料に準ずるもの」に関するアレルゲン

特異的IgE（MAST48mix、MAST36アレルゲン）（判定基準）

MASTクラス	ルミカウント（LC）	判　定
0	0～1.39	陰性
1	1.40～2.77	疑陽性
2	2.78～13.4	陽性
3	13.5～58.0	
4	58.1～119	
5	120～159	
6	160～200	

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
細胞性免疫検査	特依	曜日指定 CD34定量 5I164-0000-019-662	血液 5.0（ヘパリン加）	PH5	室温	4～6		フローサイトメトリー	（/μL）	重 受託可能日は月～金曜日です。末梢血幹細胞（PBSC）でご依頼の場合は、ご依頼時に最寄りの営業所・営業拠点までご連絡ください。なお、DMSO含有の場合は、凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。※1
	特依	曜日指定 赤血球表面マーカー検査 CD55 5I235-0000-019-662	血液 1.0（ヘパリン加）	PH5	室温	4～6		フローサイトメトリー	85.4以上（%）	受託可能日は月～金曜日です。※1
	特依	曜日指定 赤血球表面マーカー検査 CD59 5I247-0000-019-662	血液 1.0（ヘパリン加）	PH5	室温	4～6		フローサイトメトリー	99.8以上（%）	受託可能日は月～金曜日です。※1
	特依	曜日指定 高感度PNH型血球検査 5I050-0000-019-662	血液 5.0（EDTA-2Na加）	PN5	冷蔵	4～6		フローサイトメトリー	判定基準:下記参照	重 凍 EDTA-2Na入りの採血管で必ず採血してください。必ず冷蔵保存にてご提出ください。受託可能日は月～金曜日です。他項目との重複依頼は避けてください。※1

細胞性免疫検査のご依頼について

1.検体は採取後、当日中にご提出ください。
2.リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。
3.骨髄液でのご依頼の場合は、専用容器（H00）を使用し冷蔵にてご提出ください。
　ただしCD34定量は保存液により希釈されると正しい検査結果が得られないため、専用容器（PH5）をご使用ください。
4.リンパ節等、組織でのご依頼の場合は、専用容器（H20）に浮遊させ冷蔵にてご提出ください。
※高感度PNH型血球検査は除きます。

高感度PNH型血球検査（判定基準）

	%	判定
PNH型顆粒球	0.003未満	陰性
	0.003以上	陽性
PNH型赤血球	0.005未満	陰性
	0.005以上	陽性





細胞性免疫検査

細胞性免疫検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
細胞性免疫検査	特依	曜日指定 白血病・リンパ腫解析検査(LLA)CD45ゲーティング(造血器悪性腫瘍細胞検査)	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	4～6	1882 ※3	フローサイトメトリー		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 実施項目は下記をご参照ください。 ※1
			血液 5.0 (ヘパリン加)	PH5	室温		1882 ※3			
	特依	曜日指定 悪性リンパ腫解析検査(MLA)CD45ゲーティング(造血器悪性腫瘍細胞検査)	リンパ節 5×5×5mm	H20	冷蔵	4～6	1882 ※3	フローサイトメトリー		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 実施項目は下記をご参照ください。 ※1
			血液 5.0 (ヘパリン加)	PH5	室温		1882 ※3			
	特依	曜日指定 多発性骨髄腫解析検査CD38マルチ解析(造血器悪性腫瘍細胞検査)	骨髄液 1.0	H00	冷蔵 (1日)	4～6	1882 ※3	フローサイトメトリー		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 実施項目は下記をご参照ください。 ※1
	特依	曜日指定 悪性リンパ腫解析検査7AAD解析(造血器悪性腫瘍細胞検査)	リンパ節 5×5×5mm	H20	冷蔵 (1日)	4～6	1882 ※3	フローサイトメトリー		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 実施項目は下記をご参照ください。 末梢血、骨髄液は避けてください。 ※1

細胞性免疫検査のご依頼について

1.検体は採取後、当日中にご提出ください。
2.リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。
3.骨髄液でのご依頼の場合は、専用容器(H00)を使用し冷蔵にてご提出ください。
　ただしCD34定量は保存液により希釈されると正しい検査結果が得られないため、専用容器(PH5)をご使用ください。
4.リンパ節等、組織でのご依頼の場合は、専用容器(H20)に浮遊させ冷蔵にてご提出ください。
※高感度PNH型血球検査は除きます。

白血病・リンパ腫解析検査(LLA)・悪性リンパ腫解析検査(MLA)
多発性骨髄腫解析検査CD38マルチ解析・悪性リンパ腫解析検査7AAD解析

項　目	モノクローナル抗体
白血病・リンパ腫解析検査(LLA)	CD1a CD2 CD3 CD4 CD5 CD7 CD8 CD10 CD13 CD14 CD19 CD20 CD33 CD34 CD41 CD56 GP-A HLA-DR
悪性リンパ腫解析検査(MLA)	CD2 CD3 CD4 CD5 CD7 CD8 CD10 CD11c CD16 CD19 CD20 CD23 CD25 CD30 CD34 CD56 κ-chain λ-chain
多発性骨髄腫解析検査CD38マルチ解析	CD7 CD19 CD20 CD33 CD45 CD49e CD54 CD56 CD138 MPC-1 cy κ-chain cy λ-chain
悪性リンパ腫解析検査7AAD解析	CD2 CD3 CD4 CD5 CD7 CD8 CD10 CD19 CD20 CD25 CD30 CD34 CD38 CD45 CD56 IgM κ-chain λ-chain

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
細胞性免疫検査	特依	曜日指定 PHAによるリンパ球幼若化検査 5I010-0000-019-814	血液各 5.0（ヘパリン加）〔同時依頼の場合は 8.0mL〕	PH9	室温	8～9	❶345 ※6	^{3}H-サイミジン取り込み能	PHA+ 20500～56800 CONTROL 127～456 （cpm）	受託可能日は月～金曜日です。 ※1
	特依	曜日指定 Con-Aによるリンパ球幼若化検査 5I011-0000-019-814		PH9	室温	8～9	❶345 ※6	^{3}H-サイミジン取り込み能	Con-A+ 20300～65700 CONTROL 127～456 （cpm）	受託可能日は月～金曜日です。 ※1
	特依	曜日指定 薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST） 5I014-0000-019-814	1薬剤 血液 12.0（ヘパリン加）	PH9	室温	9～11	❶	^{3}H-サイミジン取り込み能	（－）	受託可能日は月～金曜日です。 1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。（原則として皮内反応注射薬は検査できません。） ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は全ての採血管に（PNK）の容器を使用してください。 ※1
	特依	予約検査 曜日指定 MLC（リンパ球混合培養） 5K160-0000-019-814	（受給者）血液 20.0（ヘパリン加）と（提供者）血液 10.0（ヘパリン加）と（非血縁者）血液 10.0（ヘパリン加）	PH9	室温	10～12		^{3}H-サイミジン取り込み能		受託可能日は火～金曜日です。 続柄・臨床診断名・投与薬剤名・輸血歴・移植歴は必ず明記してください。 MLCはリンパ球を無菌状態で培養しますので、採取容器の開栓、検体の移し替えは避けてください。 MLCの非血縁者血液はコントロールとして使用します。 ※1

❶「リンパ球刺激試験（LST）」は、Con-A、PHA又は薬疹の被疑医薬品によるものである。（1薬剤 345点、2薬剤 425点、3薬剤以上 700点）

細胞性免疫検査のご依頼について

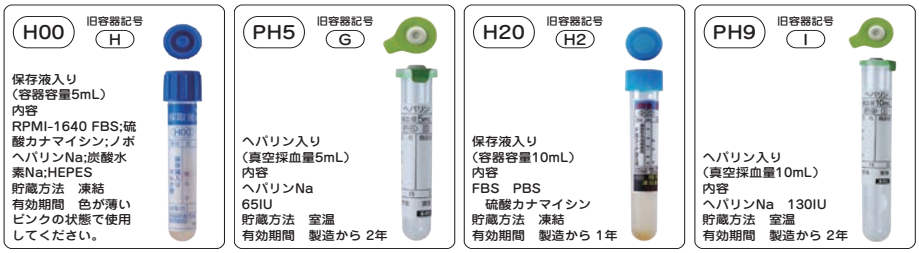
1.検体は採取後、当日中にご提出ください。
2.リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。
3.骨髄液でのご依頼の場合は、専用容器（H00）を使用し冷蔵にてご提出ください。

薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）の検体について

1.1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。
2.1薬剤で500万個のリンパ球が必要となります。場合により検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。
3.目安として白血球数が3000/μL以下の場合は倍量程度を採血しご提出ください。なお、詳しい白血球数とリンパ球％が判明している場合は、担当営業員までお問い合わせください。
4.2項目以上ご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示ください。
5.血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。
錠剤（1錠）、カプセル（1カプセル）、粉末（1回投与量程度1包）、リキッドタイプの飲み薬（0.5mL程度）、注射薬（1バイアル【アンプル】）。皮内反応用テストアンプルは微量のため検査できません。その他の薬剤以外で検査をご依頼の場合は、担当営業員までご連絡ください。
6.ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は全て専用容器（PNK）に採血し、ご提出ください。
7.「麻薬及び向精神薬取締法」第一章第二条および「覚醒剤取締法」別表に掲げられている規制対象薬剤の受領はできません。
8.ご依頼の際は、麻薬、覚醒剤原料が含まれていないことをご確認いただき、依頼書などへご署名をお願いいたします。ご署名のない場合は、受領いたしかねます。

MLC（リンパ球混合培養）について

MLC（リンパ球混合培養）は予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡ください。



細胞性免疫検査

細胞性免疫検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
細胞性免疫検査	特依	曜日指定 T細胞百分率 B細胞百分率 5I020-0000-019-662	血液 3.0 （ヘパリン加）	PH5	室温	4～6	193 ※6	フローサイトメトリー	T 66～89 B 4～13 （%）	受託可能日は月～金曜日です。 ※1
	特依	曜日指定 B細胞表面免疫グロブリン（SmIg） IgG 5I021-0000-019-662	血液 各 1.0 （ヘパリン加） 〔3項目以上の依頼の場合は3.0mL〕	PH5	室温	4～6	155 ※6	フローサイトメトリー	1～3 （%）	受託可能日は月～金曜日です。 ※1
		IgA 5I022-0000-019-662					155 ※6		3～12 （%）	
		IgM 5I023-0000-019-662					155 ※6		1～10 （%）	
		IgD 5I024-0000-019-662					155 ※6		3～8 （%）	
		K 5I025-0000-019-662					155 ※6		1～5 （%）	
		L 5I026-0000-019-662								
	特依	曜日指定 モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	血液 3.0 （ヘパリン加）	PH5	室温	4～6		フローサイトメトリー	108ページ参照	受託可能日は月～金曜日です。 実施項目一覧は、108ページをご参照ください。 10項目以上依頼の場合は血液5.0mL採血してください。 ※1
	特依	曜日指定 Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	血液 3.0 （ヘパリン加）	PH5	室温	4～6		Two-colorフローサイトメトリー	109ページ参照	受託可能日は月～金曜日です。 実施項目一覧は、109ページをご参照ください。 10項目以上依頼の場合は血液5.0mL採血してください。 ※1
	特依	曜日指定 NK細胞活性 5I900-0000-019-907	血液 5.0 （保存液加）	PNK	冷蔵	4～6		^{51}Cr遊離法	18～40 （参考値） （%）	凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1

細胞性免疫検査のご依頼について

1.検体は採取後、当日中にご提出ください。
2.リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。
3.骨髄液でのご依頼の場合は、専用容器（H00）を使用し冷蔵にてご提出ください。
　ただしCD34定量は保存液により希釈されると正しい検査結果が得られないため、専用容器（PH5）をご使用ください。
4.リンパ節等、組織でのご依頼の場合は、専用容器（H20）に浮遊させ冷蔵にてご提出ください。





曜日指定 受託可能日は月～金曜日です。

モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析実施項目一覧

CD：Cluster of differentiation

CD No. JLAC10	基準値 （単位）	実施料判断料	主として反応する細胞・代表的な反応性
CD1a 5I060-0000-019-662	1.0以下(%)		胸腺皮質細胞
CD2 5I064-0000-019-662	71.0～91.0（%）		T細胞・Eロゼット形成細胞
CD3 5I067-0000-019-662	58.0～84.0（%）	185 ※6	成熟(末梢)T細胞
CD4 5I070-0000-019-662	25.0～54.0（%）		ヘルパー T細胞
CD8 5I082-0000-019-662	23.0～56.0（%）		細胞傷害性T細胞
CD4/CD8 比	0.40～2.30		
CD5 5I073-0000-019-662	60.0～90.0（%）		T細胞・一部のB細胞
CD7 5I079-0000-019-662	72.0～90.0（%）		T細胞
CD10 5I088-0000-019-662	1.0以下(%)		ALL・好中球
CD11b 5I092-0000-019-662	18.0～49.0（%）		NK細胞・T細胞の一部
CD13 5I098-0000-019-662	9.0以下(%)		単球・顆粒球・骨髄細胞
CD14 5I101-0000-019-662	5.0以下(%)		単球
CD16 5I110-0000-019-662	6.0～39.0（%）		NK細胞(Fcγレセプター) 好中球
CD19 5I119-0000-019-662	5.0～24.0（%）		B細胞
CD20 5I122-0000-019-662	3.0～20.0（%）		成熟B細胞
CD21 5I125-0000-019-662	3.0～18.0（%）		成熟B細胞
CD22 5I128-0000-019-662	2.0～17.0（%）		B細胞
CD25 5I137-0000-019-662	8.0～34.0（%）		IL-2レセプター Tac
CD30 5I152-0000-019-662	1.0以下(%)		活性化T・B細胞・ホジキン細胞
CD33 5I161-0000-019-662	5.0以下(%)		顆粒球・単球・骨髄細胞
CD34 5I164-0000-019-662	1.0以下(%)		造血幹細胞
CD38 5I176-0000-019-662	18.0～59.0（%）		活性化および増殖細胞 形質細胞(強陽性)
CD56 5I238-0000-019-662	9.0～43.0（%）		NK細胞
CD57 5I241-0000-019-662	4.0～45.0（%）		NK細胞・LGL
HLA-DR 5I680-0000-019-662	11.0～46.0（%）		B細胞・活性化T細胞(HLA-DR抗原) 単球

細胞性免疫検査

細胞表面マーカー

曜日指定 受託可能日は月～金曜日です。

Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査

検査項目 JLAC10	基準値(%)	実施料 判断料
Two-color CD4/CD45RA 5I700-0000-019-662	CD4(−) CD45RA(+) 30.0～57.0 CD4(−) CD45RA(−) 5.0～23.0 CD4(+) CD45RA(−) 15.0～34.0 CD4(+) CD45RA(+) 9.0～37.0	185 ※6
Two-color CD4/CD29 5I701-0000-019-662	CD4(−) CD29(+) 22.0～59.0 CD4(−) CD29(−) 12.0～38.0 CD4(+) CD29(−) 9.0～34.0 CD4(+) CD29(+) 11.0～26.0	
Two-color CD11b/CD8 5I710-0000-019-662	CD11b(−) CD8(+) 11.0～40.0 CD11b(−) CD8(−) 29.0～64.0 CD11b(+) CD8(−) 8.0～32.0 CD11b(+) CD8(+) 6.0～27.0 CD8/BRIGHT 20.0以下 CD8/DULL 3.0～17.0	
Two-color HLA-DR/CD4 5I706-0000-019-662	HLA-DR(−) CD4(+) 22.0～51.0 HLA-DR(−) CD4(−) 24.0～61.0 HLA-DR(+) CD4(−) 8.0～37.0 HLA-DR(+) CD4(+) 1.0～12.0	
Two-color HLA-DR/CD8 5I707-0000-019-662	HLA-DR(−) CD8(+) 15.0～49.0 HLA-DR(−) CD8(−) 28.0～62.0 HLA-DR(+) CD8(−) 6.0～25.0 HLA-DR(+) CD8(+) 2.0～27.0	
Two-color CD57/CD16 5I721-0000-019-662	CD57(−) CD16(+) 1.0～15.0 CD57(−) CD16(−) 49.0～87.0 CD57(+) CD16(−) 2.0～40.0 CD57(+) CD16(+) 2.0～27.0	
Two-color CD16/CD56 5I724-0000-019-662	CD16(−) CD56(+) 2.0～20.0 CD16(−) CD56(−) 57.0～91.0 CD16(+) CD56(−) 9.0以下 CD16(+) CD56(+) 4.0～33.0	
Two-color CD45RO/CD4 5I703-0000-019-662	CD45RO(−) CD4(+) 6.0～34.0 CD45RO(−) CD4(−) 28.0～58.0 CD45RO(+) CD4(−) 7.0～32.0 CD45RO(+) CD4(+) 10.0～32.0	185 ※6
Two-color CD4/CD8 5I702-0000-019-662	CD4(−) CD8(+) 22.0～54.0 CD4(−) CD8(−) 14.0～38.0 CD4(+) CD8(−) 23.0～52.0 CD4(+) CD8(+) 7.0以下 CD4/CD8比 0.40～2.30	
Two-color HLA-DR/CD3 5I705-0000-019-662	HLA-DR(−) CD3(+) 33.0～75.0 HLA-DR(−) CD3(−) 7.0～36.0 HLA-DR(+) CD3(−) 3.0～18.0 HLA-DR(+) CD3(+) 5.0～33.0	
Two-color CD4/CD25 5I751-0000-019-662	CD4(−) CD25(+) 2.0～14.0 CD4(−) CD25(−) 37.0～69.0 CD4(+) CD25(−) 15.0～39.0 CD4(+) CD25(+) 6.0～21.0	
Two-color CD20/CD5 5I715-0000-019-662	CD20(−) CD5(+) 54.0～87.0 CD20(−) CD5(−) 9.0～40.0 CD20(+) CD5(−) 9.0以下 CD20(+) CD5(+) 13.0以下	

薬剤コード	薬剤名
	ア
00080	アーガメイトゼリー
00097	アーチスト
00112	アーチストジョウ
00100	アーテン
10486	アービタックス
37198	アーリーダ
03110	アイエーコール
00106	アイオナール(向精神薬)
00138	アイソボリン
00150	アイトロール
00151	アイトロールジョウ
00302	アイピーディ
00303	アイピーディカプセル
23336	アイファガン
M0003	アイミクス
N1241	アエン
14960	アカルボース
00500	アキネトン
09749	アクテムラ
00853	アクトス
00851	アクトネル
00920	アクプラ
26279	アグリリン
01010	アクロマイシンV
M0013	アコファイド
01040	アザクタム
01015	アサコール
01045	アザニン
01046	アザルフィジン
01048	アザルフィジンEN
01052	アザルフィジンENジョウ
01060	アシクロビル
01062	アジスロマイシン
01070	アシノン
01072	アシノンカプセル
01105	アジャストA
19486	アジルバ
01109	アスゲン
01117	アスコルビンサン
01150	アストーマ
01200	アストミン
01425	アズノール
01487	アスパラCA
01500	アスパラK
39754	アスパラギンサンカリウム
01600	アスピリン
01610	アスピリンマツ
01650	アスベノン
01651	アスベノンカプセル
01750	アスベリン
01753	アスベリンサン
01562	アスベリンジョウ
01106	アズレン
01900	アセトアミノフェン
01940	アゼプチン
23667	アセリオ
23871	アセリオジョウチュウエキ
21899	アゼルニジピン
M1877	アゾセミド
02200	アダラート
02206	アダラートCR
02213	アダラートCRジョウ
02210	アダラートL
01999	アタラックス
02000	アタラックスP
03007	アダリムマブ
02235	アデカット
24815	アテディオ
02260	アテノロール
02300	アデホス
02310	アデホスコーワ
02309	アデホスコーワカリュウ
02233	アテレック
09478	アドエア
34658	アトーゼット
13699	アドシルカ
02800	アドナ
02375	アトニン-O
03000	アドリアシン
03002	アドリアシンチュウ
03001	アドリアマイシン
02485	アトルバスタチン
03050	アトロピン
03149	アナフラニール
03147	アナペイン
03180	アネトン
26766	アネメトロ
06505	アバスチン
10968	アバプロ
M0058	アビガン
13700	アフィニトール
17260	アブラキサン
03890	アブレース
05128	アベロックス
12857	アボルブ
04152	アマリール
04149	アマリールジョウ
28558	アマルエット
01892	アマンタジン
04180	アミオダロン
04200	アミカシン
04280	アミサリン
04435	アミノレバン
N1568	アムバロ
07535	アムビゾーム
04685	アムロジピン
M3973	アムロジピンOD
10847	アムロジピンジョウ
04683	アムロジン
M0075	アムロジンOD
04684	アムロジンジョウ
M1861	アメナリーフ
04700	アモキサン
04701	アモキサンカプセル
04800	アモキシシリン
05050	アモバン
05140	アラセナ-A
00075	アラバ
05222	アリセプト
02439	アリセプトD
05460	アリナミン
05468	アリナミンEX
05470	アリナミンF
10947	アリピプラゾール
05493	アリミデックス
09987	アリムタ
05507	アリルイソプロピルアセチルニョウソ
05540	アルケラン
05600	アルサルミン
05660	アルジオキサ
05690	アルダクトン
05700	アルダクトンA
05695	アルダクトンAジョウ
05730	アルタット
05731	アルタットカプセル
05740	アルツ
05900	アルドメット
06010	アルピニー
06011	アルピニーザザイ
06015	アルピニーザヤク
06045	アルファカルシドール
06100	アルファロール
06105	アルファロールカプセル
06550	アルロイドG
06670	アレギサール
06675	アレグラ
23884	アレグラFX
18876	アレグラOD
06676	アレグラジョウ
06695	アレジオン
M0096	アレセンサ
06699	アレトン
06700	アレビアチン
06702	アレビアチンサン
06706	アレビアチンジョウ
06705	アレビアチンチュウチャヤク
06780	アレルギン
06773	アレロック
M0099	アレロックOD
06769	アレロックジョウ
18624	アレンドロン
06830	アローゼン
M1343	アロキシ
06800	アロシトール
06801	アロシトールジョウ
06850	アロチーム
04078	アロチノロール
06900	アロテック
06950	アロフト
06955	アロプリノール
06965	アロマシン
07090	アンカロン
07091	アンカロンジョウ
07400	アンコチル
07436	アンジュ 28
07700	アンヒバ
07701	アンヒバザヤク
07697	アンブラーグ
09261	アンブロキソールエンサンエン
	イ
14442	イーケプラ
07922	イーシー.ドパール
07209	イオパミドール
07920	イオパミロン
07918	イオパミロン300
07915	イオパミロン370
07955	イオプロミド
07914	イオヘキソール
07928	イオメロン
07926	イオメロン300
07927	イオメロン350
18772	イグザレルト
M3124	イグザレルトOD
M2693	イコサペントサンエチル
N0291	イコマイド
08000	イスコチン
08001	イスコチンジョウ
08090	イセパシン
08220	イソジン
08225	イソゾール
08230	イソニアジド
08240	イソバイド
08250	イソビスト
N0301	イソプロパノール
08259	イソプロピルアンチピリン
08280	イソミタール(向精神薬)
08317	イダマイシン
08358	イチショウサンイソソルビド
10667	イトプリド
08337	イトラコナゾール
08338	イトリゾール
15015	イナビル
M0125	イニシンク
08450	イブ
08460	イブA
29958	イブA EX
08465	イブAジョウ
M6262	イブDX
28608	イフェクサー SR
06128	イブクイック
29992	イブクイックDX
08500	イブプロフェン
33789	イブランス
11809	イマチニブ
08552	イミグラン
39658	イミダフェナシン
13984	イミダブリルエンサンエン
08578	イムノブラダー
08600	イムラン
00648	イムランジョウ
13268	イメンド
19722	イリノテカンエンサンエン
10619	イリボー
34436	イルアミクス
12322	イルベサルタン
10015	イルベタン
08673	イレッサ
15866	インヴェガ
08990	インチンコウトウ
09095	インテバン
09100	インテバンSP
09123	インテバンザザイ
09120	インテバンザヤク

麻薬　覚醒剤原料　向精神薬　ヘパリン系薬剤

細胞性免疫検査

DLST薬剤リスト

薬剤コード	薬剤名
09300	インデラル
09330	インドメタシン
09360	イントラリポス
09411	インフリー
09413	インフリーS
03636	インフリキシマブ
09419	インフルエンザHAワクチン
09415	インフルエンザワクチン
20703	インライタ
	ウ
09500	ウィンタミン
10450	ヴェノグロブリン-IH
20011	ヴォトリエント
09870	ウテメリン
09900	ウブレチド
09920	ウラリット
09225	ウラリット-U
25575	ウリアデック
11647	ウリトス
17262	ウリトスOD
09930	ウルグート
10000	ウルソ
10005	ウルソ100
10105	ウルソデオキシコールサン
25853	ウルティプロ
10140	ウロカルン
10150	ウロキナーゼ
10160	ウログラフィン
10360	ウンセイイン
	エ
11881	エカードHD
14348	エカードハイゴウジョウHD
16656	エカードハイゴウジョウLD
10700	エキセドリン
18595	エキセメスタン
13738	エクア
10790	エクザール
10780	エクサシン
00208	エクストラニール
10850	エクセグラン
10851	エクセグランサン
10900	エクセラーゼ
10901	エクセラーゼカプセル
28361	エクメット
M3620	エクメットハイゴウジョウHD
29089	エクメットハイゴウジョウLD
11000	エサンブトール
11001	エサンブトールジョウ
M4840	エスゾピクロン
11176	エスタゾラム
11170	エスタック
11174	エスタックイブ
11189	エスタックイブエース
11177	エスタックイブカリュウ
11180	エスタックゴールド
11250	エストラサイト
11290	エストリール
11285	エストリオール
11373	エスポー
09132	エスラックス
34223	エスワン
M9642	エスワンタイホウ
M0167	エスワンタイホウOD
34445	エゼチミブ
N1569	エソメプラゾール
M9413	エソメプラゾールカプセル
17257	エダラボン
11395	エタンブトール
11493	エチカーム
11502	エチゾラム
14964	エックスフォージ
11515	エッピカジュツトウ
15965	エディロール
M3974	エトドラク
11570	エトポシド
11640	エナラプリル
13863	エナラプリルマレインサンエン
11710	エバステル
11724	エバデール
11726	エバデールS
11740	エバミール
05329	エバルレスタット
01598	エビスタ
02521	エビスタジョウ
11896	エピナスチン
11930	エピネフリン
11933	エピビル
11800	エピプロスタット
27945	エピリド
06052	エビリファイ
25479	エピルビシンエンサンエン
11940	エピレオプチマル
M0188	エフィエント
12100	エフェドリン(覚醒剤原料)※1
12200	エフォーワイ
12400	エブトール
12290	エフピー（覚醒剤原料）
12420	エブランチル
37750	エベレンゾ
12448	エボザック
12450	エポジン
12675	エミレース
12790	エラスターゼ
12900	エラスチーム
11345	エラスポール
12950	エリーテン
12975	エリカナール
21944	エリキュース
13000	エリスパン
13100	エリスロシン
13104	エリスロシンDS
13101	エリスロシンジョウ
13200	エリスロシンドライシロップ
13300	エリスロマイシン
13382	エルカルチン
13395	エルサメット
13400	エルシトニン
M2086	エルデカルシトール
M9050	エルネオパNF
04288	エルプラット
N0302	エルモンデポー
35888	エレトリプタン
13507	エレンタール
13508	エレンタールP
13506	エンサンエピナスチン
13610	エンサンバンコマイシン
13630	エンサンブロカイン
02756	エンサンブロカルバジン
13659	エンサンメチルエフェドリン(覚醒剤原料)※1
N0218	エンサンメピバカイン
13663	エンサンモルヒネ(麻薬)
13665	エンサンリドカイン
37733	エンタイビオ
01739	エンタカポン
32061	エンテカビル
13800	エンドキサン
13802	エンドキサンP
13900	エンビナース
14000	エンビナースP
14155	エンペラシン
39648	エンレスト
	オ
14500	オイグルコン
14501	オイグルコンジョウ
14608	オイラックス
14613	オウゴン
14630	オウレンゲドクトウ
14240	オーグメンチン
13825	オーグメンチンハイゴウジョウ
14288	オーネス
14293	オーラ
14300	オーラチュウ
14370	オーラチュウカートリッジ
14703	オキサトミド
04653	オキサリプラチン
14712	オキシプリノール
14755	オステラック
14850	オゼックス
14852	オゼックスジョウ
17739	オセルタミビル
39069	オゼンピック
14890	オダイン
14930	オツジトウ
31579	オテズラ
14955	オドリック
16341	オノアクト
15050	オノン
15051	オノンカプセル
15053	オノンドライシロップ
15100	オパイリン
15110	オパルモン
28094	オフェブ
28008	オプジーボ
27142	オプスミット
15142	オプチレイ
15144	オフロキサシン
15160	オムニパーク
N1571	オメガ-3シボウサンエチル
15168	オメガシン
15175	オメプラール
15173	オメプラールジョウ
15171	オメプラゾール
15172	オメプラゾン
15200	オラスポア
15202	オラスポアドライシロップ
15190	オラセフ
13225	オラペネム
15249	オランザピン
15287	オルガラン(PNK容器)
34535	オルケディア
15300	オルチス
19196	オルメサルタン
N1572	オルメサルタンOD
01695	オルメテック
14536	オレンシア
25222	オロパタジンOD
20910	オロパタジンエンサンエン
22124	オングリザ
15500	オンコビン
	カ
10376	カーボスター
15550	カイゲン
15555	カイトリル
15630	カコナール
15650	カシワドール
18000	ガスコン
18050	ガスター
18061	ガスターD
18060	ガスターチュウシャエキ
18063	ガスチーム
18199	ガストローム
18080	ガストログラフィン
18215	ガスピタン
18212	ガスモチン
18210	ガスロンN
15668	カゼカプセルゴールド
15660	カゼグスリ
15901	カソデックス
16040	カタクロット
16100	カタプレス
18226	ガチフロ
16250	カッコントウ
31095	カデチア
13257	カデュエットハイゴウジョウ
28155	ガドビスト
26153	カナグル
18243	ガナトン
16400	カナマイシン
32972	カナリア
16586	カバサール
06822	ガバペン
16600	カピステン
16900	カフコデ
16902	カフコデN
16980	カプトプリル
17000	カプトリル
17002	カプトリルR
17005	カプロシン(PNK容器)
15445	ガベキサートメシルサンエン
95491	カベシタビン
14946	カベルゴリン
38797	カボメティクス
17010	カマ
17088	カミショウヨウサン

麻薬　覚醒剤原料　向精神薬　ヘパリン系薬剤

薬剤コード	薬剤名
29196	カムシアハイゴウジョウHD
36410	カムシアハイゴウジョウLD
M9555	カモスタットメシルサンエンサン
17111	カモステート
17415	カリメート
17450	カルグート
26019	カルシトリオール
17539	カルスロット
17545	カルセド
17548	カルタン
17580	カルデナリン
17600	カルナクリン
23795	カルバゾクロムスルホンサンNA
22094	カルバゾクロムスルホンサンナトリウム
M1806	カルバマゼピン
17791	カルブロック
M3698	カルベジロール
17770	カルベニン
17776	カルボカイン
17778	カルボシステイン
17779	カルボプラチン
17800	カロナール
17803	カロナールサイリュウ
17799	カロナールシロップ
17825	カンゲンカリュウ
20268	カンサイダス
17850	カンゾウ
25038	カンデサルタン
17866	カンプト
17890	カンボウヤク
	キ
31835	キイトルーダ
18400	キサンボン
18454	キシレステシン
18451	キシレステシンA
18500	キシロカイン
18507	キシロカイン1%
18506	キシロカイン2%
18501	キシロカインE
18503	キシロカインカートリッジ
18510	キシロカインスプレー
18502	キシロカインゼリー
18520	キシロカインビスカス
94580	キシロカインポリアンプ
18491	キシロカインポリアンプ1%
19472	キックリン
18557	キネダック
18576	キプレス
19049	ギメラシル
19070	ギャバロン
38657	キャブピリン
18695	キャベジン
24627	キュウケイキュウチャクタン
18750	キュウシン
19090	ギュウニュウ
18805	キューピーコーワゴールド
18760	キュウフウゴールド
17076	キュビシン
18821	キョウニンスイ
18831	キョウリョクネオミノファーゲンシー
01248	キョウリョクボステリザン

薬剤コード	薬剤名
18953	キョーリンAP2
18971	キョーレオピン
19000	キロサイド
95890	キロサイドN
19005	キン
19110	ギン
19055	キンダベート
15350	キンダリー
	ク
19189	クアゼパム
20108	グアヤコールスルホンサンカリウム
33811	グーフィス
19170	クーベラシン
19185	クールワン
95377	クエチアピン
24404	クエンサンダイイチテツNA
19212	クエンサンダイイチテツナトリウム
33843	クエンメット
12674	グラクティブ
20101	グラケー
16731	グラセプター
09848	グラニセトロン
05872	クラバモックス
19496	クラビット
19494	クラビットテンガンエキ
19500	クラフォラン
20105	グラマリール
19660	クラリシッド
19664	クラリシッドDS
19656	クラリシッドジョウ
19666	クラリシッドドライシロップ
19662	クラリス
19668	クラリスDS
19669	クラリスドライシロップ
19663	クラリスロマイシン
19172	クラリチン
20110	グラン
20120	グランダキシン
19750	クリアナール
19774	クリアミン
20128	グリクラジド
20140	グリコラン
20148	グリセオール
20400	グリチロン
19800	クリノリル
20427	グリベック
20440	グリマック
20450	グリミクロン
N1238	グリメピリド
19820	クリンダマイシン
20460	グルカゴン
20477	グルコサミン
20469	グルコパイ
01907	グルファスト
M1709	グルベス
10863	グレースビット
10013	クレキサン〈PNK容器〉
04980	クレストール
28532	クレマスチン
N1239	クレメジン
14148	クロザリル

薬剤コード	薬剤名
20017	クロチアゼパム
20020	クロナゼパム
06262	クロピドグレル
M0320	クロフェドリンS
20550	グロベニンI
20043	クロマイチツジョウ
20046	クロミッド
20050	クロム
20059	クロラムフェニコール
25436	クロルフェネシン
11126	クロルプロマジンエンサンエン
	ケ
20312	ケアラム
20572	ケイガイレンギョウトウ
M0326	ケイキサレートDS
29047	ケイキサレートサン
20585	ケイシトウ
20590	ケイシブクリョウガン
20591	ケイシブクリョウガンリョウ
20604	ケイテン
20619	ケイメイガシンサン
20621	ケイメイガシンサンS
20623	ケジフエン
20645	ケタス
20651	ケタラール(麻薬)
20660	ケトコナゾール
20656	ケトチフェン
20800	ケフラール
20801	ケフラールカプセル
21000	ケフレックス
21179	ゲムシタビン
21045	ケルロング
06225	ケンケツアルブミン
21048	ケンケツヴェノグロブリンIH
04191	ケンケツグロベニン-I
21064	ケンケツベニロン-I
21035	ケンコウショクヒン
21240	ゲンタシン
21242	ゲンタシンチュウ
21251	ゲンタマイシン
	コ
21274	コアテック
21294	コアヒビター
01508	コウジュン
01872	コエンザイムQ10
21280	コートリル
02083	コカール
22407	ゴコトウ
22410	ゴシャジンキガン
21400	コスパノン
21435	コスメゲン
21521	コタローマオウブシサイシントウ
11842	コディオハイゴウジョウEX
18239	コディオハイゴウジョウMD
28247	コデインリンサン5MG(麻薬)※2
N3354	コデインリンサン20MG(麻薬)※2
21575	コデインリンサンエン(麻薬)※2
14403	コデインリンサンエンサン1%(麻薬)※2
21624	コナグスリ
21632	コナミルク
21633	コニール

薬剤コード	薬剤名
21623	コバシル
21640	コバルト
M3601	コミナティ
21657	コムギ
21658	コムギコ
21663	コメ
21670	コメリアン
21700	コランチル
21800	コリオパン
21850	コルドリン
21860	コルヒチン
22420	ゴレイサン
95498	ゴレイサンリョウ
21908	コレバイン
21938	コロネル
22045	コンゴウヤク
10211	コンサータ(向精神薬)
22050	コンスタン
22100	コンタック
22195	コントール
22200	コントミン
22240	コンドロイチン
22806	コンプラビン
	サ
18168	ザーコリ
10792	サーティカン
22439	サアミオン
22500	サイクロセリン
22508	サイコ
22510	サイコカリュウコツボレイトウ
22512	サイコケイシカンキョウトウ
22513	サイコケイシトウ
15115	ザイザル
M0357	ザイティガ
22520	サイトテック
22525	サイボクトウ
00640	ザイボックス
27175	サイラムザ
22540	サイレイトウ
22550	サイレース(向精神薬)
23250	ザイロリック
13917	サインバルタ
29981	ザガーロ
26123	ザクラスハイゴウジョウHD
27171	ザクラスハイゴウジョウLD
23300	ザジテン
22960	サノレックス
M0366	ザファテック
N0255	サフネロー
23024	サプリメント
15234	サムスカ
M3295	サムスカOD
23118	サラザック
07636	サラジエン
23109	サラゾスルファピリジン
M6108	サラゾスルファピリジンチョウヨウジョウ
23110	サラゾピリン
95396	サリグレン
24277	ザルティア
23458	ザルトプロフェン
13122	サルポグレラートエンサンエン

麻薬　覚醒剤原料　向精神薬　ヘパリン系薬剤

DLST薬剤リスト

薬剤コード	薬剤名
23150	サロベール
23500	ザロンチン
N1243	サワシリン
23156	サワシリンDS
M2083	サワシリンカプセル
23152	サワシリンサイリュウ
23178	サンカマグネシウム
23190	サンザイ
23193	サンシュコンゴウワクチン
23198	サンディミュン
23200	サンドスタチン
23280	サンモツオウゴントウ
23235	サンリズム
23237	サンリズムカプセル
	シ
25728	ジアグノグリーン
25750	ジアゼパム
23600	シアナマイド
02517	シアリス
27115	ジーラスタ
07193	ジェイゾロフト
08488	ジェニナック
N0256	ジェノゲスト
25803	ジェムザール
23640	シオゾール
M0389	ジオトリフ
23765	シカヨウ2%キシロカインカートリッジ
23760	シカヨウキシロカイン
23761	シカヨウキシロカインカートリッジ
23763	シカヨウキシロカインカートリッジ2%
23773	シカヨウシタネストオクタプレシン
25840	ジキナ
25850	ジキナエース
25900	ジキニン
23850	シグマート
23860	シグマビタン
23900	シクロスポリン
25931	ジクロフェナクNA
25930	ジクロフェナクナトリウム
16806	ジクロフェナクナトリウムSR
25990	ジゴキシン
25992	ジゴキシンKY
26100	ジゴシン
24150	シスプラチン
26170	ジスロマック
11778	ジスロマックSR
35455	シダキュア
24222	シタネスト-オクタプレシン
24227	シタネストオクタプレシンカートリッジ
11812	シタフロキサシン
24228	シタラビン
24235	シチコリン
24250	シナール
N0108	ジヒドロコデインリンサンエンサン1%(麻薬)※2
26500	ジピリダモール
17173	ジフェニドールエンサンエン
26523	ジフルカン
95822	ジフルカンカプセル
26529	ジプレキサ
24440	シプロキサン
24438	シプロキサンチュウ

薬剤コード	薬剤名
24450	シベノール
13793	シムビコート
28620	ジメチコン
24470	シメチジン
24472	シャクヤクカンゾウトウ
27042	ジャディアンス
33345	ジャドニュ
12815	ジャヌビア
18594	シュアポスト
26614	ジュウゼンタイホトウ
26615	ジュウミハイドクトウ
12243	ジュリナ
24485	ショウキョウ
24490	ショウサイコトウ
24492	ショウサイコトウカキキョウセッコウ
24517	ショウサンイソソルビド
24496	ショウジュセン
24505	ショウセイリュウトウ
24510	ショウニヨウバファリン
26700	ジョサマイシン
26712	ジルテック
24593	シロスタゾール
36020	シロドシン
N1573	シロドシンＯＤ
24631	シンイセイハイトウ
24730	シングレア
24953	シンコルゲンコーワ
24965	シンサンキョウイチョウヤク
24969	シンジキナ
M9232	シンジキニンカリュウ
24984	シンセデス
25225	シンバスタチン
25330	シンビロガンK
25329	シンフジイチョウヤク
94679	シンプロンエキエース
25600	シンメトレル
25648	シンルルA
25653	シンルルAゴールド
25649	シンルルAジョウ
25646	シンルル-K
25650	シンルルエース
25710	シンレスタール
	ス
26820	スイギン
26825	スイヨウセイブレドニン
10824	スーテント
95714	スオード
26846	スカルナーゼ
26874	スキャンドネスト
95704	スキャンドネストカートリッジ
00912	スコヤカ
01845	スコヤカミルク
26870	スズ
26888	スターシス
21696	スチバーガ
26921	ステアリンサンマグネシウム
09449	ステーブラ
26968	ストガー
26965	ストックリン
26931	ストナ
26928	ストナアイビー

薬剤コード	薬剤名
26935	ストナリニ
26944	ストミンA
12505	ストラテラ
26950	ストレプトマイシン
27000	ストロカイン
00541	ストロメクトール
27030	スパカール
27045	スパクリット
27190	スパラ
03206	スピリーバ
27281	スピルリナ
27290	スピロノラクトン
27300	スピロペント
27950	ズファジラン
10944	スプリセル
27346	スペニール
27344	スペリア
27349	スマトリプタン
27355	スマンクス
27370	スミフェロン
27398	スリノフェン
27400	スリンダク
27500	スルガム
27540	スルタムジン
09322	スルバクタムアンピシリン
27572	スルバクタムナトリウム
07272	スルバシリン
27590	スルピリド
27600	スルピリン
27629	スルファサラジン
27638	スルファピリジン
27643	スルファメトキサゾール
27680	スルペラゾン
27681	スルペラゾンジョウチュウヨウ
27901	スローケー
27702	スロービッド
27920	スロンノン
	セ
27985	セイジョウボウフウトウ
27990	セイシンレンシイン
28068	セイハイトウ
06465	セイブル
28070	セイロガン
28071	セイロガントウイA
28118	セキソビット
28120	セキドメ
28275	セサミン
28276	セサミンE
00178	セサミンE+
39989	ゼジューラ
28400	セスデン
32050	ゼストリル
32100	ゼスラン
28460	セタプリル
08137	ゼチーア
09239	セチリジン
28465	セチロ
28487	セディール
28500	セデス
28700	セデスG
28710	セデスハイ

薬剤コード	薬剤名
28775	セネガ
28900	セパゾン
28950	セパミット
28955	セパミットR
29115	セファクロル
29118	セファゾリン
10467	セファゾリンNA
25073	セファゾリンNAチュウシャヨウ
29151	セファゾリンナトリウム
29300	セファドール
29498	セファメジンアルファ
29497	セファメジンアルファチュウシャヨウ
29600	セファランチン
29700	セファレキシン
32157	ゼフィックス
01713	セフェピム
15198	セフェピムエンサンエン
29790	セフォセフ
29800	セフォタックス
29801	セフォタックスチュウシャヨウ
29850	セフォチアム
M1413	セフォン
N1242	セフカペン
12499	セフカペンピボキシル
13156	セフカペンピボキシルエンサンエン
30012	セフキソン
30037	セフジトレンピボキシル
30040	セフジニル
13165	セフジニルカプセル
20816	セフジニルサイリュウ
30050	セフスパン
30070	セフゾン
30071	セフゾンカプセル
N0937	セフタジジム
06815	セフトリアキソンＮＡ
02903	セフトリアキソンナトリウム
10225	セフメタゾールNA
30099	セフメタゾールナトリウム
30100	セフメタゾン
30105	セフメタゾンジョウチュウヨウ
M1422	セフロニック
30530	セボフルラン
30570	セボフレン
M0934	セラピナ
M0933	セララ
30900	セルシン
30916	セルセプト
M3271	セルトラリン
30930	セルニルトン
30960	セルベックス
30956	セルベックスカプセル
30961	セルベックスサイリュウ
24870	ゼルヤンツ
30975	セレキノン
30990	セレクトール
10023	セレコキシブ
07909	セレコックス
08553	セレコックスジョウ
31003	セレジスト
30992	セレスターナ
31000	セレスタミン

麻薬　覚醒剤原料　向精神薬　ヘパリン系薬剤

DLST薬剤リスト

薬剤コード	薬剤名
31100	セレナール
31180	セレニカR
31181	セレニカRカリュウ
31300	セレネース
31355	セレベント
02162	ゼローダ
31380	セロクエル
31400	セロクラール
31402	セロクラールジョウ
31500	セロケン
N0237	セロトニン
31931	ゼンタコート
31605	センナ
31645	センノシド
31670	センブリ
	ソ
33009	ゾーミッグ
32320	ソケイカッケツトウ
10612	ゾシン
32330	ソセゴン(向精神薬)
32334	ソタコール
33040	ゾニサミド
N0803	ゾピクロン
33050	ゾピラックス
32441	ソファルコン
33060	ゾラデックス
95753	ゾラデックスLA
32650	ソラナックス
32700	ソランタール
32701	ソランタールジョウ
22742	ソリフェナシン
23528	ソリフェナシンコハクサンエン
32726	ソル.コーテフ
32905	ソル.メドロール
03904	ソル.メルコート
32830	ソルダクトン
20385	ゾルピデムシュセキサンエン
24079	ゾルピデムシュセキサンエンOD
N0238	ソルマルトユエキ
28785	ゾルミトリプタン
26399	ゾレドロンサン
32910	ソレトン
95922	ソレトンジョウ
33000	ソロン
33001	ソロンサイリュウ
	タ
34300	ダーゼン
M2122	ダーブロック
34310	ダイアート
34320	ダイアップ
34400	ダイアモックス
34476	ダイオウカンゾウトウ
34475	ダイオウマツ
M0952	タイケルブ
34506	ダイケンチュウトウ
34510	ダイサイコトウ
33307	タイショウイチョウヤク
33300	タイショウカンポウイチョウヤク
34670	ダイズ
94674	ダイズイソフラボン
34730	ダイドロネル
34770	ダイフェン
20242	ダイフェンハイゴウカリュウ
16632	ダイフェンハイゴウジョウ
34806	ダイメジン
33462	タイレノール
33459	タイレノールA
M1569	ダウノマイシン
33460	タウリン
33500	タガメット
35030	ダカルバジン
33511	タキソール
33512	タキソテール
N0239	タクザイロ
29604	タグリッソ
33513	タクロリムス
26040	タケキャブ
26010	タケキャブジョウ
33662	タケダカンポウベンビヤク
33665	タケプロン
33653	タケプロンOD
33652	タケプロンODジョウ
33668	タケプロンカプセル
M0957	タケルダ
33669	タゴシッド
M0958	タシグナ
N0240	タゾバクタムナトリウム
28913	タゾピペ
39583	タダラフィルＺＡ
33700	タチオン
33782	タナドーパ
33780	タナトリル
35070	ダニ
33856	タバコ
33890	タフマック
33900	タフマックE
34000	タベジール
34050	タマゴ
34062	タミフル
34076	タミフル75
34053	タミフルドライシロップ
13088	タムスロシンエンサンエン
18916	タムスロシンエンサンエンＯＤ
34060	タモキシフェン
M7848	ダラキューロ
35100	ダラシン
35203	ダラシンS
35198	ダラシンSチュウシャエキ
35103	ダラシンカプセル
36118	タリージェ
34081	タリオン
34085	タリビッド
34074	タリビッドジョウ
34072	タルク
04533	タルセバ
13500	ダルテパリンNA〈PNK容器〉
N0241	ダルボポエチンアルファ
35270	ダルメート
34104	タンカルジョウ
25997	タンカン
34095	タンサンカルシウム
34096	タンサンスイソナトリウム
N1574	タンサンランタン
34100	タンサンリチウム
35280	ダントリウム
34150	タンニンサンアルブミン
34210	タンボコール
	チ
35530	チアトン
24103	チアプリド
35700	チウラジール
N0309	チエクール
35730	チエナム
10859	チエナムテンテキジョウチュウヨウ
07767	チエペネム
36000	チオラ
36100	チガソン
25001	チキジウムシュウカブツ
36155	チクピロン
36165	チザニン
36180	チスタニン
36200	チタン
36235	チバセン
10002	チャンピックス
36279	チョウセンニンジン
36287	チョウトウサン
36280	チョコラA
36285	チョコラBB
01397	チョコラBBプラス
36290	チョレイトウ
36318	チラーヂンS
36350	チロナミン
36372	チンコウタンサンカルシウム
	ツ
M6862	ツイミーグ
36395	ツウサントウ
M3816	ツートラム
27121	ツクシＡＭハイゴウサン
36450	ツベラクチン
36481	ツベルミン
37001	ツムラ1
37104	ツムラ104
37114	ツムラ114
37029	ツムラ29
37041	ツムラ41
37043	ツムラ43
37050	ツムラ50
37062	ツムラ62
37096	ツムラ96
36555	ツムラウンケイトウ
36558	ツムラウンセイイン
36572	ツムラオウレンゲドクトウ
36580	ツムラオツジトウ
36600	ツムラカッコントウ
36621	ツムラカミキヒトウ
36620	ツムラカミショウヨウサン
36637	ツムラケイガイレンギョウトウ
36641	ツムラケイシカジュツブトウ
36639	ツムラケイシブクリョウガン
36643	ツムラコウソサン
36644	ツムラゴシャジンキガン
36650	ツムラゴレイサン
36660	ツムラサイコカリュウコツボレイトウ
36663	ツムラサイコケイシカンキョウトウ
36675	ツムラサイコケイシトウ
36680	ツムラサイボクトウ
36690	ツムラサイレイトウ
36692	ツムラシャクヤクカンゾウトウ
36695	ツムラジュウゼンタイホトウ
36698	ツムラジュウミハイドクトウ
36700	ツムラショウサイコトウ
36704	ツムラショウサイコトウカキキョウセッコウ
36710	ツムラショウセイリュウトウ
36712	ツムラシンイセイハイトウ
36740	ツムラセイジョウボウフウトウ
36720	ツムラセイシンレンシイン
36752	ツムラダイオウカンゾウトウ
36751	ツムラダイケンチュウトウ
36755	ツムラダイサイコトウ
36792	ツムラチョウトウサン
36790	ツムラチョレイトウ
36795	ツムラトウカクジョウキトウ
36800	ツムラトウキシャクヤクサン
36870	ツムラニジュツトウ
36875	ツムラニョシンサン
36879	ツムラニンジンヨウエイトウ
36911	ツムラバクモンドウトウ
36900	ツムラハチミジオウガン
36920	ツムラハンゲコウボクトウ
36915	ツムラハンゲシャシントウ
36924	ツムラビャッコカニンジントウ
36930	ツムラボウイオウギトウ
36940	ツムラボウフウツウショウサン
36928	ツムラホチュウエッキトウ
36955	ツムラマオウブシサイシントウ
36961	ツムラマシニンガン
36970	ツムラリックンシトウ
08949	ツルバダ
37915	ツロブテロール
	テ
37957	ティーエスワン
22008	ティーエスワンOD
94631	ティーエスワンカプセル
38818	ディオバン
38817	ディオバンジョウ
37980	テイコプラニン
12934	ディナゲスト
38820	ディプリバン
37998	テイブンシデキストラン
M0555	ディレグラ
39043	デエビゴ
38160	テオドール
38310	テオフィリン
38340	テオロング
38850	デカドロン
38345	テガフール
38900	デキサート
38920	デキサメタゾン
38932	デキストロメトルファン
38400	テグレトール
38402	テグレトールサイリュウ
38411	テグレトールジョウ
M1002	デザレックス
38420	テシプール

麻薬　覚醒剤原料　向精神薬　ヘパリン系薬剤

細胞性免疫検査

DLST薬剤リスト

薬剤コード	薬剤名
38945	デジレル
34318	テセントリク
38965	デゾラム
38971	デタントールR
38447	テトカイン
38451	テトラカイン
38460	テトラミド
38470	テナキシル
19543	テネリア
38500	テノーミン
38985	デノシン
M0561	デノタス
22145	デノタスチュアブル
39000	デパケン
39003	デパケンR
00672	デパケンRジョウ
39006	デパケンサイリュウ
39007	デパケンジョウ
39005	デパケンシロップ
39010	デパス
39011	デパスジョウ
N0242	デピケイ
38530	テプレノン
39100	デプロメール
M2481	デベルザ
13211	テモカプリルエンサンエン
33389	テモゾロミド
07180	テモダール
38774	デュタステリド
37186	デュピクセント
39200	デュファストン
M2023	デュロキセチン
17031	テラビック
32714	テラムロＡＰ
N1575	テラムロＢＰ
38560	テラルビシン
38585	テルギンG
38600	テルネリン
38631	テルビナフィン
M3970	テルミサルタン
35519	テルミサルタンODジョウ
32128	テルミサルタンジョウ
	ト
N0167	トアラセット
39324	トウカクジョウキトウ
39338	トウキシギャクカゴシュユショウキョウ
39330	トウキシャクヤクサン
95169	トウモロコシデンプン
39317	トーワチーム
07004	ドキサゾシン
11861	ドキシル
39345	トキソイド
41400	ドグマチール
N0164	トコフェロール
39370	トスキサシン
19383	トスフロキサシントシルサンエン
41480	ドセタキセル
17291	ドネペジル
19247	ドネペジルOD
N0165	ドネペジルエンサンエン
01025	ドパコール

薬剤コード	薬剤名
21538	トビエース
08602	トピナ
22352	トピロリック
39449	トフィス
39500	トフィソパム
41708	ドプス
09959	ドプタミン
41709	ドプトレックス
39600	トプラシン
39700	トフラニール
39827	トボテシン
39860	トミロン
39862	トミロンDS
39865	トミロンサイリュウ
95335	トミロンジョウ
39870	トヨファロール
41783	ドラール
03682	トライコア
34228	トラセミド
18704	トラゼンタ
N0166	トラディアンス
39960	トラネキサムサン
39970	トラベルミン
16094	トラマール
M0579	トラムセット
40200	トランコロン
M4128	トランコロンP
40400	トランサミン
40402	トランサミンカプセル
N0168	トリアゾラム
40664	トリキュラー21
40665	トリキュラー28
40701	トリクロリール
40704	トリクロリールシロップ
40705	トリクロルメチアジド
41100	トリプタノール
41123	トリメトプリム
10689	トリメプチンマレインサンエン
37810	トリンテリックス
41840	ドルナー
41860	ドルミカム
28953	トルリシティ
15922	トレアキシン
20761	トレシーバ
41228	トレドミン
41229	トレドミンジョウ
12687	トレリーフ
41310	トロキシン
42050	ドロレプタン
M3972	ドンペリドン
N1244	ドンペリン
	ナ
42200	ナイキサン
42201	ナイキサンジョウ
42500	ナウゼリン
42595	ナゼア
M1027	ナゼアOD
42650	ナトリックス
00278	ナファモスタット
11799	ナファモスタットメシルサンエン
42693	ナベルビン

薬剤コード	薬剤名
42709	ナボールSR
42710	ナボールSRカプセル
42740	ナロン
42742	ナロンエース
	ニ
42790	ニコランジル
42800	ニコリン
11063	ニザチジン
42845	ニセルゴリン
42875	ニチファーゲン
42885	ニッケル
42890	ニトラゼパム
42895	ニドラン
42900	ニトロール
43000	ニトロールR
N0947	ニトロールRカプセル
43052	ニトロダーム
43053	ニトロダームTTS
43055	ニトロペン
43064	ニバジール
M3258	ニフェジピン
10626	ニフェジピンCR
12698	ニフェジピンL
43200	ニフラン
43199	ニフランジョウ
43280	ニボラジン
43350	ニホンノウエンワクチン
43450	ニューカイテキZ
43460	ニュウサンカルシウム
43475	ニュウトウ
43473	ニューモバックス
43500	ニューレプチル
43503	ニューロタン
43502	ニューロタンジョウ
43510	ニョシンサン
43550	ニンジンヨウエイトウ
43569	ニンニクランオウ
	ネ
34713	ネイリン
34640	ネイリンカプセル
43610	ネオイスコチン
43605	ネオーラル
43620	ネオドパストン
43625	ネオドパゾール
43629	ネオビタカイン
43630	ネオファーゲン
43650	ネオファーゲンC
43700	ネオフィリン
16716	ネキシウム
M0605	ネクサバール
14491	ネシーナ
08109	ネスプ
06493	ネドリール
43890	ネルボン
43895	ネンプタール(向精神薬)
	ノ
44100	ノアルテンD
44200	ノイエル
44201	ノイエルカプセル
44300	ノイキノン
44420	ノイトロジン

薬剤コード	薬剤名
44550	ノイロトロピン
44560	ノイロビタン
24029	ノウリアスト
43900	ノーシン
43907	ノーシンピュア
43910	ノーシンホワイト
43911	ノーシンホワイトジョウ
M1459	ノーベルバール
39095	ノクサフィル
44570	ノスカピン
44655	ノックビン
44690	ノバミン
16473	ノベルジン
44717	ノボヘパリン(PNK容器)
95832	ノボヘパリンチュウ1000(PNK容器)
44711	ノボラピッド
44726	ノボリン30R
44719	ノボリンN
44724	ノボリンR
44730	ノリトレン
44741	ノルアドレナリン
44745	ノルバスク
44748	ノルバスクジョウ
44750	ノルバデックス
44755	ノルバデックスD
44870	ノルモナール
	ハ
22486	バージェタ
45210	ハーセプチン
45226	ハーフジゴキシン
00933	ハーフジゴキシンKY
00213	ハーフジゴキシンKYジョウ
28306	ハーボニー
48400	パーロデル
46710	バイアグラ
46711	バイアスピリン
46713	バイアスピリン100
46712	バイアスピリンジョウ
46800	バイカロン
45310	ハイシー
46910	バイシリンG
45400	ハイゼット
45500	ハイチオール
45510	ハイチオールC
45550	ハイトラシン
45560	ハイドレア
45561	ハイドレアカプセル
46943	バイナス
45830	ハイペン
45831	ハイペンジョウ
45900	ハイボン
46950	バイミカード
46970	バイロテンシン
48484	パキシル
45922	ハグクミ
47200	バクシダール
47300	バクタ
47340	バクタカリュウ
47302	バクタジョウ
47400	バクトラミン
47414	バクモンドウトウ

麻薬　覚醒剤原料　向精神薬　ヘパリン系薬剤

薬剤コード	薬剤名
48492	パクリタキセル
48496	パシル
48511	パズクロス
48600	パセトシン
48606	パセトシンカプセル
48602	パセトシンサイリュウ
45950	ハチミジオウガン
48650	パチュナ
45975	ハッキン
47750	バップフォー
49000	パナルジン
48905	パナルジンジョウ
47800	バナン
47801	バナンDS
47804	バナンジョウ
47802	バナンドライシロップ
49100	パニマイシン
47831	パファリン
47829	パファリン330
47839	パファリン81
95447	パファリン81MG
47833	パファリンA
01513	パファリンAジョウ
47832	パファリンショウニヨウ
47828	パファリンプラス
49150	パブロン
49158	パブロンS
01354	パブロンSCジョウ
49161	パブロンSゴールド
49164	パブロンSゴールドジョウ
49162	パブロンSゴールドビリュウ
49159	パブロンSジョウ
49148	パブロンエース
49181	パブロンエースカリュウ
49300	パブロンゴールド
08425	パブロンゴールドA
49297	パブロンゴールドビリュウ
49304	パブロンビエンカプセル
00167	パブロンビエンジョウS
45990	ハベカシン
06989	バラクルード
49330	パラジウム
47845	パラシクロビル
47850	パラシリン
49350	パラプラチン
49401	パラミヂン
49460	パリエット
49461	パリエットジョウ
04077	パリキサ
M1810	バルサルタン
46100	ハルシオン
48123	バルトレックス
46105	ハルナール
48125	バルネチール
29736	バルヒディオ
48145	バルプロサン
48149	バルプロサンナトリウム
49522	バルミコート
34570	バルモディア
48180	バレオン
48200	バレリン

薬剤コード	薬剤名
49540	パロキセチン
46500	ハロペリドール
49700	パンクレアチン
46600	ハンゲ
46640	ハンゲコウボクトウ
46650	ハンゲシャシントウ
N0219	ハンゲビャクジュツテンマトウ
48300	パンコマイシン
12144	パンコマイシンエンサンエン
48301	パンコマイシンジョウチュウヨウ
49800	パンスポリン
49803	パンスポリンジョウチュウヨウ
15458	パンテチン
49900	パントシン
49950	パンピタン
46657	ハンプ
	ヒ
01972	ビ.シフロール
95207	ヒアルロンサン
N0220	ヒアルロンサンNA
52361	ピーエイ
52365	ピーエイジョウ
52371	ピーゼットシー
28610	ピートル
50950	ビームゲン
50998	ビオスリー
01970	ビオチアスミンA
51018	ビオチン
51050	ビオフェルミン
51060	ビオフェルミンR
51101	ビカルタミド
51100	ビクシリン
51200	ビクシリンS
51105	ビクシリンカプセル
51104	ビクシリンチュウシャヨウ
19605	ピコスルファートNA
16761	ピコスルファートナトリウム
09642	ビジパーク
52400	ビシバニール
13987	ヒシファーゲン
02027	ビジョンドロップ
04975	ビシリバクタ
50200	ヒスロン
50210	ヒスロンH
25141	ビソノテープ
19762	ビソプロロールフマルサンエン
51600	ビソルボン
16025	ビダーザ
51630	ビタノイリン
51635	ビタミン
51641	ビタミンB
51643	ビタミンB6
51645	ビタミンC
51650	ビタミンE
51700	ビタメジン
50300	ヒダントール
50500	ヒダントールF
52420	ピドキサール
50753	ヒドロクロロチアジド
52424	ピノルビン
N1145	ビバンセカプセル(覚醒剤原料)

薬剤コード	薬剤名
14874	ビビアント
51880	ビビットエース(向精神薬)
50760	ヒビテン
51900	ビブラマイシン
52427	ビペラシリンナトリウム
29837	ビペリデンエンサンエン
50770	ヒベルナ
50775	ヒポカ
30023	ビムパット
94722	ビムロ
52423	ピメノール
07748	ビモベンダン
50800	ヒャクソウガン
50850	ヒューマリンN
50855	ヒューマリンR
50859	ヒューマログ
12264	ヒュミラ
52440	ピラジナミド
M1076	ピラノア
52453	ピラマイド
12806	ピリドキシンエンサンエン
52600	ピリナジン
52700	ピル
20439	ピルシカイニドエンサンエン
50881	ヒルドイド
50900	ヒルナミン
10912	ピレスパ
52800	ピレチア
N0125	ビンゼレックス
	フ
52929	ファーストシン
52931	ファーストシンジョウチュウヨウ
53010	ファスティック
22776	ファボワール
34714	ファムシクロビル
10502	ファムビル
53062	ファモスタジン
53050	ファモチジン
06319	ファモチジンD
53060	ファルモルビシン
53080	ファロム
53081	ファロムジョウ
53093	ファンガード
53100	ファンギゾン
53102	ファンギゾンシロップ
M1085	フィコンパ
14773	フィナステリド
04872	フィニバックス
04566	ブイフェンド
53240	フィルデシン
53295	フェアストン
22168	フェキソフェナジンエンサンエン
53300	フェジン
53575	フェニトイン
53600	フェノバール
53603	フェノバールサン
53604	フェノバールジョウ
53650	フェノバルビタール
53651	フェノバルビタールサン
M1868	フェノフィブラート
23389	フェブキソスタット

薬剤コード	薬剤名
15907	フェブリク
06403	フェマーラ
12391	フェルビナク
53930	フェルム
53931	フェルムカプセル
54000	フェログラデュメット
M1091	フェロベリン
54060	フェロベリンA
54070	フェロミア
54071	フェロミアジョウ
54080	フェロン
54090	フェンタニル(麻薬)
54180	フォイパン
54178	フォサマック
M0690	フォシーガ
95944	フォスブロック
54185	フォリアミン
14790	フォルテオ
55357	ブクリョウ
54210	フサン
55380	ブシラミン
54230	フスコデ
54232	フスコデシロップ
55400	ブスコパン
54290	フスタゾール
39674	ブソフェキ
22865	ブチルスコポラミンシュウカブツ
54400	フトラフール
55660	ブブロン
54548	フメイ
54700	フラグミン(PNK容器)
M0695	ブラケニル
15464	ブラザキサ
54600	フラジール
55800	ブラダロン
56770	ブラノパール
56775	ブラノプロフェン
56785	ブラバスタチンナトリウム
01280	ブラバメイト
54750	フラビタン
05859	ブラビックス
06050	ブラビックスジョウ
54800	フラベリック
16091	フラボキサートエンサンエン
35419	ブラミペキソールエンサンエン
54900	フランドル
54912	フランドルテープS
00272	ブランルカスト
M4091	フリウェル
55900	ブリカニール
14043	ブリディオン
54955	フリバス
M0706	フリバスOD
01277	フリバスジョウ
57200	ブリモボラン
57400	ブリンベラン
57401	ブリンベランジョウ
55000	フルイトラン
56405	ブルーベリー
56403	ブルーベリーアイ
56408	ブルーベリーエキス

麻薬　覚醒剤原料　向精神薬　ヘパリン系薬剤

細胞性免疫検査

DLST薬剤リスト

薬剤コード	薬剤名
55103	フルオレサイト
55108	フルカム
N1576	フルコナゾール
57470	ブルゼニド
57474	ブルゼニドジョウ
56350	ブルタール
55129	フルタイド
55130	フルツロン
55131	フルツロンカプセル
55157	フルニトラゼパム(向精神薬)
14075	フルバスタチン
56400	ブルフェン
56401	ブルフェンジョウ
55190	フルマリン
55193	フルマリンジョウチュウヨウ
55200	フルメジン
55210	フルメトロン
56428	ブレオ
56430	ブレオマイシン
55229	フレカイニド
39732	プレガバリン
57500	プレコール
57507	プレコールジゾクセイカプセル
57696	プレタール
57697	プレタールジョウ
14238	プレタールＯＤ
56450	プレディニン
57800	プレドニゾロン
57801	プレドニゾロンジョウ
57900	プレドニン
58000	プレマリン
07293	プレミネント
18141	プロカインエンサンエン
26325	プロカテロールエンサンエン
58215	プログラフ
58230	プロゲステロン
58235	プロゲストン
58280	プロサイリン
00931	プロジフ
58294	プロスコープ
58300	プロスタール
58301	プロスタールL
38546	プロスタグランジン
58380	プロスタルモンF
58385	プロスタンディン
58403	プロセキソール
55240	フロセミド
58440	プロタミン
58450	プロチアデン
56541	プロチゾラム
56544	プロチンエキ
56570	プロチンコデイン
56548	プロチンコデインエキ
58463	プロテカジン
58493	プロナーゼ
56552	プロニカ
58495	プロノン
58497	プロパジール
56610	プロプレス
56611	プロプレスジョウ
58618	プロペシア

薬剤コード	薬剤名
58600	プロヘパール
58615	プロベラ
55300	フロベン
58620	プロポフォール
58689	プロポリス
58700	プロポリスエキス
N0160	プロマゼパム
58760	プロマック
M0724	プロマックD
58763	プロマックカリュウ
08963	プロムヘキシンエンサンエン
55315	フロモックス
55319	フロモックスDS
55316	フロモックスジョウ
55320	フロモックスショウニヨウサイリュウ
55330	フロリード
58940	プロレナール
	へ
59576	ベイスン
02710	ベイスンOD
35459	ベージニオ
M3241	ベオーバ
61060	ベオン
61063	ベオンジョウ
01147	ベガシス
M1656	ベクティビックス
59750	ベサコリン
59751	ベサコリンサン
59760	ベザトール
59770	ベザトールSR
59771	ベサノイド
N1577	ベザフィブラートSR
06236	ベシケア
59847	ベタセレミン
17126	ベタニス
59865	ベタフェロン
59870	ベタマック
59876	ベタメタゾン
59881	ベック
60030	ベナンバックス
07353	ベニジピンエンサンエン
61250	ベニシリン
61280	ベニシリンG
61300	ベニシリンGカリウム
60049	ベニロン-Ｉ
M3999	ベネクレクスタ
60100	ベネシッド
60149	ベネット
60200	ベネトリン
59120	ヘパリン〈PNK容器〉
59143	ヘパリンNA〈PNK容器〉
59124	ヘパリンカルシウム〈PNK容器〉
59125	ヘパリンナトリウム〈PNK容器〉
59126	ヘパリンナトリウムチュウシャエキ〈PNK容器〉
60550	ペプシド
60551	ペプシドS
60555	ペプリコール
61360	ペプレオ
N0161	ペポタスチンベシルサンエン
61380	ベミラストン
13902	ベミロック〈PNK容器〉

薬剤コード	薬剤名
59156	ヘムテツ
M2424	ベムリディ
13750	ベメトレキセド
59150	ヘモクロン
18234	ベラパミルエンサンエン
60585	ベラプロスト
61530	ベリアクチン
61520	ベリアクチンサン
61600	ベリシット
60600	ベリチーム
60650	ベリリウム
07119	ベルケイド
61700	ベルサンチン
61701	ベルサンチンL
61800	ベルジピン
61810	ベルジピンLA
M0743	ベルソムラ
61820	ベルタゾン(向精神薬)
59400	ヘルベッサー
59402	ヘルベッサー R
59403	ヘルベッサー Rカプセル
61835	ベルマックス
61900	ベレックス
61902	ベレックスカリュウ
60750	ベロテック
61999	ベングッド
60890	ベンコール
60900	ベンザエース
60909	ベンザエースA
60920	ベンザブロック
60936	ベンザブロックIP
60934	ベンザブロックIPジョウ
02656	ベンザブロックL
61000	ベンザリン
60935	ベンズブロマロン
62030	ベンタサ
27693	ベンタサカリュウ
62032	ベンタサジョウ
N0163	ベンタサチュウチョウエキ
62100	ペンタジン(向精神薬)
62200	ベントシリン
62204	ベントシリンチュウシャヤク
62202	ベントシリンチュウシャヨウ
	ホ
63540	ボウイオウギトウ
63531	ボウフウツウショウサン
62550	ホクナリン
62549	ホクナリンテープ
63541	ボグリボース
25962	ボシュリフ
63915	ボステリザン
M1509	ホストイン
62571	ホスホマイシンカルシウム
62575	ホスホマイシンナトリウム
62700	ホスミシン
62750	ホスミシンDS
62800	ホスミシンS
62801	ホスミシンSジョウチュウヨウ
62701	ホスミシンジョウ
62720	ホスミシンドライシロップ
63527	ボスミン

薬剤コード	薬剤名
12353	ホスレノール
62810	ホチュウエッキトウ
06055	ボトレンド
63634	ボナロン
63640	ボニュウ
38685	ボノサップ
11586	ボノテオ
63944	ポビドンヨード
17719	ポプスカイン
62924	ホホエミ
62926	ホホエミミルク
63965	ボラキス
63670	ボラザG
64000	ボララミン
N0162	ボリコナゾール
63200	ホリゾン
64171	ポリフル
64200	ポリミキシンB
63700	ボルタレン
63705	ボルタレンSR
63756	ボルタレンSRカプセル
63752	ボルタレンザザイ
63707	ボルタレンサポ
63750	ボルタレンザヤク
M5677	ボルタレンジョウ
63207	ホルマリン
63900	ボンゾール
64500	ボンタール
64501	ボンタールカプセル
64502	ボンタールサン
64510	ボンタールシロップ
	マ
64600	マーカイン
64602	マーカインチュウ
64790	マーズレン
64800	マーズレンS
64801	マーズレンSカリュウ
64807	マーベロン
64880	マーロックス
64964	マイスタン
64959	マイスリー
65050	マイテラーゼ
65100	マイトマイシン
65101	マイトマイシンC
33440	マヴィレット
65107	マオウトウ
65108	マオウブシサイシントウ
29858	マキサカルシトール
65117	マキシピーム
65143	マキョウカンセキトウ
65126	マグコロール
M1164	マクサルト
10587	マグセント
01035	マグネスコープ
65130	マグネピスト
95821	マグミット
65157	マクロゴール
65134	マシニンガン
65340	マックターゼ
65355	マドパー
01158	マリキナカリュウ

麻薬　覚醒剤原料　向精神薬　ヘパリン系薬剤

薬剤コード	薬剤名
31270	マリゼブ
65680	マルチビタミン
65673	マルチミネラル
65743	マレインサンクロルフェニラミン
65756	マンダコウソ
65752	マンニットール
	ミ
65800	ミオナール
65802	ミオナールジョウ
65920	ミオリラーク
N0257	ミカファンギン
15243	ミカムロ
65923	ミカルディス
01584	ミカルディスカプセル
65992	ミグシス
31880	ミグリトール
66100	ミケラン
02452	ミコシスト
10564	ミコブティン
13011	ミコンビAP
18874	ミコンビBP
66157	ミダゾラム
31044	ミチグリニド
66192	ミドリン
66300	ミニプレス
22118	ミニリンメルト
37254	ミネプロ
66460	ミノサイクリン
22684	ミノサイクリンカプセル
N0258	ミノサイクリンカリュウ
25160	ミノサイクリンジョウ
12062	ミノサイクリンテンテキジョウチュウヨウ
34496	ミノドロンサン
66500	ミノマイシン
66510	ミノマイシンカプセル
66513	ミノマイシンカリュウ
66524	ミノマイシンジョウ
66514	ミノマイシンテンテキジョウチュウヨウ
N1240	ミヤBM
66709	ミヤBMサイリュウ
66710	ミラクリッド
66715	ミラドール
19612	ミラペックス
66730	ミリダシン
66750	ミルク
16862	ミルセラ
12220	ミルタザピン
66754	ミルナシプラン
66763	ミルリーラ
	ム
66778	ムコサール
66785	ムコサールL
66775	ムコスタ
M5241	ムコスタジョウ
66780	ムコソルバン
97976	ムコソルバンDS
66782	ムコソルバンL
01797	ムコソルバンLカプセル
66797	ムコソルバンジョウ
66800	ムコダイン
66904	ムコダインDS
66850	ムコダインサイリュウ
66801	ムコダインジョウ
66803	ムコダインシロップ
66950	ムスイカフェイン
	メ
67014	メイアクト
67012	メイアクトDS
02176	メイアクトMS
06809	メイアクトMSジョウ
67011	メイアクトジョウ
67047	メイアクトショウニヨウサイリュウ
94607	メイジホホエミ
67020	メイセリン
67021	メイラックス
67022	メイロン
67025	メインテート
67030	メキシチール
67040	メキシチールカプセル
09716	メキシレチンエンサンエン
67060	メキタジン
67080	メコバラミン
67130	メサラジン
23785	メサラジンジョウ
38178	メサラジンチュウチョウ
M1932	メサラジンチョウヨウジョウ
67160	メジコン
67161	メジコンサン
00749	メジコンジョウ
67170	メスチノン
67200	メソトレキセート
20273	メタクト
67600	メタルカプターゼ
67650	メチエフ(覚醒剤原料)※1
67700	メチコバール
67721	メチルエルゴメトリン
35473	メトアナ
15751	メトグルコ
68150	メトクロプラミド
68248	メトトレキサート
24069	メトホルミンエンサンエン
M7433	メトホルミンエンサンエンMT
68350	メトリジン
02167	メトレート
68370	メドロール
68550	メネシット
68745	メバロチン
68746	メバロチンジョウ
M2927	メピバカインエンサンエン
68900	メプチン
68905	メプチンミニ
16144	メマリー
36059	メマンチン
69200	メリスロン
69201	メリスロンジョウ
69400	メルカゾール
69401	メルカゾールジョウ
69600	メレックス
69701	メロキシカム
69707	メロペネム
69704	メロペン
69706	メロペンテンテキヨウ
69750	メンドン
	モ
69810	モーバー
69814	モービック
69815	モービックカプセル
69806	モーラステープ
22169	モサプリドクエンサンエン
69840	モダシン
69843	モダシンジョウチュウヨウ
15719	モディオダール(向精神薬)
14418	モルヒネ塩酸塩(麻薬)
M3967	モンテルカスト
	ヤ
15728	ヤーズ
34959	ヤーボイ
70049	ヤクザイA
94651	ヤクザイメイフメイ
70082	ヤズヤノコウズ
	ユ
70265	ユーエフティ
70268	ユーエフティ E
70270	ユーエフティ Eカリュウ
70267	ユーエフティカプセル
14676	ユーシオン
07195	ユーシオンS
00729	ユーゼル
70400	ユーロジン
70500	ユナシン
70501	ユナシンS
70502	ユナシン-S
70515	ユナシンSジョウチュウヨウ
70516	ユナシンSチュウ
70513	ユナシンサイリュウ
70504	ユナシンジョウ
70503	ユナシンチュウシャヤク
07480	ユナスピン
15999	ユニシアHD
70549	ユニフィル
70548	ユニフィルジョウ
70581	ユビデカレノン
70600	ユベラ
70705	ユベラN
70710	ユベラNソフト
70720	ユベラNソフトカプセル
70700	ユベラニコチネート
05806	ユリーフ
28846	ユリーフOD
38359	ユリス
70800	ユリノーム
70783	ユリノームジョウ
	ヨ
70816	ヨウカカリウム
97922	ヨウカカリウムガン
95162	ヨウサン
70803	ヨーデルS
70905	ヨクイニン
	ラ
29571	ライゾデグ
70950	ラキソベロン
70953	ラクツロース
M8217	ラゲブリオ
16530	ラコールNF
71034	ラジカット
71000	ラシックス
71002	ラシックスジョウ
12833	ラジレス
71110	ラステット
71112	ラステットチュウ
37743	ラスビック
38826	ラツーダ
71169	ラックビー
71280	ラニチジン
71300	ラニラピッド
15365	ラビアクタ
00465	ラフチジン
06143	ラベプラゾール
15318	ラベプラゾールナトリウム
71390	ラボナ(向精神薬)
71395	ラボナール
10639	ラミクタール
10798	ラミクタールジョウ
71435	ラミシール
71436	ラミシールジョウ
71600	ラリキシン
29747	ラロキシフェンエンサンエン
N0290	ランオウ
M1897	ランソプラゾール
M3709	ランソプラゾールOD
71650	ランダ
00904	ランタス
71651	ランダチュウ
71700	ランツジール
71749	ランデル
71750	ランデルジョウ
71770	ランドセン
71860	ランパク
71879	ランユ
	リ
30632	リアルダ
71900	リーゼ
19516	リーダイ
72130	リーバクト
72000	リーマス
72001	リーマスジョウ
72180	リウマトレックス
72181	リウマトレックスカプセル
23906	リオナ
16846	リオベル
72190	リオレサール
11891	リカルボン
17301	リクシアナ
33356	リクシアナOD
72300	リザベン
72305	リザベンカプセル
72311	リシノプリル
72316	リスパダール
02081	リスパダールジョウ
01737	リスパダールナイヨウエキ
72420	リスペリドン
72390	リスミー
72395	リズミック
72396	リズミックジョウ

麻薬　覚醒剤原料　向精神薬　ヘパリン系薬剤

細胞性免疫検査

DLST薬剤リスト

薬剤コード	薬剤名
72400	リスモダン
72402	リスモダンR
23370	リセドロン
72530	リゾチーム
72600	リタリン(向精神薬)
72635	リツキサン
96008	リツキシマブ
72650	リックンシトウ
72680	リドカイン
16567	リトドリンエンサンエン
03778	リネゾリド
19138	リパクレオン
72867	リバロ
22189	リバロOD
72866	リバロジョウ
72885	リピオドール
03543	リピディル
72884	リピトール
72879	リピトールジョウ
72900	リファジン
72901	リファジンカプセル
73000	リファンピシン
73008	リファンピシンカプセル
30872	リフキシマ
73010	リブル
12488	リフレックス
M6695	リベルサス
73200	リボトリール
73210	リボバス
73213	リボバスジョウ
73450	リマチル
73453	リマチルジョウ
21187	リマプロストアルファデクス
08464	リマルモン
34663	リムパーザ
73480	リュウカクサン
73500	リュウサンアトロピン
73550	リュウサンアミカシン
73600	リュウサンストレプトマイシン
M8438	リュウサンニッケル
73670	リュープリン
13172	リュープロレリンサクサンエン
14076	リリカ
73770	リルテック
N0303	リルマザホンエンサンエン
73780	リレンザ
39240	リンヴォック
73789	リングルアイビージェルカプセル
73800	リンコシン
73808	リンコデ(麻薬)※2
73860	リンサンコデイン(麻薬)※2
73857	リンサンコデインサン(麻薬)※2
73851	リンサンジヒドロコデイン(麻薬)※2
73880	リンサンピリドキサール
31780	リンゼス
73900	リンデロン
74100	リンラキサー
	ル
74152	ルーラン
74155	ルゴール
74300	ルジオミール

薬剤コード	薬剤名
74319	ルテイン
74325	ルテオニン
74400	ルネトロン
74436	ルブラック
74471	ルフレン
74440	ルボック
74477	ルボックス
74600	ルリッド
74650	ルル
74755	ルルA
74651	ルルAゴールド
74756	ルルAジョウ
	レ
34264	レキサルティ
75100	レキソタン
08869	レキップ
75107	レギュラーミルク
16345	レクサプロ
75130	レクチゾール
75131	レクチゾールジョウ
22026	レグテクト
09361	レグパラ
15104	レザルタスHD
75170	レシカルボン
75300	レジン
75315	レスタス
75320	レスタミン
75325	レスタミンコーワ
75450	レスプレン
75500	レスミット
75520	レスリン
75538	レダコート
75540	レダマイシン
27302	レトロゾール
75650	レトロビル
95912	レナジェル
95965	レナジェルジョウ
75675	レニベース
75677	レニベースジョウ
75714	レバミピド
12139	レバミピドジョウ
14209	レプラミド
75900	レベタン(向精神薬)
16037	レベチラセタム
75885	レベトール
75890	レベニン
37825	レボセチリジンエンサンエン
75980	レボチロキシンNA
75982	レボチロキシンナトリウム
76000	レボトミン
76005	レボフロキサシン
08133	レボホリナート
76010	レボメプロマジン
14975	レボレード
76020	レミカット
00986	レミケード
12522	レミッチ
12798	レメロン
76140	レリフェン
76142	レルパックス
76165	レンドルミン

薬剤コード	薬剤名
01278	レンドルミンD
27029	レンビマ
	ロ
76280	ロイケリン
76282	ロイケリンサン
76290	ロイコボリン
76350	ロイコン
76400	ロイナーゼ
76200	ローコール
76201	ローコールカプセル
76230	ローヘパ(PNK容器)
76253	ローヤルゼリー
76464	ロカイン
76465	ロカルトロール
76467	ロキソニン
76468	ロキソニンジョウ
M6506	ロキソプロフェン
76477	ロキソプロフェンNA
76486	ロキソプロフェンナトリウム
76478	ロキソマリン
76474	ロクシンガン
12343	ロクロニウム
40128	ロケルマ
76498	ロコイド
76500	ロコルナール
19474	ロサルタンK
76503	ロサルタンカリウム
24715	ロサルヒド
36807	ロスーゼット
19595	ロスバスタチン
76515	ロセフィン
76514	ロセフィンジョウチュウヨウ
14443	ロゼレム
76550	ロドピン
20716	ロトリガ
10209	ロナセン
76750	ロピオン
76800	ロヒプノール(向精神薬)
M1825	ロフラゼプサンエチル
76850	ロプレソール
76860	ロペミン
76862	ロペミンカプセル
17934	ロペラミド
76940	ロラゼパム
17513	ロラタジン
76945	ロラメット
76965	ロルカム
76968	ロルカムジョウ
76980	ロレルコ
76988	ロンゲス
25057	ロンサーフ
	ワ
77000	ワーファリン
01033	ワイスタール
77080	ワイテンス
77100	ワイドシリン
77101	ワイドシリンサイリュウ
77200	ワイパックス
77600	ワソラン
77670	ワルファリン
77672	ワルファリンK

薬剤コード	薬剤名
77650	ワンアルファ
M0908	ワントラム

麻薬　覚醒剤原料　向精神薬　ヘパリン系薬剤

DLST薬剤リスト

薬剤コード	薬剤名
アルファベット	
80050	ABPC
80160	AMPC
80250	ATP
80259	AU
80353	BCG
80375	CAM
80400	CCL
80462	CDDP
80800	CEZ
81350	CMZ
81354	CO
81420	CPT-11
81430	CR
81500	CTX
81774	DL-エンサンメチルエフェドリン(覚醒剤原料)※1
N0254	DL-クロルフェニラミンマレインサンエン
81785	DL-マレインサンクロルフェニラミン
11047	DL-メチルエフェドリンエンサンエン(覚醒剤原料)※1
81782	DPT
16984	D-クロルフェニラミンマレインサンエン
95105	D-ソルビトール
81753	D-マレインサンクロルフェニラミン
34363	D-マンニットール
81758	D-マンニトール
81810	EAC
81850	EB
82130	EM
82150	EPA
82163	EPL
82170	EVE
82200	FOY
82292	HBワクチン
82298	HG
82360	INH
82623	LVFX
82500	L-ケフレックス
82675	MA-1
82989	MRA
00396	MRAチュウ(アクテムラ)
82978	MSコンチン(麻薬)
83000	MTX
01607	NAF
83175	NEソフト
83165	NI
83167	NISO4
83248	PA
83247	PAジョウ
83550	PIPC
83600	PL
13245	PLハイゴウカリュウ
83860	PZA
83900	RFP
83921	RTX
02413	SG
13756	SGハイゴウカリュウ
84100	SM
83980	SMサン
84134	SPトローチ
84340	TH
84481	TS-1

薬剤コード	薬剤名
84480	TS-1カプセル
84620	UFT
84625	UFT-E
84626	UFT-Eカリュウ
84621	UFTカプセル
84623	UFTカリュウ
84690	ZN

薬剤コード	薬剤名
数字	
84707	0.5%マーカイン
84810	1%カルボカイン
84828	1%キシロカイン
84835	1%キシロカインポリアンプ
84797	1%ディプリバン
88116	10%フェノバール
84842	2%キシロカイン
84855	2%キシロカインEカートリッジ
84858	2%キシロカインカートリッジ
01400	2%キシロカインポリアンプ
84833	2%シカヨウキシロカイン
84882	3%シタネストオクタプレシン
87000	5-FU

※1：10%まで非覚醒剤原料
※2：1%を超える場合は麻薬扱い

麻薬　覚醒剤原料　向精神薬　ヘパリン系薬剤

染色体検査

先天異常の染色体検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
先天異常の染色体検査	特依	G-Banding 8B200-0000-019-403 倫理指針対象 曜日指定 C-Banding 8B200-0000-019-406 染色体 Q-Banding 8B200-0000-019-404	血液 各3.0（ヘパリン加）	PH5	冷蔵	8～17 21～25	❶2444＋386 ※2	G-band C-band Q-band		凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月～金曜日です。依頼書に臨床診断名および臨床所見などをご記入ください。新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。 ※1
	特依	倫理指針対象 曜日指定 脆弱X染色体（脆弱X症候群） 8B260-0000-019-401	血液 3.0（ヘパリン加）	PH5	冷蔵	15～17	❶2444＋386 ※2	G-bandによる脆弱X染色体の検出		凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月、火、金曜日です。依頼書に臨床診断名および臨床所見などをご記入ください。 ※1
	特依	倫理指針対象 曜日指定 7染色体（ウイリアムス症候群） 8B373-0000-019-841	血液 3.0（ヘパリン加）	PH5	冷蔵	8～11	❷2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月～金曜日です。該当する疾患名にてご依頼ください。本検査は疾患に直接関与する遺伝子を検出する検査ではなく、責任領域の欠失の有無を判断する検査です。新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。 ※1
	特依	倫理指針対象 曜日指定 13染色体 8B430-0000-019-841	血液 3.0（ヘパリン加）	PH5	冷蔵	8～10	❷2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月～金曜日です。新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。 ※1
	特依	倫理指針対象 曜日指定 15染色体（プラダーウイリ症候群） 8B453-0000-019-841	血液 3.0（ヘパリン加）	PH5	冷蔵	9～11	❷2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。片親性ダイソミーの検索はできません。受託可能日は月～金曜日です。該当する疾患名にてご依頼ください。本検査は疾患に直接関与する遺伝子を検出する検査ではなく、責任領域の欠失の有無を判断する検査です。新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。 ※1
	特依	倫理指針対象 曜日指定 15染色体（アンジェルマン症候群） 8B454-0000-019-841	血液 3.0（ヘパリン加）	PH5	冷蔵	9～11	❷2477 ※2	FISH		

❶分染法を行った場合は、分染法加算として、386点を所定点数に加算する。分染法加算については、その種類、方法にかかわらず、1回の算定とする。
❷FISH法を用いた場合については、患者1人につき1回に限り算定できる。ただし、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫又は多発性骨髄腫の診断の目的で検査を行った場合に、患者の診断の確定までの間に3回に限り算定する。

倫理指針対象 （12ページ参照）

染色体検査のご提出について

検体は採取後、当日中にご提出ください。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
先天異常の染色体検査	特依	倫理指針対象 曜日指定 18染色体 8B480-0000-019-841	血液 3.0 （ヘパリン加）	PH5	冷蔵	8～10	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。 ※1
	特依	倫理指針対象 曜日指定 21染色体 8B510-0000-019-841	血液 3.0 （ヘパリン加）	PH5	冷蔵	8～10	❶2477 ※2	FISH		
	特依	倫理指針対象 曜日指定 22染色体 (22q11.2欠失症候群)〔FISH〕 8B523-0000-019-841	血液 3.0 （ヘパリン加）	PH5	冷蔵	9～11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 該当する疾患名にてご依頼ください。 本検査は疾患に直接関与する遺伝子を検出する検査ではなく、責任領域の欠失の有無を判断する検査です。 新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。※1
	特依	倫理指針対象 曜日指定 X染色体 8B530-0000-019-841	血液 3.0 （ヘパリン加）	PH5	冷蔵	8～10	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。※1
	特依	倫理指針対象 曜日指定 Y染色体 8B540-0000-019-841	血液 3.0 （ヘパリン加）	PH5	冷蔵	8～10	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。※1
	特依	倫理指針対象 曜日指定 Y染色体 (睾丸決定遺伝子*SRY*) 8B543-0000-019-841	血液 3.0 （ヘパリン加）	PH5	冷蔵	8～11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 依頼書に臨床診断名および臨床所見などをご記入ください。 新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。※1
	特依	倫理指針対象 曜日指定 X,Y染色体 (身長関連遺伝子*SHOX*) 8B551-0000-019-841	血液 3.0 （ヘパリン加）	PH5	冷蔵	8～11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 依頼書に臨床診断名および臨床所見などをご記入ください。 新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。※1

❶FISH法を用いた場合については、患者1人につき1回に限り算定できる。ただし、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫又は多発性骨髄腫の診断の目的で検査を行った場合に、患者の診断の確定までの間に3回に限り算定する。

倫理指針対象 （12ページ参照）

染色体検査のご提出について

検体は採取後、当日中にご提出ください。



染色体検査

白血病や悪性リンパ腫の染色体検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
白血病や悪性リンパ腫の染色体検査	特依	曜日指定 染色体 G-Banding	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	9~15	❶2444+386 ※2	G-band		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は(血液、骨髄液共に)月~金曜日です。 該当する疾患名にてご依頼ください。 対象疾患名は下記をご参照ください。 判定に時間を要する場合は、所要日数が20日前後となります。 ※1
			血液 5.0 (ヘパリン加)	PH5						
	特依	曜日指定 *ALK* 2p23転座 8B323-0000-220-841 8B323-0000-046-841 8B323-0000-019-841	リンパ節 5×5×5mm	H00	冷蔵	8~11	❷2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月~金曜日です。 ※1
			骨髄液 1.0							
			血液 5.0 (ヘパリン加)	PH5						
	特依	曜日指定 *IGH::FGFR3* t(4;14)転座 8B344-0000-046-841 8B344-0000-019-841	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	8~11	❷2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月~金曜日です。 ※1
			血液 5.0 (ヘパリン加)	PH5						
	特依	曜日指定 *FIP1L1::PDGFRA* del(4)長腕欠失(4q12欠失) 8B345-0000-046-841 8B345-0000-019-841	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	8~11	❷2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月~金曜日です。 ※1
			血液 5.0 (ヘパリン加)	PH5						
	特依	曜日指定 *CSF1R* del(5)長腕欠失 8B354-0000-046-841 8B354-0000-019-841	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	8~11	❷2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月~金曜日です。 CSF1レセプターを指標として5q-を検出します。 ※1
			血液 5.0 (ヘパリン加)	PH5						

❶分染法を行った場合は、分染法加算として、386点を所定点数に加算する。分染法加算については、その種類、方法にかかわらず、1回の算定とする。
❷FISH法を用いた場合については、患者1人につき1回に限り算定できる。ただし、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫又は多発性骨髄腫の診断の目的で検査を行った場合に、患者の診断の確定までの間に3回に限り算定する。

染色体検査のご提出について

検体は採取後、当日中にご提出ください。

血液疾患染色体検査(G-Banding)の留意事項

1.G-bandingの判定には、性別情報が必要なため、性別を必ず依頼書にご記入ください。
また骨髄移植後にG-bandingをご依頼の場合にも、ドナー性別を必ず依頼書にご記入ください。
2.骨髄染色体検査には有核細胞1000万個(1×10^7個)が必要です。この量を充分満たすように骨髄液を無菌的に採取してください。
(これは骨髄の有核細胞数が10万個/μLの場合の骨髄液0.1mL、1万個/μLの場合の骨髄液1mLに相当します)
3.ステロイド系薬剤、アルキル化薬剤、および代謝拮抗薬剤の投与中は染色体分裂像が得られず検査ができない場合があります。
4.末梢血液でご依頼の際、血中に幼若細胞(blast)の出現がみられない場合、また寛解期患者の血液では染色体分裂像が得られず検査ができない場合があります。

血液疾患染色体G-Bandingの対象疾患名

・該当する疾患名にてご依頼ください。

Myeloid系	
疾患名	
MDS(骨髄異形成症候群)	8B220-0000-046-403 8B220-0000-019-403
MPN(骨髄増殖性腫瘍)	8B220-0000-046-403 8B220-0000-019-403
AML(急性骨髄性白血病)	8B220-0000-046-403 8B220-0000-019-403
BMT(骨髄移植)ドナー男性	8B220-0000-046-403 8B220-0000-019-403
BMT(骨髄移植)ドナー女性	8B220-0000-046-403 8B220-0000-019-403
その他	8B220-0000-046-403 8B220-0000-019-403

Lymphoid系	
疾患名	
ALL(急性リンパ性白血病)	8B220-0000-046-403 8B220-0000-019-403
CLL(慢性リンパ性白血病)	8B220-0000-046-403 8B220-0000-019-403
ML(悪性リンパ腫)	8B220-0000-046-403 8B220-0000-019-403
MM/PL(多発性骨髄腫/形質細胞性白血病)	8B220-0000-046-403 8B220-0000-019-403
その他	8B220-0000-046-403 8B220-0000-019-403

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
白血病や悪性リンパ腫の染色体検査	特依	曜日指定 *PDGFRB* 5q32転座 8B357-0000-046-841 8B357-0000-019-841	骨髄液 1.0 血液 5.0(ヘパリン加)	H00 PH5	冷蔵	8~11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
	特依	曜日指定 D7S486 del(7)長腕欠失／ 7染色体(7モノソミー) 8B374-0000-046-841 8B374-0000-019-841	骨髄液 1.0 血液 5.0(ヘパリン加)	H00 PH5	冷蔵	8~11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
	特依	曜日指定 8染色体 8B380-0000-046-841 8B380-0000-019-841	骨髄液 1.0 血液 5.0(ヘパリン加)	H00 PH5	冷蔵	8~11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
	特依	曜日指定 *MYC* 8q24転座 8B383-0000-220-841 8B383-0000-046-841 8B383-0000-019-841	リンパ節 5×5×5mm 骨髄液 1.0 血液 5.0(ヘパリン加)	H00 PH5	冷蔵	8~11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
	特依	曜日指定 *IGH::MYC* t(8;14)転座 8B384-0000-220-841 8B384-0000-046-841 8B384-0000-019-841	リンパ節 5×5×5mm 骨髄液 1.0 血液 5.0(ヘパリン加)	H00 PH5	冷蔵	8~11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
	特依	曜日指定 *RUNX1::RUNX1T1* t(8;21)転座 8B385-0000-046-841 8B385-0000-019-841	骨髄液 1.0 血液 5.0(ヘパリン加)	H00 PH5	冷蔵	8~11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
	特依	曜日指定 *BCR::ABL1* t(9;22)転座 8B395-0000-046-841 8B395-0000-019-841	骨髄液 1.0 血液 5.0(ヘパリン加)	H00 PH5	冷蔵	8~11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
	特依	曜日指定 末梢血好中球 *BCR::ABL1* t(9;22)転座 8B396-0000-019-841	血液 5.0(ヘパリン加)	PH5	冷蔵	8~11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 血液は採血後、速やかにご提出ください。 採血後30時間以上経過した血液を使用した場合、細胞の形態的変化により、判定に影響がでる場合があるため検査できません。 ※1

❶FISH法を用いた場合については、患者1人につき1回に限り算定できる。ただし、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫又は多発性骨髄腫の診断の目的で検査を行った場合に、患者の診断の確定までの間に3回に限り算定する。

染色体検査のご提出について

検体は採取後、当日中にご提出ください。



染色体検査

白血病や悪性リンパ腫の染色体検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
白血病や悪性リンパ腫の染色体検査	特依	曜日指定 *IGH*::*CCND1* t(11;14)転座 8B414-0000-220-841 8B414-0000-046-841 8B414-0000-019-841	リンパ節 5×5×5mm	H00	冷蔵	8～11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
			骨髄液 1.0							
			血液 5.0（ヘパリン加）	PH5						
	特依	曜日指定 *BIRC3*::*MALT1* t(11;18)転座 8B416-0000-220-841 8B416-0000-046-841 8B416-0000-019-841	リンパ節 5×5×5mm	H00	冷蔵	8～11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。胃生検材料の場合は、5個以上をH00の容器1本に入れてご提出ください。 ※1
			骨髄液 1.0							
			血液 5.0（ヘパリン加）	PH5						
	特依	曜日指定 12染色体 8B420-0000-046-841 8B420-0000-019-841	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	8～11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
			血液 5.0（ヘパリン加）	PH5						
	特依	曜日指定 *IGH*::*BCL2* t(14;18)転座 8B443-0000-220-841 8B443-0000-046-841 8B443-0000-019-841	リンパ節 5×5×5mm	H00	冷蔵	8～11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
			骨髄液 1.0							
			血液 5.0（ヘパリン加）	PH5						
	特依	曜日指定 *IGH*::*MAF* t(14;16)転座 8B445-0000-046-841 8B445-0000-019-841	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	8～11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
			血液 5.0（ヘパリン加）	PH5						
	特依	曜日指定 *PML*::*RARA* t(15;17)転座 8B455-0000-046-841 8B455-0000-019-841	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	7～10	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
			血液 5.0（ヘパリン加）	PH5						
	特依	曜日指定 *CBFB* inv(16)逆位、 t(16;16)転座 8B463-0000-046-841 8B463-0000-019-841	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	8～11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
			血液 5.0（ヘパリン加）	PH5						
	特依	曜日指定 *TP53* del(17)短腕欠失 8B475-0000-046-841 8B475-0000-019-841	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	8～11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
			血液 5.0（ヘパリン加）	PH5						

❶FISH法を用いた場合については、患者1人につき1回に限り算定できる。ただし、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫又は多発性骨髄腫の診断の目的で検査を行った場合に、患者の診断の確定までの間に3回に限り算定する。

染色体検査のご提出について

検体は採取後、当日中にご提出ください。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
白血病や悪性リンパ腫の染色体検査	特依	曜日指定 del(20)長腕欠失 8B503-0000-046-841 8B503-0000-019-841	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	8~11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
			血液 5.0（ヘパリン加）	PH5						
	特依	曜日指定 X染色体 8B530-0000-046-841 8B530-0000-019-841	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	8~11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
			血液 5.0（ヘパリン加）	PH5						
	特依	曜日指定 Y染色体 8B540-0000-046-841 8B540-0000-019-841	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	8~11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
			血液 5.0（ヘパリン加）	PH5						
	特依	曜日指定 異性間BMT(骨髄移植)(X,Y染色体) 8B550-0000-046-841 8B550-0000-019-841	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	7~11	❶2477 ※2	FISH		凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 ※1
			血液 5.0（ヘパリン加）	PH5						

❶FISH法を用いた場合については、患者1人につき1回に限り算定できる。ただし、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫又は多発性骨髄腫の診断の目的で検査を行った場合に、患者の診断の確定までの間に3回に限り算定する。

染色体検査のご提出について

検体は採取後、当日中にご提出ください。



遺伝子関連検査

造血器腫瘍遺伝子検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
造血器腫瘍遺伝子検査	特依	*FLT3*/ITD 変異解析 8C071-9951-046-851 8C071-9951-019-851	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	9~13	❶❷ 2100 ※2	PCR	ITD変異認めず	重 凍 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN2 PN5						
	特依	*FLT3*変異解析 ITD/TKD 8C071-0000-046-955 8C071-0000-019-955	骨髄液 1.0	H00	冷蔵 (7日)	6~10	❶❸ 4200 ※2	PCR-キャピラリー電気泳動法	陰性	重 凍 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 本検査は、EDTA-2Na入り採血管(PN5)によるご提出も可能です。 ※1
			血液 5.0 (ヘパリン加)	PH5						
	特依	*JAK2*V617F 遺伝子変異解析 8C491-9951-019-859	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN2 PN5	冷蔵 (3日)	6~10	❶❹ 2504 ※2	アレル特異的定量PCR (リアルタイムPCR)	陰性 1.000以下 (%)	重 凍 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
	特依	曜日指定 白血病キメラスクリーニング(定量)	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	5~7	❶❷ 2100 ※2	RT-PCR (リアルタイムPCR)	(コピー/μgRNA)	重 凍 14項目のセット項目です。凍結保存は避けてください。受託可能日は月~金曜日です。検体採取後、速やかにご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			血液 7.0 (EDTA-2Na加)	PN7						
	特依	曜日指定 *WT1* mRNA定量 8C505-9911-019-875 8C505-9911-046-875	血液 7.0 (EDTA-2Na加)	PN7	冷蔵	5~7	❺ 2520 ※2	RT-PCR (リアルタイムPCR)	(コピー/μgRNA)	重 凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月~金曜日です。 検体採取後、速やかにご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			骨髄液 1.0	H00						

❶「悪性腫瘍遺伝子検査」、「造血器腫瘍遺伝子検査」、「免疫関連遺伝子再構成」、「FLT3遺伝子検査」又は「JAK2遺伝子検査」のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。
❷「造血器腫瘍遺伝子検査」は、PCR法、LCR法又はサザンブロット法により行い、月1回を限度として算定できる。
❸FLT3遺伝子検査は、急性骨髄性白血病(急性前骨髄性白血病を除く。)の骨髄液又は末梢血を検体とし、PCR法及びキャピラリー電気泳動法により、抗悪性腫瘍剤による治療法の選択を目的として、FLT3遺伝子の縦列重複(ITD)変異及びチロシンキナーゼ(TKD)変異の評価を行った場合に、原則として患者1人につき1回に限り算定する。ただし、再度治療法を選択する必要がある場合には、さらに1回に限り算定できる。なお、この場合においては、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
❹「JAK2遺伝子検査」は、骨髄液又は末梢血を検体とし、アレル特異的定量PCR法により、真性赤血球増加症、本態性血小板血症及び原発性骨髄線維症の診断補助を目的として、JAK2 V617F遺伝子変異割合を測定した場合に、患者1人につき1回に限り算定する。
❺「WT1 mRNA」は、リアルタイムRT-PCR法により、急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病又は骨髄異形成症候群の診断の補助又は経過観察時に行った場合に月1回を限度として算定できる。

造血器腫瘍遺伝子検査のご提出について

検体は採取後、当日中にご提出ください。

*FLT3*変異解析ITD/TKDの判定基準

*FLT3*変異解析		ITD SIGNAL RATIO	
		0.05未満	0.05以上
TKD SIGNAL RATIO	0.05未満	陰性	陽性
	0.05以上	陽性	陽性

白血病キメラスクリーニング(定量)

項目名	キメラmRNA遺伝子
白血病キメラスクリーニング(定量)	Major *BCR*::*ABL1*、minor *BCR*::*ABL1*、*PML*::*RARA*、*RUNX1*::*RUNX1T1*、*CBFB*::*MYH11*、*DEK*::*NUP214*、*NUP98*::*HOXA9*、*ETV6*::*RUNX1*、*TCF3*::*PBX1*、*STIL*::*TAL1*、*KMT2A*::*AFF1*、*KMT2A*::*AFDN*、*KMT2A*::*MLLT3*、*KMT2A*::*MLLT1*

WT1 mRNA定量

受託数の増減により、所要日数が変わる場合がございます。予めご了承ください。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
造血器腫瘍遺伝子検査	特依	曜日指定 Major *BCR::ABL1* mRNA定量 8C125-9962-046-875	骨髄液 1.0	H00	冷蔵（1日）	4～6	❶❷ 2100 ※2	RT-PCR（リアルタイムPCR）	キメラmRNAを検出せず（コピー／μgRNA）	重 凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月～金曜日です。検体採取後、速やかにご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
	特依	曜日指定 Major *BCR::ABL1* mRNA(IS) 8C125-9962-019-875	血液 7.0（EDTA-2Na加）	PN7	冷蔵（1日）	5～7	2520 ※2	RT-PCR（リアルタイムPCR）		重 凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月～金曜日です。検体採取後、速やかにご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
	特依	曜日指定 Major *BCR::ABL1* mRNA定性 8C125-9961-019-867 8C125-9961-046-867	血液 7.0（EDTA-2Na加）	PN7	冷蔵	7～10	❶❷ 2100 ※2	RT-PCR	キメラmRNAを検出せず	重 凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月～金曜日です。検体採取後、速やかにご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			骨髄液 1.0	H00						
	特依	曜日指定 Major *BCR::ABL1* ABL1変異解析 8C125-9951-046-848 8C125-9951-019-848	骨髄液 1.0	H00	冷蔵（1日）	11～15		ダイレクトシーケンス法		重 凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月～金曜日です。検体採取後、速やかにご提出ください。本検査はMajor *BCR::ABL1*における*ABL1*領域codon 115-486を解析します。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			血液 7.0（EDTA-2Na加）	PN7						

❶「悪性腫瘍遺伝子検査」、「造血器腫瘍遺伝子検査」、「免疫関連遺伝子再構成」、「FLT3遺伝子検査」又は「JAK2遺伝子検査」のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。
❷「造血器腫瘍遺伝子検査」は、PCR法、LCR法又はサザンブロット法により行い、月1回を限度として算定できる。

造血器腫瘍遺伝子検査のご提出について

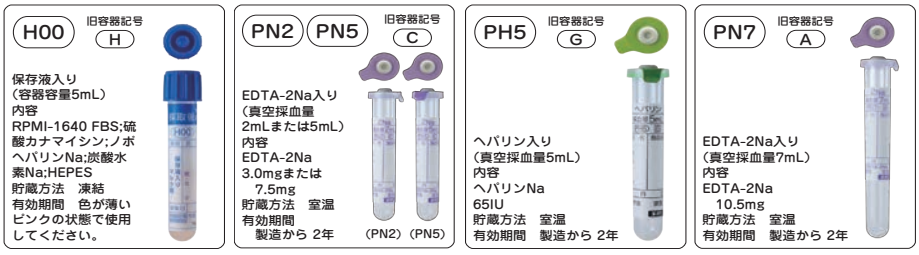
検体は採取後、当日中にご提出ください。

Major *BCR::ABL1* mRNA(IS)

受託数の増減により、所要日数が変わる場合がございます。あらかじめご了承ください。

Major *BCR::ABL1* ABL1変異解析

ご提出にあたっては、必ずキメラ遺伝子の存在をご確認のうえ、本項目をご依頼ください。



遺伝子関連検査

造血器腫瘍遺伝子検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
造血器腫瘍遺伝子検査	特依	曜日指定 minor *BCR::ABL1* mRNA定量 8C127-9962-046-875 8C127-9962-019-875	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	4～6	❶❷ 2100 ※2	RT-PCR（リアルタイムPCR）	キメラmRNAを検出せず（コピー／μgRNA）	凍 凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 検体採取後、速やかにご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			血液 7.0（EDTA-2Na加）	PN7						
	特依	曜日指定 minor *BCR::ABL1* mRNA定性 8C127-9961-019-867 8C127-9961-046-867	血液 7.0（EDTA-2Na加）	PN7	冷蔵	7～10	❶❷ 2100 ※2	RT-PCR	キメラmRNAを検出せず	凍 凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 検体採取後、速やかにご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			骨髄液 1.0	H00						
	特依	曜日指定 minor *BCR::ABL1* ABL1変異解析 8C127-9951-046-848 8C127-9951-019-848	骨髄液 1.0	H00	冷蔵（1日）	11～15		ダイレクトシーケンス法		凍 凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。 検体採取後、速やかにご提出ください。本項目はminor *BCR::ABL1* における*ABL1*領域codon 115-486を解析します。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			血液 7.0（EDTA-2Na加）	PN7						

❶「悪性腫瘍遺伝子検査」、「造血器腫瘍遺伝子検査」、「免疫関連遺伝子再構成」、「FLT3遺伝子検査」又は「JAK2遺伝子検査」のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。
❷「造血器腫瘍遺伝子検査」は、PCR法、LCR法又はサザンブロット法により行い、月1回を限度として算定できる。

造血器腫瘍遺伝子検査のご提出について

検体は採取後、当日中にご提出ください。

minor *BCR::ABL1* ABL1変異解析

ご提出にあたっては、必ずキメラ遺伝子の存在をご確認のうえ、本項目をご依頼ください。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
造血器腫瘍遺伝子検査	特依	曜日指定 *PML::RARA* mRNA定量 8C421-9962-046-875 8C421-9962-019-875	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	5～7	❶❷ 2100 ※2	RT-PCR（リアルタイムPCR）	キメラmRNAを検出せず（コピー／μgRNA）	重 凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。検体採取後、速やかにご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			血液 7.0（EDTA-2Na加）	PN7						
	特依	曜日指定 *PML::RARA* mRNA定性 8C421-9961-046-867 8C421-9961-019-867	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	7～10	❶❷ 2100 ※2	RT-PCR	キメラmRNAを検出せず	重 凍 凍結保存は避けてください。 受託可能日は月～金曜日です。検体採取後、速やかにご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			血液 7.0（EDTA-2Na加）	PN7						
	特依	曜日指定 *CBFB::MYH11* mRNA定量 8C425-9962-046-875 8C425-9962-019-875	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	5～7	❶❷ 2100 ※2	RT-PCR（リアルタイムPCR）	キメラmRNAを検出せず（コピー／μgRNA）	重 凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月～金曜日です。検体採取後、速やかにご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			血液 7.0（EDTA-2Na加）	PN7						
	特依	曜日指定 *RUNX1::RUNX1T1* mRNA定量 8C428-9962-046-875 8C428-9962-019-875	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	5～7	❶❷ 2100 ※2	RT-PCR（リアルタイムPCR）	キメラmRNAを検出せず（コピー／μgRNA）	重 凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月～金曜日です。検体採取後、速やかにご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			血液 7.0（EDTA-2Na加）	PN7						
	特依	曜日指定 *RUNX1::RUNX1T1* mRNA定性 8C428-9961-046-867 8C428-9961-019-867	骨髄液 1.0	H00	冷蔵	7～10	❶❷ 2100 ※2	RT-PCR	キメラmRNAを検出せず	重 凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月～金曜日です。検体採取後、速やかにご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			血液 7.0（EDTA-2Na加）	PN7						

❶「悪性腫瘍遺伝子検査」、「造血器腫瘍遺伝子検査」、「免疫関連遺伝子再構成」、「FLT3遺伝子検査」又は「JAK2遺伝子検査」のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。
❷「造血器腫瘍遺伝子検査」は、PCR法、LCR法又はサザンブロット法により行い、月1回を限度として算定できる。

造血器腫瘍遺伝子検査ご提出について

検体は採取後、当日中にご提出ください。



白血病キメラ遺伝子検査の利用手引き

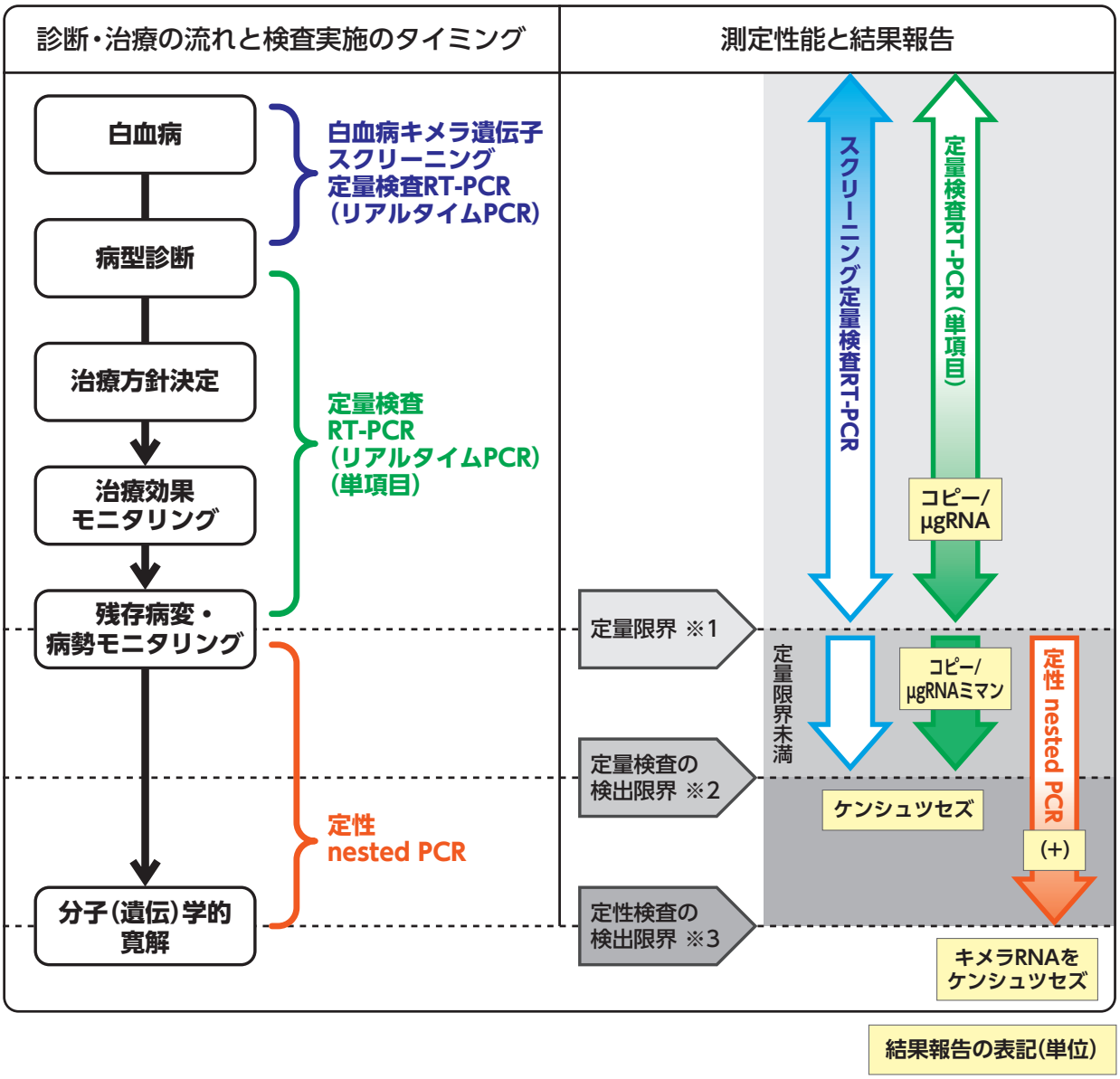
白血病キメラ遺伝子検査の利用手引き

スクリーニング	ポイント	白血病疑いの初診時(高発現時)に用いるスクリーニング検査です。白血病キメラ遺伝子を検出いたします。 キメラmRNAを検出した場合は、検出されたキメラmRNAの「コピー数/μgRNA」を報告いたします。 治療のモニタリングは、スクリーニング検査で検出されたキメラ遺伝子の定量および定性の単項目のご依頼をお願いいたします。 本検査試薬は自家調製です。
	性能	定量限界(最小報告値)は50コピー/μgRNAです。
	該当項目	白血病キメラスクリーニング(定量) 項目構成(下記14項目) Major *BCR*::*ABL1*、minor *BCR*::*ABL1*、*PML*::*RARA*、*RUNX1*::*RUNX1T1*、*CBFB*::*MYH11*、*DEK*::*NUP214*、*NUP98*::*HOXA9*、*ETV6*::*RUNX1*、*TCF3*::*PBX1*、*STIL*::*TAL1*、*KMT2A*::*AFF1*、*KMT2A*::*AFDN*、*KMT2A*::*MLLT3*、*KMT2A*::*MLLT1*
定量 (リアルタイムPCR)	ポイント	治療のモニタリングに用いる検査です。 報告値は、「キメラmRNA補正値(コピー数/μgRNA)」、「キメラmRNA実測値(コピー数/μgRNA)」、「*GAPDH*(内部標準)実測値(コピー数/μgRNA)」です。 定量限界未満の報告 ■50コピー/μgRNA未満 ■検出せず(本測定系の検出限界未満) 検出せず(本測定系の検出限界未満)と判定された場合でも、各種キメラ遺伝子の存在を否定するものではありません。臨床診断においては、他の検査結果や臨床所見と合わせて総合的に判断してください。 本検査試薬は自家調製です。
	性能	定量限界(最小報告値)は50コピー/μgRNAです。
	該当項目	Major *BCR*::*ABL1*mRNA定量 minor *BCR*::*ABL1*mRNA定量 *PML*::*RARA* mRNA定量 *CBFB*::*MYH11* mRNA定量 *RUNX1*::*RUNX1T1* mRNA定量
定性 (nested PCR)	ポイント	治療のモニタリングおよび再発のモニタリングに用いる検査です。 各種キメラmRNAを高感度に検出することができます。 報告値は「キメラmRNAを検出せず」「検出しました」です。 ※定性検査においても、検出限界はあるため、「検出せず」となった場合でも完全にMRDを否定するものではありません。 本検査試薬は自家調製です。
	性能	検出限界は10コピー/μgRNAです。
	該当項目	Major *BCR*::*ABL1*mRNA定性 minor *BCR*::*ABL1*mRNA定性 *PML*::*RARA* mRNA定性 *RUNX1*::*RUNX1T1* mRNA定性

白血病の診断・治療と遺伝子検査の流れ及び測定性能について

白血病は白血病細胞が無秩序に増加する疾患であり、白血病の病型によって白血病細胞に特徴的なキメラ遺伝子が発現しています。診断にはキメラ遺伝子の発現の有無を確認すること、また治療効果判定には高感度な測定方法を選択することが重要です。

【留意事項】
- 白血病キメラ遺伝子によってはバリアントが存在し、検出できない場合があります。
- 検体の性状（治療後で少ない細胞数など）によっては、低値または偽陰性の結果となる場合があります。
- 白血病キメラ遺伝子定量検査における定量限界未満の確認検査として定性nested PCRをお勧めしています。
- 自家調製試薬を用いた白血病キメラ遺伝子については、施設間差・測定方法間差が認められています。ご利用にあたってはご留意ください。



※1　定量検査（RT-PCR）において定量が可能な最小濃度を示します。
※2　定量検査（RT-PCR）において定量範囲外（定量限界未満）である一方、PCRシグナルが信頼性をもって検出できる限界を示します。
※3　定性検査（nested PCR）において電気泳動バンドが信頼性をもって確認（検出）できる限界を示します。

監修：新渡戸文化短期大学 教授・学長/東海大学 名誉教授　宮地 勇人

造血器腫瘍関連項目一覧(FISH・遺伝子)

検出対象		FISH	遺伝子	主な対象疾患								
				骨髄性				リンパ性				他
染色体	遺伝子	検査項目	検査項目	MPN	CML	MDS	AML	ALL	CLL	ML	MM	BMT
t(9;22)(q34.1;q11.2)	*BCR::ABL1*	*BCR::ABL1* t(9;22)転座	Major *BCR::ABL1* mRNA定量		●			●				
			Major *BCR::ABL1* mRNA(IS)		●							
			Major *BCR::ABL1* mRNA(%)					●				
			Major *BCR::ABL1* mRNA定性		●			●				
			Major *BCR::ABL1* ABL1変異解析		●			●				
			minor *BCR::ABL1* mRNA定量		●			●				
			minor *BCR::ABL1* mRNA定性		●			●				
			minor *BCR::ABL1* ABL1変異解析		●			●				
			minor *BCR::ABL1* mRNA(%)					●				
			micro *BCR::ABL1* mRNA定性		●			●				
		末梢血好中球 *BCR::ABL1* t(9;22)転座			●							
4q12欠失/転座	*FIP1L1::PDGFRA*	*FIP1L1::PDGFRA* del(4)長腕欠失(4q12欠失)		●								
5q32転座	*PDGFRB* rearranged	*PDGFRB* 5q32転座		●								
8p11.2転座	*FGFR1* rearranged	*FGFR1* 8p11.2転座		●								
-7/del(7q)/7q-		D7S486 del(7)長腕欠失/7染色体(7モノソミー)				●	●					
del(5q)/5q-		*CSF1R* del(5)長腕欠失				●						
		EGR1 del(5)長腕欠失				●						
+8		8染色体		●		●	●					
del(13q-)/13q-		D13S319 del(13)長腕欠失				●			●		●	
i(17q)/del(17p)/17p-		*TP53* del(17)短腕欠失		●	●	●			●		●	
del(20q)/20q-		del(20)長腕欠失		●		●						
t(8;21)(q22;q22.1)	*RUNX1::RUNX1T1*	*RUNX1::RUNX1T1* t(8;21)転座	*RUNX1::RUNX1T1* mRNA定量				●					
			RUNX1::RUNX1T1 mRNA定性				●					
inv(16)(p13.1q22) or t(16;16)(p13.1;q22)	*CBFB::MYH11*	*CBFB* inv(16)逆位、t(16;16)転座	*CBFB::MYH11* mRNA定量				●					
			CBFB::MYH11 mRNA定性				●					
t(15;17)(q24.1;q21.2)	*PML::RARA*	*PML::RARA* t(15;17)転座	*PML::RARA* mRNA定量				●					
			PML::RARA mRNA定性				●					
11q23.3転座	*KMT2A* rearranged	*KMT2A* 11q23.3転座					●	●				
t(4;11)(q21;q23.3)	*KMT2A::AFF1*		*KMT2A::AFF1* mRNA定量				●	●				
			KMT2A::AFF1 mRNA定性				●	●				
t(6;11)(q27;q23.3)	*KMT2A::AFDN*		*KMT2A::AFDN* mRNA定量				●	●				
			KMT2A::AFDN mRNA定性				●	●				
t(9;11)(p21.3;q23.3)	*KMT2A::MLLT3*		*KMT2A::MLLT3* mRNA定量				●					
			KMT2A::MLLT3 mRNA定性				●					
t(11;19)(q23.3;p13.3)	*KMT2A::MLLT1*		*KMT2A::MLLT1* mRNA定量				●	●				
			KMT2A::MLLT1 mRNA定性				●	●				
t(6;9)(p23;q34.1)	*DEK::NUP214*		*DEK::NUP214* mRNA定量				●					
			DEK::NUP214 mRNA定性				●					
inv(3)(q21.3q26.2)or t(3;3)(q21.3;q26.2)	*GATA2::MECOM*	*GATA2::MECOM* inv(3)逆位,t(3;3)転座			●	●	●					

造血器腫瘍関連項目一覧(FISH・遺伝子)

検出対象		FISH	遺伝子	主な対象疾患								
				骨髄性				リンパ性				他
染色体	遺伝子	検査項目	検査項目	MPN	CML	MDS	AML	ALL	CLL	ML	MM	BMT
11p15転座	*NUP98* rearranged	*NUP98* 11p15転座					●	●				
t(7;11)(p15;p15)	*NUP98*::*HOXA9*		*NUP98*::*HOXA9* mRNA定量				●					
t(3;21)(q26.2;q22.1)	*RUNX1*::*MECOM*		*RUNX1*::*MECOM* mRNA定性			●	●					
t(12;21)(p13.2;q22.1)	*ETV6*::*RUNX1*	*ETV6*::*RUNX1* t(12;21)転座	*ETV6*::*RUNX1* mRNA定量					●				
			ETV6::*RUNX1* mRNA定性					●				
t(1;19)(q23;p13.3) or der(19)t(1;19)(q23;p13.3)	*TCF3*::*PBX1*	*TCF3*::*PBX1* t(1;19)転座	*TCF3*::*PBX1* mRNA定量					●				
			TCF3::*PBX1* mRNA定性					●				
del(1p32)/1p-	*STIL*::*TAL1*		*STIL*::*TAL1* mRNA定量					●				
del(11q)/11q-	*ATM*	*ATM* del(11)長腕欠失							●			
+12		12染色体							●			
t(11;14)(q13;q32)	*IGH*::*CCND1*	*IGH*::*CCND1* t(11;14)転座							●	●	●	
t(4;14)(p16;q32)	*IGH*::*FGFR3*	*IGH*::*FGFR3* t(4;14)転座									●	
t(14;16)(q32;q23)	*IGH*::*MAF*	*IGH*::*MAF* t(14;16)転座									●	
1q21領域の増幅(Amp1q21)		*CKS1B* 1q21 増幅									●	
t(11;18)(q21;q21)	*BIRC3*::*MALT1*	*BIRC3*::*MALT1* t(11;18)転座								●		
18q21転座	*MALT1 rearranged*	*MALT1* 18q21転座								●		
t(14;18)(q32;q21)	*IGH*::*BCL2*	*IGH*::*BCL2* t(14;18)転座								●		
18q21転座	*BCL2* rearranged	*BCL2* 18q21転座								●		
3q27転座	*BCL6* rearranged	*BCL6* 3q27転座								●		
t(8;14)(q24;q32)	*IGH*::*MYC*	*IGH*::*MYC* t(8;14)転座								●	●	
8q24転座	*MYC* rearranged	*MYC* 8q24転座								●		
2p23転座	*ALK* rearranged	*ALK* 2p23転座								●		
	MYD88 mutation		*MYD88*遺伝子変異解析							●		
	CD79B mutation		*CD79B*遺伝子変異解析							●		
	JAK2 mutation *MPL* mutation *CALR* mutation		*JAK2* V617F遺伝子変異解析	●								
			MPN遺伝子変異解析	●								
	FLT3 mutation		*FLT3*/ITD 変異解析				●					
			*FLT3*変異解析ITD/TKD				●					
	IDH1 mutation		*IDH1*遺伝子解析(AML)				●					
	NPM1 mutation		*NPM1*変異解析				●					
	KIT mutation		*KIT*シーケンス解析(AML/SM)				●					
			白血病キメラスクリーニング(定量)				●	●				
			WT1 mRNA定量			●	●					
		異性間BMT(骨髄移植)(X,Y染色体)	キメリズム解析移植前レシピエント〔PCR〕									●
			キメリズム解析移植前ドナー〔PCR〕									●
			キメリズム解析移植後〔PCR〕									●

＊MPNはCMLを別枠としている。

白血病キメラスクリーニング(定量) *項目構成(14項目)	Major *BCR*::*ABL1*、minor *BCR*::*ABL1*、*PML*::*RARA*、*RUNX1*::*RUNX1T1*、*CBFB*::*MYH11*、*DEK*::*NUP214*、*NUP98*::*HOXA9*、*ETV6*::*RUNX1*、*TCF3*::*PBX1*、*STIL*::*TAL1*、*KMT2A*::*AFF1*、*KMT2A*::*AFDN*、*KMT2A*::*MLLT3*、*KMT2A*::*MLLT1*

監修：三浦　偉久男,SRL学術顧問　元聖マリアンナ医科大学　血液・腫瘍内科　教授

白血病関連遺伝子検査の主な別称

白血病関連遺伝子検査の主な別称

HGNC(HUGO Gene Nomenclature Committee)2026-04-01 update ver. より引用

Approved symbol	Approved Name	HGNC ID	Previous Symbols	Alias symbols
BCR	BCR activator of RhoGEF and GTPase	HGNC:1014	D22S11 BCR1	D22S662 CML PHL ALL
ABL1	ABL proto-oncogene 1, non-receptor tyrosine kinase	HGNC:76	ABL	JTK7 c-ABL p150
RUNX1	RUNX family transcription factor 1	HGNC:10471	AML1 CBFA2	PEBP2A2 AMLCR1
MECOM	MDS1 and EVI1 complex locus	HGNC:3498	MDS1 EVI1	MDS1-EVI1 PRDM3 KMT8E
RUNX1T1	RUNX1 partner transcriptional co-repressor 1	HGNC:1535	AML1T1 CBFA2T1	CDR ETO MTG8 ZMYND2
DEK	DEK proto-oncogene	HGNC:2768	-	D6S231E
NUP214	nucleoporin 214	HGNC:8064	-	CAIN CAN D9S46E N214
PML	PML nuclear body scaffold	HGNC:9113	-	MYL TRIM19 RNF71
RARA	retinoic acid receptor alpha	HGNC:9864	-	RAR NR1B1 RARalpha RAR-alpha
CBFB	core-binding factor subunit beta	HGNC:1539	-	PEBP2B
MYH11	myosin heavy chain 11	HGNC:7569	-	SMMHC SMHC SMMS-1
KMT2A	lysine methyltransferase 2A	HGNC:7132	MLL	TRX1 HRX ALL-1 HTRX1 CXXC7 MLL1A MLL1 ALL1 HTRX
AFF1	ALF transcription elongation factor 1	HGNC:7135	PBM1 MLLT2	AF-4 AF4 FEL
AFDN	afadin, adherens junction formation factor	HGNC:7137	MLLT4	AF-6 AF6
MLLT3	MLLT3 super elongation complex subunit	HGNC:7136	-	AF-9 AF9 YEATS3
STIL	STIL centriolar assembly protein	HGNC:10879	SIL	MCPH7
TAL1	TAL bHLH transcription factor 1, erythroid differentiation factor	HGNC:11556	TCL5	SCL bHLHa17
MLLT1	MLLT1 super elongation complex subunit	HGNC:7134	-	ENL LTG19 YEATS1
TCF3	transcription factor 3	HGNC:11633	-	E2A ITF1 MGC129647 MGC129648 bHLHb21 VDIR E47 p75
PBX1	PBX homeobox 1	HGNC:8632	-	-
ETV6	ETS variant transcription factor 6	HGNC:3495	-	TEL
NUP98	nucleoporin 98 and 96 precursor	HGNC:8068	-	NUP96 Nup98-Nup96 Nup98-96 NUP196
HOXA9	homeobox A9	HGNC:5109	HOX1G HOX1	-
WT1	WT1 transcription factor	HGNC:12796	GUD	WAGR WIT-2 AWT1 NPHS4 WT-1
FLT3	fms related receptor tyrosine kinase 3	HGNC:3765	-	STK1 FLK2 CD135
KIT	KIT proto-oncogene, receptor tyrosine kinase	HGNC:6342	PBT	CD117 SCFR C-Kit
JAK2	Janus kinase 2	HGNC:6192	-	JTK10
NPM1	nucleophosmin 1	HGNC:7910	-	B23 NPM
MPL	MPL proto-oncogene, thrombopoietin receptor	HGNC:7217	-	CD110 TPOR THPOR
CALR	calreticulin	HGNC:1455	-	RO SSA cC1qR CRT FLJ26680 CALR1
MYD88	MYD88 innate immune signal transduction adaptor	HGNC:7562	-	-
CD79B	CD79b molecule	HGNC:1699	IGB	B29 Ig-beta Igbeta

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
免疫関連遺伝子再構成検査	特依	T細胞レセプターβ鎖Cβ1再構成 8C652-9931-019-831 8C652-9931-046-831 8C652-9931-099-831 8C652-9931-070-831	血液 7.0 (EDTA-2Na加)	PN7	冷蔵	13~15	❶❷ 2362 ※2	サザンブロットハイブリダイゼーション	遺伝子再構成を認めず	血液/骨髄液/細胞:凍結保存は避けてください。 依頼書に臨床診断名などをご記入ください。 細胞は、院内でご使用の培養容器(培養液を満たしたもの)に入れ、冷蔵保存にてご提出ください。 ホルマリンなどにより固定した組織は、高分子DNAが得られないため、サザンブロットハイブリダイゼーションによる解析は不可能です。 ※1
			骨髄液 1.0	H00						
			細胞 2×10^7cells	培養容器						
			組織 250mg	ARR	凍結					
	特依	免疫グロブリンH鎖J_H再構成 8C703-9931-019-831 8C703-9931-046-831 8C703-9931-099-831 8C703-9931-070-831	血液 7.0 (EDTA-2Na加)	PN7	冷蔵	13~15	❶❷ 2362 ※2	サザンブロットハイブリダイゼーション	遺伝子再構成を認めず	血液/骨髄液/細胞:凍結保存は避けてください。 依頼書に臨床診断名などをご記入ください。 細胞は、院内でご使用の培養容器(培養液を満たしたもの)に入れ、冷蔵保存にてご提出ください。 ホルマリンなどにより固定した組織は、高分子DNAが得られないため、サザンブロットハイブリダイゼーションによる解析は不可能です。 ※1
			骨髄液 1.0	H00						
			細胞 2×10^7cells	培養容器						
			組織 250mg	ARR	凍結					
	特依	免疫グロブリンH鎖C_μ再構成 8C707-9931-019-831 8C707-9931-046-831 8C707-9931-099-831 8C707-9931-070-831	血液 7.0 (EDTA-2Na加)	PN7	冷蔵	13~15	❶❷ 2362 ※2	サザンブロットハイブリダイゼーション	遺伝子再構成を認めず	血液/骨髄液/細胞:凍結保存は避けてください。 依頼書に臨床診断名などをご記入ください。 細胞は、院内でご使用の培養容器(培養液を満たしたもの)に入れ、冷蔵保存にてご提出ください。 ホルマリンなどにより固定した組織は、高分子DNAが得られないため、サザンブロットハイブリダイゼーションによる解析は不可能です。 ※1
			骨髄液 1.0	H00						
			細胞 2×10^7cells	培養容器						
			組織 250mg	ARR	凍結					

❶「悪性腫瘍遺伝子検査」、「造血器腫瘍遺伝子検査」、「免疫関連遺伝子再構成」、「FLT3遺伝子検査」又は「JAK2遺伝子検査」のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。
❷「免疫関連遺伝子再構成」は、PCR法、LCR法又はサザンブロット法により、悪性リンパ腫、急性リンパ性白血病又は慢性リンパ性白血病の診断の目的で検査を行った場合に、6月に1回を限度として算定できる。



遺伝子関連検査

悪性腫瘍(固形腫瘍)遺伝子検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
悪性腫瘍(固形腫瘍)遺伝子検査	特依	*EGFR*変異解析 v2.0 8C051-9951-075-862	未染標本スライド5～10枚 厚さ10μm	Z10	室温	5～8	❶❷❸ 2500 ※2	PCR(リアルタイムPCR)		重 検査に必要な腫瘍細胞の割合は10%以上です。未染標本スライド提出に際しての留意事項は㊺ページをご参照ください。他項目との重複依頼は避けてください。 ※1
	1361	*EGFR*変異解析 v2.0(血漿) 8C051-9951-022-862	血漿 5.0	PK5, PK7 ↓ ARR	凍結	4～7	❸❹ 2100 ※2	PCR(リアルタイムPCR)		重 ●血漿材料について EDTA-2Kの採血管で提出検体量(血漿5mL)を考慮した充分量を採取し、採血後、8時間以内に必ず血漿分離してください。 分離後、直ちに滅菌ポリスピッツ2本に2.5mLずつの血漿を分取し凍結保存してください。 血漿分取する際には、白血球成分由来のゲノムDNAの混入を防ぐためデカンテーションを行わないでください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体の採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1

❶「悪性腫瘍遺伝子検査」、「造血器腫瘍遺伝子検査」、「免疫関連遺伝子再構成」、「FLT3遺伝子検査」又は「JAK2遺伝子検査」のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

❷「悪性腫瘍遺伝子検査」は、固形腫瘍又は悪性リンパ腫の腫瘍細胞を検体とし、悪性腫瘍の詳細な診断及び治療法の選択を目的として悪性腫瘍患者本人に対して行った、遺伝子検査について、患者1人につき1回に限り算定する。ただし、「肺癌におけるEGFR遺伝子検査」については、再発や増悪により、2次的遺伝子変異等が疑われ、再度治療法を選択する必要がある場合にも算定できる。

❸「肺癌におけるEGFR遺伝子検査」と「EGFR遺伝子検査(血漿)」又は「肺癌関連遺伝子多項目同時検査」を同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

❹EGFR遺伝子検査(血漿)

(1)EGFR遺伝子検査(血漿)は、血漿を用いてリアルタイムPCR法又は次世代シーケンシングにより行った場合に算定できる。

(2)肺癌の詳細な診断及び治療法を選択する場合、又は肺癌の再発や増悪により、EGFR遺伝子変異の2次的遺伝子変異等が疑われ、再度治療法を選択する場合に、患者1人につき、診断及び治療法を選択する場合には1回、再度治療法を選択する場合には2回に限り算定できる。ただし、本検査の実施は、医学的な理由により、肺癌の組織を検体として、「悪性腫瘍組織検査」のうち、肺癌におけるEGFR遺伝子検査を行うことが困難な場合に限る。

(3)EGFR遺伝子検査(血漿)を実施した場合には、肺癌の組織を検体とした検査が実施困難である医学的な理由を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

[1361]*EGFR*変異解析 v2.0(血漿)の留意事項(試薬添付文書より)

1.血漿検査では、腫瘍由来DNAが血漿中に充分に漏出していないために、腫瘍組織には*EGFR*遺伝子変異が存在しても*EGFR*遺伝子変異が検出できない可能性が考えられます。そのため血漿検査が先に実施され、*EGFR*遺伝子変異陰性の結果が得られた場合には、可能な限り組織検査の実施を考慮してください。

2.血漿検査は、組織検査と完全に置き換わる検査ではありません。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備　考
悪性腫瘍(固形腫瘍)遺伝子検査	特依	*c-kit*遺伝子変異解析(GIST) 8C059-9951-070-848 8C059-9951-075-848	組織 250mg	ARR	凍結	13~25	❶❷ 2100 ※2	ダイレクトシーケンス法		重 本検査は、*c-kit*遺伝子exon9、11の変異解析を目的としております。他項目との重複依頼は避けてください。 ※1
			未染標本スライド ※下記参照	Z10	室温					

❶「悪性腫瘍遺伝子検査」、「造血器腫瘍遺伝子検査」、「免疫関連遺伝子再構成」、「FLT3遺伝子検査」又は「JAK2遺伝子検査」のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。
❷「悪性腫瘍遺伝子検査」は、固形腫瘍又は悪性リンパ腫の腫瘍細胞を検体とし、悪性腫瘍の詳細な診断及び治療法の選択を目的として悪性腫瘍患者本人に対して行った、遺伝子検査について、患者1人につき1回に限り算定する。

未染標本スライド材料について

未染標本スライドは、組織のホルマリン固定によりDNAが断片化されているため、固定液の種類や、固定時間といった保存状況、保存年数によっては、解析不可能なことがありますので、あらかじめご了承ください。

*c-kit*遺伝子変異解析(GIST)の留意事項

当該検査に供する組織片は必ず病理組織的に鏡検され、腫瘍組織の存在が確認されていることがご依頼の必須条件となります。

*c-kit*遺伝子変異解析(GIST)の検査材料

下記の未染標本スライドを作製し、スライドのおもてに切片の厚さを記入し、オブジェクトケース(Z10)に入れ、室温保存にてご提出ください。
ご依頼の際は、必ず「腫瘍部位確認用検査」を併せてご依頼くださいますようお願いいたします。

未染標本スライドの種類と枚数

未染標本スライド種類	切片の厚さ	枚数
腫瘍部位確認用	3~4μm	2枚
DNA抽出用	10μm	5~10枚



遺伝子関連検査

悪性腫瘍(固形腫瘍)遺伝子検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
悪性腫瘍(固形腫瘍)遺伝子検査	特依	*RAS*・*BRAF*遺伝子変異解析 8C241-0000-075-898	未染標本スライド5枚 厚さ5~10μm	Z10	室温	6~9	❶❷ 4000 ※2	PCR-rSSO法		重 病理材料で*RAS*及び*BRAF*遺伝子(*KRAS*遺伝子、*NRAS*遺伝子ともにexon2 codon12,13、exon3 codon59,61、exon4 codon117,146を、*BRAF*遺伝子は、exon15 codon600)の変異解析を目的としております。病理材料以外は受託できません。検査に必要な腫瘍細胞の割合は10%以上です。未染標本スライド提出に際しての留意事項は㊺ページをご参照ください。他項目との重複依頼は避けてください。 ※1
	特依	マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(FFPE) 8C986-0000-075-856	未染標本スライド5~10枚 厚さ5μm	Z10	室温	6~10	❷❸ 2500 ※2	マルチプレックスPCR-フラグメント解析		重 5種類のマーカー(BAT25、BAT26、NR21、NR24、MONO27)について解析し判定致します。検査に必要な腫瘍細胞の割合は50%以上です。未染標本スライド提出に際しての留意事項は㊺ページをご参照ください。他項目との重複依頼は避けてください。 ※1
	特依	マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(FF) 8C986-0000-070-856	組織50mg	ARR	凍結	6~10	❷❸ 2500 ※2	マルチプレックスPCR-フラグメント解析		重 5種類のマーカー(BAT25、BAT26、NR21、NR24、MONO27)について解析し判定致します。他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1

❶「悪性腫瘍遺伝子検査」、「造血器腫瘍遺伝子検査」、「免疫関連遺伝子再構成」、「FLT3遺伝子検査」又は「JAK2遺伝子検査」のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。
❷「悪性腫瘍遺伝子検査」は、固形腫瘍又は悪性リンパ腫の腫瘍細胞を検体とし、悪性腫瘍の詳細な診断及び治療法の選択を目的として悪性腫瘍患者本人に対して行った、遺伝子検査について、患者1人につき1回に限り算定する。
❸マイクロサテライト不安定性検査については、リンチ症候群の診断の補助を目的とする場合又は固形癌の抗悪性腫瘍剤による治療法の選択を目的とする場合に、当該検査を実施した後に、もう一方の目的で当該検査を実施した場合にあっても、別に1回に限り算定できる。

RAS・*BRAF*遺伝子変異解析の留意事項

本検査に使用する組織片は、病理組織学的な評価がなされ、腫瘍組織の存在や含有量が確認されていることがご依頼の必須条件となります。
切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌における治療選択の補助を目的として検査を実施した場合の保険請求上の名称は、「BRAF遺伝子検査」および「RAS遺伝子検査」で、悪性腫瘍遺伝子検査(2項目)の所定点数となります。

マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(FF)の留意事項

生検材料(新鮮凍結組織)は、検体が微量であることが多く組織自体がほとんど消失している場合や、腫瘍細胞が含まれていない組織片になっている可能性がありますので、あらかじめご注意願います。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
遺伝学的検査	特依	倫理指針対象 ジストロフィン遺伝子解析（デュシェンヌ型筋ジストロフィー ベッカー型筋ジストロフィー） 8C831-9901-019-856	血液 2.0（EDTA-2Na加）	PN2 PN5	冷蔵	14~25	❶❷ 3880 ※2	MLPA	遺伝子の欠失および重複を認めず	凍 凍結保存は避けてください。ジストロフィン遺伝子の全79領域について、欠失、重複変異の有無を解析します。なおエクソンの欠失、重複以外の*DMD*遺伝子変異である微細な欠失、重複や挿入、一塩基置換、スプライス変異は解析できません。また、単一のエクソンにのみ変異が検出された場合は、一塩基置換などのミスマッチ配列の可能性があります。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。※1
	特依	倫理指針対象 アンドロゲンレセプター遺伝子CAG反復配列解析（球脊髄性筋萎縮症） 8C834-9901-019-851	血液 2.0（EDTA-2Na加）	PN2 PN5	冷蔵（3日）	14~18	❷ 3880 ※2	PCR		重 凍 凍結保存は避けてください。本項目はアンドロゲンレセプター遺伝子 exon1領域内のCAG反復回数を解析しています。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。※1
	特依	倫理指針対象 Y染色体微小欠失（AZF欠失） 8C896-9935-019-898	血液 2.0（EDTA-2Na加）	PN2 PN5	冷蔵（3日）	9~13	❶❸ 3770 ※2	PCR-rSSO法		重 凍 凍結保存は避けてください。本検査は、Y染色体微小欠失を検出する、男性を対象とした検査です。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。※1

❶別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において行われる場合に限り算定する。
❷「遺伝学的検査」は遺伝子疾患が疑われる場合に行うものとし、原則として患者1人につき1回に限り算定できる。ただし、2回以上実施する場合は、その医療上の必要性について診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
❸「Y染色体微小欠失検査」は、不妊症の患者であって、生殖補助医療を実施しているものに対して、PCR-rSSO法により、精巣内精子採取術の適応の判断を目的として実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定する。なお、本検査を実施する医学的な理由を診療録に記載すること。

倫理指針対象（12ページ参照）

Y染色体微小欠失（AZF欠失）の主な欠失部位

検出対象となる主な欠失※	AZFa欠失
	AZFb欠失
	AZFb＋c欠失
	AZFc欠失

※その他Y染色体上の微小欠失が検出される場合もございます。
※臨床的意義不明の欠失が認められた場合は、判定不能とご報告いたします。
※AZFc部分欠失(gr/gr)は、日本人男性の約1/3に認められます。



遺伝子関連検査

薬剤応答遺伝子検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
薬剤応答遺伝子検査	7982	PGx対象 *UGT1A1*遺伝子多型 8C933-9956-019-862	血液 2.0 （EDTA-2Na加）	PN2 PN5	冷蔵 （3日）	4～8	❶ 2004 ※2	PCR（リアルタイムPCR）		重 凍 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。※1
	1452	PGx対象 *NUDT15*遺伝子 codon 139 多型解析 8C955-9956-019-862	血液 2.0 （EDTA-2Na加）	PN2 PN5	冷蔵 （3日）	5～9	❷ 2274 ※2	PCR（リアルタイムPCR）		重 凍 凍結保存は避けてください。本項目は*NUDT15*遺伝子codon139の遺伝子多型を検出し、アミノ酸表記（Arg/Arg、Arg/Cys、Arg/His、Cys/Cys、Cys/His、His/His）にて報告いたします。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。※1

❶「UDPグルクロン酸転移酵素遺伝子多型」は、塩酸イリノテカンの投与対象となる患者に対して、その投与量等を判断することを目的として、インベーダー法又はPCR法により測定を行った場合、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に１回を限度として算定する。

❷「NUDT15遺伝子多型」は、難治性の炎症性腸疾患、急性リンパ性白血病及び治療抵抗性のリウマチ性疾患（全身性血管炎（顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、結節性多発動脈炎、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、高安動脈炎等）、全身性エリテマトーデス（SLE）、多発性筋炎、皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病及び難治性リウマチ性疾患）、自己免疫性肝炎の患者であって、チオプリン製剤の投与対象となる患者に対して、その投与の可否、投与量等を判断することを目的として、リアルタイムPCR法により測定を行った場合に、当該薬剤の投与を開始するまでの間に1回を限度として算定する。

PGx対象 （13ページ参照）

[7982] *UGT1A1*遺伝子多型の判定について

遺伝子型		*UGT1A1*28*		
		ワイルド -/-（6/6）	ヘテロ接合 -/*28（6/7）	ホモ接合 *28/*28（7/7）
*UGT1A1*6*	ワイルド -/-（G/G）	ワイルドタイプ -/-	ヘテロ接合体 -/*28	ホモ接合体 *28/*28
	ヘテロ接合 -/*6（G/A）	ヘテロ接合体 -/*6	複合ヘテロ接合体 *6/*28	—
	ホモ接合 *6/*6（A/A）	ホモ接合体 *6/*6	—	—

[1452] *NUDT15*遺伝子codon 139多型解析の検出対象

塩基配列	アミノ酸	*NUDT15*遺伝子多型
CGT	アルギニン（Arg）	野生型
TGT	システイン（Cys）	c.415C>T （rs116855232）
CAT	ヒスチジン（His）	c.416G>A （rs147390019）

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
移植関連遺伝子検査		曜日指定 HLA-A (遺伝子型タイピング) 5K116-0000-019-898	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN2 PN5	冷蔵 (3日)	4~6		PCR-rSSO法		凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月~金曜日です。続柄・臨床診断名・投与薬剤名・輸血歴・移植歴は必ず明記してください。HLA検査2項目以上同時依頼の場合は血液2.0mLで検査可能です。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。本検査は、HLA型(血清対応型)と推定アレル(遺伝子型の第1区域および第2区域)の両方を報告いたします。 ※1
		曜日指定 HLA-B (遺伝子型タイピング) 5K117-0000-019-898	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN2 PN5	冷蔵 (3日)	4~6		PCR-rSSO法		
		曜日指定 HLA-C (遺伝子型タイピング) 5K118-0000-019-898	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN2 PN5	冷蔵 (3日)	4~6		PCR-rSSO法		
		曜日指定 HLA-DRB1 (遺伝子型タイピング) 5K120-0000-019-898	血液 2.0 (EDTA-2Na加)	PN2 PN5	冷蔵 (3日)	4~6		PCR-rSSO法		
	1812	抗HLA抗体 (スクリーニング検査) 5G535-0000-023-045	血清 1.0	S09 ⇩ A00	凍結 (26日)	4~10	❶ 1000 ※6	Luminex法		重 他項目との重複依頼は避けてください。 ※1

❶「抗HLA抗体(スクリーニング検査)」は、肺移植、心移植、肝移植、膵移植、小腸移植若しくは腎移植後の患者又は日本臓器移植ネットワークに移植希望者として登録された患者に対して実施した場合に、原則として1年に1回に限り算定する。ただし、抗体関連拒絶反応を強く疑う場合等、医学的必要性がある場合には、1年に1回に限り更に算定できる。なお、この場合においては、その理由及び医学的な必要性を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

HLA・移植関連検査の検体について

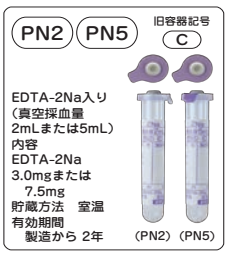
1.「特依：MLC(リンパ球混合培養)」は予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡ください。
2.必ず専用容器にて規定量を採血してください。やむを得ず規定量に満たない場合は、蓋を開けて陰圧を解除してください。ただし、「特依：MLC(リンパ球混合培養)」と同時依頼の場合は、無菌であることが重要となりますので必ず規定量を採血してください。
3.移植後のHLAタイピングをご依頼の場合は、レシピエントとドナーのアレルが混在し判定できない場合がありますのであらかじめご了承ください。
〔ご注意〕
移植後のHLAタイピングをご依頼の場合は、移植前のHLAの結果と提供者のHLAの結果を必ず依頼書にご記入ください。

HLA DNAタイピングの種類について

日本組織適合性学会のホームページにて最新情報をご確認ください。

[1812]抗HLA抗体(スクリーニング検査)に関する注意事項

検体中に過剰に抗体、もしくは補体が存在する場合、抗原・抗体反応が抑制され、偽陰性となる可能性があります。
★本検査は、日本組織適合性学会 QCWS参考プロトコルを遵守して測定実施いたします。



一般検査

尿一般検査

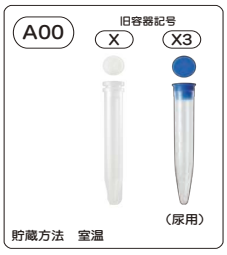
	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
尿一般検査	1506	尿一般検査 蛋白定性 1A010-0000-001-911	部分尿 10	A00	冷蔵	1～2	❶★	試験紙法	(－)	凍 凍結保存は避けてください。採尿後、当日中にご提出ください。 セットコード：9011 尿一般定性 比重、pH、蛋白、糖、ウロビリノーゲン、ビリルビン、ケトン体、潜血
	1507	緊急 糖定性 1A020-0000-001-911						試験紙法	(－)	
	1503	比重 1A030-0000-001-903						屈折計法	1.005～1.030	
	1504	pH 1A035-0000-001-911						試験紙法	5.0～7.5	
	1505	ウロビリノーゲン 1A040-0000-001-911						試験紙法	(±)	
	1509	ビリルビン 1A055-0000-001-911						試験紙法	(－)	
	1511	緊急 ケトン体 1A060-0000-001-911						試験紙法	(－)	
	1512	潜血 1A100-0000-001-911						試験紙法	(－)	
一般検査	1501	尿蛋白定量 1A015-0000-004-271 1A015-0000-001-271	蓄尿 2	A00	冷蔵	1～2	7 ※1	ピロカテコールバイオレッド比色法	130以下 (mg/day)	
			部分尿 2						(mg/dL)	
	1500	尿糖定量 1A025-0000-004-272 1A025-0000-001-272	蓄尿 2	A00	冷蔵	1～2	9 ※1	ヘキソキナーゼUV法	40～85 (mg/day)	
			部分尿 2						(mg/dL)	
検査	1513	尿沈渣 1A105-0000-001-920	部分尿 10	A00	冷蔵	1～2	❶★	フローサイトメトリー法または鏡検法	赤血球:4個以下 白血球:4個以下 (/HPF)	凍 採尿後、当日中にご提出ください。凍結検体は測定できませんので、凍結保存は避けてください。尿沈渣成績の記載はJCCLS法(日本臨床検査標準協議会)JCCLS GP1-P4「尿沈渣検査法」に準じます。

❶★当該保険医療機関内で検査を行った場合に算定する。(尿中一般物質定性半定量検査 26点、尿沈渣(鏡検法) 27点、尿沈渣(フローサイトメトリー法) 24点)

尿一般検査・尿沈渣における採尿方法について

早朝尿かつ中間尿で採尿しご提出ください。
中間尿は最初と最後の尿は採らず中間の尿を採ったもので、尿道や外陰部からの成分(赤血球、白血球、扁平上皮、細菌など)の混入を防ぎます。
採尿方法について「尿沈渣検査法2010」では、尿沈渣に最も適しているのは早朝尿かつ中間尿であると記載されています。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
糞便検査	1517	虫卵〔塗抹〕 1B010-0000-015-701	糞便 2g	F00	冷蔵	1～2	20 ※1	薄層塗抹法	(－)	凍 凍結保存は避けてください。
	1518	虫卵〔集卵〕 1B015-0000-015-701	糞便 2g	F00	冷蔵	1～2	15 ※1	硫酸マグネシウム食塩水浮遊法	(－)	凍 凍結保存は避けてください。
	1690	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン 1B042-0000-015-064	糞便	F80	冷蔵	1～2	56 ※1	金コロイド凝集法	ヘモグロビン 100未満 トランスフェリン 50未満 (ng/mL)	凍 凍結保存は避けてください。 専用採便容器に採取してご提出ください。 2回法依頼時は1回目＝ピンク色、2回目＝黄色ラベル容器を使用してください。
	8197	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン(1回目) 1B042-1301-015-064								
	8198	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン(2回目) 1B042-1302-015-064								
	1672	便中ヘモグロビン定性〔金コロイド法〕 1B040-1351-015-064	糞便	F80	冷蔵	1～2	37 ※1	金コロイド凝集法	陰性	凍 凍結保存は避けてください。 専用採便容器に採取してご提出ください。
	8193	便中ヘモグロビン定性(金コロイド法) 1回目 1B040-1301-015-064								凍 凍結保存は避けてください。 専用採便容器に採取してご提出ください。 2回法依頼時は1回目＝ピンク色、2回目＝黄色ラベル容器を使用してください。
	8194	便中ヘモグロビン定性(金コロイド法) 2回目 1B040-1302-015-064								
	5246	便中ヘモグロビン定量〔金コロイド法〕 1B040-1352-015-064	糞便	F80	冷蔵	1～2	41 ※1	金コロイド凝集法	100未満 (ng/mL)	凍 凍結保存は避けてください。 専用採便容器に採取してご提出ください。
	8195	便中ヘモグロビン定量(金コロイド法) 1回目 1B040-1301-015-064								凍 凍結保存は避けてください。 専用採便容器に採取してご提出ください。 2回法依頼時は1回目＝ピンク色、2回目＝黄色ラベル容器を使用してください。
	8196	便中ヘモグロビン定量(金コロイド法) 2回目 1B040-1302-015-064								
	1530	消化状態 1B060-0000-015-920	糞便 拇指頭大	F00	冷蔵	8～9	20 ※1	ズダンⅢ染色法、ヨード染色法		凍 凍結保存は避けてください。 ※M







	項目コード	検査項目 JLAC10		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
一般検査(その他)	1501	髄液	蛋白定量 1C010-0000-041-271	髄液 0.6	A00	冷蔵	1～2	11 ※4	ピロカテコールバイオレッド比色法	10～40 (mg/dL)	凍 凍結保存は避けてください。検体は採取後、当日中にご提出ください。
	1542		細胞数 1C030-0000-041-920	髄液 0.5	A00	冷蔵	1～2	77 ※1	Fuchs-Rosenthal計算盤法	10/3以下 (/μL)	凍 凍結保存は避けてください。検体は採取後、当日中にご提出ください。ヘパリン入り不可。抗凝固剤としてヘパリンを使用した場合、結晶が発生し検査不能となることがありますので使用しないでください。
	8163		細胞種類 1C035-0000-041-920	髄液 0.5	A00	冷蔵	1～2		鏡検法	(%)	
	1501	胸水	蛋白定量 1Z010-0000-042-903	胸水 0.6	A00	冷蔵	1～2	11 ※4	屈折計法	(g/dL)	凍 凍結保存は避けてください。検体は採取後、当日中にご提出ください。〔セットコード：A225 胸水一般検査 比重、細胞数、細胞種類〕簡単な液検査を含む採取料(180点)となります。判断料は算定できません。
	8158		比重 1Z020-0000-042-903	胸水 0.5	A00	冷蔵	1～2		屈折計法		
	8160		細胞数 1Z025-0000-042-920	胸水 1.0	PK2	室温	1～2		計算盤法 電気抵抗法	(/μL)	
	8161		細胞種類 1Z030-0000-042-920	胸水 2.0	A00	冷蔵	1～2		鏡検法	(%)	
	1501	腹水	蛋白定量 1Z010-0000-043-903	腹水 0.6	A00	冷蔵	1～2	11 ※4	屈折計法	(g/dL)	凍 凍結保存は避けてください。検体は採取後、当日中にご提出ください。簡単な液検査を含む採取料(180点)となります。判断料は算定できません。
	8158		比重 1Z020-0000-043-903	腹水 0.5	A00	冷蔵	1～2		屈折計法		
	8160		細胞数 1Z025-0000-043-920	腹水 1.0	PK2	室温	1～2		計算盤法 電気抵抗法	(/μL)	
	8161		細胞種類 1Z030-0000-043-920	腹水 2.0	A00	冷蔵	1～2		鏡検法	(%)	



	項目コード	検査項目		検査方法	保　存	所要日数	実施料判断料	備　　考
一般細菌	5200	塗抹鏡検	口腔，気道，呼吸器	グラム染色	冷蔵	1～2	❶❷ 各67 ※7	一般細菌塗抹の所要日数は、培養同定と同時依頼された場合は、培養同定の所要日数と同じになります。 便での塗抹鏡検は実施しておりません。 (*)髄液は室温保存してください。 (*)血液はカルチャーボトルに入れ室温保存してください。
			消化管					
			泌尿器，生殖器					
			血液，穿刺液		冷蔵 (*)			
			その他の部位		冷蔵			
	5207	培養同定	口腔，気道，呼吸器	培養同定	冷蔵	3～5	❸❹❺ 180 ※7	細菌培養同定検査については、緊急報告範囲(1ページ参照)が設定されており、範囲を超えた場合、当社より緊急報告します。 真菌及び培養日数を要する菌の場合は、所要日数が異なります。また、検査の過程で発育が遅い菌種が分離された時及び追加検査が必要な時は、報告日数が延長されます。 (*)目的菌が淋菌の場合は室温保存してください。 (*)髄液は室温保存してください。 (*)血液はカルチャーボトルに入れ室温保存してください。 (採血方法は159ページをご参照ください) 血液培養につきましては、採取日時などの明記及び室温保存を厳守してください。
			消化管				❸❹❺ 200 ※7	
			泌尿器，生殖器		冷蔵 (*)		❸❹❺ 190 ※7	
			血液，穿刺液		冷蔵 (*)	3～9	❸❹❺ 240 ※7	
			その他の部位		冷蔵	3～5	❸❹❺ 180 ※7	
	5202	尿定量培養(簡易培養)		標準白金耳法	冷蔵	2～3	❸❹❺ 60 ※7	尿以外の材料では実施しておりません。(単位：CFU/mL)
	5205	嫌気性培養	口腔，気道，呼吸器	嫌気チェンバー培養法	冷蔵	4～11	❻❼ 各137 (加算)	嫌気性培養を依頼する場合は、一般細菌培養同定も併せてご依頼ください。 (*)髄液は室温保存してください。 (*)血液はカルチャーボトルに入れ室温保存してください。
			消化管					
			泌尿器，生殖器					
			血液，穿刺液		冷蔵 (*)			
			その他の部位		冷蔵			
	5217	感受性検査	口腔，気道，呼吸器	微量液体希釈法 ディスク拡散法	冷蔵	3～5	❽	薬剤感受性を依頼する場合は、培養同定も併せてご依頼ください。 感受性薬剤は、当社標準の薬剤(薬剤感受性標準セット)にて実施致します。 常在菌及び真菌の感受性検査は実施しておりません。 (*)髄液は室温保存してください。 (*)血液はカルチャーボトルに入れ室温保存してください。
			消化管					
			泌尿器，生殖器					
			血液，穿刺液		冷蔵 (*)	3～9		
			その他の部位		冷蔵	3～5		

❶同一検体について「排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査」と「尿沈渣(鏡検法)」又は「尿沈渣(フローサイトメトリー法)」を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。
❷「排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査」と「尿沈渣(鏡検法)」又は「尿沈渣(フローサイトメトリー法)」を同一日に併せて算定する場合は、当該検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
❸細菌培養同定検査は、検体ごとに「口腔、気道又は呼吸器からの検体」から「その他の部位からの検体」までの所定点数を算定できるが、同一検体を用いて簡易培養を併せて行った場合は、「簡易培養」は算定できない。
❹症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なった部位から、又は同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1か所のみの所定点数を算定する。ただし、血液を2か所以上から採取した場合に限り、「血液又は穿刺液」を2回算定できる。この場合、「嫌気性培養加算」から「質量分析装置加算」までに掲げる加算は2回算定できる。
❺各検体別の所定点数には、定量培養を行った場合を含む。
❻同一検体について一般培養と併せて嫌気性培養を行った場合は、嫌気性培養加算として、137点を所定点数に加算する。
❼嫌気性培養又は真菌培養のみを行った場合は、「口腔、気道又は呼吸器からの検体」から「簡易培養」までの所定点数のみ算定し、「嫌気性培養加算」(137点)又は「真菌培養加算」(122点)の加算は算定できない。
❽1菌種 185点 ※7、2菌種 240点 ※7、3菌種以上 310点 ※7

検査材料、検体量及び採取容器につきましては157ページをご参照ください。
ご依頼の際は、依頼書の検査材料欄に必ずマークをしてください。
注)ご依頼の検査の内容によっては、所要日数がさらにかかる場合があります。

微生物学的検査

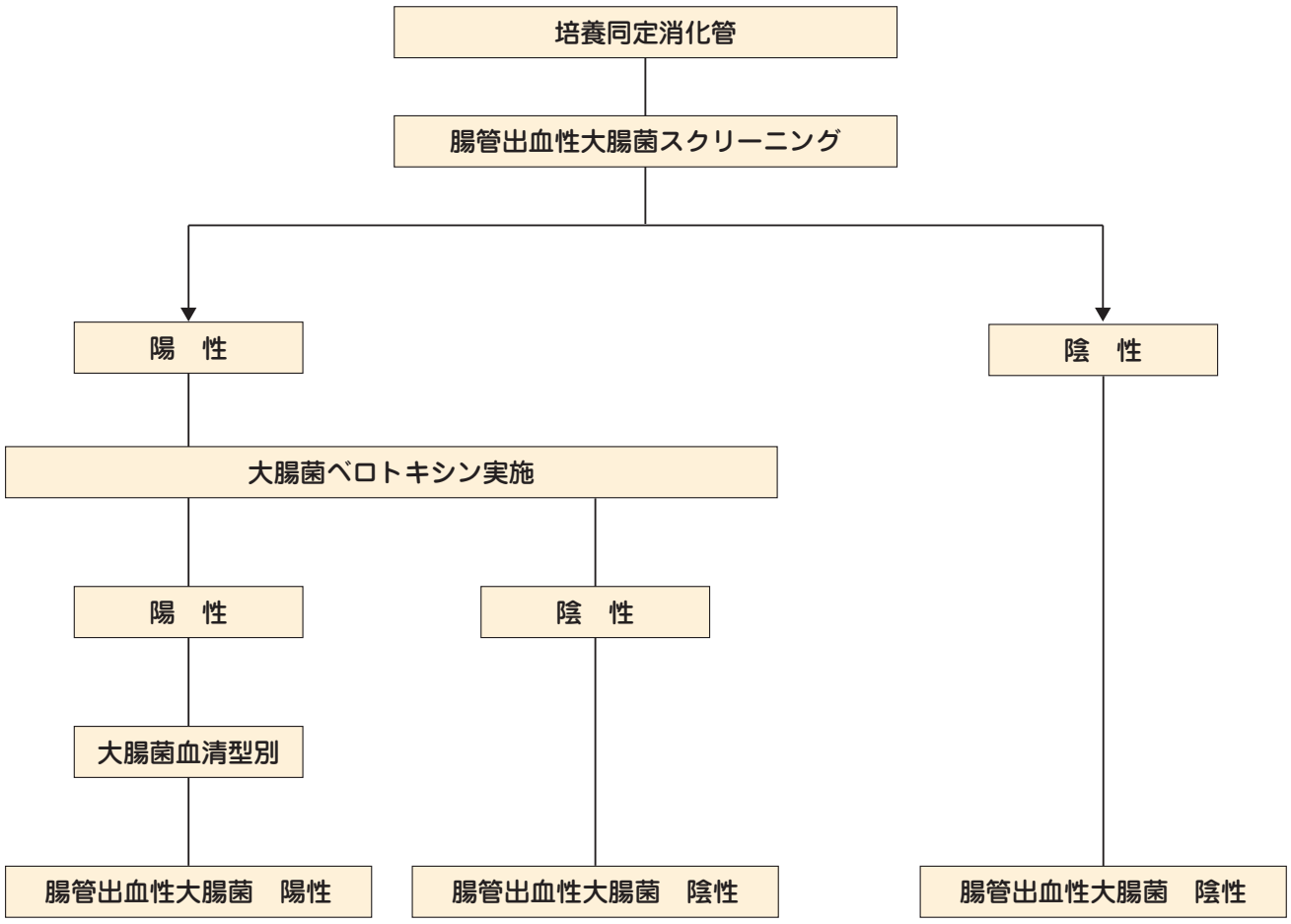
一般細菌

目的菌

目的菌コード	目的菌名	目的菌コード	目的菌名	目的菌コード	目的菌名	備　考(全目的菌共通)
0303	MRSA	0107	チフス菌	0201	淋菌 室温	●目的菌のみのご依頼はできません。一般細菌培養同定も同時にご依頼ください。 ●目的菌の指定は6項目までお願いします。それ以上のご依頼は、報告書には反映できません。 ●腸管出血性大腸菌は、必ず培養同定と大腸菌ベロトキシンを同時にご依頼ください。便以外の材料では実施しておりません。
0114	緑膿菌	0122	パラチフス菌	0202	髄膜炎菌 室温	
0305	溶連菌	0111	コレラ菌	0602	カンジダ	
0304	肺炎球菌	0110	腸炎ビブリオ	0603	クリプトコッカス	
0117	ヘモフィルス	0108	エルシニア菌	0601	真菌	
0204	モラクセラ・カタラーリス	0509	カンピロバクター	0604	アスペルギルス	
0302	黄色ブドウ球菌	0402	セレウス菌	0605	白癬菌	
0105	赤痢菌	0128	腸管出血性大腸菌(注)			
0106	サルモネラ菌	0306	B群溶連菌(GBS)			

(注)
・「大腸菌血清型別」は、「細菌培養同定検査」により大腸菌が確認され、及び「大腸菌ベロトキシン定性」により毒素が確認又は腸管出血性大腸菌用の選択培地に菌の発育が確認され、並びに血清抗体法により大腸菌のO抗原又はH抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず175点(※6)算定する。この場合において「細菌培養同定検査」の費用は別に算定できない。
・嫌気性培養又は真菌培養のみを行った場合は、「口腔、気道又は呼吸器からの検体」から「簡易培養」までの所定点数のみ算定し、「嫌気性培養加算」(137点)又は「真菌培養加算」(122点)の加算は算定できない

腸管出血性大腸菌検査フローチャート



薬剤感受性標準セット

系統	略号	一般名	ブドウ球菌	グラム陽性桿菌	コリネバクテリウム（グラム陽性桿菌）	モラクセラ・カタラーリス	肺炎球菌	連鎖球菌	腸球菌	ヘモフィルス	グラム陰性桿菌	緑膿菌	カンピロバクター	ビブリオ	嫌気性菌	淋菌
ペニシリン系	PCG	ベンジルペニシリン	●	●	●		●	●	●						●	●
	MPIPC	オキサシリン	●													
	ABPC	アンピシリン	●	●		●	●	●	●	●	●		●	●	●	
	PIPC	ピペラシリン									●	●		●	●	
セフェム系	CEZ	セファゾリン	●	●			●	●		●	●					
	CTM	セフォチアム	●	●							●					
	CTX	セフォタキシム		●	●	●	●	●		●	●				●	
	CAZ	セフタジジム									●	●		●		
	CTRX	セフトリアキソン			●	●	●	●		●						●
	CFPM	セフェピム			●		●	●		●	●	●				
	CMZ	セフメタゾール									●				●	
	CCL	セファクロル									●					
	CFIX	セフィキシム														●
	CPDX-PR	セフポドキシム-プロキセチル									●					
	CFDN	セフジニル					●	●		●						
	FMOX	フロモキセフ	●								●					
カルバペネム系	IPM/CS	イミペネム／シラスタチン	●	●					●		●	●	●	●	●	
	MEPM	メロペネム			●		●	●		●	●	●			●	
モノバクタム系	AZT	アズトレオナム									●	●				
β-ラクタマーゼ阻害剤合剤	CVA/AMPC	クラブラン酸／アモキシシリン				●	●			●	●			●	●	
	SBT/ABPC	スルバクタム／アンピシリン	●	●											●	
	SBT/CPZ	スルバクタム／セフォペラゾン									●	●				
	TAZ/PIPC	タゾバクタム／ピペラシリン									●	●			●	
アミノグリコシド系	GM	ゲンタマイシン	●	●	●						●	●	●	●		
	AMK	アミカシン									●	●				
	TOB	トブラマイシン										●				
	ABK	アルベカシン	●													
マクロライド系	CAM	クラリスロマイシン				●				●						
	EM	エリスロマイシン	●	●	●	●	●	●	●				●			
	AZM	アジスロマイシン				●	●	●								
テトラサイクリン系	MINO	ミノサイクリン	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	TC	テトラサイクリン				●								●		●
リンコマイシン系	CLDM	クリンダマイシン	●	●	●		●	●							●	
キノロン系	LVFX	レボフロキサシン	●	●		●	●	●	●	●	●	●		●		
	CPFX	シプロフロキサシン			●	●					●	●	●			●
	MFLX	モキシフロキサシン								●					●	
グリコペプチド系	VCM	バンコマイシン	●		●				●							
	TEIC	テイコプラニン	●						●							
その他の系	CP	クロラムフェニコール				●							●	●	●	
	FOM	ホスホマイシン	●						●		●	●	●	●		
	ST	スルファメトキサゾール／トリメトプリム	●		●	●	●			●	●			●		
	LZD	リネゾリド	●		●				●							
	MNZ	メトロニダゾール													●	

- ●検出された菌種(群)によって、効力の高い薬剤の組み合わせが検査されます。
- ●上記一覧の菌種(群)に該当しない場合は、当社にて薬剤の選定をさせていただきます。
- ●検出された菌種によっては、標準薬剤パターンで検査できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ●常在細菌(Normal flora)の感受性検査は実施しておりません。
- ●感受性検査の報告は下記カテゴリーにて報告します。
  S ：感　性(Susceptible)
  I ：中　間(Intermediate)
  R ：耐　性(Resistant)

一般細菌

一般細菌 結果判定基準

下記項目の検査結果は、次の当社基準に基づき、下記表示方法にて報告します。
（参考：Clinical Microbiology Procedures Handbook – 4th edition, 2016.）

項目名	区分および鏡検倍率	表示方法	細菌数／細胞数	備　考
塗抹鏡検	細菌数 （鏡検倍率1,000倍）	（－）	菌がみられない	
		1＋	1視野　＜1	
		2＋	1視野　1～5	
		3＋	1視野　6～30	
		4＋	1視野　＞30	
	細胞数（白血球・上皮細胞） （鏡検倍率100倍）	（－）	細胞がみられない	
		1＋	1視野　＜1	
		2＋	1視野　1～9	
		3＋	1視野　10～25	
		4＋	1視野　＞25	

項目名	表示方法	培地発育状態	備　考
培養同定	（－）	未発育	菌種名は、細菌命名に関する国際規約に基づき報告します。
	1＋	1/3未満	
	2＋	1/3以上2/3未満	
	3＋	2/3以上	
	4＋	培地全面	

項目名	表示方法	内　容	備　考
薬剤感受性検査	S	Susceptible（感性）	CLSIの基準に基づき表示します。
	I	Intermediate（中間）	
	R	Resistant（耐性）	

CLSI：Clinical and Laboratory Standards Institute（旧 NCCLS）

主な材料の釣菌基準

一般細菌培養同定における釣菌工程は、次の当社基準に基づき実施します。

菌　名	喀痰、咽頭	尿	膣分泌物	血液、髄液
黄色ブドウ球菌	○	○	○	◎
コアグラーゼ陰性ブドウ球菌	◆注1	○	○	◎
β-溶血連鎖球菌	◎	○	◎	◎
肺炎球菌	◎	○	○	◎
腸球菌	◆注1	○	○	◎
腸内細菌	◆注2,注3	○	○	◎
緑膿菌	○	○	○	◎
非発酵菌	◆注1	○	○	◎
ヘモフィルス	◆注2	ー	○	◎
モラクセラ・カタラーリス	◆注2	ー	ー	◎

記号表示内容

◎：1コロニーでも釣菌します。
○：1+以上検出されたとき釣菌します。
◆：2+以上検出されたとき釣菌します。
ー：対象外

注1：優位な発育でなければ釣菌しません。
注2：1+でも優位な発育ならば釣菌します。
注3：1+でも肺炎桿菌ならば釣菌します。

上記以外の菌については、目的菌のご依頼をいただいた場合のみ釣菌します。（目的菌は 147 ページをご参照ください。）
目的菌のご依頼がある場合は、1 コロニーでも釣菌します。

便の釣菌基準

材料が便の場合、次の当社基準に基づき釣菌します。

区　分	釣菌対象菌	備　考
通常釣菌	サルモネラ菌、赤痢菌、コレラ菌、 ビブリオ、エルシニア、エロモナス、 プレジオモナス、黄色ブドウ球菌、キャンピロバクター	検出時に必ず釣菌します。
優位発育時釣菌	クレブシエラ・オキシトカ、緑膿菌	優位に発育した場合のみ釣菌します。
依頼時釣菌	腸管出血性大腸菌、セレウス菌	培養同定と目的菌をご依頼いただいた場合のみ釣菌します。
	クロストリジオイデス・ディフィシル	特殊検査項目をご依頼いただいた場合のみ釣菌します。
	クロストリジウム・パーフリンゲンス	目的菌をご依頼いただいた場合のみ釣菌します。

一般細菌培養同定検査(中間報告)推定菌一覧

一般細菌の培養同定検査は培養所見として推定菌を中間報告します。尚、推定できない菌種はグラム染色性の分類でご報告いたします。
但し、推定菌報告は最終報告の検査結果と異なる場合があります。
推定菌と最終同定の一致率は90%以上です。（社内検討データ）

グラム染色性分類	推定菌報告
グラム陰性桿菌	クレブシェラ推定、セラチア推定、プロテウス推定、緑膿菌推定、 ヘモフィルス推定など
グラム陰性球菌	淋菌推定、髄膜炎菌推定、モラクセラ推定など
グラム陽性球菌	ブドウ球菌推定、連鎖球菌推定、肺炎球菌推定、 β溶血性連鎖球菌推定、α連鎖球菌推定、腸球菌推定など
グラム陽性桿菌	バチルス推定、コリネバクテリウム推定、ノカルジア推定など

培養同定依頼で通常検査される材料別菌種一覧

1）培養同定の検査依頼で目的菌の依頼がなくても検出できる材料別菌種一覧は以下の通りです。
例えば材料「便」で培養同定依頼があった場合、目的菌の依頼が無くても“赤痢菌”～“緑膿菌”の14菌種は検査されます。この場合一覧表に記載した菌が検出された場合、陽性は菌名が報告されます。

〈目的菌の依頼が無くても検出できる材料別菌種一覧〉

区分	口腔・気道・呼吸器	消化管		泌尿器・生殖器	
検査材料	喀痰 咽頭粘液 咽頭ぬぐい液 口腔 鼻腔 鼻汁 気管支洗浄液 気管支吸引痰	便	胃液 胆汁	自然尿 中間尿 カテーテル尿	腟分泌物 尿道分泌物 膿汁 精液 羊水
菌種	肺炎球菌 A群溶血性連鎖球菌 ブドウ球菌 腸球菌 モラクセラ・カタラーリス ヘモフィルス 肺炎桿菌 大腸菌 プロテウス セラチア エンテロバクター その他の腸内細菌 緑膿菌 ブドウ糖非発酵菌 カンジダ　など	赤痢菌 腸チフス菌 パラチフス菌 サルモネラ属 腸炎ビブリオ コレラ菌 ビブリオ属 アエロモナス属 プレジオモナス属 エルシニア　エンテロコリチカ クレブシェラ　オキシトカ キャンピロバクター 黄色ブドウ球菌 緑膿菌	ブドウ球菌 腸球菌 B群溶血性連鎖球菌 大腸菌 クレブシェラ エンテロバクター セラチア プロテウス チフス菌 パラチフス菌 その他の腸内細菌 緑膿菌 ブドウ糖非発酵菌 カンジダ　など	ブドウ球菌 腸球菌 B群溶血性連鎖球菌 大腸菌 クレブシェラ エンテロバクター セラチア プロテウス チフス菌 パラチフス菌 その他の腸内細菌 緑膿菌 ブドウ糖非発酵菌 カンジダ　など	ブドウ球菌 腸球菌 B群溶血性連鎖球菌 ガードネレラ 淋菌 ヘモフィルス 大腸菌 クレブシェラ エンテロバクター セラチア プロテウス その他の腸内細菌 緑膿菌 ブドウ糖非発酵菌 カンジダ　など

区分	血液・穿刺液		その他		
検査材料	静脈血 動脈血 髄液	胸水 腹水 関節液	耳漏 眼分泌物	膿 透析液 褥瘡部膿	皮膚 爪 毛髪
菌種	ブドウ球菌 腸球菌 肺炎球菌 連鎖球菌 リステリア菌 髄膜炎菌 ヘモフィルス 大腸菌 クレブシェラ エンテロバクター セラチア プロテウス その他の腸内細菌 緑膿菌 ブドウ糖非発酵菌 クリプトコッカス カンジダ　など	ブドウ球菌 腸球菌 肺炎球菌 連鎖球菌 大腸菌 クレブシェラ エンテロバクター セラチア プロテウス その他の腸内細菌 緑膿菌 ブドウ糖非発酵菌 カンジダ　など	ブドウ球菌 腸球菌 肺炎球菌 連鎖球菌 ヘモフィルス 大腸菌 クレブシェラ エンテロバクター セラチア プロテウス その他の腸内細菌 緑膿菌 ブドウ糖非発酵菌 カンジダ　など	ブドウ球菌 腸球菌 A群溶血性連鎖球菌 連鎖球菌 大腸菌 クレブシェラ エンテロバクター セラチア プロテウス その他の腸内細菌 緑膿菌 ブドウ糖非発酵菌 カンジダ　など	白癬菌 カンジダ　など

2）目的菌の依頼を行なった場合は、菌の検出有無にかかわらずその結果が報告されます。
また検査で使用する培地が異なる為に、必ず目的菌の依頼を必要とする菌種は下表の通りです。

〈必ず目的菌の依頼を必要とする菌種一覧〉

口腔・気道・呼吸器	便	尿	その他
百日咳菌	腸管出血性大腸菌	淋菌	真菌（アスペルギルス）
ジフテリア菌	バチルスセレウス		
真菌（アスペルギルス）			

※真菌は通常検査ではカンジダのみ検出可能です。従って真菌全ての検索を必要とする場合は、目的菌として真菌を依頼してください。
※目的菌MRSAで、黄色ブドウ球菌が検出された場合、薬剤感受性のご依頼がなければ、黄色ブドウ球菌の感受性（1菌種）を追加いたします。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検査材料	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要日数	備考
一般細菌特殊検査	T051	ヘリコバクター培養同定	胃生検組織	C20	冷蔵	培養同定	❶ 200 ※7	6～11	採取法は158ページ参照
	5217	ヘリコバクター感受性検査				ディスク拡散法	185 ※7	9～14	薬剤名：アモキシシリン、クラリスロマイシン、ミノサイクリン、レボフロキサシン
	5226	ｸﾛｽﾄﾘｼﾞｵｲﾃﾞｽ･ﾃﾞｨﾌｨｼﾙ	便 適量	C10	冷蔵	嫌気培養同定 およびMALDI-TOF-MS	200 ＋ 137 ※7	10～13	凍結保存は避けてください。 単独の検体にてご依頼ください。 ※1
	5073	CDトキシン(GDH)	便1.0g	F00	冷蔵	イムノクロマト法	95 ※6	3～5	単独の検体にてご依頼ください。 凍結保存は避けてください。 ※1
	5075	CDトキシンB遺伝子 定性 6B642-0000-015-862	便1.0g	F00	冷蔵	PCR (リアルタイムPCR)	❷ 450 ※7	3～5	基準値：(-) 単独の検体にてご依頼ください。 凍結保存は避けてください。 ※1
	8507	レジオネラ	喀痰	X00	冷蔵	培養同定	180 ※7	6～8	所要日数は菌の発育状況により変動します。 ※1
	8508	大腸菌ベロトキシン	菌株	－	室温	RPLA	❸ 184 ※7	2～3	
	特依	コアグラーゼ型別	菌株	－	室温	中和反応		4～7	純培養された黄色ブドウ球菌をご提出ください。 ※1
		エンテロトキシン型別				RPLA		4～7	
		TSST-1産生						4～7	
		POT法(黄色ブドウ球菌) 6B631-0000-080-856				POT法		16～23	純培養された黄色ブドウ球菌およびMRSAをご提出ください。 ※1

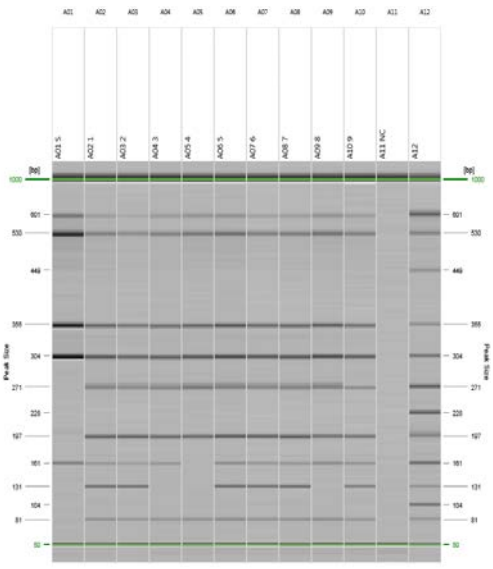
❶「大腸菌O157抗体定性」､「大腸菌O157抗原定性」及び「消化管からの検体によるもの」のうちいずれかを複数測定した場合は、主たるもののみ算定する。なお､「大腸菌O157抗体定性」はLA法による。
❷クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出
ア「クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出」は、以下の(イ)から(ハ)をいずれも満たす入院中の患者に対して実施した場合に限り算定する。
(イ)クロストリジオイデス・ディフィシル感染症を疑う場合であって、敗血症性ショック、低血圧症、乳酸アシドーシス、イレウス、腸穿孔、中毒性巨大結腸、悪性新生物、造血器腫瘍若しくは自己免疫疾患の患者であることが強く疑われる者であること又は「クロストリジオイデス・ディフィシル抗原定性」において、クロストリジオイデス・ディフィシル抗原陽性かつクロストリジオイデス・ディフィシルトキシン陰性であること。
(ロ)2歳以上でBristol Stool Scale 5以上の下痢症状があること。
(ハ)24時間以内に3回以上、又は平常時より多い便回数があること。
イ 本検査は、関連学会の定める指針に沿って実施した場合に限り算定できる。なお、下痢症状について診療録に記載すること。
❸大腸菌ベロトキシン定性
ア「大腸菌ベロトキシン定性」は､「細菌培養同定検査」により大腸菌が確認され、病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定する。
イ「大腸菌ベロトキシン定性」のうち、細菌培養を行うことなく糞便から直接検出する方法であってELISA法によるものについては、臨床症状や流行状況から腸管出血性大腸菌感染症が強く疑われる場合に限り､「細菌培養同定検査」を踏まえることなく行った場合にも算定できる。

POT法(黄色ブドウ球菌)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)などによる院内感染は、分子疫学的解析検査(POT法)の測定により感染源・感染ルートの解析が可能となります。
当社におきましては、鮮明な泳動写真をご報告するとともに、POT型からご依頼いただきました菌の関連性について判定し報告します。

POT法の解析例

【泳動写真】



【POT型】

菌株番号	POT型
1	93-136-16
2	93-221-57
3	93-221-57
4	93-217-125
5	93-209-109
6	93-221-57
7	93-221-57
8	93-221-57
9	93-217-117
10	93-221-61

同一POT型(3つのPOT値がすべて同一)の分離株は、水平伝播の可能性が疑われます。

微生物学的検査

スクリーニング検査／便検診／環境検査

	セットコード	検査項目	材料	容　器	保　存	検査方法	所要日数	備　　考
スクリーニング検査	T034	MRSA スクリーニング	鼻腔	VS2	冷蔵	培養同定	3～4	病院内、施設内職員(健常者)のスクリーニング検査としてご依頼ください。
	T035		咽頭粘液	VS1				
	T041		耳漏	VS2				
	T042		喀痰	X00				
	T043		尿	ARR				
	T044		便	VS1				
	T045		膿	VS1				
便検診	下表参照	集団検診	便	VS1	冷蔵	培養同定	3～4	病院内、施設内職員(健常者)のスクリーニング検査としてご依頼ください。 検査対象の菌種とセットコードは下表をご参照ください。

	項目コード	検査項目	検査材料	容　器	保　存	検査方法	所要日数	備　　考
環境検査		院内環境(ふきとり法)	環境材料	VS1	冷蔵	培養同定	3～4	採取法は158ページ参照

※院内環境検査は、MRSAを含むブドウ球菌、腸内細菌、緑膿菌、酵母様真菌、糸状菌等の一般細菌を目的として検査します。

集団検診 目的菌

目的菌セットコード	対　象　菌　種									
	赤痢菌	サルモネラ	腸管出血性大腸菌	腸チフス	パラチフス	チフス	腸炎ビブリオ	ビブリオ	コレラ	キャンピロバクター
T011	○	○		○	○					
T031	○	○								
T502	○	○	○							
T503	○	○	○	○						
T504	○	○	○	○	○					
T505	○	○	○	○		○				
T506	○	○	○		○	○				
T507	○	○	○			○				
T508	○	○	○		○		○			
T509	○	○	○				○			
T510	○	○	○					○		
T511	○	○	○					○	○	○
T512	○	○	○							○

・腸管出血性大腸菌には O157、O26、O111等を含みます。

	項目コード	検査項目	検査材料	容器 保存	検査方法	実施料 判断料	所要日数	備考
抗酸菌	5005	緊急 抗酸菌塗抹〔集菌蛍光法〕	喀痰、気管支洗浄液、胃液、中間尿、胸水などの検体（上記以外はお問い合わせください。）	157ページ参照	集菌蛍光法	❶ 65+35 ※7	1～2	蛍光法で発光する細菌を認めた場合は、チールネルゼン法にて抗酸性・形態の確認を実施します。
	8518	抗酸菌分離培養〔液体法〕			酸素感受性蛍光センサー法	❷ 315 ※7	～6週	陽性の場合は、随時報告します。陰性の場合は、3週で中間報告します。※1
	5046	抗酸菌分離培養〔小川法〕			変法小川法	❷ 224 ※7	4～8週	4週、6週で中間報告します。※1
	5037	抗酸菌同定〔質量分析〕	培養陽性菌株または菌株（菌株に対して行う検査です。生材料からは直接検査できません。）		MALDI-TOF-MS	376 ※7	3～6★	同定可能な菌種は155ページをご参照ください。※1
	専依	結核菌群抗原			イムノクロマト法	291 ※6	3～4	※1
		抗酸菌薬剤感受性☆			一濃度比率法	415 ※7	2～4週★	SM、EB、KM、INH、RFP、LVFX、TH、PAS、CSを実施します。検査結果はカテゴリー（S：感受性　R：耐性）を報告します。※1
		結核菌感受性(MIC)☆			微量液体希釈法	415 ※7	2～3週★	SM、EB、KM、INH、RFP、LVFX、CPFX、RBTを実施します。検査結果はMIC値を報告します。（対象菌種：*Mycobacterium tuberculosis*）※1
		抗酸菌感受性(MIC) SGM☆				415 ※7		AMK、KM、AZM、CAM、MFLX、STFX、DOXY、MINO、LZD、EB、TH、INH、RBT、RFPを実施します。検査結果はMIC値を報告します。（対象菌種：非結核性抗酸菌の遅発育菌）※1
		抗酸菌感受性(MIC) RGM☆				415 ※7		FRPM、MEPM、IPM、AMK、TOB、AZM、CAM、LVFX、MFLX、STFX、DOXY、LZD、ST、CLFを実施します。検査結果はMIC値を報告します。（対象菌種：非結核性抗酸菌の迅速発育菌）※1

❶集菌塗抹法を行った場合には、集菌塗抹法加算として、35点を所定点数に加算する。
❷「抗酸菌分離培養検査」は、検体の採取部位が異なる場合であっても、同時に又は一連として検体を採取した場合は、1回のみ所定点数を算定する。
★〔8518〕抗酸菌分離培養〔液体法〕からの検査の場合は、平板培地に増菌後に実施となるため日数がさらにかかります。(+3～7日)
☆ 抗酸菌薬剤感受性、結核菌感受性(MIC)、抗酸菌感受性(MIC)SGMおよび抗酸菌感受性(MIC)RGMは同時にご依頼いただけません。
注)ご依頼の検査の内容によっては、所要日数がさらにかかる場合があります。

抗酸菌 結果判定基準

下記項目の検査結果は、次の当社基準に基づき、下記表示方法にて報告します。(参考；抗酸菌検査ガイド2020)

項目名	表示方法	蛍光法(200倍)	チール・ネルゼン法(1,000倍)	備考（相当するガフキー号数）
抗酸菌塗抹〔集菌蛍光法〕	－	0／30視野	0／300視野	G0☆
	±	1～2／30視野	1～2／300視野	G1
	1+	1～19／10視野	1～9／100視野	G2
	2+	＞20／10視野	＞10／100視野	G5
	3+	＞100／1視野	＞10／1視野	G9

※ガフキー号数は現在では使用しない。また、簡易法との一致は正確ではない。(抗酸菌検査ガイド2020より)
☆抗酸菌塗抹〔集菌蛍光法〕で陰性の場合は、ガフキー号数は記載しません。

抗酸菌同定〔質量分析〕で同定が可能な189菌種抗酸菌名

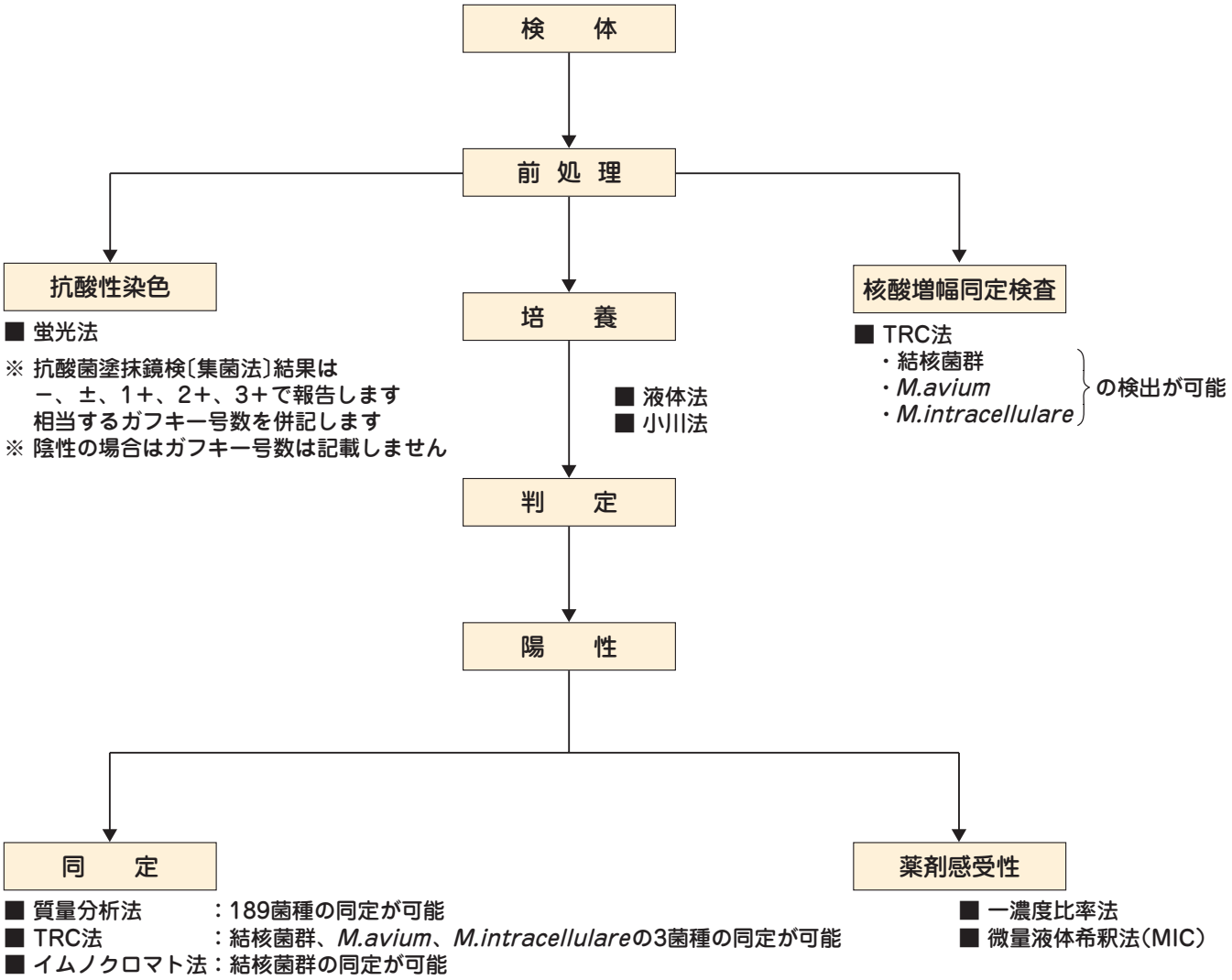
菌種名	菌種名	菌種名
M. abscessus	*M. fortuitum*	*M. noviomagense*
M. agri	*M. fortuitum* complex	*M. novocastrense*
M. aichiense	*M. fragae*	*M. obuense*
M. aichiense/aromaticivorans	*M. franklinii*	*M. pallens*
M. algericum	*M. frederiksbergense*	*M. palustre*
M. alsense	*M. gadium*	*M. paraense*
M. alvei	*M. gadium/tusciae*	*M. paraffinicum*
M. angelicum	*M. gastri*	*M. parafortuitum*
M. angelicum/szulgai	*M. genavense*	*M. paragordonae*
M. anyangense	*M. gilvum*	*M. parakoreense*
M. aquaticum	*M. goodii*	*M. parascrofulaceum*
M. aquaticum/brisbanense	*M. gordonae*	*M. paraseoulense*
M. arabiense	*M. grossiae*	*M. paraterrae*
M. arcueilense	*M. haemophilum*	*M. parmense*
M. arcueilense/peregrinum	*M. hassiacum*	*M. peregrinum*
M. aromaticivorans	*M. heckeshornense*	*M. phlei*
M. arosiense	*M. heidelbergense*	*M. phocaicum*
M. arupense	*M. helvum*	*M. porcinum*
M. asiaticum	*M. heraklionense*	*M. poriferae*
M. aubagnense	*M. hiberniae*	*M. pseudoshottsii*
M. aurum	*M. hippocampi*	*M. psychrotolerans*
M. austroafricanum	*M. hodleri*	*M. pulveris*
M. austroafricanum/vanbaalenii	*M. holsaticum*	*M. pyrenivorans*
M. avium ※	*M. houstonense*	*M. rhodesiae*
M. bacteremicum	*M. immunogenum*	*M. riyadhense*
M. boenickei	*M. insubricum*	*M. rufum*
M. bohemicum	*M. interjectum*	*M. rutilum*
M. botniense	*M. intermedium*	*M. salmoniphilum*
M. bourgelatii	*M. intracellulare* ※	*M. saopaulense*
M. branderi	*M. iranicum*	*M. sarraceniae*
M. brisbanense	*M. kansasii*	*M. saskatchewanense*
M. brumae	*M. komossense*	*M. scrofulaceum*
M. canariasense	*M. koreense*	*M. sediminis*
M. canariasense/cosmeticum	*M. kubicae*	*M. senegalense*
M. celatum	*M. kumamotonense*	*M. senuense*
M. celeriflavum	*M. kyorinense*	*M. seoulense*
M. chelonae	*M. lacus*	*M. septicum*
M. chelonae complex	*M. lehmannii*	*M. setense*
M. chitae	*M. lehmannii/neumannii*	*M. sherrisii*
M. chlorophenolicum	*M. lentiflavum*	*M. sherrisii/simiae*
M. chubuense	*M. litorale*	*M. shimoidei*
M. chubuense complex	*M. llatzerense*	*M. shinjukuense*
M. colombiense	*M. longobardum*	*M. simiae*
M. conceptionense	*M. lutetiense*	*M. smegmatis*
M. confluentis	*M. madagascariense*	*M. sphagni*
M. conspicuum	*M. mageritense*	*M. stephanolepidis*
M. cookii	*M. malmoense*	*M. stomatepiae*
M. cosmeticum	*M. mantenii*	*M. szulgai*
M. crocinum	*M. marinum*	*M. talmoniae*
M. crocinum/pallens	*M. marseillense*	*M. terrae*
M. diernhoferi	*M. minnesotense*	*M. thermoresistibile*
M. doricum	*M. monacense*	*M. tokaiense*
M. duvalii	*M. montefiorense*	*M. triplex*
M. eburneum	*M. montmartrense*	*M. triviale*
M. eburneum/talmoniae	*M. moriokaense*	*M. tuberculosis* ※
M. elephantis	*M. mucogenicum*	*M. tusciae*
M. engbaekii	*M. murale*	*M. vaccae*
M. europaeum	*M. murale/tokaiense*	*M. vanbaalenii*
M. fallax	*M. nebraskense*	*M. virginiense*
M. farcinogenes	*M. neoaurum*	*M. vulnerans*
M. flavescens	*M. neumannii*	*M. wolinskyi*
M. florentinum	*M. neworleansense*	*M. xenopi*
M. fluoranthenivorans	*M. nonchromogenicum*	*Mycobacterium* sp.

※TRC法　同定可能菌種

	項目コード	検査項目	検査材料	容　器	保　存	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備　　考
抗酸菌	5128	緊急 結核菌群核酸同定〔TRC〕	喀痰、気管支洗浄液、胃液、中間尿、胸水などの検体（上記以外はお問い合わせください。）	X00（喀痰以外はお問い合わせください）	冷蔵	TRC	410 ※7	1～2	検体は充分量をご提出願います（検体量が少ない場合は検出感度が低下します）。スワブで提出された場合、きわめて検体量が少ないために偽陰性となることがありますので、ご提出はお避けください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
	5129	緊急 MAC核酸同定〔TRC〕					❶ 421 ※7		

❶「マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー（MAC）核酸検出」は、他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。

抗酸菌検査フローチャート



専用輸送容器・輸送培地一覧

分　類	材料	検体量（mL）	保存条件	採取容器	
口腔・気道・呼吸器	喀痰	5～7	冷蔵	X00	滅菌喀痰採取容器
	咽頭ぬぐい液	適量	冷蔵	VS1	eSwab105レギュラー FLOQスワブ
消化管	便	適量	冷蔵	VS1	eSwab105レギュラー FLOQスワブ
	胆汁	5～10	冷蔵	ARR	滅菌スピッツ10mL用
	胃液	5～10	冷蔵	ARR	滅菌スピッツ10mL用
泌尿器・生殖器	中間尿	5～10	冷蔵	ARR	滅菌スピッツ10mL用
	カテーテル尿	5～10	冷蔵	ARR	滅菌スピッツ10mL用
	膣分泌物	適量	冷蔵	VS1	eSwab105レギュラー FLOQスワブ
	膿	適量	冷蔵	VS1	eSwab105レギュラー FLOQスワブ
血液・穿刺液	静脈血	最適量 8～10	室温	CBG CBS	血液培養ボトル
	動脈血		室温	CBG CBS	血液培養ボトル
	髄液	3～5	室温	C10	シードチューブⅡ
	胸水	5～10	冷蔵	C10	シードチューブⅡ
	腹水	5～10	冷蔵	C10	シードチューブⅡ
	関節液	5～10	冷蔵	C10	シードチューブⅡ
その他の部位	耳漏	適量	冷蔵	VS2	eSwab106ミニチップFLOQスワブ
	眼脂	適量	冷蔵	VS1	eSwab105レギュラー FLOQスワブ
	皮膚	適量	冷蔵	ARR	滅菌スピッツ10mL用
	爪	適量	冷蔵	ARR	滅菌スピッツ10mL用
	組織	適量	冷蔵	ARR	滅菌スピッツ10mL用
	膿	適量	冷蔵	C10	シードチューブⅡ
他	環境材料	-	冷蔵	VS1	eSwab105レギュラー FLOQスワブ
	胃生検組織	適量	冷蔵	C20	シードチューブHP（ヘリコバクター培養同定用）
	便	1.0g	冷蔵	F00	糞便容器





















細菌検査採取方法

●検査材料名または材料採取部位を必ず明記してください。
●目的菌が淋菌、髄膜炎菌の場合は、室温保存してください。
●嫌気性培養の検査材料は、シードチューブⅡに採取してください。
●所要日数は目的菌等により異なりますので、ご了承ください。

＜シードチューブⅡの取り扱い方法＞

■液体検体（穿刺液、消化液など）
① 穿刺部(ゴムキャップ上の小円)を消毒用アルコール綿などで消毒します。
② 注射針を穿刺部に垂直に穿刺し、液体検体を注入します。
③ チューブラベルを貼付し輸送してください。
④ 検体は速やかに検査してください。
やむを得ず保存する場合は、**冷蔵** 保存してください。





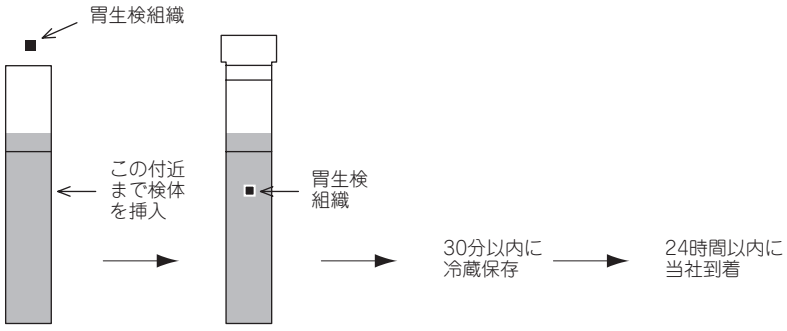
■固形検体(膿、糞便、組織片など)
① ゴムキャップを消毒用アルコール綿などで消毒します。
② ゴムキャップをはずし、固形検体を入れます。
検体は寒天の奥まで挿入してください。
(注)綿棒は長さ7cmまで入ります。
それ以上のものは、切断してください。
③ ゴムキャップを速やかにしっかり閉めます。
④ チューブラベルを貼付し輸送してください。
⑤ 検体は速やかに検査してください。
やむを得ず保存する場合は、**冷蔵** 保存してください。



ヘリコバクター培養同定採取方法

＜シードチューブHPの取り扱い方法＞

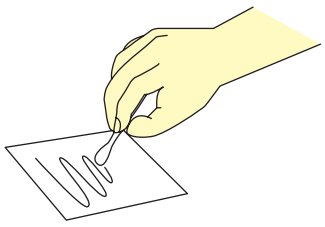
1．採取した「胃生検組織」を直ちに採取容器(**C20**)に入れ、黒線より下へ挿入してください。
2．検体は30分以内に **冷蔵** 保存し、当日中にご依頼ください。



環境検査採取方法

院内環境検査(ふきとり法)

被検体の一定面積(10cm×10cm通例)をeSwab105レギュラーFLOQスワブに添付されている綿棒(あらかじめ培地に刺して湿らせておく)にてよくふきとり再度培地に刺しご提出ください。



テープ等でわくをつくり、培地で湿らせた綿棒で全体をよくふきとります。

血液培養のための採血方法

◇ 血液培養のための採血方法 ◇

（血液培養を実施する際には、正しい結果を得る為に、汚染菌の混入を防ぐ措置として採血部位の消毒や、培養ボトルの取扱いに細心の注意を払ってください。）

血液培養検査では、特に皮膚常在の汚染菌の混入を極力避けることが大切です。

採血のタイミング

培養を実施する為の採血時期は非常に重要です。
病原菌を確実に分離するために、可能な限り原則通りに実施してください。
（原　　則）

1.熱の上昇期・悪寒のあるとき
- ◆熱の乱高下は、細菌が血流中に放出されていることに関連しています。
- ◆熱が周期的である場合には特にタイミングが重要で、以下の時期に採血を実施してください。
  1)体温の上昇が予測される直前
  2)熱の上昇期

2.抗生物質の投与前
- ◆採取培養ボトル中には抗生物質を中和・吸着するレズンが入っておりますが、一般的に治療が始まってからでは、抗生物質の影響で菌分離のチャンスが減ると言われております。

採血の回数と採血量

1.採血回数
- ◆繰り返し培養を実施する事が検出率を上昇させる最適の方法であり、少なくとも2セットを違う部位（両腕）から採血をしてください。

2.採血量
- ◆患者の体格、病状、採血回数を考慮して16mL～20mL（許容範囲：6mL～20mL）採血してください。
- ◆好気培養ボトル／嫌気培養ボトルへ血液をそれぞれ3mL～10mL注入してください。（培養ボトルは陰圧のため入れすぎに注意してください。）

（偽陰性・偽陽性の可能性を極力避けるために、採血日時の明記及び室温保存を厳守してください。）

準　備

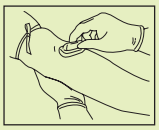
（用意するもの）

70％アルコール綿、あるいは、イソプロパノールまたはエタノールおよび脱脂綿1 ～2％ヨードチンキ、あるいは、10％ポビドンヨード液、シリンジと注射針、駆血帯、血液培養ボトル（好気性菌用・嫌気性菌用）

消　毒

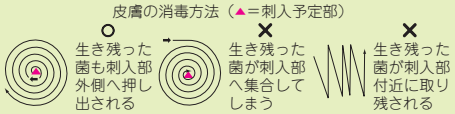


（採血施行者）
- ◆採血の10 ～20分前からドアや窓を閉め、空調を止め病室内は介助者だけにします。
- ◆採血施行者は手指を消毒するか、滅菌手袋を着用します。



（患　者）
- ◆イソプロパノールを浸した綿（70％イソプロパノールまたはエタノール）で60秒間しっかりと皮膚を清拭します。
- ◆採血する静脈の部位を選定します。

皮膚の消毒方法（▲＝刺入予定部）



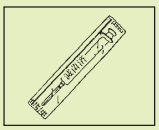


- ◆ガーゼに1～2％ヨードチンキまたは10％ポビドンヨードをたっぷり含ませます。
- ◆刺入部位を中心として円を外側に描くようにして周辺部位をヨードで清拭します。
- ◆ヨードチンキの場合は約30秒、ポビドンヨードは約2分程度消毒時間を保ってください。清拭後、触れたり触診したりしないでください。ヨードに対し過去に異常反応を示したことのある患者には、ヨードの代わりにもう一度イソプロパノールで清拭します。



（培養ボトル）
- ◆培養ボトルからフリップキャップを外します。
- ◆培養ボトルのゴム栓はアルコール類（70％イソプロパノールまたはエタノール）で消毒してください。

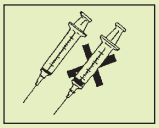
採　血



- ◆滅菌ディスポーザブルの注射器を使用します。
- ◆20mLのシリンジと21ゲージの注射針をお勧めしますが、違う大きさのものでも使用できます。



- ◆清拭した皮膚から静脈に注射針を刺入し、注射器に16mL～20mL（許容範囲：6mL～20mL）採血します。
（※静脈穿刺を通して血液が採取できない場合でも、静脈留置カテーテルあるいは動脈留置カテーテルからの血液採取は避けてください。）

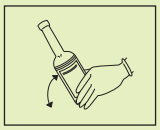


- ◆血管の穿刺に失敗して注射針を刺しかえるときは、注射器ごと新しいものにかえます。針刺し事故防止のためリキャップは避けてください。

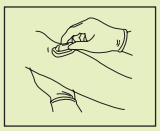
採 血 後



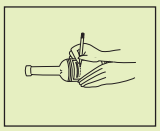
- ◆採血後、皮膚から注射針を抜き取り、穿刺部位にアルコール綿を当てしばらく押さえておきます。
- ◆用意した2本のボトル（好気性用、嫌気性用）に等量の血液を注入します。（針刺し事故には充分ご注意ください。）
- ◆培養ボトルは陰圧のため、入れすぎに注意してください。



- ◆ボトルの内容物を静かに混和します。
（菌を発育しやすくさせるためと抗生物質の吸着除去を促進する効果があるため。）



- ◆採血が終了したら、穿刺部位のヨードチンキをアルコール綿で拭き取ります。
- ◆各施設の基準に従って、部位の異常の有無を観察します。



- ◆ボトルに採血日時・患者名等の情報を記入します。その際、培養ボトルのバーコードの上に記入したり、ラベルを貼ったりしないでください。このバーコードは検体の処理装置での読み取りに使用されます。

注 意 点

- ●血液、その他の体液の混入する製品はすべて「一般的な予防対策」に従い取り扱ってください。
- ●使用する前に、全ての培養ボトルを検査し、異物混入、破損あるいは品質劣化のあるものは廃棄してください。
- ●患者が過去にヨードに対して異常反応を示したことがあるか確認してください。
- ●新生児や小児では、体格が小さいことや血中細菌が比較的多いことから、通常1～3mLの血液を採取します。このときには専用の小児用培養ボトルをご使用ください。
- ●ボトルを当社へすぐに提出できない場合は、室温保存してください。



	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
核酸増幅同定検査	5053	ニューモシスチス・イロベチイ(P.jirovecii) DNA定性 6B614-0000-061-862 6B614-0000-091-862	喀痰 0.7	X00	凍結(28日)	4～6		PCR(リアルタイムPCR)	検出せず	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			肺胞洗浄液 0.7	ARR						
	6016	マイコプラズマニューモニエDNA 6B616-0000-064-883 6B616-0000-061-883	咽頭ぬぐい液	ARR	凍結(21日)	3～5	291 ※7	LAMP	(一)	重 咽頭ぬぐい液は、滅菌綿棒で拭い、滅菌ポリスピッツ(ARR)に綿棒を入れて凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			喀痰 2.0	X00						
	2498	レジオネラDNA 定性 6B611-0000-061-883	喀痰 1.0	X00	凍結(28日)	4～10	296 ※7	LAMP	(一)	重 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
	5976	百日咳菌DNA 6B636-0000-063-883	後鼻腔ぬぐい液	VS4 ARR	凍結(21日)	3～5	❶ 360 ※7	LAMP	(一)	重 後鼻腔ぬぐい液は、必ずフロックスワブ(VS4)で採取し、滅菌ポリスピッツ(ARR)にスワブを入れて凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
	6453	赤痢アメーバ DNA 定性 6B637-0000-015-851 6B637-0000-086-851	糞便 0.5g	F00	凍結	6～12		PCR	(一)	重 採便後、速やかに凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			膿 0.7	ARR	凍結(28日)					

❶「百日咳菌核酸検出」は、関連学会が定めるガイドラインの百日咳診断基準における臨床判断例の定義を満たす患者に対して、LAMP法又はPCR法により測定した場合に算定できる。



	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
核酸増幅同定検査	3802	淋菌DNA 6B610-0000-050-862 6B610-0000-001-862 6B610-0000-079-862	分泌物	V50	室温(28日)	1～2	❶❷ 198 ※7	PCR(リアルタイムPCR)	(ー)	重 凍 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。 分泌物，部分尿:検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。 男性の場合、PCR反応阻害物質の影響が稀に認められる場合がありますので、尿検体での検査をお勧めいたします。尿検体は最後の排尿から1時間以上経過後に初尿を採取してください。 うがい液:検体採取前の食事、うがい、歯磨きなどは避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
			部分尿 5	U10						
			うがい液 5							
	3063	クラミジアトラコマティスDNA 5E021-0000-050-862 5E021-0000-001-862 5E021-0000-079-862	分泌物	V50	室温(28日)	1～2	❷❸ 188 ※7	PCR(リアルタイムPCR)	(ー)	重 凍 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。 分泌物，部分尿:検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。 男性の場合、PCR反応阻害物質の影響が稀に認められる場合がありますので、尿検体での検査をお勧めいたします。尿検体は最後の排尿から1時間以上経過後に初尿を採取してください。 うがい液:検体採取前の食事、うがい、歯磨きなどは避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
			部分尿 5	U10			❷❸ 188 ※7			
			うがい液 5				❷❸ 188 ※7			
	6017	淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時同定 6B615-0000-050-862 6B615-0000-001-862 6B615-0000-079-862	分泌物	V50	室温(28日)	1～2	❷ 262 ※7	PCR(リアルタイムPCR)	(ー)	重 凍 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。 分泌物，部分尿:検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。 男性の場合、PCR反応阻害物質の影響が稀に認められる場合がありますので、尿検体での検査をお勧めいたします。尿検体は最後の排尿から1時間以上経過後に初尿を採取してください。 うがい液:検体採取前の食事、うがい、歯磨きなどは避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
			部分尿 5	U10						
			うがい液 5							

❶淋菌核酸検出
ア「淋菌核酸検出」、「淋菌抗原定性」又は「細菌培養同定検査(淋菌感染を疑って実施するもの)」を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。
イ 淋菌核酸検出は、DNAプローブ法、LCR法による増幅とEIA法による検出を組み合わせた方法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、SDA法、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法又はTRC法による。淋菌核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体(尿検体を含む。)によるものである。なお、SDA法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法又はTRC法においては咽頭からの検体も算定できる。また、PCR法においては直腸からの検体により実施した場合も算定できる。

❷淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出
ア「淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出」は、クラミジア・トラコマチス感染症若しくは淋菌感染症が疑われる患者又はクラミジア・トラコマチスと淋菌による重複感染が疑われる患者であって、臨床所見、問診又はその他の検査による病原微生物鑑別が困難なものに対して治療法選択のために実施した場合及びクラミジア・トラコマチスと淋菌の重複感染者に対して治療効果判定に実施した場合に算定できる。
ただし、「クラミジア・トラコマチス抗原定性」、「淋菌抗原定性」、「細菌培養同定検査(淋菌及びクラミジアによる感染を疑って実施するもの)」、「クラミジア・トラコマチス核酸検出」又は「淋菌核酸検出」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
イ「淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出」は、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法、PCR法による同時増幅法及び核酸ハイブリダイゼーション法による同時検出法、SDA法又はTRC法による。淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体(尿検体を含む。)によるものである。なお、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法、SDA法、PCR法による同時増幅法及び核酸ハイブリダイゼーション法による同時検出法又はTRC法においては咽頭からの検体も算定できる。また、PCR法においては直腸からの検体により実施した場合も算定できる。

❸クラミジア・トラコマチス核酸検出
ア「クラミジア・トラコマチス核酸検出」と「クラミジア・トラコマチス抗原定性」を併用した場合は、主なもののみ算定する。
イ クラミジア・トラコマチス核酸検出は、PCR法、LCR法、ハイブリッドキャプチャー法若しくはTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法若しくは核酸ハイブリダイゼーション法による同時検出法、SDA法又はTRC法により、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体により実施した場合に限り算定できる。また、PCR法においては直腸からの検体により実施した場合も算定できる。

[3063]クラミジアトラコマティスDNAについて

[0A13]膣トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出、[3802]淋菌DNAとの同時依頼のみ可能です。

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
核酸増幅同定検査	0A13	腟トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出 6B643-0000-050-862 6B643-0000-001-862	分泌物	V50	室温(28日)	2～4	❶ 350 ※7	PCR(リアルタイムPCR)	(一)	重 凍 凍結保存は避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。 分泌物，部分尿:検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。 男性の場合、PCR反応阻害物質の影響が稀に認められる場合がありますので、尿検体での検査をお勧めいたします。 尿検体は最後の排尿から1時間以上経過後に初尿を採取してください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
			部分尿 5	U10						
	7198	マイコプラズマジェニタリウム核酸およびマクロライド耐性変異同時検出 6B617-0000-050-862 6B617-0000-001-862	分泌物	ARR	凍結(22日)	4～6	❷ 350 ※7	PCR(リアルタイムPCR)	検出せず	重 他項目との重複依頼は避けてください。 分泌物：子宮頸管周辺の過剰な粘液を綿棒等で取り除いた後、滅菌スワブを子宮頸管内に挿入し、同じ方向に複数回まわして採取してください。スワブは滅菌ポリスピッツ(ARR)に入れ凍結保存してください。スワブの指定はありませんが、ブレイクポイント(折り目)のあるスワブをお勧めいたします。 部分尿：最後の排尿から少なくとも1時間以上経過後の初尿を採取してください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※1
			部分尿 1.5		凍結(7日)					

❶「腟トリコモナス及びマイコプラズマ・ジェニタリウム核酸同時検出」は、以下のいずれかに該当する場合であって、リアルタイムPCR法により測定した場合に算定する。
ア 腟トリコモナス感染症を疑う患者であって、鏡検が陰性又は実施できないもの若しくはマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症を疑う患者に対して、治療法の選択を目的として行った場合。
イ 腟トリコモナス感染症又はマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症の患者に対して、治療効果判定を目的として実施した場合。

❷「マイコプラズマ・ジェニタリウム核酸及びマクロライド耐性変異同時検出」は、以下のいずれかに該当する場合であって、リアルタイムPCR法により測定した場合に算定する。
ア マイコプラズマ・ジェニタリウム感染症を疑う患者に対して、治療法の選択を目的として行った場合。
イ マイコプラズマ・ジェニタリウム感染症の患者に対して、治療効果判定を目的として行った場合。

[0A13]腟トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出について

[6017]淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時同定、[3802]淋菌DNA、[3063]クラミジアトラコマティスDNAとの同時依頼のみ可能です。







微生物学的検査

培養同定検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備考
培養同定検査	特依	ウイルス分離 6B655-1410-064-748	下記参照	V10	冷蔵	6~71		細胞変性効果、血球吸着現象、赤血球凝集反応		凍 凍結保存は避けてください。分離、同定検査は以下の細胞を使用しています。PHfb（ヒト線維芽細胞）、HEp-2（ヒト喉頭癌細胞）、Vero（ミドリザル腎細胞）、MA104（アカ毛ザル腎細胞）、RD-18S（ヒト横紋筋腫細胞）、MDCK（イヌ腎細胞）、B95a（マーモセットB細胞）、AGMK（アフリカミドリザル腎細胞）、A549（ヒト肺癌細胞）、Caco-2（ヒト結腸腺癌細胞） ※1
	特依	ウイルス同定 6B705-1410-064-748	※1参照	V10	冷蔵	15~79		標準抗血清による中和反応・免疫蛍光抗体法・赤血球凝集抑制反応		

ウイルス同定について

同時に複数検体をご依頼いただく場合は、所要日数が変動する場合がございます。あらかじめご了承ください。

検査材料

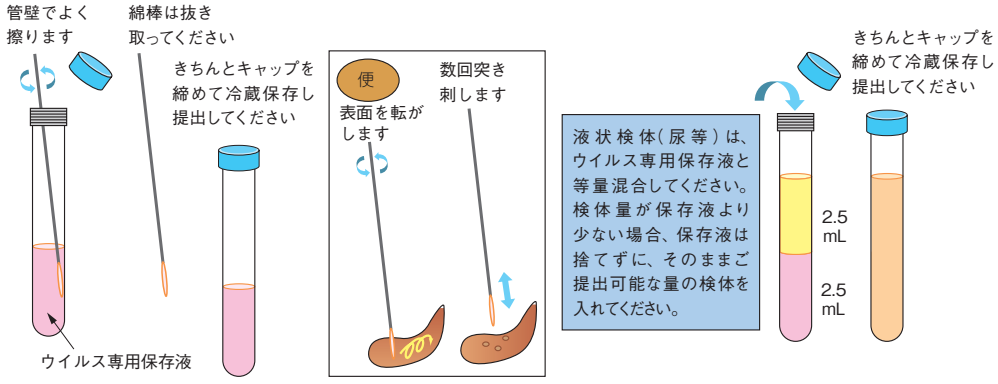
ウイルス分離・同定検査を実施するためには適切な分離用検査材料と、同時に発病後できるだけ早期に採取することが大切です。ウイルス分離材料の選択は、分離率向上のため、できる限り複数の材料をご提出ください。

臨床症状	分離可能ウイルス	主要検査材料
上気道感染症	ライノ、パラインフルエンザ	咽頭ぬぐい液、鼻分泌液
	アデノ、コクサッキー、エコー	咽頭ぬぐい液、糞便
下気道感染症	インフルエンザ、パラインフルエンザ、アデノ、RS、サイトメガロ	咽頭ぬぐい液、喀痰、気管支洗浄液
紅斑性発疹症	麻疹、風疹	咽頭ぬぐい液
	エコー、コクサッキー	咽頭ぬぐい液、糞便
水疱性発疹症	単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹	水疱内容
	コクサッキー、エンテロ71	水疱内容、咽頭ぬぐい液、糞便
中枢神経系疾患	エコー、コクサッキー	咽頭ぬぐい液、髄液、糞便
	水痘・帯状疱疹、ムンプス	咽頭ぬぐい液、髄液
先天性異常	サイトメガロ、風疹	咽頭ぬぐい液、尿、髄液
	単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹	水疱内容
嘔吐・下痢症	エコー、コクサッキー、アデノ	咽頭ぬぐい液、糞便
出血性膀胱炎	アデノ	尿
耳下腺炎	ムンプス	咽頭ぬぐい液
眼疾患	アデノ、単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹	結膜ぬぐい液

検体採取および保存方法

検査材料	ウイルス専用容器への採取方法
患部ぬぐい液・水疱内容・糞便　など	※2 滅菌綿棒でぬぐい、下図の採取方法でウイルス専用保存液に採取し、冷蔵保存してください。
尿・髄液・胸水・鼻汁　など	下図の採取方法でウイルス専用保存液と等量の検体を採取し、冷蔵保存してください。
組織	組織小片（5mm角程度）をウイルス専用保存液に入れ冷蔵保存してください。

※1 同定検査は当社の分離検査において分離された検体のみの受付けとなります。
※2 滅菌綿棒はプラスチック棒かアルミニウム棒付の綿棒で採取してください。
●ウイルス専用保存液は当社にて準備しておりますので、ご依頼前に営業員にお申し付けください。





	項目コード	検査項目 JLAC10	検査材料	検体量	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法
細胞診検査	専依	一般細胞診	喀痰	容器ごと提出	X00	冷蔵	3～7	❶❷ 1部位につき 190 ※8	(喀痰・蓄痰) パパニコロウ染色 (その他) パパニコロウ染色とPAS染色またはギムザ染色 ※#
				塗抹標本(湿固定)2枚	Z10	室温			
			蓄痰	容器ごと提出	X10	室温			
			擦過物・洗浄液・泌尿器材料・針穿刺吸引液状検体(胸水・腹水・髄液・胆汁等)捺印標本(リンパ節等)・圧挫標本・その他	生材料10mL	A00	冷蔵			
				塗抹標本2枚(湿固定)1～2枚(乾燥固定)1～2枚	Z10	室温			
				容器ごと提出	V41	室温			
	専依	細胞診[婦人科ベセスダシステム](ThinPrep) 7A020-1652-076-650	子宮腟部・子宮頸管・プールスメア・腟断端・子宮内膜・外陰	容器ごと提出	V41	室温	3～7	❶❷ 1部位につき 150+45 ※8	TP染色 ※#
	専依	細胞診[婦人科ベセスダシステム] 7A020-1652-085-433		塗抹標本(湿固定)1枚	Z10			❶❷ 1部位につき 150 ※8	パパニコロウ染色 ※#
	専依	細胞診(婦人科ThinPrep) 7A020-8910-076-650	子宮腟部・子宮頸管・プールスメア・腟断端・子宮内膜・外陰	容器ごと提出	V41	室温	3～7	❶❷ 1部位につき 150+45 ※8	TP染色 ※#
	専依	細胞診(婦人科) 7A020-8910-085-433		塗抹標本(湿固定)1枚	Z10			❶❷ 1部位につき 150 ※8	パパニコロウ染色 ※#

❶腟脂膏頸微鏡標本作製、胃液、腹腔穿刺液等の癌細胞標本作製及び眼科プロヴァツェク小体標本作製並びに天疱瘡又はヘルペスウイルス感染症におけるTzanck細胞の標本作製は、細胞診により算定する。
❷同一又は近接した部位より同時に数検体を採取して標本作製を行った場合であっても、1回として算定する。

原則的にASC-US以上、ClassⅢa以上は指導医の判定が必要なため通常日数より遅れる場合がありますのでご了承ください。



病理学的検査

細胞診検査

依頼書等への記入方法

■依頼書
細胞診検査は各種の臨床情報を参考にして行う形態学的検査です。細胞診検査のご依頼にあたっては、専用の細胞診検査依頼書に下記の内容を記載してください。
特に「臨床所見および経過」欄は細胞診の判定内容を左右する因子ですので必ずご記入ください。
依頼書は黒ボールペンで強くご記入ください。
a）患者名、性別、生年月日(必ずご記入ください。)採取日時、年齢、科名等
b）検査材料、検体本数、標本枚数
c）臨床診断、臨床経過、治療諸事項
d）病変の大きさ、性状
e）婦人科材料や乳腺材料の場合、月経等諸事項
f）前回結果
g）前回の登録標本番号

■スライドグラス
a)スリガラス部に患者名をご記入ください。
b)乾燥固定の場合は「乾燥」または「ドライ」とご記入ください。
c)材料名をご記入ください。

■オブジェクトケース
固定された標本をオブジェクトケースに入れてご提出ください。また、細胞診検査依頼書に添付されている検体ラベルに採取日、患者名、性別、年齢を明記してオブジェクトケースにお貼りください。

■検体容器
検体を入れてご提出ください。また、細胞診検査依頼書に添付されている検体ラベルに採取日、患者名、性別、年齢を明記して検体容器にお貼りください。(貼り方：右図参照)
(注意) 細胞診検査は、必ずしも確定診断ではありません。診断はご提出いただいた標本において下されたもので、病変全体を反映するものではないことを予めご了承ください。組織診検査等による総合的な診断をお勧めします。(検診検体は偽陰性となる可能性があります)

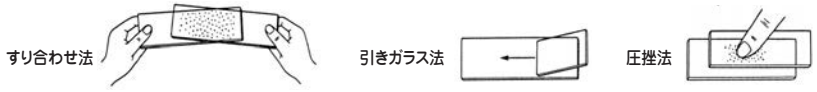


■依頼不可検体
検体の取り扱い上、以下の検体についてはご依頼できませんので、ご注意ください。
・ホルマリン固定された検体
・凍結保存された検体
・修復不可能な破損標本
・右記に示すような検査材料　組織、爪、毛髪、便、血液、胆石、結石、骨髄、胃液、シードスワブ

検査材料の提出方法[塗抹、固定、検査材料、検体量]

■各種材料の塗抹

塗抹の仕方は検査材料の種類、性状などに応じて異なります。下記の要領で塗抹してください。



■標本の固定

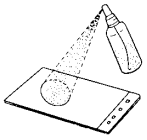
固定は細胞の変性・融解などの変化を停止させる作業ですので、塗抹後直ちに固定する必要があります。湿固定はパパニコロウ染色、PAS染色などのための固定法で、乾燥固定はギムザ染色などのための固定法です。
固定の良否は採取部位・方法とともに細胞診判定内容を左右する重要な因子の一つです。迅速な固定をお願いいたします。

1)湿固定【婦人科細胞診・一般細胞診】
塗抹したスライドグラスを95％エタノールに30分以上浸漬後、ラビッドスプレー等を用いてコーティングしてください。コーティング固定剤を使用する場合は、ムラが生じないよう固定液を塗抹全面に充分に噴霧または滴下してください。

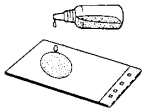
2)乾燥固定【一般細胞診】
塗抹後直ちに、塗抹面を扇風機や冷風ドライヤーなどで急速に乾燥させます。
自然乾燥は乾燥むらを生じるので不充分です。

コーティング固定剤の使用法

噴霧式



滴下式



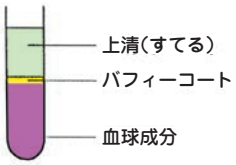
■検査材料、検体量

【一般細胞診】

1） 喀痰
「小豆」大の喀痰を2枚のスライドグラスの間にはさみ、前後左右に押しつぶすように満遍なくのばしてください(すり合わせ法)。癌細胞は血痰部や不透明白濁部、ゼリー状粘液部に多く含まれるので、その部分を塗抹してください。
検体量：湿固定塗抹標本　2枚

2） 擦過材料(気管支、消化管、胸膜・腹膜等)
ブラシ、綿棒等により病巣などを擦過しスライドグラスに塗抹してください。擦過物は非常に乾燥しやすいので塗抹固定を迅速に行うことが必要です。
検体量：湿固定塗抹標本　1枚、乾燥固定塗抹標本　1枚

3） 液状材料(尿、胸水、腹水、心嚢液、陰嚢水腫液、各種洗浄液等)
1500rpm5分間遠心後、沈渣をすり合わせ法または引きグラス法によって塗抹してください。血性検体の場合は有核成分が多いバフィーコート部分を塗抹してください。
検体量：湿固定塗抹標本　1枚、乾燥固定塗抹標本　1枚
また、生材料は、フィブリンの析出を防ぐために抗凝固剤入り容器で数本採取してよく混和し、10mLをポリスピッツに移してご提出ください。
検体量：生材料10mL



4） 針穿刺吸引材料(乳腺、甲状腺、肺、リンパ節、前立腺、睾丸、軟部腫瘍、肝等)
穿刺針内に吸引された材料をスライドグラス中央に静かに吹きだし塗抹します。検体が微量なときはもう1枚のスライドグラスを合わせてからはがし2枚作製してください。多めに得られたときや多量の場合は引きガラス法で塗抹してください。
検体量：湿固定塗抹標本　1枚、乾燥固定塗抹標本　1枚

5） 捺印標本(各種固定腫瘍、リンパ節等)
メスやカミソリで切った新しい組織割面をスライドグラスに軽く捺印してください。
検体量：湿固定塗抹標本　1枚、乾燥固定塗抹標本　1枚

6） 圧挫標本(中枢神経腫瘍、甲状腺腫瘍等)
組織の小塊(直径1-2mm)を2枚のスライドグラスの間にはさみ、軽く押しつぶして組織が伸展したらスライドグラスをはなし、厚い方を湿固定、薄い方を乾燥固定してください。
検体量：湿固定塗抹標本　1枚、乾燥固定塗抹標本　1枚

7） 蓄痰材料
細胞診[喀痰集細胞]専用容器に蓄痰し、容器ごと提出してください。
細胞診[喀痰集細胞]専用容器の取り扱い方法
●1日1回早朝痰を専用容器に喀出し、痰を入れたらフタをして15～20回強く振ってください。この操作を3～5日連続して行います。痰の出にくいときは、茶碗等に熱湯を満たしその蒸気を吸いながら5～6回大きく深呼吸すると痰は出やすくなります。

＜注意＞検体採取から塗抹固定までの許容時間(室温)
喀痰・胸水・腹水・心嚢液…12時間以内
尿・穿刺液・洗浄液・髄液…1時間以内
胆汁・膵液・十二指腸液…氷冷中の容器に採取し、1時間以内
擦過材料・捺印材料・圧挫材料…5秒以内

【細胞診(婦人科)、細胞診(婦人科ベセスダシステム)】
婦人科材料
乾燥しやすいので塗抹後直ちに湿固定してください。
検体量：湿固定塗抹標本　1枚

細胞診検査

検査結果の報告

1）ベセスダシステム
▼標本の適正・不適正の評価について
適正検体：保存状態がよく、鮮明に見える扁平上皮細胞が直接塗抹法では8000～12000個、LBCの場合では5000個以上とされています。
不適正検体：扁平上皮細胞の75%以上が不明瞭である場合、炎症細胞、出血により覆われていた場合、過度な乾燥によるアーチファクトが見られた場合などがあてはまります。
＊適正検体とされた場合に、下記の細胞判定が実施されます。

ベセスダ表記	表記の説明	推定病変
陰性（NILM）	陰性	微生物 その他の非腫瘍性所見
扁平上皮系異常		
ASC-US	意義不明な異型扁平上皮細胞	軽度扁平上皮内病変疑い
ASC-H	HSILを除外できない異型扁平上皮細胞	高度扁平上皮内病変疑い
LSIL	軽度扁平上皮内病変	HPV感染 軽度異形成
HSIL	高度扁平上皮内病変	中等度異形成 高度異形成 上皮内癌
SCC	扁平上皮癌	扁平上皮癌
腺系異常およびその他の悪性腫瘍		
AGC	異型腺細胞	腺異型または腺癌疑い
AIS	上皮内腺癌	上皮内腺癌
Adenocarcinoma	腺癌	腺癌
Other malig.	その他の悪性腫瘍	その他の悪性腫瘍

2）Class判定

判　定	パパニコロウ分類	細胞診所見
陰性（−）	ClassⅠ	異型細胞をみない Abscence of atypical or abnormal cells.
	ClassⅡ	異型細胞はあるが、悪性細胞をみない Atypical cytology but no evidence of malignancy.
疑陽性（±）	ClassⅢ	悪性を疑わせる細胞をみるが確診できない Cytology suggestive of, but not conclusive for malignancy. Ⅲa　Probably benign atypia. Ⅲb　Malignancy suspected.
陽性（＋）	ClassⅣ	悪性、極めて濃厚な異型細胞 Cytology strongly suggestive of malignancy.
	ClassⅤ	悪性と診断可能な異型細胞 Cytology conclusive for malignancy.

＊婦人科細胞診で検査材料が子宮内膜の場合は、上表の判定の内容にて結果をお返しいたします。

標本の保管時間
陰性(NILM)、ClassⅠ・Ⅱの診断標本は5年間保管し、ASC-US以上、ClassⅢa以上のものは10年保管いたします。

参考文献

1. 矢谷 隆一, 他：細胞診を学ぶ人のために.（第4版）医学書院：2005.
2. D. Solomon, R. Nayar編 平井康夫監訳：ベセスダシステム2001アトラス
3. 日本産婦人科医会：ベセスダシステム2001準拠子宮頸部細胞診報告様式の理解のために：2008.12
4. 西 国広, 編：～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方（第4版）近代出版：2018.

	項目コード	検査項目 JLAC10	提出材料	検体量	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法
病理組織検査	専依	病理組織検査(一般病理)	ホルマリン固定組織		VP0 ヒストパック	室温	6～9*	❶1臓器につき860 ※8	パラフィン包埋 ヘマトキシリン・エオジン染色 (必要に応じて特殊染色)
	専依	標本解析	染色済標本	染色済標本2枚	Z10	室温	4～7		
	専依	ブロック作製	ホルマリン固定組織	1×1×1mm以上 10×10×5mm以下	VP0 ヒストパック	室温	3～5*		
	専依	未染色標本作製	ホルマリン固定組織		VP0 ヒストパック	室温	3～5*		
			パラフィンブロック				3～5		
	専依	染色標本作製	ホルマリン固定組織		VP0 ヒストパック	室温	3～5*		
			未染標本スライド	未染標本スライド2枚	Z10		3～5		
	専依	酵素抗体染色	ホルマリン固定組織		VP0	室温	4～5*	❷❸❹❺1臓器につき400 ※8	
			パラフィンブロック				4～5		
			未染標本スライド	未染標本スライド2枚	Z10				

❶病理組織標本作製
(1)「組織切片によるもの」について、次に掲げるものは、各区分ごとに1臓器として算定する。
ア 気管支及び肺臓、イ 食道、ウ 胃及び十二指腸、エ 小腸、オ 盲腸、カ 上行結腸、横行結腸及び下行結腸、キ S状結腸、ク 直腸、ケ 子宮体部及び子宮頸部
(2)「セルブロック法によるもの」について、同一又は近接した部位より同時に数検体を採取して標本作製を行った場合であっても、1回として算定する。
(3)病理組織標本作製において、1臓器又は1部位から多数のブロック、標本等を作製した場合であっても、1臓器又は1部位の標本作製として算定する。
(4)病理組織標本作製において、悪性腫瘍がある臓器又はその疑いがある臓器から多数のブロックを作製し、又は連続切片標本を作製した場合であっても、所定点数のみ算定する。
(5)当該標本作製において、ヘリコバクター・ピロリ感染診断を目的に行う場合の保険診療上の取扱いについては、「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」(平成12年10月31日保険発第180号)に即して行うこと。
(6)「セルブロック法によるもの」は、悪性中皮腫を疑う患者又は組織切片を検体とした病理組織標本作製が実施困難な肺悪性腫瘍、胃癌、大腸癌、卵巣癌、悪性リンパ腫若しくは乳癌を疑う患者に対して、穿刺吸引等により採取した検体を用いてセルブロック法により標本作製した場合に算定する。なお、肺悪性腫瘍、胃癌、大腸癌、卵巣癌、悪性リンパ腫又は乳癌を疑う患者に対して実施した場合には、組織切片を検体とした病理組織標本作製が実施困難である医学的な理由を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
(7)特殊染色加算は、「組織切片によるもの」の場合は1臓器、「セルブロック法によるもの」の場合は1部位につき、それぞれ所定点数(50点)を加算する。
❷「免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製」は、病理組織標本を作製するにあたり免疫染色を行った場合に、方法(蛍光抗体法又は酵素抗体法)又は試薬の種類にかかわらず、1臓器につき1回のみ算定する。
❸「その他(1臓器につき)」について、確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して、標本作製を実施した場合には、1,200点を所定点数に加算する。
❹「確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者」とは、原発不明癌、原発性脳腫瘍、悪性リンパ腫、悪性中皮腫、肺悪性腫瘍(腺癌、扁平上皮癌)、消化管間質腫瘍(GIST)、慢性腎炎、内分泌腫瘍、軟部腫瘍、皮膚の血管炎、水疱症(天疱瘡、類天疱瘡等)、悪性黒色腫、筋ジストロフィー又は筋炎が疑われる患者を指す。これらの疾患が疑われる患者であっても3種類以下の抗体で免疫染色を行った場合は、当該加算は算定できない。
❺肺悪性腫瘍(腺癌、扁平上皮癌)が疑われる患者に対して加算を算定する場合は、腫瘍が未分化であった場合等HE染色では腺癌又は扁平上皮癌の診断が困難な患者に限り算定することとし、その医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に詳細に記載すること。なお、次に掲げるいずれかの項目を既に算定している場合には、当該加算は算定できない。
ア 肺癌におけるEGFR遺伝子検査、ROS1融合遺伝子検査、ALK融合遺伝子検査、BRAF遺伝子検査(次世代シーケンシングを除く。)及びMETex14遺伝子検査(次世代シーケンシングを除く。)に限る
イ 肺癌におけるBRAF遺伝子検査(次世代シーケンシング)、METex14遺伝子検査(次世代シーケンシング)及びRET融合遺伝子検査に限る
ウ 肺癌関連遺伝子多項目同時検査
エ ALK融合遺伝子標本作製

＊所要日数

	所要日数
脱脂・脱灰処理が必要な場合	約3週間
酵素抗体染色が必要な場合	約3週間
手術材料(切り出し時、５ブロック以上になる場合)	2～4週間

※所要日数は目安です。検査の性質上、病理医による判定を含むため多少前後することがあります。





病理学的検査

病理組織検査

ご依頼について

1. 標本解析を実施するうえでHE染色以外に各種染色が必要となった場合は、追加させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。
2. ブロック作製をご依頼される際、摘出臓器のままご提出される場合は、その切り出し図と包埋の方向について依頼書に必ず記載してください。
3. 染色標本作製をご依頼される場合は、未染標本作製の料金もご請求申し上げます。
4. 未染標本スライドで染色標本作製をご依頼される場合は、1染色2枚をご提出ください。
5. 病理組織顕微鏡検査にあたって、免疫抗体法を用いた検査を行った場合は、別途ご請求申し上げます。

■固定方法

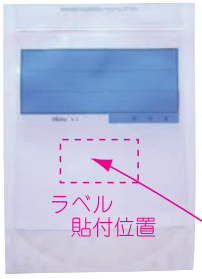
1. 摘出した組織を自家融解、乾燥から防ぐため、直ちに10～20%ホルマリン液を充填した容器に入れ固定してください。
2. 固定液は10～20%ホルマリン液を使用し、組織の10倍量を目安とし充分量を使用してください。
3. 胃生検等の微小組織片を複数個ご提出の際は、ナンバーを鉛筆で記入した濾紙等に貼り付け10～20%ホルマリン液へ入れるか、または採取部位(各ナンバー)ごとに10～20%ホルマリン液の入った容器に入れてください。
4. 一容器に一臓器(一種類の臓器)を入れてご提出ください。なお、大きさが著しく異なる臓器は必ず容器を分けてください。

組織	注意点
消化管・胆嚢	薄い板に粘膜面を上にして虫ピンでとめ、10～20%ホルマリン液に入れます。 約1日後、充分に固定が行われた後にご提出ください。
肺	切り出した面の気管支断端から10～20%ホルマリン液を注入し、できるだけ肺胞を膨らませ空気を追い出したのちに組織を10～20%ホルマリン液に浸してください。約1日後、充分に固定が行われた後にご提出ください。
子宮・乳房・腎	子宮や大きい臓器などでは固定が不充分となることが多いので、あらかじめ割を入れてから固定してください。
胃・腸などのパンチバイオプシー (濾紙につける場合)	濾紙の上に組織を乗せ、そのまま10～20%ホルマリン液に入れてください。 組織を乾燥させないよう充分ご注意ください。

注)病理専用容器(VP0)に入らない大きさの組織は、固定が充分にされた組織より虫ピンなどをはずした後にヒストパックに移してご提出ください。
ヒストパックに少量の10～20%ホルマリン液を入れ、ヒストパック内の空気を抜いた後に上部のジッパーを閉めてください。
依頼書に添付されているラベルに患者名などを記入し、ヒストパックに貼り付けてください。

■提出方法

1. 病理組織検査依頼書に添付されている検体ラベルに患者名・性別・年齢を明記して病理容器にお貼りください。
2. 病理組織検査依頼書には下記の事項を必ず明記してください。
   依頼書は黒ボールペンで強くご記入ください。
   ○提出医　○患者名(フリガナ)・年齢・性別・生年月日(必ずご記入ください。)
   ○依頼内容・検査材料名・標本枚数及び容器数、採取日時
   ○臨床診断・臨床経過及び所見・検査目的　　○既生検番号
   ○婦人科疾患、女性乳腺疾患の場合は、月経・妊娠の状態などを必ず記入してください。
   ○胃や肺など大きな組織を提出される場合は、切り出し部位の指示をお願いします。
3. 依頼書に対し、容器が複数個ある場合は、照合の為必ず容器No.を記入してください。
   容器No.及び臓器名称等が不明確な場合には、確認の連絡をさせていただきますのでご了承ください。
4. 検体輸送時における安全上の観点から、提出容器に「ホルマリン固定組織」であることを明示したうえでご提出ください。
5. 極微細組織などで、検査の材料の有無が不明の検体につきましては、お客様による再確認の為、検体を返却させていただく場合がございます。
6. 検体の取り扱い上、以下の検体についてはご依頼できませんので、ご注意ください。
   ・生体組織材料以外の検体
   ・凍結組織や乾燥した組織
   ・長期間に渡り放置された組織
   ・ヒト以外の動植物組織
   ・クロイツフェルト・ヤコブ病が疑われる患者検体
   ・犯罪が示唆されるような生体組織材料
   ・高放射性検体と疑われる生体組織材料(放射能が充分崩壊するまで保管する設備が整っていないため)



(ヒストパック)


(依頼書)

■そ の 他

電子顕微鏡検査、免疫抗体法のご依頼の際は、事前に当社担当者にご連絡ください。

参考文献

1. 日本病理学会，編：病理技術マニュアル3　病理組織標本作製技術(上)初版、医歯薬出版：1981.
2. 日本病理学会，編：病理技術マニュアル3　病理組織標本作製技術(下)初版、医歯薬出版：1981.
3. 浅野 五郎，編：病理技術詳解3　免疫組織化学法、藤田企画出版：1995.
4. 医歯薬出版，編：新染色法のすべて、医歯薬出版：1999.



	項目コード	検査項目 JLAC10	提出材料	検体量	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法
病理組織検査	専依	エストロゲンレセプター（IHC） 7B020-7725-075-666	未染標本スライド	未染標本スライド4枚	Z10	室温	10~13	❶❷ 720 ※8	免疫組織化学染色法 ※1
	専依	プロゲステロンレセプター（IHC） 7B020-7726-075-666	未染標本スライド	未染標本スライド4枚	Z10	室温	10~13	❶❷ 690 ※8	免疫組織化学染色法 ※1
	専依	エストロゲンレセプター/ プロゲステロンレセプター（IHC）	未染標本スライド	未染標本スライド6枚	Z10	室温	10~13	❶❷ 720 ＋ 180 ※8	免疫組織化学染色法 ※1
	専依	乳癌HER2タンパク(IHC)4B5 5D590-0000-075-666	未染標本スライド	未染標本スライド4枚	Z10	室温	10~13	❷❸ 690 ※8	免疫組織化学染色法 ※1
	専依	乳癌*HER2*遺伝子（FISH） 8C053-0000-075-841	未染標本スライド	未染標本スライド4枚	Z10	室温	11~14	❹❺ 2700 ※8	FISH ※1

❶「エストロジェンレセプター」の免疫染色と「プロジェステロンレセプター」の免疫染色を同一月に実施した場合は、いずれかの主たる病理組織標本作製の所定点数及び注に規定する加算(180点)のみを算定する。
❷「免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製」は、病理組織標本を作製するにあたり免疫染色を行った場合に、方法(蛍光抗体法又は酵素抗体法)又は試薬の種類にかかわらず、1臓器につき1回のみ算定する。
❸「HER2タンパク」は、半定量法又はEIA法(酵素免疫測定法)による病理標本作製を行った場合に限り算定する。
❹「HER2遺伝子標本作製」と「HER2タンパク」を併せて行った場合は3,050点の算定となります。
❺「HER2遺伝子標本作製」は、抗HER2ヒト化モノクローナル抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判断することを目的として、FISH法、SISH法又はCISH法により遺伝子増幅標本作製を行った場合に、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定する。

エストロゲンレセプター（IHC）
プロゲステロンレセプター（IHC）
エストロゲンレセプター/プロゲステロンレセプター（IHC）
乳癌*HER2*遺伝子(FISH) の提出方法

1)本検査は病理検査により確定診断がなされた症例について治療の方針を判定するための検査ですので、病理検査依頼書に病理診断名・組織型をご記入のうえ、ご依頼ください。
2)癌細胞の有無、組織型が不明な場合もありますので、検査依頼時に病理診断書(コピー)の添付をお願いいたします。(ただし、当社で一般病理検査を実施している場合は不要です。)なお、諸事情により添付できない場合には、病理検査依頼書に病理診断名(組織型等)の他、臨床情報等可能な範囲での記載をお願いいたします。
3)材料は乳癌(原発巣または転移巣)の未染標本スライド(ホルマリン固定パラフィンブロックから作製されたもの)となります。シランなどのコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。固定時間は10%中性緩衝ホルマリンで下記時間が推奨されています。

【固定時間】

検査項目	時間
エストロゲンレセプター（IHC）	6～48時間
プロゲステロンレセプター（IHC）	6～48時間
エストロゲンレセプター/プロゲステロンレセプター（IHC）	6～48時間
乳癌*HER2*遺伝子(FISH)	24～48時間

4)免疫組織化学染色法をご依頼の場合、組織切片を4μmの厚さに薄切してください。
FISHをご依頼の場合、組織切片を4～6μmの厚さに薄切してください。
組織切片はなるべく中央に貼り付けてください。
5)乳癌HER2のIHC検査、もしくはFISH検査を既に実施している場合は、その検査成績を依頼書にご記入ください。

乳癌HER2タンパク(IHC)4B5の提出方法

1)癌細胞の有無が不明な場合もありますので、検査依頼時に病理診断書(コピー)の添付をお願いいたします。(ただし、当社で一般病理検査を実施している場合は不要です。)なお、諸事情により添付できない場合には、依頼書に病理診断名(組織型等)の他、臨床情報等可能な範囲での記載をお願いいたします。
2)材料は乳癌(原発巣または転移巣)の未染標本スライド(ホルマリン固定パラフィンブロックから作製されたもの)となります。シランなどのコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、速やかにご提出ください。高温での乾燥は、60℃で30分以内の処理を推奨します。長時間、高温に置くことは避けてください。
3)脱灰処理を行った検体については、正しい結果が得られないため、ご依頼いただけません。
4)固定時間は10%中性緩衝ホルマリンで6～72時間以内(生検標本の場合は検体の大きさに準ずる。)が望ましいとされています。
5)組織は4μmの厚さに薄切し、なるべく中央に貼り付けてください。
6)パラフィンブロックでご依頼の場合、未染標本スライド作製のため所要日数が遅れますので、営業員へご確認ください。

乳癌HER2タンパク(IHC)4B5の判定基準

スコア	染色パターン*	判定
0	染色像が認められない	陰性
	≦10%の腫瘍細胞にかすかな/かろうじて認識できる不完全な膜染色が認められる	陰性(超低発現)
1+	＞10%の腫瘍細胞にかすかな/かろうじて認識できる不完全な膜染色が認められる	陰性(低発現)
2+	＞10%の腫瘍細胞に弱/中等度の全周性の膜染色が認められる	境界域
3+	＞10%の腫瘍細胞に強い完全な全周性の膜染色が認められる	陽性

＊乳癌・胃癌HER2病理診断ガイドライン 第2版（2021年4月）

病理組織検査

各種染色一覧

染色法	目的		結果	備考
ヘマトキシリン・エオジン(HE)染色	一般染色		細胞核、軟骨、細菌、未脱灰石灰化部-青藍色(ヘマトキシリン) 細胞質、結合組織、筋組織、赤血球-種々の紅～赤紅色(エオジン)	すべての染色の基本染色。
マッソン・トリクローム染色	結合組織の染色	膠原線維	核-黒褐色(ワイゲルト鉄ヘマトキシリン)使用する染色液により結果が異なります。	各種の変法があります。
エラスチカ・ワンギーソン染色	結合組織の染色	膠原線維 弾性線維	膠原線維-鮮紅色(酸フクシン)、筋線維、赤血球、細胞質-黄色(ピクリン酸)、核-黒褐色(ワイゲルト鉄ヘマトキシリン)、弾性線維-黒紫色	ワンギーソン染色の単染色で利用されることもあります。
銀染色(鍍銀法)	結合組織の染色	細網線維	好銀線維(細網線維)-黒色 膠原線維-赤紫色	
PAS反応	多糖類染色	糖原(グリコーゲン)	グリコーゲン-赤～赤紫色、核-青藍色(ヘマトキシリン)	粘液、肥満細胞顆粒、アメーバ、真菌も染まります。 PAS反応は各種の染色目的に利用されます。 グリコーゲンは唾液、ジアスターゼ消化法で確認。
アルシアン青染色	多糖類染色	酸性粘液多糖類	酸性粘液多糖類-青色、核-赤色(ケルンエヒトロート)	PAS染色との重染色法があります。
ダイレクト ファーストスカーレット染色	アミロイド染色		アミロイド-赤橙色、核-青藍色(ヘマトキシリン)	過マンガン酸処理によるアミロイドの鑑別があります。
ベルリン青染色	組織内無機物の染色	鉄	ヘモジデリン-青色、背景-淡紅色(ケルンエヒトロート)	染色対象はほとんどヘモジデリンです。
チール・ネルゼンの抗酸菌染色	組織内病原体の染色	抗酸菌染色	抗酸菌-赤色、背景-淡い青色(メチレン青)	
グロコット染色	組織内病原体の染色	真菌	真菌-黒色、背景-緑色(ライト緑)	グリコーゲン、粘液も黒染します。
ギムザ染色	細胞内血液細胞		細菌-赤紫色、核-赤紫色、好酸顆粒-桃赤色	色素のもつ酸性あるいは塩基性性質を利用して、細胞を染色します。ヘリコバクターピロリ感染の補助的検査として用いられます。
グラム染色 (フッカー・コン法)	組織内病原体の染色	一般細菌	陽性菌-青～黒色 陰性菌、線維素-赤色	

酵素抗体染色一覧

検査項目	抗原分布	臨床的意義
上皮細胞抗原(EMA)	多くの腺上皮・導管上皮　一部の中皮	多くの腺癌　扁平上皮癌　中皮腫　滑膜肉腫　脊索腫
ケラチンAE1/AE3 (広範囲)	ほぼ全ての上皮細胞、中皮細胞	上皮性腫瘍　中皮腫 adenomatoid tumor
ケラチン34βE12	扁平上皮細胞　前立腺基底細胞	腫瘍化した扁平上皮　円柱上皮の鑑別
ビメンチン	間葉系細胞　分裂期上皮細胞 胎児尿細管上皮	間葉系腫瘍　一部の腺癌（Grawitz腫瘍甲状腺癌） 未分化癌
デスミン	平滑筋細胞　骨格筋細胞	筋肉系腫瘍
S100蛋白	星状膠細胞　Schwann細胞　satellite cell　軟骨細胞 脂肪細胞　筋上皮細胞	神経膠腫　神経鞘腫　母斑　黒色腫　軟骨肉腫 線維性組織球腫
LCA(CD45)	リンパ球　組織球（一部）	悪性リンパ腫　形質細胞腫　緑色腫
L-26(CD20)	Bリンパ球	悪性B細胞性リンパ腫
CD3	成熟T細胞	T細胞性腫瘍　NKリンパ腫
CD10	腎臓、扁桃腺、リンパ節	バーキットリンパ腫　濾胞性リンパ腫　腎細胞癌
CD34(QBEnd10)	血管内皮細胞　リンパ球系細胞	血管腫　血管肉腫　急性骨髄性白血病
CD56	膵臓、神経芽腫	神経組織・神経内分泌組織・NK細胞関連腫瘍
CD68	組織球由来細胞	組織球系腫瘍　単球性白血病　顆粒細胞腫
CD79α	前Bリンパ球　形質細胞	B細胞性腫瘍　多発性骨髄腫
クロモグラニンA	内分泌細胞　神経細胞の分泌顆粒	神経内分泌腫瘍 （カルチノイド　小細胞癌　下垂体腺腫　甲状腺髄様癌）
シナプトフィジン	正常神経内分泌細胞	神経芽細胞腫　褐色細胞腫　神経内分泌腫瘍
C-kit(CD117)	赤血球　マスト細胞　メラノサイト ICCs（カハールの介在細胞）	マスト細胞腫　悪性黒色腫　血管肉腫 GIST（消化管間葉系腫瘍）セミノーマ
Podoplanin(D2−40)	リンパ管内皮	脈管侵襲
Ki-67（MIB-1）	休止期以外の細胞周期全般	各種腫瘍の増殖活性
P504S	前立腺癌、高度PIN	前立腺癌
α-SMA	平滑筋細胞	平滑筋由来腺腫
TTF-1	肺Ⅱ型肺胞上皮細胞、クララ細胞 甲状腺濾胞上皮細胞	肺腺癌、小細胞癌
p53	p53タンパク	多くの悪性腫瘍
p63	多くの上皮の基底細胞核	前立腺癌、乳癌、子宮頸癌
CK7	重層扁平上皮を除く、多様な上皮細胞	腺癌、移行上皮癌
CK20	腸管上皮、消化管小窟上皮、尿管上皮 皮膚メルケル細胞	結腸癌、移行上皮癌
Napsin A	Ⅱ型肺胞細胞	肺腺癌

上記以外でご希望の抗体がございましたらご連絡ください。
上記以外の項目で検査実施可能の場合は所要日数8 ～ 10日を予定しています。

その他検査

リスク検査

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
リスク検査	4A56	男性AIRS（認知機能評価あり）	速やかに 冷却遠心 血漿 各0.5	PN5 ↓ A00	凍結（7日）	10~13		LC/MS		重 溶 50歳以上の方、かつAILS（認知機能低下）を選択した方が受診する際には、本コードをご選択ください。なお、49歳以下の方は、AILS（認知機能低下）の検査対象外（除外基準）となりますので、別コード（認知機能評価なし）をご選択ください。検体取扱い方法は次ページをご参照ください。本項目は、血液中のアミノ酸濃度から、委託先（味の素株式会社）にてデータ解析することにより、AICS®及びAILS®を報告する検査です。なお、本検査結果はその他の検査結果を考慮して総合的に判断してください。
	4A58	女性AIRS（認知機能評価あり）								
	4A55	男性AIRS（認知機能評価なし）	速やかに 冷却遠心 血漿 各0.5	PN5 ↓ A00	凍結（7日）	10~13		LC/MS		重 溶 49歳以下の方は、AILS（認知機能低下）の検査対象外（除外基準）となります。49歳以下の方、あるいは50歳以上の方であってもAILS（認知機能低下）を選択しなかった方が受診する際には、本コード（認知機能評価なし）をご選択ください。検体取扱い方法は次ページをご参照ください。本項目は、血液中のアミノ酸濃度から、委託先（味の素株式会社）にてデータ解析することにより、AICS®及びAILS®を報告する検査です。なお、本検査結果はその他の検査結果を考慮して総合的に判断してください。
	4A57	女性AIRS（認知機能評価なし）								
	6055	男性AICS（5種）	速やかに 冷却遠心 血漿 各0.5	PN5 ↓ A00	凍結（7日）	10~13		LC/MS		重 溶 検体取扱い方法は次ページをご参照ください。本項目は、血液中のアミノ酸濃度から、委託先（味の素株式会社）にてデータ解析することにより現在、がんである可能性を評価する検査です。なお、本検査結果は、その他の検査結果を考慮して総合的に判断してください。
	6056	女性AICS（6種）								

アミノインデックス®とは

アミノインデックス®は、血液中の各種アミノ酸濃度のバランスから、現在の健康状態や病気の可能性を明らかにする検査です。アミノインデックス®の解析は、味の素株式会社に委託して解析されています。

AIRS®（AminoIndex® Risk Screening）とは

アミノインデックス®を用いて1回の採血で、血液中のアミノ酸バランスから、現在・将来のさまざまな疾患リスクを一度に評価する検査です。

AICS®（AminoIndex® Cancer Screening）とは

アミノインデックス®を用いて、現在がんである可能性を評価する検査です。
男性AICS5種：胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、前立腺がん
女性AICS6種：胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん、子宮がん（子宮頸がん、子宮体がん）・卵巣がん

AILS®（AminoIndex® LifeStyle diseases）とは

血液中のアミノ酸濃度バランスから10年以内に脳卒中・心筋梗塞を発症するリスク、4年以内に糖尿病を発症するリスク、血液中の必須・準必須アミノ酸の低さ、および現在認知機能が低下している可能性を評価し、検査結果に基づくⅠ～Ⅳ、およびⅠ*～Ⅳ*のタイプを報告します。また、このタイプをもとに、生活改善評価情報が提供できます。なお、AILS®単独での受託はできません。

AIRS®、AICS®の留意事項

AIRS®は下記年齢の日本人(妊娠されている方を除く)を対象として開発された検査です。これらの方以外は評価対象外となります。

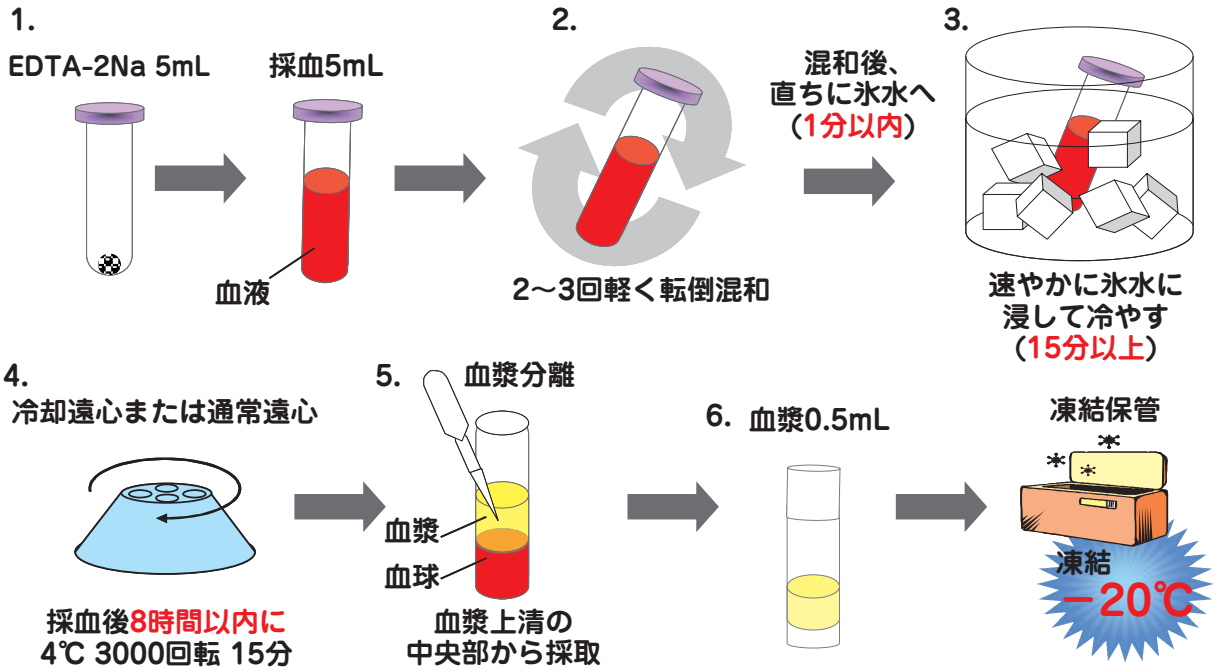
検査項目		評価対象	対象年齢
男性	AICS(5種)	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん	25歳～90歳
		前立腺がん	40歳～90歳
	AILS(脳心疾患リスク)	10年以内に脳卒中・心筋梗塞を発症するリスク	30歳～74歳
	AILS(糖尿病リスク)	4年以内に糖尿病を発症するリスク	20歳～80歳
	AILS(アミノ酸レベル)	血液中の必須・準必須アミノ酸の低さ	
	AILS(認知機能低下)	現在認知機能が低下している可能性 ※AILS(認知機能低下)については49歳以下の方は選択できません	50歳～100歳※
女性	AICS(6種)	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん	25歳～90歳
		子宮がん・卵巣がん	20歳～80歳
	AILS(脳心疾患リスク)	10年以内に脳卒中・心筋梗塞を発症するリスク	30歳～74歳
	AILS(糖尿病リスク)	4年以内に糖尿病を発症するリスク	20歳～80歳
	AILS(アミノ酸レベル)	血液中の必須・準必須アミノ酸の低さ	
	AILS(認知機能低下)	現在認知機能が低下している可能性 ※AILS(認知機能低下)については49歳以下の方は選択できません	50歳～100歳※

※脳卒中の方、心筋梗塞の方、糖尿病の方、認知症の方、軽度認知障害の方(いずれも医療機関で診断を受けた方、あるいは治療中の方)の場合、その疾病・所見に関するAILS値や生活習慣改善タイプは出力されますが、いずれも評価対象外となります。

・妊娠されている方、授乳中の方、がん患者(治療中を含む)の方、先天性代謝異常の方、透析患者の方は、検査結果に影響があるため、検査の実施はご遠慮ください。なお、AILS(認知機能低下)については49歳以下の方は選択できません。
・検査前８時間以内に、水以外(食事、サプリメント等)は摂取せず、午前中に採血してください。(検査前日の高タンパク質の食事も避けてください)また、当日朝の運動はお控えください。
・薬剤による本検査への影響はわかっておりません。
・他項目との重複依頼は避けてください。
・強溶血検体や、血漿(EDTA-2Na)以外の材料での、ご依頼はできません。
・ご依頼の際は性別・年齢を必ず明記してください。

検体の取り扱いについて

1. EDTA-2Na入り採血チューブにて血液約5mLを採取してください。
2. 採血直後、血液を2～3回軽く転倒混和してください。(ローラーでの混和は行わないでください。)
3. 混和後直ちに(1分以内)採血チューブを氷水中(血液の液面まで氷水につかる状態)で冷却(15分以上、遠心操作まで冷却)してください。
4. 採血から8時間以内に冷却条件で遠心分離(4℃、3000回転、15分)または通常遠心分離(3000回転、15分、ローターが昇温していないこと)してください。
5. 遠心後、直ちに上清の血漿を血液との界面に触れないように血漿上清の中央部から採取し、分注してください。
6. 分注後、血漿を4時間以内に凍結保存してください。





	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
健診・検診検査	0986	sd LDL-C（健診） 3F088-0000-023-271	血清 0.5	S09 ⬇ A00	冷蔵（5日）	3～5		直接法	（mg/dL）	※1
	1752	MMRV IgG〔FIA〕検診 5F800-1431-023-041	血清 0.6	S09 ⬇ A00	冷蔵（14日）	3～5		FIA	（AI）	本項目は、ワクチン接種のための確認試験専用項目です。 基準値の詳細はメーカー資料をご確認ください。なお、（AI）はメーカーが設定した抗体価単位です。 ※1

［1752］MMRV IgG〔FIA〕検診のMMRV抗体価と必要予防接種回数（予防接種の記録がない場合）

	あと2回の予防接種が必要	あと1回の予防接種が必要	今すぐの予防接種は不要
M：麻疹	0.4 AI 未満	0.4 AI 以上 1.5 AI 未満	1.5 AI 以上
M：流行性耳下腺炎	0.7 AI 未満	0.7 AI 以上 1.3 AI 未満	1.3 AI 以上
R：風疹	1.0 AI 未満	1.0 AI 以上 3.0 AI 未満	3.0 AI 以上
V：水痘	0.3 AI 未満	0.3 AI 以上 0.5 AI 未満	0.5 AI 以上

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
免疫関連検査	1781	TNF-α(高感度) 5J011-0000-023-023	血清 0.5	S09→A00	凍結	事前にご確認ください		ELISA	0.75～1.66 (参考値) (pg/mL)	※1
	0A20	ペリオスチン 5C265-0000-023-023	血清 0.5	S09→A00	凍結(5日)	事前にご確認ください		ELISA	(ng/mL)	※ハ
	0C10	ミエリン塩基性蛋白(MBP) 5G410-0000-041-023	髄液 0.5	A00	凍結(28日)	事前にご確認ください	570 ※1	ELISA	102以下 (参考値) (pg/mL)	※1
自己免疫機能検査	0A81	TSBAb(TSHレセプター抗体[阻害型])〔Bioassay〕 5G305-0000-023-905	血清 0.3	S09→A00	冷蔵(21日)	3～5		Bioassay	下記参照	溶 溶血でのご依頼は避けてください。(溶血検体では、測定値が高値となる可能性があります。) ※1

研究検査

当社の通常受託項目とは異なり研究を目的とした検査であるため、基準値ならびに臨床的意義が明確にならない項目もございますので、内容をご理解のうえ、ご依頼いただきますようお願い申し上げます。

[0A81]TSBAb(TSHレセプター抗体[阻害型])〔Bioassay〕(参考基準値)

名称	指標内容	参考基準値(単位)
TSBAb	TSHレセプター抗体(阻害型)	13.1未満(%)
SI(Stimulation Index)	甲状腺刺激ホルモン受容体(TSHR)への刺激活性の指標	設定なし
BI(Blocking Index)	刺激活性を排除したTSBAb阻害活性の指標	8.0未満(単位なし)

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考
その他特殊検査	7907	総タウ蛋白(AD) 5C200-0000-041-052	髄液 2.5	XR5	冷蔵（15日）	4～10		CLEIA	146～410（pg/mL）	重 溶 「7906：リン酸化タウ」および「7905：β-アミロイド1-42/1-40比」以外との重複依頼は避けてください。 髄液採取時、最初の1 ～ 2mLは使用しないでください。 必ず指定容器(XR5)に所定の量(2.5mL)を直接採取し、ご提出ください。 容器の移し替えや量不足でのご提出は避けてください。血液の混入により検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 検体の取り扱い上、クロイツフェルト・ヤコブ病を疑う患者検体の場合は、ご依頼できません。 ※1
	2368	高分子量アディポネクチン〔CLEIA〕 4Z402-0000-023-052	血清 0.3	S09 ⬇ A00	冷蔵（28日）	3～9		CLEIA	（μg/ mL）	※1
その他	2742	海外委託 ジフテリア抗体 5E062-0000-023-022	血清 1.0	S7P ⬇ A00	凍結	15～21		EIA	0.10以上（IU/mL）	健常者のワクチン接種による抗体価獲得のスクリーニング検査であり罹患者のモニタリングには不適当です。 ※K

研究検査

当社の通常受託項目とは異なり研究を目的とした検査であるため、基準値ならびに臨床的意義が明確にならない項目もございますので、内容をご理解のうえ、ご依頼いただきますようお願い申し上げます。

海外委託検査依頼上の注意事項

1.検体保存は厳守してください。（特に-70℃保存検体は充分注意してください）
2.検体返却はできませんので、あらかじめご了承ください。
3.国内検査との依頼書および検体の重複は避けてください。
4.ご依頼は当社依頼書「追加項目欄」に依頼項目コード、依頼項目名をご記入ください。



液相(核酸)ハイブリダイゼーション

液相中でrRNAを遊離させ、化学発光物質で標識したDNAプローブを用いてハイブリダイゼーションを行い、ハイブリッドを分離剤に吸着させた後、化学発光により検出する方法。

凝固時間法

測定対象となる因子の欠乏血漿とトロンボプラスチン、アクチン、塩化カルシウムを加え、凝固するまでの時間を測定する方法。

金コロイド法

金コロイド標識抗体を反応させ、抗原抗体反応により金コロイド粒子が凝集する色調変化を光学的に測定する方法。

原子吸光分析法

元素試料を化学炎中や加熱グラファイト管中などで元素の原子化を行い、この原子蒸気に元素固有の共鳴線をあてると原子蒸気中の原子の数に応じて吸収されることを利用して、吸光度から元素量を定量する方法。

酵素抗体法

目的とする抗原に対して、酵素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行い、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。
酵素で標識した抗体を直接反応させる直接法と、抗原に対して未標識の抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を2次反応させる間接法がある。

酵素法

測定原理は比色法と同様で、測定物質を酵素を用いて特異的に測定する方法。

サザンブロットハイブリダイゼーション(Southern blot hybridization)

制限酵素で消化したDNAを電気泳動により分画し、1本鎖DNAに変性後、毛細管現象を利用してナイロンメンブレンに転写して、標的プローブとハイブリダイゼーションを行い、目的の遺伝子を検出する方法。DNAの量的、質的変化の異常を解析する場合に用いられる。

ダイレクトシーケンス法

PCR法で増幅したDNAを鋳型として直接塩基配列を決定する方法。

超遠心法

超遠心機を用いて蛋白質の比重の差により分離し測定する方法。

電気泳動法

荷電粒子の浮遊する電解質溶液に通電すると、粒子は各粒子の荷電と逆の極側に移動する現象を利用し、移動度から目的の物質を測定する方法。
水溶液支持体にはセルロースアセテート膜、アガロースゲル、ポリアクリルアミドゲルなどが用いられる。

電極法

電極と溶液界面における電荷移行反応を利用した方法。
イオン選択電極は特定のイオンに応答し、イオンの活量の対数に比例して生じる電位差からイオンの濃度を測定する。

等温核酸増幅法

PCR法とは異なり、鎖置換型DNA合成酵素などを用いて、核酸を一定温度で増幅する方法。

ネフェロメトリー (Nephelometry)

抗原抗体反応による混濁物に光を照射させ、光の散乱強度を測定する方法。

発色性合成基質法

ヘパリンを加えてAT-Ⅲ-ヘパリン複合体を形成させ、そのトロンビン不活化能をトロンビンに対する発色性合成基質を用いて測定する方法。

比色法(Colorimetry)

測定物質を着色物質に変換後、可視部波長を照射して吸光度を測定して色調を標準液と比較する方法。

フローサイトメトリー (Flow cytometry)

蛍光色素で標識したモノクローナル抗体で染色した細胞を高速度で流しながらレーザー光を照射し、前方散乱光(細胞の大きさ)や90°散乱光(細胞の内部構造)と蛍光強度(細胞表面の対応抗原)から個々の細胞を解析する方法。
2種類の蛍光色素を用いて二重染色を行い解析する場合はTwo-colorフローサイトメトリーと呼ばれる。

ラインブロット法(Line immunoassay)

抗原を機械的にメンブレン上に点着し、抗原に対する特異的抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を、2次反応させ、抗体の検出を行う方法。

リアルタイムPCR

PCR法を基本原理とする核酸増幅法の一種であり、分解により蛍光を発するオリゴヌクレオチドを利用することにより、PCRサイクルごとに蛍光シグナルを確認することでリアルタイムにターゲット核酸の定量が可能となる測定方法。

検査方法の概略

(各種)band

リンパ球または骨髄細胞を培養し、分裂中期の細胞を固定する。その後、色素で染色体上に縞模様(バンド)を染め出し、その分布と濃淡から分析を行う方法。
トリプシン溶液で処理後ギムザ染色を行うG-Banding、HCl、$Ba(OH)_2$、2×SCCで処理後ギムザ染色するC-Banding、キナクリン・マスタードで染色後、蛍光顕微鏡で観察するQ-Banding、分裂前期の終わりから分裂中期の始めの分裂像を用い、通常よりバンド数を増やして観察する高精度分染法などがある。

CF(Complement fixation)
補体結合反応

補体が抗原抗体複合体と結合することと溶血反応を引き起こすことを利用した方法。
赤血球に溶血素を結合した感作赤血球は補体が結合すると溶血を起こすが、抗原抗体複合体が存在すると補体が消費され溶血が阻止されることから、溶血の程度から抗体の存在を判定する。

CLEIA(Chemiluminescent enzyme immunoassay)
化学発光酵素免疫測定法

固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、酵素標識した抗体を抗原に2次反応させ、化学発光基質を加えて発光強度を測定する方法。

CLIA(Chemiluminescent immunoassay)
化学発光免疫測定法

固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、化学発光性物質で標識した抗体を抗原に2次反応させ、化学発光性物質の発光強度を測定する方法。

ECLIA(Electro chemiluminescence immunoassay)
電気化学発光免疫測定法

抗体を結合したビーズを用いて抗原と反応させた後、ルテニウムピリジン錯体で標識した抗体を抗原に2次反応させ、電気化学反応によりルテニウムピリジン錯体の発光強度を測定する方法。

EIA(Enzyme immunoassay)
酵素免疫測定法

測定原理はRIAと同様で、標識物質に酵素で標識した抗原または抗体を用いて抗原抗体反応を行い、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。

ELISA(Enzyme-Linked immunosorbent assay)
酵素免疫測定法

固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、酵素標識した抗体を抗原に2次反応させ、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。

ELISPOT(Enzyme-Linked ImmunoSpot)

抗体を固相化したプレートに、分離細胞と特異抗原を加え培養し、細胞から産生されたタンパク質を発色基質と反応させ、スポットを得る方法。

FA(Fluorescent antibody method)
蛍光抗体法

IFA(Indirect Fluorescent antibody method)
間接蛍光抗体法

目的とする抗原に対して、蛍光色素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行い、蛍光顕微鏡下で蛍光強度を測定する方法。
蛍光色素で標識した抗体を直接反応させる直接法と、抗原に対して抗体を反応させた後、蛍光色素で標識した抗体を2次反応させる間接法がある。

FEIA(Fluorescence enzyme immunoassay)
蛍光酵素免疫測定法

EIAの1つで、標識物質に酵素で標識した抗原または抗体を用いて抗原抗体反応を行い、蛍光基質を加えて蛍光強度を測定する方法。

FIA(Fluorescence Immunoassay)
蛍光免疫測定法

固相化した抗原に対して標的物質を反応させた後、蛍光物質で標識した抗体または抗原を2次反応させ、蛍光強度を測定する方法。

FISH(Fluorescence *in situ* hybridization)
蛍光 in situ ハイブリダイゼーション

蛍光色素で標識したプローブを用いて標的DNAとハイブリダイゼーションを行い、特定の波長で発色させた蛍光部位を染色体上のシグナルとして蛍光顕微鏡下で検出する方法。
蛍光色素で標識したプローブと標的DNAを直接結合させる直接法と、標識物質で標識したプローブと標的DNAを結合させた後に、標識プローブと蛍光物質を結合させて発色させる間接法がある。

HA(Hemagglutination)
赤血球凝集反応

赤血球の表面抗原と抗体を反応させ、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体の存在を判定する方法。

HI(Hemagglutination inhibition)
赤血球凝集抑制反応

ウイルスのもつ赤血球凝集能が、ウイルスに対する抗体により抑制されることを利用した方法。抗原抗体複合体と赤血球を反応させ、凝集抑制の有無によりウイルスに対する抗体の存在を判定する。

HPLC(High performance liquid chromatography)
高速液体クロマトグラフィー

移動相に液体を用いる液体クロマトグラフィーで、高密度充填カラムと高圧ポンプを用いて高速かつ高精度に分離する方法。

IC(Immuno-Chromatography)
イムノクロマト法

検体中の抗原または抗体と、金コロイド粒子などで標識させた標識抗体または標識抗原が、メンブレンフィルター上を免疫複合体を形成しながら移動し、メンブレンフィルター上にあらかじめ固定化された抗体または抗原で免疫複合体が補足され、呈色し、目視などで結果判定する検出法。

IRMA(Immuno radio metric assay)
免疫放射定量法

RIAの1つで、固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、放射性同位元素(RI)で標識した抗体を抗原に2次反応させる方法。
固相化抗体と標識抗体が抗原を挟む形で結合することから、サンドイッチ法とも呼ばれる。

KIMS(Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution)

抗原または抗体を結合させたマイクロパーティクルを用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の濁度を、光を照射させて透過率から測定する方法。

LA(Latex agglutination)
ラテックス凝集反応

抗原または抗体を吸着(結合)させたラテックス粒子(感作ラテックス粒子)を用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体または抗原の存在を判定する方法。

LA(Latex agglutination immunoassay)
ラテックス凝集比濁法

抗原または抗体を吸着(結合)させたラテックス粒子を用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の濁度を、光を照射させて透過率または光の散乱強度から測定する方法。

LAMP(Loop-Mediated Isothermal Amplification)

標的遺伝子の配列から6つの領域に対して4種類のプライマーを設定し、鎖置換反応を利用して一定温度で反応させる方法。

LC/MS(Liquid chromatography/mass spectrometry)
液体クロマトグラフィー質量分析法

目的物質を高速かつ高精度に分離するHPLCに、MS(質量分析)を検出器として結合させ、検出選択性・定性機能を更に向上させた方法。

LC/MS/MS(Liquid chromatography tandem mass spectrometry)
液体クロマトグラフィータンデム四重極型質量分析法

液体クロマトグラフで親和性の差を利用して目的とする物質の成分を分解し、質量分析計でさらに質量ごとに分離して特定の質量イオンを解離・フラグメント化させ、それらのイオンを検出する方法。

LPIA(Latex photometric immunoassay)
ラテックス近赤外免疫比濁法

抗原または抗体を結合させたラテックス粒子を用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の濁度を、近赤外光を照射させて透過率を測定する方法。

MALDI-TOF-MS

レーザー光を吸収するマトリックスと分析物の混合物にレーザー照射し、タンパク質を分解させずにイオン化する方法(MALDI)と、生成されたイオンの質量電荷比によりイオンの飛行時間が異なることを利用して質量分析を行う方法(TOF-MS)を組み合わせた方法。
MALDI：Matrix-Assisted Laser Desorption/Ionization
マトリックス支援レーザー脱離イオン化
TOF-MS：Time-of-Flight Mass Spectrometry
飛行時間型質量分析法

MLPA(Multiplex ligation-dependent probe amplification)

共通PCRプライマー配列を融合させた特異プローブを標識領域にハイブリダイズ後、PCRを行い、その増幅産物の量的変化について、比較的大規模なゲノム欠失もしくは重複を検出する方法。

NT(Neutralization test)
中和反応

ウイルスがウイルスに対する抗体との反応により感染性が失われる(中和)ことを利用した方法。
ウイルスと抗体を反応させた後、ウイルスに感受性のある培養細胞に接種し、細胞変性効果(cytopathogenic effect:CPE)の有無により中和抗体の存在を判定する。

PA(Particle agglutination)
粒子凝集反応

抗原または抗体を吸着(結合)させたゼラチン粒子など(感作粒子)を用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体または抗原の存在を判定する方法。

PCR(Polymerase chain reaction)

DNAが加熱により2本鎖から1本鎖に解離し、冷却することで2本鎖に戻ることを利用し、1本鎖DNAを鋳型として目的のプライマーを結合させ、DNAポリメラーゼの転写反応によりDNA合成を行うことを繰り返し、目的とするDNA領域を指数関数的に増幅させる方法。

PHA(Passive hemagglutination)
受身赤血球凝集反応

赤血球の表面に抗原を吸着(結合)させた感作赤血球を用いて抗体を反応させ、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体の存在を判定する方法。

POT法(PCR-based ORF Typing)

菌株毎に保有状態が異なるORF(Open Reading Frame:遺伝子の読み枠)を選んでおき、それらの保有パターンをマルチプレックスPCRによって検出することで菌株の遺伝子型(POT型)を決定する方法。POT型を比較することで菌株レベルの識別が可能となり、集団感染から得られた分離株は、多くの場合、同一POT型になります。

RIA(Radio immunoassay)
放射性免疫測定法

抗体に対して放射性同位元素(RI)で標識した抗原と検体中の抗原を競合的に抗原抗体反応を行い、抗体と結合した標識抗原(結合型：Bound)と抗体と結合していない標識抗原(遊離型：Free)を分離し、その割合を放射活性から抗原の濃度として測定する方法。
結合型と遊離型の分離方法(B/F分離)として、抗体を固相化しておく固相法、抗原抗体複合体に第2抗体を結合させて沈澱させる2抗体法、抗原抗体複合体を硫酸アンモニウム(硫安)で沈澱させる硫安塩析法、抗原抗体複合体を沈澱試薬で沈澱させるPEG法などがある。

RRA(Radio receptor assay)
ラジオレセプターアッセイ

測定原理はRIAと同様で、抗体の代わりにレセプター（受容体)を用いて、その反応性から生物活性を求める方法。

RT-PCR(Reverse transcriptase-polymerase chain reaction)

RNAが増幅対象の場合に、RNAを鋳型として逆転写酵素(reverse transcriptase:RT)により相補的なcDNAを合成してPCRを行う方法。

TIA(Turbidimetric immnoassay)
免疫比濁法

抗原抗体反応による混濁物に光を照射させ、透過率を測定する方法。

TMA(Transcription mediated amplification)

2種類の酵素と2種類のプライマーおよび基質を用いてRNAを増幅する方法。
抽出したRNAから逆転写酵素により2本鎖DNAを合成し、この2本鎖DNAを鋳型としてRNAポリメラーゼの転写反応によりRNAを合成することを繰り返し、目的とするRNA領域を増幅させる。

TRC(Transcription Reverse Transcription Concerted reaction)

インターカレーター性蛍光色素が標識されたDNAプローブと一定温度RNA増幅法を組み合わせて、RNAを1ステップで増幅・リアルタイム検出する方法。

UV法(Ultraviolet absorption spectrophotometry)
紫外部吸光光度分析

測定原理は比色法と同様で、紫外部波長を用いて測定する方法。
通常は200～400nmの近紫外部の波長が使われる。

^{3}H-サイミジン取り込み能(^{3}H-TdR uptake)

リンパ球が非自己抗原による刺激に反応して芽球化する現象を利用した方法。
リンパ球に刺激物質と^{3}H-サイミジンを加えて培養し、DNA合成により^{3}H-サイミジンが細胞に取り込まれる量を放射活性として測定する。刺激物質にはPHA、Con-A、薬剤などが用いられる。

参考文献一覧

検査項目	測定法参考文献
蛋白・膠質反応	
総蛋白(TP)	Gornall AG et al：J Biol Chem 177：751 ～ 766, 1949.
アルブミン(Alb)	佐々木　真弓,他：医療と検査機器・試薬 26（4）：335 ～ 338, 2003.
尿中アルブミン	舛方　栄二：検査と技術 33（7）：625 ～ 630, 2005.
尿中アルブミン(クレアチニン換算値)	舛方　栄二：検査と技術 33（7）：625 ～ 630, 2005.
A/G比	浅井　孝道：検査と技術 7（10）：815 ～ 820, 1979.
蛋白分画	伊藤　喜久：Medical Technology 39（3）：278 ～ 284, 2011.
クンケル反応(ZTT)	金井　正光,他：臨床検査法提要 第34版(金原出版)：458：2015.
酵素および関連物質	
CK(CPK)	日本臨床化学会：臨床化学 19（2）：184 ～ 208, 1990.
CK-MB(CPK-MB)〔免疫阻止-UV法〕	Wurzburg U et al：Klinische Wochenschrift 54：357 ～ 360, 1976.
AST(GOT)	日本臨床化学会：臨床化学 18（4）：226 ～ 230, 1989.
ALT(GPT)	日本臨床化学会：臨床化学 18（4）：250 ～ 254, 1989.
LD(LDH)IFCC	Schumann et al：Clin Chem Lab Med 49（9）：1439 ～ 1446, 2011.
LD(LDH)アイソザイム	森山　隆則,他：Medical Technology 25（1）：45 ～ 51, 1997.
アルカリフォスファターゼ(ALP)IFCC	Schumann et al：Clin Chem Lab Med 49（9）：1439 ～ 1446, 2011.
骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)	倉澤　健太郎,他：医学と薬学 55（2）：279 ～ 285, 2006.
胎盤型アルカリフォスファターゼ(PLAP)	Shinichiro Watanabe, et al：Pediatr Neurosurg 48：141 ～ 145, 2012.
ALPアイソザイム(IFCC)	芝　紀代子：目でみる電気泳動法2（医歯薬出版）：55 ～ 71, 1989.
γ-GT(γ-GTP)	日本臨床化学会酵素専門委員会：臨床化学 24（2）：106 ～ 121, 1995.
アルドラーゼ	三浦　雅一,他：臨床検査機器・試薬 12（5）：1005 ～ 1009, 1989.
コリンエステラーゼ(ChE)	大澤　進,他：臨床化学 24（3）：138 ～ 145, 1995.
グアナーゼ	手登根　稔,他：検査と技術 13（10）：901 ～ 905, 1985.
アデノシンデアミナーゼ(ADA)	佐野　史良,他：臨床検査機器・試薬 9（4）：715 ～ 720, 1986.
ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)	小林　照明,他：臨床検査機器・試薬14（6）：929 ～ 935, 1991.
アミラーゼ(AMY)	日本臨床化学会 酵素・試薬専門委員会：臨床化学 34（4）：350 ～ 361, 2005.
アミラーゼアイソザイム	星野　忠,他：日本臨床検査自動化学会会誌 37（3）：293 ～ 297, 2012.
P型アミラーゼ定量	高笠　信之：The Chemical Times 201（3）：9 ～ 11, 2006.
リパーゼ	宇治　義則,他：検査と技術 25（10）：819 ～ 824, 1997.
トリプシン	植田　進之介, 他：医学と薬学 77（12）：1659 ～ 1668, 2020.
膵ホスホリパーゼA_2（膵PLA_2）	竹田　昌弘,他：ホルモンと臨床 38（7）：729 ～ 734, 1990.
エラスターゼ1	大出　勝也,他:胆と膵 23(6):477～480, 2002.
子宮頸管粘液中 顆粒球エラスターゼ	北村　光,他：臨床検査機器・試薬 21（4）：357 ～ 361, 1998.
骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ(TRACP-5b)	西沢　良記,他：医学と薬学 54（5）：709 ～ 717, 2005.
リゾチーム	北村　元仕,他：実践臨床化学 増補版(医歯薬出版)：432 ～ 436, 1982.
アンギオテンシンⅠ転換酵素(ACE)	Kasahara Y et al：Clinical Chemistry 27（11）：1922 ～ 1925, 1981.
ペプシノゲン	三木　一正,他：医学と薬学 56（6）：889 ～ 896, 2006.
MMP-3（マトリックスメタロプロテイナーゼ-3）	氏家　真二,他：医学と薬学 67（5）：741 ～ 747, 2012.
胃がんリスク層別化検査(ABC分類)〔LA〕	乾　正幸,他：日本ヘリコバクター学会誌 19（1）：33 ～ 42, 2017.
低分子窒素化合物	
クレアチニン	安原　正善,他：臨床検査機器・試薬 17（1）：59 ～ 67, 1994.
シスタチン C	Tanaka M, et al：Clinical Biochemistry 37（1）：27 ～ 35, 2004.
尿酸(UA)	金井　泉,他：臨床検査法提要 第32版(金原出版)：503 ～ 507, 2005.
尿素窒素(UN)	森下　芳孝：Medical Technology 26（6）：695 ～ 700, 1998.
アンモニア	奥田　拓道, 他：最新医学 21（3）：622 ～ 627, 1966.
アミノ酸分析(39種類)〔LC/MS〕	Shimbo K. et al：Biomedical Chromatography 24（7）：683 ～ 691, 2010.
アミノ酸分析(41種類)	日本生化学会：生化学実験講座１１　アミノ酸代謝と生体アミン　1版：53 ～ 67, 1976.
アミノ酸分析(9種類)〔LC/MS〕	Shimbo K. et al：Biomedical Chromatography 24（7）：683 ～ 691, 2010.
アミノ酸分析2種類(チロシン・フェニルアラニン)〔LC/MS〕	Shimbo K. et al：Biomedical Chromatography 24（7）：683 ～ 691, 2010.
総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比(BTR)	中村　俊之,他：臨床病理 37（8）：911 ～ 917, 1989.
ハイドロキシプロリン-総	鈴木　隆夫,他：日本臨床化学会年会記録 28：118, 1988.
血中総ホモシステイン	Christian Hellmuth, et al：Journal of Chromatography B, 879：83 ～ 89, 2011.
糖質および関連物質	
グルコース	日本臨床化学会試薬専門委員会：臨床化学 20（4）：247 ～ 254, 1991.
ヘモグロビンA1c(HbA1c)(NGSP)	水松　良光,他：日本臨床検査自動化学会会誌 41（2）：215 ～ 220, 2016.
グリコアルブミン	石橋　みどり,他：医学と薬学 52（3）：403 ～ 412, 2004.
ヒアルロン酸	島村　朗,他：医学と薬学 44（6）：1141 ～ 1146, 2000.
1,5-アンヒドロ-D- グルシトール(1,5AG)	遠藤　輝夫,他：医療と検査機器・試薬 26（1）：45 ～ 50, 2003.
シアル酸	水田　亘,他：臨床病理 54（特集）：128 ～ 134, 1983.

検査項目	測定法参考文献
有機酸	
乳酸	浅沼　和子,他：生物試料分析 8（3）：16～24, 1985.
ピルビン酸	浅沼　和子,他：生物試料分析 8（3）：16～24, 1985.
尿中シュウ酸	小川　由英,他：腎と透析 臨増：151～157, 1997.
血中ケトン体分画	西ヶ谷　晴美,他：医学検査 45（3）：353, 1996.
アセトン定量	深堀　すみ江,他：労働科学 59（12）：555～562, 1983.
脂質および関連物質	
中性脂肪(TG)	Tamaoku K et al：Chem Pharm Bull 30（7）：2492～2497, 1982.
リン脂質	Takayama M et al：Clinica Chimica Acta 79：93～98, 1977.
遊離脂肪酸(NEFA)	Sugo S, et al：Clinical Chemistry 36（1）：163, 1990.
総コレステロール(T-Cho)	金井　正光,他：臨床検査法提要 第34版(金原出版)：512, 2015.
エステル型コレステロール(Echo)	Richmond W：Clinical Chemistry 19（12）：1350～1356, 1973.
遊離コレステロール(F-Cho)	Richmond W：Clinical Chemistry 19（12）：1350～1356, 1973.
コレステロールエステル比	Richmond W：Clinical Chemistry 19（12）：1350～1356, 1973.
HDL-コレステロール	田口　隆由,他：臨床検査機器・試薬 24（1）：35～41, 2001.
$HDL_{2,3}$コレステロール	Bronzert TJ et al：Clinical Chemistry 23（11）：2089～2098, 1977.
LDL-コレステロール	菅野　剛史,他：医学と薬学 37（3）：635～644, 1997.
レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)	大石　千早,他：日本臨床検査自動化学会会誌 35（1）：83～87, 2010.
sd LDL-コレステロール	伊藤　康樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 37（1）：10～16, 2012.
酸化LDL(MDA-LDL)	小谷　一夫：酸化ストレスマーカー 学術出版センター：243～246, 2005.
脂肪酸分画(24成分)	小沢　昭夫,他：分析化学 31：87～91, 1982.
脂肪酸分画(4成分)	小沢　昭夫,他：分析化学 31：87～91, 1982.
極長鎖脂肪酸	小池　亮子：小児科診療 53（増）：394～397, 1990.
総胆汁酸	今野　稔：臨床検査機器・試薬 16（3）：472～479, 1993.
リポ蛋白分画〔アガロースゲル電気泳動法〕	芝　紀代子：目でみる電気泳動法 2：91～99, 1989.
コレステロール分画	櫻林　郁之介,他：HDL－コレステロール基礎と臨床（(株)テクノ）：207～220, 1980.
リポプロテイン(a)	岡野　芳幸,他：日本臨床検査自動化学会会誌 21（5）：705～709, 1996.
リポ蛋白リパーゼ(LPL)	Kobayashi J et al：Clinica Chimica Acta 216：113～123, 1993.
アポリポ蛋白 A-Ⅰ	岡崎　伸次,他：日本臨床検査自動化学会会誌 12（4）：334, 1987.
アポリポ蛋白 A-Ⅱ	岡崎　伸次,他：日本臨床検査自動化学会会誌 12（4）：334, 1987.
アポリポ蛋白 B	岡崎　伸次,他：日本臨床検査自動化学会会誌 12（4）：334, 1987.
アポリポ蛋白 C-Ⅱ	岡崎　伸次,他：日本臨床検査自動化学会会誌 12（4）：334, 1987.
アポリポ蛋白 C-Ⅲ	岡崎　伸次,他：日本臨床検査自動化学会会誌 12（4）：334, 1987.
アポリポ蛋白 E	岡崎　伸次,他：日本臨床検査自動化学会会誌 12（4）：334, 1987.
肺サーファクタント プロテインA(SP-A)	大木　卓,他：医学と薬学 71（1）：161～166, 2014.
肺サーファクタント プロテインD(SP-D)	関根　かりん,他：医療検査と自動化 49（3）：186～190, 2024.
ビタミンおよび関連物質	
β-カロチン	加美山　茂利,他：臨床検査 31（3）：268～274, 1987.
ビタミンA	須原　聡,他：臨床検査 36（3）：235～239, 1992.
ビタミンB_1	宮川　秀則,他：生物試料分析 36（4）：327～330, 2013.
ビタミンB_2	大石　誠子：ビタミンハンドブック3 ビタミン分析法(化学同人)：71～80, 1989.
ビタミンB_6	吉田　継親,他：薬学雑誌 98（10）：1319～1326, 1978.
ビタミンB_{12}	中森　誠,他：医療と検査機器・試薬 27（3）：215～221, 2004.
カルニチン分画	Takahashi M et al：Clinical Chemistry 40（5）：817～821, 1994.
ビタミンC(アスコルビン酸)	Lykkesfeldt J et al：Analytical Biochemistry 229：329～335, 1995.
25OHビタミンD(骨粗鬆症)	小島　哲：臨床化学 48（3）：239～244, 2019.
25ヒドロキシビタミンD(くる病・骨軟化症)	小島　哲：臨床化学 48（3）：239～244, 2019.
1,25-$(OH)_2$ビタミンD	Fraser WD et al：Ann Clin Biochem 34：632～637, 1997.
ビタミンE	阿部　皓一,他：栄養と食糧 28（5）：277～280, 1975.
ビタミンK分画	langenberg JP et al：Journal of Chromatography 305：61～72, 1984.
葉酸	西村　和子,他：生物試料分析 35（4）：299～308, 2012.
ニコチン酸(ナイアシン)	宮沢　滋：ビタミン 56（9・10）：487～499, 1982.
電解質・血液ガス	
Na(ナトリウム)	桑　克彦：臨床検査 34（11）：1353～1358, 1990.
Cl(クロール)	関口　光夫：検査と技術 17（9）：1167～1172, 1989. 桑　克彦：臨床検査 34（11）：1353～1358, 1990.
K(カリウム)	桑　克彦：臨床検査 34（11）：1353～1358, 1990. 高橋　勝幸：検査と技術 20（6）：106～110, 1992.
Mg(マグネシウム)	北村　元仕：実践臨床化学 1版(医歯薬出版)：166～171, 1974.

参考文献一覧

検査項目	測定法参考文献
Ca(カルシウム)	根占　哲也：都臨技会誌 34（5）：270 ～ 281, 2006.
P(無機リン)	Drewes PA：Clinica Chimica Acta 39：81 ～ 88, 1972.
浸透圧	鈴木　明,他：検査と技術 6（9）：759 ～ 762, 1978.
生体微量金属	
鉄(Fe)(血清)	荒明　洋,他：臨床検査機器・試薬 6（2）：359 ～ 366, 1983.
鉄(Fe)(尿)	溝口　秀昭：臨床医 8（10）：1624 ～ 1626, 1982.
総鉄結合能(TIBC)	荒明　洋,他：臨床検査機器・試薬 6（2）：359 ～ 366, 1983.
不飽和鉄結合能(UIBC)	荒明　洋,他：臨床検査機器・試薬 6（2）：359 ～ 366, 1983.
Cu(銅)(血清)	Abe A et al：Clinical Chemistry 35（4）：552 ～ 554, 1989.
Cu(銅)(尿)	Ichida T et al：Clinica Chimica Acta 24：299 ～ 303, 1969.
Zn(亜鉛)(血清)	井上　哲,他：医療と検査機器・試薬41（3）：283 ～ 287, 2018.
Zn(亜鉛)(尿)	Meret S et al：Clinical Chemistry 17（5）：369 ～ 373, 1971.
生体色素関連物質	
総ビリルビン(T-Bil)	徳田　邦明,他：臨床化学 22（2）：116 ～ 122, 1993.
直接ビリルビン	徳田　邦明,他：臨床化学 22（2）：116 ～ 122, 1993.
間接ビリルビン	徳田　邦明,他：臨床化学 22（2）：116 ～ 122, 1993.
コプロポルフィリン 定性	近藤　雅雄：日本臨牀 53（6）：1377 ～ 1382, 1995.
コプロポルフィリン(尿)	近藤　雅雄：日本臨牀 53（6）：1377 ～ 1382, 1995.
コプロポルフィリン(血液)	Salmi M et al：Clinical Chemistry 26（13）：1832 ～ 1835, 1980.
ウロポルフィリン	Salmi M et al：Clinical Chemistry 26（13）：1832 ～ 1835, 1980.
プロトポルフィリン	Salmi M et al：Clinical Chemistry 26（13）：1832 ～ 1835, 1980.
δ-アミノレブリン酸(δALA)	圓藤　陽子,他：産業医学 35（2）：126 ～ 127, 1993.
毒物・産業医学的代謝物質	
尿中総三塩化物 トリクロルエチレン	城山　康,他：松仁会医誌 25（2）：225 ～ 231, 1986.
尿中総三塩化物 1,1,1-トリクロルエタン	城山　康,他：松仁会医誌 25（2）：225 ～ 231, 1986.
尿中総三塩化物 テトラクロルエチレン	城山　康,他：松仁会医誌 25（2）：225 ～ 231, 1986.
尿中トリクロル酢酸 トリクロルエチレン	城山　康,他：松仁会医誌 25（2）：225 ～ 231, 1986.
尿中トリクロル酢酸 1,1,1-トリクロルエタン	城山　康,他：松仁会医誌 25（2）：225 ～ 231, 1986.
尿中トリクロル酢酸 テトラクロルエチレン	城山　康,他：松仁会医誌 25（2）：225 ～ 231, 1986.
尿中馬尿酸	岸浪　菊江子,他：臨床化学 17（3）：128 ～ 135, 1988.
尿中メチル馬尿酸	岸浪　菊江子,他：臨床化学 17（3）：128 ～ 135, 1988.
尿中スチレン代謝物	岸浪　菊江子,他：臨床化学 17（3）：128 ～ 135, 1988.
尿中マンデル酸エチルベンゼン	岸浪　菊江子,他：臨床化学 17（3）：128 ～ 135, 1988.
尿中N-メチルホルムアミド	Mraz J et al：Journal of Chromatography 414：399 ～ 404, 1987.
尿中2,5-ヘキサンジオン	Iwata M et al：Int Arch Occup Environ Health 51：253 ～ 260, 1983.
アルミニウム(Al)	Oster O：Clinica Chimica Acta 114（1）：53 ～ 60, 1981.
クロム	松岡　澄：産業医学 13（6）：525 ～ 537, 1971. 田中　俊行,他：医学と生物学 101（5）：277 ～ 281, 1980.
カドミウム	Lagesson V et al：Clinical Chemistry 25（11）：1948 ～ 1953, 1979.
マンガン	Tsalev DL et al：Bulletin of Environmental Contamination & Toxicology 17（6）：660 ～ 666, 1977.
生化学(その他)	
ネオプテリン	Hausen A et al：Journal of Chromatography 227（1）：61 ～ 70, 1982.
エタノール	馬嶋　正隆,他：北里医学 14：424 ～ 430, 1984.
イヌリン定量〔酵素法〕	木全　伸介,他：医療と検査機器・試薬 28（2）：143 ～ 149, 2005.
結石分析(成分比率)	神　ちひろ,他：分析化学 53（7）：735 ～ 741, 2004.
抗菌薬	
アミカシン	木村　英樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 33（5）：860 ～ 864, 2008.
トブラマイシン	木村　英樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 33（5）：860 ～ 864, 2008.
ゲンタマイシン	石橋　みどり,他：医学と薬学 42（6）：1061 ～ 1074, 1999.
バンコマイシン	石澤　春美,他：栃木県臨床衛生検査技師会雑誌 8（2）：103 ～ 107, 2013.
テイコプラニン	諸岡　美里,他：日本臨床検査自動化学会会誌 38（1）：79 ～ 82, 2013.
抗てんかん薬	
カルバマゼピン	石橋　みどり,他：医学と薬学 42（6）：1061 ～ 1074, 1999.
ジアゼパム	Brodie R R et al：Journal of Chromatography 150（2）：361 ～ 366, 1978.
エトスクシミド	宮本　侃治：臨床化学 6（3）：202 ～ 211, 1978.
フェノバルビタール	石橋　みどり,他：医学と薬学 42（6）：1061 ～ 1074, 1999.
フェニトイン	石橋　みどり,他：医学と薬学 42（6）：1061 ～ 1074, 1999.

検査項目	測定法参考文献
プリミドン	宮本　侃治：臨床化学 6（3）：202 ～ 211, 1978.
バルプロ酸	石橋　みどり,他：医学と薬学 42（6）：1061 ～ 1074, 1999.
トリメタジオン	斉藤　正行,他：ドラッグレベルモニタリング　治療への臨床化学的アプローチ：100 ～ 110, 1982.
ゾニサミド	安田　真依,他：医療と検査機器・試薬 38（2）：205 ～ 210, 2015.
トピラマート	Matar, K M：Clinica Chimica Acta 411：729 ～ 734, 2010.
レベチラセタム	Mendu D R, et al：Clinical Biochemistry 43（4-5）：485 ～ 489, 2010.
ブリーバラセタム	Mohamed S, et al：Ther Drug Monit 42（3）：445~451, 2020.
スチリペントール	Deeb S,et al：J Anal Toxicol 38（8）：485 ～ 494, 2014.
ルフィナミド	Deeb S,et al：J Anal Toxicol 38（8）：485 ～ 494, 2014.
ペランパネル	Mano Y, et al：J Pharm Biomed Anal 107：56 ～ 62, 2015.
ラコサミド	Drew Payto, et al：Bioanalysis 6（23）：3161 ～ 3168, 2014.
アセタゾラミド	Sadee W et al：ドラッグレベルモニタリング：90 ～ 91, 1982.
免疫抑制薬	
シクロスポリン	大前　星佳,他：医学と薬学 81（3）：257 ～ 261, 2024.
タクロリムス	岡崎　一幸,他：医学と薬学 79（8）：1109 ～ 1116, 2022.
ミコフェノール酸	細坪　秀夫,他：今日の移植 14（4）：485 ～ 491, 2001.
循環器用薬	
ジゴキシン	水内　由利,他：医学と薬学 35（4）：847 ～ 851, 1996.
ジソピラミド	扇谷　茂樹,他：臨床検査機器・試薬 6（2）：520 ～ 523, 1983.
リドカイン	宮本　侃治：臨床化学 6（3）：202 ～ 211, 1978.
プロカインアミド	木村　英樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 33（5）：860 ～ 864, 2008.
プロプラノロール	Ahnoff M et al：Journal of Chromatography 340：73 ～ 138, 1985.
ピルメノール	市川　林,他：臨床医薬 11（4）：903 ～ 906, 1995.
精神神経用薬	
ハロペリドール	白井　晶子,他：医学と薬学 49（6）：1011 ～ 1017, 2003.
ブロムペリドール	白井　晶子,他：医学と薬学 50（1）：101 ～ 107, 2003.
リチウム	細羽　恵美子,他：臨床化学 46（1）：39 ～ 46, 2017.
薬物（その他）	
アセトアミノフェン	木村　英樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 33（5）：860 ～ 864, 2008.
テオフィリン	石橋　みどり,他：医学と薬学 42（6）：1061 ～ 1074, 1999.
サリチル酸	木村　英樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 33（5）：860 ～ 864, 2008.
メトトレキサート	鈴木　瑛真,他：医療検査と自動化 50（1）：16 ～ 21, 2025.
イマチニブ	Bakhtiar R, et al：Journal of Chromatography B 768：325 ～ 340, 2002.
血液一般・形態検査	
血液一般検査	金井　正光,他：臨床検査法提要 第32版(金原出版)：265 ～ 295, 2005.
好酸球数	金井　正光,他：臨床検査法提要 第32版(金原出版)：265 ～ 295, 2005.
網状赤血球数(RET)	金井　正光,他：臨床検査法提要 第32版(金原出版)：265 ～ 295, 2005.
末梢血液像	西　国広,他：血液形態観察のすすめ方　第2版：1 ～ 288, 1995. 巽　典之,他：自動血液検査品質保証論：26 ～ 27, 2005.
好中球アルカリフォスファターゼ(AL-P染色スコアー)	古沢　新平：臨床検査技術全書３　血液検査(三輪史朗編)第１版　(医学書院)：134 ～ 136, 1972.
鼻汁中好酸球	奥田　稔：臨床検査 29（3）：267 ～ 272, 1985.
凝固・線溶関連検査	
活性化部分 トロンボプラスチン時間(APTT)	日野　志郎：臨床検査講座15 血液学：244 ～ 250, 1984.
プロトロンビン時間(PT)	高宮　脩：臨床検査機器・試薬 17（6）：1079 ～ 1085, 1994.
フィブリノゲン(FIB)	金井　正光,他：臨床検査法提要 第33版　(金原出版)：358 ～ 360, 2010.
可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)	八戸　雅孝,他：臨床病理 60（12)別冊：1139 ～ 1144, 2012.
フィブリンモノマー複合体定量	内藤　澄悦,他：医学と薬学 48（4）：595 ～ 599, 2002.
FDP定量(血漿)	長野　美恵子,他：医療と検査機器・試薬 27（1）：23 ～ 29, 2004.
FDP定量(尿)	堀内　伸純,他：臨床検査機器・試薬 14（2）：267 ～ 270, 1991.
Dダイマー	佐野　将也,他：臨床検査機器・試薬 20（2）：301 ～ 308, 1997.
プロトロンビンフラグメントF1+2	Pelzer H, et al：Thrombosis and Haemostasis 65（2）：153 ～ 159, 1991.
アンチトロンビン(AT)	Scully M F et al：Clinica Chimica Acta 79（3）：595 ～ 602, 1977.
トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)	木村　真波,他：医療と検査機器・試薬 33（4）：525 ～ 533, 2010.
プラスミノゲン	Friberger P et al：Haemostasis 7：138 ～ 145, 1978.
アンチプラスミン（α_2プラスミンインヒビター）	Friberger P et al：Haemostasis 7：138 ～ 145, 1978.
α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PICテスト)	徐　吉夫,他：臨床検査機器・試薬 16（6）：1107 ～ 1113, 1993.
トータルPAI-1（tPA・PAI-1複合体）	曽我部　万紀,他：医学のあゆみ 173（12）：997 ～ 998, 1995.

参考文献一覧

検査項目	測定法参考文献
凝固因子活性検査 第Ⅷ因子(F8)〔合成基質法〕	金井　正光,他：臨床検査法提要 第34版(金原出版)：407～410, 2015.
凝固因子活性検査 第Ⅸ因子(F9)〔合成基質法〕	金井　正光,他：臨床検査法提要 第34版(金原出版)：407～410, 2015.
凝固因子活性検査 第Ⅱ因子(F2)	安達　眞二：Medical Technology 24（6）：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅴ因子(F5)	安達　眞二：Medical Technology 24（6）：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅶ因子(F7)	安達　眞二：Medical Technology 24（6）：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅷ因子(F8)	安達　眞二：Medical Technology 24（6）：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅸ因子(F9)	安達　眞二：Medical Technology 24（6）：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅹ因子(F10)	安達　眞二：Medical Technology 24（6）：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅺ因子(F11)	安達　眞二：Medical Technology 24（6）：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第Ⅻ因子(F12)	安達　眞二：Medical Technology 24（6）：629～633, 1996.
凝固因子活性検査 第XIII因子(F13)	Fickenscher K et al：Thrombosis and Haemostasis 65（5）：535～540, 1991.
フォン・ウィルブランド因子抗原定量	Stufano F. et al：Haemophilia 20（1）：147～153, 2014.
凝固抑制因子検査 第Ⅷ(8)因子	Sirridge MS et al：Laboratory Evaluation of Hemostasis and Thrombosis 3rd：196～198, 1983.
凝固抑制因子検査 第Ⅸ(9)因子	Sirridge MS et al：Laboratory Evaluation of Hemostasis and Thrombosis 3rd：196～198, 1983.
フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター)	Stufano F. et al：Haemophilia 20（1）：147～153, 2014.
ADAMTS13-活性	伊藤　晋,他：日本輸血細胞治療学会誌 56（1）：27～35, 2010.
ADAMTS13 インヒビター	伊藤　晋,他：日本輸血細胞治療学会誌 56（1）：27～35, 2010.
β-トロンボグロブリン(β-TG)	高橋　芳右,他：血液と脈管 18（4）：326～335, 1987.
血小板第4因子(PF-4)	高橋　芳右,他：血液と脈管 18（4）：326～335, 1987.
プロテインC(抗原量)	筒井　聰明,他：検査と技術 12（7）：581～587, 1984.
プロテインC活性	藤岡　貴：医学と薬学 73（5）：621～626, 2016.
プロテインS(抗原量)	安藤　秀実,他：医療と検査機器・試薬 41（5）：509～519, 2018.
プロテインS活性	藤岡　貴：医学と薬学 73（5）：621～626, 2019.
プロテインS(遊離型抗原量)	安藤　秀実,他：医療と検査機器・試薬 41（5）：509～519, 2018.
トロンボモジュリン	小野　真弓,他：日本臨床検査自動化学会会誌 38（1）：114～117, 2013.
視床下部・下垂体ホルモン	
成長ホルモン(GH)	小山　沙世,他：医学と薬学 68（5）：899～910, 2012.
IGF-1(ソマトメジンC)SDスコア	Isojima T, et al：Endocr J 70（10）：1023～1027, 2023.
プロラクチン	古屋　実,他：医学と薬学 74（7）：819～830, 2017.
副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	古屋　実,他：医学と薬学 74（7）：819～830, 2017.
黄体形成ホルモン(LH)	古屋　実,他：医学と薬学 74（7）：819～830, 2017.
卵胞刺激ホルモン(FSH)	古屋　実,他：医学と薬学 74（7）：819～830, 2017.
甲状腺刺激ホルモン(TSH)〔CLEIA〕IFCC	北川　亘,他：医学と薬学 78（1）：59～70, 2021.
抗利尿ホルモン(AVP)	田中　誠仁,他：医学と薬学 72（8）：1379～1388, 2015.
甲状腺ホルモンおよび結合蛋白	
遊離トリヨードサイロニン(Free T_3)〔CLEIA〕	矢野　美沙紀, 他：医学と薬学 77（5）：793～804, 2020.
遊離サイロキシン(Free T_4)〔CLEIA〕	矢野　美沙紀, 他：医学と薬学 77（5）：793～804, 2020.
サイログロブリン	北川　亘,他：医学と薬学 71（9）：1655～1666, 2014.
副甲状腺ホルモン	
副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	山岡　美穂,他：医学と薬学 46（5）：753～758, 2001.
副甲状腺ホルモン(Whole PTH)	森山　和重,他：医学と薬学 70（4）：829～836, 2013.
副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	福本　誠二,他：ホルモンと臨床 40（12）：1309～1314, 1992.
カルシトニン	北川　亘,他：医学と薬学 72（1）：97～108, 2015.
副腎皮質ホルモンおよび結合蛋白	
血中11-OHCS	宇田川　美佐子,他：臨床化学 5（3）：321～325, 1977.
コルチゾール(血中)	柿沢　圭亮,他：医学と薬学 73（1）：71～76, 2016.
尿中コルチゾール	関口　昌江,他：医学と薬学 69（6）：985～991, 2013.
デヒドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)	増戸　梨恵,他：医学と薬学 56（3）：443～448, 2006.
副腎髄質ホルモン	
カテコールアミン総	Honda S et al：Analytica Chimica Acta 149：297～303, 1983.
カテコールアミン3分画(血漿)	辻　潮,他：臨床検査機器・試薬 11（4）：635～641, 1988.
カテコールアミン3分画(尿)	Honda S et al：Analytica Chimica Acta 149：297～303, 1983.
メタネフリン・ノルメタネフリン分画(クレアチニン換算値)	水村　千恵,他：医学検査 68（2）：276～280, 2019. Xie Z, et al：J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci 1099：83～91, 2018.
メタネフリン・ノルメタネフリン分画	水村　千恵,他：医学検査 68（2）：276～280, 2019. Xie Z, et al：J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci 1099：83～91, 2018.
L-ドーパ	守　和子：産業医学 17：170～171, 1975.
ドーパミン総	守　和子：産業医学 17：170～171, 1975.
HVA	Gironi A et al：Clinical Chemistry 34（12）：2504～2506, 1988.

検査項目	測定法参考文献
VMA	Gironi A et al：Clinical Chemistry 34（12）：2504～2506, 1988.
セロトニン(血液)	Anderson GM et al：Gastroenterology 88：86～89, 1985.
セロトニン(血漿)	Nebinger P et al：Journal of Chromatography 427：326～330, 1988.
5-HIAA(血漿)	小島　司,他：臨床化学 21（2）：119～126, 1992.
5-HIAA(尿)	Mailman RB et al：Clinical Chemistry 31（11）：1849～1854, 1985.
性腺・胎盤ホルモンおよび結合蛋白	
エストラジオール(E_2)	古屋　実,他：医学と薬学 74（7）：819～830, 2017.
プロゲステロン	古屋　実,他：医学と薬学 74（7）：819～830, 2017.
プレグナンジオール	平井　利生,他：日本臨床検査自動化学会会誌 9（2）：564～567, 1984.
プレグナントリオール	平井　利生,他：日本臨床検査自動化学会会誌 9（2）：564～567, 1984.
テストステロン	古屋　実,他：医学と薬学 74（7）：819～830, 2017.
絨毛性ゴナドトロピン(βHCG)	高橋　亘,他：医学検査 57（4）：404, 2008.
遊離HCG-β(HCG-βサブユニット)	Cole LA：Clinical Chemistry 43（12）：2233～2243, 1997.
抗ミュラー管ホルモン(AMH)〔CLEIA〕	浅田　義正,他：医学と薬学 76（10）：1527～1532, 2019.
膵・消化管ホルモン	
インスリン	唐澤　美佳,他：医療と検査機器・試薬 29（5）：479～484, 2006.
C-ペプチド(CPR)	唐澤　美佳,他：医療と検査機器・試薬 29（5）：485～491, 2006.
膵グルカゴン	北村　忠弘,他：医学と薬学 82（4）：229～239, 2025.
ガストリン	花石　智子,他：医学と薬学 80（5）：513～520, 2023.
内分泌学的(その他)	
アルドステロン〔CLEIA〕	佐藤　文俊,他：医学と薬学 76（12）：1819～1826, 2019.
レニン濃度(ARC)〔CLEIA〕	佐藤　文俊,他：医学と薬学 76（12）：1827～1832, 2019.
レニン活性(PRA)〔EIA〕	宇津　貴央,他：医学と薬学 73（3）：311～321, 2016.
サイクリックAMP	孫　孝義,他：日本内分泌学会雑誌 61（9）：912～923, 1985.
ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	浜　典男,他：基礎と臨床 25（13）：4205～4212, 1991.
ヒト脳性ナトリウム 利尿ペプチド(BNP)	伊藤　洋子,他：医学と薬学 64（6）：931～939, 2010.
NT-proBNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)	高橋　美穂,他：医学と薬学 83（2）：55～64, 2026.
エリスロポエチン	増田　詩織,他：医学と薬学 67（2）：297～306, 2012.
オステオカルシン	吉村　典子,他：Osteoporosis Japan 13（3）：759～765, 2005.
低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	西村　順,他：医学と薬学 57（4）：523～535,　2007.
肝細胞増殖因子(HGF)	二井谷　好行,他：臨床検査 35（13）：1360～1364, 1991.
FGF23〔CLEIA〕	和泉　裕一,他：医療と検査機器・試薬 42（3）：219～224, 2019.
アディポネクチン〔LA〕	Nishimura A. et al：Clinica Chimica Acta 371：163～168, 2006.
レプチン〔ELISA〕	小川　佳宏,他：医学と薬学 77（5）：1～8, 2020.
sFlt-1/PlGF比	Stefan Verlohren, et al：American Journal of Obstetrics Gynecology 202（2）：161.e1～161.e11, 2009.
腫瘍関連抗原	
癌胎児性抗原(CEA)	鈴木　尚子,他：医学と薬学 56（6）：897～907, 2006.
α-フェトプロテイン定量	鈴木　尚子,他：医学と薬学 56（6）：897～907, 2006.
塩基性フェトプロテイン(BFP)	設楽　光弘,他：臨床病理 36（9）：1039～1044, 1988.
CA125	黒田　雅顕：医療と検査機器・試薬 29（6）：589～596, 2006.
組織因子経路インヒビター 2(TFPI2)	明庭　昇平,他：東ソー研究・技術報告 65：89～93, 2021.
CA15-3	黒田　雅顕：医療と検査機器・試薬 29（6）：589～596, 2006.
BCA225	小林　美耶子,他：医学と薬学 72（7）：1249～1259, 2015.
CA19-9	鈴木　尚子,他：医学と薬学 56（6）：897～907, 2006.
CA72-4	矢田　紗世,他：医学と薬学 74（7）：831～840, 2017.
CA54/61	野澤　志朗,他：癌と化学療法 19（12）：2085～2093, 1992.
DUPAN-2	櫻林　郁之介,他：臨床病理 34（6）：705～710, 1986.
APOA2アイソフォーム	十亀　麻子,他：医学と薬学 80(11)：1089~1096, 2023.
シアリルLe^x-i抗原(SLX)	井村　裕夫,他：癌と化学療法 14（5）：1315～1321, 1987.
シアリルLe^{x}抗原(CSLEX)	三嶋　芳樹,他：医学と薬学 29（5）：1193～1200, 1993.
NCC-ST-439	吉岡　久,他：臨床病理 35（11）：1233～1238, 1987.
SPan-1	梅山　馨,他：膵臓 3（4）：528～539, 1988.
SCC	林　圭織,他：医学と薬学 76（12）：1809～1818, 2019.
前立腺特異抗原(PSA)	細羽　恵美子,他：医学と薬学 76（11）：1635～1641, 2019.
S2,3PSA%	米山　徹,他：医療と検査機器・試薬 46（5）：244～257, 2023.
γ-セミノプロテイン(γ-Sm)	佐藤　達郎,他：医学と薬学 43（1）：97～106, 2000.
シフラ(CYFRA)(サイトケラチン19フラグメント)	黒田　雅顕：医療と検査機器・試薬 29（6）：597～602, 2006.
5-S-システイニルドーパ(5-S-CD)	Wakamatsu K et al：Clinical Chemistry 40（3）：495～496, 1994.
NSE(神経特異エノラーゼ)	矢田　紗世,他：医学と薬学 74（7）：831～840, 2017.

参考文献一覧

検査項目	測定法参考文献
PIVKA-Ⅱ	古谷　桃子,他：医学検査 68（1）：56 ～ 60, 2019.
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	山本　典江,他：医療と検査機器・試薬 32（2）：263 ～ 267, 2009.
血清抗p53抗体	橋本　礼輔,他：医学と薬学 75（8）：955 ～ 964, 2018.
血清 HER2タンパク	LuftnerD,　et　al：The International Journal of Biological Markers 19（3）：175 ～ 182, 2004.
可溶性メソテリン関連ペプチド	中町　衛,他：医学と薬学 65（2）：261 ～ 267, 2011.
CCR4タンパク〔FCM〕	日本臨床検査標準協議会　血液検査標準化検討委員会：日本臨床検査標準協議会会報 18（2）：69 ～ 107, 2003.
ウイルス感染症検査	
HBVゲノタイプ	田中　靖人,他：臨床病理 57（1）：42 ～ 47, 2009.
HBV DNA定量(IU)	菅原　昌章,他：医学と薬学 73（10）：1329 ～ 1339, 2016.
HBs抗原(HQ)	戸来　孝,他：医学と薬学 72（9）：1569 ～ 1577, 2015.
HBs抗体〔CLEIA〕	大根　久美子,他：臨床病理 63（8）907 ～ 912, 2015.
B型肝炎ウイルスコア関連抗原(HBcrAg)	Inoue T, et al：J Hepatol 75（2）：302 ～ 310, 2021.
HBc抗体(IgG)	八橋　弘,他：医学と薬学 66（6）：1075 ～ 1081, 2011.
IgM-HBc抗体	熊谷　保之：日本臨床検査自動化学会会誌 25（1）：70 ～ 74, 2000.
HA抗体	矢野　公士,他：医学と薬学 58（1）：151 ～ 161, 2007.
IgM-HA抗体	矢野　公士,他：医学と薬学 58（1）：151 ～ 161, 2007.
HCV群別(グルーピング)	長谷川　瞳,他：医学と薬学70（3）：633 ～ 641, 2013.
HCV RNAコアジェノタイプ	Ohno T et al：Journal of Clinical Microbiology 35（1）：201 ～ 207, 1997.
HCV RNA定量	菅原　昌章,他：医学と薬学 73（10）：1329 ～ 1339, 2016.
HCV抗原(コア蛋白質)	田原　和子,他：日本臨床検査自動化学会会誌 36（2）：267 ～ 274, 2011.
IgA-HEV抗体(定性)	飯野　四郎,他：医学と薬学 53（4）：461 ～ 469, 2005.
ヒトパルボウイルスB19 IgG	要藤　裕孝,他：感染症学雑誌 69（10）：1135 ～ 1140, 1995.
ヒトパルボウイルスB19 IgM	要藤　裕孝,他：感染症学雑誌 69（10）：1135 ～ 1140, 1995.
ヒトパルボウイルスB19DNA 定性	Sevall JS：Molecular and Cellular Probes 4：237 ～ 246, 1990.
ヒトパピローマウイルスDNA(16型､18型､その他ハイリスクグループ)	三浦　俊昭,他：医学と薬学 69（1）：157 ～ 162, 2013.
ヒトパピローマウイルス(HPV)ジェノタイプ判定	尾崎　聡,他：臨床病理 60（7）：621 ～ 626, 2012.
アデノウイルス	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880 ～ 886, 1988.
アデノウイルスDNA 定性	Lu X, et al：J Clin Microbiol 51（4）：1089 ～ 1093, 2013.
アデノウイルスDNA 定量	Lu X, et al：J Clin Microbiol 51（4）：1089 ～ 1093, 2013.
アデノウイルス 1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260 ～ 274, 1973.
アデノウイルス 2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260 ～ 274, 1973.
アデノウイルス 3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260 ～ 274, 1973.
アデノウイルス 4型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260 ～ 274, 1973.
アデノウイルス 5型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260 ～ 274, 1973.
アデノウイルス 6型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260 ～ 274, 1973.
アデノウイルス 7型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260 ～ 274, 1973.
アデノウイルス 11型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260 ～ 274, 1973.
アデノウイルス 19型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260 ～ 274, 1973.
アデノウイルス 21型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260 ～ 274, 1973.
アデノウイルス 37型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260 ～ 274, 1973.
単純ヘルペスウイルス特異抗原	川名　尚,他：感染症学雑誌 61（9）：1030 ～ 1037, 1987.
単純ヘルペスウイルス	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル　(文光堂)：880 ～ 886, 1988.
単純ヘルペスウイルス IgG	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48 ～ 61, 1987.
単純ヘルペスウイルス IgM	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48 ～ 61, 1987.
単純ヘルペスウイルス DNA 定性	Cao M et al：J Invest Dermatol 82：391 ～ 392, 1989.
単純ヘルペスウイルス 1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論　2版(丸善)：260 ～ 274, 1973.
単純ヘルペスウイルス 2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論　2版(丸善)：260 ～ 274, 1973.
単純ヘルペスウイルス 1型・2型-IgG	林　伸英,他：生物試料分析 36（3）：229 ～ 234, 2013.
水痘・帯状疱疹ウイルス抗原	新村　眞人,他：感染症学雑誌 64（2）：195 ～ 201, 1990.
水痘・帯状疱疹ウイルス	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル　(文光堂)：880 ～ 886, 1988.
水痘・帯状疱疹ウイルス IgG	吉田　晃,他：臨床とウイルス 13（4）：490 ～ 496, 1985.
水痘・帯状疱疹ウイルス IgM	平野　勝,他：医学と薬学 42（4）：641 ～ 645, 1999.
水痘・帯状疱疹ウイルスDNA 定性	本藤　良,他：日本臨牀 50（特別号）：160 ～ 165, 1992.
水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定量	Kimura H et al：The Journal of Infectious Diseases 178：310 ～ 317,　1998.
サイトメガロウイルス pp65抗原(C7-HRP)	権藤　久司,他：臨床血液 34（11）：1438 ～ 1444, 1993.
サイトメガロウイルス	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル　(文光堂)：880 ～ 886, 1988.
サイトメガロウイルス IgG	熊田　洋高,他：医学と薬学 72（6）：1087 ～ 1094, 2015.
サイトメガロウイルス IgM	熊田　洋高,他：医学と薬学 72（6）：1087 ～ 1094, 2015.
サイトメガロウイルス核酸検出(新生児尿)	Mitani Y, et al：Nat Methods 4（3）：257 ～ 262, 2007.
サイトメガロウイルス DNA 定性	Olive DM et al：Journal of Clinical Microbiology 27（6）：1238 ～ 1242, 1989.
サイトメガロウイルス核酸定量	森　沙耶香,他：医学と薬学 77（8）：1181 ～ 1188, 2020.
EBウイルスDNA 定量	Kimura H, et al：J Clin Microbiol 37（1）：132 ～ 136, 1999.
EBウイルス 抗VCA IgG〔EIA〕	脇口　宏,他：医学と薬学 58（2）：363 ～ 369, 2007.

参考文献一覧

検査項目	測定法参考文献
EBウイルス 抗VCA IgG〔FA〕	日沼　頼夫,他：臨床病理 特(35)：179～189, 1978.
EBウイルス 抗VCA IgM〔EIA〕	脇口　宏,他：医学と薬学 58（2）：363～369, 2007.
EBウイルス 抗VCA IgM〔FA〕	日沼　頼夫,他：臨床病理 特(35)：179～189, 1978.
EBウイルス 抗VCA IgA	日沼　頼夫,他：臨床病理 特(35)：179～189, 1978.
EBウイルス 抗EA IgG	脇口　宏,他：医学と薬学 58（2）：363～369, 2007.
EBウイルス 抗EA-DR IgG	日沼　頼夫,他：臨床病理 特(35)：179～189, 1978.
EBウイルス 抗EA-DR IgA	日沼　頼夫,他：臨床病理 特(35)：179～189, 1978.
EBウイルス 抗EBNA	日沼　頼夫,他：臨床病理 特(35)：179～189, 1978.
EBウイルス 抗EBNA IgG	脇口　宏,他：医学と薬学 58（2）：363～369, 2007.
ヒトヘルペスウイルス6型DNA 定性	近藤　一博,他：蛋白質核酸酵素 35（17）：3041～3047, 1990.
ヒトヘルペスウイルス6型DNA定量	Tanaka N et al：Bone Marrow Transplantation 26：1193～1197, 2000.
ヒトヘルペスウイルス7型DNA 定性	Yalcin S et al：Archives of Virology 136：183～190, 1994.
エンテロウイルス 70型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エンテロウイルス 71型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群4型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群5型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群6型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群7型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群9型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群9型〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス A群10型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス A群16型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群1型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群1型〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス B群2型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群2型〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス B群3型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群3型〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス B群4型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群4型〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス B群5型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群5型〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
コクサッキーウイルス B群6型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
コクサッキーウイルス B群6型〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
エコーウイルス 1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 3型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 4型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 5型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 6型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 7型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 9型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 11型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 12型〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 13型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 14型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 16型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 17型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 18型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 19型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 21型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 22型(パレコウイルス1型)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 24型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 25型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
エコーウイルス 30型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
日本脳炎ウイルス(JaGAr株)	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第2分冊：81～97, 1987.
日本脳炎ウイルス	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
風疹ウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：214～225, 1973.
風疹ウイルス IgG	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48～61, 1987.
風疹ウイルス IgM	佐藤　俊則,他：臨床とウイルス 23（1）：44～47, 1995.
インフルエンザウイルス A型(H1N1)(H3N2)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
インフルエンザウイルス A型	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
インフルエンザウイルス B型〔HI〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：214～225, 1973.

参考文献一覧

検査項目	測定法参考文献
インフルエンザウイルス B型〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
パラインフルエンザウイルス 1型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：214～225, 1973.
パラインフルエンザウイルス 2型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：214～225, 1973.
パラインフルエンザウイルス 3型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：214～225, 1973.
RSウイルス〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
RSウイルス〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
麻疹ウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
麻疹ウイルス IgG	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48～61, 1987.
麻疹ウイルス IgM	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48～61, 1987.
ムンプスウイルス〔NT〕	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版(丸善)：260～274, 1973.
ムンプスウイルス〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル　(文光堂)：880～886, 1988.
ムンプスウイルス IgG	尾崎　隆男,他：臨床とウイルス 50（3）：129～133, 2022.
ムンプスウイルス IgM	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：48～61, 1987.
HTLV-Ⅰ(ATLV) 抗体(一次検査)	植栁　泰,他：医学と薬学 73（8）：1031～1035, 2016.
HTLV-1抗体(確認検査)	Zrein M, et al：Clin Diagn Lab Immunol 5（1）：45～49, 1998.
HTLV-1核酸検出 定性	Miyazato P, et al：Journal of Virology 80（21）：10683～10691, 2006.
HTLV-1プロウイルスDNA 定性	Miyazato P, et al：Journal of Virology 80（21）：10683～10691, 2006.
HTLV-Ⅰ(ATLV) プロウイルスDNA(クロナリティ)	渡辺　俊樹,他：Meidical Immunology 16（6）：785～791, 1988.
HIV-1RNA 定量	目崎　和久,他：医学と薬学 73（6）：705～709, 2016.
HIV-1/2 特異抗体	Kondo M, et al：PLOS ONE 13（10）e0198924：1～10, 2018.
HIV抗原・抗体	桜庭　尚哉,他：医学と薬学 65（5）：663～672, 2011.
ノロウイルス抗原	田中　智之：医学と薬学 61（1）：93～98,　2009.
ノロウイルスRNA定性	Kageyama T, et al：J Clin Microbiol 41（4）：1548～1557, 2003.
感染症(非ウイルス)関連検査	
クラミジアトラコマティス IgA	梶原　祥子,他：医学と薬学 37（3）：711～719, 1997.
クラミジアトラコマティス IgG	梶原　祥子,他：医学と薬学 37（3）：711～719, 1997.
オーム病クラミドフィラ(クラミジアシッタシ)	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ IgG	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：62～75, 1987.
クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ IgM	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：62～75, 1987.
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgG	松本　明：第22回日本臨床微生物学会総会ワークショップ1
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgA	松本　明：第22回日本臨床微生物学会総会ワークショップ1
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ IgM	宮下　修行,他：小児科診療 71（1）：95～99, 2008
抗ストレプトリジン-O抗体(ASO)	伊藤　忠一：臨床検査 39（6）：685～688, 1995.
エンドトキシン定量	土谷　正和,他：日本細菌学雑誌 45（6）：903～911, 1990.
透析液中エンドトキシン A液	相沢　真紀,他：腎と透析 55 別冊：68～70, 2003.
透析液中エンドトキシン B液	相沢　真紀,他：腎と透析 55 別冊：68～70, 2003.
透析液中エンドトキシン RO水	相沢　真紀,他：腎と透析 55 別冊：68～70, 2003.
透析液中エンドトキシン 調整液	相沢　真紀,他：腎と透析 55 別冊：68～70, 2003.
透析液中エンドトキシン その他	相沢　真紀,他：腎と透析 55 別冊：68～70, 2003.
百日咳抗体〔EIA〕	岡田　賢司：医学と薬学 65（4）：531～536, 2011.
抗ヘリコバクターピロリ抗体〔LA〕	乾　正幸,他：日本ヘリコバクター学会誌 19（1）：33～42, 2017.
便中ヘリコバクターピロリ抗原	朝日　佳代子,他：医学と薬学 57（2）：253～260, 2007.
梅毒定性 RPR〔LA〕	桜庭　尚哉：医学と薬学 63（1）：103～109, 2010.
梅毒定量 RPR〔LA〕	桜庭　尚哉：医学と薬学 63（1）：103～109, 2010.
梅毒定性 TP抗体〔LA〕	高橋　勝幸,他：医療と検査機器・試薬 33（1）：89～95, 2010.
梅毒定量 TP抗体〔LA〕	高橋　勝幸,他：医療と検査機器・試薬 33（1）：89～95, 2010.
寒冷凝集反応	原島　典子,他：衛生検査 27（1）：67～71, 1978.
マイコプラズマニューモニエ〔CF〕	北村　元仕,他：臨床検査マニュアル(文光堂)：880～886, 1988.
マイコプラズマニューモニエ〔PA〕	大関　トシイ,他：自治医科大学臨床検査技師年報 12：62～64, 1988.
ツツガムシカープ IgG	山本　正悟：臨床とウイルス 12（3）：270～274, 1984.
ツツガムシカープ IgM	山本　正悟：臨床とウイルス 12（3）：270～274, 1984.
ツツガムシカトー IgG	山本　正悟：臨床とウイルス 12（3）：270～274, 1984.
ツツガムシカトー IgM	山本　正悟：臨床とウイルス 12（3）：270～274, 1984.
ツツガムシギリアム IgG	山本　正悟：臨床とウイルス 12（3）：270～274, 1984.
ツツガムシギリアム IgM	山本　正悟：臨床とウイルス 12（3）：270～274, 1984.
クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原	篠田　孝子,他：真菌と真菌症 30（3）：211～221, 1989.
カンジダマンナン抗原	新崎　晃弘,他：臨床検査機器・試薬 23（3）：197～203, 2000.
アスペルギルス抗体IgG	Guitard J, et al：J Clin Microbiol 50（3）：762～765, 2012.
アスペルギルス抗原	見手倉　久治,他：医学と薬学 42（1）：207～212, 1999.
β-D-グルカン	吉田　耕一郎,他：医学と薬学 67（6）：895～902, 2012.
トリコスポロン・アサヒ抗体	三宅　修司,他：日本呼吸器学会誌 39（1）：7～11, 2001.
トキソプラズマ IgG抗体	亀井　喜世子,他：臨床病理 42（7）：743～747, 1994.

検査項目	測定法参考文献
トキソプラズマ IgM抗体	亀井　喜世子,他：臨床病理 42（7）：743～747, 1994.
結核菌特異的IFN-γ	Meier T, et al：European Journal of Clinical Microbiology & Infectious Diseases24：529～536, 2005.
赤痢アメーバ抗体定性	Watanabe K, et al：J Infect Chemother 27（5）：736～739, 2021.
MAC抗体（抗酸菌抗体定性）	Kitada S, et al：AMERICAN JOURNAL OF Respiratory and Critical Care Medicine 177（1）：793～797, 2008.
自己免疫関連検査	
抗核抗体（ANA）	東條　毅：臨床検査 30（7）：687～692, 1986.
抗DNA抗体〔RIA〕	鈴木　王洋,他：臨床免疫 25（8）：1096～1102, 1993.
抗ss-DNA IgG抗体	陣内　記代,他：日本臨床検査自動化学会会誌 26（6）：747～753, 2001.
抗ss-DNA IgM抗体	山下　雅樹,他：医学と薬学 58（5）：763～767, 2007.
抗ds-DNA IgG抗体	陣内　記代,他：日本臨床検査自動化学会会誌 26（6）：747～753, 2001.
抗ds-DNA IgM抗体	山下　雅樹,他：医学と薬学 58（5）：763～767, 2007.
抗Sm抗体〔CLEIA〕	西山　進,他：医学と薬学 68（2）：345～355，2012.
抗RNP抗体〔CLEIA〕	西山　進,他：医学と薬学 68（2）：345～355，2012.
抗SS-A/Ro抗体〔CLEIA〕	西山　進,他：医学と薬学 68（2）：345～355，2012.
抗SS-B/La抗体〔CLEIA〕	西山　進,他：医学と薬学 68（2）：345～355，2012.
抗Scl-70抗体〔CLEIA〕	松下　雅和,他：医学と薬学 70（1）：109～117，2013.
抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	桑名　正隆：リウマチ科 40（3）：239～245, 2008.
抗セントロメア抗体	小島　和夫,他：医学と薬学 69（4）：677～687, 2013.
抗Jo-1抗体〔CLEIA〕	松下　雅和,他:医学と薬学 70（1）：109～117, 2013.
抗ARS抗体	山田　祐介,他：リウマチ科 45（2）：133～138, 2011.
抗MDA5抗体	Sato S, et al：PLOS ONE 11（4）：e0154285, 2016.
抗Mi-2抗体	Fujimoto M, et al：J Dermatol Sci. 84（3）：272～281, 2016.
抗TIF1-γ抗体	Fujimoto M, et al：J Dermatol Sci. 84（3）：272～281, 2016.
リウマチ因子（RF）定量	鬼塚　聖子,他：日本臨床検査自動化学会会誌 35（1）：17～22, 2010.
IgG型リウマチ因子	中園　清：医学と薬学 45（3）：481～486, 2001.
抗ガラクトース欠損IgG抗体	平山　吉朗,他：医学と薬学 42（5）：817～828, 1999.
抗シトルリン化ペプチド（CCP）抗体	山下　里美,他：医学と薬学 66（3）：569～576, 2011.
抗ミトコンドリア抗体	山内　進：臨床免疫 7（7）：825～830, 1975.
抗ミトコンドリア M2抗体	丹野　瑞木,他：医学と薬学 67（3）：485～495, 2012.
抗平滑筋抗体	山内　進：臨床免疫 7（7）：825～830, 1975.
抗胃壁細胞抗体	山内　進：衛生検査 22（12）：1085～1089, 1973.
抗内因子抗体	Elizabeth A. Gomez et al：Clinical Chemistry 51（1）：232～235, 2005.
プロスタグランジンE主要代謝物（PGE-MUM）	森山　和重,他：医学と薬学 77（3）：393～401, 2020.
ロイシンリッチα2グリコプロテイン（LRG）	高山　茂雄,他：医学と薬学 76（12）：1769～1780, 2019.
抗甲状腺 ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）	古屋　実,他：医学と薬学 74（3）：317～326, 2017.
抗サイログロブリン抗体	古屋　実,他：医学と薬学 74（3）：317～326, 2017.
甲状腺刺激抗体（TSAb）	保科　元気,他：医学と薬学 79（8）：1079～1086, 2022.
TSHレセプター抗体〔CLEIA〕	矢野　美沙紀,他：医学と薬学 77（5）：793～804, 2020.
抗GAD抗体〔ELISA〕同時依頼用	及川　洋一,他：医学と薬学 72（9）：1551～1560, 2015.
抗IA-2抗体〔ELISA〕同時依頼用	川崎　英二,他：医学と薬学 66（2）：345～352, 2011.
抗GAD抗体	及川　洋一,他：医学と薬学 72（9）：1551～1560, 2015.
抗IA-2抗体	川崎　英二,他：医学と薬学 66（2）：345～352, 2011.
亜鉛トランスポーター 8（ZnT8）抗体	Eiji Kawasaki et al：Acta Diabetol 51（3）：429～434, 2014.
インスリン抗体	内潟　安子,他：医学と薬学 65（4）：525～530, 2011.
抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）	太田　光熙,他：ホルモンと臨床 48（1）：89～93, 2000.
抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体（抗MuSK抗体）	本村　政勝,他:医学と薬学 70（2）：421～428, 2013.
抗P/Q型 電位依存性 カルシウムチャネル抗体（抗P/Q型VGCC抗体）	本村　政勝,他:医学と薬学 77（7）：1057～1063, 2020.
抗デスモグレイン1抗体	吉田　かおり,他:医学と薬学 70（5・6）：989～1000, 2013.
抗デスモグレイン3抗体	吉田　かおり,他:医学と薬学 70（5・6）：989～1000, 2013.
抗BP180抗体（血清中抗BP180NC16a抗体）	吉田　かおり,他:医学と薬学 70（5・6）：989～1000, 2013.
抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）	臼井　丈一,他：医学と薬学 68（4）：697～704, 2012.
精子不動化抗体	香山　浩二：日本産科婦人科学会雑誌 42（11）：N209～N212, 1990.
精子不動化抗体（SI50）	香山　浩二：日本産科婦人科学会雑誌 42（11）：N209～N212, 1990.
ループスアンチコアグラント〔APTT凝固時間法〕	後藤　守孝,他：Modern Physician 15（12）：1545～1550, 1995.
ループスアンチコアグラント〔希釈ラッセル蛇毒時間法〕	藤岡　貴：医学と薬学 73（5）：621～626, 2016.
ループスアンチコアグラント〔リン脂質中和法〕	藤岡　貴：医学と薬学 73（5）：621～626, 2016.
抗カルジオリピン β_2グリコプロテインⅠ 複合体抗体（抗CL・β_2GPⅠ抗体）	野島　順三,他：医学と薬学 32（6）：1315～1320, 1994.
抗β_2グリコプロテインⅠ IgG抗体	小川　昌起, 他：医学と薬学 78（4）：447～459, 2021.
抗β_2グリコプロテインⅠ IgM抗体	小川　昌起, 他：医学と薬学 78（4）：447～459, 2021.
抗カルジオリピンIgG抗体	小川　昌起, 他：医学と薬学 78（4）：447～459, 2021.
抗カルジオリピンIgM抗体	小川　昌起, 他：医学と薬学 78（4）：447～459, 2021.
抗血小板抗体	柴田　洋一：輸血学（中外医学社）：457～470, 1978.
PAIgG（血小板関連IgG）	林　悟,他：臨床病理 32（11）：1253～1257, 1984.

参考文献一覧

検査項目	測定法参考文献
HIT抗体(血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	阪田　敏幸：医学と薬学 68（3）：547～555, 2012.
抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)	松下　雅和,他：医学と薬学 66（5）：823～828, 2011.
抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)	松下　雅和,他：医学と薬学 66（5）：823～828, 2011.
抗LKM-1抗体	竹村　真理,他：医学と薬学 46（1）：109～114, 2001.
抗アクアポリン4抗体	高橋　利幸,他：医学と薬学 73（10）：1297～1300, 2016.
免疫血液学的検査	
ABO式血液型	林　祐也,他：Medical Technology 33（9）：957～960, 2005.
Rh(D因子)式血液型	林　祐也,他：Medical Technology 33（9）：957～960, 2005.
Rh-Hr式血液型	長田　広司：医薬ジャーナル 32（S1）：215～219, 1996.
直接クームス試験	浅井　隆善：医学のあゆみ 167（9）：700, 1993.
間接クームス試験	浅井　隆善：医学のあゆみ 167（9）：700, 1993.
不規則性抗体	浅井　隆善：医学のあゆみ 167（9）：700, 1993.
免疫グロブリン	
IgG	金井　正光,他：臨床検査法提要 第31版(金原出版)：823～827, 1998.
IgA	金井　正光,他：臨床検査法提要 第31版(金原出版)：823～827, 1998.
IgM	金井　正光,他：臨床検査法提要 第31版(金原出版)：823～827, 1998.
IgGサブクラス分画(TIA)	川　茂幸,他：医学と薬学 74（4）：463～470, 2017.
IgG2	川　茂幸,他：医学と薬学 74（4）：463～470, 2017.
IgG4	松木　友里,他：医学と薬学 75（7）：849～858, 2018.
免疫電気泳動〔特異抗血清による同定〕	大谷　英樹,他：日常検査法シリーズ11 免疫電気泳動　2版：8～26, 1977.
免疫電気泳動〔免疫固定法〕(ADIRA)ダラツムマブ用	McCudden C, et al：Clin Chem Lab Med 54（6）：1095～1104, 2016.
免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(フリーライトチェーン)	守田　由香,他：医学と薬学 74（8）：945～950, 2017.
尿中免疫電気泳動〔尿中ベンスジョーンス蛋白の同定〕	大谷　英樹,他：日常検査法シリーズ11 免疫電気泳動　2版：8～26, 1977.
オリゴクローナルバンド	佐々木　征治,他：最新電気泳動実験法（医歯薬出版）：61～74, 1999.
クリオグロブリン定性	青木　紀生,他：Medical Technology 6（8）：619～624, 1978.
補体および関連物質	
血清補体価	中藤　聡子,他：臨床検査機器・試薬 19（4）：609～613, 1996.
C3	金井　正光,他：臨床検査法提要 第31版(金原出版)：833～837, 1998.
C4	金井　正光,他：臨床検査法提要 第31版(金原出版)：833～837, 1998.
C1q	櫻林　郁之介,他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビター活性)	Dick W et al：Immun Infekt 13：113～118, 1985.
血漿蛋白	
プレアルブミン	古田島　伸雄,他：日本臨床検査自動化学会会誌 32（1）：84～88, 2007.
α_1-マイクログロブリン	中野　卓,他：臨床検査機器・試薬 11（3）：469～476, 1988.
α_1アンチトリプシン	櫻林　郁之介,他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
α_1アシドグリコプロテイン	櫻林　郁之介,他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
レチノール結合蛋白(RBP)	古田島　伸雄,他：日本臨床検査自動化学会会誌 32（1）：84～88, 2007.
α_2-マクログロブリン	櫻林　郁之介,他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
ハプトグロビン(型判別)	伊藤　忠一：検査と技術 22（5)増刊号：42～43, 1994.
セルロプラスミン	櫻林　郁之介,他：臨床病理 特(53)：71～81, 1983.
トランスフェリン	伊藤　忠一：検査と技術 16（7）：593～598, 1988.
尿中トランスフェリン	齋藤　良一,他：日本臨床検査自動化学会会誌 25（5）：687～690, 2000.
尿中トランスフェリン(クレアチニン換算値)	齋藤　良一,他：日本臨床検査自動化学会会誌 25（5）：687～690, 2000.
β_2-マイクログロブリン	伊藤　浩治,他：医療と検査機器・試薬 26（2）：127～134, 2003.
C反応性蛋白(CRP)定量	小林　咲絵,他：医学と薬学 78（1）：81～89, 2021.
血清アミロイドA蛋白(SAA)	永徳　広美,他：生物物理化学 37（1）：19～23, 1993.
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	藤田　孝,他：医療と検査機器・試薬 33（5）：629～632, 2010.
心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	宮崎　修一,他：医学と薬学 52（3）：443～449, 2004.
心筋トロポニンT	古屋　実,他：医学と薬学 74（5）：607～617, 2017.
フェリチン	唐澤　美佳,他：医療と検査機器・試薬 29（5）：493～497, 2006.
L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)〔CLEIA〕	森　さゆり,他：医療と検査機器・試薬 41（6）：615～620, 2018.
尿中NGAL	Cullen MR, et al：Ann Clin Biochem 49（2）：190～193, 2012.
ヒト癌胎児性フィブロネクチン	Lockwood CJ et al：The New England Journal of Medicine 325（10）：669～674, 1991.
Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total P1NP)	日高　好博：医学と薬学 70（2）：357～365,　2013.
Ⅰ型コラーゲンC末端 テロペプチド(ⅠCTP)	清原　剛,他：ホルモンと臨床 42（12）：1189～1193, 1994.
Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体(M2BPGi) 定量	Uojima H, et al：J Gastroenterol 58（12）：1252～1260, 2023.
オートタキシン	宇佐美　陽子,他：医学検査 68（1）：99～104, 2019.
プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P)〔CLIA〕	北原　志穂,他：医学と薬学 72（9）：1579～1590, 2015.
尿中Ⅳ型コラーゲン	小幡　賢一,他：臨床検査機器・試薬 18（3）：439～444, 1995.
Ⅳ型コラーゲン・7S〔CLEIA〕	大高木　結媛,他：医学と薬学 77（5）：785～792, 2020.

検査項目	測定法参考文献
デオキシピリジノリン	山本　逸雄,他：ホルモンと臨床 44（7）：747 ～ 757, 1996.
デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)	山本　逸雄,他：ホルモンと臨床 44（7）：747 ～ 757, 1996.
KL-6	桜庭　尚哉,他：医学と薬学 61（4）：629 ～ 635, 2009.
プロカルシトニン	小林　一三,他：医学と薬学 73（4）：459 ～ 467, 2016.
免疫血清学(その他)	
β-アミロイド1-42/1-40比	Maria João Leitão, et al：Alzheimers Res Ther 11（1）：91, 2019.
リン酸化タウ	Maria João Leitão, et al：Alzheimers Res Ther 11（1）：91, 2019.
コクリン-トモプロテイン(CTP)	池園　哲郎：Otology Japan 22（5）：911 ～ 917, 2012.
サイトカイン	
可溶性IL-2レセプター（sIL-2R）	林　圭織,他：医学と薬学 75（12）：1611 ～ 1620, 2018.
TARC(Th2ケモカイン)	安江　智美,他：アレルギーの臨床 34（10）：880 ～ 885, 2014.
IL-4（インターロイキン-4)(高感度)	Kricka LJ：Clinical Chemistry 37（9）：1472 ～ 1481, 1991.
インターロイキン-6(IL-6)	中澤　拓哉,他：医学と薬学 81（10）：599 ～ 605, 2024.
IL-6（インターロイキン-6）	竹村　正男,他：医学と薬学 36（5）：1071 ～ 1076, 1996.
IL-10（インターロイキン-10）	Groote DD et al：Journal of Immunological Methods 177：225 ～ 234, 1994.
アレルギー検査	
IgE(非特異的IgE)〔FEIA〕	岩崎　栄作,他：小児科臨床 50（1）：145 ～ 151, 1997.
特異的IgE(シングルアレルゲン)〔FEIA〕	奥田　勲,他：医学検査 46（10）：1525 ～ 1530, 1997.
特異的IgE(マルチアレルゲン)	奥田　勲,他：医学検査 46（10）：1525 ～ 1530, 1997.
特異的IgE(View アレルギー 39)	張田　聖恵：医学と薬学 73（6）：721 ～ 726, 2016.
アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン)	奥田　勲,他：医学検査 46（10）：1525 ～ 1530, 1997.
特異的IgE(C-PAC16アレルゲン)	奥田　勲,他：医学検査 46（10）：1525 ～ 1530, 1997.
特異的IgE(C-PAC5アレルゲン)	奥田　勲,他：医学検査 46（10）：1525 ～ 1530, 1997.
特異的IgE(Ara h 2)(ピーナッツ由来)	奥田　勲,他：医学検査 46（10）：1525 ～ 1530, 1997.
特異的IgE(MAST36アレルゲン)	中川　武正,他：アレルギーの臨床 26（3）：238 ～ 242, 2006.
特異的IgE(MAST48mix)	澤崎　健：アレルギーの臨床 38（12）：1145 ～ 1151, 2018.
細胞性免疫検査	
CD34定量	Chen CH et al：Journal of Hematotherapy 3：3 ～ 13, 1994.
高感度PNH型血球検査	日本臨床検査標準協議会 血液検査標準化検討委員会：日本臨床検査標準協議会会誌 18（2）：69 ～ 85, 2003.
白血病・リンパ腫解析検査(LLA)CD45ゲーティング(造血器悪性腫瘍細胞検査)	Borowitz MJ et al：American Journal of Clinical Pathology 100：534 ～ 540, 1993.
悪性リンパ腫解析検査(MLA)CD45ゲーティング(造血器悪性腫瘍細胞検査)	Borowitz MJ et al：American Journal of Clinical Pathology 100：534 ～ 540, 1993.
多発性骨髄腫解析検査　CD38マルチ解析(造血器悪性腫瘍細胞検査)	HASSERT J, et al：CYTOMETRY 22：264 ～ 281, 1995.
悪性リンパ腫解析検査 7AAD解析(造血器悪性腫瘍細胞検査)	HASSERT J, et al：CYTOMETRY 22：264 ～ 281, 1995.
PHAによるリンパ球 幼若化検査	笠原　忠,他：臨床検査 23（7）：660 ～ 667, 1979.
Con-Aによるリンパ球 幼若化検査	笠原　忠,他：臨床検査 23（7）：660 ～ 667, 1979.
薬剤によるリンパ球 刺激試験(DLST)	北見　啓之,他：臨床免疫 15（9）：727 ～ 736, 1983.
MLC(リンパ球混合培養)	笹月　健彦,他：移植 14（2）：93 ～ 113, 1979.
T細胞百分率 B細胞百分率	Wauwe JV et al：Immunology 44：865 ～ 871, 1981.
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgG	Ip SH et al：Clinical Chemistry 28（9）：1905 ～ 1909, 1982.
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgA	Ip SH et al：Clinical Chemistry 28（9）：1905 ～ 1909, 1982.
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgM	Ip SH et al：Clinical Chemistry 28（9）：1905 ～ 1909, 1982.
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgD	Ip SH et al：Clinical Chemistry 28（9）：1905 ～ 1909, 1982.
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) K	Ip SH et al：Clinical Chemistry 28（9）：1905 ～ 1909, 1982.
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) L	Ip SH et al：Clinical Chemistry 28（9）：1905 ～ 1909, 1982.
モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	Ip SH et al：Clinical Chemistry 28（9）：1905 ～ 1909, 1982.
NK細胞活性	康　浩一,他：Medical Technology 21（7）：574 ～ 580, 1993.
先天異常の染色体検査	
染色体 G-Banding	Seabright M：The Lancet 2：971 ～ 972, 1971.
染色体 C-Banding	Sumner AT et al：Exp Cell Res 75：304 ～ 306, 1972.
染色体 Q-Banding	Caspersson T et al：Hereditas 67：89 ～ 102, 1971.
脆弱X染色体(脆弱X症候群)	Sutherland GR：Science 197：265 ～ 266, 1977.
7染色体(ウイリアムス症候群)	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90 ～ 95, 1997.
13染色体	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90 ～ 95, 1997.
15染色体(プラダーウイリ症候群)	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90 ～ 95, 1997.
15染色体(アンジェルマン症候群)	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90 ～ 95, 1997.
18染色体	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90 ～ 95, 1997.
21染色体	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90 ～ 95, 1997.
22染色体(22q11.2欠失症候群)〔FISH〕	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90 ～ 95, 1997.
X染色体	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90 ～ 95, 1997.

参考文献一覧

検査項目	測定法参考文献
Y染色体	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
Y染色体(睾丸決定遺伝子*SRY*)	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
X,Y染色体(身長関連遺伝子*SHOX*)	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
白血病や悪性リンパ腫の染色体検査	
血液疾患染色体 G-Banding	Seabright M: The Lancet 2 971～972,1971.
ALK 2p23転座	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
IGH::*FGFR3* t(4;14)転座	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
FIP1L1::*PDGFRA* del(4) 長腕欠失(4q12欠失)	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
CSF1R del(5)長腕欠失	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
PDGFRB 5q32転座	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
D7S486 del(7)長腕欠失/7染色体(7モノソミー)	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
8染色体	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
MYC 8q24転座	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
IGH::*MYC* t(8;14)転座	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
RUNX1::*RUNX1T1* t(8;21)転座	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
BCR::*ABL1* t(9;22)転座	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
末梢血好中球 *BCR*::*ABL1* t(9;22)転座	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
IGH::*CCND1* t(11;14)転座	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
BIRC3::*MALT1* t(11;18)転座	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
12染色体	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
IGH::*BCL2* t(14;18)転座	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
IGH::*MAF* t(14;16)転座	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
PML::*RARA* t(15;17)転座	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
CBFB inv(16)逆位、t(16;16)転座	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
TP53 del(17)短腕欠失	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
del(20)長腕欠失	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
X染色体	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
Y染色体	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
異性間BMT(骨髄移植)(X,Y染色体)	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修(秀潤社)：90～95, 1997.
造血器腫瘍遺伝子検査	
FLT3/ITD 変異解析	Kiyoi. H, et al：Leukemia 11（9）：1447～1452, 1997.
*FLT3*変異解析ITD/TKD	Murphy KM, et al：J Mol Diagn 5（2）：96～102, 2003.
*JAK2*V617F遺伝子変異解析	桐戸　敬太,他：臨床血液 59（6）：669～674, 2018.
白血病キメラスクリーニング(定量)	飯嶋　健太朗,他：SRL宝函 24（1・2）：65～68, 2000.
WT1 mRNA定量	宮脇　修一,他：臨床血液 46（12）：1279～1287, 2005.
Major *BCR*::*ABL1*mRNA定量	飯嶋　健太朗,他：SRL宝函 24（1・2）：65～68, 2000.
Major *BCR*::*ABL1* mRNA(IS)	Nakamae H, et al：Int J Hematol 102（3）：304～311, 2015.
Major *BCR*::*ABL1*mRNA定性	Kawasaki ES, et al：Proc Natl Acad Sci USA 85（15）：5698～5702, 1988.
Major *BCR*::*ABL1* ABL1変異解析	Arghya Ray,et al：Blood 109（11）：5011～5015, 2007.
minor *BCR*::*ABL1*mRNA定量	飯嶋　健太朗,他：SRL宝函 24（1・2）：65～68, 2000.
minor *BCR*::*ABL1*mRNA定性	Kawasaki ES, et al：Proc Natl Acad Sci USA 85（15）：5698～5702, 1988.
minor *BCR*::*ABL1* ABL1変異解析	Arghya Ray,et al：Blood 109（11）：5011～5015, 2007.
PML::*RARA* mRNA定量	飯嶋　健太朗,他：SRL宝函 24（1・2）：65～68, 2000.
PML::*RARA* mRNA定性	Borrow J et al：Science 249：1577～1580, 1990.
CBFB::*MYH11* mRNA定量	飯嶋　健太朗,他：SRL宝函 24（1・2）：65～68, 2000.
RUNX1::*RUNX1T1* mRNA定量	飯嶋　健太朗,他：SRL宝函 24（1・2）：65～68, 2000.
RUNX1::*RUNX1T1* mRNA定性	Miyoshi H et al：Proc Natl Acad Sci USA 88（23）：10431～10434, 1991.
免疫関連遺伝子再構成検査	
T細胞レセプター βCβ1再構成	村上　龍文,他：日本臨牀 47（増刊号）：113～123, 1989.
免疫グロブリンH鎖J_H再構成	村上　龍文,他：日本臨牀 47（増刊号）：113～123, 1989.
免疫グロブリンH鎖C_μ再構成	村上　龍文,他：日本臨牀 47（増刊号）：113～123, 1989.
悪性腫瘍(固形腫瘍)遺伝子検査	
*EGFR*変異解析 v2.0	Benlloch S, et al：PLOS ONE 9（2）：e89518, 2014.
*EGFR*変異解析 v2.0（血漿）	Benlloch S, et al：PLOS ONE 9（2）：e89518, 2014.
*c-kit*遺伝子変異解析(GIST)	Alessandra Maleddu, et al：Journal of Translational Medicine 9：75, 2011.
RAS・*BRAF*遺伝子変異解析	Bando H, et al：BMC Cancer 13：405,　2013.
マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(FFPE)	Buhand O, et al：J Clin Oncol. 24（2）：241～251, 2006.
マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(FF)	Buhand O, et al：J Clin Oncol. 24（2）：241～251, 2006.

検査項目	測定法参考文献
遺伝学的検査	
ジストロフィン遺伝子解析(デュシェンヌ型筋ジストロフィー ベッカー型筋ジストロフィー)	Lai KKS et al：Clin Biochemistry 39（4）：367～372, 2006.
アンドロゲンレセプター遺伝子CAG反復配列解析(球脊髄性筋萎縮症)	La Spada A. R, et al：Nature 352：77～79, 1991.
Y染色体微小欠失（AZF欠失）	Masashi Iijima, et al：Int J Urol. 21（9）：910～916, 2014.
薬剤応答遺伝子検査	
*UGT1A1*遺伝子多型	Wong FL, et al：J Clin Lab Anal 21（3）：167～172, 2007. Ehmer U, et al：J Mol Diagn 10（6）：549～552, 2008.
*NUDT15*遺伝子codon 139多型解析	Moriyama T, et al：Nat Genet, 48（4）：367～373, 2016.
移植関連遺伝子検査	
HLA-A(遺伝子型タイピング)	吉川　枝里,他：MHC 10（1）：21～31, 2003.
HLA-B(遺伝子型タイピング)	吉川　枝里,他：MHC 10（1）：21～31, 2003.
HLA-C(遺伝子型タイピング)	吉川　枝里,他：MHC 10（1）：21～31, 2003.
HLA-DRB1(遺伝子型タイピング)	吉川　枝里,他：MHC 10（1）：21～31, 2003.
抗HLA抗体(スクリーニング検査)	日本組織適合性学会 認定制度委員会：QCWS参考プロトコル 抗体検査(LABScreen)平成29年度版.
尿一般検査	
尿中一般検査	金井　泉,他：臨床検査法提要 第30版(金原出版)：99～105, 1993.
尿沈渣	大野　明美,他：臨床検査 55（7）：712～718, 2011.
糞便検査	
虫卵〔塗抹〕	金井　泉,他：臨床検査法提要 第30版(金原出版)：192～208, 1993.
虫卵〔集卵〕	金井　泉,他：臨床検査法提要 第30版(金原出版)：192～208, 1993.
便中ヘモグロビン及びトランスフェリン	稲垣　泰良,他：医学検査 65（2）：222～228, 2016.
便中ヘモグロビン定性〔金コロイド法〕	稲垣　泰良,他：医学検査 65（2）：222～228, 2016.
便中ヘモグロビン定量〔金コロイド法〕	稲垣　泰良,他：医学検査 65（2）：222～228, 2016.
消化状態	金井　泉,他：臨床検査法提要 第 30 版(金原出版)：179～182, 1993.
微生物学的検査	
一般細菌 （塗抹鏡検、培養同定、尿定量培養(簡易培養)、嫌気性培養、感受性検査、目的菌、便検診、環境検査）	Krieg NR, et al：Bergey's Manual of Systematic Bacteriology vol.1. Williams & Wilkins, 1984. Krieg NR, et al：Bergey's Manual of Systematic Bacteriology vol.2. Williams & Wilkins, 1986. Krieg NR, et al：Bergey's Manual of Systematic Bacteriology vol.3. Williams & Wilkins, 1989. Krieg NR, et al：Bergey's Manual of Systematic Bacteriology vol.4. Williams & Wilkins, 1989. 吉田　眞一（編集）, 柳　雄介（編集）, 吉開　泰信（編集）：戸田新細菌学　第26版. 南山堂, 1974. 小栗　豊子,編　臨床微生物検査ハンドブック 第4版. 三輪書店, 2011. 犬塚　和久,編 堀井俊伸,監修 MICROBIAL TESTING NAVI 微生物検査ナビ 株式会社キタ・メディア,栄研化学株式会社, 2013 細菌検査　塗抹・培養　ガイドライン 初版 社団法人日本衛生検査所協会, 2010. Clinical Microbiology Procedures Handbook-4th edition, 2016. 抗菌薬感受性検査のための標準法-M100-S26 第26版　CLSI, 2016. 嫌気性菌検査ガイドライン　2012 初版, 臨床微生物学会, 2012.
ヘリコバクター培養同定・感受性検査	後藤　陽一郎,他：検査と技術 21（13）：1061～1066, 1993. 日本化学療法学会抗菌薬感受性測定委員会,ヘリコバクターピロリ委員会:日本化学療法学会誌 50（1):54～58, 2002.
CDトキシン(GDH)	蔵田　訓,他：臨床と微生物 37（5）：465～470, 2010. Limaye P. A. et al：J. Clin. Microbiol. 38（4）：1696～1697, 2000.
CDトキシンB遺伝子 定性	松浦　成美,他：医学検査 67（4）：451～455, 2018.
POT法(黄色ブドウ球菌)	鈴木　匡弘：THE CHEMICAL TIMES 221（3）：16～21, 2011.
抗酸菌(塗抹、分離培養、結核菌群抗原、薬剤感受性)	日本結核病学会 抗酸菌検査法検討委員会：抗酸菌ガイド2016. 小栗　豊子,編　臨床微生物検査ハンドブック 第4版. 三輪書店, 2011.
抗酸菌同定〔質量分析〕	大楠　清文,他：抗酸菌検査ガイド2016：60～65, 2016.
抗酸菌感受性(MIC)SGM	日本結核・非結核性抗酸菌症学会 抗酸菌検査法検討委員会:抗酸菌検査ガイド2020, 2020.
抗酸菌感受性(MIC)RGM	日本結核・非結核性抗酸菌症学会 抗酸菌検査法検討委員会:抗酸菌検査ガイド2020, 2020.
結核菌群核酸同定〔TRC〕	田村　卓,他：日本臨床微生物学雑誌 18（1）：15～19, 2008.
MAC核酸同定〔TRC〕	田村　卓,他：日本臨床微生物学雑誌 18（1）：15～19, 2008.
核酸増幅同定検査	
ニューモシスチス・イロベチイ(P.jirovecii)DNA定性	Monroy-Vaca EX, et al：J Clin Microbiol. 52（1）：45～51, 2014.
マイコプラズマニューモニエDNA	山口　恵三,他：医学と薬学 58（4）：565～571, 2007.
レジオネラDNA 定性	山口　恵三,他：医学と薬学 58（4）：565～571, 2007.
百日咳菌DNA	Kamachi K,et al：J Clin Microbiol 44（5）：1899～1902, 2006.
赤痢アメーバDNA 定性	Tachibana H,et al：J Infect Dis 164（4）：825～826,1991.
淋菌DNA	熊本　悦明,他：医学と薬学 66（6）：1007～1014, 2011.
クラミジアトラコマティスDNA	熊本　悦明,他：医学と薬学 66（6）：1007～1014, 2011.
淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時同定	熊本　悦明,他：医学と薬学 66（6）：1007～1014, 2011.

参考文献一覧

検査項目	測定法参考文献
膣トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出	Van Der Pol B, et al：JCM 59（10）：e00264-21, 2021.（膣トリコモナス） Van Der Pol B, et al：JCM 58（6）：e02124-19, 2020.（マイコプラズマジェニタリウム）
培養同定検査	
ウイルス分離	Hsiung GD：Diagnostic Virology An Illustrated Handbook：3～20, 1973.
ウイルス同定	Hsiung GD：Diagnostic Virology An Illustrated Handbook：3～20, 1973.
病理組織検査	
エストロゲンレセプター（IHC）	Layfield LJ et al：Journal of Surgical Oncology 61：177～184, 1996.
プロゲステロンレセプター（IHC）	Layfield LJ et al：Journal of Surgical Oncology 61：177～184, 1996.
エストロゲンレセプター/プロゲステロンレセプター（IHC）	Layfield LJ et al：Journal of Surgical Oncology 61：177～184, 1996.
乳癌HER2タンパク(IHC)4B5	名倉　宏,他：渡辺･中根 酵素抗体法 改訂四版(学際企画)：147～150, 2002.
乳癌*HER2*遺伝子(FISH)	D. L. Persons, et al：Ann Clin Lab Sci 30（1）：41～48, 2000.
リスク検査	
男性AIRS(認知機能評価あり)	Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691, 2010.
女性AIRS(認知機能評価あり)	Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691, 2010.
男性AIRS(認知機能評価なし)	Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691, 2010.
女性AIRS(認知機能評価なし)	Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691, 2010.
男性AICS(5種)	Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691, 2010.
女性AICS(6種)	Kazutaka Shimbo et al：Biomedical Chromatography 24：683～691, 2010.
健診・検診検査	
sd LDL-C(健診)	伊藤　康樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 37（1）：10～16, 2012.
MMRV IgG〔FIA〕検診	菅　秀：医学と薬学 76（12）：1791～1798, 2019.
免疫関連検査	
ミエリン塩基性蛋白(MBP)	中山　莉奈子,他：医学と薬学 80（9）：921～925, 2023.
自己免疫機能検査	
TSBAb(TSHレセプター抗体[阻害型])〔Bioassay〕	保科　元気,他：医学と薬学 80（1）：101～113, 2023.
その他特殊検査	
総タウ蛋白(AD)	湯原　麻子,他：医学と薬学 79（1）：91～97, 2022.
高分子量アディポネクチン〔CLEIA〕	折津　政江,他：医学と薬学 62（5）：891～898, 2009.

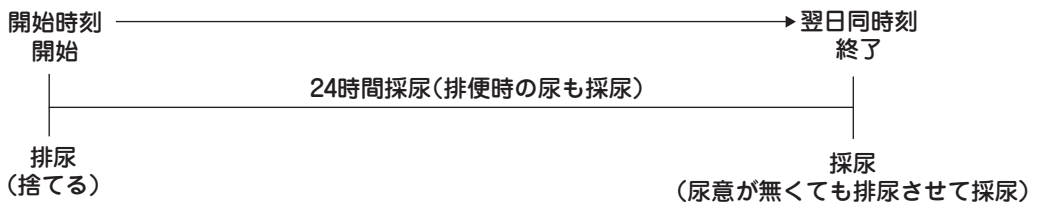
検体の採取・取り扱い方法

血　液

［採血時間］　一般的に早朝安静空腹時(緊急性や指定条件を除き)を原則としています。
［検体採取］
◯血液　所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後、速やかに転倒混和させ、特に指定が無い場合、室温および冷蔵保存の場合はこのままで、凍結保存の場合は提出容器に移して指定の保存条件にてご提出ください。
◯血清　必要量の3倍量を目安に血液を採血してください。
特に指定が無い場合、採血後室温に静置させ、凝固を確認後、遠心分離してください。
遠心分離後、上清を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
保存条件は検査項目により異なりますので、各検査項目の保存条件をご参照ください。
◯血漿　必要量の3倍量を目安に血液を採血してください。
特に指定が無い場合、所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後、速やかに転倒混和し、遠心分離してください。
遠心分離後、上清を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
採取方法および保存条件は検査項目により異なりますので、各検査項目の備考および保存条件、容器の取り扱い方法をご参照ください。
容器の規定採血量より少ない場合、項目によってはデータに影響を及ぼすことがあります。必ず指定容量を採取してください。
［注意事項］
◯真空採血にあたり
容器の規定採血量より少ない場合、容器内部が陰圧状態のままとなり溶血を引き起こす原因となります。必ず、指定容量を採取してください。
◯シリンジ採血にあたり
シリンジから注射針を外し、採血管の側面に沿わせてゆっくりと注入してください。
◯溶血を避けるにあたり
採血時に無理な圧力や泡立ちを避けてください。
充分に乾燥した採血容器を用いてください。
物理的刺激(極度の高温や低温、振動など)を避けてください。

尿

［部分尿］
採尿容器に尿を採取して、必要量を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
採尿時間を指定している検査項目もありますので、各検査項目の備考および容器の取り扱い方法をご参照ください。
［24時間蓄尿］
蓄尿開始時に完全に排尿させ(捨てる)、それ以降の翌日同時刻までに排尿した尿の全てを蓄尿容器に採尿します。蓄尿の間は、蓄尿容器に蓋をして冷暗所にて保存してください。
蓄尿終了後、蓄尿量を測定し、よく混和させ必要量を提出容器に移し蓄尿時間と蓄尿量を記入のうえ、指定の保存条件にてご提出ください。
◯酸性蓄尿
検査項目により、防腐・安定化などを目的に当社では、下記の蓄尿時に尿を酸性化する方法を採用しております。ただし、これらの方法にて酸性化した尿検体ではデータに影響がある検査項目もありますので、ご依頼いただく各検査項目の備考を必ずご参照ください。
1.防腐剤を使用する方法
蓄尿量にかかわらず、専用防腐剤(錠剤と顆粒)全てを蓄尿容器にいれて蓄尿します。
2.塩酸を使用する方法
規定量の6Nの塩酸を蓄尿容器にいれて蓄尿します。(添加する詳細な規定量や注意事項は各検査項目の備考をご参照ください。)



容器の取り扱い方法

凝固検査用検体のご提出方法 （凝固検査検体取扱いに関するコンセンサスより抜粋）

[採血管]
・容器の素材は、プラスチック製もしくはシリコン処理済みガラス製を使用する
・抗凝固剤には、0.105 ～ 0.109M(3.13 ～ 3.2%)クエン酸ナトリウム溶液を使用する
・クエン酸ナトリウム溶液と血液の比率は1:9とし、許容採血量は公称採血量±10%までとする
・患者のヘマトクリット値(Ht)が55%以上の場合はクエン酸ナトリウム溶液を調整する

[採血]
JCCLSの標準採血法ガイドラインGP4-A3に従う
・真空採血、注射器採血のいずれの組み合わせも使用可とする
　○採血針を用いた真空採血：1番目に凝固検査用採血管もしくは血清用採血管で採血する
　○翼状針を用いた真空採血：1番目にダミーの採血管もしくは他の検査用採血管で採血後、凝固検査用採血管で採血する
　○注射器採血：1番目に凝固検査用採血管に血液を分注する
・最低限の血流うっ滞(駆血帯処理)で清潔に穿刺する
・個別の状況に応じて対応することも可能とするため、21 ～ 23Gの注射針あるいは翼状針を使用する
・ヘパリンが混在する静脈ラインは使用不可である
・正確な血液量が採血管に流入したことを確認し、血液と抗凝固剤は速やかに5回程度泡立たぬよう転倒混和する

[遠心分離]
・遠心分離の温度設定は室温(18 ～ 25℃)にコントロールする
・平均遠心重力は1500×gで15分以上、または2000×gで10分以上の遠心分離処理を推奨する
・血小板の混入は測定結果に影響するため、残存血小板数を1万/μL未満になるようバフィーコートから最低5mm離れた上清を使用する

[凝固検体の確認]
採血困難な患者を中心に検査室到着時にすでに凝結が確認できる検体があり、遠心前に凝結を視認した場合は、再採血による検査続行か検査中止の確認を臨床側と相談する。

[補足]
CLSI Approved guideline 5th ed H21-A5では、Vascular access device(VAD)からの採血では、エアリークが無いことを確認し、可能な限りヘパリンフラッシュを避け、ヘパリンの混入あるいは希釈を避けることが明記されている。具体的にはまず生食5mLでフラッシュ、続いて5mLあるいはVADのdead spaceの6倍容量の血液を廃棄したのち検体を採取する。生食ロック(cap-off intravenous port)からの採血ではカテーテルと延長セット(extension set)dead spaceの2倍量を廃棄することが明記されている。

〈参考〉
1.日本検査血液学会標準化委員会凝固検査標準化ワーキンググループ
凝固検査検体取扱いに関するコンセンサス　日本検査血液学会雑誌　17, 149-168, 2016.
2.Ieko M et al：expert consensus regarding standardization of sample preparation for clotting time assays. Int J Hematol 112; 614-620, 2020

専用容器について

各頁掲載の専用容器は当社にて準備してございますので最寄りの営業所・営業拠点までお申し付けください。
なお、有効期間につきましては目安とお考えください。

分割販売について

当社は、お客様からの指示に基づき、容器の被包等を開き、小包装単位で販売(分割販売)を行う場合があります。この場合、お客様には以下の事項をご承諾いただくものとします。
①分割販売の対象となる容器について、その製造者が開示または能書に記載している有効期限内の品質保証が担保されない場合があること。
②分割販売の対象となる容器は、その受領後速やかに使用する必要があること。
③分割販売された容器について、当社は法律上の契約不適合責任を負わないこと。

ラベル貼付済み容器の取り扱いについて

当社は、お客様からの指示のもと、容器に所定のラベルを貼り付ける場合があります。この場合、容器の販売に関する契約・発注書等の記載にかかわらず、ラベル貼付の対象となる容器の所有権は、お客様から容器のご発注を頂いた時点でお客様に移転するものとします。

容　器　形　態

A00　貯蔵方法　室温

旧容器記号 **X**



ポリスピッツ

旧容器記号 **X3**



滅菌スピッツ(尿用)

容　器　形　態

ARR　貯蔵方法　室温

旧容器記号 **r**



滅菌ポリスピッツ

容　器　形　態

ASS　貯蔵方法　室温

旧容器記号 **i**



遮光ポリスピッツ

容　器　形　態

AZZ　酸洗浄済みのポリスピッツ
貯蔵方法　室温

旧容器記号 **Z**



金属検査

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
F00 旧容器記号 U 	糞便容器 貯蔵方法 室温	アデノウイルス DNA 定性	糞便 500mg			糞便500mgを左図の容器に入れ、必ず凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		ノロウイルス抗原	糞便 各小指先大		凍結	糞便の中央部より0.5g(小指先大)を左図の容器に入れ、必ず凍結保存してください。
		ノロウイルスRNA定性				
		便中カルプロテクチン	糞便 1g			糞便1g(拇指頭大)を左図の容器に入れ、必ず凍結保存してください。
		虫卵〔塗抹〕	糞便 各拇指頭大		冷蔵	糞便1g(拇指頭大)を左図の容器に入れ、冷蔵保存してください。
		虫卵〔集卵〕				
		消化状態				
		赤痢アメーバDNA 定性	糞便 0.5g		凍結	糞便の中央部より0.5g(小指先大)を左図の容器に入れ、速やかに凍結保存してください。

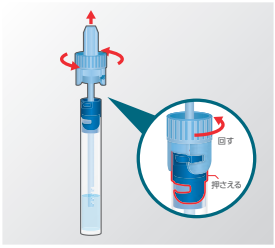
容器形態	検査項目	保存	採取方法
F20 旧容器記号 d4 便中ヘリコバクターピロリ抗原専用容器  内　容　ほう酸1mL 貯蔵方法　室温 有効期間　製造から 1年	便中ヘリコバクターピロリ抗原	冷蔵	1.(準備)容器の白ラベルを途中まではがし氏名・日付等を記入し、また巻いてください。ピンクの採便棒を回して引き抜いてください。 2.(便をとる)採便棒先端の溝すべてが便でうまるように、便の表面をこすりとってください。 3.(便をとったあと)採便棒を容器にもどして根元までしっかりねじ込んでください。再び開けないでください。 4.(保管上の注意)添付のビニール袋に入れて提出まで冷暗所に保管してください。採便後は、すみやかに提出してください。 (注)出来るだけ新しい便を提出してください。 (注)採便容器の緑キャップは、絶対にはずしたり、ゆるめたりしないでください。

容器形態	検査項目	保存
F30 旧容器記号 d9	便中カルプロテクチン〔FEIA〕	凍結

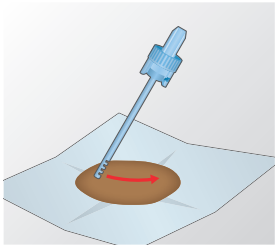


内容
トリス緩衝液
BSA
アジ化ナトリウム
(0.1%以下)
貯蔵方法 冷蔵
有効期間 製造から 24ヵ月

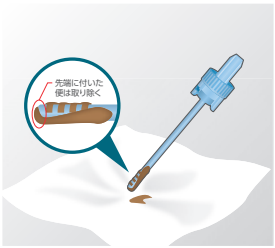
採取方法



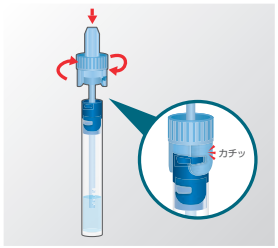
1.キャップの青色部分を押さえながら、その上の水色部分を左に回し、スティックを引き抜きます。



2.スティックの先端の4つの溝が、充分に埋まるように便をこすり取ります。



3.スティックの先端についた便をトイレットペーパーなどで取り除きます。



4.スティックを容器に差し込み、キャップの水色部分が青色部分にカチッとはまるまで右に回します。

●注意事項
容器中の保存液が、目や口に入ったり皮膚に付着したりしないようご注意ください。誤って付着した場合は水で充分に洗い流してください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法
F80 旧容器記号 d8	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン	冷蔵	●採取方法 1.キャップを回してスティックを取り出し、便の表面をまんべんなくこすり採ります。 2.1回だけ差し込み、キャップをしっかり締めます。 3.袋に入れ冷蔵保存し、ご提出ください。 ●注意事項 1.容器の中の保存液は捨てないでください。 2.便は溝が埋まるくらい採ります。採りすぎ、少なすぎにご注意ください。 採便時の食事制限はありません。
	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン(1回目)		
	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン(2回目)		
	便中ヘモグロビン定性〔金コロイド法〕		
	便中ヘモグロビン定性〔金コロイド法〕 1回目		
	便中ヘモグロビン定性〔金コロイド法〕 2回目		
	便中ヘモグロビン定量〔金コロイド法〕		
	便中ヘモグロビン定量〔金コロイド法〕 1回目		
	便中ヘモグロビン定量〔金コロイド法〕 2回目		



内　容　保存液
貯蔵方法　室温
有効期間　製造から 1年
1本用、2本用の準備があります

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
H00 旧容器記号 H 	保存液入り （容器容量5mL） 内　容 RPMI-1640 FBS 硫酸カナマイシン ノボヘパリンNa 炭酸水素Na HEPES 貯蔵方法 凍結 有効期間 色が薄いピンクの状態で使用してください。（凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります。）	白血病・リンパ腫解析検査 (LLA)CD45ゲーティング （造血器悪性腫瘍細胞検査）	骨髄液 各1.0	骨髄液 （保存液加） 各1.0	冷蔵	指定の採取量を採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		多発性骨髄腫解析検査 CD38マルチ解析 （造血器悪性腫瘍細胞検査）				
		染色体 G-Banding				骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		ALK 2p23転座	リンパ節 5×5× 5mm	リンパ節 （保存液加） 5×5×5mm		リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
			骨髄液 1.0	骨髄液 （保存液加） 1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		IGH::FGFR3 t(4;14)転座	骨髄液 各1.0	骨髄液 （保存液加） 各1.0		
		FIP1L1::PDGFRA del(4)長腕欠失 (4q12欠失)				
		CSF1R del(5)長腕欠失				
		PDGFRB 5q33転座				
		D7S486 del(7)長腕欠失/ 7染色体(7モノソミー)				
		血液疾患染色体 8染色体				
		MYC 8q24転座	リンパ節 5×5× 5mm	リンパ節 （保存液加） 5×5×5mm		リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
H00 旧容器記号 H	保存液入り （容器容量5mL） 内　容 RPMI-1640 FBS 硫酸カナマイシン ノボヘパリンNa 炭酸水素Na HEPES 貯蔵方法 凍結 有効期間 色が薄いピンクの状態で使用してください。（凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります。）	*IGH*::*MYC* t(8;14)転座	リンパ節 5×5×5mm	リンパ節 （保存液加） 5×5×5mm	冷蔵	リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
			骨髄液 各1.0	骨髄液 （保存液加） 各1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		RUNX1::*RUNX1T1* t(8;21)転座				
		BCR::*ABL1* t(9;22)転座				
		IGH::*CCND1* t(11;14)転座	リンパ節 5×5×5mm	リンパ節 （保存液加） 5×5×5mm		リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
			骨髄液 1.0	骨髄液 （保存液加） 1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		BIRC3::*MALT1* t(11;18)転座	リンパ節 5×5×5mm	リンパ節 （保存液加） 5×5×5mm		リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		血液疾患染色体 12染色体	骨髄液 各1.0	骨髄液 （保存液加） 各1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		IGH::*BCL2* t(14;18)転座	リンパ節 5×5×5mm	リンパ節 （保存液加） 5×5×5mm		リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		IGH::*MAF* t(14;16)転座	骨髄液 各1.0	骨髄液 （保存液加） 各1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		PML::*RARA* t(15;17)転座				
		CBFB inv(16)逆位、 t(16;16)転座				
		TP53 del(17)短腕欠失				
		del(20)長腕欠失				
		血液疾患染色体 X染色体				
		血液疾患染色体 Y染色体				
		異性間BMT（骨髄移植） （X, Y染色体）				
		FLT3/ITD 変異解析				骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		*FLT3*変異解析 ITD/TKD				



容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
H00 旧容器記号 H  保存液入り (容器容量5mL) 内　容 RPMI-1640 FBS 硫酸カナマイシン ノボヘパリンNa 炭酸水素Na HEPES 貯蔵方法 凍結 有効期間 色が薄いピンクの状態で使用してください。(凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります。)	白血病キメラスクリーニング(定量)	骨髄液 各1.0	骨髄液 (保存液加) 各1.0	冷蔵	指定の採取量を採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
	WT1 mRNA定量				骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	Major *BCR*::*ABL1* mRNA定量				
	Major *BCR*::*ABL1* mRNA定性				
	Major *BCR*::*ABL1* ABL1 変異解析				
	minor *BCR*::*ABL1* mRNA定量				
	minor *BCR*::*ABL1* mRNA定性				
	minor *BCR*::*ABL1* ABL1変異解析				
	PML::*RARA* mRNA定量				
	PML::*RARA* mRNA定性				
	CBFB::*MYH11* mRNA定量				
	RUNX1::*RUNX1T1* mRNA定量				
	RUNX1::*RUNX1T1* mRNA定性				
	T細胞レセプターβ鎖Cβ1再構成				
	免疫グロブリンH鎖JH再構成				
	免疫グロブリンH鎖Cμ再構成				

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
H20 旧容器記号 H2  保存液入り (容器容量10mL) 内　容 FBS PBS 硫酸カナマイシン 貯蔵方法 凍結 有効期間 製造から 1年	悪性リンパ腫解析検査 (MLA)CD45ゲーティング (造血器悪性腫瘍細胞検査)	リンパ節 各5×5×5mm	リンパ節 (保存液加) 各5×5×5mm	冷蔵	リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	悪性リンパ腫解析検査 7AAD解析 (造血器悪性腫瘍細胞検査)				

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
M30 旧容器記号 r3  除蛋白液入り (内容量1mL) 内　容 0.8N過塩素酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から 1年	乳酸 ピルビン酸	血液 各1.0	速やかに遠心 除蛋白上清 各0.4	冷蔵	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器に加え、充分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液をご提出ください。

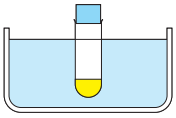
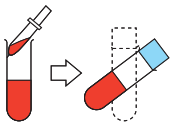
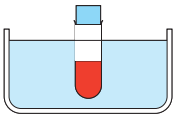
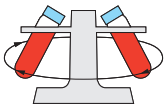
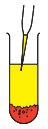
容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
M40 旧容器記号 r4  除蛋白液入り (内容量4mL) 内　容 タングステン酸Na、 硫酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から 1年	アンモニア	血液 1.0	速やかに遠心 除蛋白上清 3	凍結	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器に加え、充分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液を必ず凍結してご提出ください。

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
M50 旧容器記号 r5  除蛋白液入り (内容量0.5mL) 内　容 0.8N過塩素酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から 1年	遮光 ビタミンC (アスコルビン酸)	血清 0.5	除蛋白上清 0.5	凍結	採血後、直ちに血清分離し、正確に血清0.5mLを専用容器に加え、充分攪拌後、3000rpm5分間遠心分離し、その上清液を遮光ポリスピッツ(ASS)に移し替え、凍結してご提出ください。

容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PAC 旧容器記号 B  ACD-A保存液入り 内　容 ACD-A保存液 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年 (アルミ包装 開封後1ヵ月)	PAIgG (血小板関連IgG)	血液 7.5	血液 (ACD-A液加) 7.5	冷蔵	指定の採血量を採血し、左図の容器に注入し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 (注)末梢血の血小板数が$3\times10^4/\mu L$以下の場合は、専用容器2本を使用し、必ず10mL以上採血してください。

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PAP 旧容器記号 D  EDTA-2Na+ アプロチニン入り (真空採血量3mL) 内　容 EDTA-2Na 3.75mg アプロチニン (1500単位) 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	血液 各1.5~2.0	冷却遠心 血漿 0.5	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	膵グルカゴン		速やかに 冷却遠心 血漿 0.5		左図の容器に採血し、よく混和させ、1時間以内に低温(4℃)で血漿分離し、ただちに凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 溶血でのご依頼は避けてください。
	ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)		速やかに 冷却遠心 血漿 0.5		安静時に指定の採取量を左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。

<table>
<tr><th>容器形態</th><th>検査項目</th><th>保存</th><th colspan="3">採取方法</th></tr>
<tr><td rowspan="7">PBT
旧容器記号
Q
 
（真空採血禁止）
抗血小板剤入り
内　容
テオフィリン
アデノシン
ジピリダモール
クエン酸ナトリウム
クエン酸
貯蔵方法　遮光・冷蔵
有効期間　製造から 1年</td><td rowspan="4">β-トロンボグロブリン(β-TG)</td><td rowspan="7">凍結</td><td>  </td><td>あらかじめ専用容器(PBT)を冷却しておいてください。</td><td>砕氷水の水面より専用容器中の液面が下になるようにしてください。
角氷は使用しないでください。</td></tr>
<tr><td>  </td><td>できるだけ20ゲージ(19～21ゲージでも可)の針を用いたプラスティック注射器で血液3.0mLを採取してください。(採血にあたって、専用容器(PBT)を使用しての直接採血は絶対にしないでください。)</td><td>真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないでください。
また、駆血帯も使用しないでください。10mL以上の採血は避け、出来るだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取してください。</td></tr>
<tr><td>  </td><td>針を取って静かに専用容器(PBT)のフタを開け、血液2.7mLを静かに移し、ゆっくり2～3回転倒混和してください。</td><td>指定の専用容器以外は使用しないでください。
専用容器は振とうさせないでください。</td></tr>
<tr><td>  </td><td>専用容器を速やかに砕氷と水の入ったラックに入れてください。</td><td>砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにしてください。</td></tr>
<tr><td colspan="3">以上の操作を2分以内に行ってください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">血小板第4因子(PF-4)</td><td>  </td><td>砕氷水に15～30分間放置後、採取血液を2000Gで30分間、2～4℃で遠心分離してください。(右表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。)
＊遠心機回転数の計算式
$G=1.118\times10^{-5}\times r\times n^2$
r:遠心機のローター半径(cm)
n:1分間あたりの回転数(rpm)</td><td>1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。
換算表
<table><tr><th>半径(cm)</th><th>回転数(rpm)</th><th>半径(cm)</th><th>回転数(rpm)</th></tr><tr><td>10</td><td>4200</td><td>22</td><td>2800</td></tr><tr><td>12</td><td>3800</td><td>24</td><td>2700</td></tr><tr><td>14</td><td>3500</td><td>26</td><td>2600</td></tr><tr><td>16</td><td>3300</td><td>28</td><td>2500</td></tr><tr><td>18</td><td>3100</td><td>30</td><td>2400</td></tr><tr><td>20</td><td>3000</td><td></td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>  </td><td>上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで1項目につき0.3mL検体容器へ採取してください。
血餅に近い部分からの採取は絶対に避けてください。
(血漿の全量採取は避けてください。)
検体は必ず凍結保存してください。
(1ヵ月安定)</td><td></td></tr>
</table>

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PC2 旧容器記号 K   	3.2%クエン酸ナトリウム入り (真空採血量1.8mL) 内　容 3.2%クエン酸Na 0.2mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年 (25本入りプラスティックケース開封後1ヵ月)	活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT) プロトロンビン時間(PT) フィブリノゲン(FIB) 可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC) フィブリンモノマー複合体定量 FDP定量 Dダイマー プロトロンビンフラグメントF1+2 アンチトロンビン(AT) トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)	血液 各1.8	速やかに遠心 血漿 各0.5 速やかに遠心 血漿 0.4 速やかに遠心 血漿 0.5 速やかに遠心 血漿 0.3 速やかに遠心 血漿 0.5 速やかに遠心 血漿 0.3 速やかに遠心 血漿 各0.5	凍結	〔シール栓容器で採血する場合〕 3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で、採血量が1.8mL以上の場合、(PC5)の容器をご利用ください。) 〔ヘモガード™キャップ容器で採血する場合〕 3.2%のクエン酸ナトリウム0.3mLに血液2.7mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目を依頼する場合で採血量が2.7mL以上の場合は、(PC5)の容器をご利用ください。) 〔注意事項〕 ＊トータルPAI-1につきましては以下の点にご注意ください。 1.採取容器は(PC2)を用い、必ず冷却遠心してください。室温遠心や容器(PC5)での採血はデータが高値となるため、避けてください。 2.速やかに分離できない場合は、氷水中に保存し、1時間以内に分離してください。
	3.2%クエン酸ナトリウム入り (真空採血量2.7mL) 内　容 3.2%クエン酸Na 0.3mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年	プラスミノゲン アンチプラスミン(α_2プラスミンインヒビター) α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PICテスト) トータルPAI-1(tPA・PAI-1複合体) 凝固因子活性検査 第Ⅷ因子(F8)〔合成基質法〕 凝固因子活性検査 第Ⅸ因子(F9)〔合成基質法〕		速やかに遠心 血漿 各0.5 速やかに遠心 血漿 0.2 速やかに冷却遠心 血漿 0.5 速やかに遠心 血漿 各0.3		

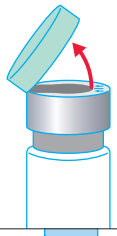
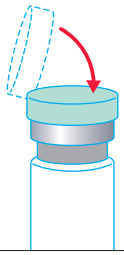
容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PC2 旧容器記号 K  3.2%クエン酸ナトリウム入り (真空採血量1.8mL) 内　容 3.2%クエン酸Na 0.2mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年 (25本入りプラスティックケース開封後1ヵ月)	凝固因子活性検査 第Ⅱ因子(F2) 第Ⅴ因子(F5) 第Ⅶ因子(F7) 第Ⅷ因子(F8) 第Ⅸ因子(F9) 第Ⅹ因子(F10) 第Ⅺ因子(F11) 第Ⅻ因子(F12) 第XIII因子(F13)	血液各1.8	速やかに遠心 血漿各0.4	凍結	〔シール栓容器で採血する場合〕 3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で、採血量が1.8mL以上の場合、(PC5)の容器をご利用ください。)
	フォン・ウィルブランド因子抗原定量		速やかに遠心 血漿0.2		
	フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター)		速やかに遠心 血漿0.5		〔ヘモガード™キャップ容器で採血する場合〕 3.2%のクエン酸ナトリウム0.3mLに血液2.7mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目を依頼する場合で採血量が2.7mL以上の場合は、(PC5)の容器をご利用ください。)
	ADAMTS13-活性		速やかに遠心 血漿0.3		
  3.2%クエン酸ナトリウム入り (真空採血量2.7mL) 内　容 3.2%クエン酸Na 0.3mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年	ADAMTS13インヒビター		速やかに遠心 血漿0.6		
	プロテインC(抗原量)		速やかに遠心 血漿0.3		
	プロテインC活性		速やかに遠心 血漿0.4		
	プロテインS(抗原量)		速やかに遠心 血漿0.2		
	プロテインS活性		速やかに遠心 血漿0.4		
	プロテインS(遊離型抗原量)		速やかに遠心 血漿0.2		
	トロンボモジュリン		速やかに遠心 血漿0.4		
	HIT抗体(血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)		速やかに遠心 血漿0.5		3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 注)ヘモガード™キャップ容器で採血する場合は上記をご参照ください。
	C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビター活性)		速やかに遠心 血漿0.2		3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で、採血量が1.8mL以上の場合、(PC5)の容器をご利用ください。) 注)ヘモガード™キャップ容器で採血する場合は上記をご参照ください。

容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PC5 旧容器記号 L  3.2%クエン酸ナトリウム入り (真空採血量4.5mL) 内　容 3.2%クエン酸Na 0.5mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年 (25本入りプラスティックケース開封後1ヵ月)	遮光 ビタミンK分画	血液 各4.5	速やかに遠心 血漿 2.0		3.2%のクエン酸ナトリウム0.5mLに血液4.5mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず「遮光ポリスピッツ」(ASS)にてご提出ください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	凝固抑制因子検査 第Ⅷ(8)因子 第Ⅸ(9)因子		速やかに遠心 血漿 各1.0	凍結	3.2%のクエン酸ナトリウム0.5mLに血液4.5mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	ループスアンチコアグラント		速やかに遠心 血漿 1.0		採血後、速やかに室温で1500G以上15分間遠心後、バフィーコートより5mm以上うえから血漿を採取して凍結保存にてご提出ください。血小板の混入は、測定結果に影響しますのでご注意ください。 ※遠心器回転数の計算式 $G=1.118\times10^{-5}\times r\times n^2$ r:遠心器のローター半径(cm) n:1分間あたりの回転数(rpm)

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PE2 旧容器記号 T3  (真空採血量2mL) 内　容 ノボヘパリン 15IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	エンドトキシン定量	血液 (ノボヘパリン加) 各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和してください。室温保存ではデータ影響が認められるため、速やかに冷蔵保存してください。 β-D-グルカン以外との重複依頼は避けてください。
	β-D-グルカン				左図の容器に採血し、よく混和してください。速やかに冷蔵保存してください。 エンドトキシン定量以外との重複依頼は避けてください。

容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目		採取量(mL)	提出量(mL)	保存	採取方法	
PE4 旧容器記号 T4   (真空採取量：4.0mL) 内　容 安定化剤　0.1mL 貯蔵方法　冷蔵 有効期間　製造から1年	透析液中 エンドトキシン	A液	透析液 (安定化剤入) 各4.0		冷蔵	1 	PE4容器のカラーキャップを矢印の方向に引き上げ、アルミ部分を切らないように、(カラーキャップが完全に外に落ちないように)開け、ゴム栓部分を消毒用アルコール綿で拭きます。
		B液				2 	無菌的に透析液を注射針付きのシリンジで採取し、PE4容器のゴム栓部に刺します。
		RO水					
		調整液				3 	注入が終わりましたら、カラーキャップを元通りに被せ、直ちに4回ほど容器を振り、安定化剤を均質に混ぜ、速やかに冷蔵保存し、提出してください。
		その他					

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PF2 旧容器記号 E  	フッ化Na入り (真空採血量2mL) 内　容 フッ化Na 2.5mg ヘパリンNa 25uspu EDTA-2Na 7.4mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から2年	グルコース	血液 1.5～2.0	血漿 0.6	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		ヘモグロビンA1c (HbA1c) (NGSP)	血液(フッ化Na加) 2.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
		グリコアルブミン	血液 2.0	血漿 0.5		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。

容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PH5 旧容器記号 G  ヘパリン入り (真空採血量5mL) 内　容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	脂肪酸分画(24成分)	血液 各1.5~2.0	血漿 各0.5	冷蔵	早朝空腹時に左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
	脂肪酸分画(4成分)				
	極長鎖脂肪酸	血液 4.5~5.0	血漿 2.0	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は凍結保存してください。
	リポ蛋白リパーゼ(LPL)	血液 1.5~2.0	速やかに冷却遠心 血漿 0.3		早朝空腹時にヘパリンを体重1kgあたり30単位静注し、15分後に左図の容器に採血し低温(4℃)で遠心分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	ニコチン酸(ナイアシン)	血液(ヘパリン加) 1.5		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
	鉛(Pb)	血液(ヘパリン加) 3.0			
	クロム	血液(ヘパリン加) 0.7			
	カドミウム	血液(ヘパリン加) 0.5			
	マンガン	血液(ヘパリン加) 0.7			
	エタノール	血液(ヘパリン加) 1.0		凍結	左図の容器に採血し、よく混和させた後、血液をポリスピッツに移し、必ず凍結保存してください。
	ボリコナゾール	血液 各1.5~2.0	血漿 0.3	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
	カルバマゼピン		血漿 各0.5		
	エトスクシミド				
	フェノバルビタール				
	フェニトイン				
	プリミドン		血漿 0.3		
	バルプロ酸		血漿 0.5		

容器形態	検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PH5 旧容器記号 G  ヘパリン入り （真空採血量5mL） 内　容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	ガバペンチン	血液 各1.5～2.0	血漿 各0.3	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
	ラモトリギン				
	トピラマート				
	レベチラセタム				
	ブリーバラセタム		速やかに遠心 血漿 0.3		左図の容器に採血し、よく混和させ、3時間以内に血漿分離してください。 3時間以上の場合、低値となる可能性があります。血漿は冷蔵保存してください。
	スチリペントール		血漿 各0.3		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
	ペランパネル				
	ラコサミド				
	アミオダロン				
	ベプリジル				
	アプリンジン				
	ジソピラミド				
	プロカインアミド		血漿 0.4		
	プロプラノロール		血漿 各0.3		
	ピルシカイニド				
	シベンゾリン				
	ピルメノール	血液 3.0～4.0	血漿 1.3		
	フレカイニド	血液 各1.5～2.0	血漿 0.3		
	テオフィリン		血漿 0.5		
	メトトレキサート		血漿 0.7		

容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PH5 旧容器記号 G  ヘパリン入り (真空採血量5mL) 内　容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	CCR4タンパク〔FCM〕	血液 (ヘパリン加) 各5.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	結核菌特異的IFN-γ				左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存(18～25℃)してください。 検体は採取後、速やかにご提出ください。
	プレセプシン	血液 1.5～2.0	速やかに遠心 血漿 0.4	凍結	左図の容器に採血後、2～3回軽く転倒混和し、速やかに血漿分離してください。 ボルテックスミキサーなどによる激しい撹拌、緩やかな長時間撹拌、凍結融解はデータが高値となるため避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。
	CD34定量	血液 (ヘパリン加) 5.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 DMSO含有の場合は、凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	赤血球表面マーカー検査CD55	血液 (ヘパリン加) 各1.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	赤血球表面マーカー検査CD59				
	白血病・リンパ腫解析検査(LLA)CD45ゲーティング(造血器悪性腫瘍細胞検査)	血液 (ヘパリン加) 各5.0			
	悪性リンパ腫解析検査(MLA)CD45ゲーティング(造血器悪性腫瘍細胞検査)				
	T細胞百分率 B細胞百分率	血液 (ヘパリン加) 3.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存(17～25℃)してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgG	血液 (ヘパリン加) 各1.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存(17～25℃)してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。 (3項目以上依頼の場合は3.0mL) 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	IgA				
	IgM				
	IgD				
	K				
	L				
	モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	血液 (ヘパリン加) 各3.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 (10項目以上の場合は血液5.0mL採血してください。) 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査				

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PH5 旧容器記号 G 	ヘパリン入り （真空採血量5mL） 内　容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	先天異常染色体 G-Banding	血液 （ヘパリン加） 各3.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		先天異常染色体 C-Banding				
		先天異常染色体 Q-Banding				
		脆弱X染色体（脆弱X症候群）				
		7染色体（ウイリアムス症候群）				
		先天異常染色体 13染色体				
		15染色体（プラダーウイリ症候群）				
		15染色体（アンジェルマン症候群）				
		先天異常染色体 18染色体				
		先天異常染色体 21染色体				
		22染色体（22q11.2欠失症候群）〔FISH〕				
		先天異常染色体 X染色体				

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PH5 旧容器記号 G 	ヘパリン入り （真空採血量5mL） 内　容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	先天異常染色体 Y染色体	血液 （ヘパリン加） 各3.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		Y染色体（睾丸決定遺伝子*SRY*）				
		X,Y染色体（身長関連遺伝子*SHOX*）				
		血液疾患染色体 G-Banding	血液 （ヘパリン加） 各5.0			
		ALK 2p23転座				
		IGH::*FGFR3* t(4;14)転座				
		FIP1L1::*PDGFRA* del(4) 長腕欠失(4q12欠失)				
		CSF1R del(5)長腕欠失				
		PDGFRB 5q32転座				
		D7S486 del(7)長腕欠失/ 7染色体(7モノソミー)				
		血液疾患染色体 8染色体				
		MYC 8q24転座				
		I*GH*::*MYC* t(8;14)転座				
		RUNX1::*RUNX1T1* t(8;21)転座				
		BCR::*ABL1* t(9;22)転座				

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PH5 旧容器記号 G 	ヘパリン入り （真空採血量5mL） 内　容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	末梢血好中球 *BCR::ABL1* t(9;22)転座	血液 （ヘパリン加） 各5.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 血液は採取後、速やかにご提出ください。 採血後30時間以上経過した血液を使用した場合、細胞の形態的変化により、判定に影響がでる場合があるため検査できません。
		IGH::CCND1 t(11;14)転座				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		BIRC3::MALT1 t(11;18)転座				
		血液疾患染色体 12染色体				
		IGH::BCL2 t(14;18)転座				
		IGH::MAF t(14;16)転座				
		PML::RARA t(15;17)転座				
		CBFB inv(16)逆位、 t(16;16)転座				
		TP53 del(17)短腕欠失				
		del(20)長腕欠失				
		血液疾患染色体 X染色体				
		血液疾患染色体 Y染色体				
		異性間BMT（骨髄移植）（X, Y染色体）				
		*FLT3*変異解析 ITD/TKD	血液 （ヘパリン加） 5.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。

容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PH9 旧容器記号 I  ヘパリン入り (真空採血量10mL) 内　容 ヘパリンNa 130IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	PHAによるリンパ球幼若化検査 Con-Aによるリンパ球幼若化検査	血液 (ヘパリン加) 各5.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存(17～25℃)してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。 (2項目同時依頼の場合は8.0mL) 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)	1薬剤 血液 (ヘパリン加) 12.0			1薬剤につき指定の容器(2本)に採血し、よく混和させ、必ず室温保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。 1.1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。 2.1薬剤で500万個のリンパ球が必要となります。場合により検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。 3.目安として白血球数が3000/μL以下の場合は倍量程度を採血しご提出ください。なお、詳しい白血球数とリンパ球%が判明している場合は、担当営業員までお問い合わせください。 4.2項目以上ご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示ください。 5.血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。錠剤(1錠)、カプセル(1カプセル)、粉末(1回投与量程度1包)、リキッドタイプの飲み薬(0.5mL程度)、注射薬(1バイアル【アンプル】) 皮内反応用テストアンプルは微量のため検査できません。 その他の薬剤以外で検査をご依頼の場合は、担当営業員までご連絡ください。 6.ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は全て専用容器(PNK)に採血しご提出ください。 7.「麻薬及び向精神薬取締法」第一章第二条および「覚醒剤取締法」別表に掲げられている規制対象薬剤の受領はできません。 8.ご依頼の際は、麻薬、覚醒剤原料が含まれていないことをご確認いただき、依頼書などへご署名をお願いいたします。ご署名のない場合は、受領いたしかねます。
	MLC (リンパ球混合培養)	血液 (ヘパリン加) (受給者) 20.0 (提供者) 10.0 (非血縁者) 10.0			受給者(Recipient)血液20.0mL(2本)と提供者(Donor)血液10.0mL(1本)、非血縁者血液　10.0mL(1本)を左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 MLCはリンパ球を無菌状態で培養しますので、採取容器の開栓、検体の移し替えは避けてください。 容器のラベルに施設名、氏名を記入してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PHS 旧容器記号 G3  ヘパリン入り (真空採血量4mL) 内　容 ヘパリンNa 83.6単位 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 18ヵ月 (アルミ包装 開封後1ヵ月)	遮光 コプロポルフィリン	血液 (ヘパリン加) 各1.5		冷蔵	左図の遮光容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 血液は必ず遮光容器にてご提出ください。
	遮光 ウロポルフィリン				
	遮光 プロトポルフィリン				

容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PK2 旧容器記号 g  EDTA-2K入り (真空採血量2mL) 内　容 EDTA-2K 3.8mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	白血球数(WBC) 赤血球数(RBC) 血色素量(Hb) ヘマトクリット値(Ht) 血小板数(PLT) 平均赤血球容積(MCV) 平均赤血球色素量(MCH) 平均赤血球血色素濃度(MCHC) 好酸球数 網状赤血球数(RET) 末梢血液像	血液 (EDTA-2K加) 各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、直ちに5回以上軽く転倒混和させ、冷蔵保存してください。 溶血、凝固および凍結検体は測定できません。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	細胞数〈胸水〉	胸水1.0		室温	左図の容器に採取し、よく混和させ、室温保存してください。
	細胞数〈腹水〉	腹水1.0			

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PK5 PK7  5mL用 (PK5)  7mL用 (PK7) EDTA-2K入り (真空採血量5mLまたは7mL) 内　容 EDTA-2K 9.5mgまたは 13.3mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	*EGFR*変異解析 v2.0（血漿）	血液 10.0～ 14.0	血漿 5.0	凍結	左記の採血管で提出検体量(血漿5mL)を考慮した充分量を採取し、採血後、8時間以内に必ず血漿分離してください。 分離後、直ちに滅菌ポリスピッツ(ARR) 2本に2.5mLずつの血漿を分取し、凍結保存してください。血漿分取する際には、白血球成分由来のゲノムDNAの混入を防ぐためデカンテーションを行わないでください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体の採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PKF 旧容器記号 g1  EDTA-2K入り (真空採血量2mL) 内　容 EDTA-2K 3.6mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	シクロスポリン タクロリムス	血液 (EDTA-2K加) 各0.7		凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血液のまま凍結保存してください。 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。
	エベロリムス	血液 (EDTA-2K加) 1.0			

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PN2 PN5 旧容器記号 C   2mL用 (PN2)   5mL用 (PN5)	EDTA-2Na入り (真空採血量 2mLまたは5mL) 内　容 EDTA-2Na 3.0mgまたは 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	膵ホスホリパーゼA2(膵PLA2)	血液 各1.5~2.0	冷却遠心 血漿 0.3	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		アミノ酸分析(39種類)〔LC/MS〕		速やかに冷却遠心 血漿 各0.5		左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		アミノ酸分析(9種類)〔LC/MS〕				
		アミノ酸分析2種類(チロシン・フェニルアラニン)〔LC/MS〕				
		血中総ホモシステイン		速やかに遠心 血漿 0.3	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、速やかに血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		ルフィナミド		血漿 0.3		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		ミコフェノール酸		血漿 0.5		
		イマチニブ		血漿 0.3		
		副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)		速やかに冷却遠心 血漿 0.5	凍結	早朝安静時に左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト		冷却遠心 血漿 0.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		副甲状腺ホルモン(Whole PTH)		血漿 各0.5		
		コルチゾール			凍結	早朝安静時に左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は凍結保存してください。
		セロトニン	血液(EDTA-2Na加) 1.0			左図の容器に採血し、よく混和させた後、血液をポリスピッツに移し、必ず凍結保存してください。
		アルドステロン〔CLEIA〕	血液 各1.5~2.0	血漿 各0.5		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は凍結保存してください。
		レニン濃度(ARC)〔CLEIA〕				左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		レニン活性(PRA)〔EIA〕		冷却遠心 血漿 0.7		左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比	血液 各4.0	血漿 1.0		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		アルドステロン〔CLEIA〕/レニン活性比		冷却遠心 血漿 1.2		左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		サイクリックAMP	血液 1.5~2.0	冷却遠心 血漿 0.3		左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PN2 PN5 旧容器記号 C  2mL用 （PN2）  5mL用 （PN5）	EDTA-2Na入り （真空採血量 2mLまたは5mL） 内　容 EDTA-2Na 3.0mgまたは 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド（BNP）	血液 各1.5～2.0	速やかに遠心 血漿 0.6	凍結	安静時に左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存にて6時間以内に血漿分離してください。 血漿は速やかに凍結保存してください。
		APOA2アイソフォーム		血漿 0.3	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		PIVKA-Ⅱ		血漿 0.5		
		ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）		血漿 0.4	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		鳥特異的IgG抗体		血漿 0.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		ABO式血液型	血液 （EDTA-2Na加） 各2.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
		Rh（D因子）式血液型				
		Rh-Hr式血液型				
		直接クームス試験	血液 （EDTA-2Na加）1.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存で速やかにご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。
		不規則性抗体	血液 （EDTA-2Na加） 2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。
		IL-8（インターロイキン-8）	血液 1.5～2.0	血漿 0.5	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PN2 PN5 旧容器記号 C  2mL用 （PN2）  5mL用 （PN5）	EDTA-2Na入り （真空採血量 2mLまたは5mL） 内　容 EDTA-2Na 3.0mgまたは 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	*FLT3*/ITD 変異解析	血液 （EDTA-2Na加） 各2.0		冷蔵	左図の容器に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		*JAK2*V617F 遺伝子変異解析				
		ジストロフィン 遺伝子解析 （デュシェンヌ型 筋ジストロフィー ベッカー型 筋ジストロフィー）				左図の容器に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		アンドロゲンレセプター 遺伝子CAG反復配列解析 （球脊髄性筋萎縮症）				左図の容器に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		Y染色体微小欠失 （AZF欠失）				
		UGT1A1 遺伝子多型				
		NUDT15 遺伝子codon 139 多型解析				
		HLA-A （遺伝子型タイピング）				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 HLA検査2項目以上同時依頼の場合は血液2.0mLで検査可能です。 ただし、受給者の場合、化学療法などにより細胞数が減少し、DNAが回収できない場合がありますので細胞数2×10^6個を最低限としてご提出ください。白血球数(WBC)1000/μLを下回る受給者の場合は、血液2.0mL(PN2容器)を2本以上、または血液5.0mL(PN5容器)をご提出ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		HLA-B （遺伝子型タイピング）				
		HLA-C （遺伝子型タイピング）				
		HLA-DRB1 （遺伝子型タイピング）				

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PN5 旧容器記号 C 	EDTA-2Na入り (真空採血量5mL) 内　容 EDTA-2Na 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	アデノウイルス DNA 定量	血液 5.0	血漿 0.7	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
			血液 (EDTA-2Na加) 5.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		単純ヘルペス ウイルスDNA 定性	血液 (EDTA-2Na加) 各2.0			
		水痘・帯状疱疹 ウイルスDNA 定性				
		サイトメガロウイルス pp65抗原(C7-HRP)	血液 (EDTA-2Na加) 3.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。採血後速やかにご提出ください。 採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。
		サイトメガロ ウイルスDNA 定性	血液 (EDTA-2Na加) 各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		EBウイルスDNA 定量	血液 5.0	血漿 2.0		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		ヒトヘルペス ウイルス6型 DNA 定性	血液 (EDTA-2Na加) 各2.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		ヒトヘルペス ウイルス7型 DNA 定性				
		高感度PNH型 血球検査	血液 (EDTA-2Na加) 5.0			必ず左図の容器で採血し、冷蔵保存にてご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。
		男性AIRS (認知機能評価あり)	血液 各5.0	速やかに 冷却遠心 血漿 各0.5	凍結	1.EDTA-2Na入り採血チューブ(左図)にて血液約5mLを採取してください。 2.採血直後、血液を2 .3回軽く転倒混和してください(ローラーでの混和は行わないでください。) 3.混和後直ちに(1分以内)採血チューブを氷水中(血液の液面まで氷水につかる状態)で冷却(15分以上、遠心操作まで冷却)してください。 4.採血から8時間以内に冷却条件で遠心分離(4℃ 、3000回転、15分)または通常遠心分離(3000回転、15分、ローターが昇温してないこと)してください。 5.遠心後、直ちに上清の血漿を血液との界面に触れないように血漿上清の中央部から採取し、分注してください。 6.分注後、血漿を4時間以内に凍結保存してください。
		女性AIRS (認知機能評価あり)				
		男性AIRS (認知機能評価なし)				
		女性AIRS (認知機能評価なし)				
		男性 AICS(5種)				
		女性 AICS(6種)				

容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PN7 旧容器記号 A  EDTA-2Na入り （真空採血量7mL） 内　容 EDTA-2Na 10.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	抗利尿ホルモン（AVP）	血液 各4.0～5.0	速やかに 冷却遠心 血漿 各1.5	凍結	左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	カテコールアミン3分画 A:アドレナリン NA:ノルアドレナリン DA:ドーパミン				
	L-ドーパ				
	ドーパミン総				
	HVA		血漿 各1.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
	VMA				
	セロトニン		速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	凍結	左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で900rpm20分間(PRP)または1500rpm10分間(P)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	5-HIAA		血漿 1.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
	水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定量	血液 （EDTA-2Na加） 各5.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
	ヒトヘルペスウイルス6型DNA定量				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PN7 旧容器記号 A 	EDTA-2Na入り （真空採血量7mL） 内　容 EDTA-2Na 10.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	HTLV-1核酸検出定性	血液 （EDTA-2Na加） 各7.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存でご提出ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		HTLV-1 プロウイルスDNA 定性				
		HTLV-Ⅰ(ATLV) プロウイルスDNA （クロナリティ）				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
		白血病キメラ スクリーニング(定量)				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		WT1 mRNA定量				
		Major *BCR*::*ABL1* mRNA(IS)				
		Major *BCR*::*ABL1* mRNA定性				
		Major *BCR*::*ABL1* ABL1変異解析				
		minor *BCR*::*ABL1* mRNA定量				
		minor *BCR*::*ABL1* mRNA定性				
		minor *BCR*::*ABL1* ABL1変異解析				
		PML::*RARA* mRNA定量				
		PML::*RARA* mRNA定性				
		CBFB::*MYH11* mRNA定量				
		RUNX1::*RUNX1T1* mRNA定量				
		RUNX1::*RUNX1T1* mRNA定性				
		T細胞レセプター β鎖Cβ1再構成				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
		免疫グロブリン H鎖J_H再構成				
		免疫グロブリン H鎖Cμ再構成				

容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PNK 旧容器記号 R 	NK細胞活性	血液 (保存液加) 5.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ冷蔵保存してください。 なお、リンパ球の少ない患者さんは多めに採血してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。

保存液入り
(真空採血量5mL)

内　容
保存液 0.7mL
貯蔵方法
冷蔵
有効期間
製造から 1年
(アルミシート
開封後1ヵ月)

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PNS 旧容器記号 g4 	遮光 ビタミンB_1 遮光 ビタミンB_2	血液 (EDTA-2Na加) 各0.5		凍結	左図の遮光容器に採血し、よく混和させ、凍結保存してください。 血液は必ず遮光容器にてご提出ください。

遮光EDTA-2Na入り
(真空採血量2mL)

内　容
EDTA-2Na
5mg
貯蔵方法
室温
有効期間
製造から
1年6ヵ月

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PSF 旧容器記号 P3 	サイトメガロウイルス核酸定量 HIV-1RNA 定量	血液 各 5.0	血漿 各 1.8	冷蔵	指定の採取量を左図の容器に採取後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて遠心分離しそのまま冷蔵してご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。

EDTA-2K+
血漿分離剤入り
(真空採血量5mL)

貯蔵方法
4～25℃
有効期間
製造から 1年

容　器　形　態		検 査 項 目	採取量（mL）	提出量（mL）	検体の取り扱い方法
S09 S06 旧容器記号 X1  9mL用（S09）  6mL用（S06）	分離剤+凝固促進フィルム入り （真空採血量 9mL又は6mL） 貯蔵方法 　室温 有効期間 　製造から 1年	**生化学検査一般** **血清学的検査一般** **その他**	適量	適量	左図の容器に、検査項目に応じて必要量を採血した後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。 血液の凝固を確認後、遠心分離し容器A00（ポリスピッツ）に血清を分注しご提出ください。 検体量不足にならないようにご注意ください。 遠心分離は、2000Gで10分間遠心してください。 （下表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示しています。） 換 算 表 半径(cm) / 回転数(rpm) / 半径(cm) / 回転数(rpm) 10 / 4200 / 22 / 2800 12 / 3800 / 24 / 2700 14 / 3500 / 26 / 2600 16 / 3300 / 28 / 2500 18 / 3100 / 30 / 2400 20 / 3000 / /

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
S3F S5F 旧容器記号 P1  3mL採血用 （S3F）  5mL採血用 （S5F）	凝固促進剤＋ 血清分離剤入り （真空採血量 3mLまたは5mL） 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	HBV DNA定量 （IU）	血液 5.0	血清 1.8	冷蔵	指定の採取量を左図の容器に採取後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。凝固完了を確認後、遠心分離しそのまま冷蔵してご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		HCV RNA コアジェノタイプ	血液 3.0	血清 0.5		
		HCV RNA定量	血液 5.0	血清 1.8		

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	検体の取り扱い方法
S9P S7P 旧容器記号 X2  10mL用 (S9P)  7mL用 (S7P)	分離剤なし (真空採血量 10mL又は7mL) 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	薬物検査 その他	適量	適量	左図の容器に、検査項目に応じて必要量を採血した後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。 血液の凝固を確認後、遠心分離し容器A00(ポリスピッツ)に血清を分注しご提出ください。 遠心分離は、2000Gで10分間遠心してください。 (下表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示しています。) 換算表 半径(cm) / 回転数(rpm) / 半径(cm) / 回転数(rpm) 10 / 4200 / 22 / 2800 12 / 3800 / 24 / 2700 14 / 3500 / 26 / 2600 16 / 3300 / 28 / 2500 18 / 3100 / 30 / 2400 20 / 3000
		不規則性抗体	血液 10.0		左図の容器に採血し、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
SZZ 旧容器記号 e 	血清分離剤 凝固促進剤入り (真空採血量3mL) 内容 トロンビン ヘパリン中和剤 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	アルミニウム(Al)	血液 2.5～3.0	血清 0.6	冷蔵	コンタミネーション防止のため、シャントから滴下または真空採血してください。 採血後は直ちに充分転倒混和し、遠心分離後そのまま冷蔵保存にてご提出ください。

容器の取り扱い方法

容　器　形　態

U00
旧容器記号
Y

貯蔵方法　室温



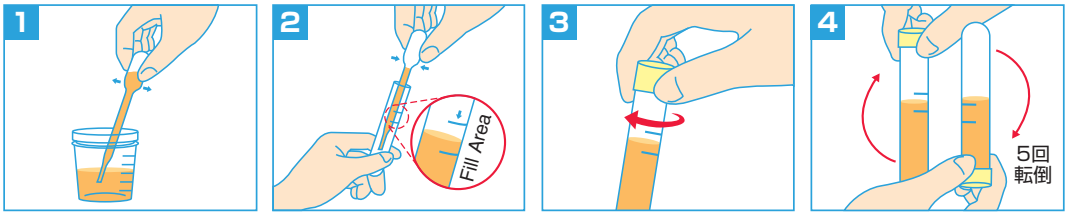
尿用容器

容器形態	検　査　項　目	保存
U10 旧容器記号 Y1 滅菌スポイト 滅菌カップ	淋菌DNA クラミジアトラコマティスDNA 淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時同定 腟トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出	室温



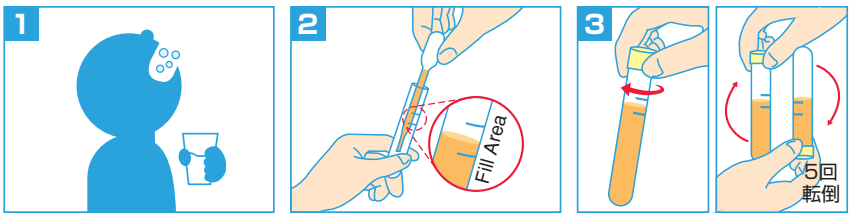
内　容
グアニジン塩酸塩
貯蔵方法　室温
有効期間　製造から 1年

●尿検体からの採取
最後の排尿から少なくとも1時間以上経過後の初尿を採取してください。
① 滅菌済みカップに初尿を採取し、滅菌済みスポイトを用いて初尿を専用容器に移します。
② 専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えてください。
③ 専用容器のキャップをしっかりと閉めてください。
④ 専用容器を5回転倒混和して室温にて提出してください。



[検体採取にあたっての注意事項]
腟潤滑剤、クリーム、ゲルなどカルボマー(カルボキシルビニルポリマー)を含む製品は、検査結果に影響する可能性があるため、子宮頸管擦過物および尿の採取中または採取前には使用しないようお願いいたします。

●うがい液検体からの採取
検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むことなどは避けてください。
① 滅菌生理食塩水をカップに15～20mL入れ口に含み、顔を上に向けて10～20秒間、勢いよくうがいを行います。
② うがい液全量をコップに回収し、スポイトで専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように添加します。
③ 専用容器のキャップをしっかりと閉め、5回転倒混和して室温保存にて提出してください。
※ただし「腟トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出」はご依頼できません。



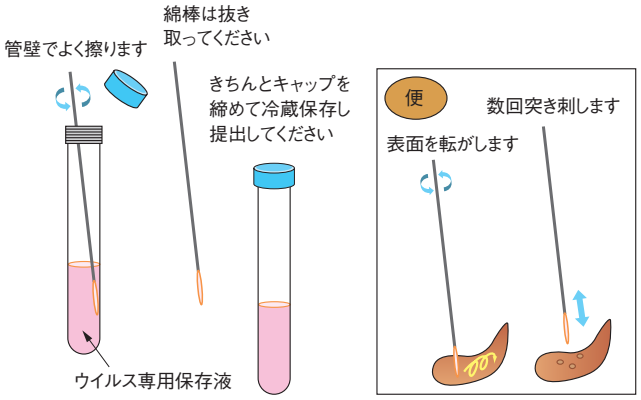
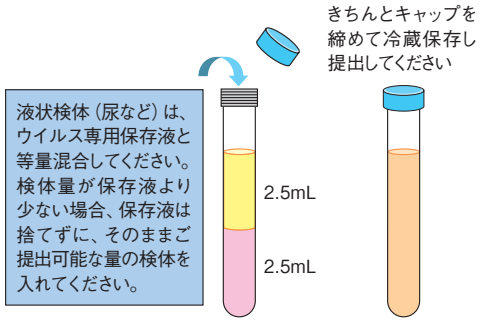
容器形態
U20 旧容器記号 Y0　尿用容器 貯蔵方法　室温  プレグナンジオール、プレグナントリオール

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
U50 旧容器記号 Y5 	保存剤入り（容器容量10mL） 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	尿中ミオグロビン〔CLEIA〕	部分尿 6		冷蔵	採取した尿を速やかに専用容器(U50)のラベルに印刷してある線まで入れ、よく混和させ冷蔵保存にてご提出ください。 凍結保存は避けてください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
U70 旧容器記号 Y7 	Tris+Hcl入り（容器容量10mL） 内　容 1.5M Tris-Hcl 0.5mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	尿中Ⅳ型コラーゲン	部分尿 5		冷蔵	早朝一番尿を採取し、左図の容器に注入し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 凍結保存および他項目との重複依頼は避けてください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
U90 旧容器記号 b2 	抗プラスミン剤入り 内　容 アプロチニン 精製ゼラチン デヒドロ酢酸ナトリウム 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年 （アルミ包装開封後1週間）	FDP定量	部分尿（新鮮尿）2	部分尿（上清）0.5	凍結	新鮮尿を採取し、左図の容器に注入し、よく混和後、3000rpm5 ～ 10分間遠心分離してください。 上清(部分尿)は必ず凍結保存してください。

容器の取り扱い方法

容器形態	検 査 項 目	保存	検体の取り扱い方法
V10 旧容器記号 V  ウイルス専用 保存液入り 貯蔵方法　冷蔵 有効期間　製造から 6ヵ月	ウイルス分離	冷蔵	●患部ぬぐい液・水疱内容・糞便　など 滅菌綿棒でぬぐい、下図の採取方法でウイルス専用保存液に採取し、冷蔵保存してください。 
	ウイルス同定		●尿・髄液・胸水・鼻汁　など 下図の採取方法でウイルス専用保存液と等量の検体を採取し、冷蔵保存してください。  ●組織 組織小片（5mm角程度）をウイルス専用保存液に入れ、冷蔵保存してください。

容器形態	検　査　項　目	保存
V30 旧容器記号 W1	単純ヘルペスウイルス特異抗原 水痘・帯状疱疹ウイルス抗原	凍結



貯蔵方法　室温
有効期間　製造から1年

●検体の採取方法
病巣基底細胞が多数得られるように採取してください。
早期の水疱病巣が検体として最適です。水疱内容液および膿は、検体として不適当です。
①滅菌針を用いて、上部の皮あるいは痂皮を剥がします。(図1)
②病巣を覆っていた上部の皮を、ピンセットなどで除去します。(図2)
③綿棒を精製水や生理食塩水で軽く湿らせます。
④ウイルス感染細胞は、病巣基底部にありますので、病巣基底部全面を綿棒で強くぬぐいます。(図3)
●注意
膿がでている場合には綿棒でまず膿をぬぐい去り、別の綿棒で検体を採取してください。この時、病巣基底部をかき乱さないよう注意してください。
●操 作 法
●検体の塗抹
①綿棒を回転させながらスライドグラスの2個の円内に塗りつけます。このとき綿棒は、スライドグラスに平行にして、全表面が触れるように塗抹します。不均一にならないように注意してください。(図4)
②綿棒をすてる前に検体が均一に広がっているかどうか確認します。均一になっていれば不透明に見えます。透明に見える部分があれば、そこへ綿棒をあてて再び塗抹します。
③そのまま風乾します。
④乾燥したスライドグラス上に充分な量(検体にゆきわたる)のアセトンを添加し、蒸発させます。
・検体はスライドグラス2枚をご提出ください。
●検体の保存
乾燥後のスライドグラスは、塗抹面を下にし、オブジェクトケースに入れ、検査項目名、病院名、氏名などを記入後、凍結保存してください。

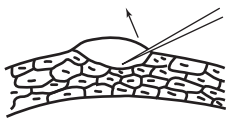
図1


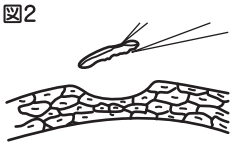
図2


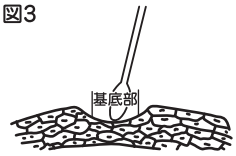
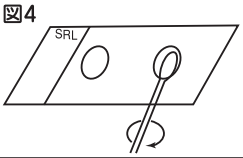
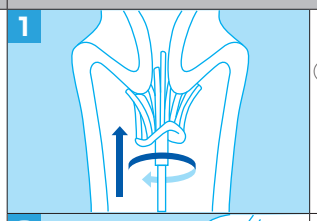
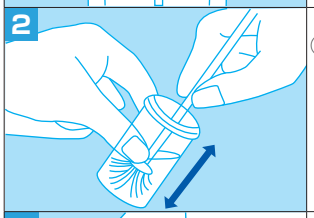
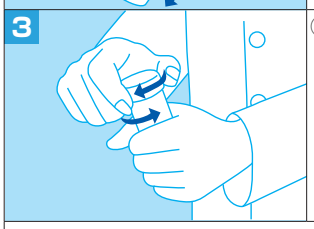
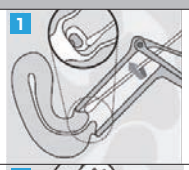
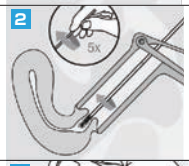
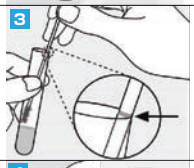
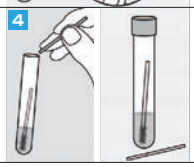
図3


図4


容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	保存	採取方法
V41 旧容器記号 f6  内　容 メタノール55% 貯蔵方法　室温 有効期間　製造から 1年6ヵ月	ヒトパピローマウイルスDNA（16型、18型、その他ハイリスクグループ）	室温	 ①子宮頸部の細胞を採取する 綿棒以外の採取器具（ブラシ、スパーテル）を用いて細胞を採取してください。
ヒトパピローマウイルス（HPV）ジェノタイプ判定			 ②細胞を洗い落とす 採取器具を容器に入れ、容器の底で採取器具の先端が広がるように10回程度押し付けた後、強くかき回して採取した細胞を洗い落としてください。
一般細胞診 泌尿器材料			 ③しっかりフタを閉める 採取器具を取り出し、蓋の黒いラインが容器本体の黒いラインを左に超えるように、しっかり蓋を閉め、保存してください。 （注）採取器具の先端は容器に残さないでください。
細胞診［婦人科ベセスダシステム］（ThinPrep）			［ご注意］ 妊婦より細胞を採取する場合は、安全性を考慮し、ブラシ、スパーテルなどの採取器具の使用は避け、綿棒を使用してください。ただし、綿棒で検査に必要な細胞量を採取するために、採取前に別の綿棒で粘液を除去し、採取に使用した綿棒を保存液中で充分にすすぎ、採取した細胞を洗い落としてください。容器には綿棒の先端を残さないでください。また、綿棒では無理な力がかかりますと折れる可能性がありますので充分にご注意ください。
細胞診（婦人科ThinPrep）			

容器形態	検査項目	保存	採取方法
V50 旧容器記号 F3  内　容　グアニジン塩酸塩 貯蔵方法　室温 有効期間　製造から 1年	淋菌DNA	室温	 スワブ検体採取セット附属のドライスワブで子宮頸管とその周辺部の過剰な粘液を充分拭い取ります。このスワブは廃棄します。
	クラミジア トラコマティス DNA		 附属のフロックスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向に５回そっとスワブを回し、膣の粘液に触れないように注意してスワブを引き抜きます。
	淋菌およびクラミジア トラコマチスDNA 同時同定		 専用容器のキャップを開け、採取したフロックスワブの先端が容器内の溶液に浸からないように注意しながら入れ、柄につけられた線を容器の縁に合わせます。
	膣トリコモナスおよび マイコプラズマジェニタリウム 同時核酸検出		 専用容器の縁を利用してフロックスワブの柄につけられた線で折り入れ、手元に残った折られた柄は廃棄します。専用容器のキャップをしっかり閉め、室温保存で提出してください。
			[検体採取にあたっての注意事項] 膣潤滑剤、クリーム、ゲルなどカルボマー（カルボキシルビニルポリマー）を含む製品は、検査結果に影響する可能性があるため、子宮頸管擦過物および尿の採取中または採取前には使用しないようお願いいたします。

容器の取り扱い方法

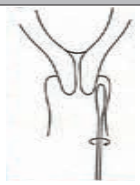
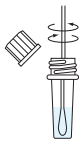
容　器　形　態

VP0
旧容器記号
u5

病理専用容器



10 ～ 20%ホルマリン液を充填してお使いください。
貯蔵方法　室温

容器形態	検査項目	保存	採取方法	
VP5 旧容器記号 W5  内　容　抽出液 貯蔵方法　室温 有効期間 製造から 1年	ヒト癌胎児性 フィブロネクチン	凍結		専用綿棒を後腟円蓋に挿入し、約10秒間回して分泌物を吸収させます。 ※腟表面を強くこすらないでください。 ※粘液は混入させないでください。
				検体抽出容器の紫色キャップをはずし、分泌液を吸収させた綿棒を浸けて、5回程度綿棒を回します。(この際、容器から液がこぼれないよう注意してください。)
				綿棒を検体抽出容器から引き抜きます。
				検体抽出容器に検体濾過フィルターを取り付けます。
				検体抽出液の全量を検体保存チューブに滴下し、チューブの蓋を締めて必ず凍結保存してください。
			●注意事項 ・検体の採取は腟洗浄前に行ってください。 ・検体中に精液が混入しているときは、その検体は使用しないでください。 ・検体中に0.1％以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。 ・検体は後腟円蓋から採取してください。 ・腟表面を強くこすらないように注意してください。	

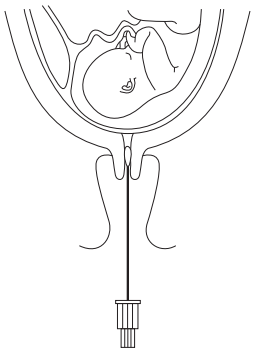
容器形態	検査項目	保存
VP6 旧容器記号 W6	子宮頸管粘液中 顆粒球エラスターゼ	凍結



内　容
抽出液
（リン酸バッファー）
貯蔵方法　室温
（抽出液は冷蔵）
有効期間
製造から 1年

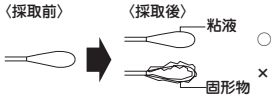
採取方法

正しい採取部位



子宮腟部の粘液を綿球で丁寧に拭い取ります。
綿棒を子宮頸管内腔に挿入します。[注3)]
綿棒をゆっくりと2回転させ、頸管粘液(滲出液)を採取します。[注4)]

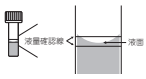
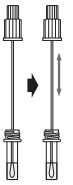
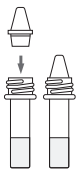
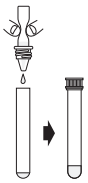
●注意事項
1)子宮頸管部より採取してください。
2)検体採取は腟部洗浄前に行ってください。
3)綿棒が外子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにしてください。綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔であるように挿入してください。
4)綿棒1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液(滲出液)をしみ込ませるようにしてください。少量の固形物が付着した場合には、ピンセット等で取り除いてください。又、大量の固形物が付着した場合には、検体採取をやり直してください。



5)採取した検体は15分以内に抽出操作を行ってください。

[ご注意]
検体採取時に無理な力が掛かりますと、綿棒が折れる可能性がありますので充分ご注意ください。

抽　出　方　法

① 	抽出液の液面が、抽出容器の液量確認線の間にあることを確認します。なお、抽出液がキャップ中栓に付着している場合があるので、振り落とした後に液面の確認を行ってください。	② 	頸管粘液(滲出液)を採取した綿棒を浸けて、2～3分間放置します。その後、綿棒を20～30回細かく上下させて検体を抽出します。	③ 	検体抽出液がしみ込んだ綿棒を、抽出容器壁面に軽く押しつけて、抽出液が滴らない程度にした後、取り除きます。
④ 	フィルターをセットします。	⑤ 	検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5～7滴(約300μL)を分取します。 必要量を得られない場合は検体採取からやり直してください。 検体保存容器にキャップをし、容器ラベルを貼って保存します。冷蔵(8℃)で3日以内、凍結(−15℃以下)で3ヵ月以内に測定してください。		

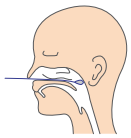
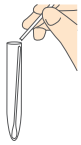
容器形態	検査項目	保存
VS4 旧容器記号 k9	百日咳菌DNA	凍結



貯蔵方法　室温
有効期間　製造から 5年

採取方法

1.綿球部分に触れないように、スワブの軸部分をつまんで取り出します。

	2.被験者の頭を動かさないようによく押さえ、その後、スワブを後鼻腔に静かに挿入して粘液を採取します。
	3.速やかにスワブを滅菌ポリスピッツ(ARR)の中に入れ、スワブの柄にあるスリットを容器の縁にあてて折ります。
	4.スワブを入れたまま容器のキャップをしっかり閉め、凍結保存にて提出してください。

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
X00 旧容器記号 ℓ 	滅菌喀痰採取容器 貯蔵方法 室温	結核菌群核酸同定〔TRC〕	喀痰 各2.0		冷蔵	本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		MAC核酸同定〔TRC〕				
		ニューモシスチス・イロベチイ(P.jirovecii)DNA定性	喀痰 0.7		凍結	他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		マイコプラズマニューモニエDNA	喀痰 2.0			
		レジオネラDNA 定性	喀痰 1.0			
		一般細胞診(喀痰)	喀痰 2.0		冷蔵	容器ごとご提出ください。

容器形態

X10
旧容器記号
f

細胞診(喀痰集細胞法)
内　容　サコマノ氏液、粘液融解剤
貯蔵方法　室温(冷暗所)
有効期間　製造から 1年



容器形態

XC0
旧容器記号
L2

貯蔵方法　室温



結石専用容器

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
XR4 旧容器記号 L4 	貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 4年	コクリン-トモプロテイン（CTP）	中耳洗浄液 0.3		冷蔵	左図の容器に採取し、必ず冷蔵保存してください。

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
XR5 旧容器記号 L6 	CSF容器 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 3年	β-アミロイド1-42/1-40比	髄液 各2.5		冷蔵	左図の容器に採取し、必ず冷蔵保存してください。 髄液採取時、最初の1 ～ 2mLは使用しないでください。 必ず指定容器(XR5)に所定の量(2.5mL)を直接採取し、ご提出ください。容器の移し替えや量不足により、データ低下の恐れがあります。 血液の混入により検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
		リン酸化タウ				左図の容器に採取し、必ず冷蔵保存してください。 髄液採取時、最初の1 ～ 2mLは使用しないでください。 必ず指定容器(XR5)に所定の量(2.5mL)を直接採取し、ご提出ください。 容器の移し替えや量不足でのご提出は避けてください。 血液の混入により検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
		総タウ蛋白(AD)				

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
Z10 旧容器記号 t	[オブジェクトケース] プレパラート (スライドグラス) 貯蔵方法 室温	好中球アルカリフォスファターゼ(AL-P染色スコアー)	血液塗抹標本 3枚		室温	標本は新鮮血で作製し、抗凝固剤は使用しないでください。 アルカリフォスファターゼ固定方法 -3～-5℃の固定液(ホルマリン原液10mL+純メタノール90mL+1%酢酸1mL)(pH4.8)に5秒間浸漬、水洗15秒、乾燥。 室温保存してください。
		鼻汁中好酸球	鼻汁塗抹標本 1枚			標本は新鮮鼻汁で作製しご提出ください。 室温保存してください。
		*c-kit*遺伝子変異解析(GIST)	未染標本スライド ・腫瘍部位確認用 切片の厚さ 3.4μm:2枚 ・DNA抽出用 切片の厚さ 10μm:5～10枚			未染標本スライドを作製し、スライドのおもてに切片の厚さを記入し、左図のオブジェクトケースに入れ、室温保存にてご提出ください。ご依頼の際は、必ず「腫瘍部位確認用検査」を併せてご依頼くださいますようお願いいたします。
		一般細胞診(喀痰)	塗抹標本 (湿固定2枚)			塗抹標本を作製し、左図のオブジェクトケースに入れ、室温保存にてご提出ください。
		一般細胞診(喀痰以外)	塗抹標本 (湿固定1～2枚、乾燥固定1～2枚)			
		細胞診(婦人科ベセスダシステム)	塗抹標本 各(湿固定1枚)			
		細胞診(婦人科)				
		標本解析	染色済標本2枚			
		エストロゲンレセプター(IHC)	未染標本スライド 各4枚			シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。組織は4μmの厚さに薄切し、なるべく中央に貼り付けてください。
		プロゲステロンレセプター(IHC)				
		エストロゲンレセプター/プロゲステロンレセプター(IHC)	未染標本スライド 6枚			
		乳癌HER2タンパク(IHC)4B5	未染標本スライド 各4枚			シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、速やかにご提出ください。高温での乾燥は、60℃で30分以内の処理を推奨します。長時間、高温に置くことは避けてください。脱灰処理を行った検体については、正しい結果が得られないため、ご依頼いただけません。固定時間は10%中性緩衝ホルマリンで6～72時間以内(生検標本の場合は検体の大きさに準ずる。)が望ましいとされています。組織は4μmの厚さに薄切し、なるべく中央に貼り付けてください。
		乳癌*HER2*遺伝子(FISH)				シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。組織は4～6μmの厚さに薄切し、なるべく中央に貼り付けてください。

遺伝子関連検査の未染標本スライド提出に際しての留意事項

容器形態		検査項目	未染標本スライド（枚）	厚さ（μm）	検査に必要な腫瘍細胞割合	保存
Z10 旧容器記号 t 	[オブジェクトケース] プレパラート （スライドグラス） 貯蔵方法 室温	*EGFR*変異解析 v2.0	5～10	10	10%以上	
		*RAS・BRAF*遺伝子変異解析	5	5～10	10%以上	室温
		マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(FFPE)	5～10	5	50%以上	

採取方法

●提出条件
未染標本スライドは、病理組織学的な評価がなされ、検査に必要な腫瘍細胞割合(標本中の全細胞に占める腫瘍細胞の%)以上存在することを確認してください。必要な割合に満たない場合には、未染標本スライドの裏面から腫瘍細胞領域をマーキングしてください。 マーキングがされないまま提出されますと、マクロダイセクションができず、偽陰性など判定結果に影響を及ぼす可能性がありますので、あらかじめご了承願います。
なお、マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(FFPE)においては、検査の特性上、腫瘍部と正常部を区分する必要性がありますので、必ず腫瘍細胞領域のマーキングをお願いします。

●未染標本スライドについて
採取された組織は速やかに10%中性緩衝ホルマリン溶液に浸漬し、固定を行ってください(推奨固定時間は6～48時間)。ご提出の際には、可能な限り3年以内に作製したホルマリン固定パラフィン包埋(FFPE)ブロックより、指定の厚さにて連続切片を作製してください。ただし、*EGFR*変異解析 v2.0については、12ヵ月以内に作製したホルマリン固定パラフィン包埋(FFPE)ブロックより指定の厚さにて連続切片を作製し、薄切後60日以内にご提出ください。なお、薄切時には検体ごとにミクロトーム刃を交換するなど、コンタミネーションに充分ご注意ください。
また、組織のホルマリン固定により核酸が断片化されているため、固定液の種類や組成、固定時間、固定後の検体の保存状態によっては、解析不可能となることがありますので、あらかじめご了承ください。

●生検標本について
生検標本は検体が微量であることが多く、組織自体がほとんど消失している場合や、腫瘍細胞が含まれていない組織片になっている可能性がありますので、あらかじめご注意願います。

新規検査項目記入欄

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考

新規検査項目記入欄

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考

新規検査項目記入欄

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考

新規検査項目記入欄

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考

新規検査項目記入欄

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考

総合検査案内＜電子版＞のご案内

エスアールエルでは、項目情報を参照いただくデジタルツールとして、
「電子版総合検査案内」のサイトをご用意しております。

https://test-directory.srl.info/akiruno/

セントラル

・最新の情報に日々更新しております。
・スマートフォンに合わせ、最適化して
　表示されます。
・本書に比べ、より詳しい情報を掲載して
　おります。（臨床意義やレセプト名など）
・ラボアイコンを押すことで、他の
　ラボラトリーに切り替わります。



セントラル ⟷ MUQS 岡沢

※ アプリ版（iOS・Android 版）もご用意しております。

検査ラボラトリー一覧

名称	住所	微生物的検査	免疫学的検査	血液学的検査	病理学的検査	生化学的検査	尿・糞便等一般検査	遺伝子関連検査・染色体検査	血清分離のみ	RIの使用
エスアールエル セントラルラボラトリー	〒197-0833 あきる野市渕上 50	○	○	○	○	○	○	○		○
エスアールエル 札幌ステーションラボラトリー	〒060-0005 札幌市中央区北５条西２		○	○		○	○			
エスアールエル 千葉中央臨床検査センター	〒260-0018 千葉市中央区院内 1-8-12		○	○		○	○			
エスアールエル MUQS ラボラトリー	〒192-0031 八王子市小宮町 1006-1		○	○		○	○			
エスアールエル 多摩ラボラトリー	〒191-0002 日野市新町 5-4-2		○	○		○	○			
エスアールエル 中央ラボラトリー	〒104-0033 中央区新川 1-26-2		○	○		○	○			
SRL Advanced Lab. Meguro	〒141-0031 品川区西五反田 4-31-18		○	○		○	○			
エスアールエル 世田谷ラボラトリー	〒156-0052 世田谷区経堂 1-41-16		○	○		○	○			
エスアールエル 横浜ラボラトリー	〒220-0004 横浜市西区北幸 2-10-27		○	○		○	○			
エスアールエル 静岡ラボラトリー	〒420-0803 静岡市葵区千代田 1-1-39		○	○		○	○			
エスアールエル 愛知ラボラトリー	〒485-0072 小牧市元町 2-186-2	○	○	○		○	○			
エスアールエル 名古屋栄ラボラトリー	〒460-0004 名古屋市中区新栄町 1-3		○	○		○	○			
エスアールエル 豊川ラボラトリー	〒442-0879 豊川市萩山町 3-77-7								○	
エスアールエル 杏和総合医学検査センター	〒663-8142 西宮市鳴尾浜 2-1-24		○	○		○	○			
エスアールエル 岡山ラボラトリー	〒700-0017 岡山市北区伊島北町 7-5		○	○		○	○			
SRL Advanced Lab. FMA	〒814-0001 福岡市早良区百道浜 1-6-9	○	○	○	○	○	○	○		
エスアールエル 福岡画像解析センター	〒819-0005 福岡市西区内浜 1-7-1				○			○		
エスアールエル 筑後ラボラトリー	〒830-0033 久留米市天神町 133		○	○		○				
エスアールエル 北九州ラボラトリー	〒805-0014 北九州市八幡東区茶屋町 5-3		○	○		○				
エスアールエル 長崎ラボラトリー	〒851-0103 長崎市中里町 1765-1		○	○		○	○			
エスアールエル 佐世保ラボラトリー	〒859-3214 佐世保市権常寺 1-4-10		○	○		○				
エスアールエル 熊本ラボラトリー	〒861-8039 熊本市東区長嶺南 1-1-100								○	
エスアールエル 大分ラボラトリー	〒870-0030 大分市三芳 1071- 1			○		○	○			
エスアールエル 中津ラボラトリー	〒871-0162 中津市永添 2110-8			○		○	○			
エスアールエル 延岡ラボラトリー	〒882-0851 延岡市浜砂 2-19-29		○	○		○	○			

営業拠点一覧

北海道・東北集荷事業部

札　幌	〒060-0003	札幌市中央区北３条西 18-2-2	TEL. 050-2000-4932
小　樽	〒047-0032	小樽市稲穂 5-9-4	
苫小牧	〒053-0022	苫小牧市表町 3-2-13	TEL. 0144-34-1170
室　蘭	〒050-0076	室蘭市知利別町 1-21-15	TEL. 0143-50-6618
旭　川	〒078-8220	旭川市 10 条通 22-2-1	TEL. 050-2000-4672
北　見	〒090-0022	北見市北二条東 1-1	TEL. 0157-25-6101
釧　路	〒085-0008	釧路市入江町 3-19	TEL. 050-2000-4680
帯　広	〒080-0802	帯広市東二条南 15-12	TEL. 0155-27-0740
函　館	〒040-0081	函館市田家町 5-16	TEL. 050-2000-4750
盛　岡	〒020-0141	盛岡市中屋敷町 1-57	TEL. 050-2000-4682
青　森	〒036-8002	弘前市駅前 2-2-3	TEL. 050-2000-4670
八　戸	〒039-1165	八戸市石堂 4-5-16	TEL. 050-2000-4674
秋　田	〒010-0951	秋田市山王 6-10-9	TEL. 050-2000-4686
仙　台	〒984-0042	仙台市若林区大和町 4-20-25	TEL. 050-2000-4690
山　形	〒990-2161	山形市漆山 488-1	TEL. 050-2000-4696
酒　田	〒998-0012	酒田市下安町 14-2	TEL. 0234-22-7551
福　島	〒969-1104	本宮市荒井字青田原 209-10	TEL. 050-2000-4710
いわき	〒970-8008	いわき市平中平窪細田町 3-4	TEL. 050-2000-4714

北関東・甲信越集荷事業部

甲　府	〒400-0031	甲府市丸の内 3-32-12	TEL. 050-2000-4795
群馬第一	〒379-2141	前橋市鶴光路町 141-15	TEL. 050-2000-4748
新　潟	〒950-0965	新潟市中央区新光町 16-4	TEL. 050-2000-4796
宇都宮	〒320-0851	宇都宮市鶴田町 1557-1	TEL. 050-2000-4758
佐　野	〒327-0022	佐野市高砂町 2866-1	TEL. 0283-21-6671
水　戸	〒310-0035	水戸市東原 1-3-12	TEL. 050-2000-4752
土　浦	〒300-0034	土浦市港町 1-5-15	TEL. 050-2000-4768

首都圏第一集荷事業部

中　央	〒104-0033	中央区新川 1-26-2	TEL. 050-2000-4920
世田谷	〒156-0052	世田谷区経堂 1-41-16	TEL. 050-2000-4951
目　黒	〒141-0031	品川区西五反田 4-31-18	TEL. 050-2000-5013
練　馬	〒174-0046	板橋区蓮根 3-17-1	TEL. 050-2000-4838
東京健診	〒174-0046	板橋区蓮根 3-17-1	TEL. 050-2000-4835
新　宿	〒169-0074	新宿区北新宿 2-21-1	TEL. 050-2000-4677
足　立	〒120-0034	足立区千住 1-12-1	TEL. 050-2000-5082
千葉中央	〒264-0024	千葉市若葉区高品町 1597-5	TEL. 050-2000-4798
柏	〒277-0075	柏市南柏中央 7-1	TEL. 050-2000-4651

首都圏第二集荷事業部

横　浜	〒220-0004	横浜市西区北幸 2-10-27	TEL. 050-2000-4826
厚　木	〒243-0003	厚木市寿町 3-1-1	TEL. 050-2000-4668
さいたま中央	〒338-0837	さいたま市桜区田島 1-10-3	TEL. 050-2000-4612
川　越	〒350-0809	川越市鯨井新田 6-1	TEL. 050-2000-4684
八王子	〒191-0002	日野市新町 5-4-2	TEL. 042-586-4415

東海・北陸集荷事業部

名古屋	〒465-0051	名古屋市名東区社が丘 1-308	TEL. 050-2000-4756
岡　崎	〒444-0044	岡崎市康生通南 2-54-1	TEL. 050-2000-4764
豊　川	〒442-0879	豊川市萩山町 3-77-7	TEL. 0533-85-5615
小　牧	〒485-0072	小牧市元町 2-186-1	TEL. 050-2000-4960
津	〒514-0004	津市栄町 1-840	TEL. 050-2000-4692
岐　阜	〒502-0847	岐阜市早田栄町 3-42	TEL. 050-2000-4772
静　岡	〒420-0803	静岡市葵区千代田 1-1-39	TEL. 050-2000-5182
沼　津	〒410-0011	沼津市岡宮 749-2	TEL. 050-2000-4776
浜　松	〒430-0903	浜松市中央区助信町 40-3	TEL. 050-2000-4630
金　沢	〒920-0376	金沢市福増町北 839	TEL. 050-2000-5118
能　登	〒925-0015	羽咋市大川町ヤ 160-9	TEL. 0767-22-8050
福　井	〒910-0837	福井市高柳 2-1301	TEL. 050-2000-4778
富　山	〒930-0827	富山市上飯野 33-3	TEL. 050-2000-4782

関西・中四国集荷事業部

大阪第一	〒544-0014	大阪市生野区巽東 1-15-27	TEL. 050-2018-7834
大阪健診	〒544-0014	大阪市生野区巽東 1-15-27	TEL. 050-2000-5038
豊　中	〒560-0083	豊中市新千里西町 1-1-8	TEL. 050-2018-7949
堺第一	〒593-8328	堺市西区鳳北町 7-7	TEL. 050-2018-8091
阪神第一(西宮)	〒663-8142	西宮市鳴尾浜 2-1-24	TEL. 050-2018-8079
兵庫西第一	〒651-2122	神戸市西区玉津町高津橋 136-3	TEL. 050-2018-8093
杏和総合	〒663-8142	西宮市鳴尾浜 2-1-24	TEL. 050-2000-4664
和歌山第一	〒640-8066	和歌山市東布経丁 3-1	TEL. 050-2018-8087
奈　良	〒634-0006	橿原市新賀町 237-1	TEL. 050-2018-8086
京　都	〒604-0933	京都市中京区御幸町通二条下る山本町 425	TEL. 050-2018-8040
福知山	〒620-0940	福知山市駅南町 2-101	TEL. 050-2018-8081
滋　賀	〒524-0022	守山市守山 1-1-12	TEL. 050-2018-8024
岡　山	〒700-0835	岡山市北区東中央町 3-14	TEL. 050-2000-4698
松　江	〒690-0006	松江市伊勢宮町 519-1	TEL. 050-2000-4725
鳥　取	〒680-0942	鳥取市湖山町東 4-27-2	TEL. 050-2000-4725
広　島	〒732-0811	広島市南区段原 2-17-2	TEL. 050-2000-4716
福　山	〒720-0067	福山市西町 2-10-1	TEL. 050-2000-4712
山口第一	〒754-0024	山口市小郡若草町 2-21	TEL. 083-973-2801
高　松	〒761-8071	高松市伏石町 2078-10	TEL. 050-2000-4718
高　知	〒781-8121	高知市葛島 2-7-13	TEL. 050-2000-4732
徳　島	〒770-0863	徳島市安宅 3-3-15	TEL. 050-2000-4726
松　山	〒790-0062	松山市南江戸 3-7-38	TEL. 050-2000-4730

九州集荷事業部

福　岡	〒812-0004	福岡市博多区榎田 1-4-69	TEL. 050-2000-4850
福岡西	〒819-0052	福岡市西区下山門 1-5-28	TEL. 050-2000-4810
久留米	〒830-0033	久留米市天神町 133	TEL. 050-2000-5075
大牟田	〒837-0917	大牟田市草木 471-9	TEL. 0944-52-9283
佐　賀	〒849-0933	佐賀市卸本町 4-2	TEL. 050-2000-4660
北九州	〒805-0014	北九州市八幡東区茶屋町 5-3	TEL. 050-2000-4807
飯　塚	〒820-0067	飯塚市川津 366-1	TEL. 0948-25-0226
長　崎	〒851-0103	長崎市中里町 1765-1	TEL. 050-2000-4812
佐世保	〒859-3214	佐世保市権常寺 1-4-10	TEL. 0956-39-3333
沖　縄	〒900-0034	那覇市東町 26-1	TEL. 098-861-6131
大　分	〒870-0030	大分市三芳 1071-1	TEL. 050-2000-4735
中　津	〒871-0162	中津市永添 2110-8	TEL. 0979-26-0966
熊　本	〒861-8039	熊本市東区長嶺南 1-1-100	TEL. 050-2000-4816
天　草	〒863-0033	天草市東町 31	TEL. 0969-23-5668
鹿児島	〒892-0846	鹿児島市加治屋町 3-10	TEL. 050-2000-4831
出　水			TEL. 050-2000-4722
延　岡	〒882-0851	延岡市浜砂 2-19-29	TEL. 0982-21-7409
宮　崎			TEL. 050-2000-4743
都　城			TEL. 050-2000-4721

SRL
Communication for Health

●検査結果のお問い合わせ、検査項目については最寄りの営業所・営業拠点、またはメディカルインフォメーションへお問い合わせください。

TEL.050-2000-4870(直通)

お問い合わせ対応時間:平日・土曜[9:00 ～ 17:30](日曜、祝日を除く)

東日本支店

	〒984-0042	仙台市若林区大和町 4-20-25	TEL. 050-2000-4690
札　幌	〒060-0807	札幌市北区北 7 条西 4-1-2	TEL. 050-2000-4932
函館・青森	〒040-0081	函館市田家町 5-16	TEL. 050-2000-4750
東　北	〒984-0042	仙台市若林区大和町 4-20-25	TEL. 050-2000-4690

首都圏第一支店

	〒108-0075	港区港南 4-1-8	TEL. 050-2000-5330
東京第一	〒104-0033	中央区新川 1-26-2	TEL. 050-2000-4920
東京第二	〒108-0075	港区港南 4-1-8	TEL. 050-2000-5013
東京第三	〒191-0002	日野市新町 5-4-2	TEL. 042-586-4415
千　葉	〒264-0024	千葉市若葉区高品町 1597-5	TEL. 050-2000-4798
神奈川	〒220-0004	横浜市西区北幸 2-10-27	TEL. 050-2000-4826

首都圏第二支店

	〒338-0837	さいたま市桜区田島 1-10-3	TEL. 050-2000-4612
北関東	〒320-0851	宇都宮市鶴田町 1557-1	TEL. 050-2000-4758
茨城・福島	〒310-0035	水戸市東原 1-3-12	TEL. 050-2000-4752
甲信越	〒392-0027	諏訪市湖岸通り 5-11-104	TEL. 050-2030-3685
埼　玉	〒338-0837	さいたま市桜区田島 1-10-3	TEL. 050-2000-4612

東海・北陸支店

	〒465-0051	名古屋市名東区社が丘 1-308	TEL. 050-2000-4756
名古屋	〒465-0051	名古屋市名東区社が丘 1-308	TEL. 050-2000-4756
中　部	〒485-0072	小牧市元町 2-186-1	TEL. 050-2000-4960
静　岡	〒420-0803	静岡市葵区千代田 1-1-39	TEL. 050-2000-5182
北　陸	〒920-0376	金沢市福増町北 839	TEL. 050-2000-5117

近畿圏支店

	〒532-0033	大阪市淀川区新高 3-9-14	TEL. 050-2000-4824
大阪第一	〒532-0033	大阪市淀川区新高 3-9-14	TEL. 050-2018-7834
大阪第二	〒593-8328	堺市西区鳳北町 7-7	TEL. 050-2018-8091
京　都	〒604-0933	京都市中京区御幸町通二条下る山本町 425	TEL. 050-2018-8040
阪　神	〒663-8142	西宮市鳴尾浜 2-1-24	TEL. 050-2018-8079

中四国支店

	〒732-0052	広島市東区光町 1-10-19	TEL. 050-2000-4822
中　国	〒732-0811	広島市南区段原 2-17-2	TEL. 050-2000-4716
四　国	〒761-8071	高松市伏石町 2078-10	TEL. 050-2000-4718

九州支店

	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東 2-10-1	TEL. 050-2000-4762
福　岡	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東 2-10-1	TEL. 050-2000-4860
西九州	〒851-0103	長崎市中里町 1765-1	TEL. 050-2000-4812
九州中央	〒861-8039	熊本市東区長嶺南 1-1-100	TEL. 050-2000-4816
南九州	〒892-0846	鹿児島市加治屋町 3-10	TEL. 050-2000-4831
沖　縄	〒900-0034	那覇市東町 26-1	TEL. 098-861-6131

GP健診営業部

	〒104-0033	中央区新川 1-26-2	TEL. 050-2000-4920
東京東	〒104-0033	中央区新川 1-26-2	TEL. 050-2000-4920
東京西	〒174-0046	板橋区蓮根 3-17-1	TEL. 050-2000-4838
東京南	〒156-0052	世田谷区経堂 1-41-16	TEL. 050-2000-4951
千葉中央	〒264-0024	千葉市若葉区高品町 1597-5	TEL. 050-2000-4798
横　浜	〒220-0004	横浜市西区北幸 2-10-27	TEL. 050-2000-4826
さいたま中央	〒338-0837	さいたま市桜区田島 1-10-3	TEL. 050-2000-4612
八王子	〒191-0002	日野市新町 5-4-2	TEL. 042-586-4415
健診(東京)	〒174-0046	板橋区蓮根 3-17-1	TEL. 050-2000-4835
健診(大阪)	〒544-0014	大阪市生野区巽東 1-15-27	TEL. 050-2000-5038

西日本営業部

	〒613-0046	久世郡久御山町大橋辺 16-10	TEL. 075-631-6181
名古屋中央	〒485-0072	小牧市元町 2-186-1	TEL. 050-2000-4960
福岡中央	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東 2-10-1	TEL. 050-2000-4850

営業拠点一覧は裏表紙内側をご覧ください

本　社 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-8-1 TEL. 03(6279)0900(代) 最新情報を提供中 ホームページ https://www.srl-group.co.jp/

H.U.GROUP

printed with CARBON ZERO ENERGY SUSTAINABLE PRINTING ASSOCIATION OF JAPAN
SPA-230004-J

CARBON EMISSION 7,338 ▸ 6,954 kg-CO2e
この印刷物は、Scope1,2のGHG排出量が実質ゼロで稼働するカーボンゼロエネルギー工場で印刷しています。
CZE-285278 (3,780copies)

VEGETABLE OIL INK

だいずインキ プライバシー
14300001(11)